

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第182集

松崎遺跡Ⅱ 上浜田遺跡

2014

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第182集

まつ さき い せき
松 崎 遺 跡 II
かみ はま だ い せき
上 浜 田 遺 跡

2014

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛 知 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー



遺跡遠景（東より）



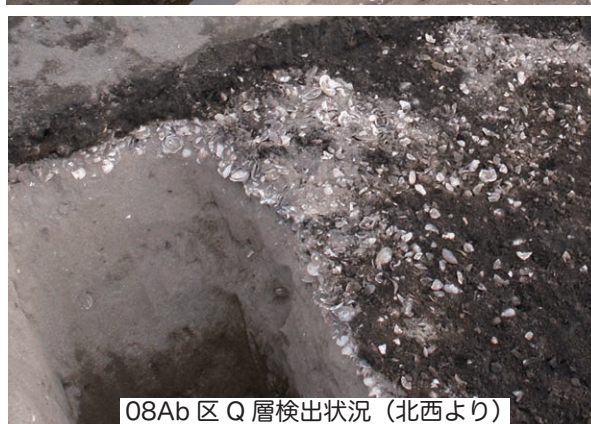
調査区近景（東より）



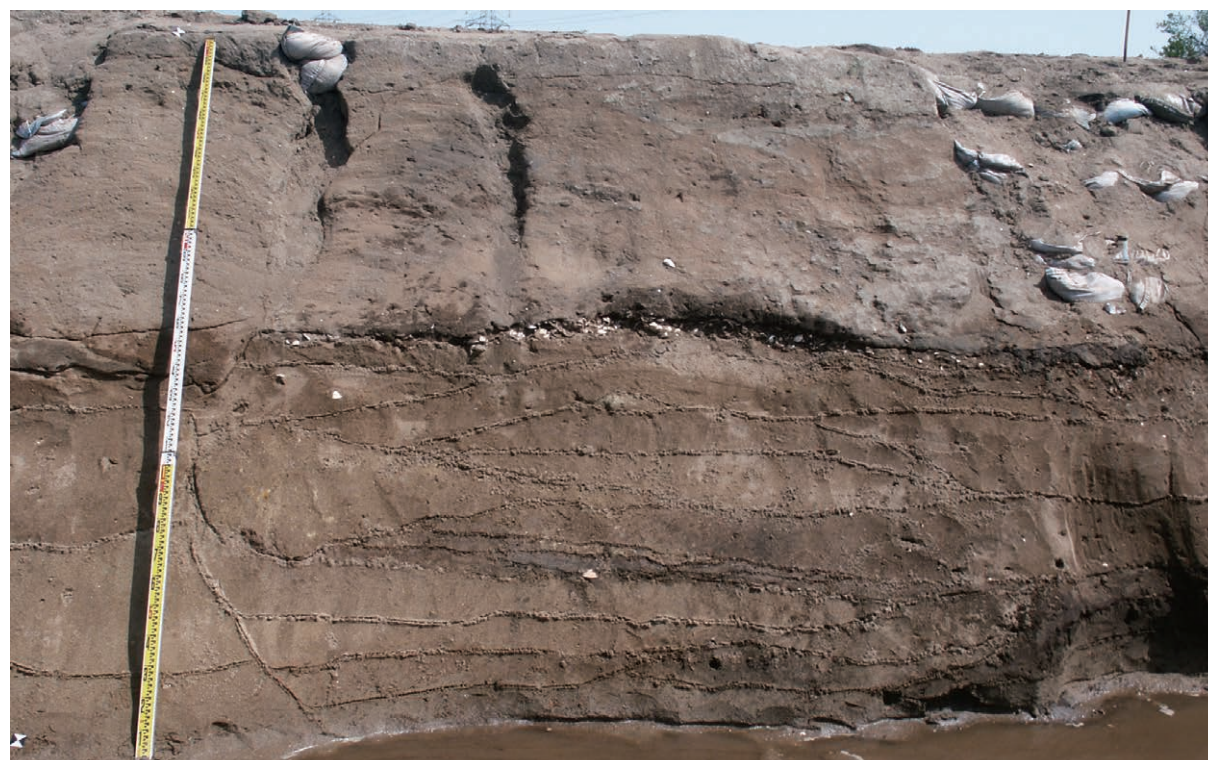
08Ab区O層製塩土器出土状況(南より)



08Ab区L層検出状況(北東より)



08Ab区Q層検出状況(北西より)



08Ab区東壁土層断面(西より)



08Ab区 1005SZ 埋蔵人骨検出状況 (西より)



08Ab区 1009SX 断面 (南より)



08Ab区 1009SX 下部 (北西より)



08B区 2020SK・2028SI など (北東より)



08B 区東壁土層断面（西より）



出土製塩土器各種

序

現在の東海市は、工業生産の盛んなところとして知られていますが、かつては海苔の生産に代表される、漁業が盛んなところとして知られていました。当地は古から和歌にも詠われた、あゆち潟の恵みを受けた地域であり、今でも歴史・伝承を紐解くと、往事の様子を偲ぶことができます。

さてこの度、松崎遺跡および上浜田遺跡の発掘報告書を刊行する運びとなりました。松崎遺跡は、土器製塩の遺跡として全国的にも著名な遺跡で、県埋蔵文化財センターとしては昭和63年度以来の調査となります。前回の調査では、当時の製塩方法が藻塩焼によって行なわれたことが、考古学的研究により初めて実証されました。今回の調査でも、土器製塩を実際に行なったと考えられる場の検出や、竪穴建物跡の発見など、松崎遺跡の構造を考える上で、貴重な成果をあげることができました。

松崎遺跡に関しては、今回の調査の前に、東海市教育委員会により範囲確認調査が行われ、今回の調査区隣接地が、現在は松崎史跡公園として整備されています。遺跡の保護と今後の活用に向けて尽力された、東海市教育委員会に敬意を表するとともに、私どもの今回の調査成果も、このような活動に寄与するものになることを願って止みません。

最後になりましたが、発掘調査につきまして、地元住民の方々をはじめ各方面の方々にご配慮いただき、さらに関係各機関および関係者のご指導とご協力をいただきましたことを、厚くお礼申し上げます次第であります。

平成24年3月31日

公立財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長 加藤 高明

例言

1. 本書は、東海市大田町に所在する松崎遺跡（県遺跡番号 43037）および上浜田遺跡（県遺跡番号 43135）の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は、名古屋鉄道常滑線連続立体交差事業に伴なう事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター（当時）が委託を受けて実施した。

3. 調査期間は平成 20 年 8 月から平成 21 年 3 月、および平成 24 年 5 月から 9 月までである。

4. 調査担当者は、平成 20 年度が、池本正明（主査、現主任専門員）のもと、松田 訓（調査研究専門員）・川添和暁（調査研究主任）である。平成 24 年度は、永井宏幸（調査研究専門員）である。

5. 調査は、以下の体制で行なった。

平成 20 年度

調査支援：(株) 島田組

現場代理人：中川健二、 調査補助員：我孫子雅史・松田重治、 測量士：平井利尚、

調査協力：(株) イースタン 川元康民・渡辺 徹、田中節二・赤星 悟

現場作業員：平野光男・中野真知子・牟田神東勝男・藤井恭彦・斎藤勝克・各務鈴夫・平野武光・

平松正春・神谷 昇・磯村孝弘・磯村江美子・竹本裕三・那須昌俊・小沢幸雄・山川秀雄・

大野定夫・児玉五市・仲川信子・寺沢なつ江・田中信也・古川貞巳・笠井義夫・水谷久子・

東野由貴子・坂井隆三・前田徳彦・斉場きみ子・深田美智子・山田のぶよ・長尾吉秀・

荒川嘉和・山本 學・加藤雄二・ホーブル・シネ・梅田英明・近藤正史・西田昌雄・井上勇夫・

山崎久生・小島是彦・花井規良

遺物洗浄： 武藤公栄・西島綾子・吉田ミチヨ・平井聖子・山川美智子・飯田サシ子・江口千恵子・

浅田紘子・高取 綾・山根いと・荒川賀恵

平成 24 年度

調査支援：(株) イビソク

現場代理人：高橋育雄、 調査補助員：日聖祐輔、 測量士：加納翔太、

現場作業員：石川 勝・石川 陽子・磯村 江美子・磯村 孝弘・板倉 元一・伊深 広幸・

梅田 英明・笠井 義夫・河村 広好・筒井 徳二・服部 和平・平松 正春・

古川 貞巳・山崎 久生・横山 明男

測量員：青木 翔吾・近藤 美穂

6. 遺物整理、製図については次の方々のご協力を受けた。

山田有美子・伊藤あけみ(整理補助員)

7. 土師器・須恵器などの出土遺物の図化およびトレース作業は(株)二友組に委託した。製塩土器のトレース作業は橋本技術株式会社が行なった。また、出土遺物の統計的処理データ入力および編集作業の一部については(株)ナカシャクリエイティブから支援を受けた。

8. 出土遺物の写真撮影については金子知久氏(スタジオ遊)に委託した。

9. 発掘調査および報告書作成に際しては、次の関係機関の指導・協力を受けた。

愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室・愛知県建設部・愛知県埋蔵文化財調査センター・東海市教育委員会・東海市立平洲記念館・名古屋鉄道株式会社(五十音順、敬称略)

10. 発掘調査および報告書作成にあたり、次の方々および機関から御教示・御協力を頂いた。

愛甲昇寛・大塚達朗・大塚秀子・小野由紀子・梶山 勝・楠美代子・小嶋 泉・柴田昌児・城ヶ谷和広・立松 彰・永井伸明・萩野谷正宏・坂野俊哉・冨加見泰彦・福井淳一・福岡猛志・北条猷示・丸山真史・宮澤浩司・森 泰通・森 勇一・山崎 健・山下勝年・渡辺 誠(敬称略)

11. 本書の執筆は、主に川添和暁が担当した。但し、第3章第2節は早野浩二、第4章第1節は竹原弘展(パレオ・ラボ)、第2節・第8節はパレオラボ AMS年代測定グループ、第3節は山形秀樹・中村賢太郎(パレオ・ラボ)、第4節は堀木真美子、第5節は畑山智史(東京大学総合研究博物館)、第6節は鬼頭 剛、第7節は堀内晶子(国際基督教大学)・宮田佳樹(金沢大学環日本海域環境研究センター)、第9節は中村賢太郎(パレオ・ラボ)による。

12. 本書の編集は川添和暁が行った。

13. 調査区の座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標第VII系に準拠する。ただし、新基準で表記してある。

14. 調査記録および写真記録は愛知県埋蔵文化財センターで保管している。

15. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目 次

巻頭図版

序・例言・目次

第1章 遺跡の位置および調査の経過 1 頁

第1節 環境と立地

第2節 調査の経緯と経過

第2章 調査方法および基本層序 9 頁

第1節 調査区設定と調査方法

第2節 各調査区の層名について

第3節 08Aa 区の層序と遺構

第4節 08Ab 区の層序と遺構

第5節 08B 区の層序と遺構

第6節 12A 区の層序と遺構

第7節 12B 区の層序と遺構

第8節 12C 区の層序と遺構

第9節 愛知鉄道関連の遺構

第3章 出土遺物 99 頁

第1節 出土遺物の分布状況

第2節 土器・陶器類および脚台式製塩土器

第3節 知多式製塩土器

第4節 土製品・石製品

第5節 金属製品

第6節 骨角製品

第4章 自然科学的分析 219 頁

第1節 松崎遺跡より検出された住居床面の土の蛍光 X 線分析

第2節 出土人骨の放射性炭素年代測定

第3節 出土人骨の窒素・炭素安定同位体分析

第4節 松崎遺跡出土の人骨について

第5節 松崎遺跡出土ハマグリの成長線分析

第6節 松崎遺跡・上浜田遺跡遺跡周辺の表層地形解析

第7節 松崎遺跡・上浜田遺跡出土製塩土器の塩化物イオン分析および脂質分析

第8節 松崎遺跡・上浜田遺跡出土獣骨類の年代測定

第9節 松崎遺跡・上浜田遺跡の動物遺体

第10節 松崎遺跡・上浜田遺跡の出土具類について

第5章 総括 293 頁

写真図版

挿図目次

- 図 1 遺跡位置図
- 図 2 松崎遺跡・上浜田遺跡位置図 1
- 図 3 松崎遺跡・上浜田遺跡周辺の地形
- 図 4 松崎遺跡・上浜田遺跡位置図 2
- 図 5 松崎遺跡・上浜田遺跡と周囲の遺跡
- 図 6 調査区位置とグリッド配置図
- 図 7 調査区別の層序関係模式図
- 図 8 08Aa 区セクションポイント位置図
- 図 9 08Aa 区土層断面図 1
- 図 10 08Aa 区土層断面図 2
- 図 11 08Aa 区平面図 1
- 図 12 08Aa 区平面図 2
- 図 13 08Aa 区土層断面図 1
- 図 14 08Aa 区土層断面図 2
- 図 15 08Aa 区土層断面図 3
- 図 16 08Ab 区セクションポイント位置図
- 図 17 08Ab 区土層断面図 1
- 図 18 08Ab 区土層断面図 2
- 図 19 08Ab 区土層断面図 3
- 図 20 08Ab 区土層断面図 4
- 図 21 08Ab 区土層断面図 5
- 図 22 08Ab 区土層断面図 6
- 図 23 08Ab 区平面図 1
- 図 24 08Ab 区平面図 2
- 図 25 08Ab 区平面図 3
- 図 26 08Ab 区 L3 層・L4 層・L5 層・S5 層
平面および土層断面図
- 図 27 08Ab 区 M3 層平面および土層断面図
- 図 28 08Ab 区 M3 層・M4 層・M5 層・S1 層
平面および土層断面図
- 図 29 08Ab 区 S 層平面および土層断面図
- 図 30 08Ab 区 T 層平面および土層断面図
- 図 31 08Ab 区 1003SK 平面および土層断面図
- 図 32 08Ab 区 V1 層平面および土層断面図
- 図 33 08Ab 区 V2 層・V3 層・V4 層・W3 層
平面および土層断面図
- 図 34 08Ab 区 1004SP・1011SX・1013SX・
1018SX 平面および土層断面図
- 図 35 08Ab 区 1001SD・1002SD 平面および
土層断面図
- 図 36 08Ab 区 1007SX・1015SI・1016SI・
1017SI・1021SI・1026SX・1027SX 平面図
- 図 37 08Ab 区 1007SX・1015SI・1016SI・
1017SI・1021SI・1026SX・1027SX
土層断面図
- 図 38 08Ab 区 1030SI 平面図および土層断面
- 図 39 08Ab 区 1009X 平面図および
土層断面図
- 図 40 08Ab 区 1020SI・1025SK・1028SI
平面図および土層断面図
- 図 41 08Ab 区 1022SK・1023SK・1024SK
平面図および土層断面図
- 図 42 08Ab 区 1031SK・1032SX 平面図
および土層断面図
- 図 43 08Ab 区 1005SZ 平面図および
土層断面図
- 図 44 08B 区セクションポイント位置図
- 図 45 08B 区土層断面図 1
- 図 46 08B 区土層断面図 2
- 図 47 08B 区土層断面図 3
- 図 48 08B 区土層断面図 4
- 図 49 08B 区土層断面図 5
- 図 50 08B 区土層断面図 6
- 図 51 08B 区土層断面図 7
- 図 52 08B 区土層断面図 8
- 図 53 08B 区平面図 1
- 図 54 08B 区平面図 2
- 図 55 08B 区 2004SX 平面および土層断面図
- 図 56 08B 区 2005SD・2007SD・2011SK・
2028SI 平面および土層断面図
- 図 57 08B 区 2007SD・2016SK・2031SI・
2033SI・2042SI 平面および土層断面図
- 図 58 08B 区 2013SP・2034SI・2035SI・
2036SI 平面および土層断面図
- 図 59 08B 区 2009SI・2015SP・2017SK・
2020SK・2024SI・2025SI・2028SI・
2032SI 平面図
- 図 60 08B 区 2015SP・2024SI・2028SI・

	2032SI 土層断面図	図 97	出土遺物の分布状況 15
図 61	08B 区 2020SK 平面図・土層断面図	図 98	出土遺物の分布状況 16
図 62	08B 区 2029SI 平面図・土層断面図	図 99	出土遺物の分布状況 17
図 63	08B 区 2024SI 平面図・土層断面図	図 100	出土遺物の分布状況 18
図 64	08B 区 2009S・2025SI 平面図・ 土層断面図	図 101	出土遺物の分布状況 19
図 65	08B 区 2030SI 平面図・土層断面図	図 102	出土遺物の分布状況 20
図 66	08B 区 2041SI 平面図・土層断面図	図 103	出土遺物の分布状況 21
図 67	08B 区 2043SI 平面図・土層断面図	図 104	出土遺物の分布状況 22
図 68	08B 区 2044SX など平面図・土層断面図	図 105	古墳から古代の土器・陶器類 1
図 69	12A 区セクションポイント位置図	図 106	古墳から古代の土器・陶器類 2
図 70	12A 区平面図	図 107	古墳から古代の土器・陶器類 3
図 71	12A 区土層断面図 1	図 108	古墳から古代の土器・陶器類 4
図 72	12B 区セクションポイント位置図	図 109	古墳から古代の土器・陶器類 5
図 73	12B 区平面図	図 110	古墳から古代の土器・陶器類 6
図 74	12B 区土層断面図 1	図 111	古墳から古代の土器・陶器類 7
図 75	12B 区 087SK・089SU・090SK 平面・ 土層断面図	図 112	古墳から古代の土器・陶器類 8
図 76	12C 区セクションポイント位置図	図 113	古墳から古代の土器・陶器類 9
図 77	12C 区土層断面図 1	図 114	古墳から古代の土器・陶器類 10
図 78	12C 区土層断面図 2	図 115	古墳から古代の土器・陶器類 11
図 79	12C 区平面図	図 116	古墳から古代の土器・陶器類 12
図 80	12C 区掘立柱建物跡平面図および掘方 立面図	図 117	古墳から古代の土器・陶器類 13
図 81	愛知鉄道敷設位置図	図 118	古墳から古代の土器・陶器類 14
図 82	12A 区・12B 区平面図	図 119	古墳から古代の土器・陶器類 15
図 83	出土遺物の分布状況 1	図 120	古墳から古代の土器・陶器類 16
図 84	出土遺物の分布状況 2	図 121	古墳から古代の土器・陶器類 17
図 85	出土遺物の分布状況 3	図 122	古墳から古代の土器・陶器類 18
図 86	出土遺物の分布状況 4	図 123	古墳から古代の土器・陶器類 19
図 87	出土遺物の分布状況 5	図 124	古墳から古代の土器・陶器類 20
図 88	出土遺物の分布状況 6	図 125	古墳から古代の土器・陶器類 21
図 89	出土遺物の分布状況 7	図 126	古墳から古代の土器・陶器類 22
図 90	出土遺物の分布状況 8	図 127	古墳から古代の土器・陶器類 23
図 91	出土遺物の分布状況 9	図 128	古墳から古代の土器・陶器類 24
図 92	出土遺物の分布状況 10	図 129	中世以降の土器・陶磁器 1
図 93	出土遺物の分布状況 11	図 130	中世以降の土器・陶磁器 2
図 94	出土遺物の分布状況 12	図 131	脚台式製塩土器法量散布図
図 95	出土遺物の分布状況 13	図 132	脚台式製塩土器
図 96	出土遺物の分布状況 14	図 133	製塩土器計測部位
		図 134	製塩土器分類図
		図 135	製塩土器脚部法量散布図【知多式 1 類】
		図 136	製塩土器脚部法量散布図【知多式 2 類・3 類】

- 図 137 製塩土器脚部法量散布図【知多式 4 類】
 図 138 製塩土器脚部実測図 1【知多式 1 類】
 図 139 製塩土器脚部実測図 1【知多式 1 類】
 図 140 製塩土器脚部実測図 3【知多式 1 類】
 図 141 製塩土器脚部実測図 4【知多式 1 類】
 図 142 製塩土器脚部実測図 5【知多式 1 類】
 図 143 製塩土器脚部実測図 6【知多式 1 類】
 図 144 製塩土器脚部実測図 7【知多式 2 類】
 図 145 製塩土器脚部実測図 8【知多式 2 類】
 図 146 製塩土器脚部実測図 9【知多式 2 類】
 図 147 製塩土器脚部実測図 10【知多式 3 類】
 図 148 製塩土器脚部実測図 11【知多式 3 類】
 図 149 製塩土器脚部実測図 12【知多式 3 類】
 図 150 製塩土器脚部実測図 13【知多式 3 類】
 図 151 製塩土器脚部実測図 14【知多式 4 類】
 図 152 製塩土器脚部実測図 15【知多式 4 類】
 図 153 製塩土器脚部実測図 16【知多式 4 類】
 図 154 製塩土器脚部実測図 17【知多式 4 類】
 図 155 製塩土器脚部実測図 18【知多式 4 類】
 図 156 製塩土器脚部実測図 19【知多式 4 類】
 図 157 製塩土器脚部実測図 20【知多式 4 類】
 図 158 製塩土器脚部実測図 21【知多式 4 類】
 図 159 製塩土器脚部実測図 22【知多式 4 類】
 図 160 製塩土器脚部実測図 23【知多式 5 類】
 図 161 製塩土器脚部実測図 24【知多式 5 類】
 図 162 製塩土器脚部実測図 25【知多式 5 類】
 図 163 製塩土器口縁部・胴部実測図 1
 図 164 製塩土器口縁部・胴部実測図 2
 図 165 製塩土器口縁部・胴部実測図 3
 図 166 製塩土器口縁部・胴部実測図 4
 図 167 土錘分類図
 図 168 土製品【土錘 1】
 図 169 土製品【土錘 2】
 図 170 土製品【土錘 3】
 図 171 土製品【土錘 4】
 図 172 土製品【土錘 5・紡錘車・不明土製品】
 図 173 土製品【支脚・フィゴの羽口・調整使用痕陶器片】
 図 174 土錘の法量散布図【孔径×重量】
 図 175 土製品出土点数傾向 1
 図 176 土製品出土点数傾向 2
 図 177 土製品出土点数傾向 3
 図 178 土製品出土点数傾向 4
 図 179 金属製品 1
 図 180 金属製品 2
 図 181 金属製品関連遺物分布状況
 図 182 骨角製品 1
 図 183 骨角製品 2
 図 184 骨角製品 3
 図 185 解体痕のある骨
 図 186 骨角器関連遺物分布状況
 図 187 蛍光 X 線面分析結果
 図 188 元素マッピング分析結果
 図 189 暦年較正結果
 図 190 炭素・窒素安定同位体比
 図 191 松崎遺跡の位置
 図 192 人骨出土位置
 図 193 出土状態図
 図 194 貝殻の計測値と切断面
 図 195 松崎遺跡・上浜田遺跡周辺の表層地形解析図
 図 196 地形の起伏と調査区との対応
 図 197 松崎遺跡と沖浦遺跡出土製塩土器及び非製塩・未使用製塩土器の保持性塩化物イオン量
 図 198 松崎遺跡出土製塩土器の部位別保存性塩化物イオン量
 図 199 哺乳類の暦年較正結果の分布(範囲は 2σ)
 図 200 松崎遺跡・上浜田遺跡貝類出土状況 1【ハマグリ】
 図 201 松崎遺跡・上浜田遺跡貝類出土状況 2【イタボガキ】
 図 202 松崎遺跡・上浜田遺跡貝類出土状況 3【マガキ】
 図 203 松崎遺跡・上浜田遺跡貝類出土状況 4【シオフキ】
 図 204 松崎遺跡・上浜田遺跡貝類出土状況 5【ヤマトシジミ】
 図 205 松崎遺跡・上浜田遺跡貝類出土状況 6【ウミニナ類】

図 206 松崎遺跡・上浜田遺跡貝類出土状況 7
【マテガイ】
図 207 調査区に基づく松崎遺跡・上浜田遺跡
の変遷
図 208 松崎遺跡の埋葬遺構
図 209 松崎遺跡・上浜田遺跡の変遷 1
図 210 松崎遺跡・上浜田遺跡の変遷 2
図 211 松崎遺跡・上浜田遺跡の変遷 3

表 25 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果
表 26 同定された分類群一覧
表 27 08 調査区出土動物遺体
表 28 1988 年度調査区の埋葬犬
表 29 土壌水洗によるウズマキゴカイ類選別結果
表 30 松崎遺跡・上浜田遺跡出土貝類一覧
表 31 松崎遺跡・上浜田遺跡出土出土主要貝類
一覧

表目次

表 1 周辺の遺跡一覧表
表 2 松崎遺跡の発掘調査歴など一覧
表 3 松崎遺跡・上浜田遺跡周辺 愛知鉄道関連
年表
表 4 遺物包含状況と製塩土器の出現頻度との
対応関係
表 5 製作分類と実資料対照表
表 6 層・遺構別製塩土器類別出土点数
表 7 08Ab 区 4 類細別類型別出土点数一覧
表 8 蛍光 X 線分析装置仕様
表 9 測定試料および処理
表 10 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果
表 11 結果一覧表
表 12 人骨残存部位
表 13 主な骨の計測値
表 14 推定身長
表 15 サンプルの計測値
表 16 日周線による季節区分
表 17 分析の結果
表 18 年齢組成
表 19 季節組成
表 20 松崎遺跡出土製塩土器の塩化物イオン分
析結果
表 21 製塩土器の部位ごとの保存性塩化物
イオン値 (mgCl-/g 土器)
表 22 脂質分析結果
表 23 測定試料および処理
表 24 コラーゲン収率と C/N 比および
安定同位体比

写真目次

写真 1 L5 層など堆積状況
写真 2 1009SX から出土した粘土塊
写真 3 1005SZ 共伴金属製品の出土状況復元
写真 4 12C 区出土窯道具
写真 5 出土状況
写真 6 頭部拡大
写真 7 下顎骨 レントゲン写真
写真 8 上顎・下顎 右側面
写真 9 人骨写真
写真 10 貝殻成長線顕微鏡写真
写真 11 分析を行なった製塩土器
写真 12 分析試料
写真 13 哺乳類遺体 (1)
写真 14 哺乳類遺体 (2)、ウズマキゴカイ、
微小貝
写真 15 松崎遺跡・上浜田遺跡出土貝類 1
写真 16 松崎遺跡・上浜田遺跡出土貝類 2

第1章 遺跡の位置および調査の経緯

第1節 環境と立地

1. 遺跡の位置

東海市は、知多半島の付け根、伊勢湾岸に面した位置に所在する。北から、名古屋市南区および緑区・大府市・知多郡東浦町・知多市と接しており、市域は東西 8.06km・南北 10.97km・面積 43.36 km²である。かつて、北に位置していた上野町と南に位置していた横須賀町が合併して、昭和 44 年 4 月に現在の東海市になったという。

かつては伊勢湾側には名古屋市側から続く、あゆち潟といわれる干潟が形成されていた場所であった。漁業が盛んに行なわれ、干潟となっていた遠浅の沿岸域は、それまで海苔の一大生産地として知られていた。昭和 30 年代に入り、名古屋市から続く臨海工業地帯とするため、沿岸部は工業用地として埋め立てられ、現在の東海市域には、鉄鋼基地を中心とする産業が発達している。その頃は、昭和 30 年からはじまった愛知用水事業の完成した時期でもあった。

東海市から知多市にかけての海岸は、景勝地として整備がなされていた経緯がある。尾張藩二代藩主 徳川光友は臨江亭といわれた横須賀御殿を造営し、横須賀町方として発展した。大正末期の山田才吉による聚落園整備もあった。明治 45 年 2 月に、伝馬町（名古屋市熱田区）から大野町（知多市）間で、愛知鉄道が開業した。当初から常滑までつなぐことを目指していたが、新舞子周辺の開発にも大きな効果があった。この鉄道は、現在の名鉄常滑線である。近年では、平成 17 年(2005) 中部空港の開港に伴い、この常滑線の需用はますます高くなっているといえる。

東海市は、江戸中期の儒学者 細江平洲を輩出した地である。細江平洲は、米沢藩九代藩主 上杉鷹山の師となったこと



図1 遺跡位置図

で有名であるが、尾張藩主 宗睦の侍読、明倫堂督学をも勤めた、教育行政家でもあり、政経学者でもあったという。

また、水産学者ではあるが、「Prehistoric Fishing in Japan」(1911 年) という名論文を著し、戦後の日本考古学における生業研究に大きな布石を残した岸上鎌吉も、東海市（旧横須賀村）出身の研究者であることを、特に挙げておきたい。

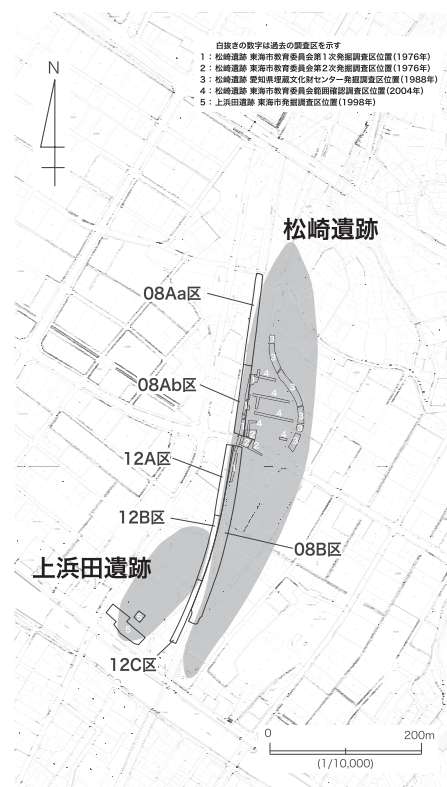


図2 松崎遺跡・上浜田遺跡位置図1(1:10,000)

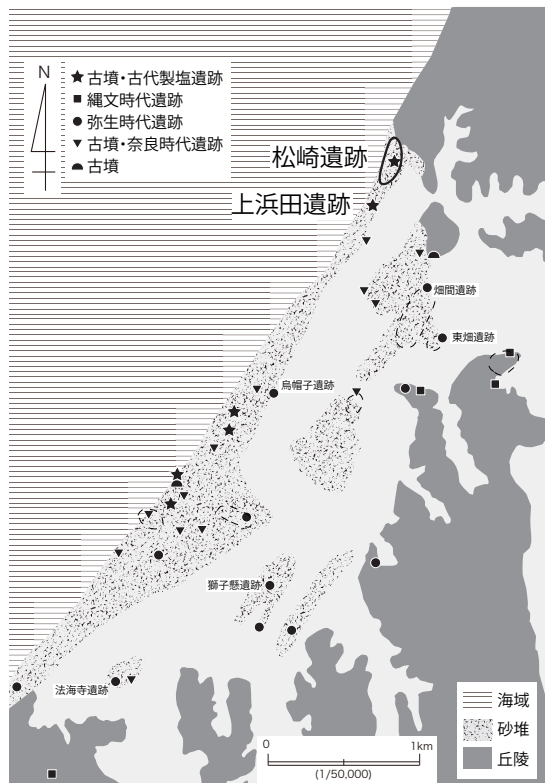


図3 松崎遺跡周辺の地形【1:50,000】
(福岡編 1991 より加筆)

2. 地理的環境

地質学的な見地からの地形復元は、第4章第6節で鬼頭が報告を行なう。ここでは、これまでいわれていた地形的な特徴などについて、ごく簡単に触れておく。

遺跡周辺の現状は、東側から張り出す丘陵と西側に広がる伊勢湾に面した、海岸平野となっており、砂堆による微地形の凹凸が認められる。現在、遺跡の南側に接して西流する太田川は、尾張藩二代藩主 徳川光友が横須賀御殿を造営するに伴って改修されたことによるもので、当時は500mほど南を流れていたと考えられる。

この海岸平野内には、海岸線に併行して砂堆列が3条知られており、形成時期の古い内側（東側）から、第1砂堆・第2砂堆・第3砂堆積と言われている。最も海側（西側）に位置する第3砂堆は、

海岸沿いの丘陵をつなぐように存在しており、かつて海進現象が起こっていた時の湾の入り口を横断する位置にあたる。この第3砂堆は、近世の水田開発が行なわれるまでは、海岸線を形成していたと言われている。現在、古墳時代から古代にかけての製塩遺跡が多く知られているものこの第3砂堆上であり、松崎遺跡および上浜田遺跡は、第3砂堆の北端に立地する。

このように第1砂堆から第3砂堆が確認される海岸平野では、砂堆列上は凸状の地形が、それぞれの砂堆の東側には凹地が形成されることとなる。また、砂堆列自体も列全体が均一な凸状を呈している訳ではなく、幅の大小および高さの高低があり、地形的には複雑な様相を呈している。

最後に、杉崎 章も報告書（杉崎ほか 1977）の中で紹介している和歌を2首、ここでも掲載しておく。

万葉集卷七【1163】

年魚市瀉（あゆちがた） 潮干にけらし 知多の浦に
朝漕ぐ舟も 沖に寄る見ゆ

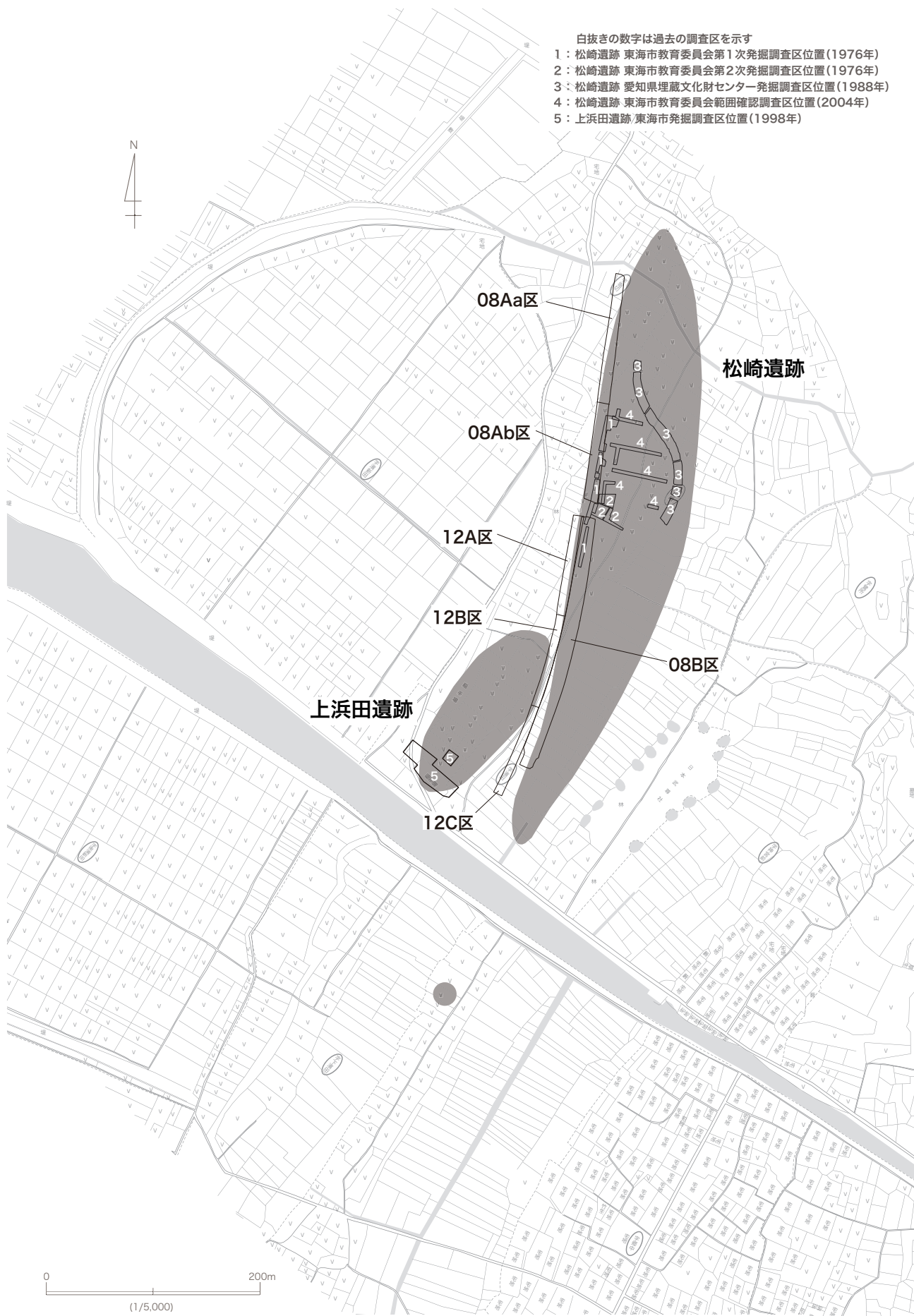
万葉集卷十四【3553】

味鎌の 可家の水門（加家の湊）に 入る潮の
こてたずくもか 入りて寝まくも

3. 歴史的環境

松崎遺跡・上浜田遺跡周辺が位置する海岸平野およびその周辺には、縄文時代以降、継続した活動痕跡が認められている。時代別に示していく。

縄文時代 東海市域では、縄文時代晩期以降の遺跡が知られている。晩期前半の貝塚を含む、高



- 白抜き数字は過去の調査区を示す
- 1：松崎遺跡 東海市教育委員会第1次発掘調査区位置(1976年)
 - 2：松崎遺跡 東海市教育委員会第2次発掘調査区位置(1976年)
 - 3：松崎遺跡 愛知県埋蔵文化財センター発掘調査区位置(1988年)
 - 4：松崎遺跡 東海市教育委員会範囲確認調査区位置(2004年)
 - 5：上浜田遺跡 東海市発掘調査区位置(1998年)

図4 松崎遺跡・上浜田遺跡位置図2(1:5,000) 明治17年頃作成地籍図をもとに作成

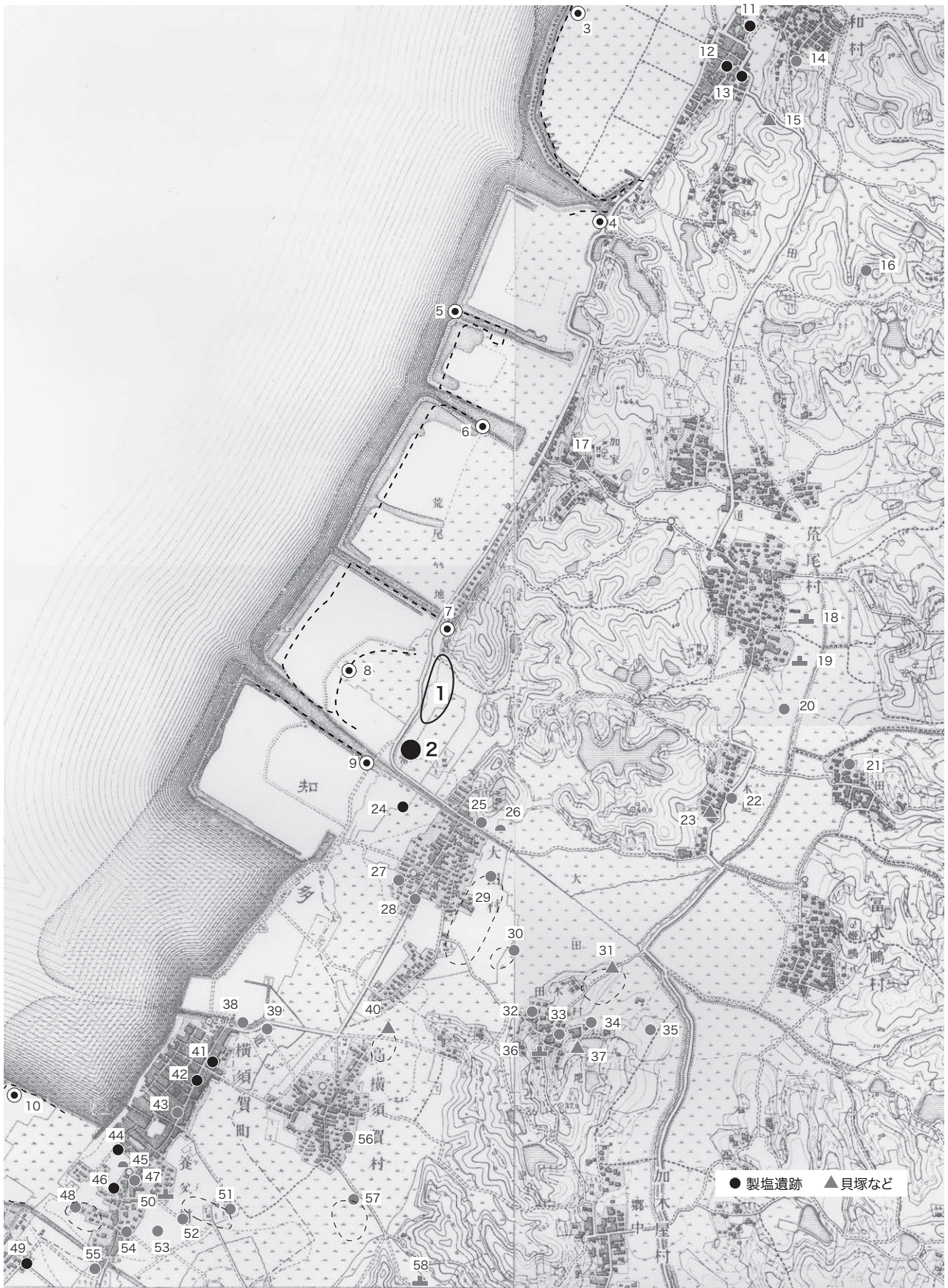


図5 松崎遺跡・上浜田遺跡と周囲の遺跡 (1 : 25,000)

明治 24 年陸地測量部作成二万分の一地形図「大高村」「横須賀町」をもとに縮小作成

表1 周辺の遺跡一覧表(番号は図5と一致)

番号	遺跡名	時代など	番号	遺跡名	時代など	番号	遺跡名	時代など
1	松崎遺跡	古墳～平安	20	水深遺跡	室町	40	大田第3踏切貝塚	古墳、中世～近世
2	上浜田遺跡	古墳～平安	21	貴船遺跡	鎌倉	41	宮西遺跡	奈良
3	浅山新田堤防	元文～寛保年間(1736～1743年)埋築	22	北屋敷遺跡	古代	42	大門遺跡	奈良～平安
4	北新田堤防	家加新田の内、文政年間(1818～1929年)埋築	23	峰畑貝塚	中世	43	玉林寺遺跡	奈良～平安
5	中新田堤防	家加新田の内、文政年間(1818～1929年)埋築	24	下浜田遺跡	奈良	44	浜脇遺跡	奈良
6	昇録新田堤防	家加新田の内、文政年間(1818～1929年)埋築	25	神宮前遺跡	古墳	45	釈迦御堂古墳	古墳
7	川北新田堤防	安政元年(1854年)埋築	26	大塚古墳	古墳	46	釈迦御堂遺跡	古墳～奈良
8	浜新田堤防	寛延から寛政年間(1748～1800年)埋築	27	後田遺跡	古墳	47	南堀畑遺跡	奈良～中世
9	後浜新田・川南新田堤防	後浜新田：寛延から寛政年間(1748～1800年)、川南新田堤防：嘉永4年(1851年)埋築	28	龍雲院遺跡	奈良	48	島ノ内遺跡	古墳～中世
			29	畑間遺跡	古墳～中世	49	荒井遺跡	古墳(後)～奈良
10	養父新田堤防	寛政12年(1800年)埋築	30	東畑遺跡	縄文～平安	50	敷城跡	中世
11	長光寺遺跡	弥生～平安	31	高ノ御前遺跡	縄文・弥生	51	大木之本遺跡	弥生～中世
12	妙法寺遺跡	奈良～平安	32	庄之脇遺跡	鎌倉	52	里中遺跡	中世
13	塚森遺跡	縄文～平安	33	木田遺跡	弥生・中世	53	妙乗院遺跡	古墳～中世
14	船津神社遺跡	平安	34	前畑遺跡	縄文・弥生	54	玉泉寺遺跡	古墳～中世
15	向イ貝塚	縄文～奈良	35	北広遺跡	中世	55	西川向遺跡	弥生
16	焼山古窯	平安	36	木田城跡	中世	56	東屋敷遺跡	中世
17	観音寺貝塚	弥生・中世	37	下畑貝塚	近世	57	大坪遺跡	中世
18	平島城跡	中世	38	御亭遺跡	古墳	58	横須賀城跡	中世
19	清水城跡	中世	39	烏帽子遺跡	弥生～近世			

ノ御前遺跡(第1～第3)、晩期中葉の年代と言われている堅果類貯蔵穴が見つかったトドメ木遺跡がある。その他、塚森遺跡や向イ貝塚でも縄文時代の遺物があるという。近年、東畑遺跡でも、晩期前半の遺物がまとまって出土している(宮澤・坂野2013)。

一方、知多市域では、海岸付近の丘陵上からは、二股貝塚・楠狭間貝塚などの縄文時代早期後半の遺跡の存在が知られている。

弥生時代 弥生時代になると、海岸平野の第2砂堆付近までは、活動痕跡を確認することができ、第3砂堆上についても、砂堆南側で活動痕跡を確認することができる。代表的な遺跡としては、畑間遺跡・東畑遺跡・烏帽子遺跡を挙げることができよう。また、製塩土器の可能性が指摘されている菩薩遺跡もある。知多市域においては、獅子懸遺跡や法海寺遺跡などが存在する。

古墳時代 古墳時代の遺跡としては、神宮前遺跡・後田遺跡・畑間遺跡・東畑遺跡・御亭遺跡・烏帽子遺跡・島ノ内遺跡・荒井遺跡・大木之本遺跡・妙乗院遺跡・玉泉寺遺跡があり、丘陵を挟んで北側には塚森遺跡もある。しかし、現在、古墳の確認例は少なく、第2砂堆に続く丘陵上に位置

する大塚古墳と第3砂堆南端に位置する釈迦御堂古墳のみである。

奈良・平安時代 古墳時代から継続して痕跡が認められる遺跡が多い。奈良時代からの活動痕跡の認められる遺跡としては、下浜田遺跡・宮西遺跡・大門遺跡・玉林寺遺跡・南堀畑遺跡などがある。平安時代の遺跡として、焼山古窯もある。

古墳時代から古代にかけて、松崎遺跡・上浜田遺跡のみならず、周辺一帯にわたり製塩遺跡が認められることは注目すべき点であろう。

中世 中世以降になると、砂堆脇の海岸平野内にも遺跡が出現するようになる。また、丘陵上には平島城跡・清水城跡のように城跡が確認されている。

近世 近世の遺跡として、注目すべきものに、堤防がある。図5でも、浅山新田堤防・北新田堤防・中新田堤防・昇録新田堤防・川北新田堤防・浜新田堤防・後浜新田・南川新田堤防・養父新田堤防を確認することができる。これらの名称が示しているように、江戸中期から後期にかけて行なわれた新田開発に伴う土木工事の一環である。遠浅の干潟の開発は水田であり、塩田ではなかったことは注目されよう。

第2節 調査の経緯と経過

1. これまでの調査・研究の歴史

ここでは、特に松崎遺跡について調査年表をまとめた(表2)。

松崎遺跡では、今回の調査を含めて、計5度にわたる発掘調査が行なわれている。松崎遺跡は、古墳時代から古代にわたる、土器製塩遺跡として、全国的によく知られている。その理由は、以下にあると考えている。

1. 東海地域が土器製塩研究の一地域として重要視されたこと。

2. 松崎遺跡が知多式製塩土器編年の標識遺跡であること。

3. 松崎遺跡の調査によって、藻塩焼が実証的に初めて証明されたこと。

1については、製塩土器自体は、大場磐雄によって戦前から報告されているものであった(大場1931)が、その性格は不明のママであった。それに製塩土器とする考えを提示したのは、特殊脚台付土器と称した杉崎 章である(杉崎1962)。近藤義郎も、杉崎の成果を受けて詳細な分析を行なったばかりか(近藤1965)、日本列島全体で行なっていた土器製塩の研究に渥美地域とともに取り上げた経緯がある。

2に関しては、杉崎によって提示された分類案を、立松 彰によって編年的位置づけなど整備した経緯がある(立松1984・2010a・2010b・2010dほか)。松崎遺跡は、遺跡の継続期間が長いことと、遺跡の保存が良好であったことが、研究の進展に寄与した要因となったと考えられる。そのことを示す事例として、前回の愛知県埋蔵文化財センターの調査による層位的細分の成果によ

る、製塩土器4類の細分作業が注目されている(福岡編1991)。

3に関しても、愛知県埋蔵文化財センターが1988年に行なった第3次調査の成果による(福岡編1991)。森勇一は、製塩土器内・および第1次調査で見つかった鹹水溜から海藻付着性の珪藻を多数取り出すことに成功した。また、貝層の定量分析を行なった渡辺 誠は、アマモに付着して生息するウズマキゴカイが焼けた状態で多量に出土したことに注目した。これまで文献などで言われていた、藻塩焼による製塩が、出土遺物の同定という考古学的手法によって証明できたことに、大きな成果がある。

以下、淡路島での事例であるが、よく知られた和歌を引用しておく。

『万葉集』卷六【935】

名寸隅(なきすみ)の 船瀬見ゆる 淡路島
松帆の浦に 朝なぎに 玉藻刈りつつ
夕なぎに 藻塩焼きつつ 海(あま)をとめ
ありとは聞けど 見に行かむ
よしの無ければ ますらをの 情は無しに
手弱女の 思ひたわみて たもとほり
吾はぞ恋ふる 船楫(ふなかぢ)を無み

また、これを本歌取りしたものが、小倉百人一首の中にも含まれている。

『新勅撰集』卷十三【849】

来ぬ人を まつほの浦の 夕なぎに
焼くや藻塩の 身もこがれつつ
権中納言定家

表 2 松崎遺跡の発掘調査歴など一覧

和暦	西暦	月	調査など事柄	主体団体	原因など	調査面積	検出遺構・出土遺物など	分析など	文献
明治44年頃	1912年		松崎遺跡の発見(松崎貝塚)		愛知鉄道敷設・大田川駅の設置				
昭和49年	1974年	10月	東海市文化財に指定						
昭和51年	1976年	7月～8月	第1次調査	東海市教育委員会	愛知用水土地改良区川北第2工区の土地改良(圃場整備)		貝層・炉跡・炉状遺構・粘土面・槽状遺構(鹹水溜)・土師器甕棺・製塩土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・土鍾・泥岩製柱状棒・滑石製模造品(勾玉形)、鉄器(鏃・釣針・剣・銚?・刀子)・骨角器	調査対象外には保護のため遺跡全体に土盛りでの施行	杉崎ほか1977
昭和51年	1976年	12月	第2次調査	東海市教育委員会	圃場整備に伴う道路敷設		貝層・炉跡・ピット・製塩土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・土鍾・フィゴの羽口・泥岩製柱状棒・砥石・鉄器(紡錘車・絞具・鏃先・鏃・環・刀子)・鉄滓・永楽通宝・骨角器(刀子柄)	鉄滓の成分分析、昭和54年出土人骨も合わせて報告	杉崎・立松1984
昭和63年～平成元年	1988～1989年	12月～3月	第3次調査	愛知県埋蔵文化財センター	国道247号改良工事	2,000	竪穴建物跡・製塩土器堆積群・炉状遺構・埋葬人骨・製塩土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・土鍾・土製紡錘車(須恵質)・滑石製模造品(円盤形)・石製管玉・鉄器(鏃・釣針)・金銅製刀装具・鹿角製刀子柄・鹿角製針・鹿角製ハンマー	知多式4類の分析、製塩土器の胎土分析、製塩土器付着珪藻分析、貝層のブロックサンプリング分析	福岡編1991
平成16年	2004年	10月～12月	第4次調査	東海市教育委員会	範囲確認調査	400	灰層(タタキ面)・粘土塊・貝層・製塩土器・須恵器・土師器・灰釉陶器・土鍾・砥石・滑石製紡錘車・鉄製U字形鏃鏃先・萬年通宝・骨鏃・角針・骨製ヘラ		立松・永井伸2005
平成17年	2005年	11月	遺跡内および周辺のボーリング調査	東海市教育委員会	範囲確認調査	7地点		放射性炭素年代測定・珪藻分析・テフラ分析	永井伸・鬼頭・立松2006
平成20・21年	2008～2009年	8月～3月	第5次調査(上浜田遺跡含む)	愛知県埋蔵文化財センター	名古屋鉄道常滑線連続立体交差事業	6,200	竪穴遺構・炉跡・包含層・貝層・埋葬人骨・製塩土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・土鍾・土製紡錘車・鉄器(鏃・刀子・鏃など)・鉄滓・鹿角製刀子柄・点状刺突具類(角鏃など)・骨針		川添2009
平成22年	2010年	1月	シンポジウム「古代の塩作りと松崎遺跡」	考古学フォーラム・東海市教育委員会				シンポジウムの開催・研究資料集の刊行	早野編2010
平成22年	2010年	3月	松崎史跡公園整備	東海市					
平成24年	2012年	5月～9月	第6次調査(上浜田遺跡含む)	愛知県埋蔵文化財センター	名古屋鉄道常滑線連続立体交差事業	2,100	貝層・包含層・愛知鉄道関連遺構・製塩土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・土鍾・鉄器(鏃・刀子)・鉄滓・鹿角製刀子柄		永井宏2013

※トーン部分が本報告分

近年では、早野浩二によって、松崎遺跡は屯倉としての機能が存在していたのでは、という説を提示し、多いに注目を集めている(早野2006・2012)。このように、松崎遺跡は古墳時代・古代の製塩遺跡ということからはじまり、当地域の古墳時代から古代への社会体制の変化を考える上でも重要な遺跡として位置づけられるようになったといえよう。

2. 調査にいたる経緯

今回の調査は、名古屋鉄道常滑線連続立体交差事業に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受けて、実施された発掘調査である。調査区は、松崎遺跡・上浜田遺跡をつなぐ形で設定された。平成20年度(2008)は調査面積6,200㎡、調査期間は平成20年8月～平

成21年3月である。調査区を横断する国道247号線を挟んで、北側にA区、南側にB区を設定し、さらにA区の北側をAa区・南側をAb区と設定した。これらの調査区は調査年度を冠して、08Aa区・08Ab区・08B区と称する。調査期間中の12月23日に地元説明会を開催し、200名余の来跡者を数えた。

また、平成24年度(2012)にも、08B区西側において、同様の事業に伴う発掘調査が行われた。調査面積は2,100㎡で、北側からA区・B区・C区と3分割して調査区が設定された。これらの調査区も、以下、12A区・12B区・12C区と称する。調査期間は平成24年5月～9月であった。

3. 調査・整理の経過

砂堆上に形成された遺構および包含層からは、良好な状態の遺物包含層と遺構を検出すること

ができ、多量の遺物の出土をみた。出土遺物は、27リットルコンテナで総計467箱を数えた。

整理作業は、平成24年4月から平成26年3月までであり、この整理期間内に、平成24年度分調査成果も合わせて報告することとなった。出土遺物は、分類後、種別ごとに点数・重量をはかり、さらに詳細な分析を行なう資料を選別した。土器・陶器類については接合・復元・凶化・写真撮影を行なった。製塩土器については、分類別の統計的処理に分析の主体を置き、必要な情報を得た。また、人骨をも含めて、貝類や獣骨・魚骨など、出土した動物遺存体についても、各種別で分析を行なった。

以下、第2章以降で、調査成果を報告する次第である。

第2章 調査方法および基本層序

第1節 調査区設定と調査方法

対象となった調査区は、南北約500mに渡る、細長い範囲である。2008年度は、中央に国道257号線の踏切を挟んでおり、これより北をA区、南側をB区とし、さらにA区は北半分をAa区・南半分をAb区とした。2012年度は、2008年度調査B区の西に接する位置に設定されている。北側より三等分して、A～C区の調査区を設定した。

調査は、国土座標に従った5mグリッドによる、掘削・遺物取り上げを行なっている。但し、2008年度の調査と2012年の調査では、もとななる国土座標は同一であるものの、グリッド表記が異なっている。これは、当埋蔵文化財センターの調査記録方法の変化によるものであり、調査グリッドが重複する、08B区と12A・B・C区では両方のグリッド名を表記した(図6)。

本遺跡においては、土層堆積状況が重要であるとの観点から、トレンチ掘削による土層断面観察により層名を付し、それに基づく掘削・遺物取り上げを行なった。2008年度調査では、層名はアルファベットで付し、2012年度では土色・土性の名称を付している。層序とその内容については後述する通りである。また、遺構名については、遺構の種類に関わらず認定した順に番号付けして、遺構の種類をその番号後に添えた。具体的には、001SP・002SK・003SD・004SX・005SK……、という次第である。調査中に取り消した遺構名は欠番とした。

調査では、遺物の収集漏れをなくす理由から、調査現場で土壌のふるい掛けをすべて行なった。

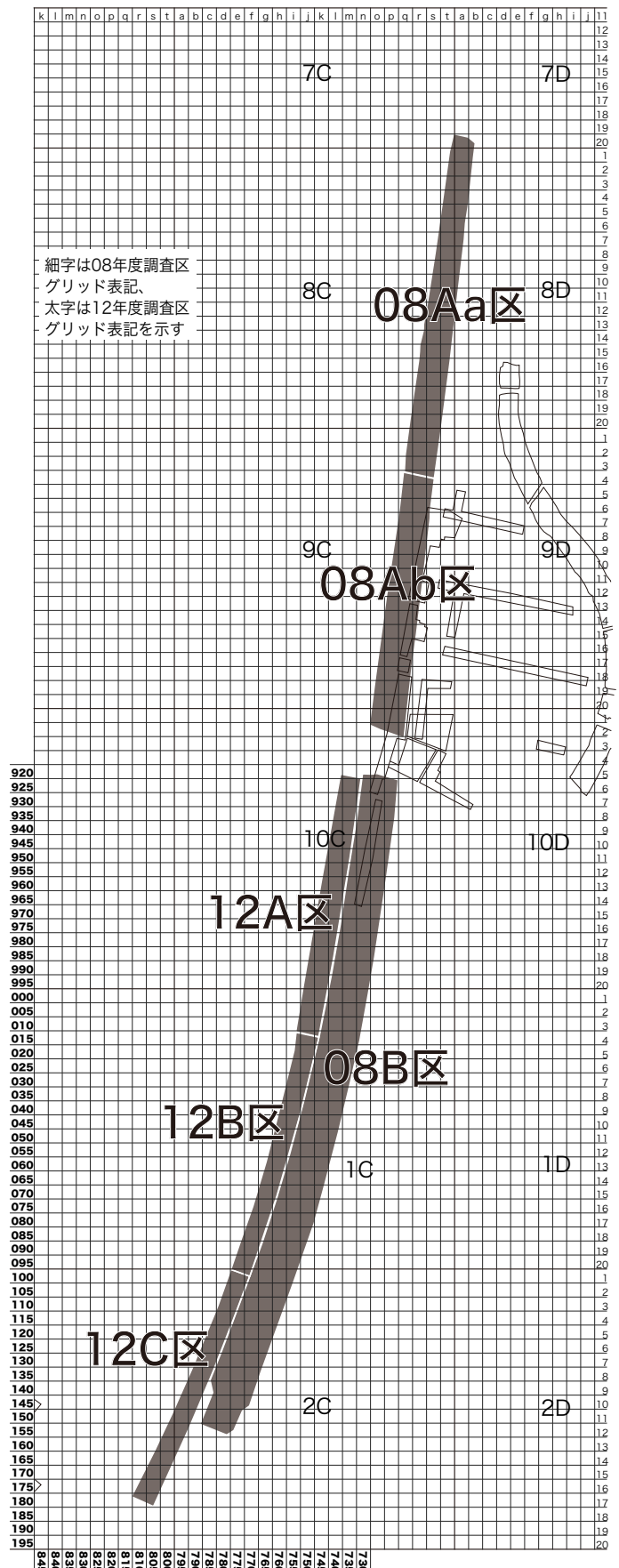
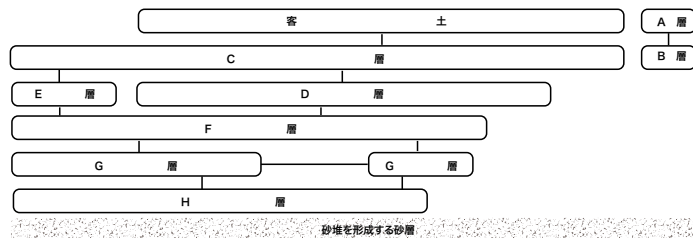
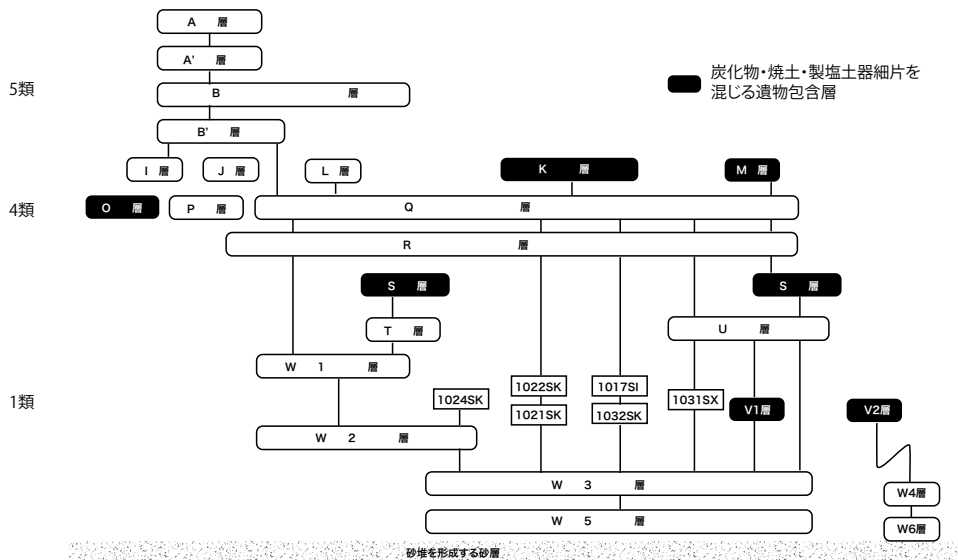


図6 調査区位置とグリッド配置図(1方眼は5mを示す)

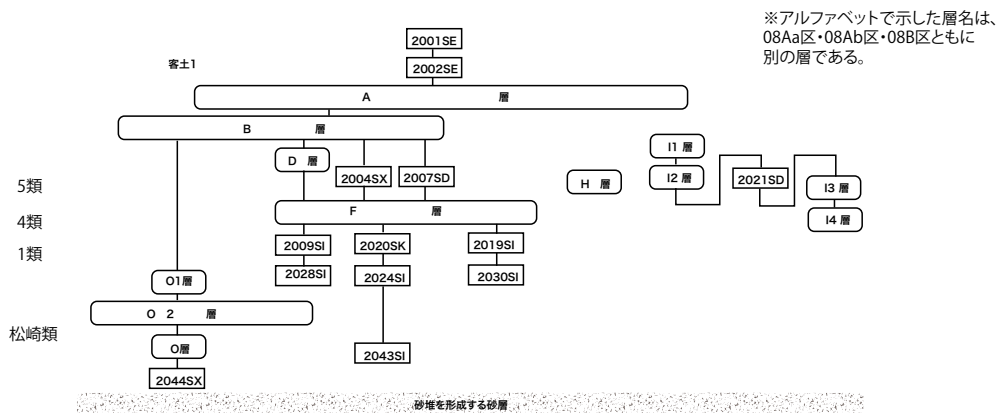
08Aa区層序模式図



08Ab区層序模式図



08B区層序模式図



12区層序模式図

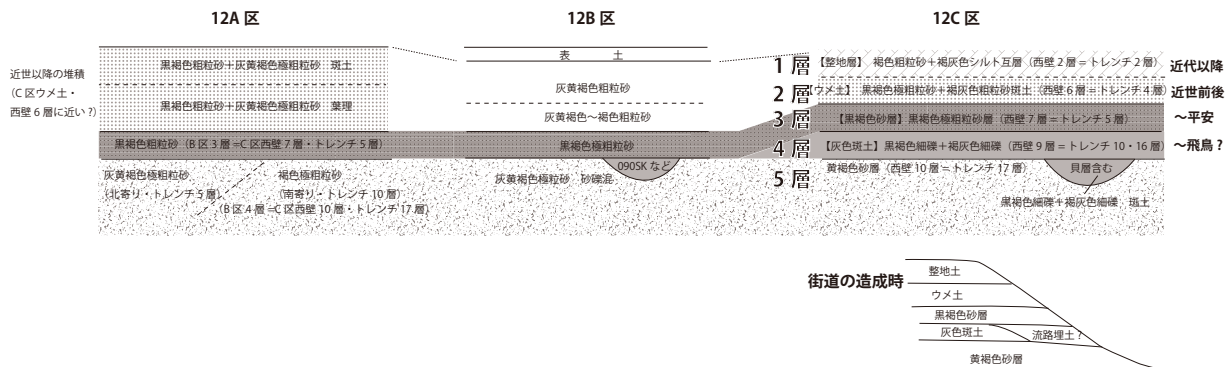


図7 調査区別の層序関係模式図

ふるいの目の大きさは10mm程度である。しかし、この場合、動物遺存体などの微小な資料については、すべて網羅できない可能性がある。かつ定量分析を行なう必要もあるため、適宜、調査現場で土層サンプルを採集し、内容物の詳細分析を後日の室内作業で行なうこととした。

今回の調査では、人工遺物のみならず、動物遺存体（貝類も含む）も悉皆回収した。これは、室内作業において、人工遺物と同一組上に載せた分析を行なう目的からである。

なお、今回の調査区は、東海市教育委員会による第1次調査区を一部含む形で設定されている。

第2節 各調査区の層名について

図7に、各調査区の層序関係の模式図を提示する。調査時においては、08Aa区・08Ab区・08B区はアルファベットを大別層位名として用いた。調査当初、Aa区とAb区は両調査区で共通した大別層名を付す意図があった。このことから、共通していると考えた、A層およびB層を両調査区に付し、C層～H層をAa区に、I層～W層をAb区に付した。ところが、調査の途中で、Aa区のA層・B層とAb区のA層・B層とは別の形成要因および時期であることが判明した。このことから、調査区をまたいで共通した層としては、包含層下の砂堆を形成する砂層のみといえる。12区は調査時には、土層名を関した層名で、遺構の記録および遺物取上げを行なった。黒褐色の砂層と砂堆を形成する砂層をもとに、5層分に大別できることから、これを整理時には上から1層・2層..5層とした。

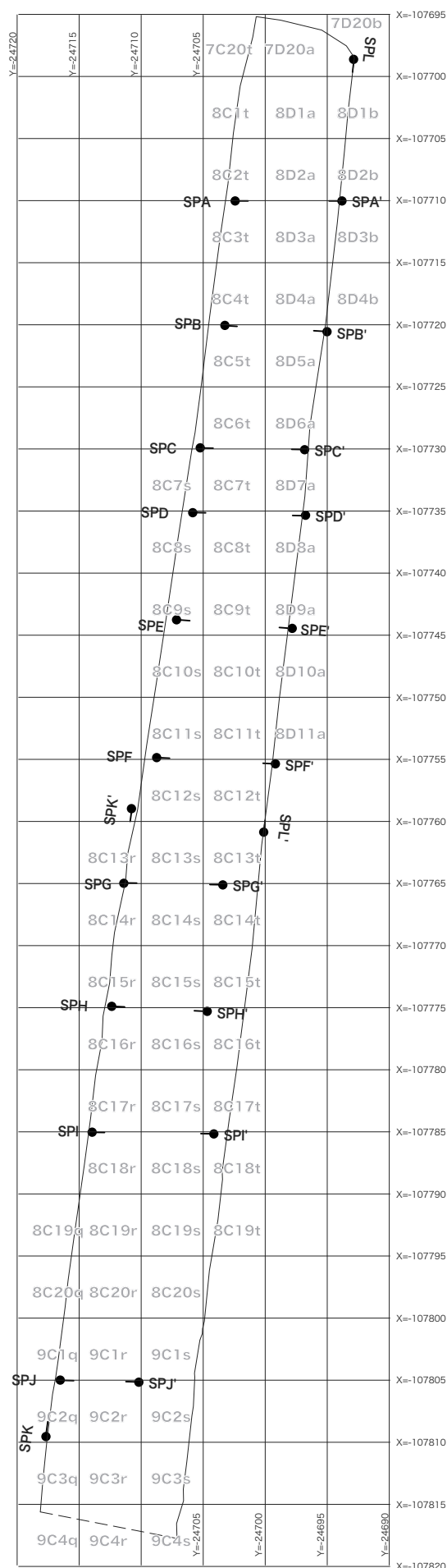


図8 08Aa区セクションポイント位置図

第3節 08Aa 区の層序と遺構

08Aa 区は南北 125m に渡る調査区で、当初から遺跡の北西端に当たる区域であることが想定されていた。土層堆積状況を確認するために、壁沿いのみならず、調査区を横断する形でトレンチを多数入れ、調査を進めた。

08Aa 区では、客土および A 層～H 層までの土層堆積を確認した。

客土：にぶい黄褐色などを呈する砂層

A 層：灰黄褐色・オリーブ褐色 粗～中粒砂

B 層：黒褐色・暗褐色を中心とする中粒砂

C 層：黒褐色・暗褐色を中心とする細粒砂

D 層：黒褐色を中心とする中粒砂

E 層：黒褐色 粗粒砂

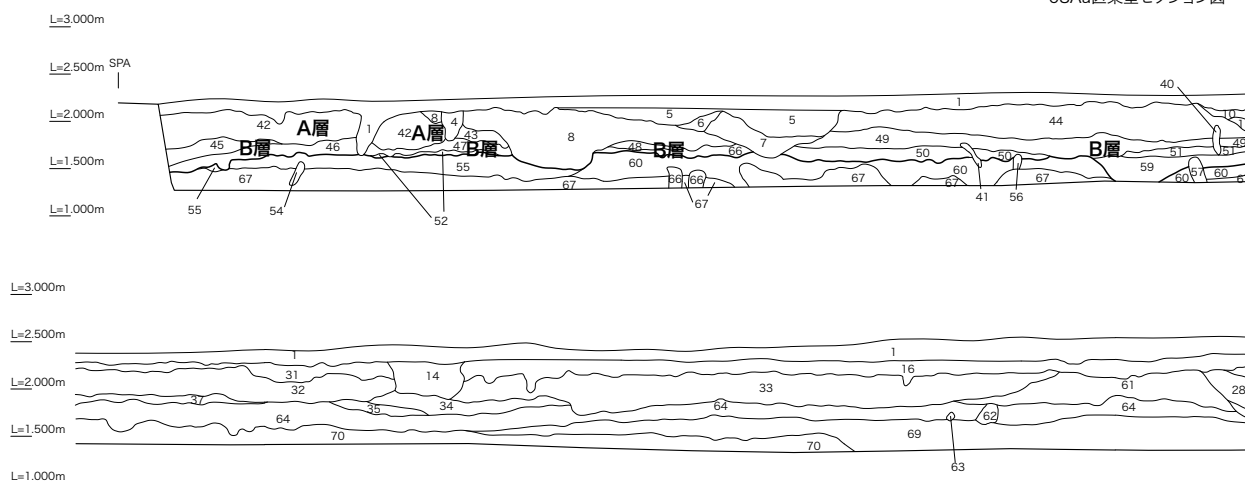
F 層：黒褐色を中心とする中～細粒砂

G 層：黒褐色を中心とする中粒砂

H 層：黒褐色 細粒砂層

これらの層の面的な広がりや、図 12・13 で、調査区内の土層断面状況は図 10・11・14・15 で示してある。調査区東端では、調査区中程から南にかけて溝状な落ち込みを確認している。当初は自然地形の可能性も考えたが、落ち込み内には木板などによる構造物が痕跡が認められたことや

08Aa区東壁セクション図



1	2.5Y3/2	黒褐色	極細粒砂	礫(径1～5cm)を多く含む。鉄道敷設時の客土	19	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	製塩土器片・貝殻を少量含む
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	コンクリート板2枚含む	20	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	
3	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	垂角礫(径5cm)を多く含む	21	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	土師器微細片を極少量。下部部に5Y8/4淡黄色粘土ブロックをやや多く含む
4	10YR3/2	黒褐色	シルトまじり中粒砂		22	10YR4/3	にぶい黄褐色	細粒砂	礫(径7cm)1点あり
5	10YR3/3	暗褐色	シルトまじり中粒砂	礫(径5cm)を多く含む	23	10YR3/4	暗褐色	細粒砂	
6	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	10YR3/2黒褐色細粒砂との互層(厚1～2cm)	24	10YR3/3	暗褐色	細粒砂	
7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	中粒砂	礫(径1～2cm)を極少量含む	25	10YR4/4	褐色	細粒砂	
8	2.5Y3/2	黒褐色	シルトまじり中粒砂	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂との互層(厚1～3cm)。製塩土器片を極少量含む	26	10YR4/3	にぶい黄褐色	細粒砂	
9	10YR3/3	暗褐色	中粒砂		27	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
10	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂との互層(厚1～3cm)	28	10YR4/4	褐色	粗粒砂	
11	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂との互層(厚1cm)	29	2.5Y4/3	オリーブ褐色	細粒砂	
12	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	細粒砂		30	7.5YR3/2	黒褐色	細粒砂	
13	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	中に5Y8/3淡黄色粘土ブロックをやや多く含む。底部に川原石(径1～5cm)層(厚10cm)あり	31	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルトまじり中粒砂	5Y8/3淡黄色粘土ブロック(径5cm)をやや多く。製塩土器片(径5mm)・貝殻を少量含む
14	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	礫(径5cm)を多く含む	32	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	貝殻を少量含む
15	2.5Y4/1	黄灰色	細粒砂	木柱あり	33	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻・土器細片を少量含む
16	5Y3/2	オリーブ黒色	シルトまじり粗粒砂	下部部に2.5Y4/3オリーブ褐色中粒砂層あり	34	2.5Y4/2	暗灰黄色	粗粒砂	
17	10YR3/3	暗褐色	中粒砂		35	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂	貝殻を少量含む
18	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	小礫(径2cm)を少量含む					

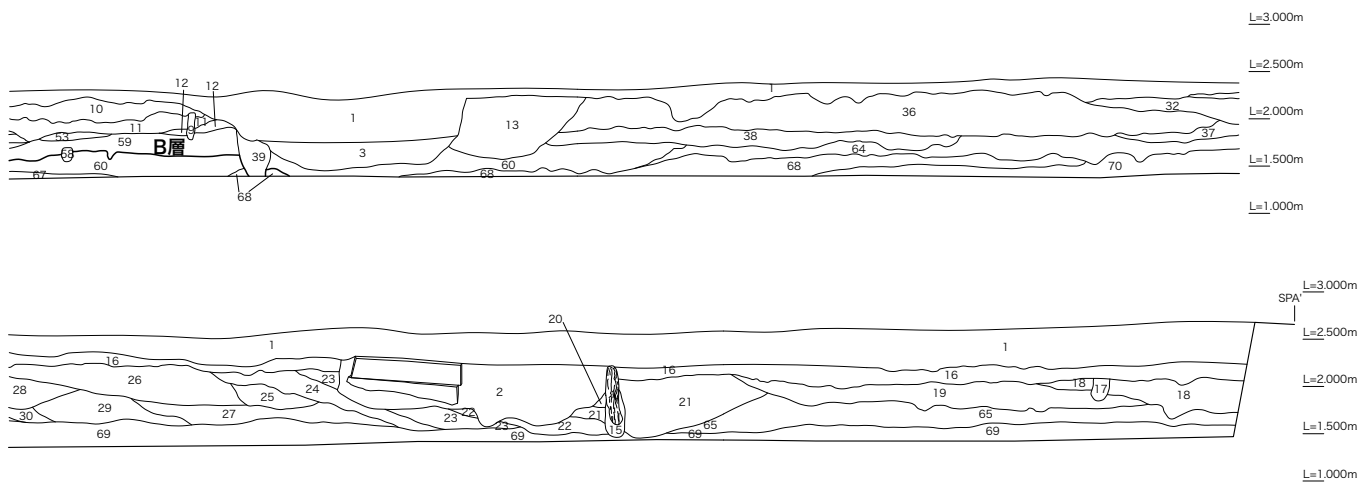
図 9

後述するように 08B 区西側にも同様の落ち込みを確認したことから、もともと凹みが存在していた可能性はあるものの、確認できた形状のものは後世に開削されたものの可能性が高い。また、調査区北西端は地形が次第に低くなつく傾向が認められ、この範囲の上層は、セメント状の堆積物で充填されていた。これは鉄道敷設時に伴うものの可能性がある。

客土とした層からは、近世から近代にかけての常滑甕の破片がまとまって出土している。図 11 はその当時の形状を示している。一辺 20m ほどの落ち込み周囲に客土が認められ、形状から近世後半以降の水田開発に伴う盛り土であると考えられる。

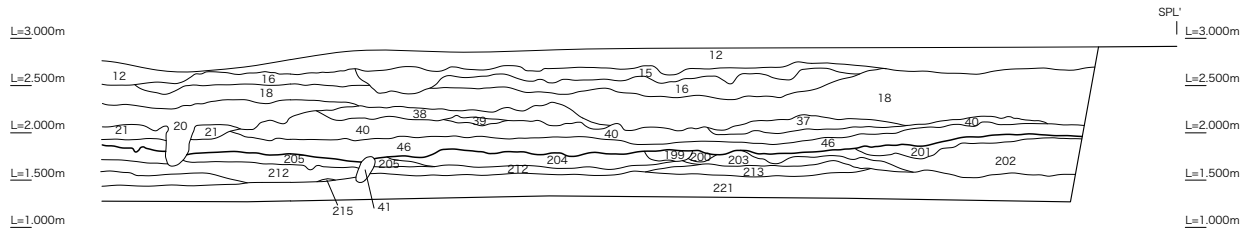
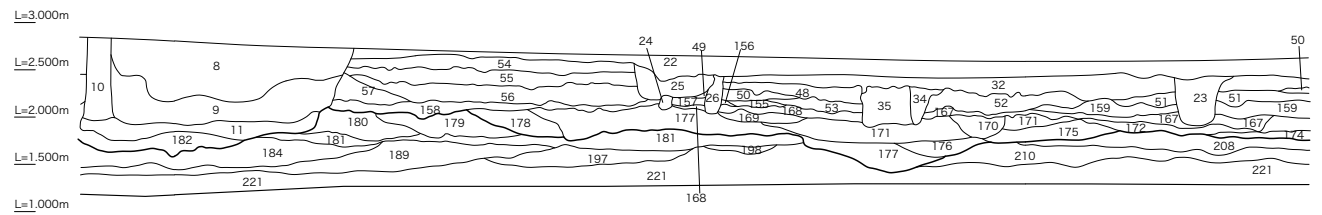
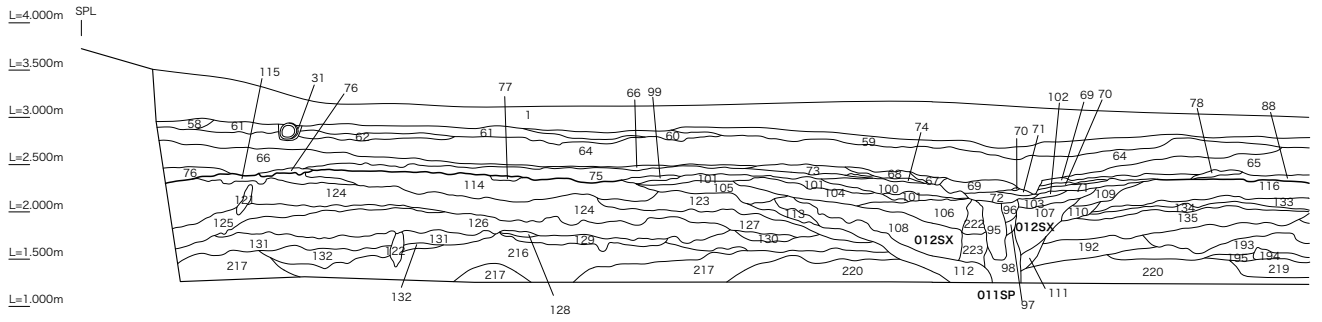
アルファベットの層名は、土器製塩活動を行っていた時期を中心とした堆積層と考えられ、層の上位から番号を付している。しかし、より上位の堆積層である A 層を中心に、内容は不明であるが中世の活動の影響を受けている可能性がある。

これら堆積層は、調査区東側から西側に張り出すように、累々と堆積している様子が窺えられた。大まかな傾向として、より上層が分布範囲が広く、下層に従って、範囲が狭まっていく様子が観察できた。いずれも、貝殻および製塩土器片を含む層である。E 層では、貝殻細片がやや多い傾向にあった。H 層では、貝殻・製塩土器片の出土が若干数に留まっており、地山付近の堆積層であったものと考えられる。これらの層では、製塩土器 1 類・



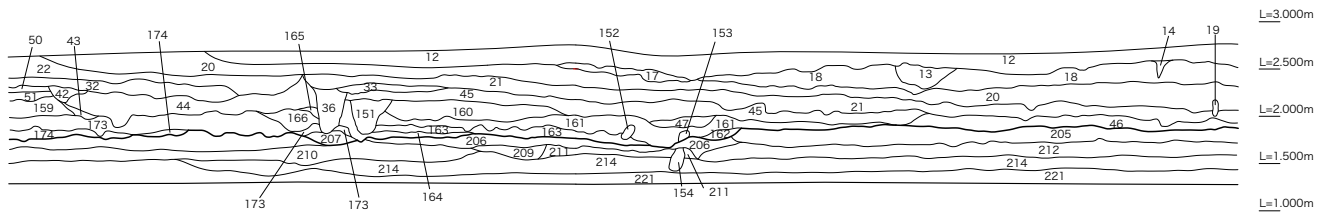
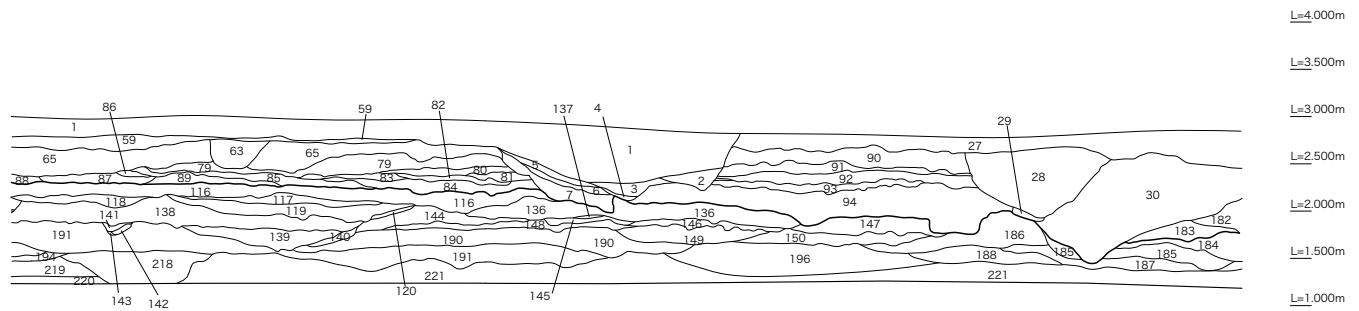
36	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂	小礫(径5mm)・貝殻片・製塩土器小片を少量含む	53	B層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	
37	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂		54	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂		植生痕あり
38	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂		55	10YR3/3	暗褐色	中粒砂		
39	10YR3/3	暗褐色	細粒砂まじり中粒砂		56	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂		
40	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂まじり粗粒砂		57	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂		
41	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	植生痕あり	58	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂		
42	A層	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	2.5Y4/4オリーブ褐色粗粒砂との互層(厚1~3cm). この互層は北側に多い。植生痕あり	59	B層	10YR3/3	暗褐色	中粒砂
43	A層	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粗粒砂		60	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	中粒砂	
44	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルトまじり中粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂との互層(厚1~2cm)	61	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂		
45	B層	2.5Y4/4	オリーブ褐色	中粒砂まじり粗粒砂	62	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂		
46	B層	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	63	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂		
47	B層	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	64	10YR4/4	褐色	粗粒砂まじり中粒砂		
48	B層	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	65	2.5Y4/4	オリーブ褐色	中粒砂		
49	B層	2.5Y3/2	黒褐色	シルトまじり中粒砂	66	B層	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	
					67	10YR3/2	黒褐色	中粒砂		
50	B層	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	68	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂		
51	B層	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	69	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂		
52	B層	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	70	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂		製塩土器小片(径1cm)を少量含む

08Aa 区土層断面図 1 【 1:80 】



1	2.5Y4/4	オリブ褐色	細粒砂		35	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	貝殻を極少量含む
2	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	2.5Y6/3にふい黄色シルトまじり中粒砂ブロックを多く含む	36	10YR3/1	黒褐色	シルトまじり中粒砂	
3	10YR3/2	黒褐色	中粒砂		37	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	シルト質細粒砂	製塩土器片を少量含む
4	10YR2/2	黒褐色	中粒砂		38	10YR4/3	にふい黄褐色	細粒砂	
5	10YR2/2	黒褐色	中粒砂		39	10YR4/4	褐色	細粒砂	
6	10YR3/2	黒褐色	中粒砂		40	10YR3/2	黒褐色	シルト質細粒砂	製塩土器片を少量含む
7	10YR2/2	黒褐色	シルトまじり中粒砂	2.5Y4/3オリブ褐色中粒砂との互層	41	2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	
8	2.5Y4/1	黄褐色	中粒砂	礫(径5cm)を多く含む	42	10YR4/4	褐色	中粒砂	
9	10YR4/1	褐灰色	中粒砂	礫(径5cm)を少量含む	43	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	
10	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂		44	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	土師器微細片を極少量含む
11	10YR3/2	黒褐色	細粒砂		45	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	
12	10YR3/2	黒褐色	中粒砂		46	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト質細粒砂	
13	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂		47	10YR3/2	黒褐色	細粒砂	
14	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂		48	2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂	
15	2.5Y3/2	黒褐色	細粒砂	製塩土器微細片を極少量含む	49	2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂	
16	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	細粒砂	製塩土器片を少量含む	50	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	
17	2.5Y4/3	オリブ褐色	粗粒砂	製塩土器微細片をやや多く含む	51	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	
18	2.5Y4/3	オリブ褐色	粗粒砂	製塩土器微細片をやや多く含む	52	10YR3/4	暗褐色	中粒砂	貝殻を少量含む
19	2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂		53	10YR4/1	褐灰色	中粒砂	
20	10YR3/2	黒褐色	細粒砂	製塩土器小片をやや多く含む	54	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	
21	2.5Y3/2	黒褐色	細粒砂	礫(径2~3cm)をやや多く含む	55	2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻・製塩土器片を少量含む
22	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂		56	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻を少量、製塩土器片を少量含む
23	2.5Y4/1	黄褐色	中粒砂	貝殻微細片を極少量含む	57	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	貝殻・製塩土器片を少量含む
24	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂		58	5Y8/3	淡黄色	シルト質細粒砂	2.5Y5/6黄褐色シルトブロックを少量含む。礫(径2cm)をやや多く含む
25	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	貝殻を極少量含む	59	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	
26	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂		60	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	貝殻・土師器片極少量含む
27	2.5Y4/3	オリブ褐色	細粒砂		61	2.5Y5/4	黄褐色	シルト混じり中粒砂	2.5Y4/3オリブ褐色細粒砂をやや多く含む珪土
28	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	礫(径3cm)を少量含む	62	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	
29	10YR4/4	褐色	中粒砂		63	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	
30	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	礫(径1~10cm)を多く含む	64	10YR3/2	黒褐色	シルト混じり中粒砂	2.5Y5/3黄褐色粗粒砂、10YR2/1中粒砂との互層
31	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	コンクリート管	65	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	炭化物粒(径1cm)・貝殻を少量、土師器片を極少量含む
32	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂		66	2.5Y5/6	黄褐色	シルト	2.5Y3/3暗オリブ褐色中粒砂・2.5Y8/3淡黄色粗粒砂ブロックを多く、土器片含む
33	2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	小礫(径1~3cm)をやや多く含む					
34	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	貝殻微細片を少量含む					

図 10



67	2.5Y5/2	暗灰黄色	中粒砂		113	10YR4/4	褐色	中粒砂	
68	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂		114	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	
69	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	10YR3/2黒褐色細粒砂(製塩土器片を含む)ブロックを少量含む	115	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
70	10YR3/2	黒褐色	シルトまじり中粒砂		116	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂	貝殻を少量含む
71	2.5Y3/2	黒褐色	粗粒砂	炭化物粒(径1cm)を少量含む	117	2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻・土師器微細片を少量含む
72	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂		118	2.5Y4/4	オリブ褐色	中粒砂	
73	H層 10YR3/1	黒褐色	シルトまじり中粒砂	製塩土器片を少量含む	119	2.5Y4/4	オリブ褐色	中粒砂	やや赤みを帯びる
74	H層 2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂		120	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	
75	H層 10YR3/2	黒褐色	細粒砂	10YR4/3にぶい黄褐色粗粒砂との互層(厚5cm)	121	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	
76	H層 10YR2/2	黒褐色	細粒砂	製塩土器片・貝殻を少量含む, 2.5Y8/3淡黄色粗粒砂を互層状に含む	122	2.5Y5/4	黄褐色	細粒砂	
77	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂		123	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	中間部に2.5Y8/3淡黄色中粒砂層(厚3cm)
78	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂		124	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂との互層
79	10YR2/1	黒色	中粒砂		125	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
80	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂		126	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	
81	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻を少量含む	127	10YR3/3	暗褐色	細粒砂	2.5Y8/3淡黄色中粒砂との互層
82	10YR4/4	褐色	中粒砂		128	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	
83	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	貝殻を極少量含む	129	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂	炭化物を極少量含む
84	10YR4/1	褐灰色	中粒砂	貝殻微細片を少量含む	130	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	
85	2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂		131	10YR4/4	褐色	中粒砂	
86	10YR3/1	黒褐色	細粒砂		132	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
87	H層 10YR3/2	黒褐色	シルトまじり中粒砂	貝殻・製塩土器片を少量含む	133	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	
88	H層 2.5Y3/2	黒褐色	粗粒砂まじり中粒砂	貝殻・製塩土器片を少量含む	134	2.5Y4/4	オリブ褐色	中粒砂	
89	H層 10YR3/1	黒褐色	中粒砂	貝殻を5%・製塩土器(知多式4類)を極少量含む	135	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	小礫(径5mm)を極少量含む
90	10YR2/3	黒褐色	シルトまじり中粒砂	炭化物粒・土器片(径5mm)を少量, 貝殻を極少量含む	136	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂	2.5Y7/3淡黄色中粒砂との互層(厚5mm)
91	10YR3/3	暗褐色	中粒砂		137	2.5Y3/2	黒褐色	細粒まじり中粒砂	
92	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂		138	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	中粒砂	貝殻微細片を極少量含む
93	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻を少量含む	139	2.5Y6/3	にぶい黄色	中粒砂	南側に2.5Y4/1黄灰色中粒砂との互層3条ほどあり(厚5cm)
94	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	貝殻を極少量含む	140	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	
95	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂		141	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	
96	10YR4/4	褐色	細粒砂		142	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	
97	2.5Y4/4	オリブ褐色	細粒砂		143	2.5Y4/4	オリブ褐色	中粒砂	
98	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	中粒砂		144	2.5Y4/4	オリブ褐色	中粒砂	
99	10YR3/3	暗褐色	中粒砂		145	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	
100	10YR4/3	にぶい黄褐色	細粒砂	貝殻微細片を少量含む	146	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	
101	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂		147	10YR4/4	褐色	中粒砂	
102	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂		148	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	
103	2.5Y4/4	オリブ褐色	細粒砂		149	2.5Y4/4	オリブ褐色	中粒砂	貝殻微細片を極少量
104	2.5Y5/4	黄褐色	細粒砂	中間部に10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂との互層(厚2~5cm)	150	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	
105	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂		151	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	貝殻を極少量含む
106	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂		152	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	
107	2.5Y4/3	オリブ褐色	極細粒砂		153	10YR4/2	灰黄褐色	細粒砂	
108	2.5Y3/3	暗オリブ褐色	中粒砂		154	5Y5/2	灰オリブ色	粗粒砂	
109	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂		155	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	
110	7.5Y5/2	灰オリブ色	シルト		156	2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂	
111	2.5Y4/4	オリブ褐色	中粒砂まじり粗粒砂		157	2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂	
112	2.5Y4/3	オリブ褐色	中粒砂	5Y4/2灰オリブ色シルトブロック(径10cm)をやや多く含む	158	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	5Y7/3淡黄色粗粒砂ブロックを多く含む

08Aa 区土層断面図 2【1:80】

159	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	貝殻をやや多く含む
160	2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂	貝殻・土器微細片を極少量含む
161	10YR3/1	黒褐色	細粒砂	
162	10YR3/3	暗褐色	細粒砂	
163	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻を少量含む
164	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	
165	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	中粒砂	
166	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	
167	10YR2/1	黒色	中粒砂	
168	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	
169	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂まじり細粒砂	
170	10YR4/4	褐色	中粒砂	
171	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
172	10YR4/4	褐色	中粒砂	
173	10YR3/2	黒褐色	細粒砂	貝殻を多く含む
174	10YR4/4	褐色	中粒砂	やや赤みを帯びる
175	10YR4/3	にぶい黄褐色	細粒砂	
176	2.5Y4/2	暗灰黄色	粗粒砂	
177	10YR3/2	黒褐色	細粒砂	
178	10YR2/2	黒褐色	細粒砂	製塩土器片(5mm~1cm)を少量含む
179	2.5Y4/1	黄灰色	中粒砂	
180	10YR4/4	褐色	粗粒砂	
181	10YR4/4	褐色	中粒砂	2.5Y7/2灰黄色中粒砂ブロックをやや多く含む
182	10YR2/2	黒褐色	シルトまじり中粒砂	
183	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
184	2.5Y7/3	浅黄色	粗粒砂	
185	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粗粒砂	
186	10YR3/2	黒褐色	シルトまじり中粒砂	製塩土器微細片・貝殻を極少量含む
187	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粗粒砂	
188	10YR3/2	黒褐色	粗粒砂	
189	2.5Y4/4	オリーブ褐色	中粒砂	
190	10YR4/4	褐色	中粒砂	
191	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
192	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂	やや赤みを帯びる
193	2.5Y4/4	オリーブ褐色	中粒砂	
194	2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂	
195	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粗粒砂まじり中粒砂	
196	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒砂	
197	2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂	
198	2.5Y4/2	暗灰黄色	粗粒砂	
199	2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	
200	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト質細粒砂	
201	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト質細粒砂	
202	10YR4/3	にぶい黄褐色	細粒砂	
203	10YR3/2	黒褐色	シルトまじり中粒砂	
204	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	やや黒い
205	10YR2/3	黒褐色	細粒砂	
206	10YR4/1	褐灰色	細粒砂	
207	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	やや赤みを帯びる
208	10YR4/4	褐色	中粒砂	
209	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	
210	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒砂まじり中粒砂	
211	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	
212	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	
213	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	
214	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	貝殻・土器微細片を極少量含む
215	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	中粒砂	
216	2.5Y4/4	オリーブ褐色	中粒砂	
217	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルトまじり中粒砂	
218	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	貝殻片を極少量含む
219	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂	
220	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒砂まじり中粒砂	
221	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂	
222	10YR4/4	褐色	細粒砂	
223	2.5Y4/4	オリーブ褐色	細粒砂	

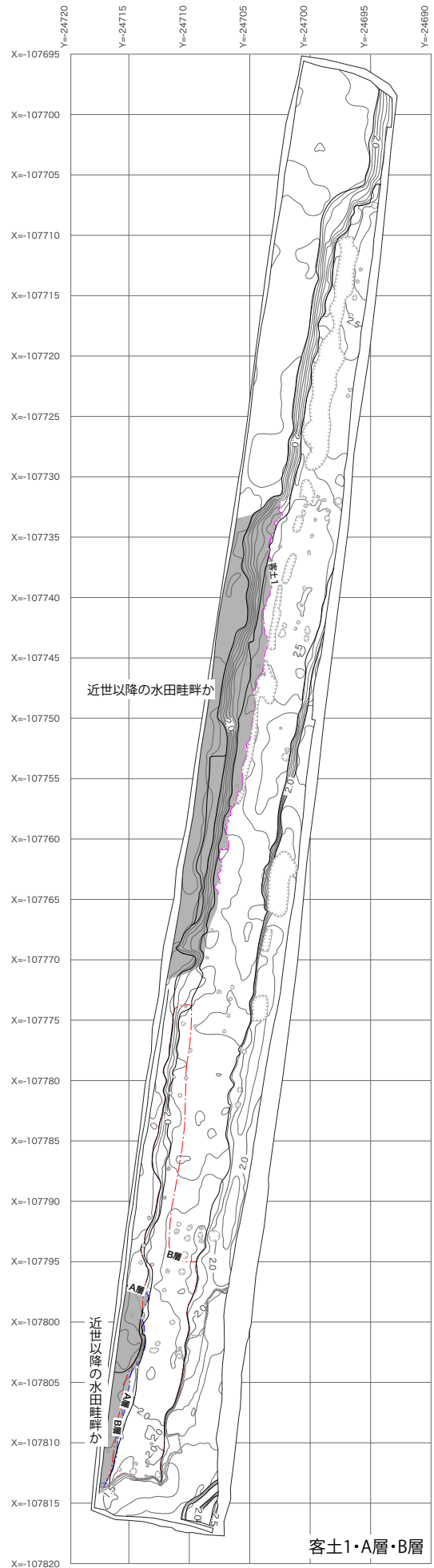


図 11 08Aa 区平面図 1【1:500】

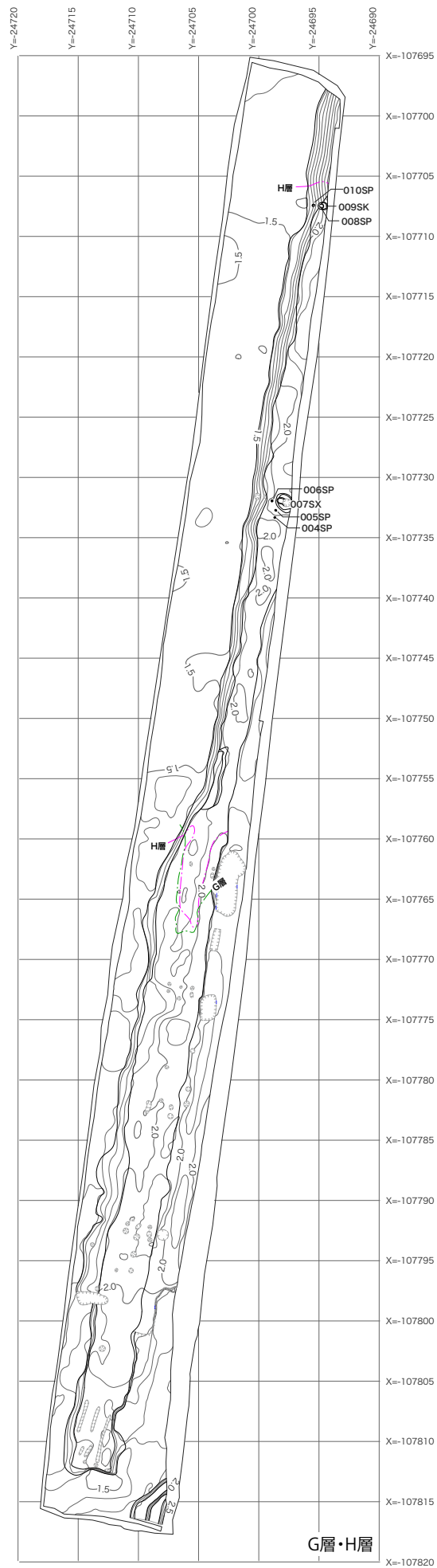
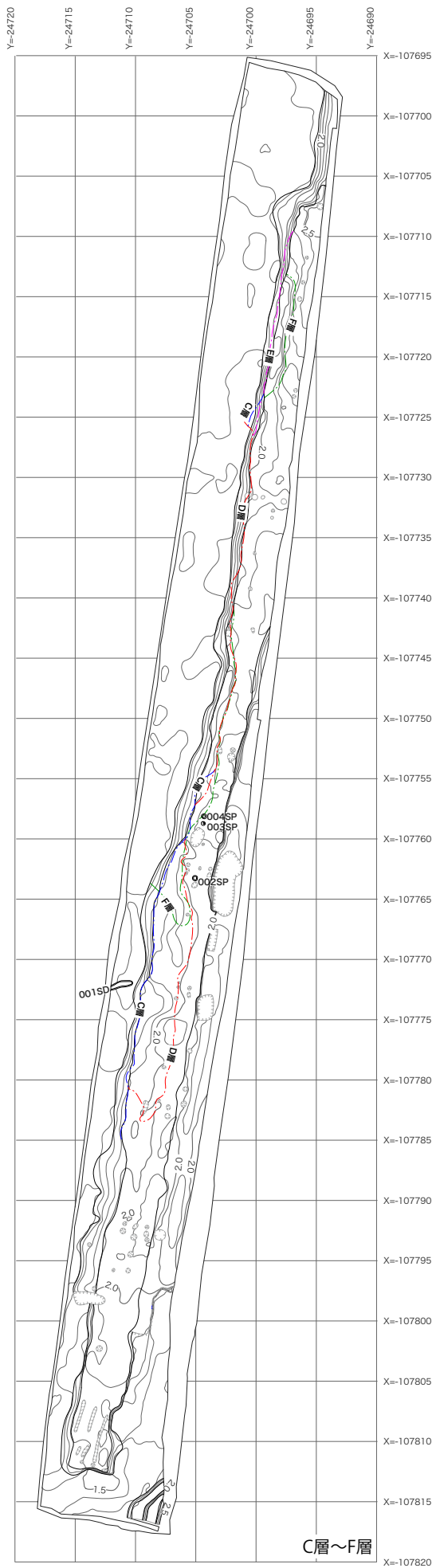
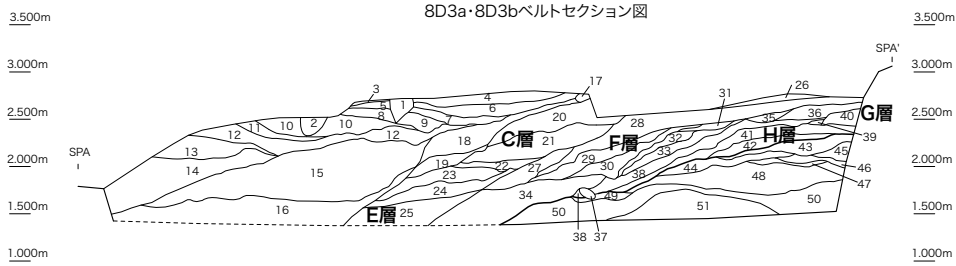
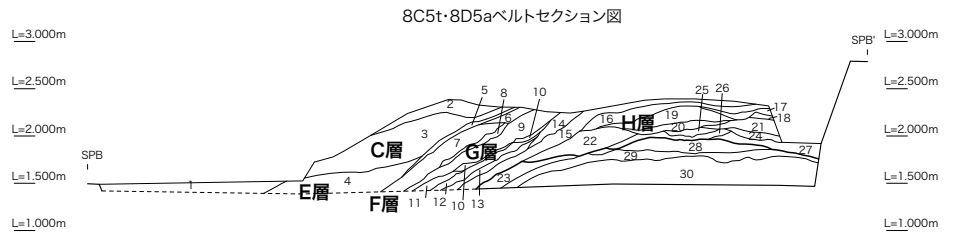


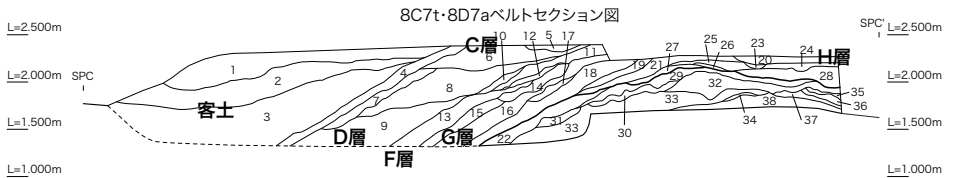
图 12 08Aa 区平面图 2 【 1:500 】



1	2.5Y4/3	オリーブ褐色中粒砂	隙(径1~5cm)をやや多く含む	27	F層	10YR2/1	黒色	中粒砂	製塩土器片を少量含む
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色中粒砂	隙(径1~5cm)をやや多く含む	28	F層	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	10YR3/1黒褐色中粒砂との互層(厚5mm~2cm)
3	2.5Y4/3	オリーブ褐色中粒砂	5Y5/4オリーブ色細粒砂ブロック(径3~5cm)をやや多く含む	29	F層	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	
4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色粗粒砂	10YR3/3暗褐色中粒砂ブロック(径3~5cm)を多く含む	30	F層	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂との互層(厚5mm)
5	10YR4/3	にぶい黄褐色中粒砂	炭化物・製塩土器微細片を極少量含む	31	G層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	細粒砂	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂との互層(厚1cm)
6	2.5Y6/4	にぶい黄色	2.5Y4/3オリーブ褐色中粒砂との互層(厚5mm~1cm)	32	G層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	細粒砂	炭化物を極少量含む
7	2.5Y4/3	オリーブ褐色中粒砂	製塩土器微細片を極少量含む	33	G層	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	中粒砂	2.5Y3/1黒褐色細粒砂まじり中粒砂との互層(厚3cm)
8	10YR3/3	暗褐色	製塩土器微細片を少量、貝殻微細片を極少量含む	34	F層	2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂	
9	2.5Y4/2	暗灰黄色	貝殻および製塩土器微細片を極少量含む	35	G層	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒砂	
10	2.5Y6/4	にぶい黄色	10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂との互層(厚1~1.5cm)	36	G層	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	
11	10YR4/2	灰黄褐色	貝殻を極少量含む	37	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂		
12	10YR3/2	黒褐色		38	G層	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	
13	2.5Y5/3	黄褐色	12.に比べてやや明るい	39	G層	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	製塩土器片を極少量含む
14	10YR3/2	黒褐色		40	G層	2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂	炭化物(径3~5mm)を少量含む
15	10YR4/4	褐色		41	H層	10YR3/1	黒褐色	中粒砂	
16	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色粗粒砂		42	H層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂まじり粗粒砂	貝殻微細片を極少量含む
17	2.5Y5/3	黄褐色		43	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂		
18	2.5Y4/3	オリーブ褐色細粒砂	下部に礫層(径1~2cm)あり	44	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂		
19	C層	10YR3/2	黒褐色	45	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂		
20	C層	10YR3/1	黒褐色	46	2.5Y3/2	黒褐色	細粒砂		
21	C層	10YR3/2	黒褐色	47	10YR3/2	黒褐色	中粒砂		
22	C層	2.5Y3/2	黒褐色	48	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂		
23	E層	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色粗粒砂	49	10YR3/3	暗褐色	中粒砂		
24	E層	10YR3/3	暗褐色	50	10YR4/4	褐色	粗粒砂まじり中粒砂		
25	E層	10YR4/1	褐灰色	51	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂		
26	F層	2.5Y6/3	にぶい黄色						



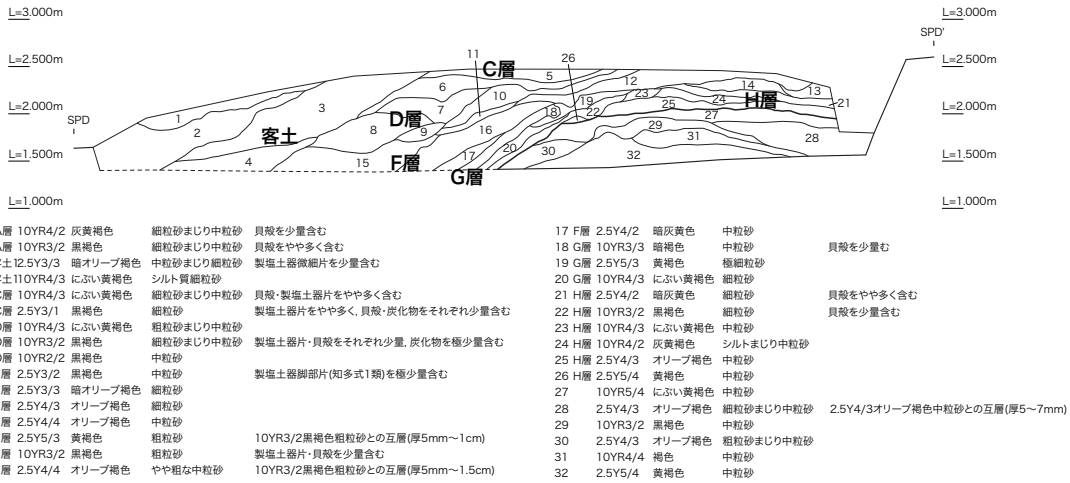
1	客土	2.5Y4/4	オリーブ褐色粗粒砂	16	H層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	細粒砂			
2	C層	2.5Y3/2	黒褐色	細粒砂	炭化物・土師器微細片を少量含む	17	(H層)	2.5Y4/4	オリーブ褐色粗粒砂まじり中粒砂		
3	C層	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻をやや多く、土師器微細片を極少量含む	18	(H層)	10YR5/3	にぶい黄褐色中粒砂		
4	E層	10YR3/1	黒褐色	粗粒砂	貝殻微細片をやや多く含む	19	(H層)	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	2.5Y5/3黄褐色シルトとの互層(厚5mm~2cm、一部5cm厚のものあり)
5	F層	2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂	製塩土器片を極少量含む	20	(H層)	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	貝殻微細片を少量含む
6	F層	2.5Y5/2	暗灰黄色	粗粒砂まじり中粒砂	炭化物(径1cmほど)を極少量含む	21	(H層)	10YR4/4	褐色	中粒砂	貝殻微細片を少量、製塩土器微細片を極少量含む
7	F層	2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂まじり中粒砂	炭化物(径5mm)・製塩土器片を極少量含む	22	(H層)	2.5Y5/3	黄褐色	細粒砂まじり中粒砂	貝殻微細片を少量含む
8	G層	2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂		23	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂		
9	G層	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂まじり中粒砂		24	(H層)	2.5Y5/4	黄褐色	細粒砂	
10	G層	10YR2/1	黒色	中粒砂		25	(H層)	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
11	G層	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂まじり中粒砂	10YR3/2黒褐色中粒砂小ブロック(径3cm)を少量含む	26	(H層)	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	2.5Y4/3オリーブ褐色中粒砂との互層(厚1~2cm)、製塩土器微細片を極少量含む
12	G層	2.5Y4/3	オリーブ褐色粗粒砂		27	(H層)	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂		
13	H層	10YR3/2	黒褐色	シルトまじり中粒砂	貝殻微細片・2.5Y4/3オリーブ褐色中粒砂小ブロック(径3cm)を少量含む	28	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂		
14	H層	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	貝殻微細片を少量含む	29	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂		
15	H層	10YR4/3	にぶい黄褐色中粒砂		30	2.5Y4/4	オリーブ褐色	中粒砂			



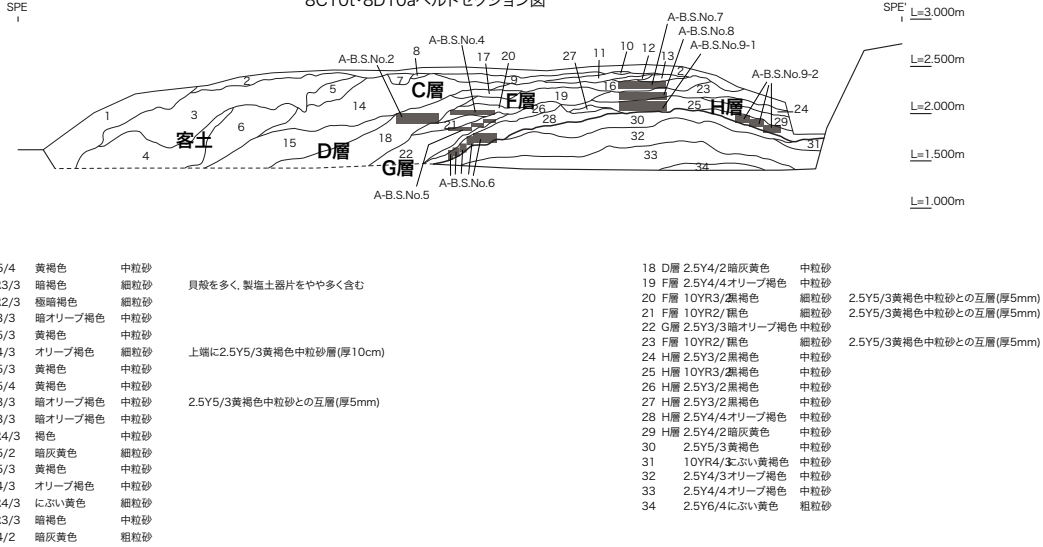
1	2.5Y3/2	黄褐色	中粒砂	2.5Y5/3黄褐色粗粒砂まじり中粒砂との互層(厚1~3cm)	20	H層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	細粒砂		
2	客土	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	2.5Y3/2中粒砂との互層(厚5mm)	21	H層	2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂	炭化物・製塩土器微細片(径1~2cm)を極少量含む
3	客土	2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂まじり中粒砂		22	2.5Y4/4	オリーブ褐色	細粒砂	2.5Y5/4黄褐色シルトブロック(径5cm)を多く含む	
4	客土	2.5Y5/3	黄褐色	粘土まじり極細粒砂	2.5Y5/1粘質シルトブロック(径3cm)を少量含む	23	H層	2.5Y3/1	黒褐色	細粒砂	
5	C層	2.5Y5/3	黄褐色	細粒砂	貝殻・製塩土器微細片を極少量含む	24	H層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	細粒砂	
6	C層	2.5Y4/2	暗灰黄色	粗粒砂まじり中粒砂	貝殻・粘土もしくは土師器等細片(径1cm)を少量含む	25	H層	2.5Y5/4	黄褐色	極細粒砂	
7	D層	10YR3/3	暗褐色	細粒砂	貝殻片を少量含む	26	H層	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルトまじり中粒砂	
8	D層	2.5Y3/2	黄褐色	細粒砂	粘土もしくは土師器等細片(径1~1.5cm)をやや多く、小礫(径5mm)を少量含む	27	H層	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	細粒砂	炭化物粒を極少量含む
9	D層	10YR4/2	にぶい黄褐色	中粒砂		28	H層	10YR4/4	褐色	中粒砂	貝殻・製塩土器微細片を少量含む
10	F層	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂		29	10YR4/4	褐色	中粒砂		
11	F層	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂まじり中粒砂		30	10YR3/4	暗褐色	細粒砂		
12	F層	2.5Y5/3	黄褐色	細粒砂		31	2.5Y4/3	オリーブ褐色	細粒砂		
13	F層	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂まじり中粒砂		32	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂まじり細粒砂		
14	G層	10YR3/3	暗褐色	細粒砂	製塩土器微細片を極少量含む	33	10YR4/4	褐色	中粒砂		
15	G層	10YR3/3	暗褐色	中粒砂		34	10YR4/4	褐色	中粒砂		
16	G層	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	10YR3/2黒褐色中粒砂との互層(厚1~2cm)	35	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂		
17	G層	10YR3/3	暗褐色	細粒砂		36	10YR3/3	暗褐色	中粒砂		
18	H層	2.5Y3/2	黄褐色	細粒砂	貝殻をやや多く、製塩土器微細片を少量含む	37	10YR4/4	褐色	中粒砂		
19	H層	2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂まじり細粒砂	貝殻微細片を少量含む	38	10YR3/1	黒褐色	極細粒砂		

図 13 08Aa 区土層断面図 1【1:80】

8C8t・8D8aベルトセクション図



8C10t・8D10aベルトセクション図



8C12s・8C12tベルトセクション図

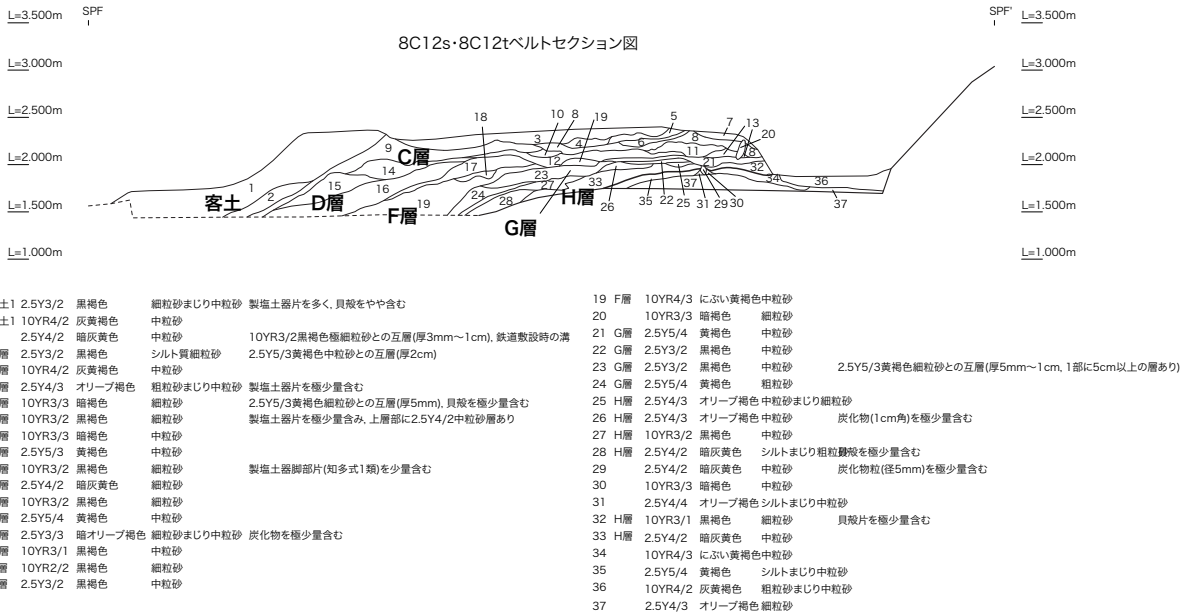


図 14 08Aa 区土層断面図 2【1:80】

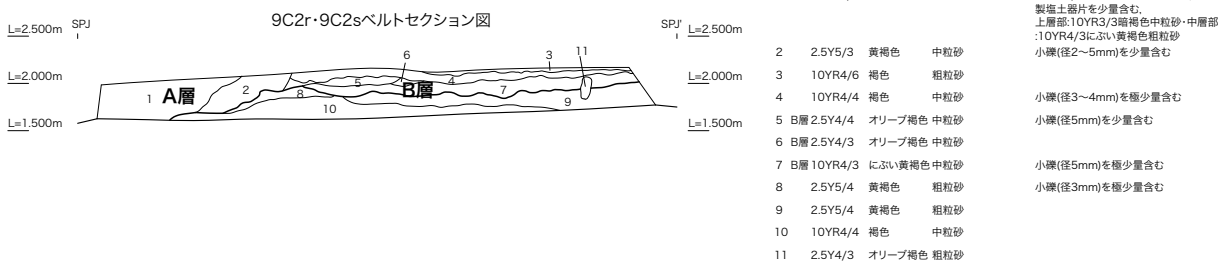
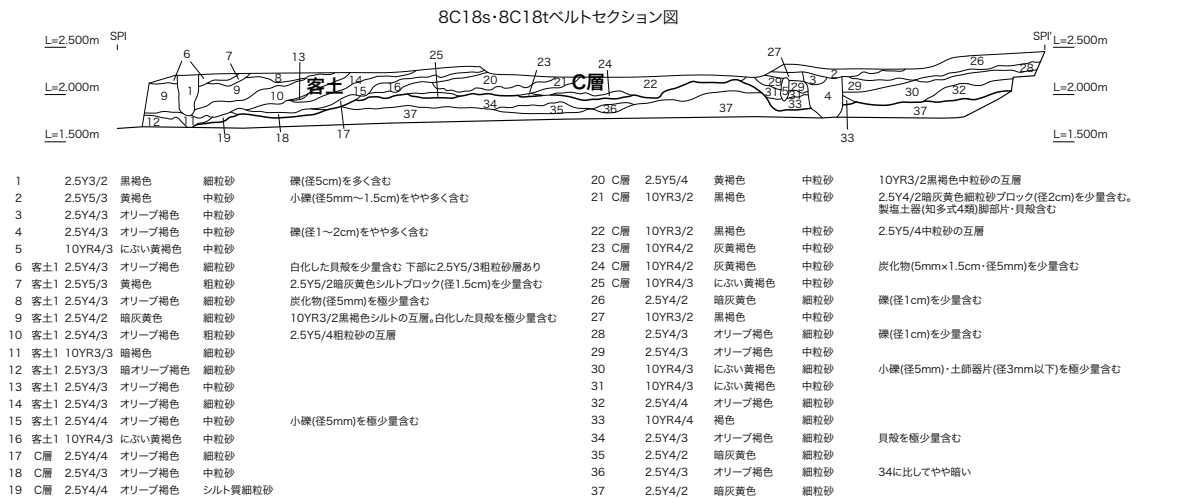
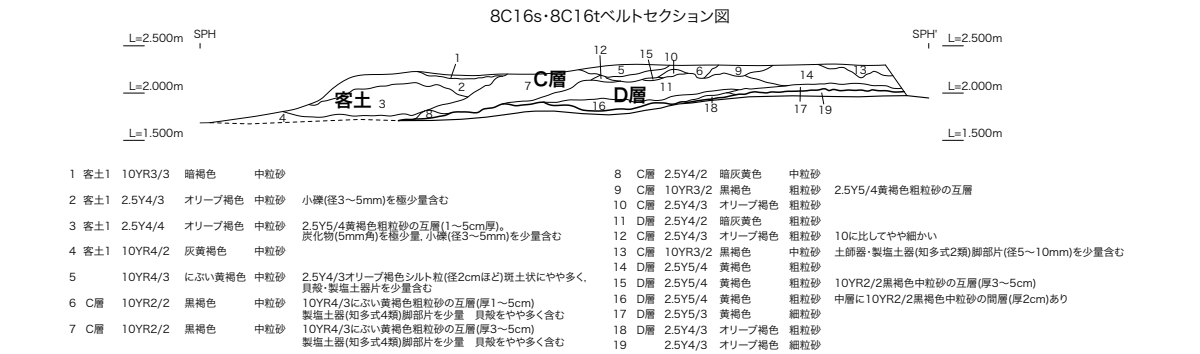
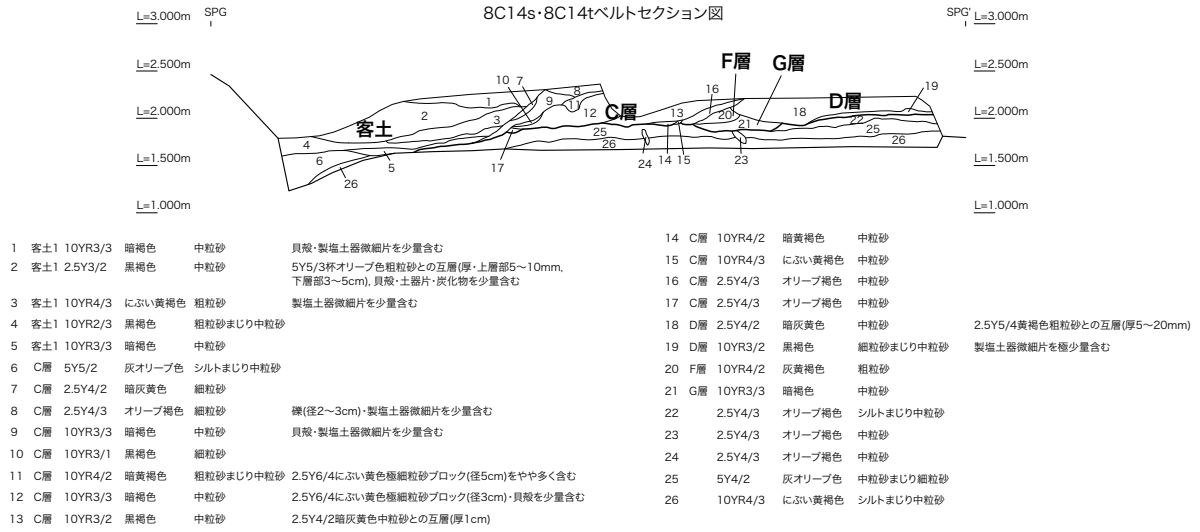


図 15 08Aa 区土層断面図 3 【1:80】

2類・4類の出土があり、調査時においては1類の出土が目立った傾向にあるものの、より上層で4類が、あるいはより下層で1類が多くなる、という傾向は把握できなかった。また、いずれの土層もしまりは強くない。いずれの層も細片化の進んだ混貝砂層といえる状態で、08Aa区では貝層のみが集中している層は確認できなかった。

また、08Aa区の南側では、08Ab区側に向かって地形の傾斜を確認した。この地形は砂堆本来の形状を呈していると考えられ、同一列の砂堆での微地形が表出したものといえる。

第4節 08Ab区の層序と遺構

1. 概要および堆積層について

08Ab区は、南北100mに渡る調査区である。この調査区でも、08Aa区同様に、遺跡形成過程を重要視する理由から、調査グリッドに沿って、各所にトレンチを設定して、層序あるいは層名を決定してから、順次掘削を行なった。08Aa区同様に、これら堆積層には自然の営力によるものと、人為的活動痕跡の場合とがあるが、調査の結果、人為的痕跡を良好な状態で残していることが判明した。従って、掘り込みがある遺構に対して、本調査での層の識別は、遺構の認識と同等のものとして扱うこととする。なお、先に述べたように、層名は08Aa区と共通で、新規の層は続けて付した。

A層：淡赤橙色 粗粒砂～中粒砂

A'層：明黄褐色・黄褐色 粗粒砂～中粒砂

B層：暗赤褐色 粗粒砂

B'層：黒褐色 粗粒砂

I層：灰褐色 粗粒砂～中粒砂

J層：褐色 粗粒砂

K層：オリーブ黒色 シルト質粗粒砂

【焼土・炭化物・製塩土器細片を多量に含む】

L1・L2層：暗赤褐色 中粒砂【貝層】

L3層：褐色 中粒砂

L4層：黒褐色 中粒砂

L5層：暗赤褐色 中粒砂【ハマグリ主体の貝層】

M層：黒褐色 粗粒砂

【焼土・炭化物・製塩土器細片を多量に含む】

N層：褐色 中粒砂

O層：黒褐色 粗粒砂

【焼土・炭化物・製塩土器細片を多量に含む】

P層：褐色 粗粒砂
Q層：褐色 粗粒砂～中粒砂
【ハマグリ主体の貝層】
R層：褐色・黄褐色 粗粒砂【貝含む】
S層：黒褐色主体 粗粒砂（S1～S32層）
【焼土・炭化物・製塩土器細片多量に含む】
T層：黒褐色・灰褐色・暗褐色 粗粒砂
【貝ブロック交じる】
U層：にぶい黄褐色 粗粒砂
V1層：にぶい褐色 粗粒砂～中粒砂
V2層：黒褐色 粗粒砂
【焼土・炭化物・製塩土器片多量に含む】
W1層：にぶい褐色・にぶい橙色 粗粒砂
【貝少量混じる】
W2層：褐色 粗粒砂
W3層：褐色 粗粒砂～中粒砂
W4層：明褐色 中粒砂
【ウミナなどの巻貝多い】
W5層：黒褐色 中粒砂
W6層：灰黄褐色 粗粒砂

以上の層の堆積状況について、模式的に示したのが図7中段である。ハマグリなど二枚貝を多く含むP層・Q層は調査区の広範囲に認められ、その下にR層が厚く堆積していた。この層を境に、遺跡の形成状況に変化があったようである。

層の面的な広がりについては、図23～25で、土層断面については図17～22に示した。図17の東壁セクションでも明らかなように、遺構および包含層の形成は調査区南東端から始まり、次第に西および北方向に伸びるように形成域が広がって行ったようである。

層の形成時期で、明確なものを記しておく。

A層・A'層・B層・B'層では、製塩土器知多

式5類がまとまって出土した。

I層～Q層では、製塩土器知多式4類が主体的に出土している。R層も同様である。

S層も知多式4類のまとまって出土した層である。T・Uも同様である。

V層は製塩土器の知多式1類が出土している。

W層は1類が出土しているが、4類の出土も多く認められる。

これらの層ではほぼすべて、貝の包含が認められる。包含の様相は層によって異なり、先に貝層と記した層では、貝殻の包含率は高くかつ破碎の程度も少ない。L層やS層のようにブロック状に貝の包含が認められるところもある。また、貝種に関する詳細な報告は別に提示するが、L層・O層・P層・Q層ではハマグリを主体とし、W層ではウミナなどの小巻貝およびマテガイの出土が目立つなど、層によって貝種の比率が異なる様子が窺えられた。

K層・M層・O層・S層・V2層は、炭化物・焼土・製塩土器細片を多量に含み、しまりがやや強い層であった。特に、K層・M層・O層・S層からは、製塩土器4類脚部が立位状態で出土した。このなかでも特に保存が良好であったのは、S層である。S層は30以上に及ぶ層の集合体で、調査区中央東側に20×5mの範囲で広がりを確認した。この層は、黒褐色を呈する粗粒砂が中心であり、包含層の中には、焼土・炭化物・製塩土器片を多量に含んでいた。また、周囲の層と異なる点として、しまりが強い点が挙げられる。調査ではS1層～S32層と、32層に細分できた。その詳細は、以下の通りである。

S1層：4.3×1.9m、厚さ8cmを測り、堆積状況はごく浅い皿状を呈する凹地に包含層が存在する。炭化物・焼土塊・製塩土器片を多量に含む層

である。立位状態での製塩土器脚部を検出している。

S2層：2.2×1.6m、厚さ5cmを測り、堆積状況はごく浅い皿状を呈する凹地に包含層が存在する。この層は炭化物と焼土と考えられる赤色粒を多量に含んでいた。この層でも立位状態での製塩土器4類の脚部を検出した。

S3層：2.3×2.4mを測る。

S4層：3.7×1.1m、厚さ5cmを測る。平面プランは等高線に沿って、不定形な細長い形状を呈しており、複数の堆積が重複している可能性がある。堆積状況はごく浅い皿状を呈する凹地に包含層が存在しており、炭化物・焼土・製塩土器片を多数包含している。

S5層：S層の重複域から10mほど北方と、外れた地点に形成された層である。0.8×0.6mの楕円形状を呈する形状で確認できた。マガキ・ハマグリを多く含む層である。

S6層：4.3×1.2m、厚さ7cmを測る。この層も等高線に沿って細長い形状を呈している。炭化物・焼土・製塩土器片を多量に含み、しまりが強い層である。

S7層：3.9×0.7mの範囲で確認された層で、西側の範囲は不明である。この層も等高線に沿った形状であることが確認できる。

S8層：1.6×0.7mの不定形な楕円形状を呈する。

S9層：0.9×0.6mの楕円形状を呈する。

S10層：1.4×0.6mの範囲で確認できたが、より西側に向かって広がっていた可能性がある。ハマグリなどの貝を多く含む層である。

S11層：2.3×0.8mの範囲で確認できたが、より西側に向かって広がっていた可能性がある。

S12層：0.9×0.6mの範囲で確認された層であ

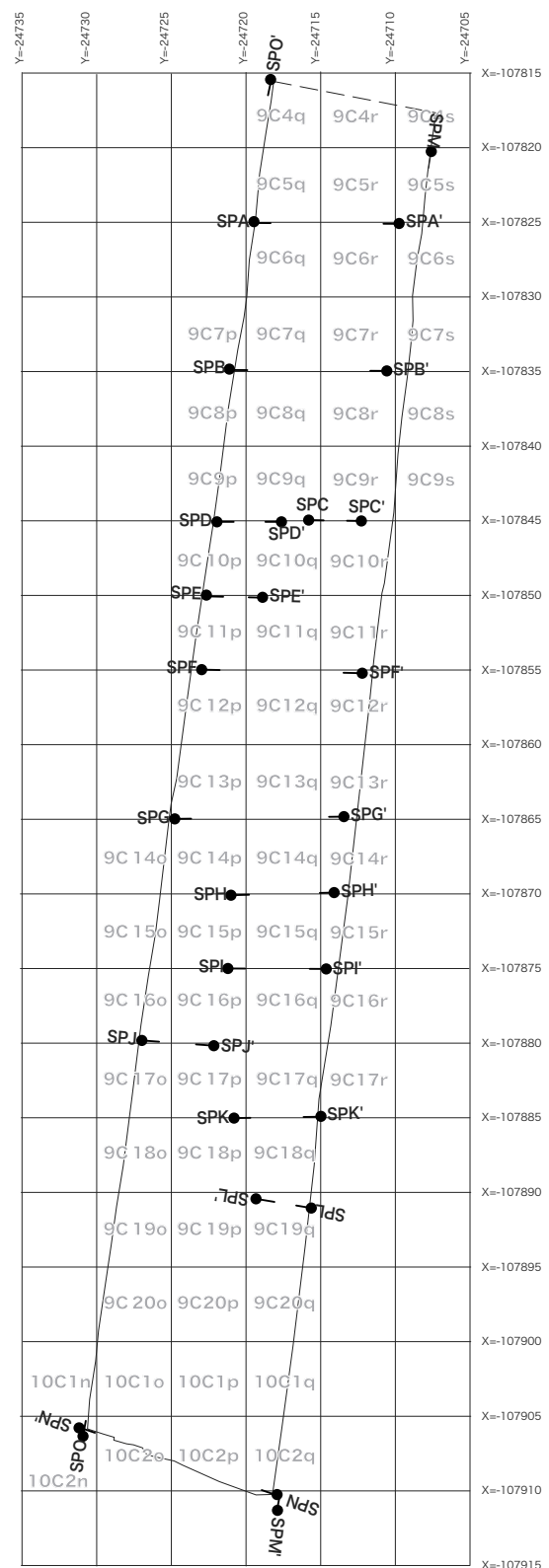


図 16 08Ab 区セクションポイント位置図

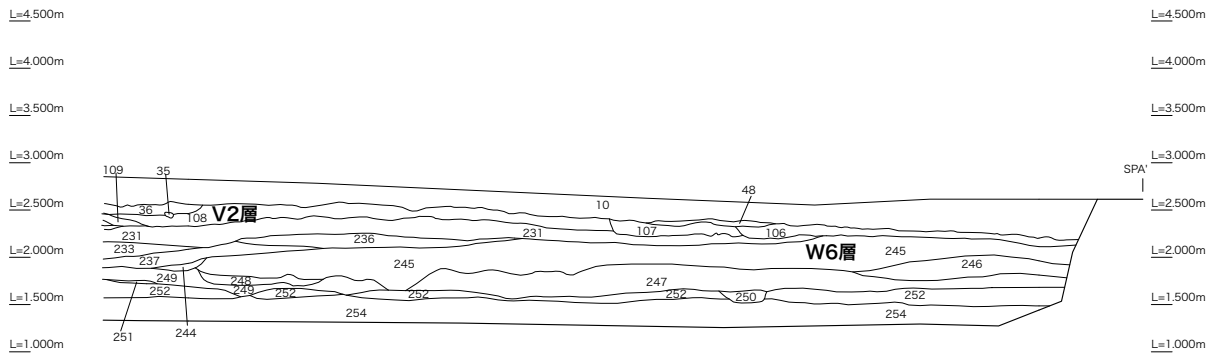
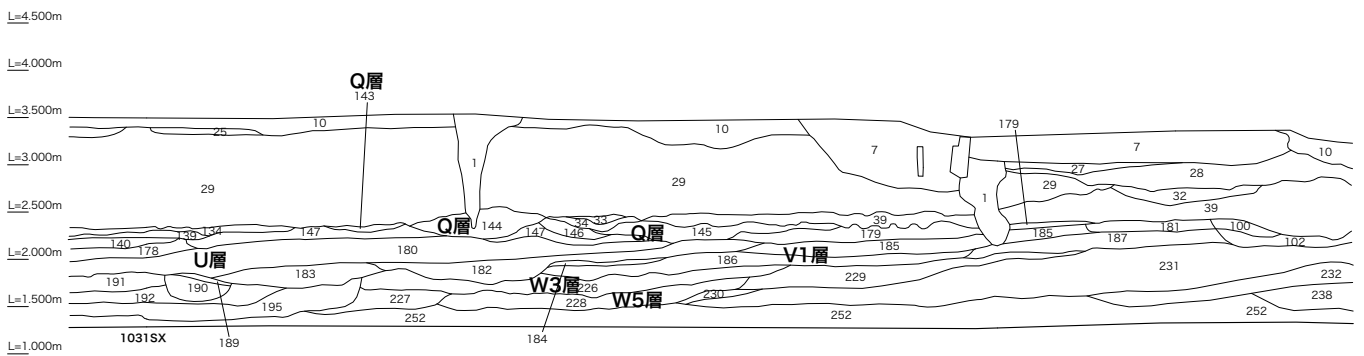
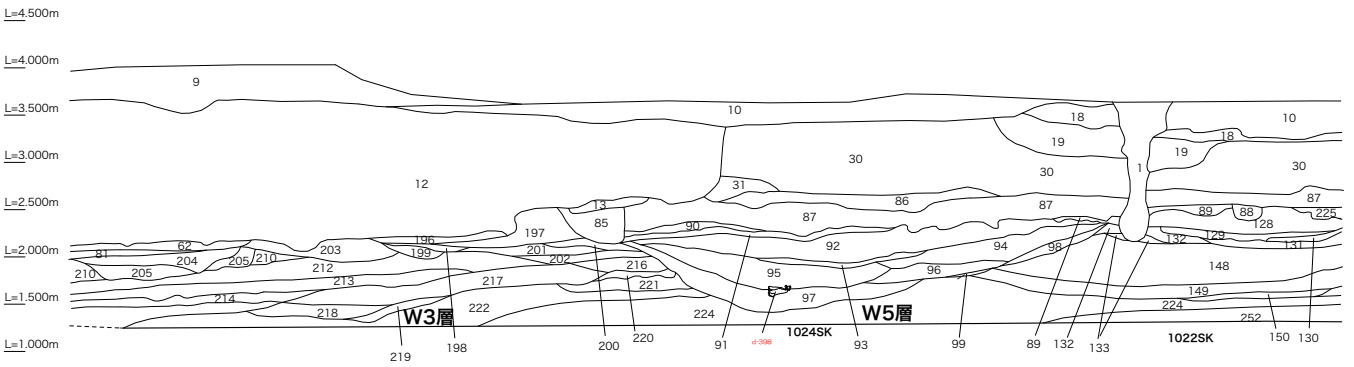
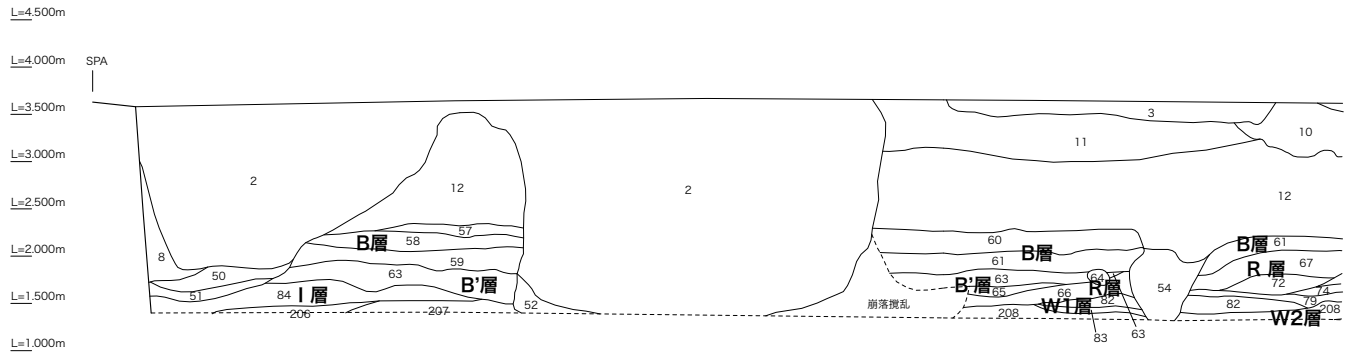
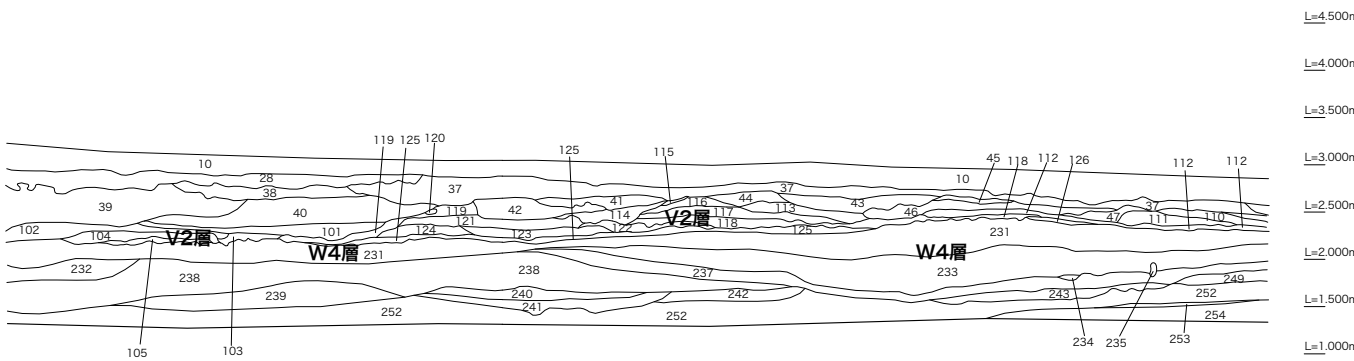
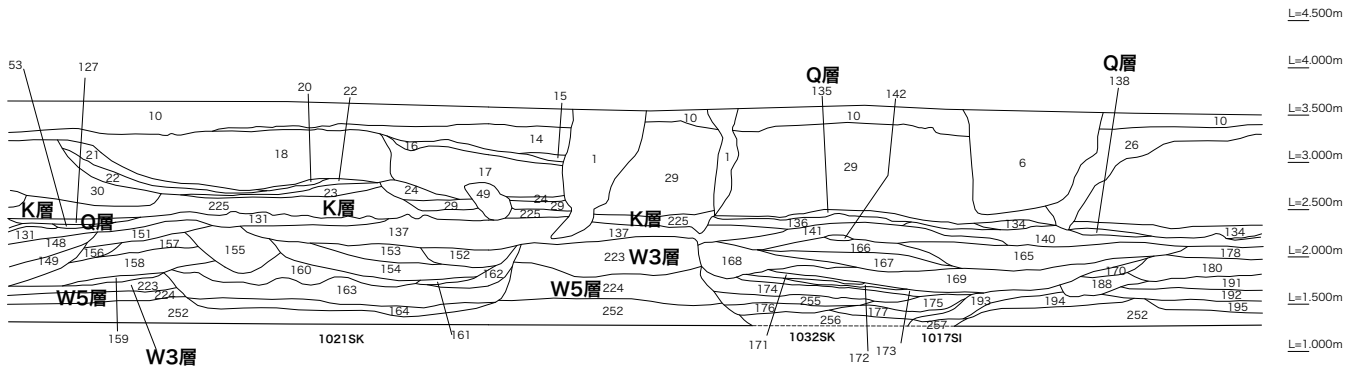
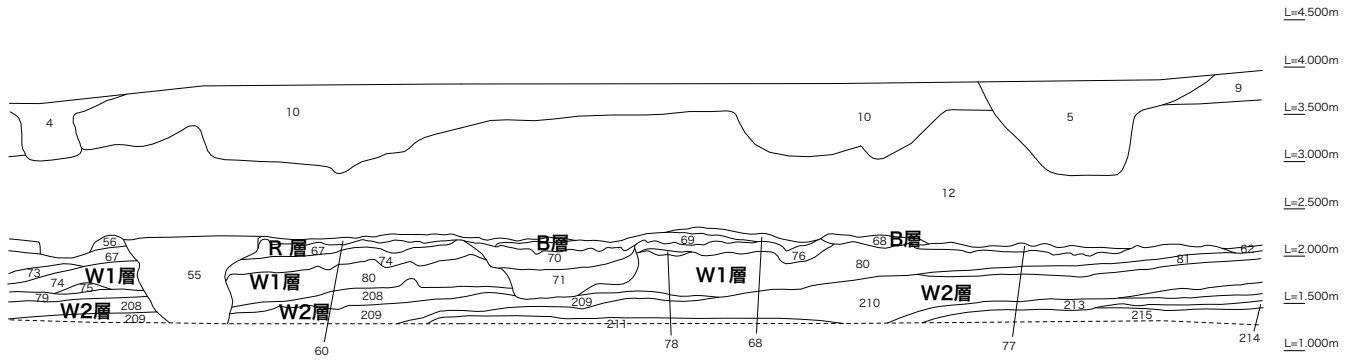


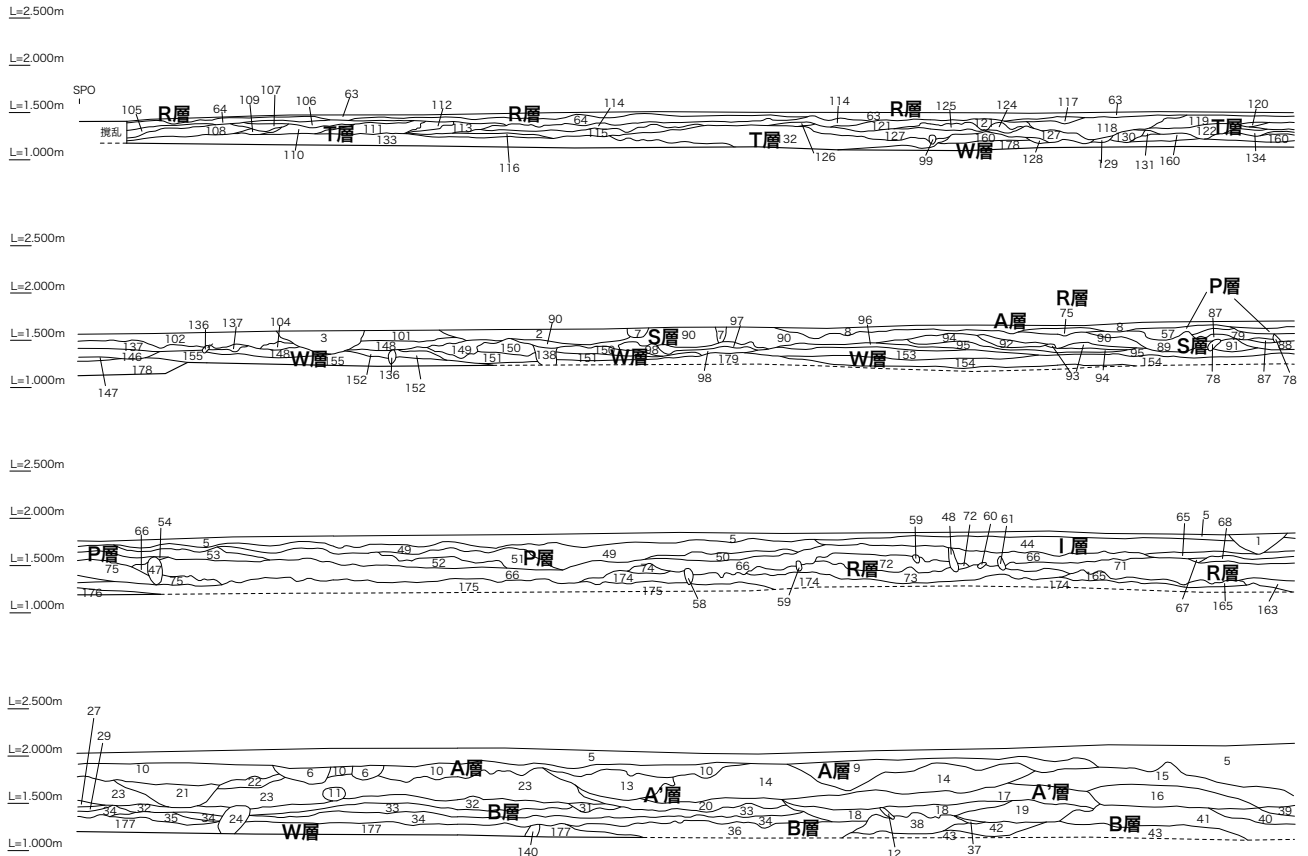
图 17 08Ab 区土层断面图 1【1:80】



- | | | | | | | | | | |
|----|----------|--------|-----------|---|----|----------|-----------|-----------|--|
| 1 | 7.5YR7/1 | 明褐色 | 粗粒砂 | (崩落) | 18 | 7.5YR6/2 | 灰褐色 | 粗粒砂 | |
| 2 | 7.5YR6/2 | 灰褐色 | 中粒砂~粗粒砂 | 10YR4/2灰黄褐色シルト質中粒砂ブロックを多く含む。貝殻片をごく少量含む。 | 19 | 10YR6/6 | 黄褐色 | 粗粒砂 | 7.5YR6/6橙色粗粒砂と互層 |
| 3 | 7.5YR6/3 | にぶい褐色 | シルト質中粒砂 | | 20 | 7.5YR5/6 | 褐色 | 粗粒砂 | |
| 4 | 7.5YR6/4 | にぶい褐色 | 中粒砂混じり粗粒砂 | | 21 | 7.5YR6/4 | にぶい褐色 | 粗粒砂 | |
| 5 | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | 中粒砂混じり粗粒砂 | 貝殻片含む。 | 22 | 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | 粗粒砂 | |
| 6 | 10YR7/6 | 明黄褐色 | 中粒砂 | 7.5YR4/6褐色中粒砂と互層 | 23 | 2.5YR4/3 | にぶい赤褐色粗粒砂 | | 炭化物をやや多く含む |
| 7 | 10Y8/1 | 灰白色 | 礫 | (道路舗装) | 24 | 5YR6/8 | 橙色 | 粗粒砂 | 10YR4/2灰黄褐色中粒砂と互層 |
| 8 | 7.5YR6/2 | 灰褐色 | 中粒砂~粗粒砂 | 10YR4/2灰黄褐色シルト質中粒砂と混濁。 | 25 | 10YR6/6 | 黄褐色 | 粗粒砂 | 貝殻片を含む |
| 9 | 7.5Y7/1 | 灰白色 | 中礫 | (道路舗装) | 26 | 7.5YR6/3 | にぶい褐色 | 中粒砂混じり粗粒砂 | 5Y6/2灰オリーブ色シルト質粗粒砂ブロックを含む |
| 10 | 10YR6/1 | 褐色 | 粗粒砂 | しまりはやや強い。(表土) | 27 | 10YR6/4 | にぶい黄褐色粗粒砂 | | 7.5Y8/1灰白色粘土などを斑状に含む。しまりは強い |
| 11 | 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | 中粒砂混じり粗粒砂 | 中礫を少し含む。 | 28 | 10YR6/4 | にぶい黄褐色粗粒砂 | | 7.5Y8/1灰白色粘土などを斑状に含む。しまりは強い |
| 12 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | シルト質粗粒砂 | 7.5YR3/1黒褐色シルト質中粒砂、7.5YR6/6橙色中粒砂を層状に含む | 29 | 10YR6/6 | 黄褐色 | 中粒砂~粗粒砂 | 5YR3/2暗赤褐色粗粒砂、7.5YR5/6明褐色粗粒砂と混濁 |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト質粗粒砂 | 細礫を多く含む | 30 | 7.5YR5/6 | 褐色 | 粗粒砂 | 5YR3/2暗赤褐色砂質シルト、5YR4/3にぶい赤褐色粗粒砂と互層、7.5YR3/1黒褐色粗粒砂と互層 |
| 14 | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | 粗粒砂 | | 31 | 5YR5/6 | 明赤褐色 | 粗粒砂 | 7.5YR4/3褐色シルト質粗粒砂、7.5YR3/1黒褐色シルト質粗粒砂と混濁 |
| 15 | 7.5YR6/3 | にぶい褐色 | 粗粒砂 | | 32 | 10YR3/6 | 褐色 | 粗粒砂 | 貝殻片をやや多く含む |
| 16 | 7.5YR5/3 | にぶい褐色 | 粗粒砂 | | 33 | 10YR3/6 | 褐色 | シルト質粗粒砂 | 貝殻片多く含む |
| 17 | 7.5YR7/1 | 明褐色 | 粗粒砂 | | 34 | 10YR4/6 | 黄褐色 | シルト質粗粒砂 | 貝殻片多く含む |

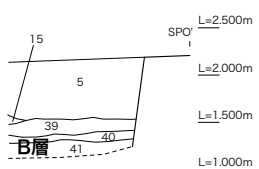
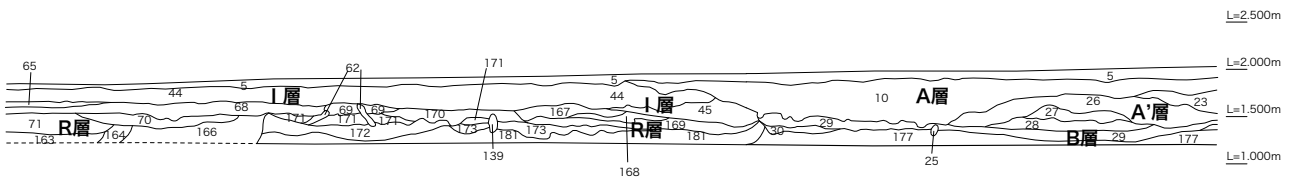
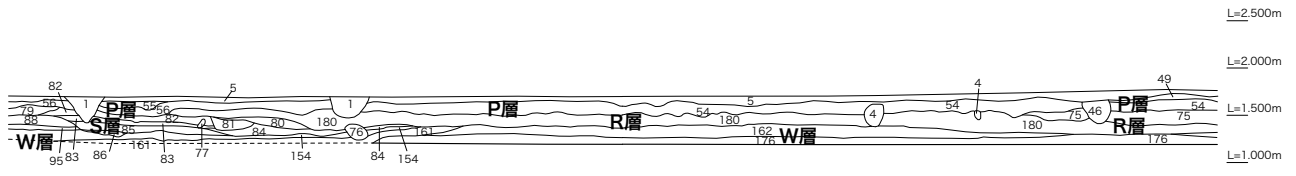
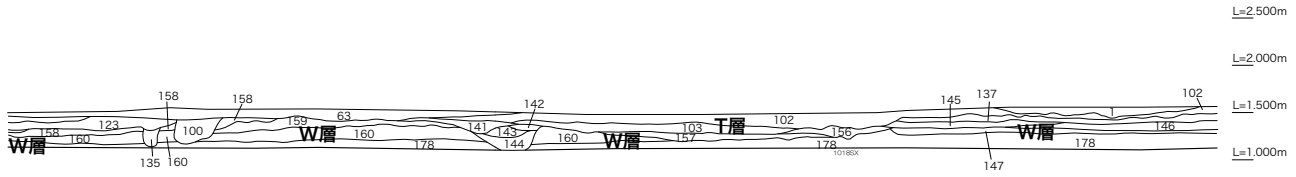
35	10YR5/3	にぶい黄褐色	粗粒砂			97	7.5YR5/6	明褐色	中粒砂	7.5YR4/4褐色中粒砂、2.5YR3/3暗赤褐色中粒砂と混濁。貝殻細片を含む	
36	10YR5/2	灰黄褐色	粗粒砂	焼土、炭化物、土器片を多く含む。しまりはやや強い		98	5YR4/4	にぶい赤褐色	中粒砂		
37	7.5YR6/4	にぶい褐色	粗粒砂	7.5Y8/1灰白色粘土などを斑状に含む。しまりは強い		99	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻片を少量含む	
38	10YR5/3	にぶい黄褐色	粗粒砂			100	2.5Y6/4	にぶい黄色	粗粒砂	貝殻細片をごく少量含む	
39	10YR5/2	灰黄褐色	粗粒砂	破砕欠：土器片、貝殻片を多く含む		101	2.5Y4/1	黄灰色	粗粒砂	貝殻、炭化物を多く含む。しまりは弱い	
40	10YR5/2	灰黄褐色	粗粒砂	破砕欠：土器片、貝殻片を多く含む		102	2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	炭化物、貝殻を多く含む。しまりはやや弱い	
41	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂	焼土、炭化物、土器片を多く含む。破砕欠を含む		103	2.5Y4/1	黄灰色	粗粒砂	貝殻を多く含む	
42	10YR6/2	灰黄褐色	粗粒砂	7.5Y8/1灰白色粘土などを斑状に含む。しまりは強い		104	V2層	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒砂	炭化物、焼土、土器片を多量に、貝殻を少量含む。しまりはやや強い
43	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂	焼土、炭化物、土器片を多く含む。しまりは弱い		105	V2層	2.5Y3/2	黒褐色	粗粒砂	炭化物を多く含む。しまりはやや弱い
44	10YR4/1	褐灰色	粗粒砂	焼土、炭化物、土器片を多く含む。しまりは弱い		106	10YR5/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	炭化物粒、ハマグリ貝殻を含む。しまりはやや弱い	
45	10YR5/2	灰黄褐色	粗粒砂	炭化物を多く含む。しまりはやや弱い		107	2.5Y5/2	暗灰黄色	粗粒砂	炭化物を多く、2.5Y7/4浅黄色粘土をブロック状に含む。しまりはやや弱い	
46	10YR7/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	2.5Y7/2浅黄色粘土を斑状に含む。しまりはやや強い		108	V2層	10YR6/2	灰黄褐色	粗粒砂	炭化物粒を多く含む。しまりは強い
47	10YR7/2	にぶい黄褐色	粗粒砂	2.5Y7/3浅黄色粘土を斑状に含む。しまりはやや強い		109	V2層	10YR5/2	灰黄褐色	粗粒砂	炭化物粒を多く含む。しまりはやや強い
48	2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂	しまりはやや弱い		110	V2層	10YR3/1	黒褐色	粗粒砂	炭化物、焼土、土器片を多量に含む。しまりはやや強い
49	5YR3/2	暗赤褐色	シルト質粗粒砂	5YR4/3にぶい赤褐色シルト質粗粒砂と混濁。炭化物を多く含む		111	V2層	2.5Y3/2	黒褐色	粗粒砂	炭化物、焼土、土器片を多量に含む。しまりはやや強い
50	7.5YR6/3	にぶい褐色	粗粒砂			112	V2層	2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂	炭化物粒を多く含む。しまりは弱い
51	10YR6/3	にぶい黄褐色	粗粒砂			113	V2層	10YR3/1	黒褐色	粗粒砂	炭化物、貝殻を多く含む。しまりは弱い
52	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂混じり粗粒砂			114	V2層	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒砂	炭化物、焼土、土器片を多量に含む。しまりは強い
53	Q層	7.5YR5/3	にぶい褐色	粗粒砂	ハマグリを主体とする貝層	115	V2層	7.5YR3/1	黒褐色	粗粒砂	炭化物、焼土、土器片を多量に含む。しまりはやや強い
54	7.5YR5/2	灰褐色	中粒砂～粗粒砂	10YR4/2灰黄褐色シルト質中粒砂ブロックを多く含む。貝殻片をごく少量含む		116	V2層	10YR3/1	黒褐色	粗粒砂	炭化物、焼土、土器片を多量に含む。しまりはやや強い
55	7.5YR5/2	灰褐色	中粒砂～粗粒砂	10YR4/2灰黄褐色シルト質中粒砂ブロックを多く含む。貝殻片を多く含む		117	V2層	10YR2/2	黒褐色	粗粒砂	炭化物、焼土、土器片を多量に含む。しまりはやや強い
56	7.5YR6/4	にぶい褐色	中粒砂～粗粒砂			118	V2層	10YR2/1	黒色	粗粒砂	炭化物、焼土、土器片を多量に含む。しまりは強い。下方は2.5Y6/3にぶい黄褐色粗粒砂を多く含む
57	B層	10YR5/6	黄褐色	中粒砂	7.5YR4/3褐色中粒砂と混濁	119	V2層	10YR2/2	黒褐色	粗粒砂	炭化物、焼土、土器片を多量に含む。しまりはやや強い
58	B層	5YR3/2	暗赤褐色	中粒砂	10YR5/4灰黄褐色中粒砂ブロック(径1cm以下)をやや多く含む	120	2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂		
59	B層	5YR4/4	にぶい赤褐色	中粒砂		121	V2層	10YR3/1	黒褐色	粗粒砂	炭化物、焼土、土器片を多量に含む。しまりはやや弱い
60	B層	7.5YR3/3	暗褐色	シルト質中粒砂	貝殻片を多く含む	122	V2層	2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	炭化物粒を多く含む。しまりは弱い
61	B層	5YR3/1	黒褐色	中粒砂混じり粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む。貝殻片をごく少量含む	123	V2層	5Y3/1	オリーブ黒色	粗粒砂	炭化物、焼土、土器片を多量に含む。しまりはやや弱い
62	W1層	7.5YR7/4	にぶい橙色	粗粒砂	7.5YR3/3暗褐色シルト質粗粒砂ブロックを多く含む。貝殻片を少量含む	124	V2層	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒砂	炭化物、焼土、土器片を多量に含む。しまりはやや強い
63	B'層	5YR4/3	にぶい赤褐色	中粒砂混じり粗粒砂	7.5YR5/3にぶい褐色中粒砂と混濁。貝殻片をごく少量含む	125	V2層	2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	炭化物粒を斑状に含む。しまりはやや弱い
64	5YR3/3	暗赤褐色	中粒砂混じり粗粒砂			126	V2層	7.5YR4/3	褐色	粗粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁
65	B'層	7.5YR3/3	暗褐色	中粒砂～粗粒砂	10YR7/2にぶい黄褐色中粒砂を混濁	127	O層	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質粗粒砂	貝殻片を多く含む
66	R層	10YR7/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR7/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁	128	7.5YR4/4	褐色	粗粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色中粒砂と混濁	
67	R層	10YR7/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR7/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁。貝殻片を少量含む	129	5YR4/4	にぶい赤褐色	粗粒砂	被熱による黄色硬化	
68	B層	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂	10YR7/4にぶい黄褐色粗粒砂ブロック。貝殻片を少量含む	130	5YR5/1	褐灰色	中粒砂		
69	B層	5YR3/2	暗赤褐色	粗粒砂	5YR3/3暗赤褐色粗粒砂と混濁。貝殻片を少量含む	131	5YR6/1	褐灰色	粗粒砂	貝殻片少し含む	
70	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	5YR2/2黒褐色シルト質極細砂ブロック(径3cm以下)を多く含む		132	7.5YR6/6	橙色	粗粒砂		
71	10YR7/4	にぶい黄褐色	粗粒砂			133	7.5YR6/4	にぶい褐色	粗粒砂		
72	R層	7.5YR6/2	灰褐色	中粒砂～粗粒砂	貝殻片をごく少量含む	134	10YR2/2	黒褐色	シルト質中粒砂	炭化物を多く、焼土片(径1cm以下)を少量含む。しまりはやや強い	
73	R層	10YR4/4	褐色	粗粒砂	10YR6/6粗粒砂ブロック(径2cm以下)を多く含む	135	O層	7.5YR2/1	黒色	シルト質中粒砂	ハマグリを主体とする貝層
74	W1層	7.5YR5/4	にぶい褐色	粗粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色粗粒砂、2.5Y6/3にぶい黄色粗粒砂と混濁	136	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻をやや多く含む	
75	W1層	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	2.5YR4/3にぶい赤褐色粗粒砂、10R3/1暗赤灰色粗粒砂と混濁	137	7.5YR4/6	褐色	中粒砂	貝殻片を少量含む	
76	W1層	7.5YR5/3	にぶい褐色	粗粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色粗粒砂、2.5Y6/3にぶい黄色粗粒砂と混濁	138	O層	7.5YR4/6	褐色	中粒砂	ハマグリを主体とする貝層
77	W1層	7.5YR7/4	にぶい橙色	粗粒砂	7.5YR3/3暗褐色シルト質粗粒砂ブロックをごく少量含む	139	10YR2/3	黒褐色	粗粒砂		
78	W1層	7.5YR7/4	にぶい褐色	粗粒砂		140	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻片をやや多く含む	
79	W1層	7.5YR6/3	にぶい褐色	中粒砂	10YR6/3にぶい黄褐色中粒砂と混濁。貝殻片を少量含む	141	2.5Y6/4	にぶい黄色	粗粒砂	貝殻片をやや多く含む	
80	W1層	7.5YR7/4	にぶい褐色	粗粒砂	7.5YR3/3暗褐色シルト質粗粒砂ブロック。貝殻片をごく少量含む	142	2.5Y6/4	にぶい黄色	粗粒砂		
81	W1層	7.5YR6/4	にぶい褐色	粗粒砂	貝殻片をごく少量含む	143	O層	7.5Y5/3	灰オリーブ色	粗粒砂	炭化物、貝殻片多く含む。しまりはやや強い
82	W1層	10YR7/4	にぶい黄褐色	粗粒砂		144	O層	10YR4/4	褐色	中粒砂	貝殻片をやや多く含む
83	W1層	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂混じり粗粒砂	10YR7/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁	145	O層	10YR4/4	褐色	中粒砂	ハマグリを主体とする貝殻を多く含む
84	5YR4/3	にぶい赤褐色	粗粒砂～極粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)。細礫を多く含む		146	O層	10YR4/4	褐色	中粒砂	2.5Y6/4にぶい黄色粗粒砂と混濁。ハマグリを主体とする貝殻細片を多く含む
85	5YR3/3	暗赤褐色	シルト質中粒砂	7.5YR3/3暗褐色中粒砂と混濁		147	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻片をごく少量含む	
86	7.5YR4/2	灰褐色	シルト質中粒砂	細礫を多く、貝殻片を少し含む		148	O層	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	7.5YR5/6明褐色中粒砂と混濁。ハマグリを主体とする貝殻片を多く含む
87	10YR3/2	黒褐色	シルト質粗粒砂	細礫を多く含む		149	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻片を少量含む	
88	7.5YR3/2	黒褐色	シルト質中粒砂	2.5Y6/3にぶい黄色極粗粒砂と混濁		150	5YR4/4	にぶい赤褐色	粗粒砂	2.5Y7/4浅黄色粗粒砂と混濁	
89	7.5YR4/2	灰褐色	シルト質粗粒砂	5YR4/4にぶい赤褐色粗粒砂と混濁。5YR4/2灰褐色シルト質粗粒砂ブロックを含む		151	7.5YR6/6	橙色	中粒砂～粗粒砂		
90	10YR2/2	黒褐色	シルト質粗粒砂	細礫を多く含む		152	2.5YR3/2	暗赤褐色	中粒砂	10YR7/6明褐色中粒砂ブロックと混濁	
91	7.5YR4/2	灰褐色	シルト質粗粒砂			153	7.5YR5/6	明褐色	中粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色中粒砂と混濁。貝殻細片、炭化物を少量含む	
92	7.5YR5/4	にぶい褐色	粗粒砂			154	10YR6/3	にぶい黄褐色	中粒砂	貝殻片をごく少量含む	
93	7.5YR4/4	褐色	粗粒砂			155	7.5YR6/3	にぶい褐色	中粒砂	10YR6/4中粒砂と混濁。ハマグリを主体とする貝殻、炭化物を少量含む	
94	2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂	炭化物粒を多く含む。しまりは弱い		156	7.5YR4/6	褐色	中粒砂	炭化物を含む	
95	10YR6/4	にぶい黄褐色	中粒砂	7.5YR4/3褐色中粒砂と混濁。5YR3/2暗赤褐色中粒砂ブロック(径1cm以下)をやや多く、炭化物を少量含む		157	7.5YR4/6	褐色	中粒砂	7.5YR3/2黒褐色中粒砂と混濁	
96	7.5YR6/3	にぶい褐色	中粒砂～粗粒砂	10YR7/4にぶい黄褐色中粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む		158	7.5YR5/6	明褐色	中粒砂～粗粒砂	貝殻片、炭化物を少量含む	
						159	7.5YR6/3	にぶい褐色	粗粒砂～極粗粒砂		

160	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂	貝殻片をごく少量含む	209	W2層	7.5YR4/3	褐色	極粗粒砂～細礫	10YR5/4にぶい黄褐色極粗粒砂ブロック(径1cm以下)を多く、貝殻片をごく少量含む	
161	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂	貝殻片をごく少量含む	210	W2層	7.5YR6/3	にぶい褐色	極粗粒砂～細礫	10YR5/4にぶい黄褐色極粗粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む	
162	10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂		211		7.5YR6/2	灰褐色	極粗粒砂～細礫		
163	10YR5/6	黄褐色	粗粒砂	貝殻片をごく少量含む	212		7.5YR5/4	にぶい褐色	粗粒砂	10YR7/4にぶい黄褐色極粗粒砂と混濁。	
164	10YR4/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻片、炭化物を少量含む	213		7.5YR7/3	にぶい橙色	粗粒砂		
165	5YR5/2	灰褐色	粗粒砂	貝殻片をごく少量含む	214		10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂	5YR4/3にぶい赤褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む	
166	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂～粗粒砂		215		7.5YR6/2	灰褐色	粗粒砂～極粗粒砂		
167	2.5Y6/4	にぶい黄色	粗粒砂	7.5YR4/4褐色中粒砂と混濁。貝殻片をごく少量含む	216		7.5YR5/4	にぶい褐色	中粒砂混じり粗粒砂	炭化物をごく少量含む。貝殻片を少量含む	
168	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻片をごく少量含む	217		7.5YR5/4	にぶい褐色	中粒砂混じり粗粒砂	炭化物をごく少量含む	
169	5YR4/2	灰褐色	粗粒砂	10YR3/4暗褐色中粒砂と混濁。貝殻片を少量含む	218		7.5YR6/4	にぶい褐色	中粒砂混じり粗粒砂	炭化物をごく少量含む	
170	10YR4/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	7.5YR5/6褐色中粒砂と混濁	219		2.5Y4/1	黄灰色	中粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色中粒砂ブロック(径2cm以下)、10YR3/1黒褐色中粒砂と混濁	
171	2.5YR4/4	にぶい赤褐色	中粒砂～粗粒砂	5Y4/4暗オリーブ色粘土ブロック。ハマグリを主体とする貝殻片を少量含む。しまりはやや強い	220		10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂		
172	10YR6/1	褐灰色	中粒砂	10R3/1暗赤灰色シルト質粗粒砂と互層。炭化物を多く含む。しまりはやや強い	221		10YR4/1	褐灰色	粗粒砂	2.5YR3/1暗赤灰色粗粒砂と混濁。炭化物を含む	
173	5YR4/2	灰褐色	粗粒砂	炭化物を多く含む。しまりはやや強い	222	W3層	7.5YR6/3	にぶい褐色	粗粒砂～極粗粒砂		
174	2.5Y7/3	浅黄色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁。炭化物を少量含む	223	W3層	7.5YR4/6	褐色	中粒砂		
175	7.5YR6/3	にぶい褐色	粗粒砂	2.5YR6/4にぶい黄色粗粒砂と混濁。炭化物を多く含む	224	W5層	7.5YR6/3	にぶい褐色	粗粒砂～極粗粒砂		
176	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	炭化物を少量含む	225	K層	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト質粗粒砂	炭化物、製塩土器片を多く含む。しまりはやや強い。(再堆積土)	
177	5YR4/2	灰褐色	粗粒砂	5Y7/3浅黄色粗粒砂ブロック(径2cm以下)を多く、炭化物粒を含む	226	W3層	10YR6/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	7.5YR5/6明褐色粗粒砂と混濁	
178	U層	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	5Y7/4浅黄色粘土を少量含む。貝殻片を少量含む	227		7.5YR6/2	灰褐色	中粒砂～粗粒砂	炭化物を多く含む
179	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻片をごく少量含む	228	W5層	7.5YR3/2	黒褐色	中粒砂	炭化物を多く含む	
180	U層	2.5Y6/4	にぶい黄色	粗粒砂		229	W4層	7.5YR5/6	明褐色	中粒砂	7.5YR3/3暗褐色シルト質中粒砂と互層
181	V1層	2.5Y3/1	黒褐色	粗粒砂	貝殻細片をごく少量、炭化物を含む。しまりはやや強い	230	W4層	2.5Y6/3	にぶい黄色		
182	U層	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻細片をごく少量含む	231	W4層	2.5Y7/3	浅黄色	粗粒砂	炭化物粒を少量含む。しまりは弱い
183	U層	2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	7.5YR4/2灰褐色粗粒砂と混濁	232		2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	貝殻片を少量含む
184	V1層	2.5Y6/4	にぶい黄色	粗粒砂	貝殻細片をごく少量含む	233	W4層	2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	炭化物粒、ハマグリを中心とする貝殻を少量含む
185	V1層	7.5YR5/4	にぶい褐色	粗粒砂	7.5YR4/3褐色粗粒砂と混濁。炭化物を含む。しまりはやや強い	234	W層	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	7.5YR5/6明褐色中粒砂と混濁
186	V1層	7.5YR6/3	にぶい褐色	中粒砂	7.5YR4/3褐色中粒砂と混濁。炭化物を少量含む	235		2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	桶生痕
187	V1層	7.5YR4/4	褐色	中粒砂～粗粒砂	7.5YR4/3褐色粗粒砂と混濁。炭化物を含む。しまりはやや強い	236	W4層	2.5Y6/4	にぶい黄色	粗粒砂	貝殻片を少量含む。しまりは弱い
188	U層	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻片を少量含む	237	W4層	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂	ハマグリ、ウミナを多く含む。しまりはやや強い
189		7.5YR4/3	褐色	中粒砂		238		2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	貝殻片を少量含む。しまりは弱い
190	5YR3/1	黒褐色	シルト質中粒砂	粗粒砂～細礫を多く含む	239		2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	貝殻片を少量含む。しまりは弱い	
191	10YR2/2	黒褐色	シルト質中粒砂	粗粒砂～細礫、製塩土器1類を多く含む	240		2.5Y5/2	暗灰黄色	粗粒砂	貝殻片を少量含む。しまりはやや強い	
192	7.5YR3/2	黒褐色	中粒砂混じり粗粒砂	7.5YR3/1黒褐色中粒砂、10YR6/6明黄褐色中粒砂と混濁。炭化物、製塩土器1類を多く含む。しまりはやや強い	241		7.5YR4/2	灰褐色	粗粒砂	沈鉢が帯状に広がる。しまりはやや弱い	
193	5YR3/1	黒褐色	中粒砂	7.5YR3/1黒褐色中粒砂、10YR6/6明黄褐色中粒砂と混濁。炭化物、製塩土器1類を多く含む。しまりはやや強い	242		2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂	しまりはやや弱い	
194	5YR3/1	黒褐色	シルト質中粒砂	炭化物、細礫、製塩土器1類を多く含む。貝殻片を少量含む。しまりはやや強い	243	W4層	2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂	極粗粒砂。貝殻片を少量含む。しまりはやや強い	
195	5YR3/2	暗赤褐色	シルト質粗粒砂	7.5YR3/2黒褐色粗粒砂と混濁。細礫、炭化物、製塩土器1類を多く含む。しまりはやや強い	244	W4層	2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	極粗粒砂を多く含む	
196	5YR4/4	にぶい赤褐色	粗粒砂	7.5YR6/4にぶい褐色粗粒砂と混濁	245	W6層	2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂	しまりはやや強い	
197	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト質中粒砂	5YR3/2暗赤褐色粗粒砂と互層。細礫を多く含む	246		7.5YR5/3	にぶい褐色	粗粒砂	貝殻片をごく少量含む	
198	5YR6/4	にぶい褐色	粗粒砂	5YR6/2灰褐色粗粒砂ブロック(径2cm以下)を含む	247		2.5Y6/4	にぶい黄色	粗粒砂	極粗粒砂を多く、沈鉢の黒斑を少量含む	
199	10YR6/4	にぶい黄褐色	中粒砂～粗粒砂	7.5YR4/4褐色中粒砂と混濁	248		2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	極粗粒砂を多く、沈鉢の黒斑を少し含む	
200	7.5YR5/2	灰褐色	粗粒砂	2.5Y6/2にぶい黄褐色粗粒砂ブロックを含む	249		2.5Y6/4	にぶい黄色	粗粒砂	極粗粒砂を多く、沈鉢の黒斑を少し含む	
201	7.5YR5/3	にぶい褐色	粗粒砂		250		2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂		
202	7.5YR5/4	にぶい褐色	粗粒砂		251		2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂	10YR7/3にぶい黄褐色粗粒砂と混濁	
203	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻細片をごく少量含む	252		2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	貝殻片を少量含む。しまりはやや強い	
204	7.5YR5/2	灰褐色	中粒砂混じり粗粒砂	7.5YR7/2明褐色粗粒砂を混濁	253		2.5Y5/2	暗灰黄色	粗粒砂	沈鉢の黒斑を少し含む。しまりはやや強い	
205	7.5YR5/3	にぶい褐色	中粒砂混じり粗粒砂	7.5YR7/2明褐色粗粒砂を混濁	254		2.5Y5/1	黄灰色	粗粒砂		
206	2.5Y4/1	黄灰色	極粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む	255		7.5YR6/2	灰褐色	粗粒砂	炭化物を少量含む	
207	10YR6/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む	256		2.5Y5/1	黄灰色	粗粒砂	炭化物を多く、焼土粒を少量含む	
208	W2層	7.5YR5/3	にぶい褐色	極粗粒砂～細礫	10YR5/4にぶい黄褐色極粗粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む	257	10YR2/1	黒色	シルト質粗粒砂	炭化物、焼土塊、製塩土器1類土器片を含む。しまりはやや強い	



1	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂	7.5YR5/4にふい褐色粗粒砂ブロック、中礫を多く含む。(攪乱)	29	B層	5YR3/3	暗赤褐色	粗粒砂	
2	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂	7.5YR5/6明褐色粗粒砂と混濁。中礫(径5cm以下)を多く、炭化物をやや多く含む。(攪乱)	30	B層	7.5YR5/6	明褐色	粗粒砂	5YR3/2暗赤褐色粗粒砂を層状(3cm厚以下)に多く含む
3	10YR6/3	にふい黄褐色	粗粒砂	10YR3/1黒褐色粗粒砂を層状に多く含む。(攪乱)	31	B層	2.5YR5/2	灰赤色	粗粒砂	
4	10YR5/1	褐灰色	粗粒砂	中礫を多く含む。(攪乱)	32	B層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂混じり粗粒砂	
5	10YR6/4	にふい黄褐色	粗粒砂	10YR3/1黒褐色シルト質粗粒砂ブロック(5cm以下)、中礫を多く、炭化物をやや多く含む。(攪乱)	33	B層	7.5YR4/4	褐色	中粒砂～粗粒砂	5Y7/4浅黄色粘土ブロック(径5mm以下)を少量含む
6	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂	7.5YR3/1黒褐色粗粒砂を層状(2cm厚以下)に少量含む。(攪乱)	34	B層	5YR3/2	暗赤褐色	粗粒砂	2.5Y7/4浅黄色中粒砂ブロック(径2cm以下)を少量含む
7	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂	中礫を多く含む。(攪乱)	35	B層	5YR3/2	暗赤褐色	粗粒砂	
8	A層	7.5YR4/1	褐灰色	中粒砂～粗粒砂	36	B層	10YR3/2	黒褐色	粗粒砂	5YR4/2灰褐色中粒砂と混濁
9	A層	10YR3/1	黒褐色	シルト質中粒砂	37	B層	10YR5/1	褐灰色	粗粒砂	10YR2/1黒褐色シルト質中粒砂と混濁
10	A層	2.5YR7/4	淡赤褐色	中粒砂～粗粒砂	38	B層	5YR2/2	黒褐色	シルト質中粒砂	10YR6/6黄褐色中粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む。部分的に7.5YR2/2黒褐色シルト混じり粗粒砂。小礫(径5mm以下)、赤色粒(径5mm以下)をやや多く含む
11	7.5YR3/3	暗褐色	中粒砂	10YR4/4褐色細粒砂と互層(3cm厚以下)。下方は7.5YR3/1黒褐色シルト混じり中粒砂。貝殻片をやや多く含む						
12	5YR2/2	黒褐色	中粒砂～粗粒砂	2.5Y6/1黄灰色中粒砂と混濁						
13	A層	10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂	39	B層	5YR4/2	灰褐色	シルト質粗粒砂	
14	A層	2.5Y4/1	黄灰色	シルト質中粒砂	40	B層	5YR3/2	暗赤褐色	シルト質粗粒砂	
15	A層	10YR6/8	明黄褐色	中粒砂～粗粒砂	41	B層	5YR2/2	黒褐色	シルト質粗粒砂	小礫(径1cm以下)を多く含む
16	A層	10YR5/1	褐灰色	中粒砂～粗粒砂	42	B層	10YR2/2	黒褐色	シルト質粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂を多く含む
17	A層	2.5Y5/1	黄灰色	中粒砂～粗粒砂	43	B層	10R3/1	暗赤灰色	粗粒砂～極粗粒砂	
18	A層	10YR5/6	黄褐色	粗粒砂	44	I層	7.5YR4/2	灰褐色	中粒砂～粗粒砂	2.5Y7/4浅黄色中粒砂、2.5Y5/3黄褐色極中粒砂と互層(5cm厚以下)
19	A層	10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂	45	I層	5YR4/3	にふい赤褐色	粗粒砂	10YR7/6明黄褐色粗粒砂を層状(3cm厚以下)にやや多く含む
20	A層	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂～粗粒砂	46		10YR5/1	褐灰色	粗粒砂	中礫を多く含む
21	A層	5YR4/3	にふい赤褐色	粗粒砂	47		10YR4/1	褐灰色	粗粒砂	中礫を多く含む
22	A層	10YR5/2	灰黄褐色	中粒砂～粗粒砂	48		5YR3/2	暗赤褐色	中粒砂	下方に10YR6/6明黄褐色中粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む。根生痕
23	A層	2.5Y6/3	にふい黄色	粗粒砂	49	P層	7.5YR4/4	褐色	シルト質粗粒砂	下方は7.5YR3/3暗褐色粗粒砂と互層
24		7.5YR3/3	暗褐色	粗粒砂	50	P層	5YR4/3	にふい赤褐色	中粒砂～粗粒砂	
25		7.5YR4/1	褐灰色	粗粒砂	51	P層	7.5YR4/3	褐色	中粒砂～粗粒砂	
26	A層	10YR4/3	にふい黄褐色	シルト質粗粒砂	52	P層	10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂～極粗粒砂	
27	A層	7.5YR6/8	橙色	粗粒砂	53	P層	10YR5/4	にふい黄褐色	中粒砂～粗粒砂	10YR6/6明黄褐色中粒砂ブロック(径2cm以下)を多く含む
28	A層	7.5YR5/3	にふい褐色	粗粒砂	54	P層	7.5YR3/2	黒褐色	シルト質粗粒砂	10YR5/4にふい黄褐色粗粒砂と混濁
					55	P層	7.5YR4/3	褐色	粗粒砂	中礫をやや多く含む

図 18 08Ab 区土層断面図 2【1:80】



56	P層	5YR4/3	にぶい赤褐色	シルト質粗粒砂		87	S層	7.5YR3/1	黒褐色	粗粒砂	10YR4/6褐色細粒砂を層状(1cm厚以下)に少量含む
57	P層	5YR4/4	にぶい赤褐色	粗粒砂		88	S層	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR3/1黒褐色粗粒砂、10YR6/6明黄褐色粗粒砂と混濁。しまりは弱い
58		7.5YR3/4	暗褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁。植生痕	89	S層	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR3/1黒褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を少量含む
59		5YR3/2	暗赤褐色	粗粒砂	下に10YR6/6明黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む。植生痕	90	S層	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂	2.5YR2/1赤黒色粗粒砂混じりシルトと混濁。炭化物を少量含む。しまりはやや弱い
60		2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁。植生痕	91	S層	2.5YR4/1	赤灰色	粗粒砂	10YR7/4にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を少量含む
61		2.5Y7/2	灰黄色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁。植生痕	92	S層	2.5YR2/1	赤黒色	中粒砂混じり粗粒砂	10YR4/4褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)をやや多く含む
62		7.5YR3/2	黒褐色	中粒砂～粗粒砂	植生痕	93	S層	7.5YR1.7/1	黒色	中粒砂混じり粗粒砂	7.5R4/3にぶい赤褐色粘土ブロック(径2cm以下)を層状に少量含む
63	R層	5YR5/4	にぶい赤褐色	中粒砂混じり粗粒砂	10YR6/1褐灰色シルト質極細砂と混濁。貝殻片、礫を少量含む	94	S層	5YR4/4	にぶい赤褐色	粗粒砂	
64	R層	7.5YR4/3	褐色	粗粒砂	7.5YR5/4にぶい褐色粗粒砂と混濁。ハマグリを主体とする貝殻片を少量含む	95	S層	7.5YR4/2	灰褐色	粗粒砂	焼土塊、炭化物を多く含む。しまりはやや弱い
65	R層	7.5YR4/4	褐色	中粒砂～粗粒砂	7.5YR5/4にぶい褐色粗粒砂と混濁。貝殻片を少量含む	96	S層	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	7.5YR3/2黒褐色細粒砂のラミを含む
66	R層	10YR5/2	灰黄褐色	粗粒砂～極粗粒砂	10YR4/1褐灰色粗粒砂と混濁	97	S層	10YR5/2	灰黄褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂(1cm厚以下)を層状にやや多く含む。10YR5/3にぶい黄褐色シルト質粗粒砂ブロック(径1cm以下)を少量含む
67	R層	7.5YR4/4	褐色	粗粒砂	2.5Y6/2灰黄色粘土ブロック(径3cm以下)を含む	98	S層	2.5Y6/4	にぶい黄色	粗粒砂	10YR4/4褐色粗粒砂ブロック(径5cm以下)を少量含む
68	R層	7.5YR4/4	褐色	粗粒砂	2.5Y6/2灰黄色粘土ブロック(径3cm以下)。炭化物を少量含む	99		7.5YR5/4	にぶい褐色	粗粒砂	植生痕
69	R層	2.5YR3/2	黒褐色	シルト質粗粒砂	10YR4/2灰黄褐色シルト質粗粒砂と混濁。しまりは強い	100		7.5YR4/4	褐色	粗粒砂	7.5R2/1赤黒色粘土ブロックを部分的に多く、中礫を多く含む
70	R層	5YR5/8	明赤褐色	粗粒砂	7.5YR4/2褐灰色粗粒砂、7.5YR4/4褐色粗粒砂と混濁。貝殻片、炭化物を少量含む	101	T層	10YR3/2	黒褐色	中粒砂混じり粗粒砂	炭化物を多く含む。しまりはやや強い
71	R層	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂～粗粒砂	7.5YR4/2灰褐色粗粒砂、7.5YR4/4褐色粗粒砂を層状(1cm厚以下)に多く含む。貝殻片、炭化物をごく少量含む	102	T層	10YR3/4	暗褐色	中粒砂～粗粒砂	7.5YR3/1黒褐色粗粒砂ブロック(径2cm以下)。貝殻片を部分的に多く含む。炭化物を多く含む。10YR5/6粗粒砂ブロック(径1cm以下)をごく少量含む。しまりはやや強い
72	R層	5YR3/3	暗赤褐色	中粒砂～粗粒砂	10YR6/6明黄褐色中粒砂を層状(1cm厚以下)に多く含む	103	T層	7.5YR4/2	灰褐色	粗粒砂	7.5YR3/1黒褐色粗粒砂ブロック(径2cm以下)を多く含む。中礫(径3cm以下)をごく少量。ハマグリを主体とする貝殻片を含む
73	R層	10YR6/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁	104	T層	2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	2.5Y7/3淡黄色粗粒砂混じりシルト(2cm厚以下)と互層
74	R層	10YR4/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	7.5YR4/4褐色粗粒砂と混濁	105	T層	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR3/3黒褐色粗粒砂ブロック(径5cm以下)を多く含む
75	R層	2.5YR6/2	灰赤色	粗粒砂	2.5Y5/1黄灰色粗粒砂と混濁	106	T層	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂と混濁。貝殻片を少量含む
76		2.5YR3/2	暗赤褐色	中粒砂混じり粗粒砂	炭化物を多く含む	107	T層	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁
77		5Y6/1	灰色	粗粒砂	植生痕	108	T層	7.5YR2/3	極暗褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁。炭化物、貝殻片を少量含む
78		2.5YR2/1	赤黒色	粗粒砂～極粗粒砂	植生痕	109	T層	10YR3/2	黒褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁
79	S層	5YR3/1	黒褐色	粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂と混濁。炭化物を多く含む。しまりはやや強い	110	T層	7.5YR3/3	暗褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂。貝殻片をごく少量含む
80	S19層	2.5YR3/2	暗赤褐色	粗粒砂	2.5Y2/1赤黒色粘土ブロック(径1cm以下)を少量含む。しまりはやや強い	111	T層	7.5YR3/1	黒褐色	粗粒砂	10YR7/6明黄褐色粗粒砂と混濁。焼土塊、貝殻片を少量。5Y6/2灰オリーブ粘土ブロック。炭化物を含む
81	S層	2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂を層状(1cm厚以下)にやや多く含む	112	T層	7.5YR4/2	灰褐色	粗粒砂	10YR7/6明黄褐色粗粒砂と混濁
82	S層	2.5YR3/1	暗赤灰色	粗粒砂	5YR3/3暗赤褐色粗粒砂と混濁。製塩土器片、焼土塊、炭化物を多く含む。しまりはやや強い	113	T層	7.5YR3/1	黒褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁
83	S層	10R3/2	暗赤褐色	中粒砂混じり粗粒砂	10R2/2極暗赤褐色粘土ブロック(径1cm以下)をやや多く、製塩土器片、焼土塊、炭化物を多く含む	114	T層	7.5YR5/3	にぶい褐色	中粒砂～粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂ブロック(径3cm以下)を多く含む
84	S20層	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色粗粒砂、7.5YR4/2灰褐色粗粒砂と混濁。炭化物を多く含む。しまりはやや強い	115	T層	7.5YR5/4	にぶい褐色	中粒砂～粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂ブロック(径3cm以下)を少量含む
85	S層	10R5/4	赤褐色	粗粒砂混じり極細粒砂	7.5YR3/1粗粒砂混じりシルトと混濁。製塩土器片、焼土塊、炭化物を多く含む	116	T層	5YR4/2	灰褐色	中粒砂～粗粒砂	10YR6/6明黄褐色中粒砂粗粒砂ブロック(径3cm以下)を少量。貝殻片を多く含む
86	S層	5Y5/1	灰色	中粒砂～粗粒砂	2.5Y5/4黄褐色粗粒砂と混濁。炭化物を含む。しまりはやや強い	117	T層	7.5YR3/2	黒褐色	中粒砂混じり粗粒砂	10YR7/4にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を少量含む
						118	T層	7.5YR4/2	灰褐色	中粒砂	10YR6/6明黄褐色中粒砂と混濁。貝殻片を多く含む
						119	T層	7.5YR5/4	にぶい褐色	中粒砂～粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂、10YR5/2灰黄褐色粗粒砂と混濁
						120	T層	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂～粗粒砂	10YR3/4暗褐色粘土ブロック(径2cm以下)を少量含む
						121	T層	7.5YR5/3	にぶい褐色	粗粒砂	貝殻片をごく少量含む

122	T層	10YR5/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR3/4暗褐色粘土ブロック(径2cm以下)を少量含む	152	W層	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂～粗粒砂	
123	T層	10YR4/6	褐色	粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂と混濁。10YR3/4暗褐色粘土ブロック(径2cm以下)を少量含む	153	W層	5YR4/3	にぶい赤褐色	粗粒砂	2.5Y7/3浅黄色粗粒砂と混濁
124	T層	10YR6/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR3/1黒褐色粘土ブロック(径2cm以下)を多く、10YR5/3にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径3cm以下)をやや多く含む	154	W層	5YR5/3	にぶい赤褐色	粗粒砂	ハマグリを主体とする貝殻。炭化物を少量含む
125	T層	10YR5/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻片をごく少量含む	155	W層	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	
126	T層	7.5YR5/3	にぶい褐色	中粒砂～粗粒砂	5YR3/2暗赤褐色粗粒砂ブロックをやや多く含む	156	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂混じり粗粒砂	10YR7/6明黄褐色粗粒砂ブロック(径2cm以下)を多く、貝殻片を少量含む。	
127	T層	10YR5/2	灰黄褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁。10YR8/6黄褐色粘土ブロック(径2cm以下)。炭化物を少量含む。しまりはやや強い	157	W層	10YR3/3	暗褐色	中粒砂混じり粗粒砂	10YR7/6明黄褐色粗粒砂ブロック(径2cm以下)を多く、炭化物、貝殻片を少量含む。
128	T層	10YR6/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂と混濁	158	W層	2.5Y6/1	黄灰色	粗粒砂	10YR5/3にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径5cm以下)を少量含む
129	T層	7.5YR4/2	灰褐色	粗粒砂	7.5YR2/2黒褐色粗粒砂混じりシルトブロックを多く含む	159	W層	7.5YR6/4	にぶい褐色	粗粒砂	2.5Y6/1黄灰色粗粒砂。10YR7/6明黄褐色粗粒砂と混濁
130	T層	10YR5/2	灰黄褐色	中粒砂～粗粒砂	7.5YR6/6橙色中粒砂と混濁	160	W層	2.5Y6/1	黄灰色	粗粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色粗粒砂が部分的に混濁
131	T層	10YR6/4	にぶい黄褐色	中粒砂～粗粒砂		161	W層	5YR4/2	灰褐色	粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂を層状(5mm厚以下)に多く含む
132	T層	7.5YR5/2	灰褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁。7.5YR4/2褐色粘土ブロックを少量。炭化物、貝殻片をごく少量含む。しまりはやや強い	162	W層	10YR5/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	
133	T層	7.5YR6/4	にぶい褐色	粗粒砂	貝殻片をごく少量含む	163	R層	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂	部分的に7.5YR4/3粗粒砂を多く、2.5Y7/3浅黄色粗粒砂ブロックを少量含む
134	T層	2.5Y6/1	黄灰色	粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂と混濁。7.5YR2/2黒褐色粘土ブロックを少量含む	164	R層	7.5YR4/3	褐色	粗粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁
135	10YR5/2	灰黄褐色	粗粒砂	2.5Y6/1黄灰色粗粒砂。10YR7/6明黄褐色粗粒砂と混濁	165	W層	2.5Y7/4	浅黄色	中粒砂	10YR4/2灰黄褐色中粒砂ブロック(径3cm以下)を少量含む	
136	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	植生痕	166	R層	7.5YR4/2	灰褐色	粗粒砂	5YR5/6明褐色粗粒砂と混濁。炭化物、貝殻片をごく少量含む	
137	W層	7.5YR5/4	にぶい褐色	粗粒砂	10YR3/2黒褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を少量含む	167	R層	7.5YR4/2	灰褐色	粗粒砂	7.5YR3/1黒褐色中粒砂。7.5YR5/6明褐色中粒砂を層状(2cm厚以下)にやや多く、5Y7/2灰白色粘土ブロック(1cm以下)、赤色粒を少量含む
138	10YR4/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	7.5YR3/3暗褐色粗粒砂と混濁。炭化物をやや多く、ハマグリを主体とする貝殻片をごく少量含む	168	R層	5YR3/2	暗赤褐色	粗粒砂	5YR4/3にぶい赤褐色粗粒砂(径1cm以下)を少量含む	
139	5YR3/4	暗赤褐色	粗粒砂	下半は2.5YR3/2暗赤褐色粗粒砂。植生痕	169	R層	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR3/2黒褐色中粒砂と混濁	
140	10YR3/1	黒褐色	中粒砂～粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁。植生痕	170	R層	7.5YR5/3	にぶい褐色	粗粒砂	北に向かって5YR4/3褐色粗粒砂に漸移	
141	10YR5/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁	171	R層	5YR5/8	明赤褐色	粗粒砂	7.5YR4/2灰褐色粗粒砂。7.5YR4/4褐色粗粒砂と混濁。貝殻片、炭化物をごく少量含む	
142	7.5YR5/4	にぶい褐色	粗粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁	172	R層	7.5YR4/3	褐色	粗粒砂	10YR7/6明黄褐色粗粒砂ブロック(径5cm以下)を多く、10YR3/1黒褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)をやや多く含む	
143	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁	173	R層	2.5Y3/2	黒褐色	粗粒砂	10YR7/6明黄褐色粗粒砂と混濁	
144	10YR4/4	褐色	粗粒砂	2.5Y6/1黄灰色粗粒砂と混濁	174	W層	7.5YR6/3	にぶい褐色	粗粒砂		
145	W層	10YR5/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	2.5Y6/1黄灰色粗粒砂と混濁	175	W3層	10YR5/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	
146	W層	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	2.5Y6/1黄灰色粗粒砂と混濁。炭化物を少量含む	176	7.5YR4/2	灰褐色	粗粒砂		
147	W層	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR3/4暗褐色粗粒砂と混濁。炭化物を少量含む	177	W層	10YR5/2	灰黄褐色	粗粒砂	
148	W層	7.5YR5/4	にぶい褐色	粗粒砂	2.5Y6/3にぶい黄色粗粒砂(2cm厚以下)と互層	178	W層	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	2.5Y6/1黄灰色粗粒砂と混濁
149	S層	7.5YR3/1	黒褐色	シルト質粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂と混濁。炭化物を多く含む	179	W層	10YR7/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	ハマグリを主体とする貝殻を多く、炭化物、遺物を少量含む
150	W層	10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂	2.5Y7/3浅黄色粗粒砂と混濁	180	R層	10YR6/2	灰黄褐色	粗粒砂	炭化物を少量含む。しまりはやや弱い
151	W層	10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂	2.5Y5/2暗灰黄色粗粒砂と混濁	181	R層	7.5YR5/3	にぶい褐色	粗粒砂	10YR7/6明黄褐色粗粒砂ブロック(径5cm以下)を多く含む

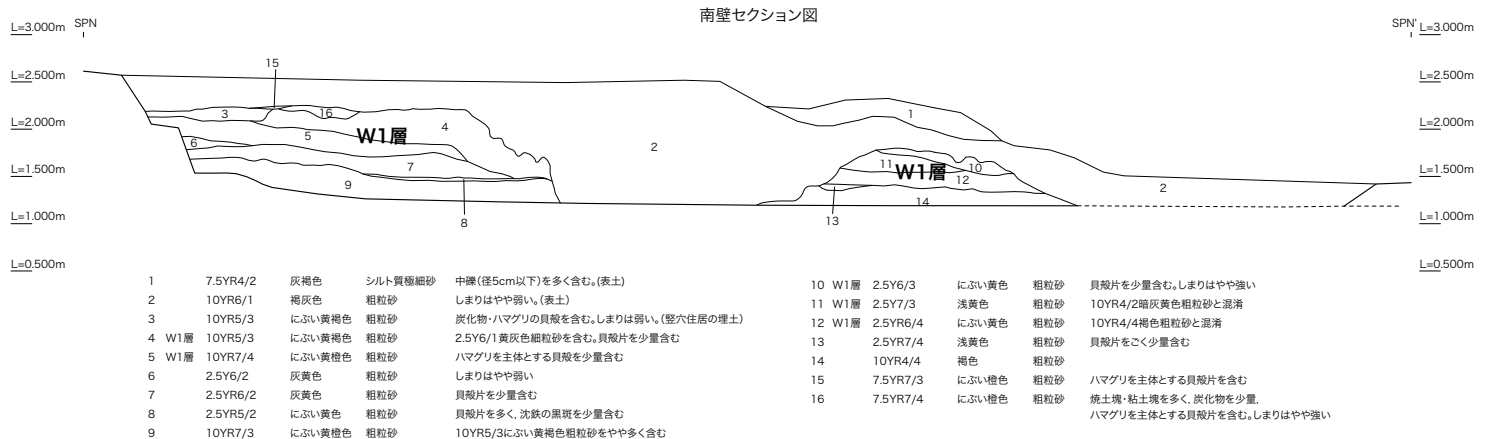
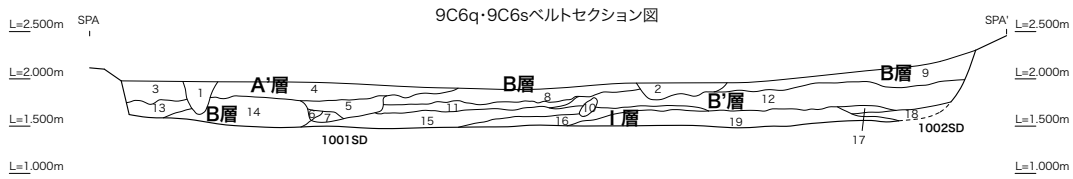
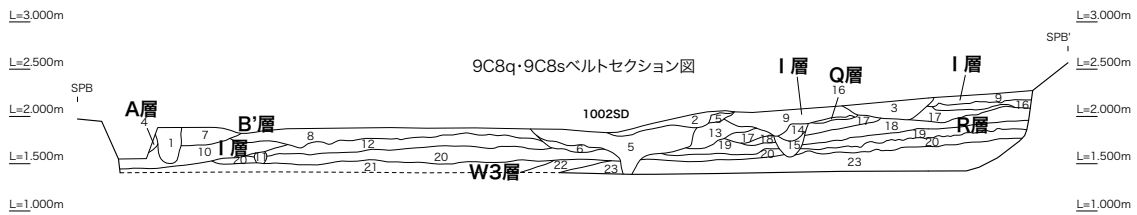


図 19 08Ab 区土層断面図 3【1:80】

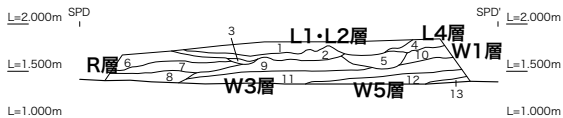


1	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂	礫(径1~5cm)を多く含む。(攪乱)	11	B層	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	製塩土器片(径1cm)を極少量含む
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	(鉄道敷設に伴う溝)	12	B層	10YR3/2	黒褐色	粗粒砂まじり中粒砂	製塩土器片(径5mm)を若干含む
3	A'層 2.5Y6/3	にぶい黄色	中粒砂まじり粗粒砂	上から8cmまで10YR4/2灰黄褐色中粒砂との互層 下部は10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂。 10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂との互層	13	B層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	
4	A'層 10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂まじり粗粒砂		14	B層	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	
5	10YR4/4	褐色	中粒砂		15	I層	10YR2/3	黒褐色	中粒砂	製塩土器片(径5~7mm)を若干含む
6	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂		16	I層	2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂	
7	10YR3/2	黒褐色	粗粒砂		17	10YR3/3	暗褐色	中粒砂		
8	B層 10YR3/4	暗褐色	中粒砂	製塩土器片(径1cm)をやや多く含む	18	10YR3/1	黒褐色	シルトまじり中粒砂	製塩土器片(径5mm)を極少量含む	
9	B層 10YR3/4	暗褐色	中粒砂	製塩土器片(径5~7mm)を若干含む	19	I層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒砂	西端に2.5Y4/2暗黄褐色粗粒砂あり
10	B層 10YR3/2	黒褐色	粗粒砂							

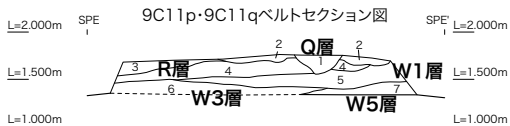


1	7.5YR3/2	暗褐色	中粒砂	円礫(径5cm以下)を多く含む。(攪乱)	13	I層	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂	ハマグリを主体とする貝殻を非常に多く含む
2	7.5YR3/2	暗褐色	シルト質中粒砂	7.5YR4/4褐色中粒砂と混濁。(攪乱溝)	14	10YR4/6	褐色	粗粒砂		
3	7.5YR2/2	暗褐色	シルト質中粒砂	細礫(径5mm以下)を少量。土器片をごく少量含む	15	10YR4/6	褐色	粗粒砂		
4	A層 7.5YR2/2	暗褐色	中粒砂	7.5YR3/2黒褐色中粒砂と混濁	16	Q層 5YR3/3	暗赤褐色	中粒砂	貝殻を非常に多く含む	
5	7.5YR4/2	褐色	中粒砂~粗粒砂	10YR3/4暗褐色シルト質中粒砂。10YR4/6褐色粗粒砂と混濁。	17	R層 10YR4/6	褐色	粗粒砂	7.5YR4/6褐色粗粒砂と混濁	
6	7.5YR3/2	暗褐色	中粒砂~粗粒砂	径2cm以下の礫を多く含む	18	R層 10YR5/6	褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁	
7	B層 10YR3/2	暗褐色	中粒砂~粗粒砂	細礫(径5mm以下)を少量含む	19	R層 10YR4/4	褐色	粗粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁	
8	B層 10YR3/2	暗褐色	中粒砂~粗粒砂	製塩土器細片を多く含む	20	R層 10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂~極粗粒砂		
9	I層 10YR3/2	暗褐色	粗粒砂	貝殻細片を多く含む	21	W3層 5YR3/3	暗赤褐色	粗粒砂~極粗粒砂		
10	I層 7.5YR3/2	暗褐色	中粒砂	7.5YR3/4暗褐色中粒砂と混濁	22	W3層 10YR5/2	灰黄褐色	粗粒砂~極粗粒砂		
11	5YR3/3	暗赤褐色	中粒砂	7.5YR4/4褐色中粒砂と混濁。(植生痕)	23	2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂~極粗粒砂	7.5YR4/4褐色粗粒砂と混濁	
12	I層 10YR4/2	褐色	中粒砂~粗粒砂	10YR6/4にぶい黄褐色中粒砂と混濁						

9C10p・9C10qベルトセクション図



1	L1・L2層 5YR3/2	暗赤褐色	中粒砂	ハマグリを主体とする貝殻を多量に。炭化物を少量含む。しまりは強い
2	L4層 7.5YR3/2	黒褐色	中粒砂	10YR4/6褐色中粒砂ブロック(径2cm以下)を少量含む。しまりはやや強い
3	L4層 10YR3/2	黒褐色	中粒砂	7.5YR3/2黒褐色中粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む
4	L4層 10YR3/3	暗褐色	中粒砂	7.5YR3/4暗褐色中粒砂を多く含む。しまりは強い
5	L4層 10YR4/6	褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁
6	R層 7.5YR4/4	褐色	中粒砂	10YR4/4褐色粗粒砂と混濁
7	R層 10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	7.5YR4/3褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を少量含む
8	R層 10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	7.5YR4/3褐色粗粒砂と混濁。貝殻片を少量含む
9	W1層 7.5YR4/3	褐色	粗粒砂	7.5YR3/2黒褐色粗粒砂ブロック(径2cm以下)をやや多く。貝殻片を少量含む
10	W1層 7.5YR4/3	褐色	粗粒砂	10YR5/6黄褐色粗粒砂と混濁。貝殻片を少量含む
11	W3層 10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	7.5YR4/3褐色粗粒砂と混濁
12	W5層 2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂	
13	W5層 10YR7/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	



1	Q層 10YR4/4	褐色	中粒砂	10YR3/3暗褐色中粒砂と混濁。ハマグリを主体とする貝殻を多量に含む
2	Q層 10YR4/6	褐色	中粒砂	10YR3/4暗褐色中粒砂(径1cm以下)をやや多く含む。 ハマグリを主体とする貝殻を多量に含む
3	R層 7.5YR4/4	褐色	粗粒砂	7.5YR3/3暗褐色粗粒砂と混濁
4	R層 7.5YR7/6	明黄褐色	粗粒砂	2.5YR7/4浅黄褐色粗粒砂。貝殻片を少量含む
5	W1層 2.5Y7/4	浅黄色	粗粒砂	貝殻片をごく少量含む
6	W3層 10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻片をごく少量含む
7	W5層 7.5YR5/4	にぶい褐色	粗粒砂	

図 20 08Ab 区土層断面図 4【1:80】

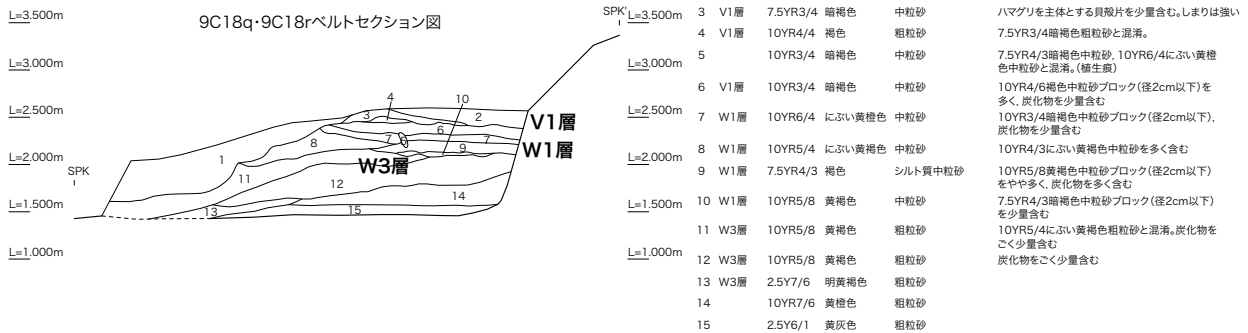
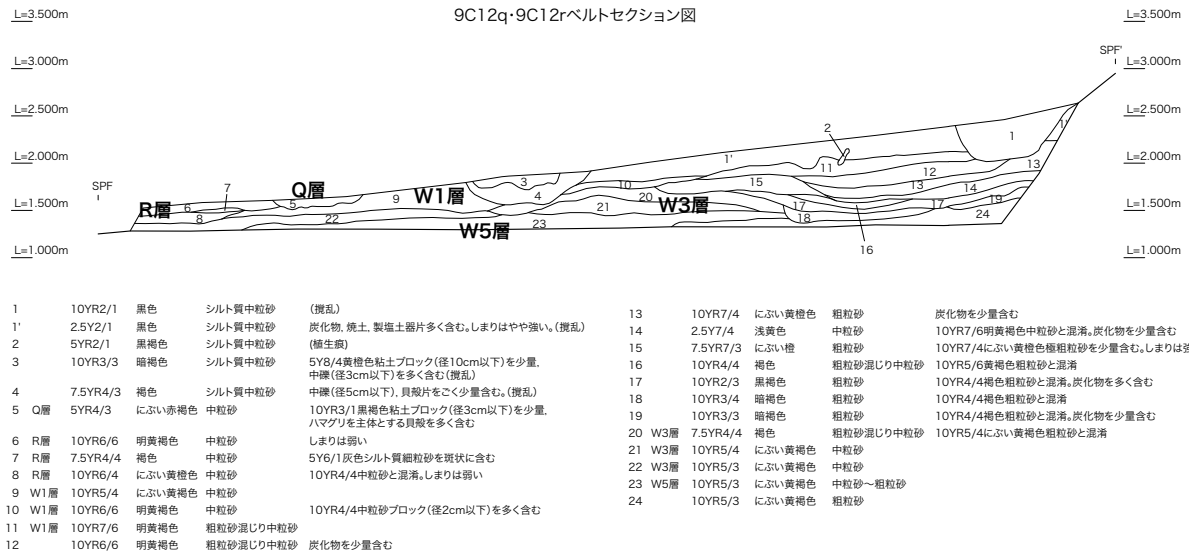
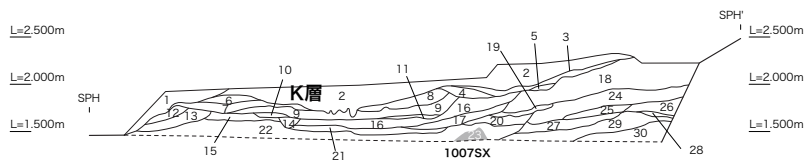


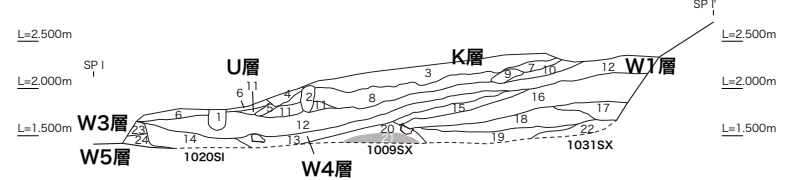
図 21 08Ab 区土層断面図 5【1:80】

9C15q・9C15rベルトセクション図



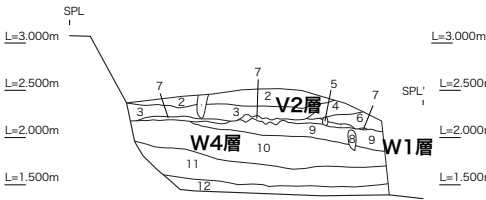
1	K層	10YR3/2	黒褐色	シルト質中粒砂	10YR3/2黒褐色シルト質極細砂、10YR7/4にふい黄褐色極細砂と混濁。しまりはやや強い	15	7.5YR4/3	褐色	中粒砂	10YR5/3にふい黄褐色中粒砂と混濁、5Y7/4浅黄色粘土ブロック(径1cm以下)を少量含む
2	K層	7.5YR6/6	橙色	シルト質中粒砂	10YR4/2灰黄褐色シルト質極細砂と混濁。炭化物を多く含む。しまりはやや強い	16	10YR6/6	明黄褐色	中粒砂	7.5YR4/4褐色中粒砂と混濁。炭化物をごく少量含む
3		10YR5/3	にふい黄褐色	中粒砂	貝殻片を少量含む	17	10YR4/4	褐色	中粒砂	10YR4/3褐色中粒砂と混濁
4		10YR6/6	明黄褐色	中粒砂	2.5Y4/6オリーブ褐色中粒砂と混濁。ハマグリを主体とする貝殻を多く含む	18	10YR5/4	にふい黄褐色	中粒砂	ハマグリ貝殻を多く、炭化物をやや多く含む
5		10YR6/4	にふい黄褐色	中粒砂		19	10YR4/6	褐色	中粒砂	5Y7/4浅黄色粘土ブロック(径5cm以下)を多く、炭化物を少量含む
6		10YR7/4	にふい黄褐色	細粒砂混じり中粒砂		20	10YR4/4	褐色	中粒砂	炭化物を少量含む
7		10YR5/6	黄褐色	中粒砂	10YR4/3褐色中粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む	21	10YR4/4	褐色	中粒砂	
8		5YR5/4	にふい黄褐色	中粒砂	貝殻をやや多く含む	22	10YR4/6	褐色	中粒砂～粗粒砂	炭化物を少量含む
9		10YR6/4	にふい黄褐色	中粒砂	7.5YR4/4褐色中粒砂ブロック(径3cm以下)を多く含む	23	5Y7/4	浅黄色	粘土	
10		10YR6/4	にふい黄褐色	中粒砂	10YR6/6明黄褐色中粒砂ブロック(径1cm以下)を少量含む	24	10YR5/4	にふい黄褐色	中粒砂	ハマグリ貝殻を少量、炭化物をごく少量含む
11		10YR5/4	にふい黄褐色	中粒砂	炭化物を少量含む	25	10YR4/4	褐色	中粒砂	10YR3/3暗褐色中粒砂を少量含む
12		10YR6/6	明黄褐色	中粒砂	10YR4/4褐色中粒砂と混濁	26	7.5YR4/2	灰褐色	粗粒砂	ハマグリ貝殻、炭化物を少量含む
13		10YR4/6	褐色	中粒砂		27	10YR3/4	暗褐色	中粒砂	10YR5/4にふい黄褐色中粒砂と混濁、2.5YR5/8明褐色粘土ブロック(径1cm以下)を少量含む
14		10YR4/4	褐色	中粒砂		28	7.5YR3/4	暗褐色	細粒砂混じり中粒砂	
						29	10YR5/4	にふい黄褐色	中粒砂	炭化物をやや多く含む
						30	7.5YR2/2	黒褐色	細粒砂混じり中粒砂	炭化物、製塩土器片を多く含む。しまりは弱い。

9C16q・9C16rベルトセクション図



1		7.5YR3/2	黒褐色	中粒砂	円礫(径5cm以下)を大量に含む。(攪乱)	13	W4層	5YR3/6	暗赤褐色	中粒砂	7.5YR5/6明褐色中粒砂と混濁。ハマグリ、マテガイを主体とする貝殻を多く含む
2		5YR4/4	褐色	中粒砂	7.5YR5/6明褐色シルト質中粒砂、10YR6/6粗粒砂を多く、貝殻片を少量含む。(攪乱)	14		2.5YR3/2	暗赤褐色	シルト質中粒砂	小礫(径5mm以下)を多く含む
3	K層	7.5YR3/3	暗褐色	シルト質中粒砂	7.5YR5/6明褐色シルト質中粒砂、炭化物、小礫(径5mm以下)を多く含む。	15		7.5YR5/4	にふい褐色	中～粗粒砂	5YR4/4にふい赤褐色中粒砂を少量、炭化物をごく少量含む
4		10YR4/4	褐色	中粒砂	5YR4/4にふい赤褐色中粒砂、10YR6/6明黄褐色中粒砂と混濁。貝殻片を少量含む	16		10YR6/6	明黄褐色	中粒砂	～7.5YR5/6明褐色中粒砂に漸移
5		10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂	7.5YR4/1褐灰色シルト質中粒砂を多く含む	17		7.5YR4/6	褐色	中粒砂	10YR6/6明黄褐色中粒砂と混濁、5Y7/4浅黄色粘土ブロック(径20cm)を含む
6		10YR4/4	褐色	中粒砂		18		7.5YR5/6	明褐色	細粒砂～中粒砂	10YR6/6明黄褐色中粒砂と混濁。炭化物をごく少量含む。東端に7.5YR6/8橙色シルト(黄土)を多く含む
7		10YR6/6	明黄褐色	中粒砂		19		10YR6/4	にふい黄褐色	中粒砂	5YR4/4赤褐色中粒砂を多く含む
8		5YR4/4	にふい赤褐色	中粒砂	10YR6/6明黄褐色中粒砂と混濁。マテガイ貝殻片、炭化物をやや多く含む	20		10YR6/6	明黄褐色	中粒砂	5Y7/4浅黄色粘土ブロック(径1cm以下)をごく少量含む
9		5Y7/4	浅黄色	粘土	均質な粘土。しまりは強い。貝殻片を少量含む	21		5Y7/4	浅黄色	粘土	均質な粘土。しまりは強い
10		7.5YR4/4	褐色	シルト質中粒砂	10YR4/3にふい黄褐色シルト質中粒砂と混濁。貝殻片を多く含む	22		5YR3/1	黒褐色	シルト質中粒砂	炭化物、製塩土器片を多く含む。しまりは強い
11	U層	10YR6/6	明黄褐色	中粒砂	7.5YR4/4褐色中粒砂ブロック(径1cm以下)を少量含む	23	W3層	10YR7/4	にふい黄褐色	粗粒砂	
12	W1層	7.5YR5/6	明褐色	中粒砂	10YR6/2灰黄褐色中粒砂と混濁。マテガイ貝殻を多く含む。炭化物をごく少量含む	24	W5層	2.5Y6/1	黄灰色	中粒砂	

9C19r・9C19qベルトセクション図



1		10YR4/4	褐色	シルト質粗粒砂	10YR3/4褐色シルト質粗粒砂、10YR5/8黄褐色粗粒砂と混濁。小礫(径5mm以下)を少量含む。(植生痕)
2	V2層	10YR4/4	褐色	シルト質粗粒砂	10YR3/4褐色シルト質粗粒砂と混濁。小礫(径5mm以下)、炭化物を多く、貝殻片、炭化物を少量含む。しまりは強い
3	V2層	2.5YR3/3	暗オリーブ褐色	シルト質粗粒砂	10YR4/4褐色シルト質粗粒砂と混濁。小礫(径5mm以下)、炭化物を多く、貝殻片を少量含む。しまりは強い
4	V2層	10YR3/4	暗褐色	シルト質中粒砂	10YR4/4褐色シルト質粗粒砂と混濁。小礫(径3mm以下)を多く、炭化物を多く含む
5		10YR3/4	暗褐色	シルト質中粒砂	(植生痕)
6	V2層	10YR3/4	暗褐色	シルト質中粒砂	10YR4/4褐色シルト質中粒砂と混濁。小礫(径5mm以下)、炭化物を多く含む。しまりは強い
7	V2層	10YR5/8	黄褐色	中粒砂	7.5YR4/3暗褐色中粒砂ブロック(径2cm以下)を少量含む。しまりはやや強い
8		10YR5/8	黄褐色	中粒砂	7.5YR3/4暗褐色中粒砂と混濁。(植生痕)
9	W1層	10YR5/8	黄褐色	中粒砂	10YR5/4にふい黄褐色中粒砂と混濁。炭化物を少量含む
10	W4層	10YR5/8	黄褐色	中粒砂	炭化物をごく少量。ウミナなど巻貝を主体とする貝殻を多く、獸骨片含む
11		2.5Y7/6	明黄褐色	中粒砂	
12		10YR7/6	黄褐色	中粒砂	

9C17o・9C17qベルトセクション図



1		10YR4/3	にふい黄褐色	粗粒砂	
2		7.5YR4/1	褐灰色	粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂と混濁
3		10YR2/1	黒色	シルト質粗粒砂	炭化物、焼土を多く含む。しまりは強い
4		10YR7/4	にふい黄褐色	粗粒砂	遺物、炭化物が少量の間層。しまりは弱い
5	S1層	7.5YR3/2	黒褐色	シルト質粗粒砂	炭化物、焼土、製塩土器片を多く含む。しまりは強い
6		5YR2/1	黒褐色	シルト質粗粒砂	7.5YR3/2黒褐色粗粒砂混じりシルトブロック(径1cm以下)を多く、炭化物を少量含む
7		10R1.7/1	赤黒色	シルト質粗粒砂	2.5YR3/2暗赤褐色シルト質粗粒砂を層状(1cm厚以下)に多く含む
8	T層	10YR3/4	暗褐色	中粒砂	5Y7/4浅黄色粘土ブロック(径1cm以下)をやや多く含む
9	T層	10YR3/4	暗褐色	中粒砂	
10	T層	10YR3/4	暗褐色	粗粒砂	10YR6/6明黄褐色粗粒砂と混濁
11	W1層	10YR6/4	にふい黄褐色	粗粒砂	部分的に10YR3/4暗褐色粗粒砂を多く含む
12		10YR6/4	にふい黄褐色	粗粒砂	10YR3/4暗褐色粗粒砂と混濁
13		10YR5/6	黄褐色	粗粒砂	炭化物を若干含む
14		2.5Y6/1	黄灰色	粗粒砂	部分的に10YR5/6黄褐色粗粒砂を多く含む
15		10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂	7.5YR5/4にふい褐色粗粒砂と混濁

図 22 08Ab 区土層断面図 6【1:80】

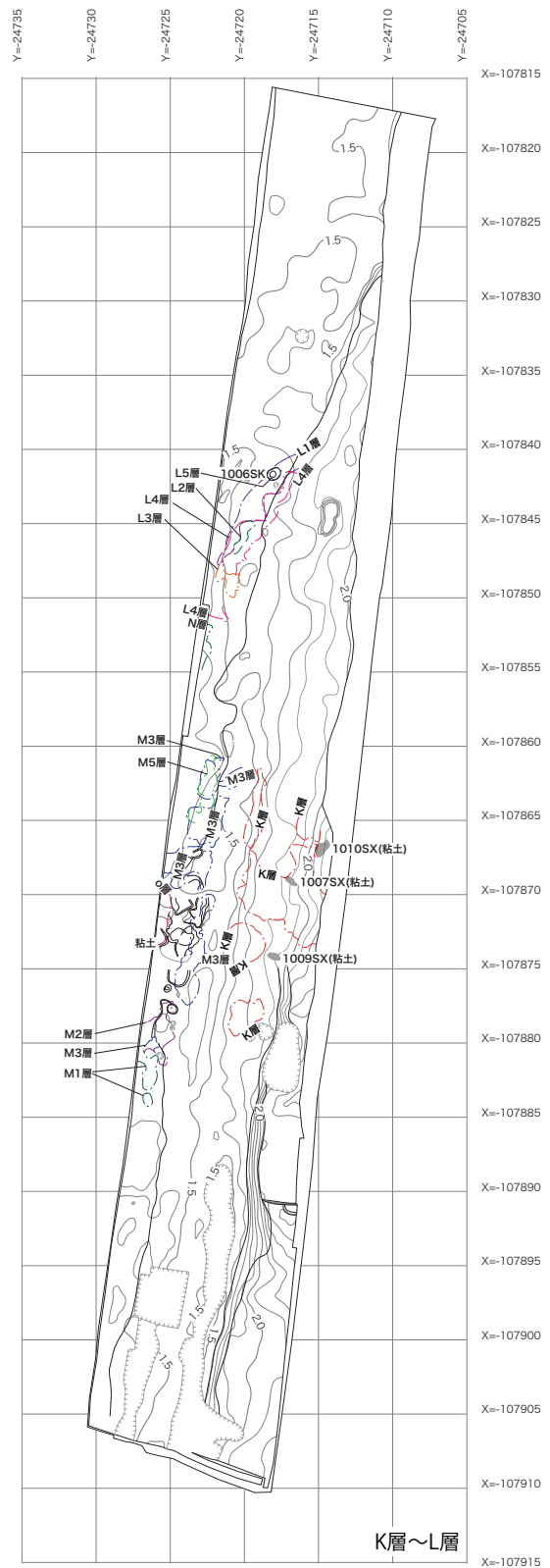
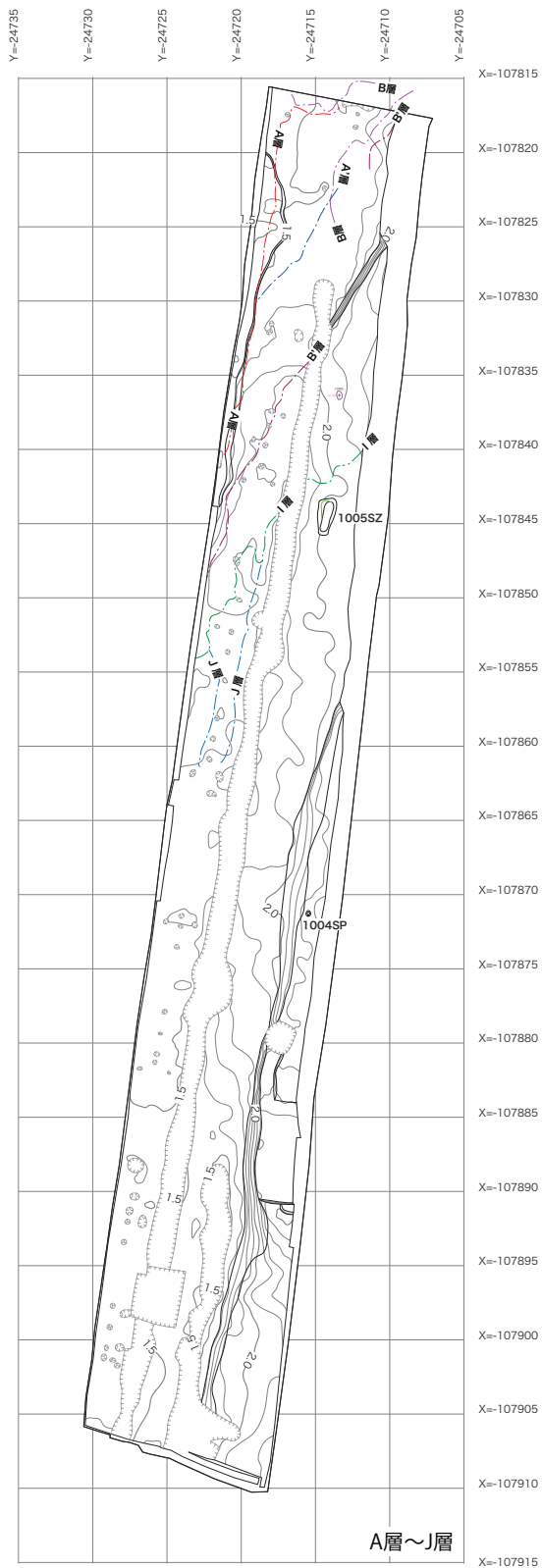


図 23 08Ab 区平面図 1 【 1:500 】

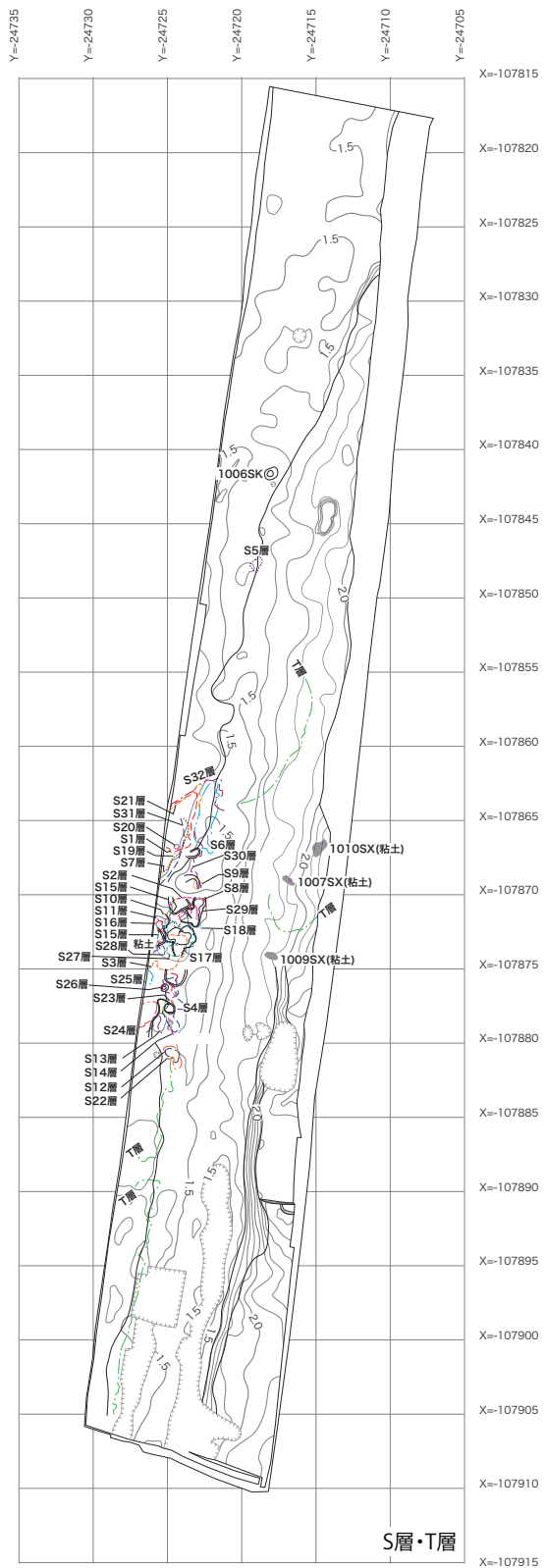
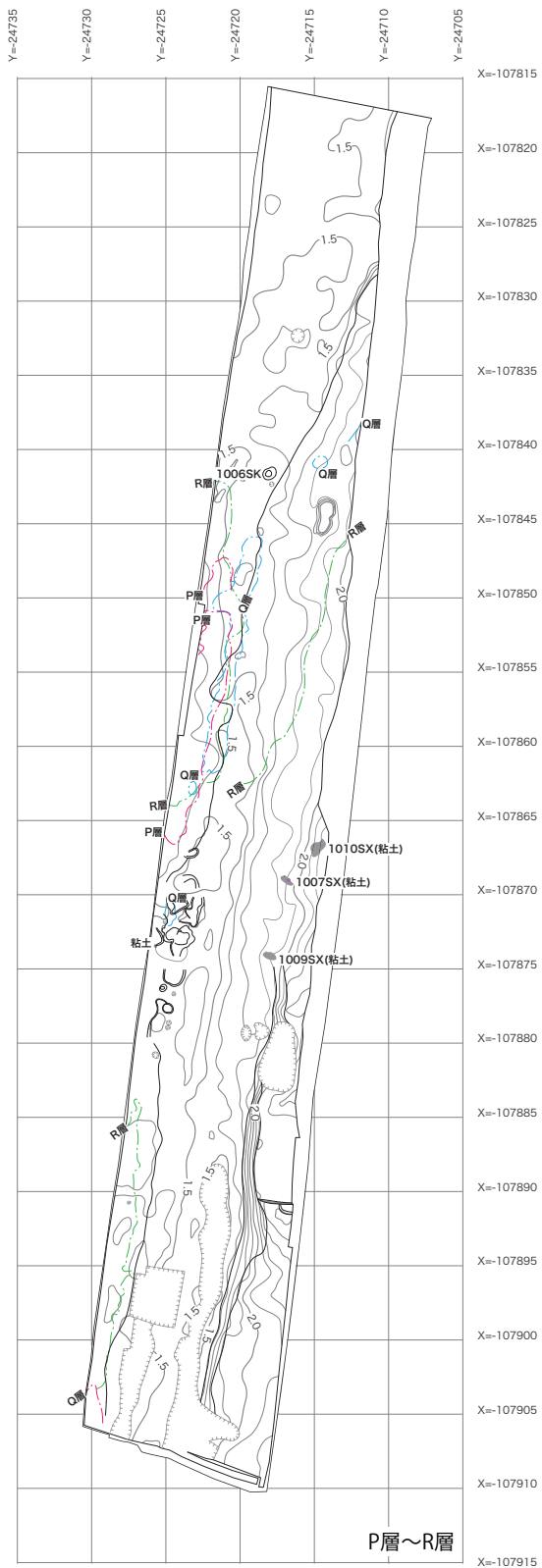


図 24 08Ab 区平面図 2【1:500】

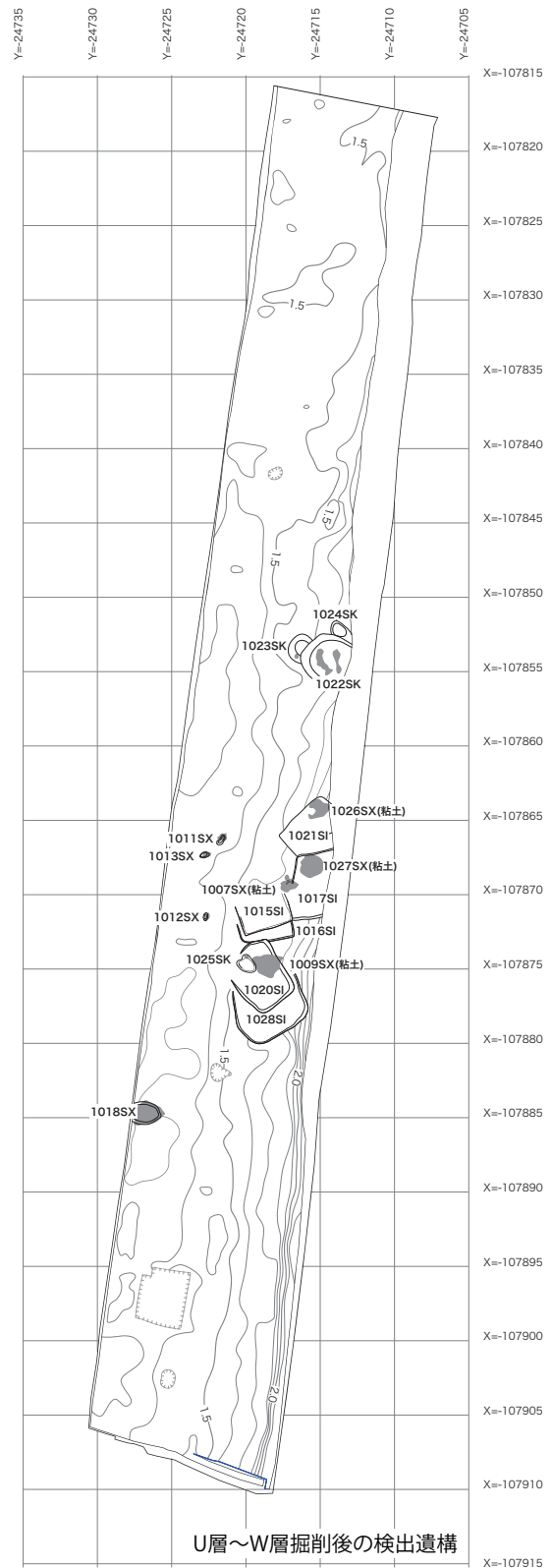
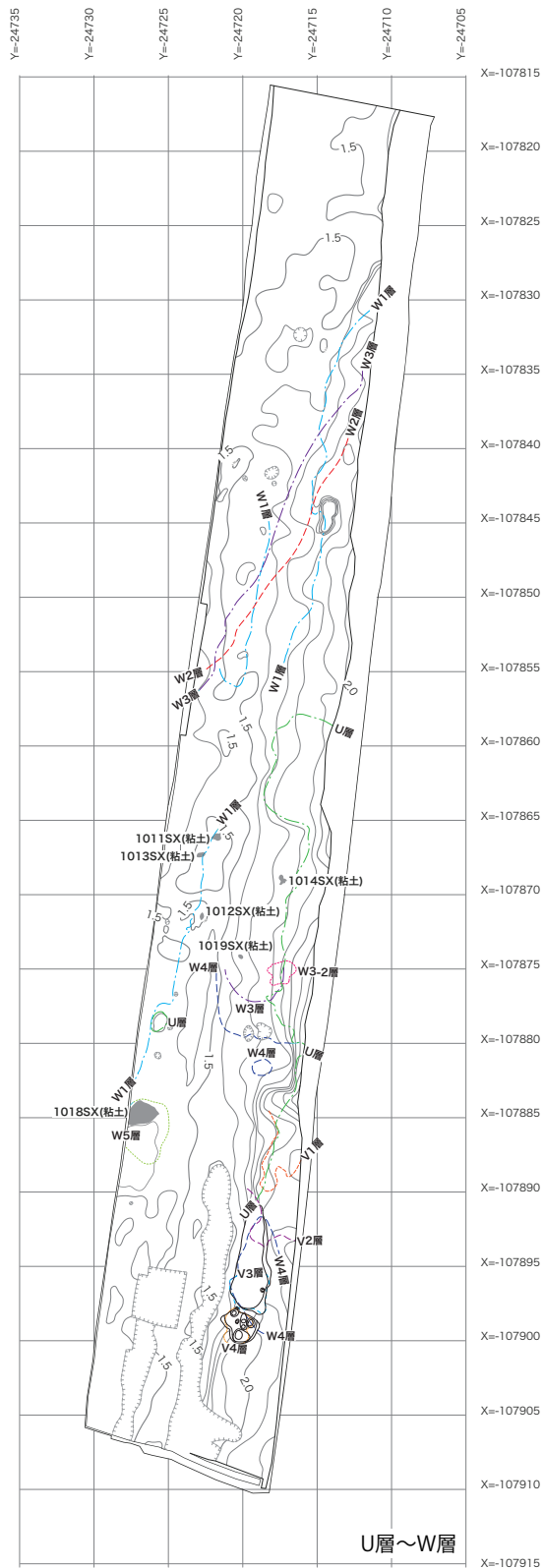
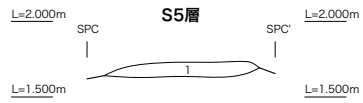
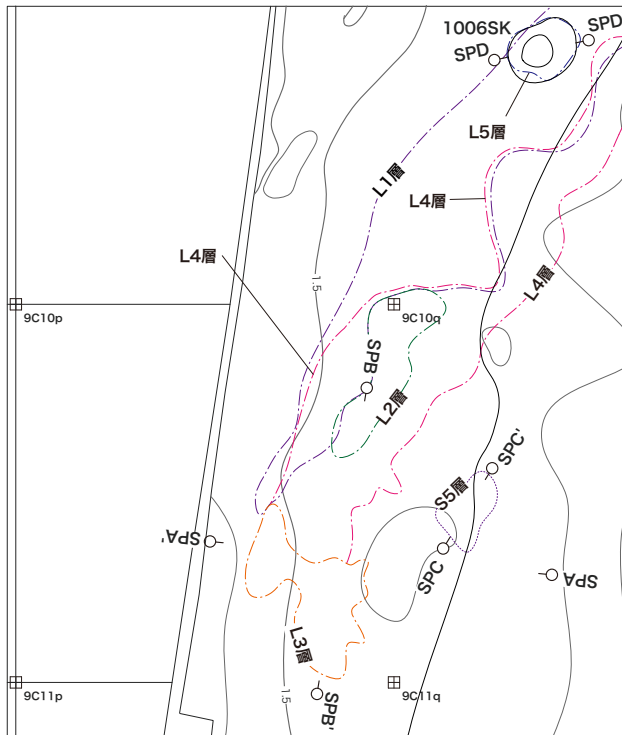


図 25 08Ab 区平面図 3【 1:500 】

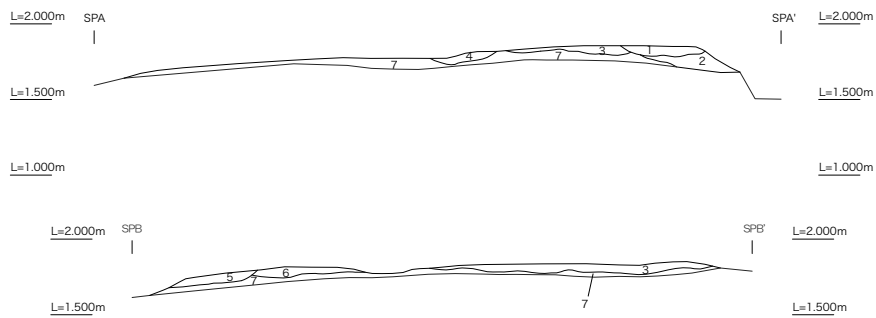


1 S5層 7.5YR3/2 黒褐色 粗粒砂 7.5YR5/6明褐色粗粒砂を層状に含む



1006SK
 1 L5層 5YR3/2 暗赤褐色 中粒砂 ハマグリを主体とする貝殻を非常に多く含む
 2 5YR2/1 黒褐色 粗粒砂
 3 7.5YR3/4 暗褐色 中粒砂

L3層・L4層



Aライン・Bライン共通

- | | | | | | |
|---|-----|----------|------|-----|--------------------------------------|
| 1 | L3層 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | 粗粒砂 | ハマグリを主体とする貝殻片、製塩土器片を多く含む、しまりはやや強い |
| 2 | L3層 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 中粒砂 | 10YR3/3暗褐色中粒砂ブロック(径1cm以下)、貝殻片を極少量含む |
| 3 | L4層 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | 粗粒砂 | ハマグリを主体とする貝殻を非常に多く、製塩土器片を含む、しまりはやや強い |
| 4 | Q層 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | 粗粒砂 | ハマグリを主体とする貝殻を非常に多く含む |
| 5 | L2層 | 10YR2/3 | 黒褐色 | 粗粒砂 | 10YR5/6黄褐色中粒砂ブロック(径3cm以下)をやや多く含む |
| 6 | L4層 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | 中粒砂 | ハマグリを主体とする貝殻を非常に多く含む |
| 7 | W1層 | 10YR5/6 | 黄褐色 | 中粒砂 | ハマグリを主体とする貝殻、10YR3/3暗褐色中粒砂を多く含む |

図 26 08Ab区 L3層・L4層・L5層・S5層 平面および土層断面図【平面 1:100、土層断面 1:50】

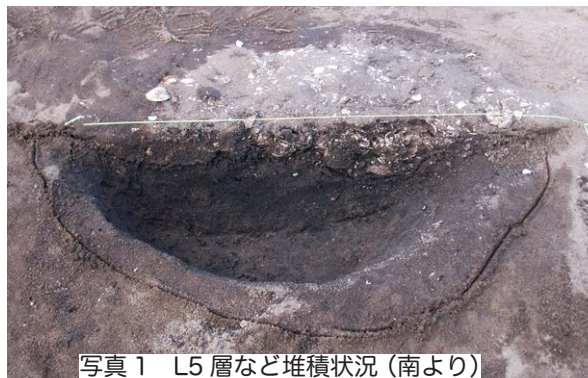


写真 1 L5層など堆積状況(南より)

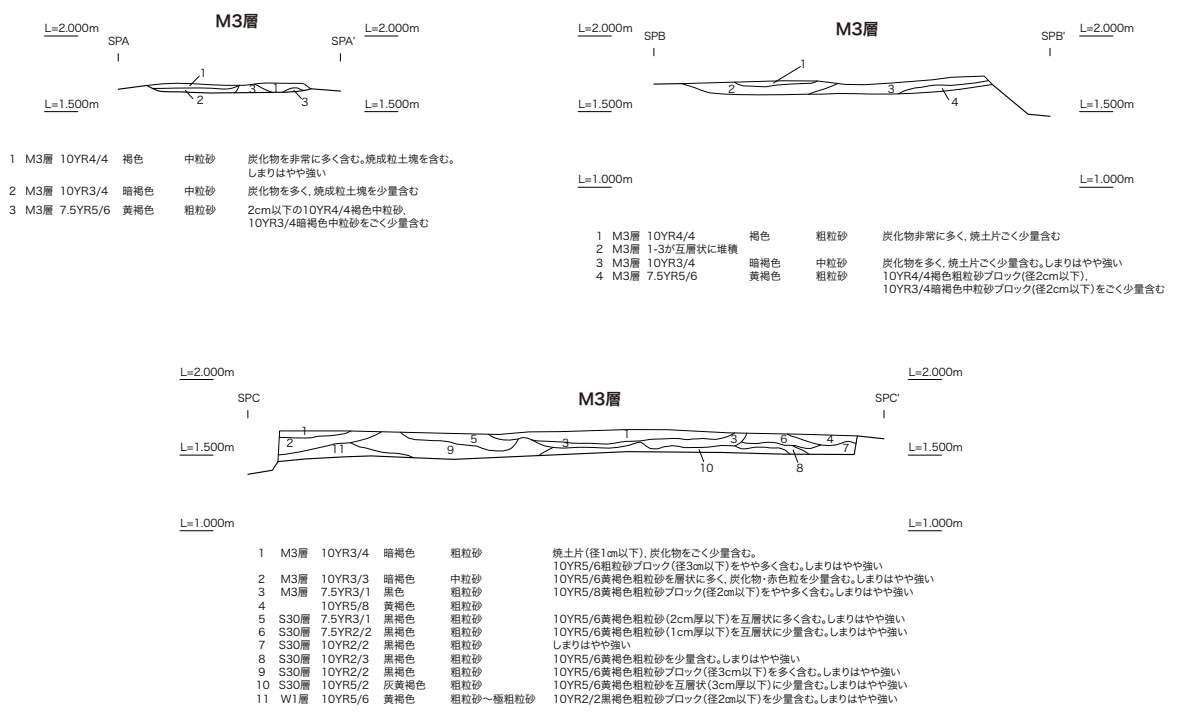
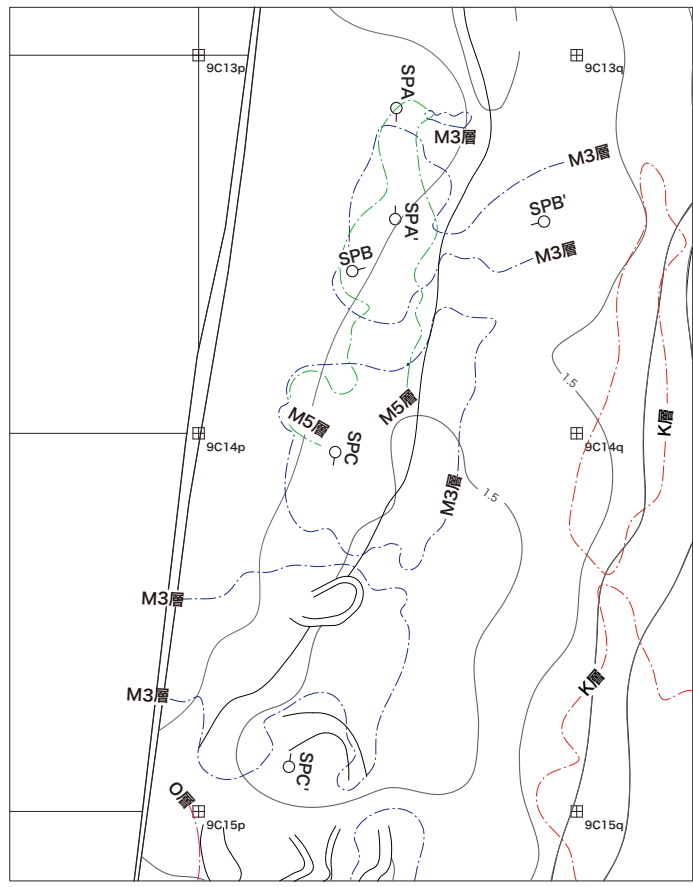
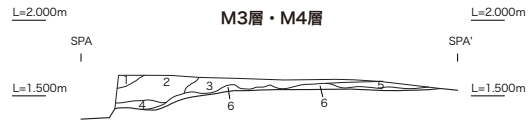
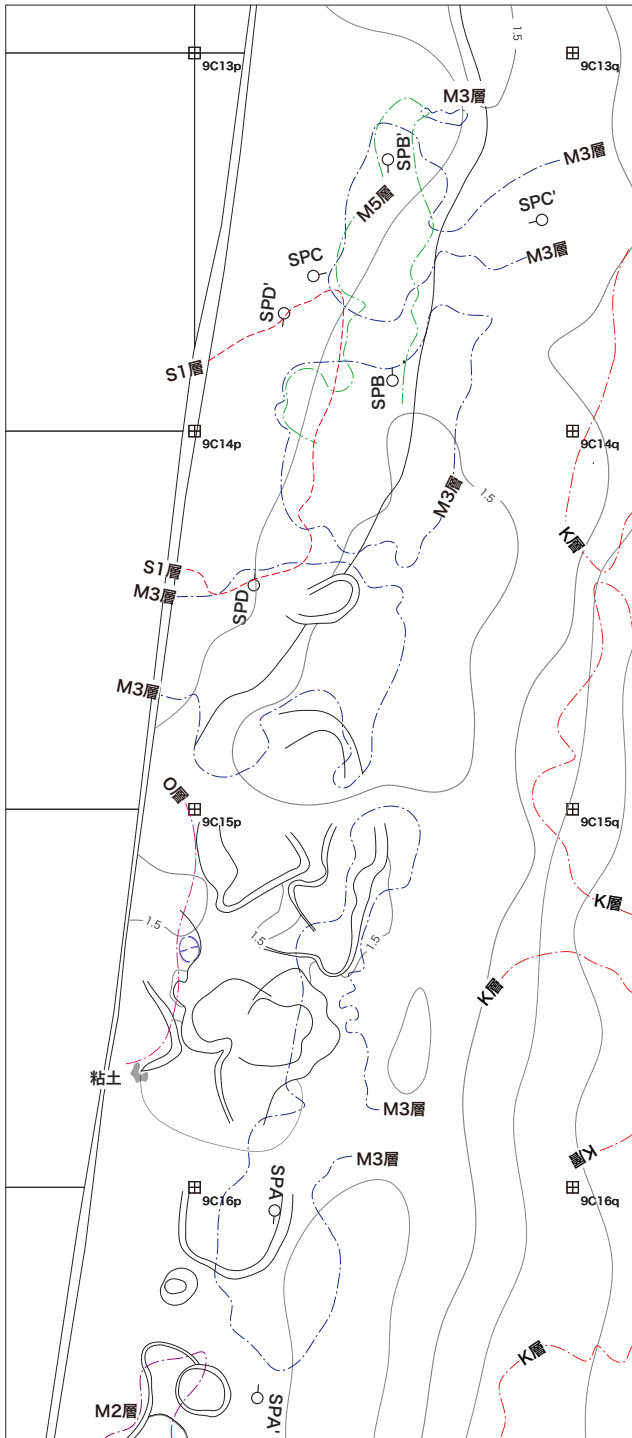
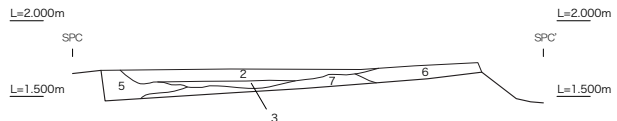
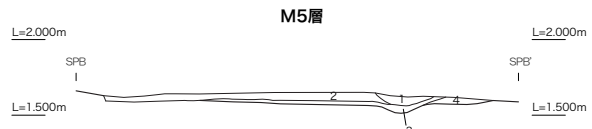


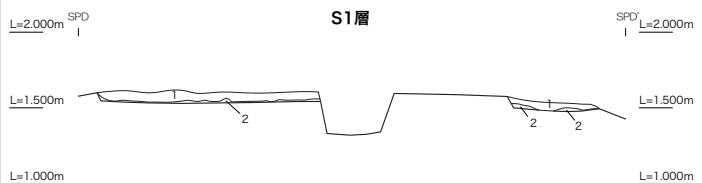
図 27 08Ab 区 M3 層平面および土層断面図【平面 1:100、土層断面 1:50】



- | 層番号 | 土層記号 | 色 | 土質 | 特徴 |
|-----|----------|----------|---------|--|
| 1 | M3層 | 10YR3/4 | 暗褐色 | シルト質粗粒砂 炭化物、焼土片を含む。しまりはやや強い |
| 2 | M3層 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | シルト質粗粒砂 10YR3/4暗褐色粗粒砂ブロック(径2cm以下)、10YR5/3にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径7cm以下)、炭化物、焼土塊を多く含む。しまりはやや強い |
| 3 | M3層 | 10YR4/4 | 褐色 | シルト質粗粒砂 10YR5/3にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径7cm以下)、炭化物を非常に多く、焼土片を含む。しまりはやや強い |
| 4 | M4層 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 |
| 5 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | シルト質粗粒砂 | 10YR5/6黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を少量含む |
| 6 | W3層 | 7.5YR5/6 | 黄褐色 | 中粒砂 10YR3/4褐色粗粒砂と混濁 |

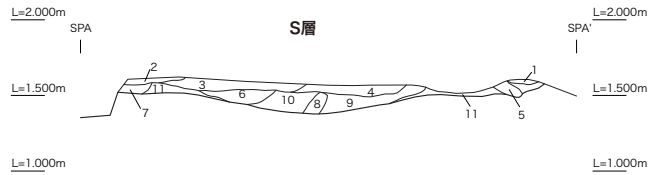
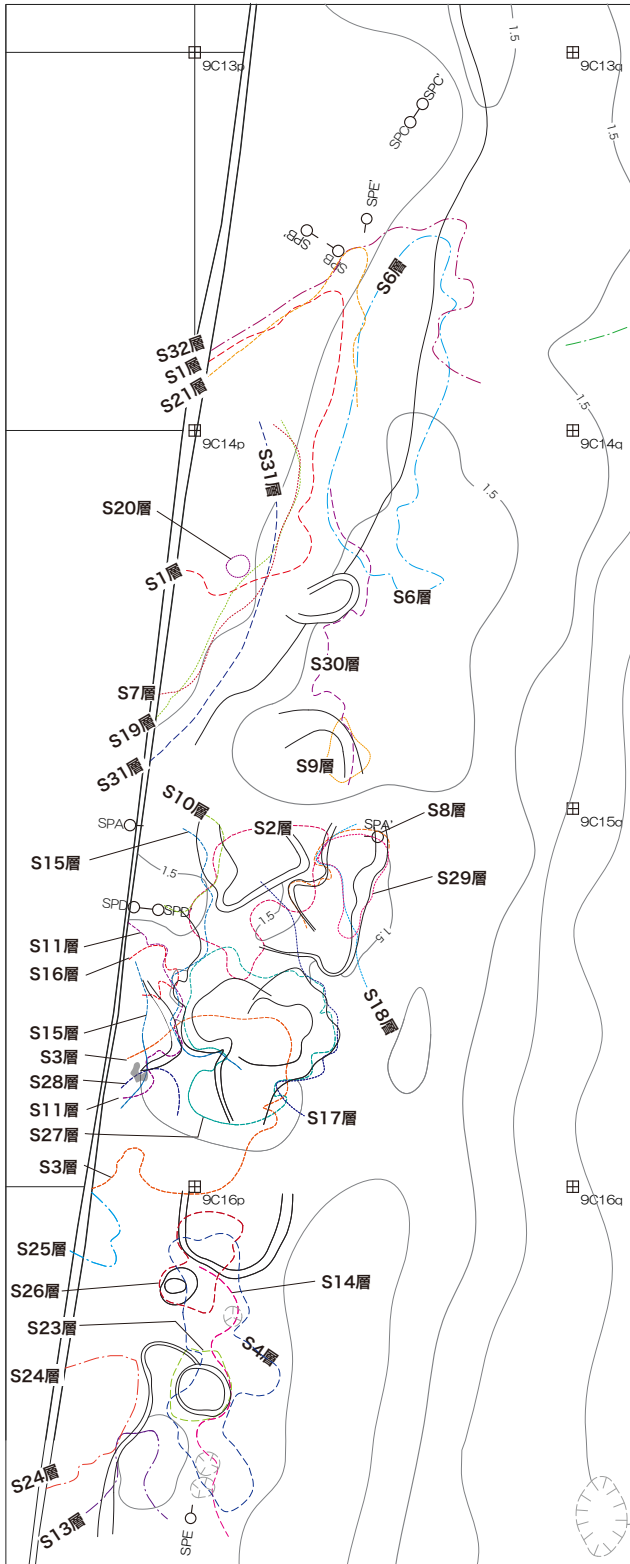


- | | | | | | |
|---|----------|---------|-----|-----|---------------------------------|
| 1 | M5層 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 粗粒砂 | 10YR5/6黄褐色中粒砂との互層。炭化物、赤色粒ごく少量含む |
| 2 | M5層 | 10YR5/6 | 黄褐色 | 中粒砂 | 10YR3/3暗褐色中粒砂を層状にやや多く含む |
| 3 | 7.5YR4/4 | 褐色 | 粗粒砂 | 粗粒砂 | 10YR3/4暗褐色中粒砂を多く、炭化物を極少量含む |
| 4 | 7.5YR4/4 | 褐色 | 粗粒砂 | 粗粒砂 | 10YR5/6黄褐色粗粒砂ブロック(径2cm以下)を多く含む |
| 5 | 10YR5/6 | 黄褐色 | 中粒砂 | 中粒砂 | 10YR3/3暗褐色中粒砂を層状にやや多く含む |
| 6 | 7.5YR4/4 | 褐色 | 粗粒砂 | 粗粒砂 | 10YR3/4暗褐色粗粒砂を多く、炭化物をごく少量含む |
| 7 | 7.5YR4/4 | 褐色 | 粗粒砂 | 粗粒砂 | 10YR5/6黄褐色粗粒砂ブロック(径2cm以下)を多く含む |

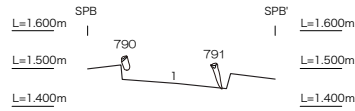


- | | | | | |
|---|---------|------|---------|--|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 中粒砂～粗粒砂 | 10YR5/3黄褐色中粒砂ブロック(径2cm以下)をやや多く、炭化物、焼土塊を多く含む。しまりはやや強い |
| 2 | 5YR3/2 | 暗黄褐色 | 中粒砂 | 1と混濁 |

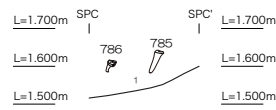
図 28 08Ab 区 M3 層・M4 層・M5 層・S1 層平面および土層断面図【平面 1:100、土層断面 1:50】



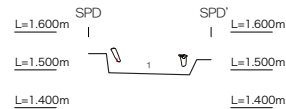
- | | | | | | |
|----|------|----------|--------|-----|---|
| 1 | M3層 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | 10YR5/4にふい黄褐色中粒砂ブロック(径2cm以下)を多く、炭化物をやや多く含む。しまりはやや強い |
| 2 | O層 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | 炭化物を含む。しまりはやや強い |
| 3 | O層 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | 中粒砂 | ハマグリを主体とする貝殻を非常に多く含む |
| 4 | S2層 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | 10YR5/4にふい黄褐色中粒砂と互層 |
| 5 | S8層 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | 炭化物を多く含む。部分的に焼けている |
| 6 | S15層 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 中粒砂 | 10YR2/2黒褐色中粒砂ブロック(径5mm以下)を少量含む。しまりはやや強い |
| 7 | S11層 | 10YR2/3 | 黒褐色 | 中粒砂 | 10YR5/4にふい黄褐色中粒砂を互層状に少量含む。しまりはやや強い |
| 8 | | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | 中粒砂 | 下半は10YR5/4にふい黄褐色中粒砂と互層。しまりはやや強い |
| 9 | S17層 | 10YR2/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | 10YR5/4にふい黄褐色中粒砂と互層。しまりはやや強い |
| 10 | | 10YR3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | 10YR5/4にふい黄褐色中粒砂と互層。しまりはやや強い |
| 11 | T層 | 10YR5/4 | にふい黄褐色 | 粗粒砂 | |



- | | | | | | |
|---|-----|--------|-----|-----|----------|
| 1 | S1層 | 5YR2/1 | 黒褐色 | 粗粒砂 | 炭化物を少量含む |
|---|-----|--------|-----|-----|----------|



- | | | | | | |
|---|-----|---------|-----|-----|-----------------------------|
| 1 | S2層 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 中粒砂 | 10YR5/6黄褐色粗粒砂との互層。炭化物、赤色粒含む |
|---|-----|---------|-----|-----|-----------------------------|



- | | | | | | |
|---|-----|---------|-----|-----|-----------------------|
| 1 | S2層 | 10YR3/4 | 暗褐色 | 粗粒砂 | 10YR5/6にふい黄褐色粗粒砂を少量含む |
|---|-----|---------|-----|-----|-----------------------|

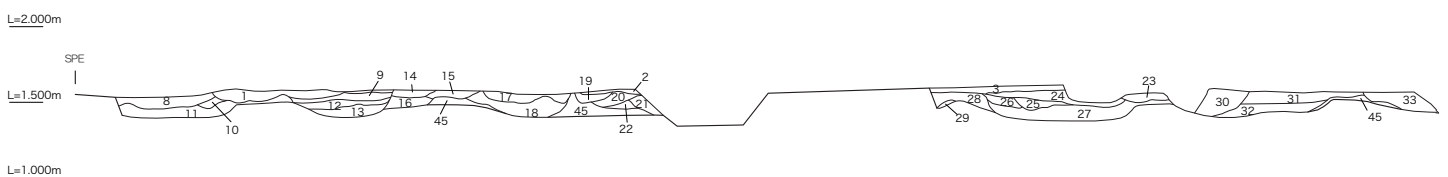


図 29 08Ab 区 S 層平面および土層断面図

る。

S13層：1.2×1.0m のヒサゴ形をした形状で検出した。

S14層：4.0×0.8m、厚さ 4cm を測る。この層は S4 層に先行する堆積層であるが、S4 層同様に等高線に沿って広がりか認められる。炭化物・焼土・製塩土器片を多量に含み、しまりが強い層である。

S15層：1.9×0.4m の範囲で検出された。

S16層：0.6×0.6m のやや不定形な楕円形状を呈する状態で確認できた。

S17層：3.0×0.4m の細長い範囲で確認された層である。等高線に沿って層は展開していたものと考えられる。

S18層：2.0×0.5m の範囲で認められた。この層も等高線に沿って展開しているものと思われる。

S19層：4.0×0.7m の範囲に細長く沿って確認できた。この層も等高線に沿って形成がなされたものと考えられる。

S20層：0.3×0.3m の隅丸方形形状に確認された層である。

S21層：2.5×2.0m の範囲で確認された層で、北東から南西方向に向かって末広がり展開するものと考えられる。

S23層：0.9×0.8m の楕円形を呈する状態で検出された。

S24層：1.4×1.0m の楕円形を呈する状態で検出された。層中には、炭化物・焼土と考えられる赤色粒を少量含む。

S25層：0.9×0.5m の楕円形を呈する状態で検出された。

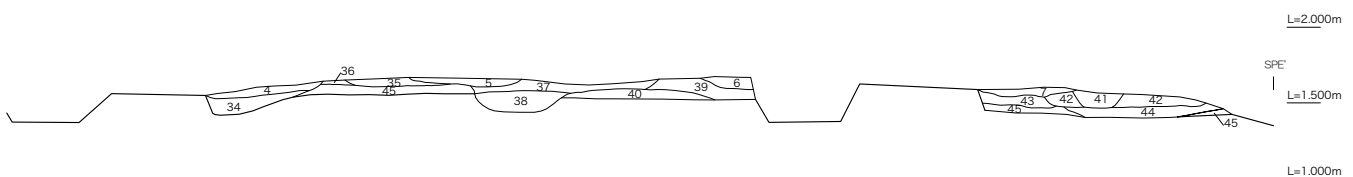
S26層：1.3×0.8m のヒサゴ形を呈するプランで検出された。

S27層：2.2×2.0m、厚さ 12cm を測る。浅い落ち込みの中に層は認められる。炭化物は若干含まれるものの、著しく集中している様子は認められなかった。

S28層：0.9×0.5m の範囲に広がる層である。

S29層：1.5×0.8m で広がる層である。

1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR3/3暗褐色粗粒砂を層状にやや多く、炭化物を少量含む	24	10YR2/2	黒褐色	粗粒砂	10YR4/2灰黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を含む
2	7.5YR2/3	極暗褐色	中粒砂		25	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂	7.5YR3/2黒褐色粗粒砂と混濁
3	7.5YR2/3	極暗褐色	粗粒砂	10YR4/4褐色粗粒砂を層状に含む	26	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	炭化物をやや多く含む
4	10YR3/2	黒褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂を層状にやや多く含む	27	10YR3/4	暗褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂を薄く層状に含む
5	10YR2/2	黒褐色	シルト混じり粗粒砂	10YR3/3暗褐色粗粒砂を層状にやや多く含む	28	7.5YR2/3	極暗褐色	粗粒砂	
6	10YR2/1	黒色	シルト混じり粗粒砂	炭化物をやや多く含む	29	7.5YR2/2	黒褐色	粗粒砂	
7	7.5YR2/3	極暗褐色	シルト混じり粗粒砂	10YR2/2黒褐色粗粒砂ブロック(径2cm以下)を含む	30	10YR3/2	黒褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂を薄く層状に含む
8	7.5YR3/2	黒褐色	シルト混じり粗粒砂	7.5YR2/3極暗褐色粗粒砂、10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂を層状に含む	31	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と互層
9	10YR3/4	暗褐色	シルト混じり粗粒砂		32	10YR2/2	黒褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と互層
10	10YR4/4	褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂を多く含む。炭化物、焼土、製塩土器片を多く含む。しまりが強い	33	7.5YR3/2	暗褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を少量含む
11	10YR3/4	暗褐色	粗粒砂		34	10YR2/2	黒褐色	中粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂をラミナ状に少量含む
12	7.5YR4/3	褐色	シルト混じり粗粒砂	炭化物、焼土、製塩土器片を多く含む。しまりが強い	35	7.5YR3/2	黒褐色	中粒砂	10YR2/2黒褐色シルト混じり粗粒砂、10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁
13	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂		36	10YR3/3	暗褐色	シルト混じり粗粒砂	炭化物を極少量含む
14	10YR3/4	暗褐色	粗粒砂		37	10YR3/3	暗褐色	シルト混じり粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と互層
15	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂		38	10YR2/3	黒褐色	中粒砂	10YR3/4暗褐色シルト混じり粗粒砂と混濁
16	10YR3/4	暗褐色	粗粒砂		39	10YR3/4	暗褐色	シルト混じり粗粒砂	10YR2/3暗褐色シルト混じり粗粒砂、10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂と混濁
17	10YR3/3	暗褐色	シルト混じり粗粒砂		40	7.5YR2/2	黒褐色	シルト混じり粗粒砂	炭化物をやや多く、貝殻を少量含む
18	10YR2/3	黒褐色	粗粒砂		41	10YR2/2	黒褐色	粗粒砂	7.5YR3/3暗褐色シルト混じり粗粒砂を多く、炭化物をやや多く含む
19	10YR2/3	黒褐色	シルト質粗粒砂		42	5YR3/2	暗赤褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径2cm以下)を少量含む
20	10YR3/4	暗褐色	粗粒砂	炭化物、焼土、製塩土器片を多く含む。しまりが強い	43	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む。炭化物、焼土、製塩土器片を多く含む。しまりが強い
21	10YR4/1	褐灰色	粗粒砂	10YR3/4暗褐色粗粒砂ブロックと混濁。炭化物、焼土、製塩土器片を多く含む。しまりが強い	44	7.5YR4/3	褐色	粗粒砂	7.5YR3/2黒褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を少量含む。炭化物、焼土、製塩土器片を多く含む。しまりが強い
22	10YR3/1	黒褐色	シルト混じり粗粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂をやや多く、炭化物、焼土、製塩土器片を多く含む。しまりが強い	45	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	炭化物、焼土、製塩土器片を多く含む。しまりが強い
23	10YR2/3	黒褐色	シルト混じり粗粒砂						



【 平面 1:100、土層断面 1:50、製塩土器出土状況は 1:20 】

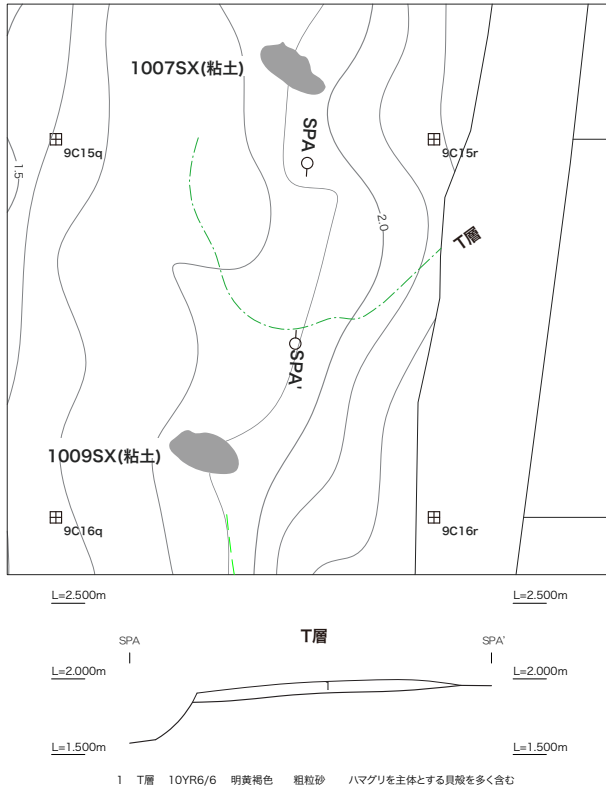


図30 08Ab区 T層平面および土層断面図【平面 1:100、土層断面 1:50】

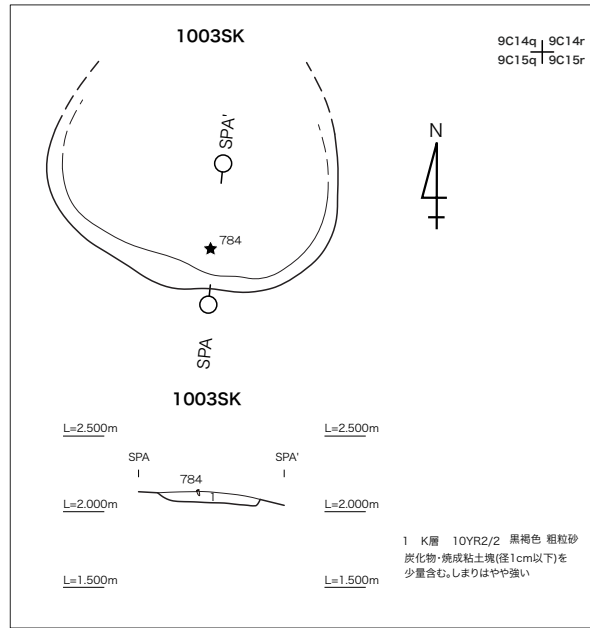


図31 08Ab区 1003SK平面および土層断面図【1:50】

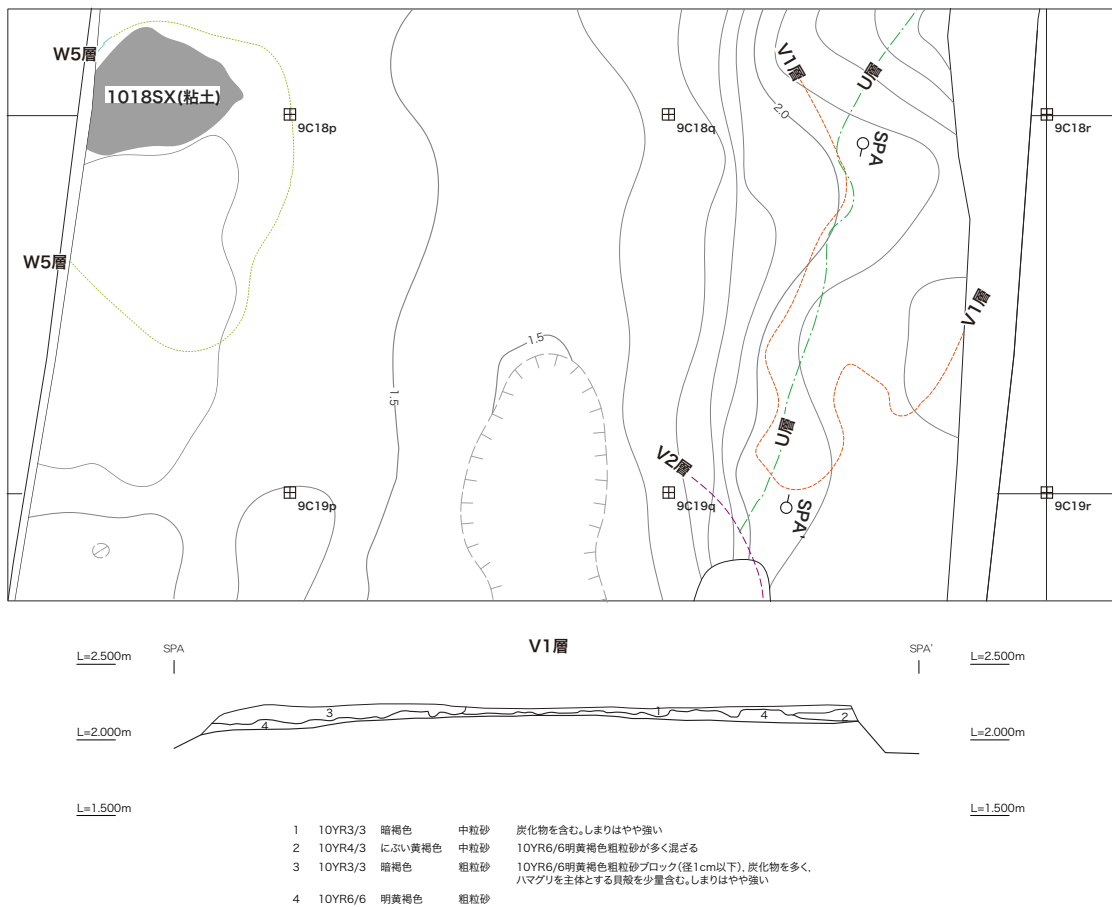
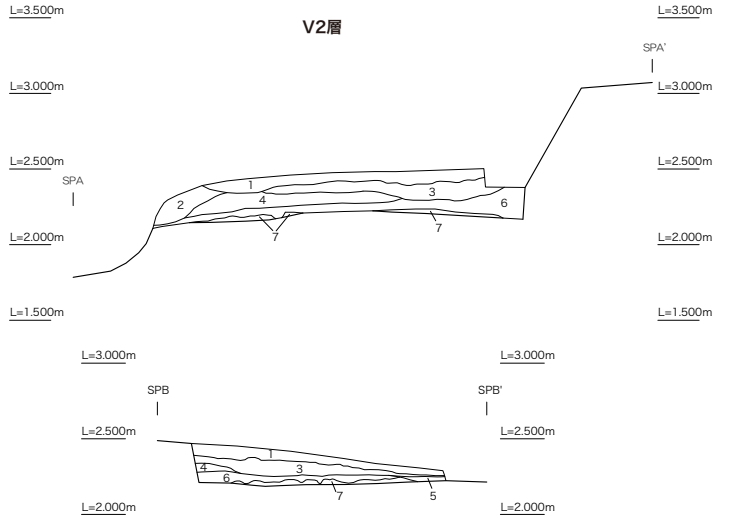
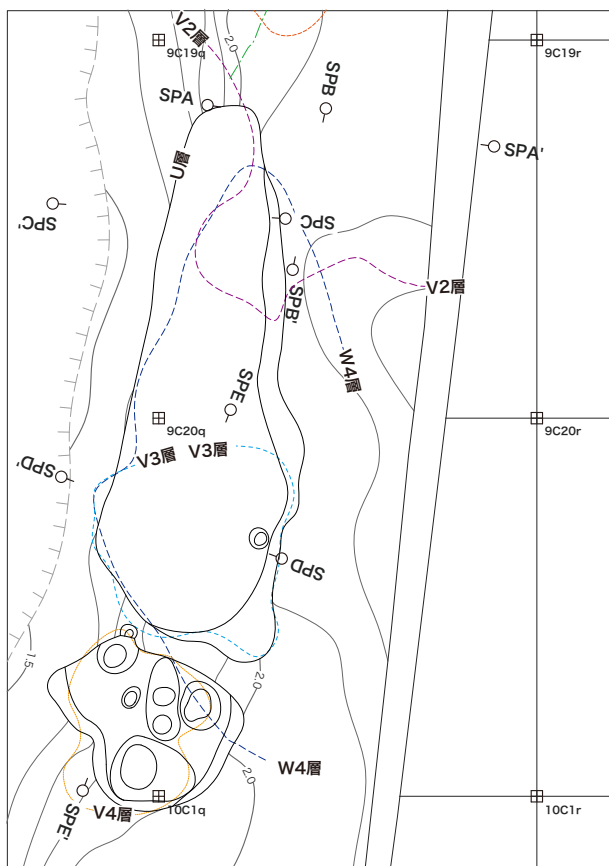
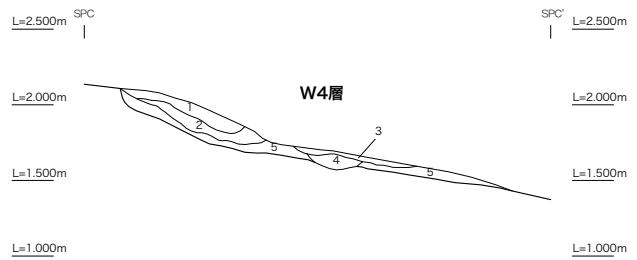


図32 08Ab区 V1層平面および土層断面図【平面 1:100、土層断面 1:50】



Aライン・Bライン共通

- | | | | |
|---|--------------|---------|---|
| 1 | 10YR4/4 暗褐色 | 粗粒砂 | 10YR6/6橙色粗粒砂を層状あるいはブロック状に、貝殻片・炭化物を多く含む。しまりは強い |
| 2 | 10YR3/3 暗褐色 | 中粒砂～粗粒砂 | 小礫、炭化物、焼土塊を多く含む。しまりは強い |
| 3 | 7.5YR3/2 黒褐色 | 中粒砂 | 貝殻片、炭化物を多く含む。しまりは強い |
| 4 | 7.5YR3/2 黒褐色 | 中粒砂～粗粒砂 | 10YR4/4褐色中粒砂ブロック(径1cm以下)をやや多く、炭化物、焼土塊を多く含む。しまりは強い |
| 5 | 7.5YR3/4 暗褐色 | 粗粒砂 | 10YR6/6褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)をやや多く含む。しまりは強い |
| 6 | 7.5YR3/2 黒褐色 | 中粒砂 | 10YR6/6褐色中粒砂ブロック(径2cm以下)をやや多く含む。しまりはやや強い |
| 7 | 10YR6/6 橙色 | 粗粒砂 | |



Dライン・Eライン共通

- | | | | |
|----|--------------------|---------|--|
| 1 | V3層 7.5YR4/3 褐色 | シルト質中粒砂 | 炭化物、貝殻片を少量含む。しまりは強い |
| 2 | V3層 7.5YR2/2 黒褐色 | シルト質中粒砂 | やや粘性あり。7.5YR4/3褐色細粒砂ブロック(径5mm以下)、ハマグリを主体とする貝殻、炭化物を含む |
| 3 | V3層 10YR3/4 暗褐色 | シルト質中粒砂 | やや粘性あり。ハマグリを主体とする貝殻を多く、炭化物を含む |
| 4 | V3層 7.5YR3/4 暗褐色 | 中粒砂 | 10YR6/6褐色粗粒砂を層状に多く含む |
| 5 | V3層 10YR2/3 黒褐色 | 中粒砂 | |
| 6 | W3層 10YR6/6 橙色 | 粗粒砂 | |
| 7 | V3層 7.5YR3/4 暗褐色 | 中粒砂 | 10YR2/1黒色シルト質中粒砂を斑状に含む |
| 8 | V3層 10YR2/3 黒褐色 | 中粒砂 | |
| 9 | V4層 7.5YR3/4 暗褐色 | 中粒砂 | |
| 10 | V4層 10YR3/4 暗褐色 | シルト質中粒砂 | 極粗粒砂～細礫をやや多く、ハマグリを主体とする貝殻を少量含む。しまりは強い |
| 11 | V4層 10YR4/4 褐色 | シルト質中粒砂 | 極粗粒砂～細礫を多く含む。しまりは強い |
| 12 | V4層 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 中粒砂 | |
| 13 | V4層 10YR3/3 暗褐色 | 中粒砂 | 10YR4/4褐色中粒砂と混濁 |
| 14 | V4層 10YR3/4 暗褐色 | 中粒砂 | 10YR6/6黄褐色中粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む |
| 15 | V4層 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 粗粒砂 | 10YR6/6褐色粗粒砂と混濁 |
| 16 | V4層 10YR3/3 暗褐色 | 中粒砂 | |
| 17 | V4層 10YR3/3 暗褐色 | 中粒砂 | 10YR6/6褐色粗粒砂を層状に多く含む |
| 18 | W1層 10YR5/6 黄褐色 | 粗粒砂 | 10YR3/3暗褐色粗粒砂を多く含む |
| 19 | W3層 10YR6/6 橙色 | 粗粒砂 | |

Cライン

- | | | | |
|---|-----------------|---------|---|
| 1 | 10YR3/3 暗褐色 | 中粒砂～粗粒砂 | 10YR4/4褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を多く、炭化物、焼土塊を多く含む。しまりは強い |
| 2 | 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 | 中粒砂 | 10YR6/6褐色粗粒砂ブロック(径2cm以下)をやや多く含む。炭化物、焼土塊を多く含む。しまりは強い |
| 3 | 10YR4/4 褐色 | 中粒砂 | 10YR3/3暗褐色中粒砂、10YR6/6褐色粗粒砂を層状(1cm厚以下)に多く含む |
| 4 | 10YR3/4 暗褐色 | 中粒砂 | 10YR6/6褐色中粒砂と混濁。炭化物を多く含む。しまりはやや強い。 |
| 5 | 10YR6/6 橙色 | 粗粒砂 | |

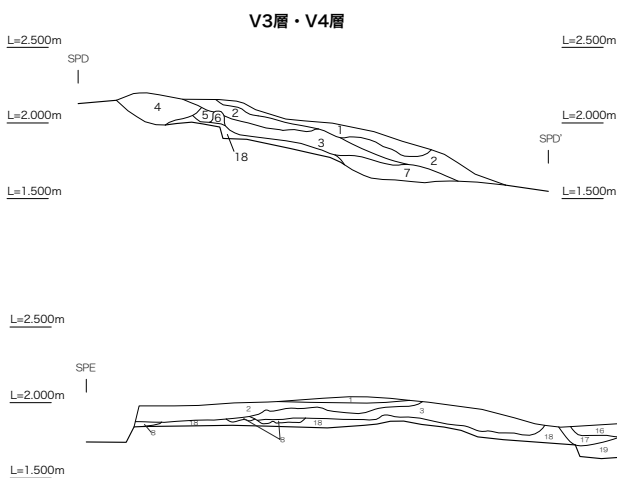


図 33 08Ab 区 V2 層・V3 層・V4 層・W3 層平面および土層断面図【平面 1:100、土層断面 1:50】

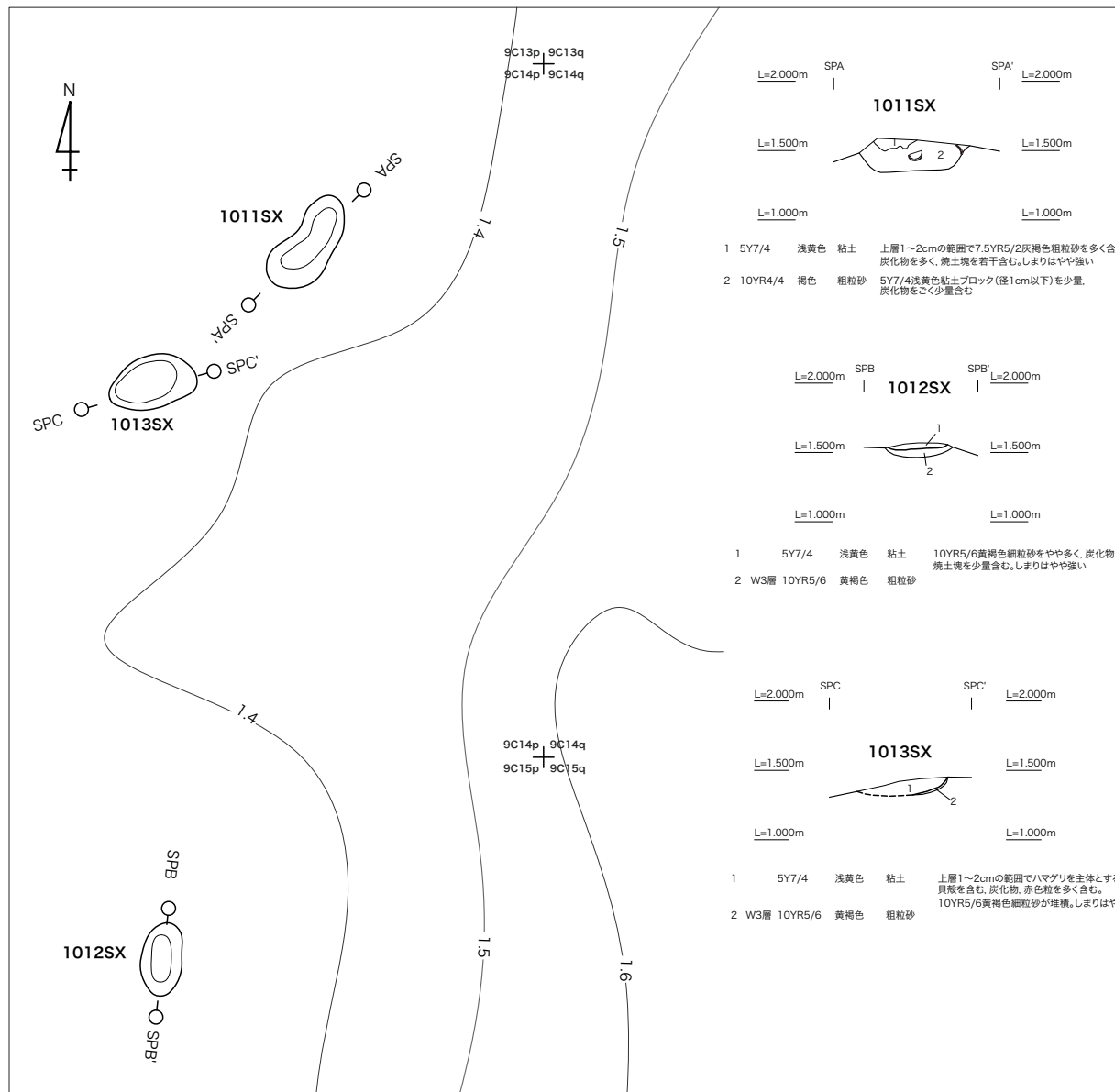
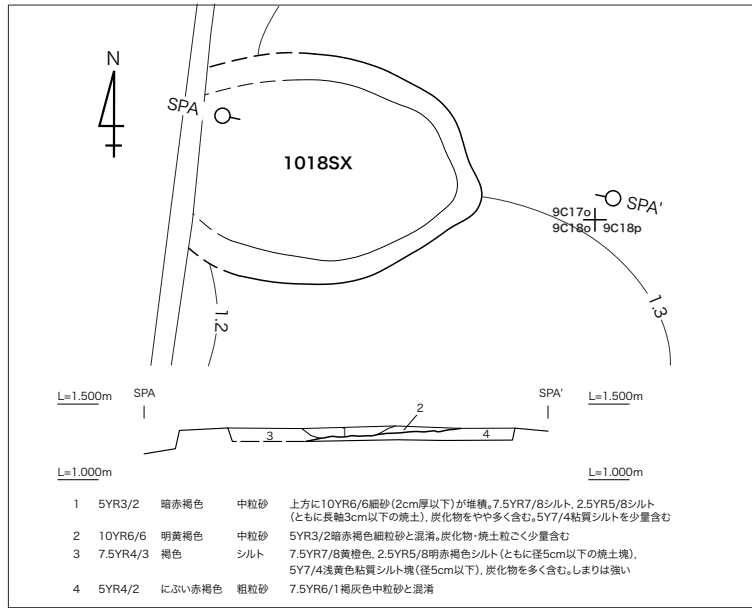
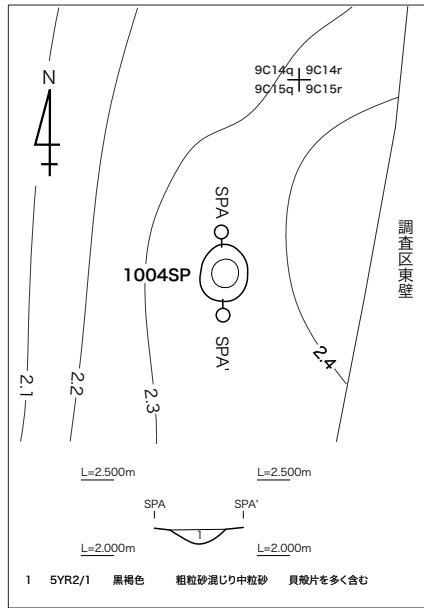


図 34 08Ab 区 1004SP・1011SX・1013SX・1018SX 平面および土層断面図【1:50】

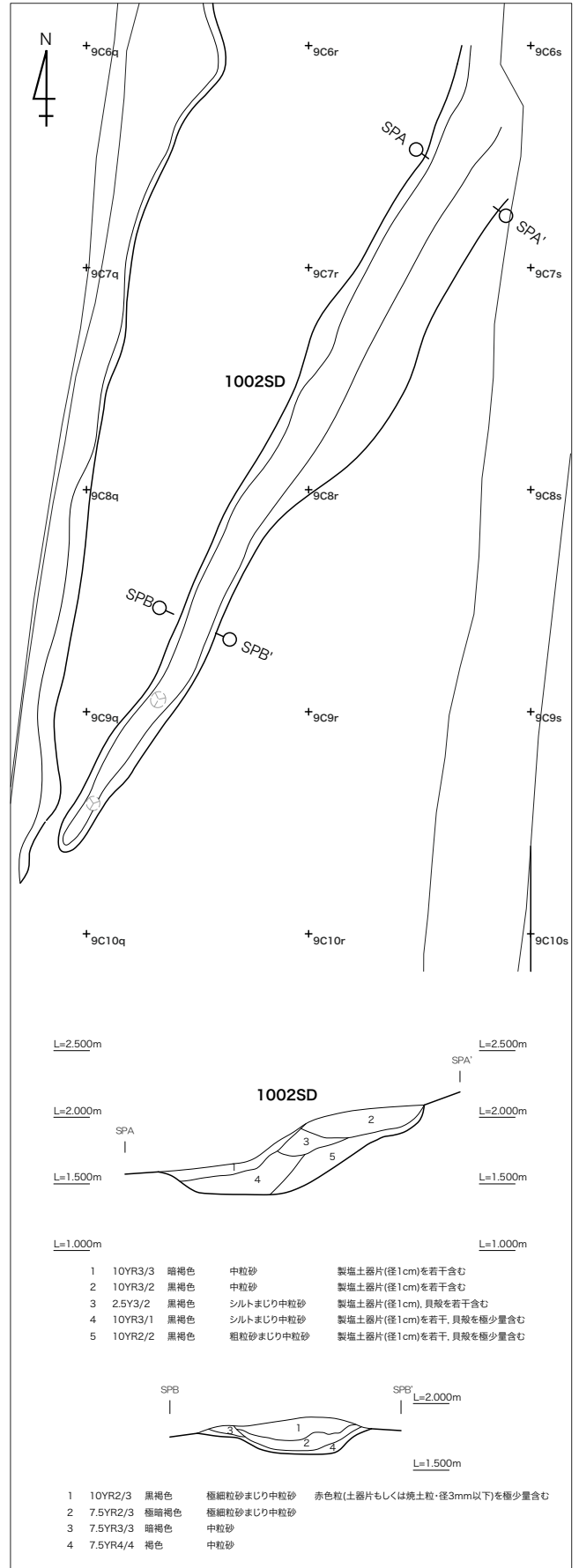
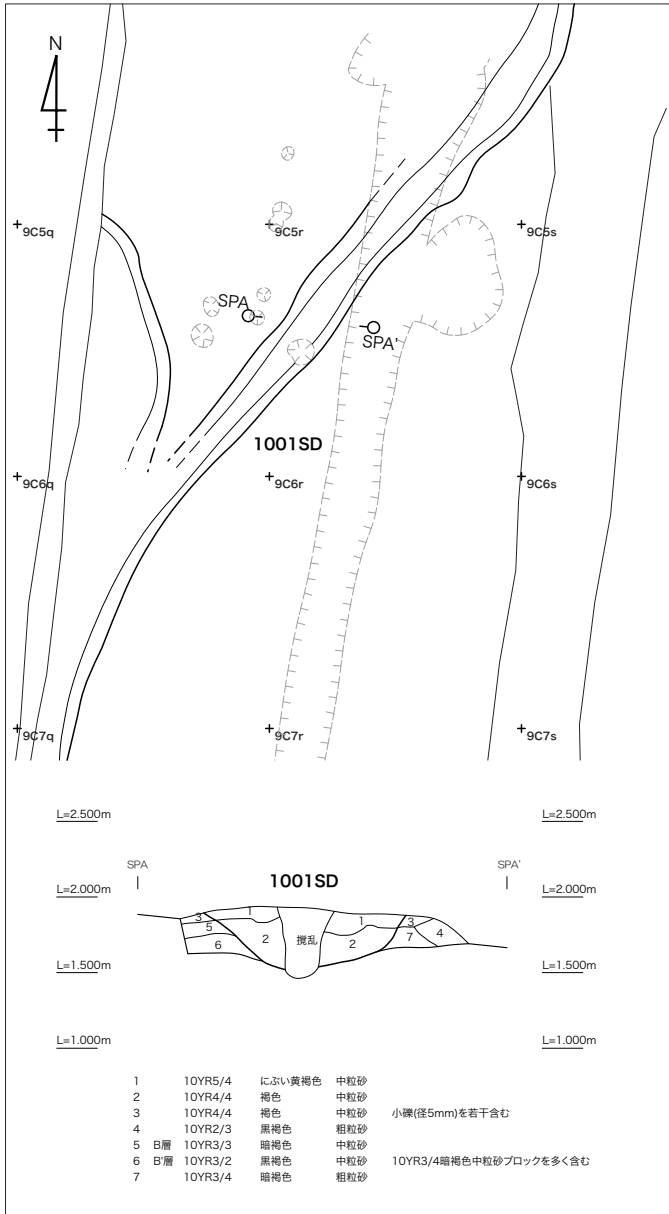


図 35 08Ab 区 1001SD・1002SD
平面および土層断面図【1:100】

S30層:4.0×0.9mの細長い範囲で確認できた。この層も等高線に沿って形成されたものと考えられる。

S31層:4.6×0.8mの範囲で検出された。この層も等高線に沿って形成されたものと考えられる。

S32層:3.5×2.5の範囲で、北東方向から南西方向に向かって末広がり展開している層である。

以上から、S層の形成状況の特徴をまとめておく。

S層の平面的な広がり(展開)には、次の3通りがある。

1. 楕円形状に展開(ヒサゴ形も含める)
2. 細い線状に展開
3. 末広がりを呈する展開

楕円形に展開する場合でも、多くの場合、不定形な形状であり、いわば小楕円形の集合体として認識できる場合がある。ヒサゴ形の場合は、小楕円形が2ヶ所近接した場合に形成されると考えられよう。最小単位の特定は容易ではないものの、最終段階の形成である、S1層・S2層・S3層は、多いに参考になると考えられる。

細い線状に展開する場合、多くは等高線に沿って同一標高に展開する。長さは4m以上と長くなる場合があるが、幅は0.5～1.0m程度と、幅狭く横長に形成される特徴がある。

末広がりになる場合でも、等高線ラインに沿って、同一標高付近で展開するケースが多く、高低差をもって存在するものではない。

次に、層厚や断面形状について述べる。確認された層厚は10cm以下のものが多い。これは凹地などに残存したものであり、継続して作業が行なわれたことを考えると、先に行なっ

た作業面を整え直すために、上面は欠失することが容易に想定される。このことは、立位の製塩土器脚部が見つかったのが、S1・S2層と、S層の中でも最終段階で形成された層に含まれていることから窺えられる。脚部は、杯部底面が残存しているものが多いが、脚部先端のみのものもあった。

以上の状況を整理すると、焼土・炭化物が多量に入ったしまりの強い包含層の存在は、その場所で火を用いた作業が繰り返し行なわれた、その際に出たものが垂直方向に堆積して層が形成されたといえる。また、その作業内容であるが、製塩土器脚部の出土状況から、まさしくこの場所が土器製塩を行なった場所と言えないのかと推定できるのである。他地域の製塩遺跡では、石敷状の遺構などの存在により、土器製塩の場が推定されている場所が多かった。このような構造物が確認されていない松崎遺跡では、土器製塩を直接行なったと考えられる炉跡などの特定が難しいとされていた。今回のS層をはじめ、K層・M層・O層・V2層がそのような場所となるならば、いわば構造物の構築のない形での炉跡となる訳である。S層の細別層の範囲が、この炉跡の範囲を示しているとするならば、今回の調査成果の中でも最も重要な項目の一つになると言えよう。

2. 溝

1001SD・1002SDは、いずれも調査区北端で確認された溝である。1001SDは幅0.6m、深さ80cmを測り、1002SDは幅1.3m、深さ120cmを測る。1002SDの方が1001SDよりもレベルが上位に形成されており、1002SDの南側は途中で確認できなくなっている。両者とも北東から南西方向に向かって伸びており、地形の凸

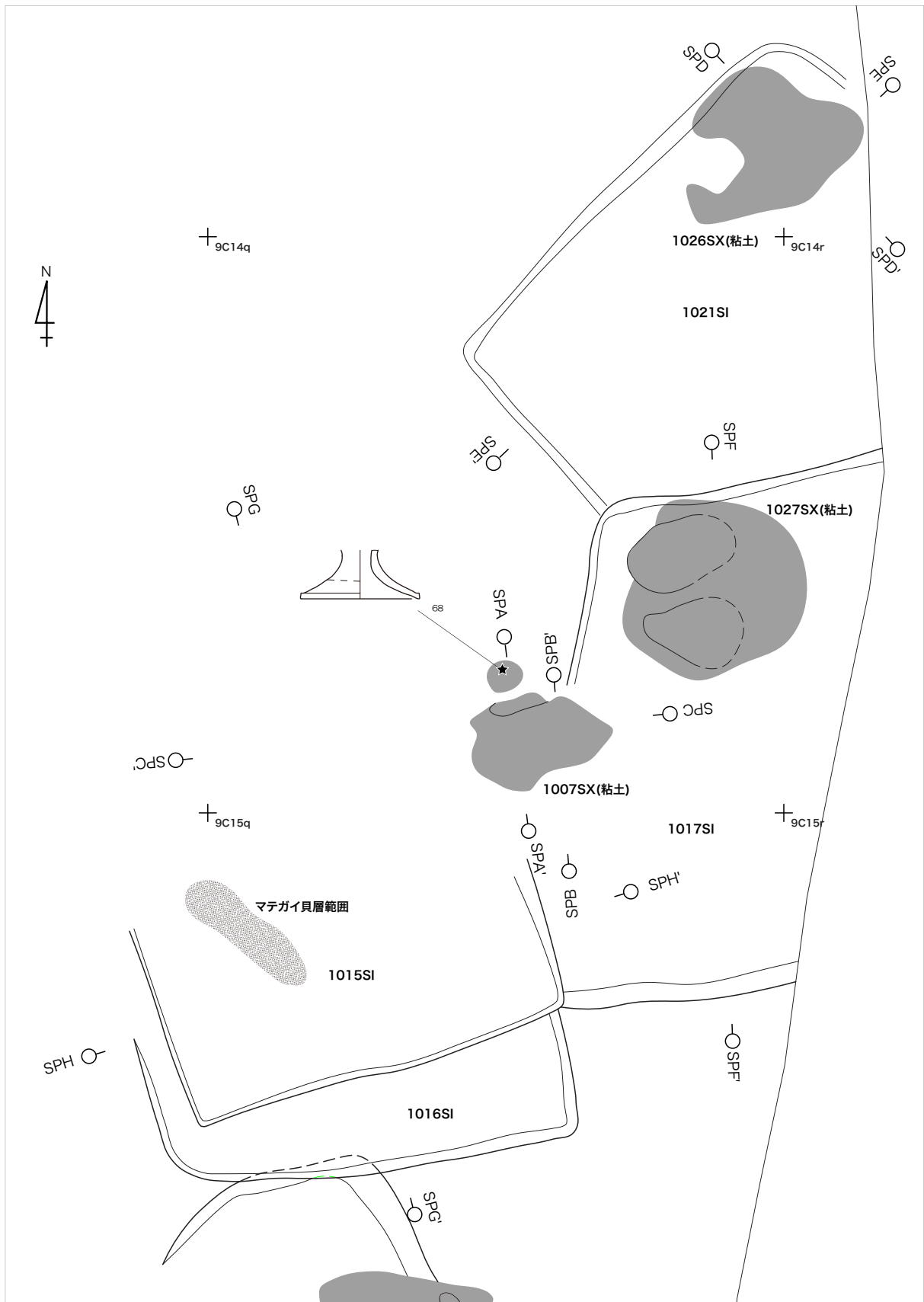
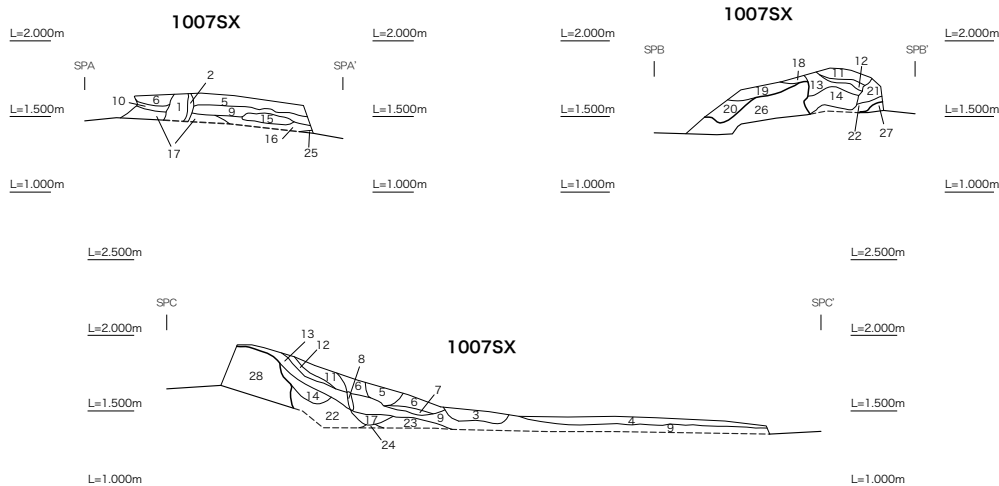
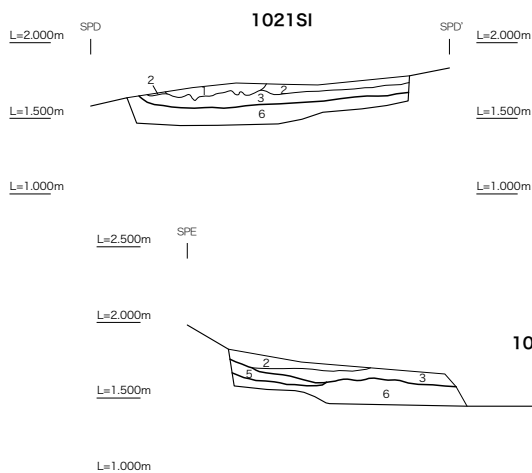


図 36 08Ab 区 1007SX・1015SI・1016SI・1017SI・1021SI・1026SX・1027SX 平面図【1:50】



Aライン・Bライン・Cライン共通

1	5GY6/1	オリーブ灰	粘土	2.5YR3/1暗赤灰色粘土ブロック(径2cm以下)をやや多く含む	15	5YR6/8	橙色	粘土	10R4/3赤褐色焼成粘土塊と混濁
2	2.5YR6/8	橙色	粘土	被熱による赤色化	16	2.5YR5/1	赤灰色	粘土	炭化物を多く含む。しまりは強い
3	2.5Y7/3	浅黄色	粗粒砂		17	7.5YR5/4	にぶい褐色	粗粒砂	5Y7/4浅黄色粘土ブロック(径5cm以下)を多く含む。炭化物を含む
4	7.5YR4/4	褐色	粗粒砂	7.5YR4/1褐色粗粒砂を多く含む	18	7.5YR3/4	暗褐色	粗粒砂	
5	10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂	2.5Y6/1黄灰色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を多く含む	19	7.5YR6/4	にぶい橙色	粗粒砂	
6	7.5YR6/4	にぶい橙色	粗粒砂	5GY6/1オリーブ灰色粘土ブロック(径1cm以下)をやや多く含む	20	7.5YR6/4	にぶい橙色	粗粒砂	5GY6/1オリーブ灰色粘土ブロック(径1cm以下)をやや多く含む
7	5YR6/8	橙色	粘土	10R4/3赤褐色焼成粘土塊と混濁	21	5YR2/1	黒褐色	中粒砂	炭化物を含む
8	2.5Y6/2	灰黄色	粘土	2.5YR4/2暗灰黄色粗粒砂を少量含む	22	10R3/1	暗赤灰色	粗粒砂	10R2/1黒褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)をやや多く含む
9	10YR6/2	暗赤灰色	粗粒砂	5Y6/1粘土ブロックを含む	23	7.5YR6/1	褐灰色	粘土	5Y7/4浅黄色粘土ブロック、5YR6/8橙色粘土ブロックを多く含む
10	2.5Y7/3	浅黄色	粗粒砂	粘土塊を多く含む。しまりはやや強い	24	10R4/2	灰赤色	粘土	焼成粘土塊あり
11	10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂	7.5YR6/4にぶい橙色粗粒砂をやや多く含む	25	7.5YR6/3	にぶい褐色	粗粒砂	しまりは弱い
12	10YR5/3	にぶい黄褐色	粗粒砂		26	7.5YR5/3	にぶい褐色	粗粒砂	10YR3/1黒褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)をやや多く含む。(1017SI埋土)
13	5Y7/4	浅黄色	粘土	2.5YR4/2暗灰黄色シルトと混濁	27	7.5YR4/1	褐灰色	粗粒砂	炭化物、粘土塊を含む。(1017SI埋土)
14	2.5YR4/2	暗灰黄色	粗粒砂	10YR2/1黒色粘土ブロックを多く含む。10R4/2灰赤色粗粒砂、10YR4/2灰黄褐色粗粒砂と混濁	28	10YR6/6	明黄褐色	中粒砂	10YR4/4褐色中粒砂、5Y7/4浅黄色粘土ブロック(径1cm以下)を多く含む



Dライン・Eライン共通

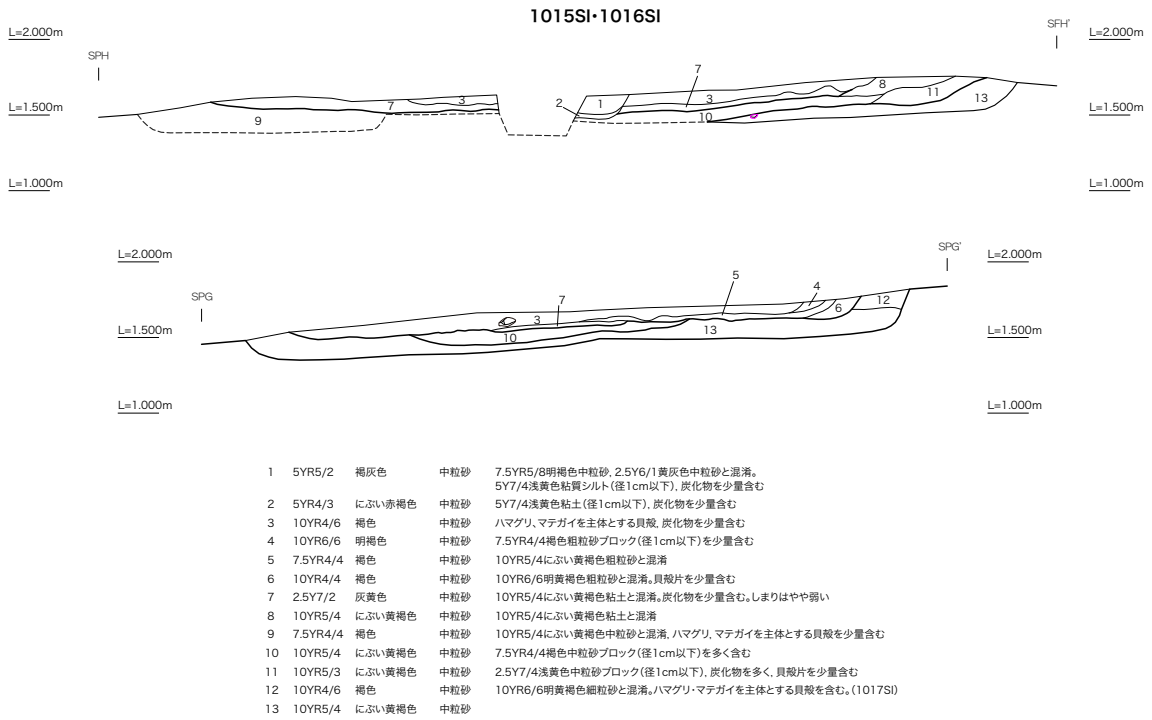
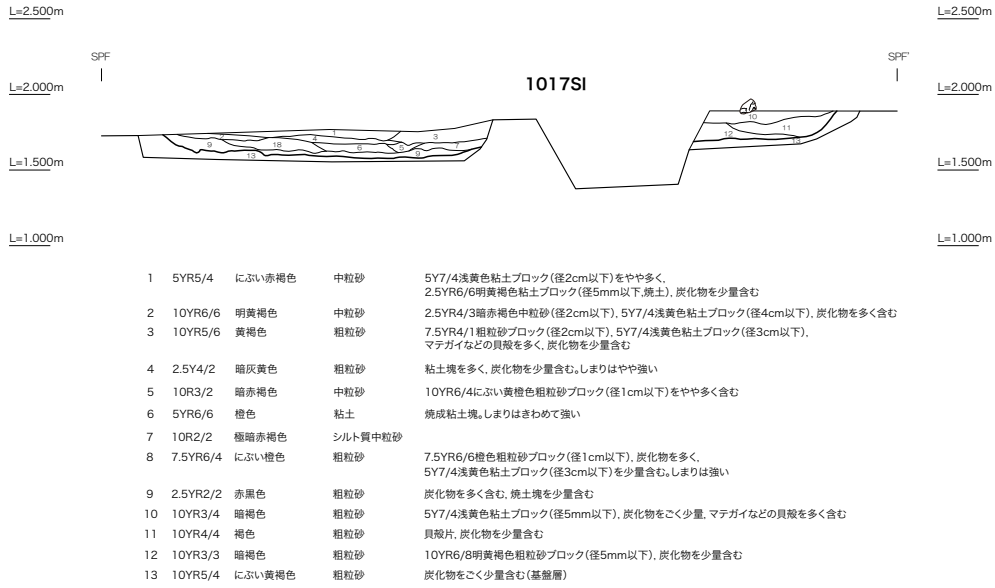
1	2.5GY6/1	オリーブ灰色	中粒砂混じりシルト	粘土塊を多く含む
2	2.5Y5/4	黄褐色	粗粒砂	炭化物をごく少量、粘土塊、ハマグリを主体とする貝殻を少量含む
3	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	炭化物を少量含む
4	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	
5	7.5YR6/4	にぶい橙色	粗粒砂	
6	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	

図 37 08Ab 区 1007SX・1015SI・

部分の裾野を沿うように巡る。1001SDはA'層直下で、1002SDはB'層直下で検出された。いずれも埋土から製塩土器5類がまとまって出土した。

3. 竪穴建物跡

1015SI・1016SI・1017SI・1020SI・1021SI・1028SI・1030SIが該当する。これらの遺構は、調査区中央の東側の15m×5mの範囲に重複して存在しており、調査区東側に展開する



1016SI・1017SI・1021SI・1026SX・1027SX 土層断面図【1:50】

ものと考えられる。これらの遺構は、R層の下で、いずれもW層の検出とともに確認されたことから、遺跡形成の初期段階で構築された遺構と考えられる。

1015SIは遺構の南半分のみしか確認できなかったもので、現状では、3.4×1.8m、深さ

14cmを測る。1016SIはこの1015SIに先行して構築されたものである。両者とも隅丸形状を呈する。いずれも柱穴の痕跡などを確認することができなかった。1015SIでは、遺構底面付近から1.3×0.4mの範囲で、マテガイの貝層ブロックを確認した。

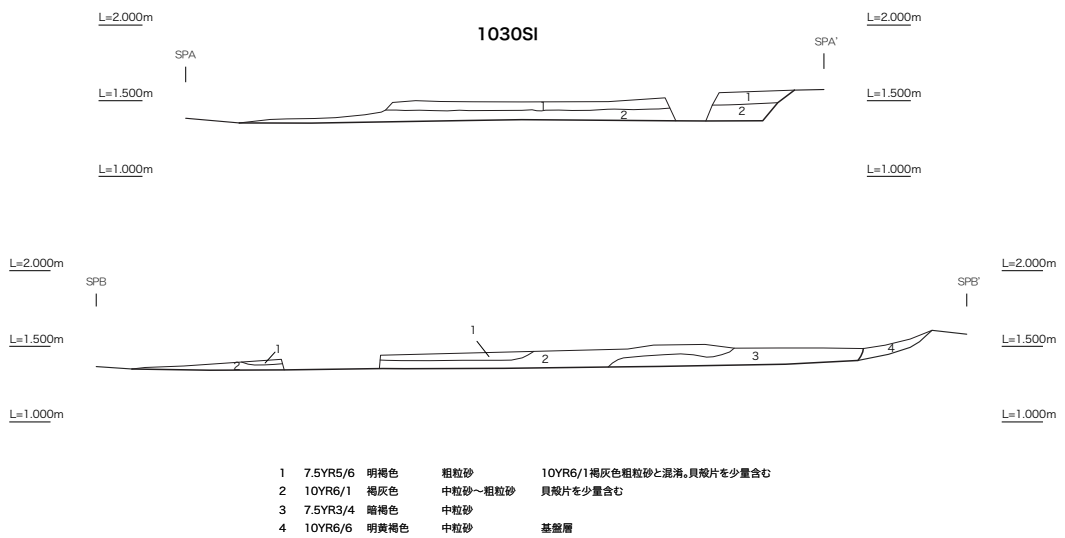
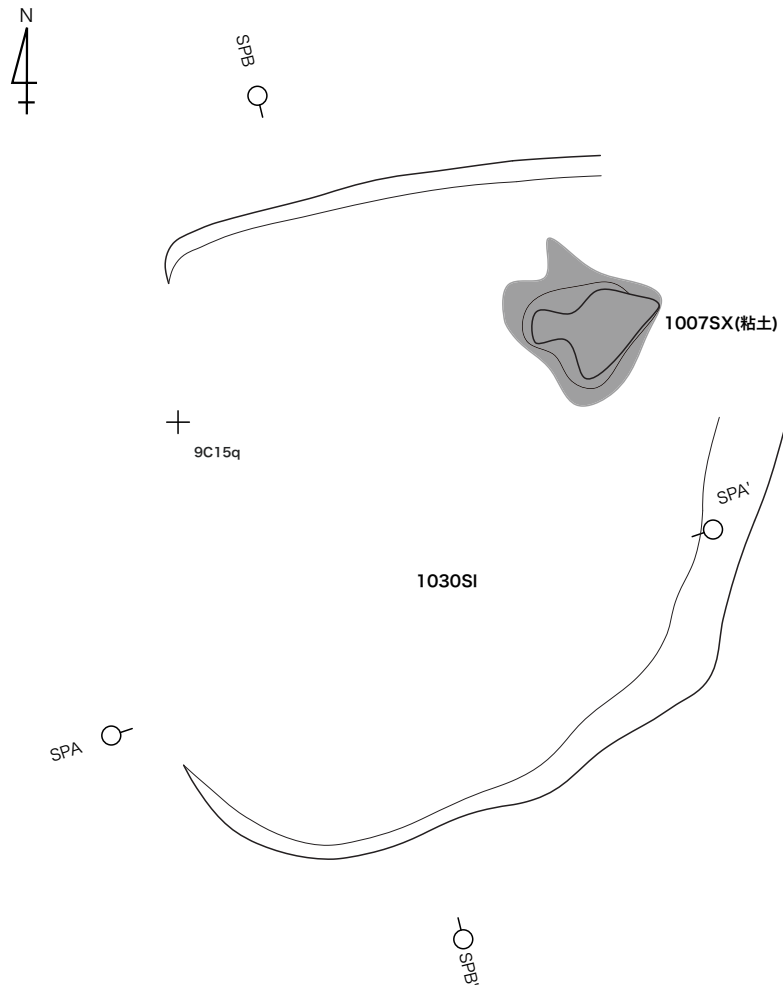
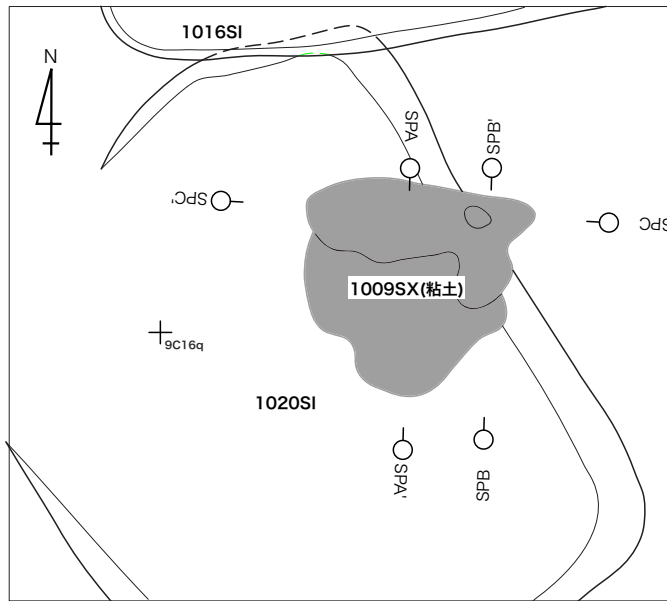


図 38 08Ab 区 1030SI 平面図および土層断面図【1:50】



1	10YR6/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	10YR5/6黄褐色砂を数条、粘土粒を多く含む
2	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂	炭化物を少量含む。しまりは弱い
3	2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	しまりは弱い。粘土粒を若干含む
4	10YR7/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	しまりは弱い。(植生痕か)
5	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	2.5Y7/4浅黄色粘土を斑状に、炭化物を多く含む。しまりはやや強い
6	2.5Y6/3	にぶい黄色	粘土	均質。粗粒砂若干含む。しまりは強い。
7	10YR5/1	褐灰色	粗粒砂	2.5Y7/4浅黄色粘土を斑状に、炭化物を多く含む。しまりは弱い
8	2.5Y6/3	にぶい黄色	粘土	均質。粗粒砂、焼土。炭化物を多く含む。しまりは強い
9	10GY8/1	明緑灰色	粘土	10YR6/4にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)。炭化物を多く含む
10	2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂	炭化物を少量含む。しまりは弱い
11	2.5GY7/1	明オリーブ灰色	粘土	2.5Y5/3黄褐色粗粒砂を多く含む
12	2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂	2.5Y7/4浅黄色粘土ブロック(径1cm以下)をやや多く含む
13	10YR5/1	褐灰色	粗粒砂	2.5Y7/4浅黄色粘土を斑状に多く、炭化物を多く含む。しまりは弱い
14	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	粘性あり。黒化が見られる。2.5Y7/4粘土ブロック(径1cm以下)。炭化物を多く含む
15	10R2/1	赤黒色	中粒砂	2.5Y5/3黄褐色粗粒砂。炭化物を多く含む

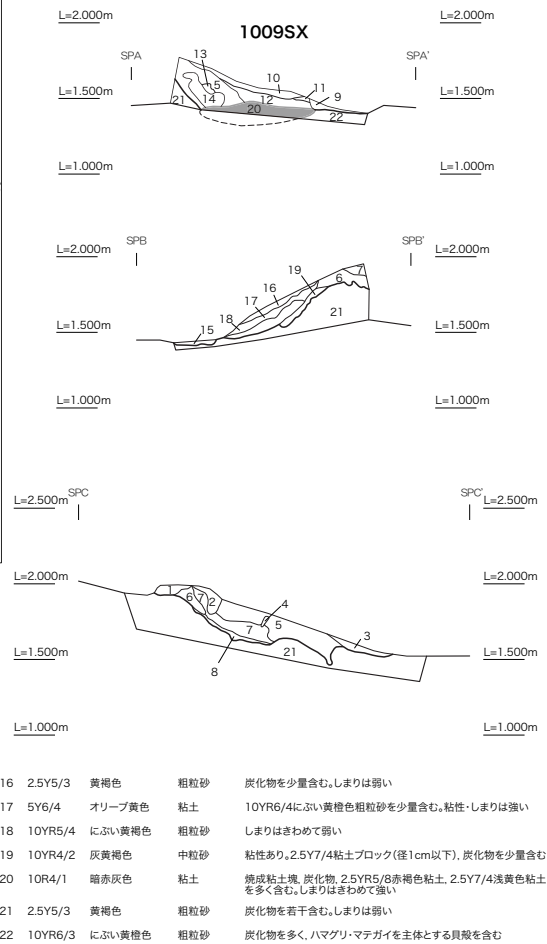


図 39 08Ab 区 1009X 平面図および土層断面図【1:50】

1017SI はやや不定形な形状で確認された遺構で、4.5×2.5m、深さ 20cm を測る。1017SI の埋土中に、焼けた粘土塊を検出して、これを 1027SX とした。1027SX は 1017SI の北側を中心に遺構全体に広がりか認められる。この場所は 1017SI の凹みになっている場所にあたり、かつこの上面をもって 1017SI 全体が平坦となるとこから、1017SI の一作業面(床面)の可能性がある。1027SX は、固く焼きしまっており、周囲の砂層に比べても安定した面を有していた。この硬化面については第 4 章第 1 節に分析結果を掲載した。1027SX の上層にあたる 1017SI の埋土からは、ハマグリ・マテガイを中心とする貝を多く出土し、かつ 1027SX 直上では、鹿角製鏃および

未加工のシカ中足骨 1 点が出土した。

1020SI は、4.4×3.5m で、深さ 10cm を測る、やや小型の隅丸方形を呈するものである。遺構内東側に寄った位置に 1009SX (粘土塊) を検出した。粘土塊は、内面が著しく被熱しており、カマドなど火を使った構造物であったと考えられる。この袋状に硬化した内面から、土師器などの遺物とともに細長く不定形に硬化した粘土塊が多数見つかった。また、遺構底面の埋土からはマテガイを主体とする貝殻が多数出土した。この遺構についても、柱穴の痕跡などは確認できなかった。また、この 1020SI に先行する遺構として 1028SI を確認した。現況で、5.0×4.1m、深さ 10cm を測る。埋土にはハマグリ・マテガイを主体とする

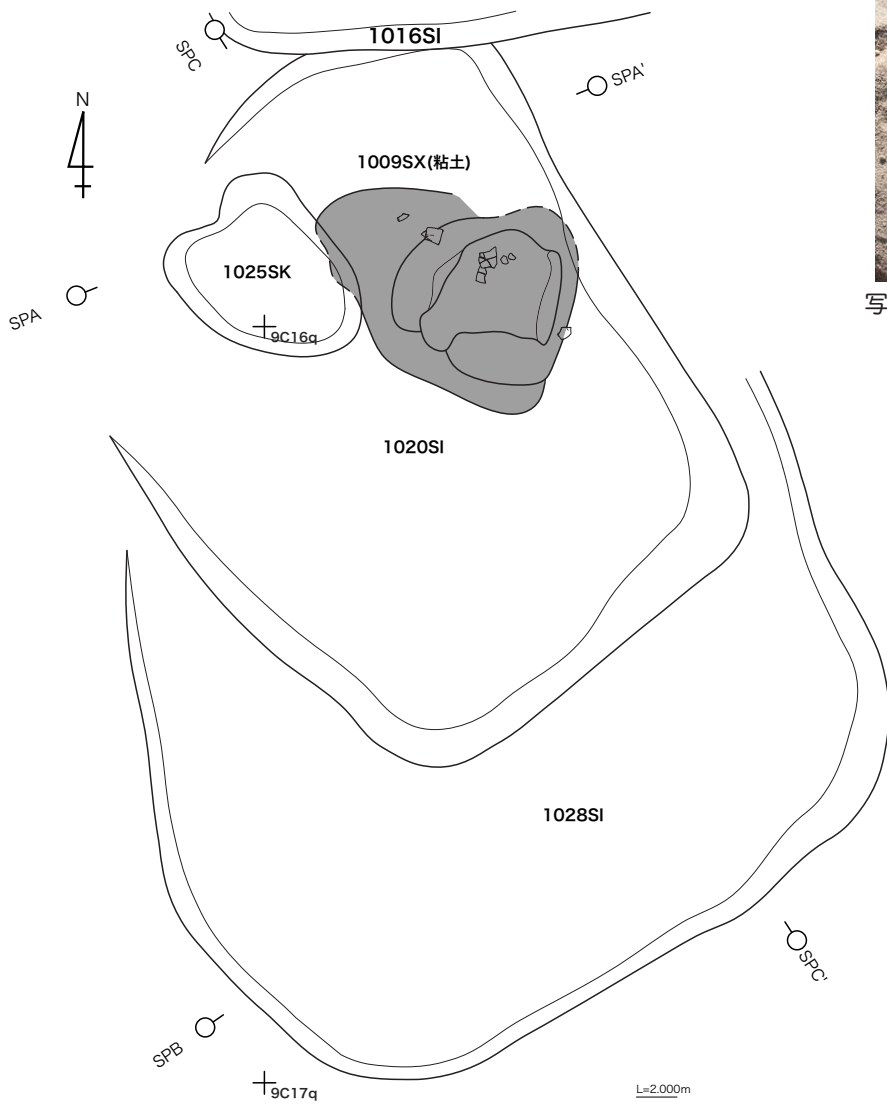
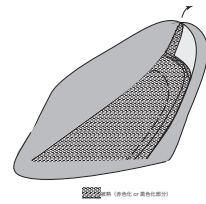


写真2 1009SX から出土した粘土塊



1009SX 模式図

- | | | | |
|---|----------------|-----|--|
| 1 | 7.5YR4/4 褐色 | 粗粒砂 | 5PB6/1青灰色粘質シルトを多く、10YR6/4粗粒砂ブロック(径1cm以下)をやや多く含む。(10I9SX) |
| 2 | 10YR5/6 黄褐色 | 粗粒砂 | 7.5YR4/4褐色粗粒砂と混濁。炭化物を少量含む |
| 3 | 10YR6/8 明黄褐色 | 粗粒砂 | 7.5YR4/4褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を少量。マテガイを主体とする貝殻を含む |
| 4 | 2.5Y4/2 暗黄褐色 | 粗粒砂 | 炭化物を少量含む |
| 5 | 2.5YR2/2 極暗赤褐色 | 粗粒砂 | 10YR6/6明黄褐色粗粒砂ブロックを多く含む |
| 6 | 2.5YR3/2 暗赤褐色 | 粗粒砂 | 2.5YR2/2極暗赤褐色粗粒砂と混濁。10YR6/6明黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm以下)を少量含む |
| 7 | 2.5Y5/1 黄灰色 | 中粒砂 | ハマグリ、マテガイを主体とする貝殻を少量含む |
| 8 | 2.5Y5/1 黄灰色 | 粗粒砂 | |

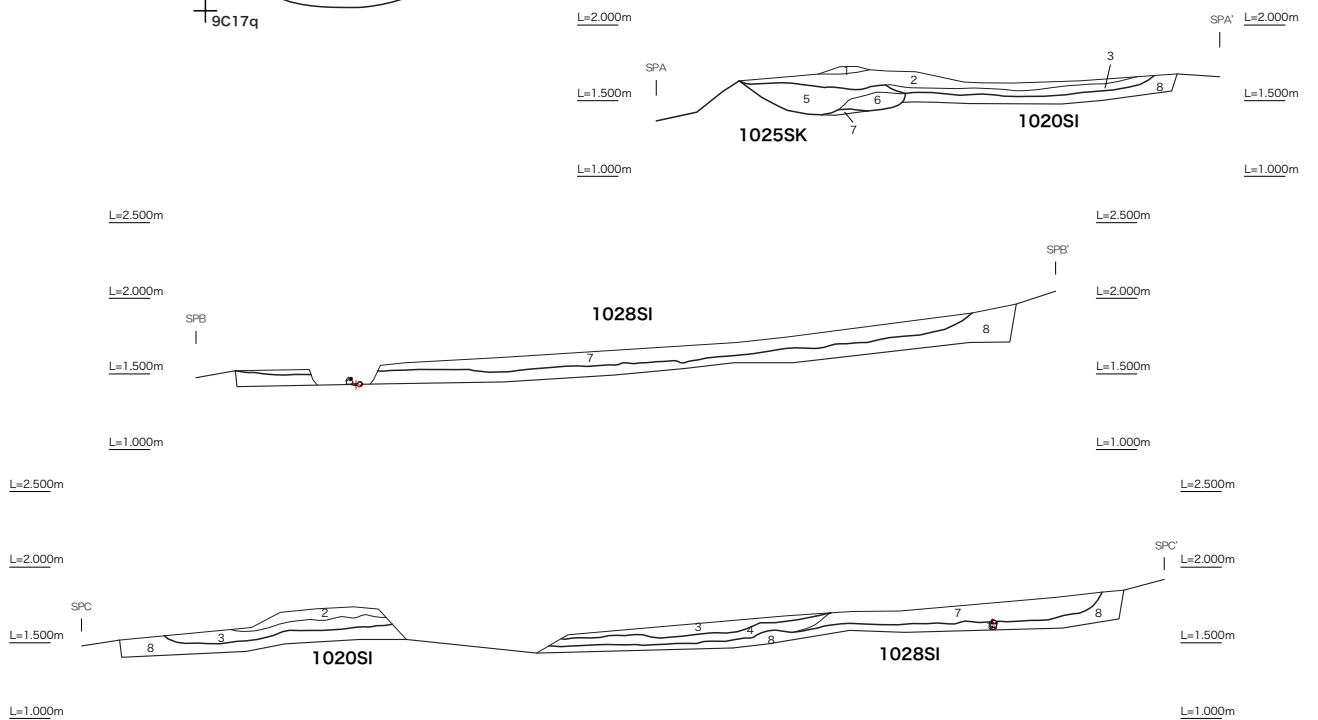


図40 08Ab区 1020SI・1025SK・1028SI 平面図および土層断面図【1:50】

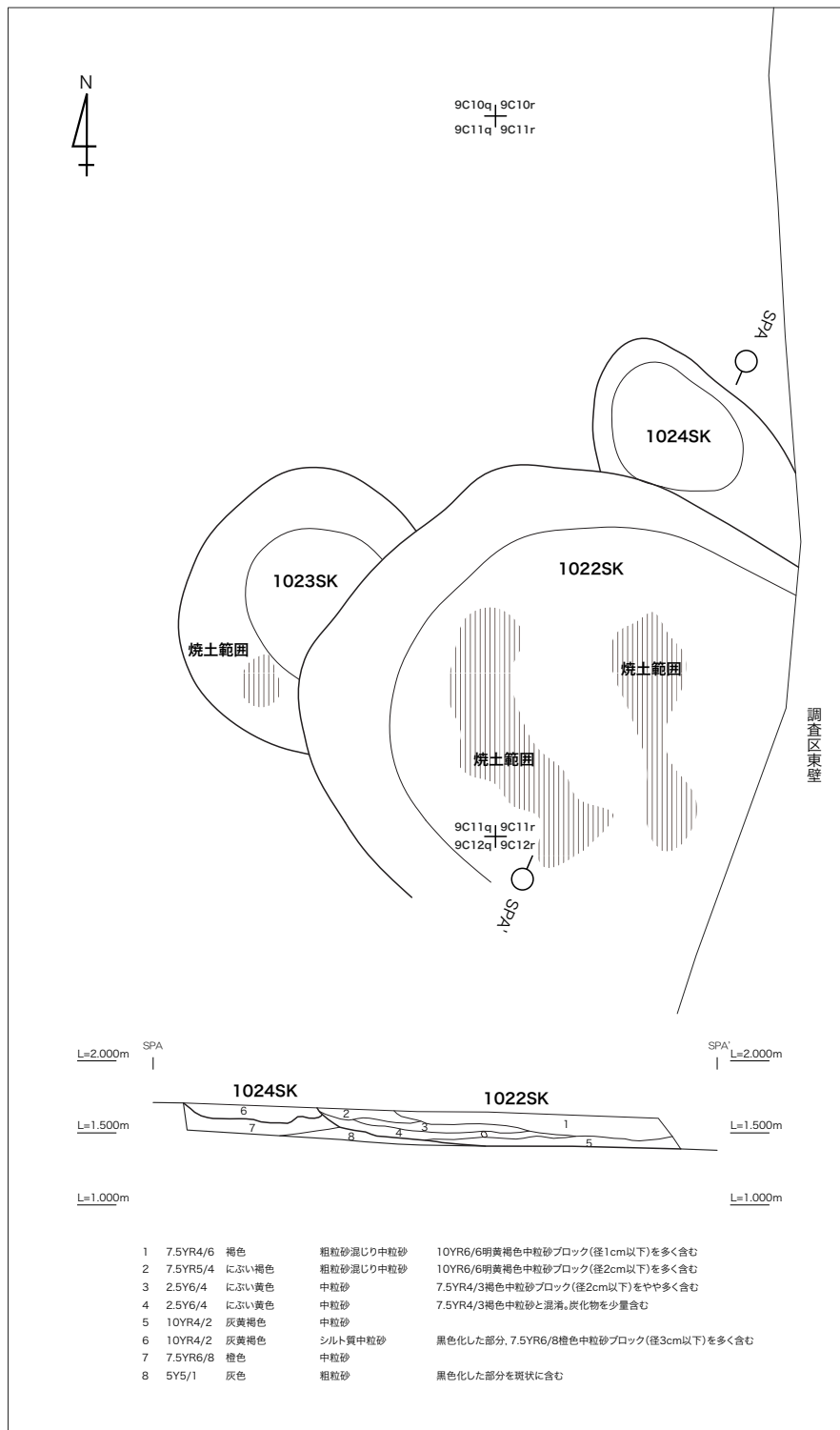


図 41 08Ab 区 1022SK・1023SK・1024SK
平面図および土層断面図【1:50】

貝殻が多く含まれていた。

1021SIはこの竪穴建物跡の展開する一群の最も北側に位置する遺構である。検出時で、4.0×3.3m×、深さ15cmを測る。遺構埋土には、ハ

マグリ・マテガイなどの貝とともに、焼土も含まれていた。1027SXは、遺構北角で確認された粘土塊であり、遺構底面から東側に向かって、層厚を増している。1026SXの直上に堆積している

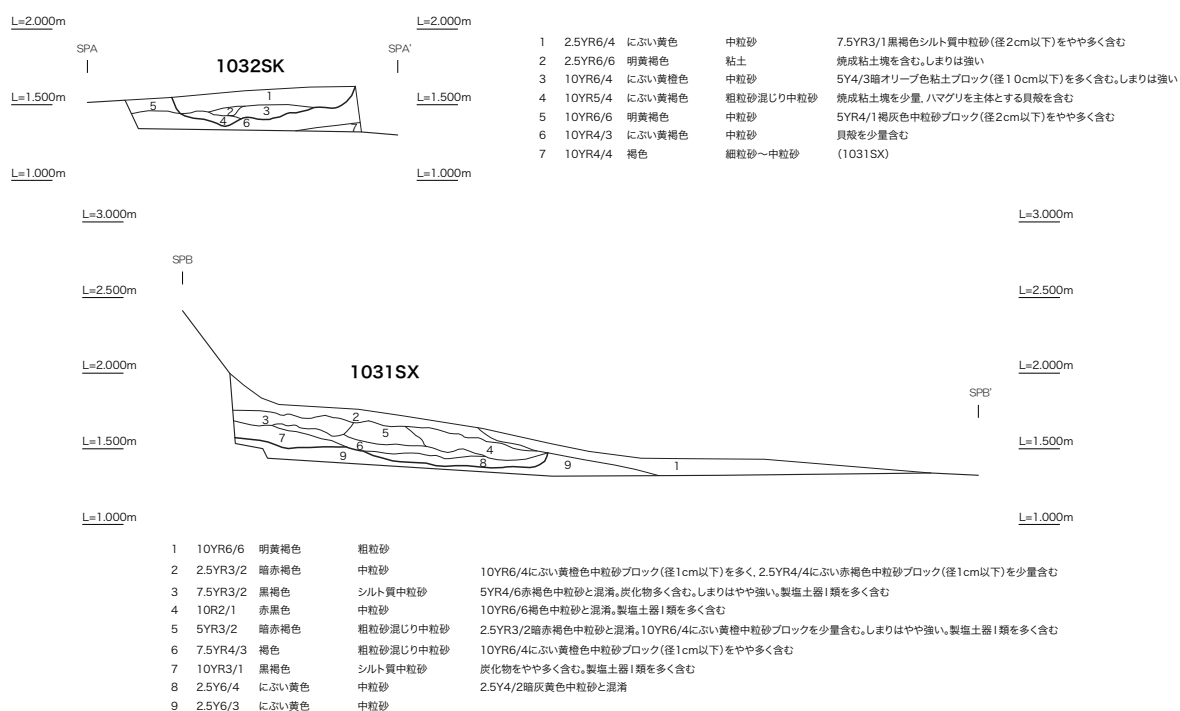
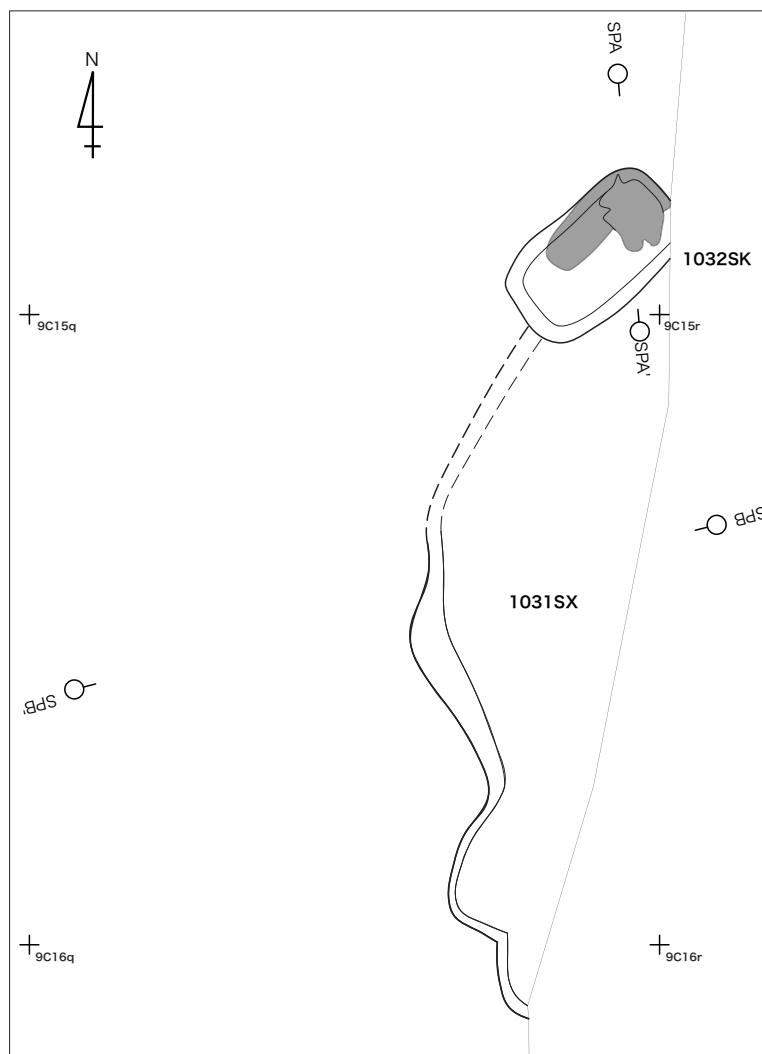


図 42 08Ab 区 1031SK・1032SK 平面図および土層断面図【1:50】

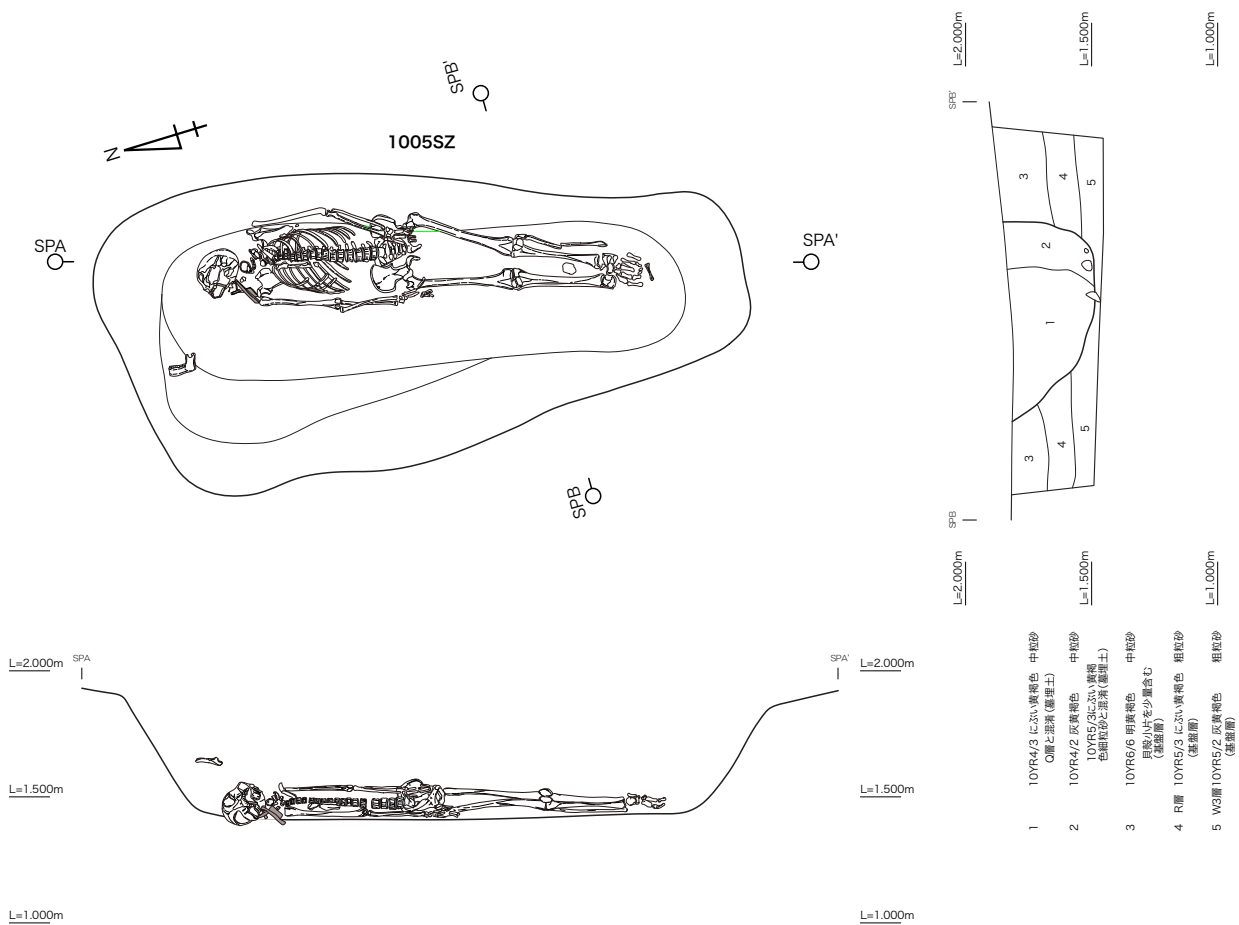


図 43 08Ab 区 1005SZ 平面図および土層断面図【1:30】

層からも炭化物少量と細片化された粘土塊が多く出土しており、構造物の底面の残存の可能性はある。この遺構についても柱穴などの痕跡は確認できなかった。

1030SI は 1015SI・1016SI に先行する竪穴建物跡である。検出時で、4.2×4.6m、深さ 15cm を測る。1030SI の中央の東壁付近には 1007SX (粘土) が存在しており、1030SX に伴うカマド状の遺構と考えられる。1007SX は、東側の傾斜に沿って、1.1×0.8m、厚さ 30cm を測る状態で検出した。検出時表面には被熱による赤色化などの様子は窺えられなかったものの、内面には被熱した底を観察することができた。

1031SX は調査区東端でごく一部が検出され、全体の形状が不明であるものの、上記報告した竪

穴建物跡あるいは竪穴状遺構になる可能性がある。検出時で、1.5×0.4m、深さ 50cm を測る。土層断面図では、竪穴状の落ち込みがそのまま調査区外東側に向かって伸びている様子を観察できる。埋土中からは製塩土器 1 類がまとまって出土した。

4. その他粘土塊

1018SX は、調査区西壁付近で見つかった遺構で、現況で 1.0×0.7m を測る楕円形を呈するプランである。掘り方といえるほどの明瞭な落ち込みはないものの、この範囲に被熱した粘土が充填されており、硬化した棒状の粘土塊を多数出土した。先に報告した竪穴建物跡群の位置に比べるとやや低位に位置する場所であるが、カマド状遺構

などの残存である可能性も考えられる。

5. 土坑など

1003SK は調査区中央部で検出された。1.9×0.9m、深さ 30cm を測る。断面形状は浅い皿状を呈しており、炭化物・焼土を包含する黒褐色の砂層で充填されていた。この遺構は、K 層掘削後に新たに検出された落ち込みで、層名としては K2 層としたものである。立位の状態で製塩土器 4 類が 1 点出土している。この遺構も S 層と同様に、土器製塩の場であった可能性が考えられる。

1022SK は調査区中央の東よりの、竪穴建物跡集中地区から 10m ほど北に位置する。1023SK・1024SK の後に形成された遺構で、3.3×3.0m、深さ 25cm を測る。土坑底面には、幅 0.5m 弱の帯状に焼土範囲が認められる。焼土・炭化物のほかに、ウシ中足骨などの動物骨が非解剖学的に集積された状態で出土した。

6. 埋葬人骨

1005SZ は土壇内に埋葬人骨が出土した遺構である。人骨は成人男性の一体分で、埋葬形態は仰臥伸展葬といえる。頭位は北向きで、顔を西に向けた状態、両手を腰に当て、両足は重ねられた状態である。土壇の法量は 2.6×1.2m、深さは 50cm を測り、北側に向かって西辺がやや開く形状を呈している。この付近は、製塩土器 4 類を出土する黒色シルト質砂層下の貝層 (Q 層) に相当する貝層が薄く残存している範囲である。この貝層を切る形で遺構が形成されたと考えられ、埋土中には貝片が多く含まれていた。人骨との共伴遺物には鉄器がある。鉄器は、口蓋部付近および右肩甲骨付近に計 5 点が絡んで出土した。[字状の形状を呈する不明鉄器がまとまって出土して

いるが、その他鎖状に連なったものや、鎌と考えられるものも出土している。陶器・土器などの出土がなく、出土遺物では年代が決定し得ない。炭素年代測定結果では 7 世紀代の年代が出た。人骨自体の報告は、第 4 章第 4 節に、放射性炭素年代測定結果および窒素・炭素安定同位体分析は、同章第 2 節・第 3 節に掲載する。



写真 3 1005SZ 共伴金属製品の出土状況復元

第5節 08B 区の層序と遺構

1. 概要および堆積層について

08B 区も南北に 250m 弱にわたる調査区である。この調査区でも、08Aa・Ab 区同様に、遺跡形成過程を重要視する理由から、調査グリッドに沿って、各所にトレンチを設定して、層序あるいは層名を決定してから、順次掘削を行なった。A 区とは別に B 区でも新規に A 層から番号を付した。調査時には、B-A 層、B-B 層、B-C 層……と記しているが、整理・報告に際しては、B 区であることを明示した上で、B- を省き、A 層・B 層・C 層…と記すこととする。

B 区は、北壁より 75m 付近と、それより南側では様相が大きく異なっている。北壁より 75m 付近では、調査前の形状としても高台が形成されており、調査前までは畑地であった。一方、75m 付近より南側では急に地形が落ち、調査前は水田が営まれていた区域である。

以下まずは、この北壁より 75m 付近までの高台部分を中心にした様相を報告する。層の面的な広がりについては、図 53・54 に、土層断面については図 45～52 に示した。

B 区では遺物包含層を A 層～O 層に分けて調査した。客土も含めて層の様相は以下の通りである。

客土 1 は、表土および畑耕作による土壌である。ビニールハウスなどの造営による箱掘り状の落ち込みもここに入れた。

A 層・B 層は、この客土 1 の下層、中世・近世頃に形成された面で確認された層である。

A 層は、にぶい黄褐色・褐灰色の中粒砂を、B 層は、褐色・にぶい黄褐色のシルト混じりの中粒砂を主体としており、特に B 層はハマグリなど

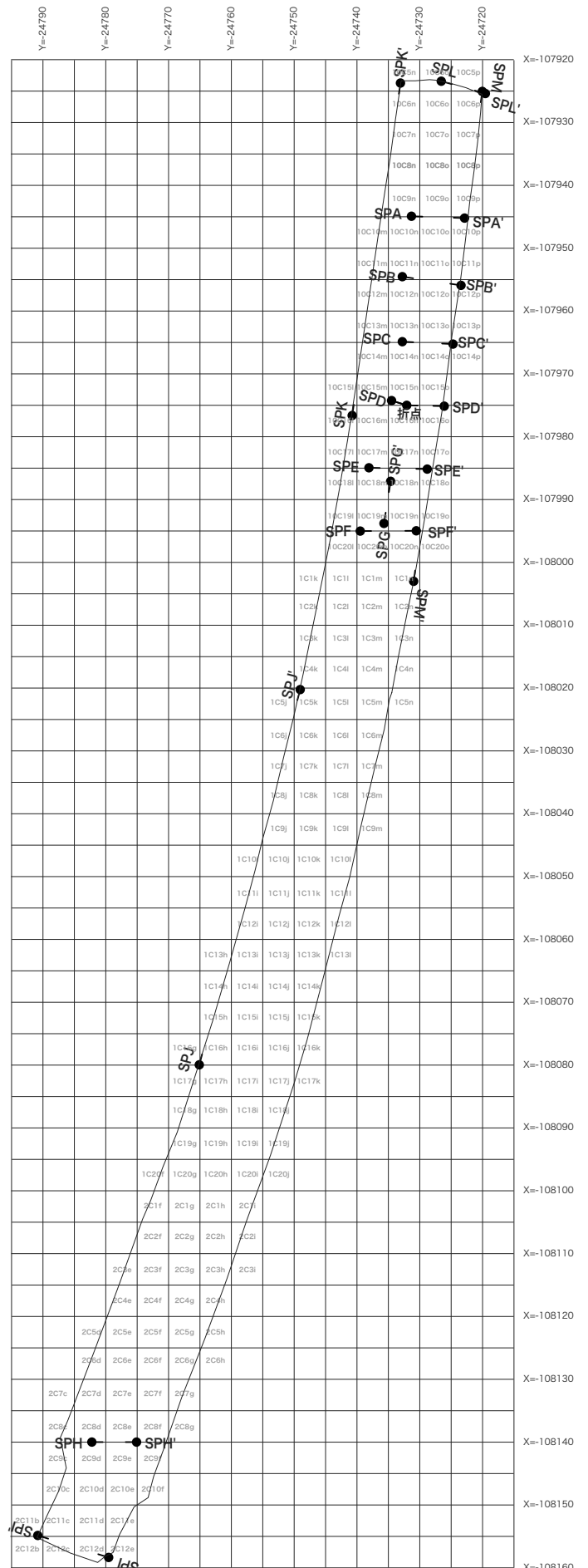
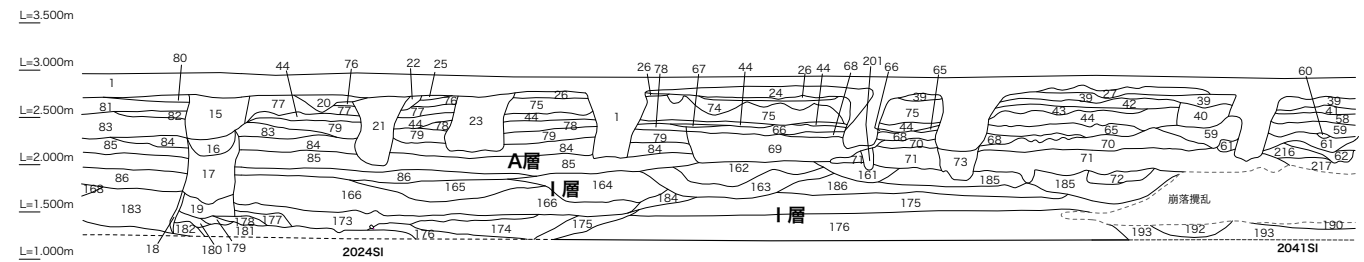
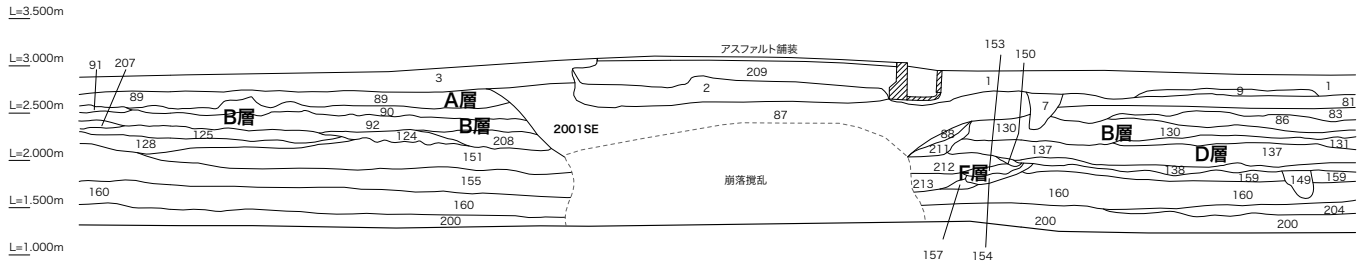
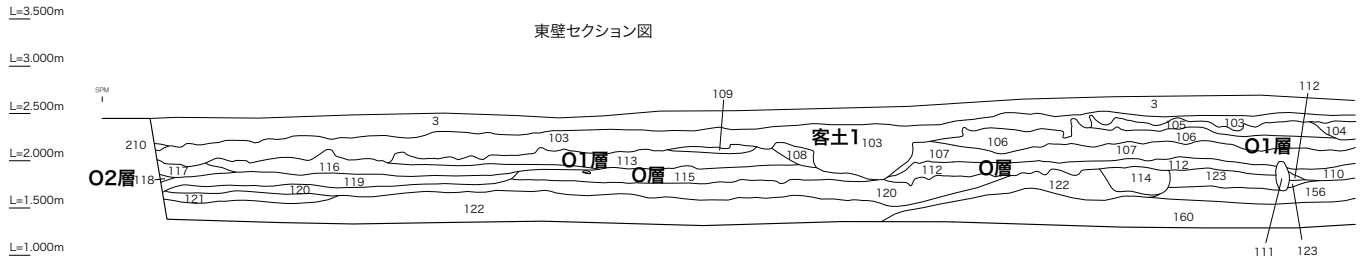
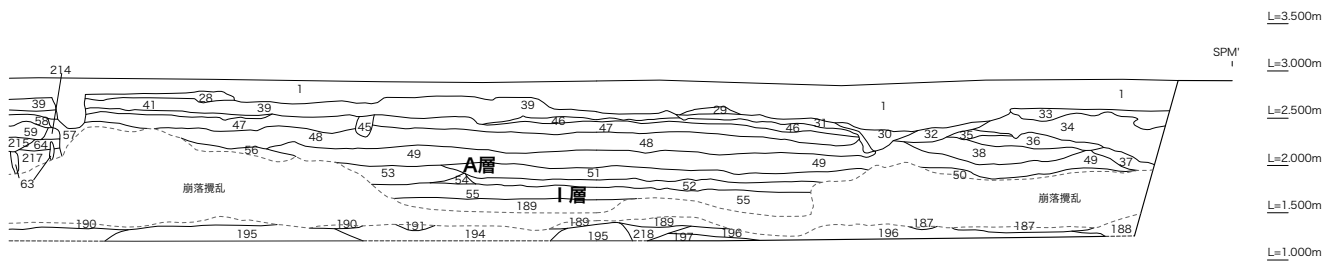
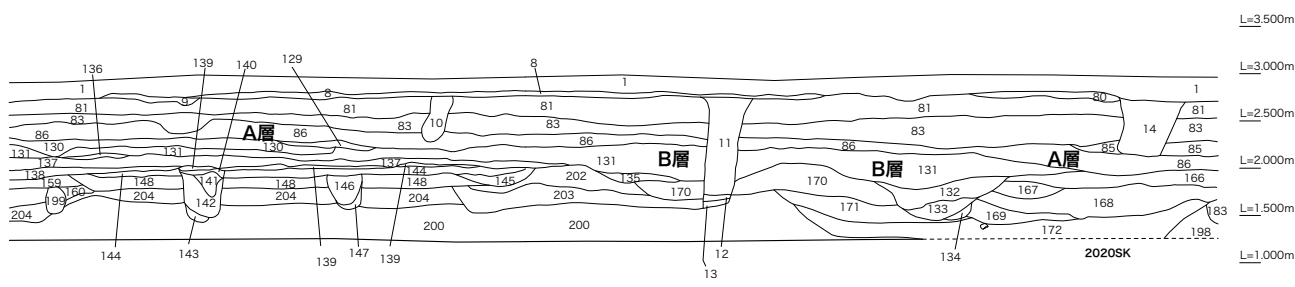
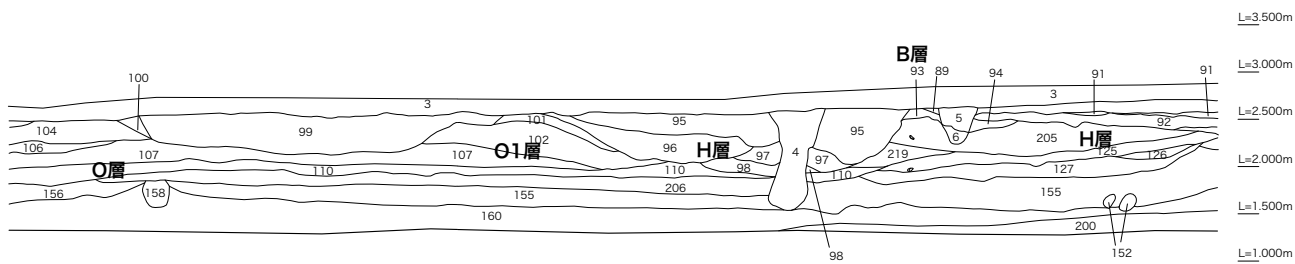


図 44 08B 区セクションポイント位置図



1	2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	粘土を多く含み、締まりは極めて強い	29	2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂	締まりは強い
2	10YR6/8	明黄褐色	中粒砂	道路敷	30	2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂	締まりはやや弱い
3	10YR5/3	にぶい黄褐色	細粒砂まじり中粒砂		31	N5/0	灰色	粘質シルト	締まりはやや強い
4	10YR3/4	暗褐色	細粒砂まじり中粒砂	小礫(径3cm)をやや多く含む	32	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	締まりはやや強い
5	10YR3/4	暗褐色	シルト混じり極細粒砂	貝殻片を多く含む。	33	10YR7/4	にぶい黄褐色	中粒砂	締まりはやや強い
6	10YR3/3	暗褐色	細粒砂		34	N5/0	灰色	粘質シルト	締まりは極めて強い
7	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト		35	10YR5/2	灰黄褐色	中粒砂	締まりはやや強い
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	細粒砂	締まりはやや強い	36	10YR5/1	褐灰色	中粒砂	締まりはやや強い
9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	細粒砂	締まりはやや強い	37	10YR4/1	褐灰色	中粒砂	締まりはやや弱い
10	10YR4/4	褐色	極細粒砂		38	10YR3/1	黒褐色	中粒砂	粘土を多く含み、締まりは極めて強い
11	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	2.5Y6/4にぶい黄色粘土ブロック(径3~10cm)をやや多く含む。硬化する	39	10YR7/4	黒褐色	中粒砂	締まりは強い
12	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘土	締まりはやや強い	40	10YR3/2	にぶい黄褐色		締まりはやや強い
13	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	締まりは強い	41	N5/0	灰色	粘質シルト	締まりは強い
14	2.5Y4/1	黄灰色	中粒砂	2.5Y7/1灰白色粘質シルトブロックを少量含み、しまりはやや強い	42	10YR3/1	黒褐色	中粒砂	締まりはやや強い
15	10YR6/3	にぶい黄褐色	中粒砂	10YR5/1褐灰色粗粒砂ブロックを少量含み、締まりはやや強い	43	7.5Y6/1	灰色	細粒砂	締まりは強い
16	2.5Y5/1	黄灰色	中粒砂	やや粘性あり、締まりは強い	44	2.5Y6/1	黄灰色	中粒砂	締まりはやや強い
17	2.5Y5/2	暗灰黄色	中粒砂	締まりは強い	45	2.5Y5/1	黄灰色	中粒砂	塩ビ管あり、締まりはやや弱い
18	7.5YR6/3	にぶい褐色	中粒砂		46	10YR5/1	褐灰色	中粒砂	締まりはやや強い
19	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	鉄分の沈着により変色か。締まりはやや強い	47	2.5Y5/2	暗灰黄色	中粒砂	締まりはやや強い
20	10YR4/1	褐灰色	中粒砂		48	10YR5/2	灰黄褐色	中粒砂	締まりはやや強い
21	2.5Y4/1	黄灰色	中粒砂	締まりはやや強い	49	A層10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	土師器片など多く含む。
22	10YR4/1	褐灰色	細粒砂	締まりは強い	50	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	
23	2.5Y6/3	にぶい黄色	細粒砂	締まりはやや強い	51	A層10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	土師器片など少量含む。
24	2.5Y8/1	灰白色	粘質シルト	10YR4/2灰黄褐色中粒砂ブロックを少量含み、締まりはやや強い	52	A層10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	
25	10YR4/1	褐灰色	細粒砂	締まりは強い	53	A層10YR4/1	褐灰色	中粒砂	土師器片を少量含む。
26	10YR4/1	褐灰色	細粒砂	締まりは強い	54	A層2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	小礫含む。
27	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	締まりは強い	55	I層2.5Y4/2	暗灰黄色	粗粒砂	
28	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	締まりは強い					

図 45 08B 区



56	A層	10YR5/1	褐灰色	中粒砂	
57		10YR5/2	灰黄褐色	中粒砂	締まりはやや弱い
58		7.5Y6/1	灰色	細粒砂	締まりはやや強い
59		10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	締まりはやや強い
60		10YR3/2	黒褐色	中粒砂	
61		10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	
62		10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
63		10YR3/1	黒褐色	中粒砂	
64		10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	
65		10YR6/4	にぶい黄褐色	中粒砂	
66		10YR6/4	にぶい黄褐色	中粒砂	
67		10YR5/6	黄褐色	中粒砂	
68		10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂	
69		10YR5/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
70		10YR5/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
71		10YR4/4	褐色	中粒砂	
72		10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	ハマグリを主体とする貝殻をやや多く含む
73		10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
74		N5/0	灰色	粘質シルト	締まりはやや弱い
75		2.5Y4/1	黄灰色	中粒砂	締まりは強い
76		10YR4/1	褐灰色	中粒砂	締まりはやや強い
77		10YR6/4	にぶい黄褐色	中粒砂	締まりは強い
78		10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
79		10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	
80		10YR4/2	灰黄褐色	細粒砂	締まりは強い
81		2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	
82		10YR5/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
83		10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	小礫やや多く含む。
84	A層	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	
85	A層	10YR4/1	褐灰色	中粒砂	
86	A層	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	小礫やや多く含む。硬化する。
87		10YR3/3	暗褐色	中粒砂	
88		10YR3/2	黒褐色	中粒砂	粘性あり。
89	A層	7.5YR3/4	暗褐色	細粒砂	
90	B層	7.5YR3/2	黒褐色	細粒砂	貝殻片を多く含む
91	B層	7.5YR4/3	褐色	シルト混じり中粒砂	
92	B層	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト混じり中粒砂	ハマグリを主体とする貝殻片を多く含む。締まりはやや強い
93	B層	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト混じり中粒砂	ハマグリを主体とする貝殻片を多く含む。締まりはやや強い
94		10YR4/4	褐色	細粒砂	
95		10YR3/2	黒褐色	シルト混じり中粒砂	ハマグリを主体とする貝殻片を多く含む。締まりはやや強い
96	H層	10YR3/1	黒褐色	中粒砂	貝殻片を少量含む。
97	H層	10YR4/1	褐灰色	中粒砂	貝殻片を極少量含む。
98	H層	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻片を極少量含む。
99		10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	貝殻片をやや多く含む。
100		10YR5/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
101	O1層	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
102	O1層	10YR4/1	褐灰色	中粒砂	
103	客土1	10YR3/4	暗褐色	中粒砂	小礫(径3cm)をやや多く含む
104	O1層	10YR3/4	暗褐色	粗粒砂	小礫(径5mm)をやや多く含む。
105	O1層	10YR6/4	にぶい黄褐色	中粒砂	
106	O1層	10YR6/6	明黄褐色	中粒砂	
107	O1層	10YR7/6	明黄褐色	粗粒砂	
108	O1層	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂	
109	O1層	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂	
110	O層	10YR4/4	褐色	粗粒砂	

土層断面図1【1:80】

111	10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂			166	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	2.5Y5/4黄褐色中粒砂ブロック(径5cm)をやや多く含む。
112	0層10YR4/褐色	粗粒砂	炭化物をやや多く含む			167	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	小礫を少量含む。
113	01層0YR7/6	明黄褐色	粗粒砂			168	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	小礫を多く含む。
114	10YR5/6	にふい黄褐色	極粗粒砂	10YR7/6明黄褐色極粗粒砂小ブロックおよび小礫を多く含む。		169	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	2.5Y4/2暗灰黄色中粒砂小ブロックを多く含む。 小礫(径5mm)を少量含む
115	0層10YR4/褐色	粗粒砂	炭化物をやや多く含む			170	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	
116	01層0YR7/4	にふい黄褐色	中粒砂	炭化物を少量、ハマグリを主体とする貝殻を含む		171	2.5Y3/2	黒褐色	粗粒砂	
117	01層0YR7/6	明黄褐色	粗粒砂	10YR5/6黄褐色粗粒砂小ブロック(径5cm)を多く含む		172	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂	
118	02層.5Y4/1	黄灰色	粗粒砂			173	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	2.5Y4/1黄灰色中粒砂小ブロックをやや多く含む。
119	0層10YR6/4	にふい黄褐色	粗粒砂	小礫(径2cm)をやや多く、ハマグリを主体とする貝殻・炭化物粒を含む		174	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	やや赤みがかる
120	10YR6/6	明黄褐色	中粒砂			175	1層 2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒砂混じり中粒砂	
121	10YR6/6	明黄褐色	中粒砂	小礫を多く含む。		176	1層 10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂混じり中粒砂	
122	10YR3/4	暗褐色	細粒砂			177	5Y5/2	灰オリーブ	粘土	炭化物・焼土を少量含む。
123	10YR3/4	暗褐色	中粒砂			178	10YR4/2	灰黄褐色	粘土	被熱によりややしまる
124	B層10YR3/3	暗褐色	中粒砂	貝殻細片をやや多く含む。		179	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	やや粘性あり
125	0層10YR5/3	にふい黄褐色	細粒砂	10YR3/3暗褐色細粒砂小ブロックを多く含む。		180	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	
126	10YR5/4	にふい黄褐色	中粒砂			181	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	
127	10YR4/褐色	中粒砂	貝殻片を少量含む。			182	10YR4/2	灰黄褐色	粘質粗粒砂	
128	10YR7/6	明黄褐色	粗粒砂			183	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	色調やや暗い
129	B層10YR3/2	黒褐色	中粒砂			184	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	小礫(径5cm)を多く含む。
130	B層10YR3/3	暗褐色	中粒砂	小礫(径5mm)を少量含む。色調は86層よりやや暗い。		185	10YR3/1	黒褐色	粗粒砂混じり中粒砂	ハマグリを主体とする貝殻多く含み硬化する。 2.5Y6/4にふい黄色粗粒砂小ブロックを南側に多く含む。 土師器片を極少量含む。
131	B層10YR3/3	暗褐色	中粒砂	小礫をやや多く含む。やや赤みがかる。		186	1層 2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂混じり中粒砂	
132	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	貝殻の微細片を少量含む。		187	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂	
133	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻片を極少量含む。		188	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	
134	10YR3/1	黒褐色	中粒砂			189	1層 10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	
135	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂			190	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂混じり細粒砂	
136	B層10YR3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻を少量含む。		191	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	
137	D層10YR2/3	黒褐色	中粒砂	土師器微細片をやや多く、ハマグリを主体とする貝殻微細片を多く含み、締まりはやや強い		192	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	貝殻片を少量含む。色調やや暗い。
138	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂			193	2.5Y4/2	暗灰黄色	粗粒砂混じり中粒砂	
139	10YR3/4	暗褐色	中粒砂	貝殻の微細片を極少量含む。硬化する。		194	2.5Y5/2	暗灰黄色	極粗粒砂	
140	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	硬化する。		195	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒砂	色調やや赤い。地山
141	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂			196	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒砂	
142	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	やや赤みがかる。		197	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒砂	色調やや赤い。
143	2.5Y5/2	暗灰黄色	粗粒砂			198	10YR4/褐色	粗粒砂		
144	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	硬化する。		199	2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂	
145	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	小礫(径1cm)を極少量含む。176層より色調やや明るい。		200	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒砂	やや赤みがかる。小礫を多く含む。地山
146	10YR4/3	にふい黄褐色	粗粒砂混じり中粒砂			201	10YR5/4	にふい黄褐色	中粒砂	
147	2.5Y5/2	暗灰黄色	粗粒砂			202	2.5Y4/2	暗灰黄色	粗粒砂混じり中粒砂	
148	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	硬化する。		203	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粗粒砂	やや赤みがかる。
149	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂			204	2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂混じり中粒砂	7.5YR3/2黒褐色中粒砂ブロック(径30cm)を両端に含む。
150	F層10YR3/3	暗褐色	中粒砂			205	H層 10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	貝殻を少量含む
151	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	貝殻の微細片を極少量含む。		206	10YR5/3	にふい黄褐色	中粒砂	
152	10YR5/4	にふい黄褐色	粗粒砂			207	H層 10YR3/3	暗褐色	中粒砂	
153	F層2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	貝殻の微細片を極少量含む。		208	B層 10YR3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻細片を少量含む。
154	F層10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	貝殻の微細片を極少量含む。色調は153層よりやや明るい。		209	N7/0	灰白色	礫	礫(径3cm)の砕石。道路敷
155	2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂	小礫(径5mm)を多く含む		210	10YR5/6	黄褐色	中粒砂	
156	2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂	小礫(径5mm)を多く含む		211	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	
157	F層2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂			212	F層 7.5YR5/4	にふい褐色	粗粒砂	貝殻片を少量含み、締まりはやや弱い
158	10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂	小礫を多く含む。		213	F層 7.5YR5/3	にふい褐色	粗粒砂	炭化物粒を極少量含む
159	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂			214	7.5YR7/2	明褐色	シルト質中粒砂	締まりは強い
160	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂	小礫を少量含む。		215	7.5YR4/2	灰褐色	粗粒砂	
161	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂			216	7.5YR3/1	黒褐色	粗粒砂	シルトを含み、締まりはやや強い
162	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	小礫をやや多く含む。ハマグリを主体とする貝殻を上部に多く含む。		217	7.5YR4/1	褐色	粗粒砂	シルトを含み、締まりはやや強い
163	1層 2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂			218	2.5Y4/1	黄灰色	粗粒砂	
164	1層 2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂	小礫(径5cm)を極少量含む。		219	H層 10YR5/1	褐色	中粒砂	貝殻細片を少量含む。
165	1層 2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂							

の破碎された貝殻を多く含み、しまりは強かった。この段階で近世の井戸（2001・2002SE）を検出した。

C層～H層は、その下に堆積した、古代以前の包含層で、2004SXなど、灰釉陶器を出土する遺構の前後に形成されたのと考えられる。これらの層は、大きく2群に分けることができる。

C1層・C2層は破碎された貝を含む砂層であるが、2005SDの埋土に相当する。また、D層はハマグリなどの破碎された貝殻を多く含むしまりの強い砂層で、2004SXの埋土に相当する。

E層・F層は、この高い部分の南側に広がる堆積層である。貝殻のみならず、土器片など各遺物が破碎された状態を示していた。この面では、かつての砂堆の高まりに沿って構築された、溝が2条見つかっている（2019SD・2021SD）。これらの溝は高台の中央付近に比べて、やや低位のレベルからの検出となった。

G層・H層は、調査区中ほどに広がっていた堆積層で、若干の破碎された貝殻を含む層である。

I層・J層は、高台部分南側の竪穴建物跡を覆っていた堆積層である。I層はやや破碎気味の貝層であり、貝の包含の様子から、I1層～I4層に細別した。J層は、2036SIとした竪穴建物跡の埋土にあたる。M層は、高い部分の北側、貝殻を含む堆積層である。N層は、調査区北西端の低位部分であるが、遺物包含が認められた砂層の範囲である。これは12A区側へと展開して行くものと考えられる。

この高い部分の砂堆は、後述するように、調査区北東に向かって、より古い堆積層が存在していることが明らかとなった。その高い部分に堆積していた、破碎された貝殻を含む砂層をO層とした。

2. 各遺構の様相

調査を4回に分けて行なったが、それぞれの形成時期を、以下のように推定している。

第1面 中世以降

第2面 古代（製塩土器4類・5類）

第3面 古墳時代～古代

（製塩土器 松崎類～4類）

第4面 古墳時代前期～中期

（製塩土器 松崎類）

a. 第2面目の遺構

この段階の遺構としては、溝および不定形な土坑があり、溝の存在が特に顕著である。2005SD・2019SD・2021SDは高台に対して横走する溝で、幅1m前後と類似した法量を呈する。また、2007SDはそれらの溝とは直行する方向に展開している。これらは区画溝として機能していたものと考えられる。また、2004SXはこれら溝と方向を合わせて見つかっている。

2004SXは現況で10×4m、深さ15cmを測る。全体の形状は不明であるが、南西隅は隅丸方形形状を呈する。この遺構底面からは砥石・台石や敲打など使用痕のある多数の礫および灰釉陶器が出土した。この落ち込みの埋土中には、貝殻の出土が多数あった（D層）。しかし、東壁セクション側では、落ち込みの形状も不明瞭であることから、人工掘削の遺構ではなく、堆積層の可能性もある。

2005SDは高台を横走する溝で、検出時で、幅1.5～1.8m、深さ40cmを測る。この埋土は、シオフキ・ハマグリなどの貝を主体とする黒褐色砂であった。

2007SDは高台を縦走する溝で、幅は北側で

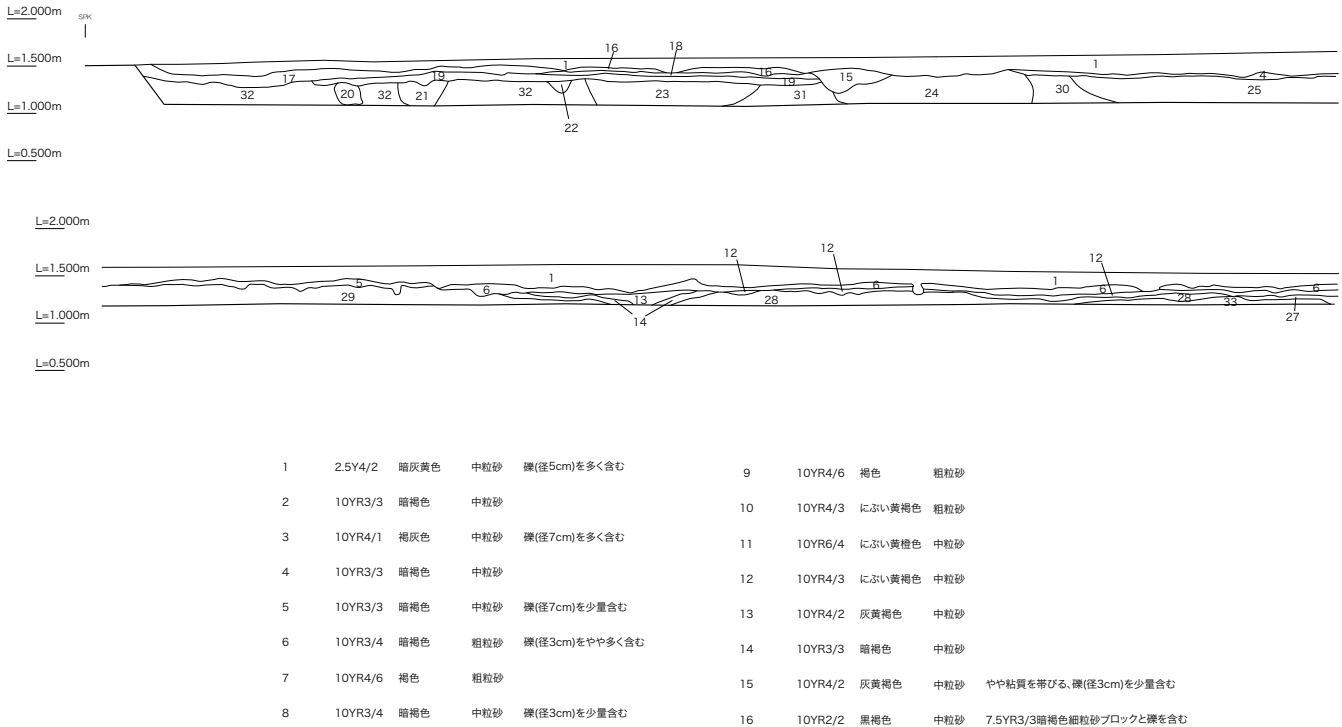


図 46 08B 区

1.7m、南側で 0.6m を測る。この埋土も、シオフキ・ハマグリなどの貝を主体とする黒褐色砂であった。

2009SI と 2025SI は、2025SI が先行し、2009SI が後に築かれた (図 64)。いずれも、高台の西端が削られたことにより、遺構の東端がごく一部残存している状態である。2009SI は、残存状態で、6.1×2.0m、深さ 35cm を測る。2025SI も同様に、4.1×2.3m、深さ 30cm を測る。2009SI 東壁付近では、1.2×0.9m の範囲で、焼けた粘土塊の広がり認められ、これがカマドであると考えられる。周囲には須恵器などの陶器片が散乱していた。

b. 第 3 面目の遺構

1. 竪穴建物跡および竪穴状遺構

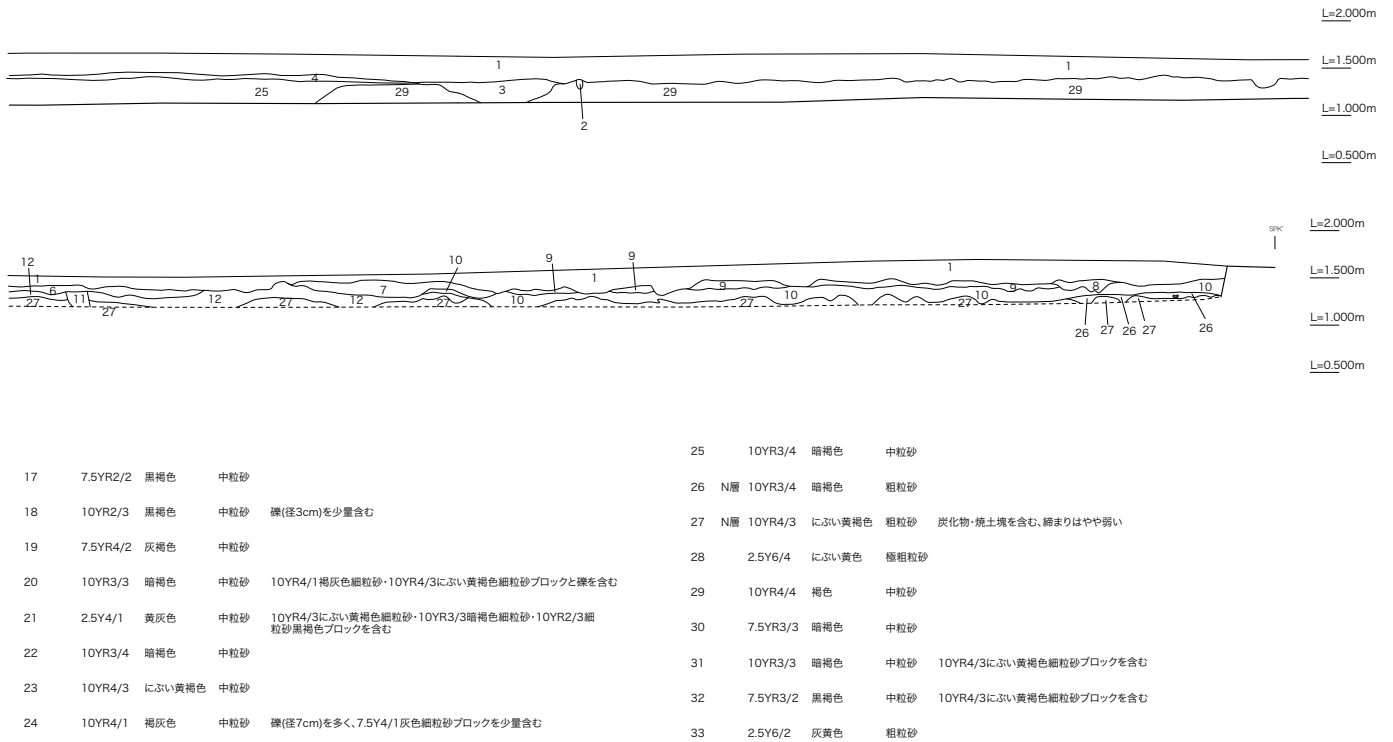
08B 区で該当遺構を 17 基 (軒) 確認した。これらの遺構には、形成時期が第 4 面目にさかのぼ

る可能性のあるものも含まれている。第 4 面目とした 2043SI も含めてここで報告する。

2018SI は高台の南西端で、東隅のみが確認された。埋土には焼土などの包含はなく、層の堆積の可能性もある。

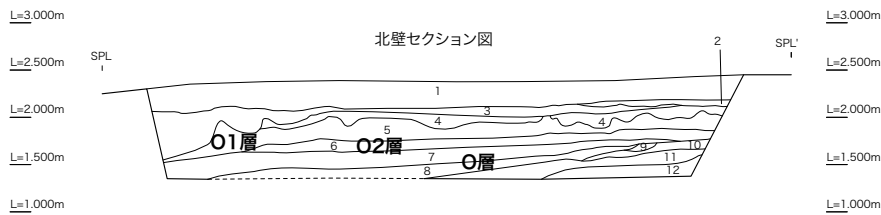
2020SI は高台の中央付近、東壁付近に位置しており、西側半分のみを確認した (図 62)。一辺 4.8m の隅丸方形を呈するプランで、深さ 60cm を測る。遺構中央底面には、2×2m、厚さ 15cm を測る、焼けた粘土塊が検出された。周辺には炭化物・焼土粒が散乱しており、これがカマドなど火を使った構造物の痕跡であると考えられる。この粘土塊周辺では、土師器・須恵器を出土した。

2024SI は 2020SI の南隣で確認された遺構である (図 63)。調査区の東側にさらに展開すると思われるもので、確認された部分の法量は 4.8×4.0m、深さ 40cm 弱の、隅丸形状を呈する。北壁には、1.5m に渡って張り出し部分が

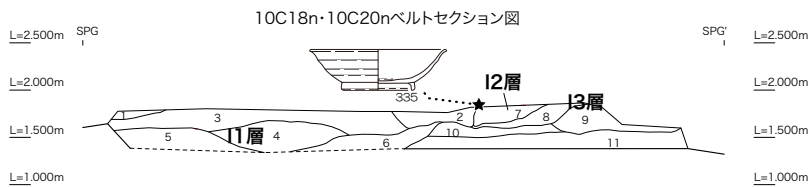


17	7.5YR2/2	黒褐色	中粒砂		25	10YR3/4	暗褐色	中粒砂
18	10YR2/3	黒褐色	中粒砂	礫(径3cm)を少量含む	26	N層 10YR3/4	暗褐色	粗粒砂
19	7.5YR4/2	灰褐色	中粒砂		27	N層 10YR4/3	にぶい黄褐色	粗粒砂 炭化物・焼土塊を含む、締まりはやや弱い
20	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	10YR4/1 褐灰色細粒砂・10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂ブロックと礫を含む	28	2.5Y6/4	にぶい黄色	極粗粒砂
21	2.5Y4/1	黄灰色	中粒砂	10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂・10YR3/3暗褐色細粒砂・10YR2/3細粒黒褐色ブロックを含む	29	10YR4/4	褐色	中粒砂
22	10YR3/4	暗褐色	中粒砂		30	7.5YR3/3	暗褐色	中粒砂
23	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂		31	10YR3/3	暗褐色	中粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂ブロックを含む
24	10YR4/1	褐灰色	中粒砂	礫(径7cm)を多く、7.5Y4/1灰色細粒砂ブロックを少量含む	32	7.5YR3/2	黒褐色	中粒砂 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂ブロックを含む
					33	2.5Y6/2	灰黄色	粗粒砂

土層断面図 2【1:80】



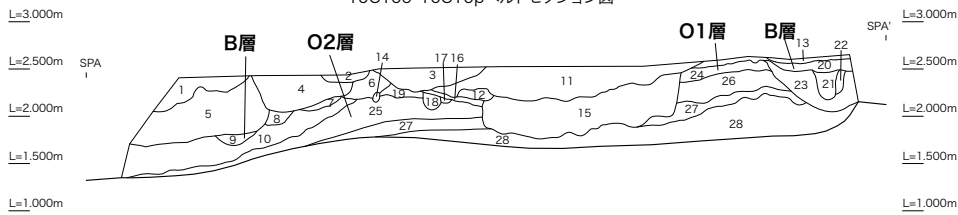
1	10YR5/3	にぶい黄褐色	細粒砂まじり中粒砂		7	0層 10YR7/6	明黄褐色	粗粒砂	10YR5/6黄褐色粗粒砂小ブロック(径5cm)・貝殻片を多く含む
2	客土1 10YR5/6	黄褐色	中粒砂		8	0層 2.5Y4/1	黄灰色	粗粒砂	
3	客土1 10YR6/1	褐灰色	中粒砂	西側の厚くなる部分に、10YR3/1黒褐色中粒砂に2.5Y7/6明黄褐色ブロックを少量含む層あり	9	0層 10YR7/4	にぶい黄褐色	中粒砂	
4	客土1 10YR3/4	暗褐色	細粒砂まじり中粒砂	小礫(径3cm)をやや多く含む	10	0層 10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	小礫(径2cm)をやや多く、ハマグリを主体とする貝殻を含む
5	01層 10YR7/6	明黄褐色	中粒砂	10YR7/4にぶい黄褐色中粒砂小ブロック(径3cm)を多く、炭化物を少量含む	11	10YR7/4	にぶい黄褐色	中粒砂	
6	02層 10YR5/1	褐灰色	中粒砂	ハマグリを主体とする貝殻を多く含む	12	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂	小礫(径5mm)を多く含む



1	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	製塩土器片を少量含む、やや粘性あり	6	11層 2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	礫(径5mm)をやや多く含む、5層よりやや暗い
2	11層 10YR3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻を極少量含む	7	12層 2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂	ハマグリを主体とする貝殻を多く含む、須臾器・土師器を少量含む
3	11層 2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	礫(径5~10mm)をやや多く含む	8	13層 10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	小礫をやや多く含む
4	11層 2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂	礫(径5mm)を多く含む	9	13層 10YR4/3	にぶい黄褐色	粗粒砂	小礫を多く含む
5	11層 2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	礫(径5mm)をやや多く含む	10	13層 10YR3/3	暗褐色	粗粒砂	小礫を多く含む
					11	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒砂	小礫を多く含む

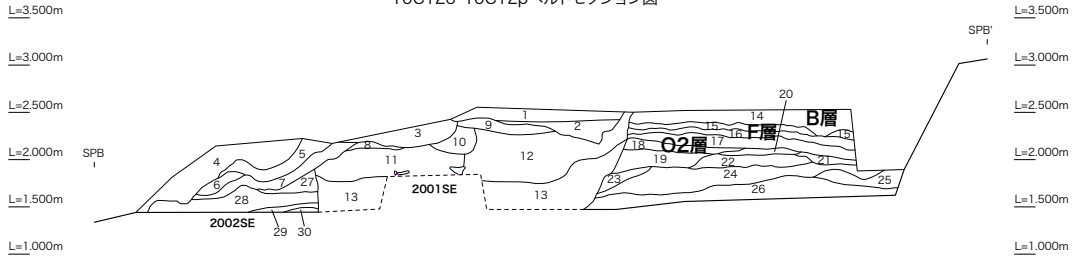
図 47 08B 区土層断面図 3【1:80】

10C10o・10C10pペルトセクション図



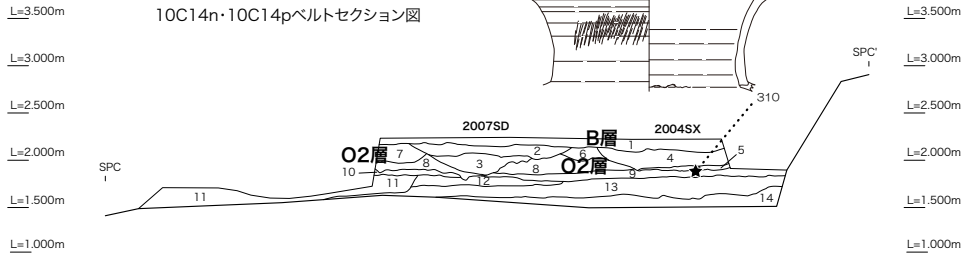
1	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	貝殻微細片(径1~2cm)を少量含む	14	10YR3/2	黒褐色	シルト質中粒砂	10YR4/3にふい黄色中粒砂ブロック(径5cm)を含む	
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	10YR3/2黒褐色粗粒砂ブロック(径10cm)・貝殻を少量含む	15	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻を多く含む	
3	2.5Y4/2	暗灰褐色	中粒砂	10YR3/2黒褐色シルト質中粒砂ブロック(径1~3cm)をやや多く、合成樹脂シート含む	16	10YR3/2	黒褐色	シルト質中粒砂	2.5Y4/3オリーブ褐色中粒砂との互層(厚5mm~1cm)	
4	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	10YR2/2中粒砂ブロック(径2~3cm)を少量、合成樹脂シート含む	17	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂		
5	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	貝殻微細片(径1~2cm)・小礫(径1cm)を少量、合成樹脂シート含む	18	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	2.5Y5/4黄褐色中粒砂ブロック(径3~5cm)をやや多く含む	
6	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	合成樹脂シート含む	19	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	貝殻微細片(径5mm程)を極少量含む	
7	10YR3/3	暗褐色	シルト質中粒砂		20	B層	10YR2/2	黒褐色	シルト質中粒砂	貝殻微細片(径1~2cm)をやや多く含む
8	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂		21	2.5Y4/2	暗灰褐色	シルト質中粒砂	貝殻を多く含む	
9	B層 2.5Y4/4	オリーブ褐色	細粒砂	貝殻微細片(径5mmほど)を極少量含む	22	2.5Y4/2	暗灰褐色	シルト質中粒砂	貝殻を少量含む	
10	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	2.5Y6/3にふい黄色中粒砂との互層。小礫(径5mm)を少量含む	23	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	2.5Y6/3にふい黄色シルトブロック(径10cm)をやや多く含む	
11	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	2.5Y5/3黄褐色中粒砂ブロック(径3cm)を少量、合成樹脂シート含む	24	O1層	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	貝殻微細片(径5mm程)を極少量含む
12	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂		25	O2層	2.5Y6/4	にふい黄色	中粒砂	
13	2.5Y4/2	暗灰褐色	中粒砂		26	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	貝殻を極少量含む	
					27	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂		
					28	2.5Y6/4	にふい黄色	中粒砂	小礫(径5mm)をやや多く含む	

10C12o・10C12pペルトセクション図



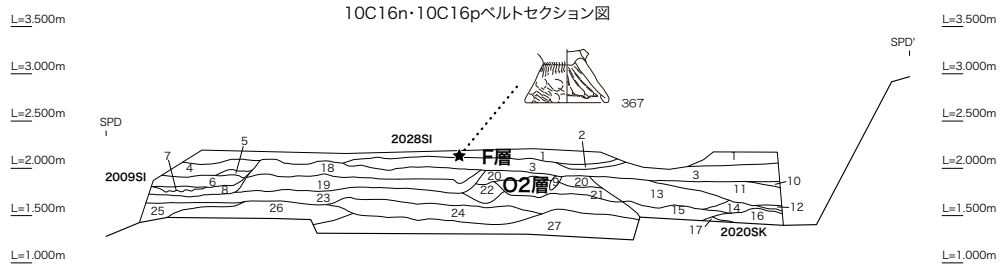
1	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	貝殻微細片をやや多く含む、小礫を多く含む	16	F層	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂
2	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	炭化物粒(径5mm)を少量含む、小礫多く含む	17	O2層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂
3	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	貝殻微細片を少量含む、土師器片を少量含む	18	O2層	2.5Y4/4	オリーブ褐色	中粒砂
4	2.5Y4/2	暗灰褐色	中粒砂	貝殻片を少量含む、ビニールシートを含む	19	2.5Y4/4	オリーブ褐色	中粒砂	礫を極少量含む
5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	2.5Y7/1灰白色粗粒砂との互層(層厚2~3cm)	20	O2層	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂
6	2.5Y5/1	黄灰色	中粒砂		21	O2層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂
7	2.5Y6/2	灰黄色	中粒砂		22	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂	
8	10YR3/3	暗褐色	中粒砂		23	2.5Y4/4	オリーブ褐色	中粒砂	
9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	10YR6/1シルトブロック(径5~10mm)を少量含む	24	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂	礫(径5~10mm)を少量含む
10	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	2.5Y7/3浅黄色粗粒砂ブロック(径10cm)を少量含む	25	2.5Y5/4	黄褐色	粗粒砂	
11	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	貝殻微細片を極少量含む	26	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒砂	礫(径5~10mm)を少量含む
12	10YR4/4	褐色	中粒砂	10Y6/1灰色シルトブロック(径1~5cm)を少量含む	27	2.5Y5/4	黄褐色	粗粒砂	礫(径5~10mm)を多く含む
13	2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂	やや赤みが強い	28	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	礫(径5~10mm)を多く含む
14	B層 10YR3/1	黒褐色	中粒砂	10YR4/3にふい黄褐色小ブロックをやや多く含む	29	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	
15	F層 10YR3/3	暗褐色	中粒砂	貝殻微細片を少量含む、粘土粒もしくは土師器微細片(径5mm)を極少量含む	30	2.5Y6/4	にふい黄色	中粒砂	

10C14n・10C14pペルトセクション図

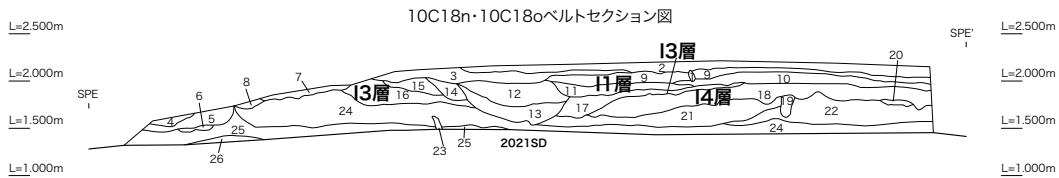


1	B層	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	やや粘性あり	8	O2層	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	
2		10YR3/3	暗褐色	細粒砂		9		10YR4/4	褐色	中粒砂	小礫を極少量含む
3		2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	シオキを主体とする貝殻を多く含む	10		2.5Y5/4	黄褐色	中粒砂	
4		10YR2/2	黒褐色	中粒砂	貝殻片をやや多く含む、土師器片を少量、やや粘性あり	11		2.5Y5/2	暗灰黄色	粗粒砂	
5		10YR4/1	褐灰色	中粒砂	貝殻微細片を少量含む	12		2.5Y6/4	にふい黄色	粗粒砂まじり中粒砂	
6	O2層	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	中粒砂	やや粘性あり	13		2.5Y4/4	オリーブ褐色	粗粒砂	小礫をやや多く含む
7	O2層	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂		14		2.5Y5/4	黄褐色	粗粒砂	小礫をやや多く含む

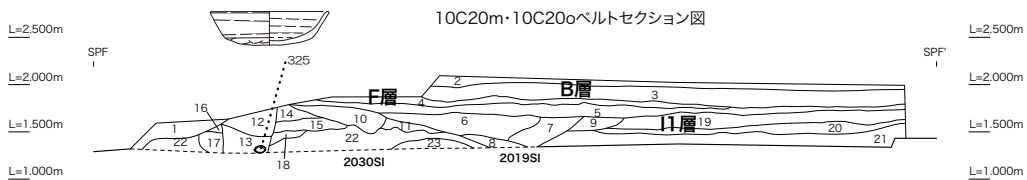
図 48 08B 区土層断面図 4【 1:80】



1	F層	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	かたく締まる。小礫(径5~7mm)をやや多く、貝殻・土器片を少量含む	15	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	
2	F層	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	貝殻微細片を極少量含む	16	2.5Y2/1	黒色	中粒砂	2.5Y4/2暗灰黄色粗粒砂との互層。貝殻・土器片を少量含む
3	F層	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	かたく締まる。貝殻を少量、礫(径1cm)を極少量含む	17	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	
4		2.5Y3/2	黒褐色	中粒砂		18	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
5		2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂		19	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	小礫(径5mm)を多く含む
6		2.5Y2/1	黒色	中粒砂	やや粘性あり、土器片を少量含む、焼土塊を多く含む	20	O2層	10YR3/3	暗褐色	中粒砂
7		2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂		21	O2層	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂
8		10YR3/2	黒褐色	粗粒砂		22	O2層	2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂
9		2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂		23	2.5Y4/2	暗灰黄色	粗粒砂	小礫(径5mm)を多く含む
10		10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂		24	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	やや暗い。小礫(径5mm)を多く含む
11		10YR3/3	暗褐色	中粒砂	やや締まる。土器微細片を少量含む	25	2.5Y5/4	黄褐色	粗粒砂	
12		10YR3/1	黒褐色	中粒砂		26	10YR4/4	褐色	粗粒砂	小礫(径5~10mm)をやや多く含む
13		10YR3/2	黒褐色	中粒砂		27	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒砂	やや赤みを帯びる。小礫(径5~10mm)を多く含む
14		2.5Y3/1	黒褐色	中粒砂	土器片を極少量含む					



1		10YR4/3	にぶい黄褐色	礫混じり中粒砂		14	I3層	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	貝殻を多く含む
2		10YR3/2	黒褐色	中粒砂		15	I3層	10YR3/2	暗褐色	黒褐色	貝殻を極少量含む
3		10YR4/2	灰黄褐色	礫混じり中粒砂	製塩土器微細片をやや多く、貝殻少量含む。	16	I3層	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	貝殻を極少量含む
4		2.5Y7/3	浅黄色	粘質シルト	小礫(径5mm)を多く含む	17	I3層	10YR3/2	黒褐色	中粒砂	貝殻を少量含む
5		10YR3/1	黒褐色	中粒砂	貝殻を少量含む	18	I4層	10YR3/1	黒褐色	中粒砂	礫(径5~10mm)・ハマグリを主体とする貝殻を多く含む
6		2.5Y5/3	黄褐色	粗粒砂		19	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂		
7		10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	ハマグリを主体とする貝殻を含む	20	10YR3/1	黒褐色	中粒砂		
8		2.5Y5/3	黄褐色	粘質シルト		21	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	粗粒砂を極少量含む	
9	I1層	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	製塩土器微細片を多く含む	22	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粗粒砂		
10	I1層	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	製塩土器の微細片をやや多く含む	23	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂		
11	I1層	10YR4/4	褐色	中粒砂	貝殻を極少量含む	24	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂		
12		10YR3/2	黒褐色	中粒砂	小礫(径5mm)を多く、貝殻を少量含む	25	10YR4/3	にぶい黄褐色	粗粒砂		
13		10YR3/3	暗褐色	中粒砂	貝殻を少量含む	26	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂		



1		2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	5Y7/1粘質シルトブロック(径5cm)を上層部に多く含む	13	10YR3/2	黒褐色	粗粒砂	
2	B層	10YR3/1	黒褐色	粘土まじり中粒砂	製塩土器微細片(知多式4類)を多く含む	14	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	
3	B層	10YR3/2	黒褐色	粘土まじり中粒砂	製塩土器微細片(知多式4類)を多く含む	15	2.5Y3/2	黒褐色	粗粒砂	
4	F層	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	小礫多く、製塩土器微細片(知多式4類)を多く含む	16	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂	
5	F層	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂		17	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂	
6		10YR3/2	黒褐色	小礫まじり中粒砂	小礫(径5mm粒)を多く含む	18	2.5Y4/2	暗灰黄色	粗粒砂	
7		10YR3/3	暗褐色	中粒砂	小礫(径5mm粒)を多く含む	19	I1層	10YR4/1	褐灰色	中粒砂
8		10YR3/2	黒褐色	粗粒砂	製塩土器片を少量含む	20	I1層	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂
9	I1層	10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂	小礫多く含む	21	2.5Y7/4	浅黄色	粗粒砂	
10		10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂		22	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルトまじり中粒砂	
11		10YR4/2	灰黄褐色	中粒砂		23	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	
12		10YR3/3	暗褐色	中粒砂						

図 49 08B 区土層断面図 5【1:80】

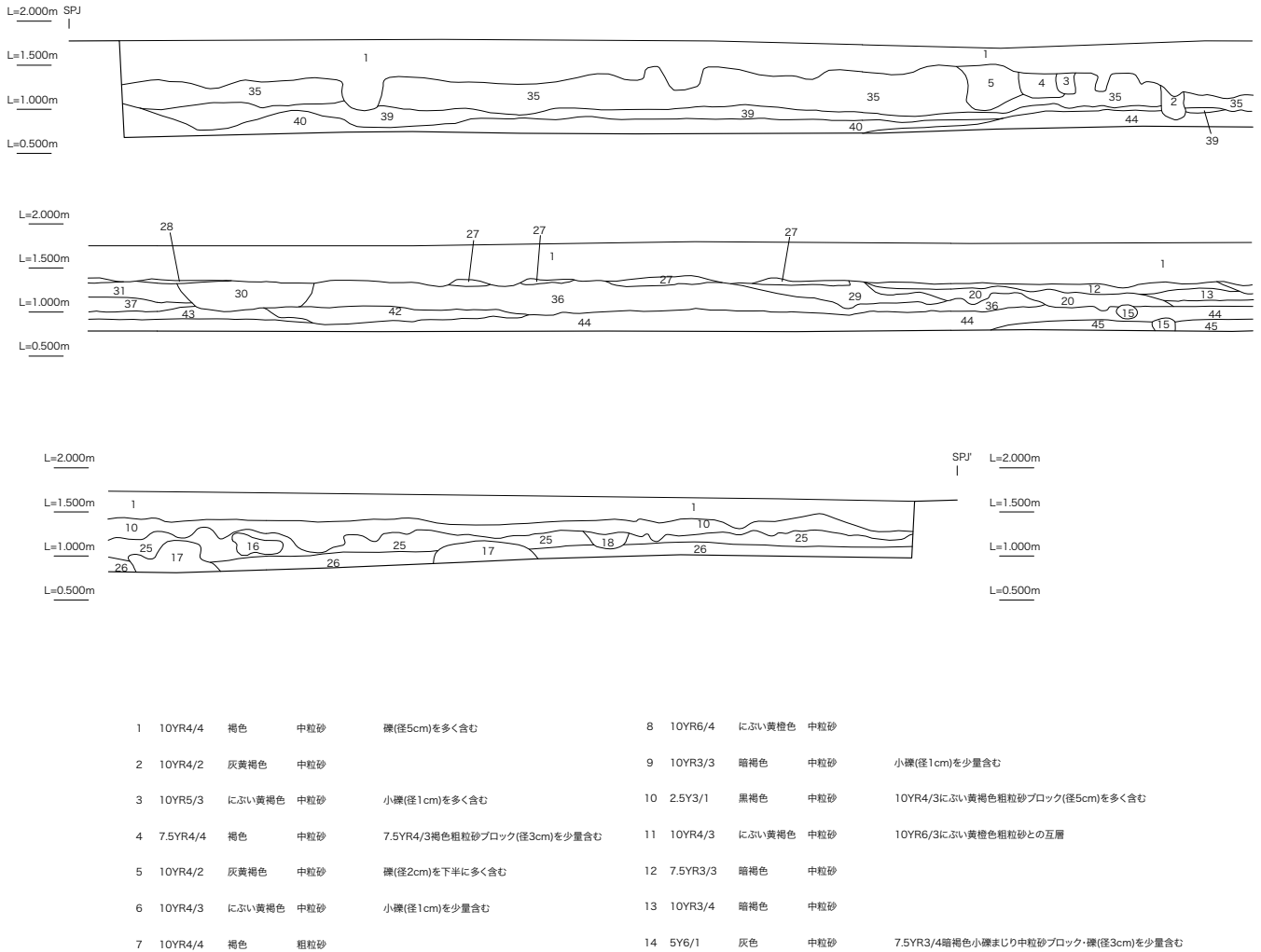


図 50 08B 区

あり、ここに焼けた粘土などが 30cm ほどの厚さで確認された。カマドなどの可能性があろう。2024SI では遺構底面（床面といえるか）付近で、宇田式の台付甕などがまとまって出土している（166・168）。また、焼けた粘土の周辺からも遺物が出土している。一方、この 2024SI の埋土上層からは須恵器杯身や杯蓋などがまとまって出土した（171・182・182・184・186 など）。

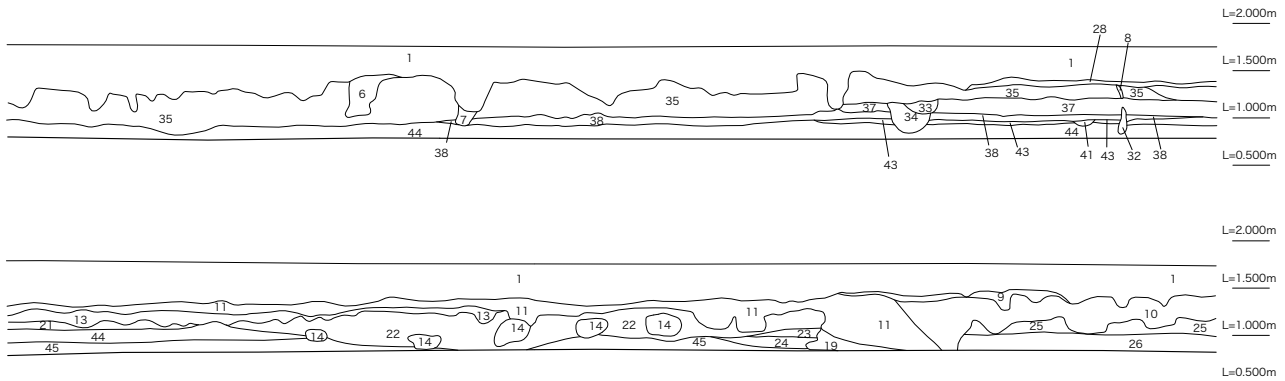
2026SI は 2018SI に先行し、2041SI に後続する形で構築されたものである。東辺付近のみしか確認できていないが、4×1m の大きさに、隅丸形状のプランを呈する。

2028SI は 2020SI に後続する遺構で、5.9×

5m、深さ 40cm を測る、隅丸形状の遺構である。この遺構では、北東端の底面から台付甕（205）が横位の状態で出土した。一方で、遺構中央では須恵器のまとまった出土も認められた。炭化物や焼土などの出土は多くなく、炉跡やカマド跡などの火を使った遺構は確認できなかった。

2029SI は高台部分の南端で確認された遺構で、遺構自体はさらに南に展開する。残存部分で、4.8×2.3m、深さ 10cm を測った。遺構北壁に沿って、焼けた粘土塊が凸状に張り出しており、カマド跡が存在していたものと考えられる。

2030SI も高台の南端付近で確認された。南辺が北辺よりも長く、いわば台形状を呈する平面プ



15	10YR4/4	褐色	中粒砂	礫(径5cm)をやや多く含む	31	7.5YR3/1	黒褐色	中粒砂	10YR2/3黒褐色細粒砂との互層
16	7.5YR4/4	褐色	中粒砂	10YR4/2灰黄褐色シルト質極細粒砂ブロック(径3cm)を少量含む	32	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂	
17	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質極細粒砂	10YR5/8黄褐色粗粒砂ブロック(径15cm)を多く含む	33	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂まじり中粒砂	
18	7.5YR4/4	褐色	極粗粒砂	7.5YR4/1褐灰色極粗粒砂ブロック(径5cm)をやや多く含む	34	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	10YR4/4褐色粗粒砂まじり中粒砂ブロックを下半に多く含む
19	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	10YR3/2黒褐色中粒砂ブロック(径2cm)を少量含む	35	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂ブロックを上半に多く含む
20	7.5YR4/4	褐色	中粒砂	10YR3/4暗褐色粗粒砂との互層	36	10YR4/2	灰黄褐色	細粒砂	10YR5/3にぶい黄褐色粗粒砂との互層
21	10YR4/4	褐色	中粒砂		37	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	10YR4/3にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径5cm)を多く含む
22	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂	10YR5/6黄褐色中粒砂ブロック(径3cm)を多く含む	38	10YR3/4	暗褐色	中粒砂	10YR4/6褐色粗粒砂ブロック(径2cm)を多く含む
23	10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂まじり中粒砂		39	10YR4/4	褐色	中粒砂	小礫(径1cm)を多く含む
24	10YR4/4	褐色	中粒砂	小礫(径5mm)を多く含む	40	10YR7/4	にぶい黄褐色	粗粒砂	
25	10YR6/4	にぶい黄褐色	粗粒砂まじり中粒砂		41	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂	
26	10YR4/4	褐色	中粒砂	小礫(径5mm)を多く含む	42	10YR4/4	褐色	中粒砂	10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂まじり中粒砂が層の両端に存在する
27	10YR7/1	褐灰色	中粒砂		43	10YR5/4	にぶい黄褐色	粗粒砂まじり中粒砂	
28	10YR6/4	にぶい黄褐色	中粒砂		44	10YR5/6	黄褐色	粗粒砂	
29	7.5YR3/4	暗褐色	中粒砂	10YR4/4褐色細粒砂との互層	45	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂	
30	10YR3/4	暗褐色	中粒砂	10YR4/4褐色粗粒砂ブロック(径3cm)を多く含む					

土層断面図6【1:80】

ランであろうか。6.8×5.6m、深さ 20cm を測る。遺構南半の底面付近（床面か）で、土器群のまとまった出土を確認した。同じく北半では、粘土塊の散在を確認した。

2031SI は調査区中央東壁にかけてごく一部のみに確認された遺構である。深さは 20cm を測る。

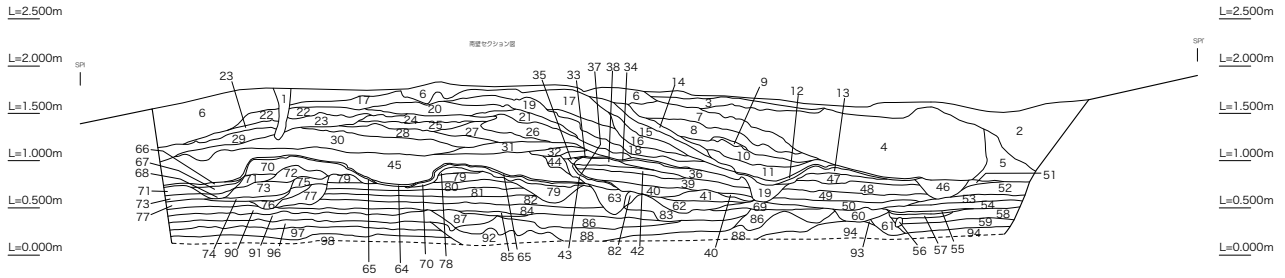
2032SI は 2028SI に先行する遺構である。全形を窺うことができないものの、3×2m、深さ 20cm の隅丸方形形状である。埋土には、炭化物・焼土などの包含は多くない。

2033SI は 2032SI に先行する形で、北側でその一部を確認した。確認部分では、4.2×2.5m の隅丸方形形状を呈する。北西隅で 0.6×0.4m の範

囲で焼土が確認されている。

2034SI・2035SI・2036SI は調査区北側で重複する形で確認された。いずれも浅い皿状を呈する断面形状であり、遺物の包含は稀少である。これらも人工掘削の遺構ではなく、層の堆積の可能性もある。2035SI の埋土は赤色化して、かつしまりはやや強くなっていた。

2041SI は高台部分の南側で確認された遺構である。5×5m、深さ 25cm を測る、隅丸方形形状で確認できた。北辺中央壁際には、1.9×1.7m、厚さ 20cm で、カマド跡と考えられる被熱した粘土塊を検出した。遺構底面あるいは粘土塊周辺では、土師器などの出土遺物があった。



1	客土2	10YR3/1	黒褐色	中粒砂	杭と思われる木材あり	50	5B5/1	青灰色	礫まじり極粗粒砂	5GY4/1 暗オリーブ灰色粘質シルト小ブロック(3cm大)を少量含む
2	客土2	2.5Y7/8	黄色	シルト	10YR4/4 褐色極粗粒砂小ブロックを多く含む	51	7.5Y4/1	灰色	砂質シルト	5GY4/1 暗オリーブ灰色シルト質粘土小ブロック(径1cm)を多く含む
3	客土2	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂	10YR5/4にふい黄褐色粗粒砂と互層を成す	52	5GY5/1	オリーブ灰色	粘質シルト	7.5Y4/1 灰色粗粒砂小ブロックを多く含む
4	客土2	7.5YR4/3	褐色	粗粒砂	2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂小ブロックを多く含む	53	2.5Y5/2	暗灰黄色	粗粒砂	粘質シルト小ブロックを多く含む
5	客土2	10YR3/4	暗褐色	細粒砂	炭化物・礫を含む	54	2.5Y4/1	黄灰色	粗粒砂	粘質シルト小ブロックおよび小礫(径5mm)を多く含む
6	客土2	7.5YR4/4	褐色	中粒砂まじり細粒砂	10YR6/6 明黄褐色中粒砂小ブロック(径3mm)をやや多く含む	55	7.5Y5/1	灰色	極粗粒砂	
7	客土2	10YR5/4	にふい黄褐色	中粒砂	7.5YR3/2 黒褐色粗粒砂と互層を成す	56	5GY3/1	暗オリーブ灰色	粘質シルト	粗粒砂小ブロックを多く含む
8	客土2	10YR6/4	にふい黄褐色	細粒砂	10YR5/6 黄褐色粗粒砂小ブロックを多く含む	57	5Y5/1	灰色	極粗粒砂	小礫(径5mm)を多く含む
9	客土2	7.5YR3/2	黒褐色	粗粒砂		58	5Y5/1	灰色	極粗粒砂	炭化物少量含む小礫(径5mm)を多く含む
10	客土2	10YR6/6	明黄褐色	粗粒砂	7.5YR6/3にふい褐色中粒砂小ブロックを多く含む	59	10BG6/1	青灰色	粘質シルト	5Y4/1 灰色粘質シルト(極粗粒砂を含む)小ブロックを多く含む
11	客土2	2.5Y6/3	にふい黄色	細粒砂まじり粗粒砂	7.5YR4/3 褐色粗粒砂と互層を成す	60	2.5Y7/8	黄色	粗粒砂	10YR5/4にふい黄褐色粗粒砂小ブロックを多く含む
12	客土2	2.5Y7/1	浅黄色	粘質細粒砂		61	5PB6/1	青灰色	極粗粒砂	粘質シルト小ブロックを多く含む
13	客土2	5Y5/2	灰オリーブ色	粘質シルト	細粒砂小ブロックを多く含む	62	5Y5/2	灰オリーブ色	粗粒砂	シルト小ブロックおよび小礫(径5mm)を多く含む
14	客土2	10YR4/4	褐色	粗粒砂	中礫(径3cm)を少量含む	63	10Y4/1	灰色	粘質シルト	粗粒砂小ブロックを多く含む
15	客土2	10YR4/3	にふい黄褐色	粗粒砂	中礫(径3cm)を少量含む	64	7.5YR4/3	褐色	中粒砂	
16	客土2	10YR5/4	にふい黄褐色	礫まじり粗粒砂		65	7.5YR4/3	褐色	中粒砂	酸化鉄を帯状に含む
17	客土2	7.5YR4/3	褐色	中粒砂	7.5YR5/4にふい褐色および10YR6/8 明黄褐色粗粒砂小ブロックを多く含む	66	5PB7/1	明青灰色	粘質シルト	中粒砂小ブロックを多く含む
18	客土2	7.5YR3/3	暗褐色	礫まじり粗粒砂		67	5PB6/1	青灰色	粘質シルト	5PB6/1 紫灰色粘質シルト小ブロックを多く含む
19	客土2	10YR6/8	明黄褐色	極粗粒砂	10YR3/1 黒褐色粗粒砂および10YR5/4にふい黄褐色中粒砂と互層を成す	68	5P6/1	紫灰色	粘質シルト	5PB6/1 青灰色粘質シルト小ブロックを多く含む
20	客土2	10YR7/4	にふい黄褐色	中粒砂	10YR6/6 明黄褐色粗粒砂および7.5YR3/2 黒褐色極粗粒砂と互層を成す	69	2.5Y8/8	黄色	シルト質粘土	
21	客土2	7.5YR4/3	褐色	中粒砂まじり細粒砂	10YR4/3にふい黄褐色粗粒砂小ブロックを多く含む	70	5B4/1	暗青灰色	シルト質粘土	酸化鉄(径1mm)を斑状に多く含む
22	客土2	7.5YR4/4	褐色	細粒砂	10YR6/6 明黄褐色粗粒砂を層状に含む	71	5G4/1	暗緑灰色	粘質シルト	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘質シルト小ブロック(径5cm)を多く含む
23	客土2	7.5YR2/1	黒色	中粒砂	7.5YR4/4 褐色粗粒砂および2.5Y7/6 明黄褐色の極粗粒砂を層状に含む	72	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	粘質シルト	5GY4/1 暗緑灰色粘質シルト小ブロックを多く含む
24	客土2	10YR5/4	にふい黄褐色	中粒砂	5YR3/1 黒褐色中粒砂と互層を成す	73	10GY4/1	暗緑灰色	粗粒砂まじりシルト	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粗粒砂混じりシルト小ブロックを多く含む
25	客土2	10YR5/4	にふい黄褐色	細粒砂	5YR3/2 暗赤褐色中粒砂を帯状に含む	74	5B4/1	暗青灰色	粗粒砂まじりシルト	
26	客土2	5YR3/2	明赤褐色	礫まじり粗粒砂	10YR6/4にふい黄褐色細粒砂と互層を成す	75	5B6/1	暗青灰色	粗粒砂まじりシルト	
27	客土2	7.5YR5/4	にふい褐色	中粒砂	7.5YR4/4 褐色中粒砂小ブロックを多く含む礫を多く含む	76	5PB4/1	暗青灰色	粗粒砂まじりシルト	
28	客土2	7.5YR5/4	にふい褐色	極粗粒砂	7.5YR4/4 褐色極粗粒砂と互層を成す	77	10BG4/1	暗青灰色	粗粒砂まじりシルト	
29	客土2	10YR5/3	にふい黄褐色	シルトまじりの極細粒砂	10YR5/6 黄褐色粗粒砂小ブロックを多く含む	78	5P4/1	暗紫灰色	細粒砂まじりシルト	
30	客土2	10YR5/6	黄褐色	極細粒砂	2.5Y7/4 浅黄色極粗粒砂小ブロック(径3mm)を多く含む	79	5B6/1	暗青灰色	粘質シルト	10G4/1 暗緑灰色中粒砂混じりシルト小ブロックを多く含む
31	客土2	10YR5/4	にふい黄褐色	細粒砂	10YR6/6 明黄褐色中粒砂と互層を成す	80	5GY4/1	暗オリーブ灰色	粘質シルト	5PB4/1 暗青灰色粗粒砂混じりシルト小ブロックを多く含む
32	客土2	7.5YR4/6	褐色	中粒砂	10YR7/8 黄褐色中粒砂および5Y6/2 灰オリーブ色粗粒砂小ブロックを多く含む	81	10Y4/1	灰色	粗粒砂まじりシルト	5B4/1 暗青灰色粗粒砂混じりシルト小ブロックを多く含む
33	客土2	5Y6/3	オリーブ黄色	中粒砂		82	5Y4/1	灰色	粘土まじり極粗粒砂	
34	客土2	2.5Y6/1	黄灰色	中粒砂まじりシルト	酸化鉄を帯状に含む	83	7.5Y5/1	灰色	シルトまじり粗粒砂	小礫(径5mm)を多く含む
35	客土2	10YR6/3	にふい黄褐色	シルトまじり細粒砂	酸化鉄を帯状に含む	84	5Y4/1	灰色	極粗粒砂	
36		2.5Y5/2	暗灰黄色	粘質シルト	10Y4/1 灰色シルト質粘土(小礫を含む)小ブロックを多く含む	85	10BG6/1	青灰色	粘質シルト	2.5GY6/1 オリーブ灰色極粗粒砂小ブロックを多く含む
37		2.5GY5/1	オリーブ灰色	砂質シルト		86	5GY4/1	暗オリーブ灰色	粘質シルト	5PB5/1 青灰色粗粒砂(小礫を含む)小ブロックを多く含む
38		10Y4/1	灰色	粘質シルト	細粒砂の小ブロックを多く含む	87	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	シルトまじり極粗粒砂	小礫(径5mm)を多く含む
39		10Y5/1	灰色	粘質シルト	中粒砂小ブロックを多く含む	88	2.5Y6/8	暗黄褐色	礫まじり粗粒砂	5PB6/1 青灰色粘質シルト小ブロック(径12cm)を多く含む
40		10Y4/1	灰色	粘質シルト	粗粒砂小ブロックを多く含む	89	5PB5/1	青灰色	シルト質粘土	小礫(径5mm)を多く含む
41		10Y6/1	灰色	砂質シルト	極粗粒砂小ブロックを多く含む	90	2.5Y4/1	灰色	粘土まじり極粗粒砂	
42	客土2	10YR6/3	にふい黄褐色	シルトまじり細粒砂		91	5B7/1	明青灰色	粘質シルト	酸化鉄を帯状に含む炭化物を少量含む
43	客土2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	シルトまじり粗粒砂		92	5PB6/1	青灰色	粘質シルト	
44	客土2	2.5Y6/3	にふい黄色	中粒砂	7.5YR6/2 灰褐色粗粒砂小ブロックを多く含む	93	5PB5/1	青灰色	シルト質粘土	小礫(径5mm)を多く含む
45	客土2	7.5YR4/3	褐色	中粒砂	7.5YR6/2 灰褐色中粒砂混じりシルト小ブロックを多く含む	94	10BG5/1	青灰色		小礫(径5mm)を多く含む
46		5GY3/1	オリーブ灰色	粘質シルト	粗粒砂および5GY4/1 暗オリーブ灰色粘質シルト小ブロックを多く含む	95	2.5GY7/1	明緑灰色	粗粒砂	10YR5/4にふい黄褐色粗粒砂小ブロックを多く含む
47		5GY4/1	暗オリーブ灰色	粘質シルト	細粒砂小ブロックを多く含む礫を少量含む	96	10BG6/1	青灰色	粘質シルト	7.5Y4/1 灰色極粗粒砂混じりシルト小ブロックを少量含む
48		7.5Y4/1	灰色	砂質シルト	5GY4/1 暗オリーブ灰色シルト質粘土小ブロック(径1cm)を多く含む	97	7.5Y4/1	灰色	極粗粒砂まじりシルト	
49		5GY4/1	暗オリーブ灰色	粘質シルト	7.5Y4/1 灰色粗粒砂小ブロックを多く含む	98	2.5GY7/1	明オリーブ灰色	極粗粒砂まじりシルト	

図 51 O8B 区土層断面図 7【1:80】

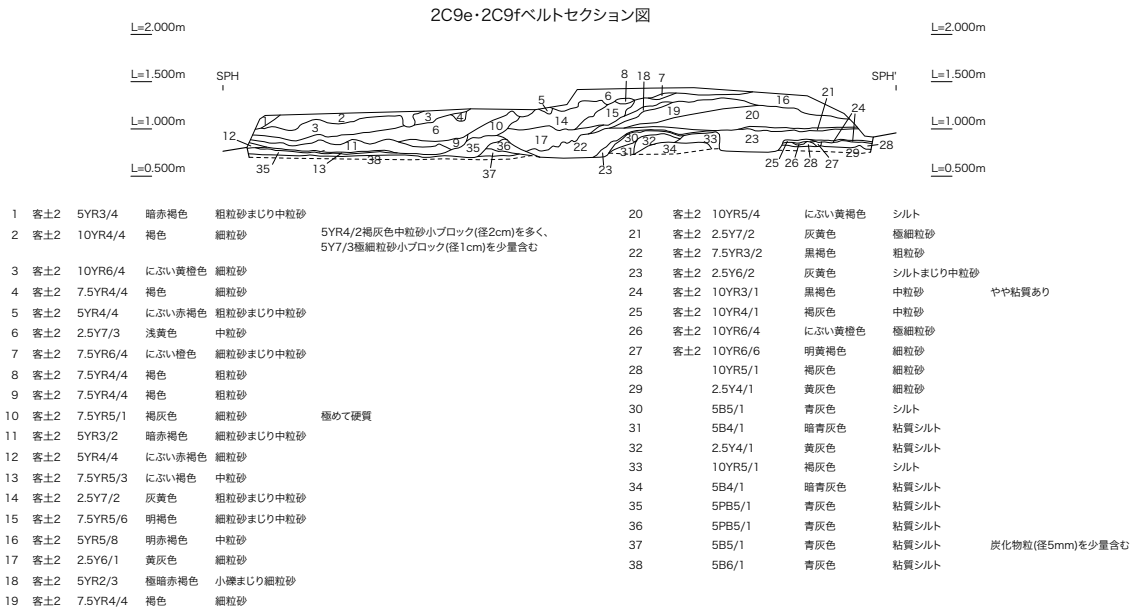


図 52 08B 区土層断面図 8【1:80】

2042SI は 2033SI に先行する遺構で、確認できる範囲では 3.3×1m の、隅丸形状のプランである。

2043SI は 2024SI の北側で確認された遺構で、唯一、幅広周溝を有する竪穴建物跡である。4.0×3.8m、溝部分のみで深さ 10cm を測る。後続した竪穴状遺構の重複により、掘り方の痕跡しか残存していない。しかし周溝にはハマグリを主体とする貝ブロックが存在し、周溝際には、高杯・甕など土師器類が大型破片の状態に残存していた。

2. 土坑など

2022SX は高台部分の南端付近に位置する。検出時で、3.2×2.8m、深さ 60cm を測る、円形を呈した土坑である。遺構底面に焼けた粘土が存在していた。この土坑は、須恵器・土師器などの遺物のほかに、ウシ・ウマなどの動物骨が非解剖学的な状態で集積していた。

2037SX・2038SX・2039SX は、調査区北東端で認識した落ち込みである。法量は 4～5m 四方で、いずれも隅丸形状の形状を呈し、深さ

はごく浅い。埋土にはごくわずかに炭化物粒が含まれる程度であり、遺物の出土はない。これらは人工掘削の遺構ではなく、堆積の一部を認識した可能性もある。

C. 第 4 面目の遺構

1. 土坑など

上述したように、調査区北東側には、やや破碎された貝層を含む黄褐色砂層が厚く堆積しており(O 層)、それを掘削したところ、土坑様の落ち込み 1 基と若干の遺物が出土した。これが松崎遺跡の遺跡形成当初の姿と考えられる。

2044SX は検出時の形状では、3.5×2.9m、深さ 30cm 以上を確認した。埋土には、黒色を呈する砂層もあれば、ハマグリを主体とする貝層もある。これら埋土(包含層)は、この凹地を起点として周囲に広がるように存在していた。貝層中から小型丸底壺 1 点が出土したが(311)、2044SX 周辺の O 層からも同様な小型丸底壺が 1 点出土した(312)。いずれも松河戸式期と考えられる。

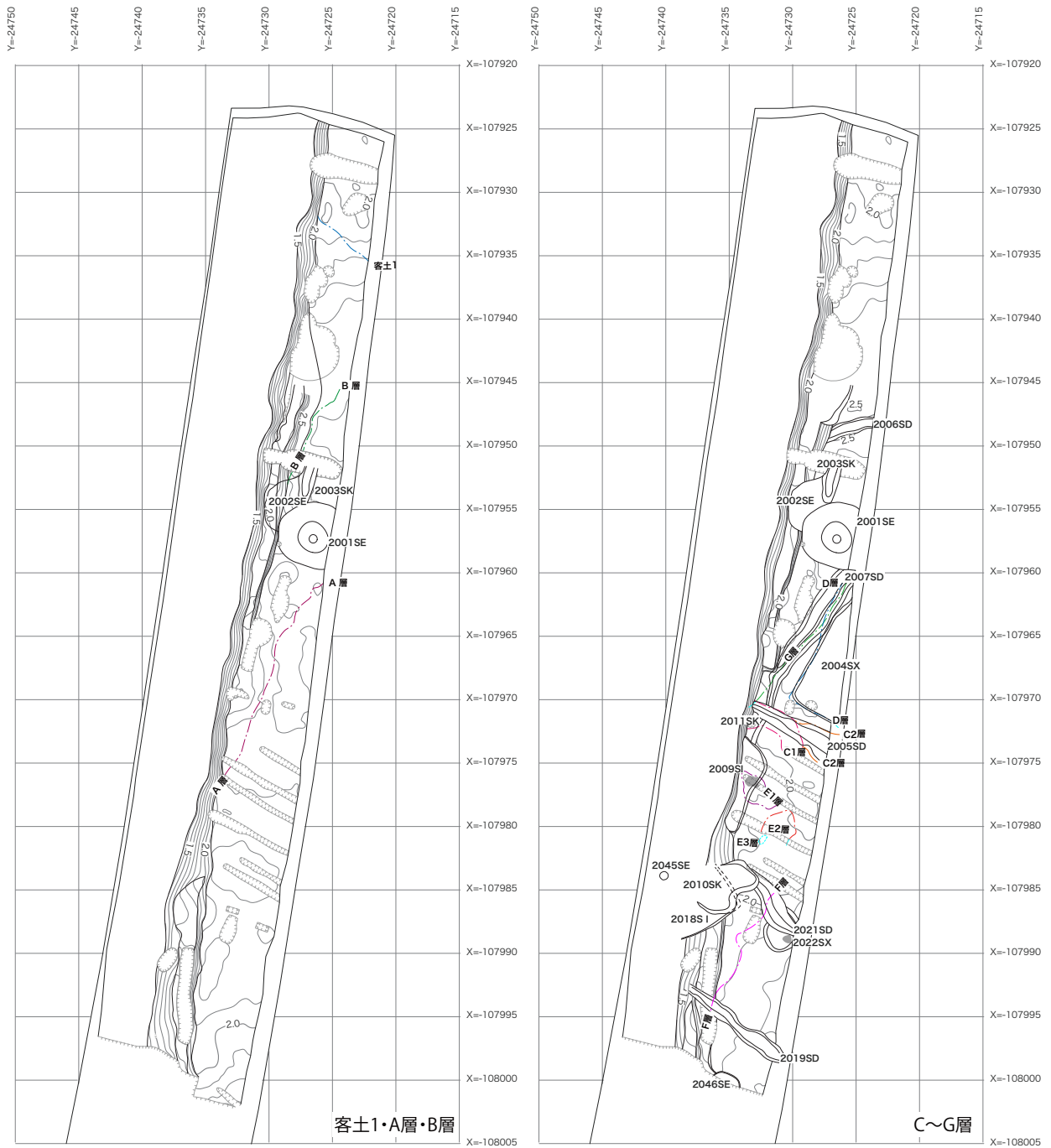


図 53 08B 区平面図 1【1:500】

以上から、08B 区高台部分の遺跡の形成状況を整理する。

遺跡形成は、松河戸式期から、調査区北東側で始まるようである。2044SX および O 層の形成は、凹地に向かったの包含層形成である。出土遺物が少なく断言は難しいが、特殊な役割を果たす場であった可能性もある。

その後、宇田式期以降になり、2043SI などの竪穴建物跡は、いずれも 50m ほど南側で形成が開始される。2024SI や 2020SK など、見つかった竪穴建物跡の多くは、この時期に形成された可能性が高い。

製塩土器 1 類～3 類に対応する時期は、遺構の形成と関連して明確に確認できたものは少な

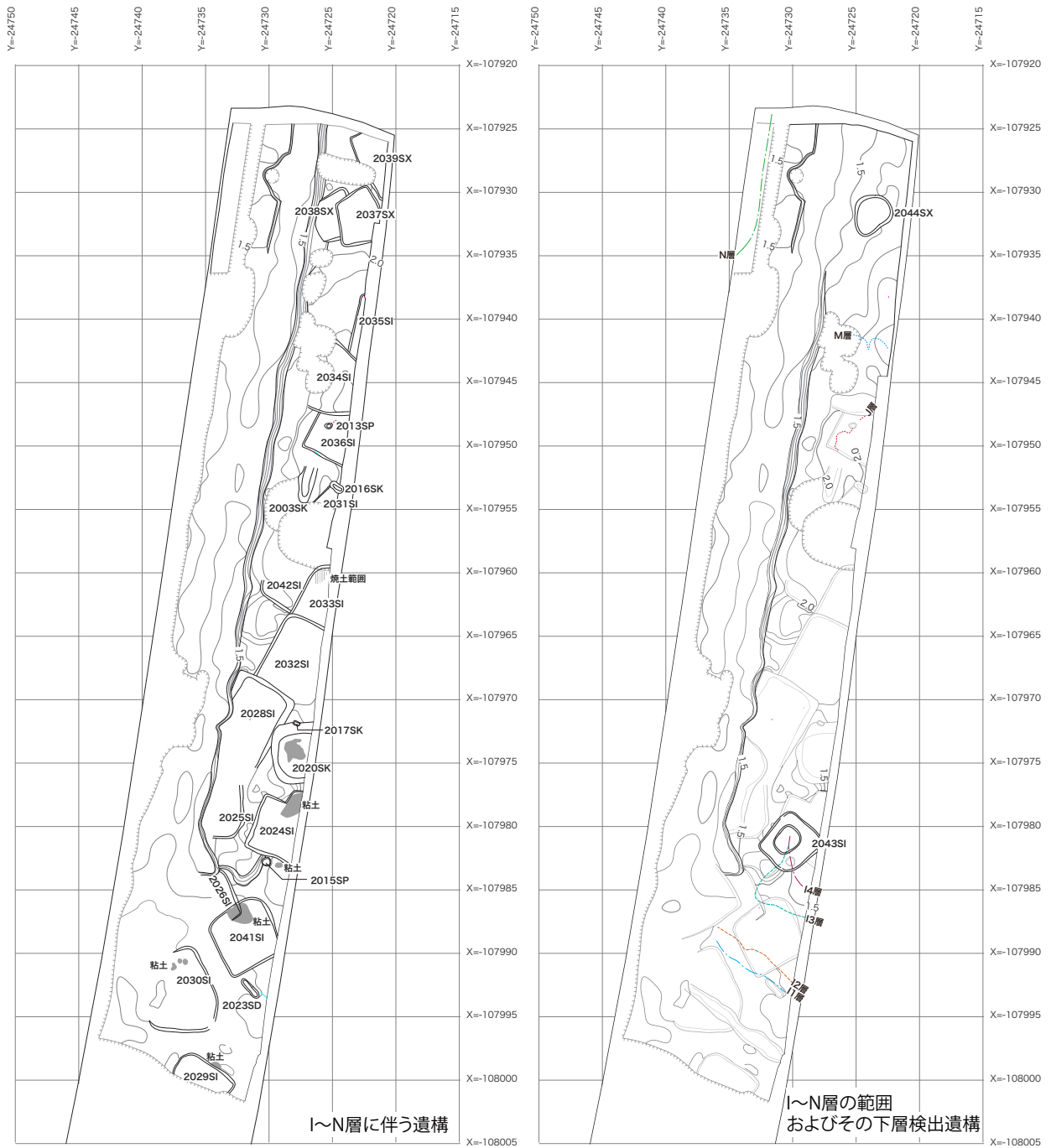


図 54 08B 区平面図 2【 1:500 】

い。層中からは当該時期に対応する遺物の出土が確認されていることから、土地利用がなされていないと考えるよりも、廃棄場であったか、あるいは当時の活動が活発であったため遺構の検出が難しくなってしまった可能性が考えられよう。

製塩土器 4 類・5 類に対応する遺構としては、2004SX・2009SI・2022SX のほか、2005SD

をはじめとする溝が確認された。溝による区画は、08Ab 区の 1001SD・1002SD と同一の志向かもしれない。

このように宇田式期以降、高台の南側を中心に時期を重複して著しい活動痕跡を確認することができた。南側の攪乱状況を勘案すると、その範囲はさらに広がりがあったことが推測される。

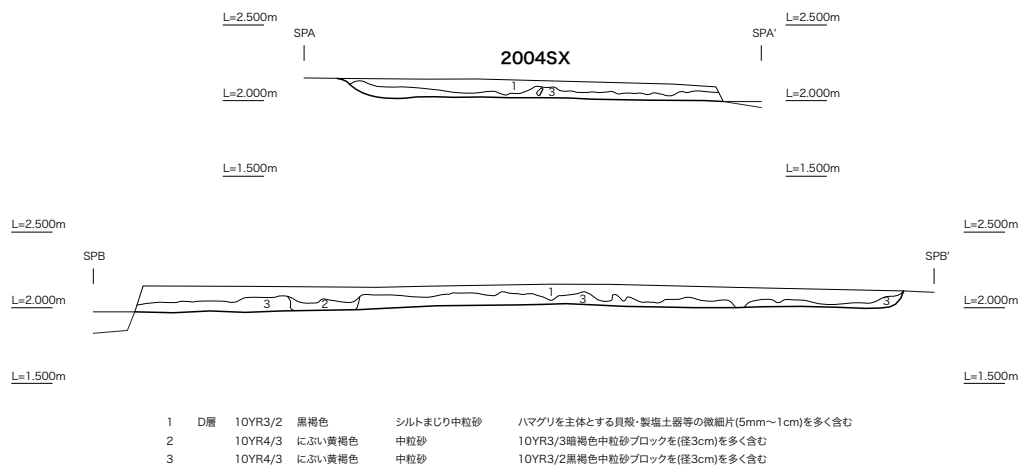
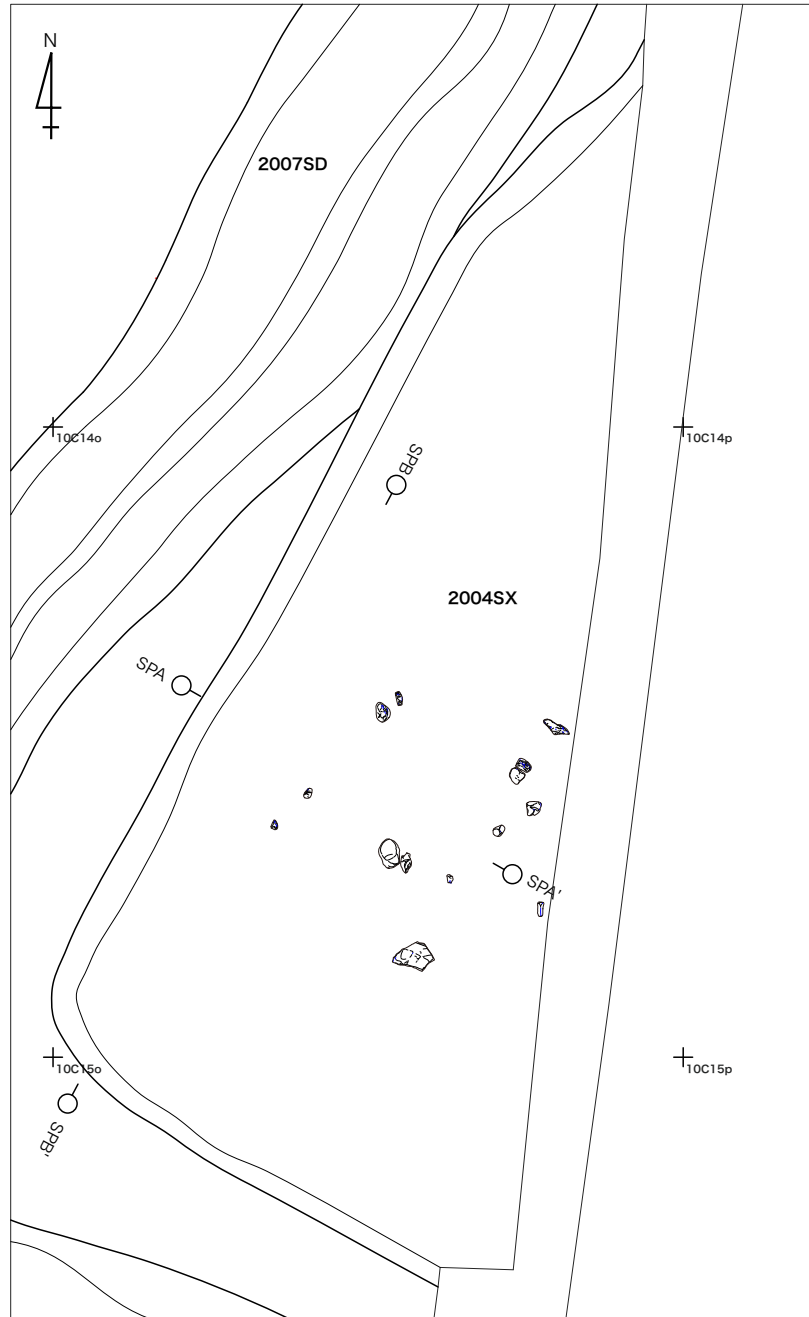
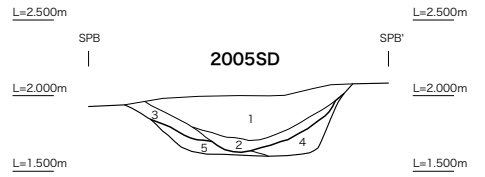
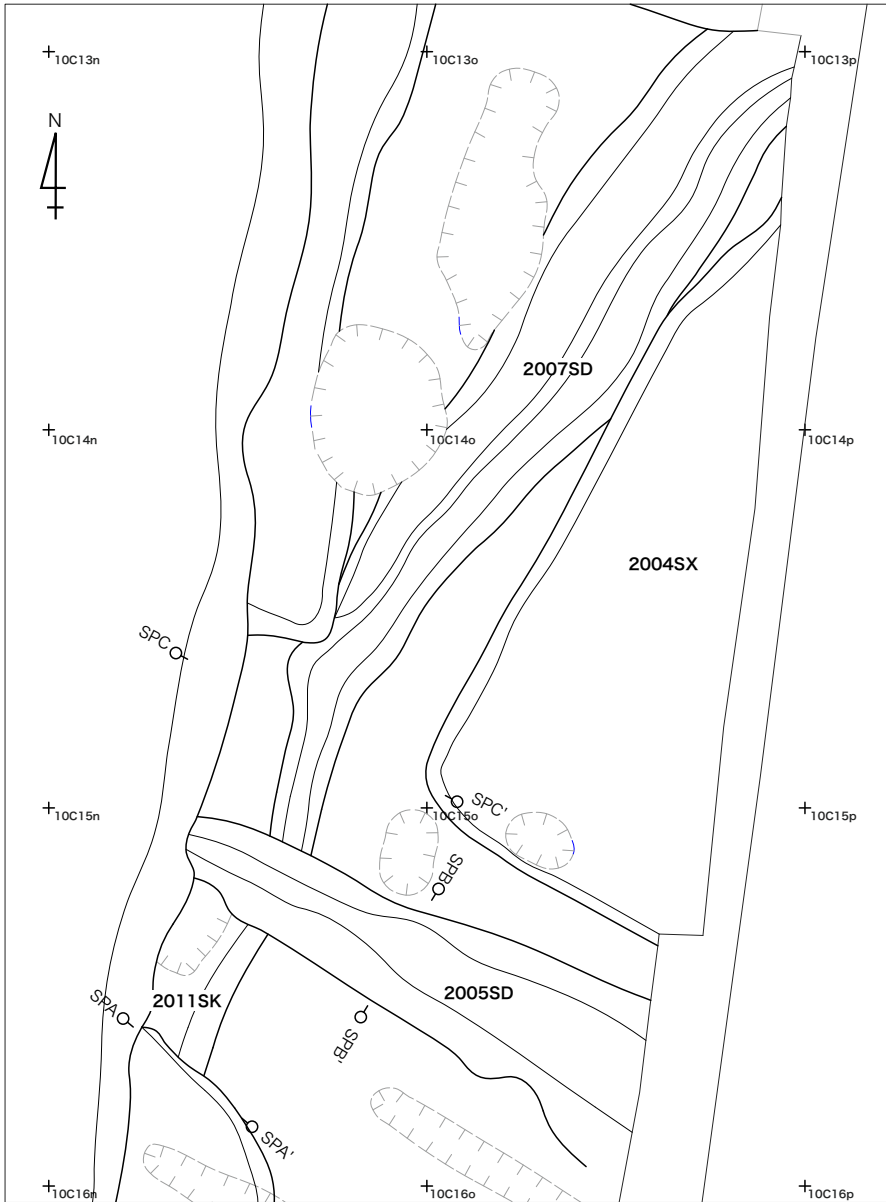
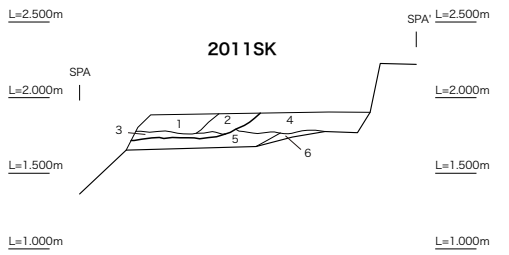


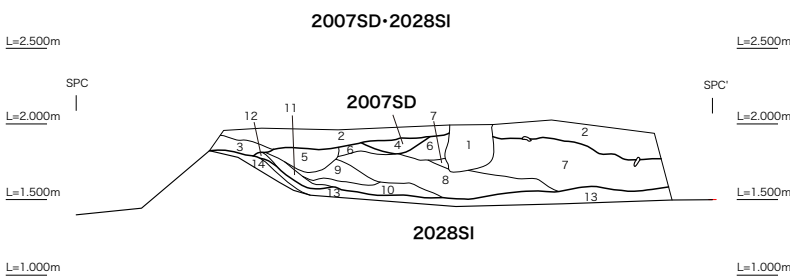
図 55 08B 区 2004SX 平面および土層断面図【平面 1:60、土層断面 1:50】



- | | | | | |
|---|---------|--------|-----------|-----------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | 貝殻を多く、製塩土器微細片(5mm~1cm)を少量含む |
| 2 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 中粒砂 | 貝殻微細片(5mm~1cm)を少量含む |
| 3 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 中粒砂 | 2に比べてやや黒味を帯びる |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粗粒砂まじり中粒砂 | |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粗粒砂まじり中粒砂 | 炭化物粒を多く含む |

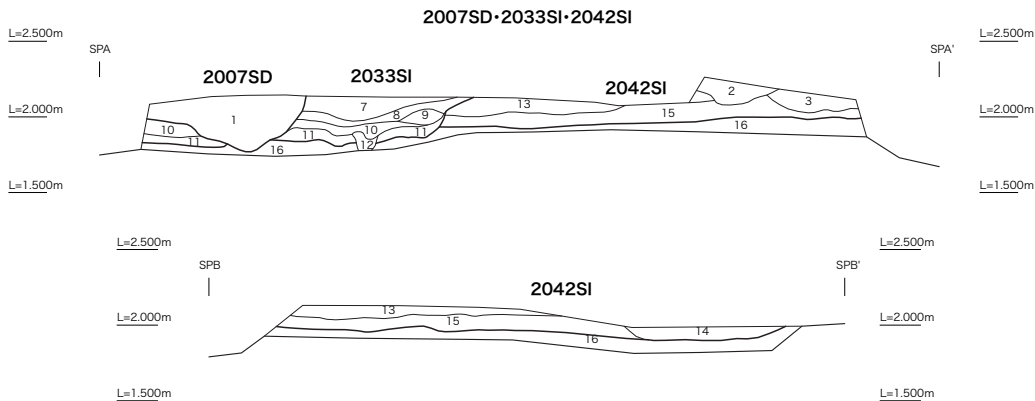
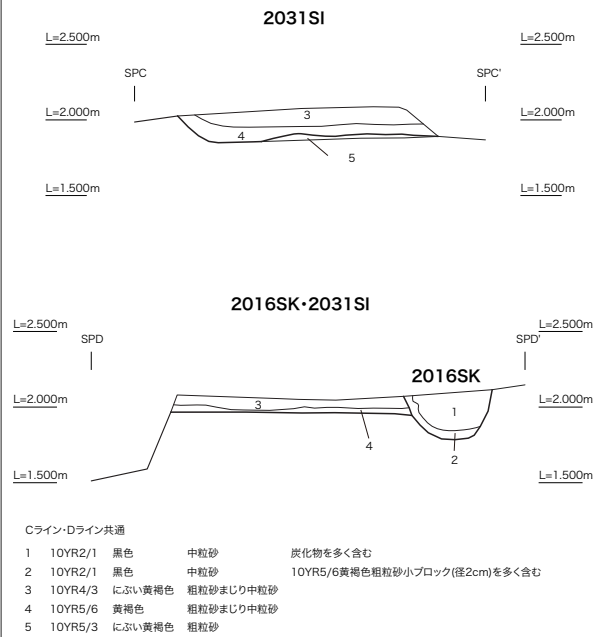
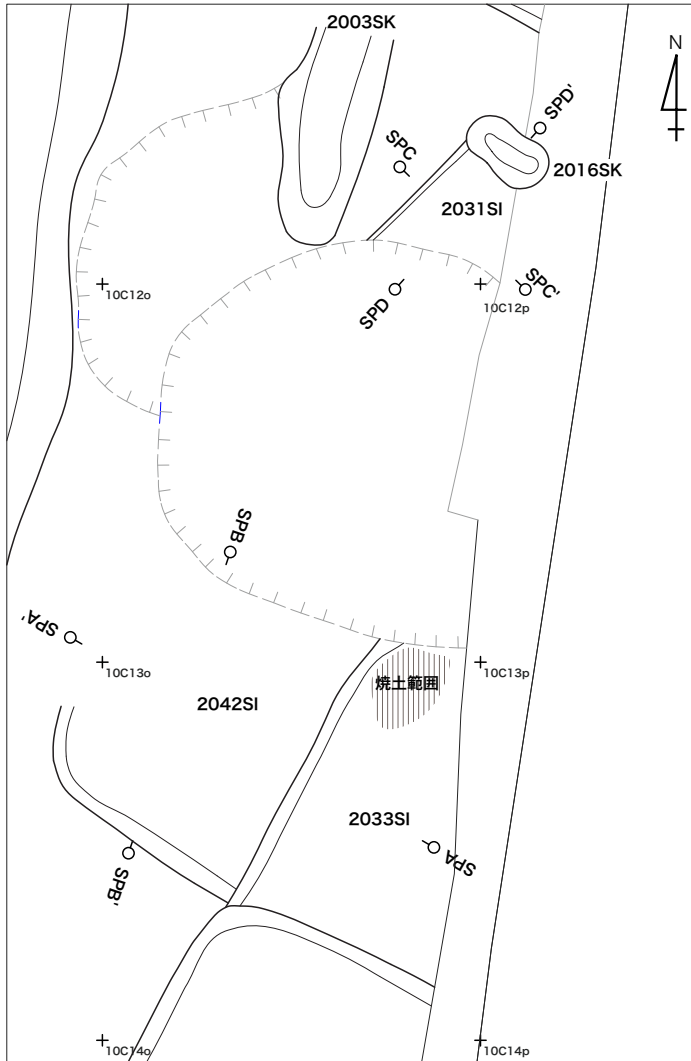


- | | | | | |
|---|---------|------|-----|-----------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色 | 中粒砂 | |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | |
| 3 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 中粒砂 | 小礫を少量含む |
| 4 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 中粒砂 | 硬化する |
| 5 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | 小礫をやや多く含む |
| 6 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | |



- | | | | | |
|----|------------|--------|-----|------------------------------------|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 中粒砂 | 10YR7/1 灰白色中粒砂ブロック(径10cm)・貝殻片を少量含む |
| 2 | B層 10YR5/1 | 褐灰色 | 中粒砂 | 貝殻片を極少量含む |
| 3 | B層 2.5Y5/1 | 黄灰色 | 中粒砂 | |
| 4 | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | 中粒砂 | |
| 5 | 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 中粒砂 | |
| 6 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 中粒砂 | 小礫まじり中粒砂 |
| 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 中粒砂 | |
| 8 | 10YR3/1 | 黒褐色 | 中粒砂 | 小礫(径5mm)を少量含む |
| 9 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 中粒砂 | |
| 10 | 2.5Y6/3 | にぶい黄色 | 中粒砂 | |
| 11 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 中粒砂 | |
| 12 | 2.5Y6/4 | にぶい黄色 | 中粒砂 | |
| 13 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | 粗粒砂 | |
| 14 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 粗粒砂 | |

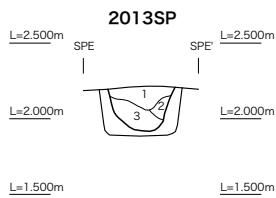
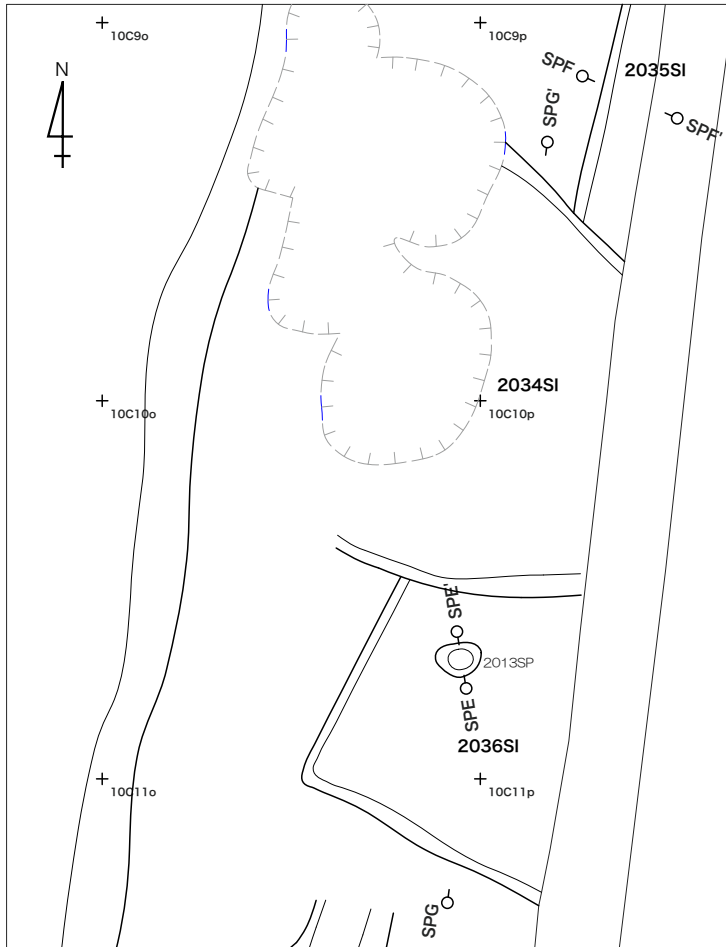
図 56 08B 区 2005SD・2007SD・2011SK・2028SI 平面および土層断面図【平面 1:100、土層断面 1:50】



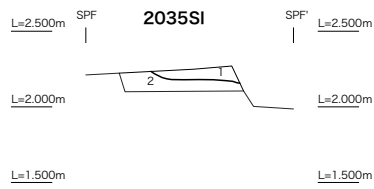
Aライン-Bライン共通

- | | | | | | | | | | |
|----|----------|--------|------|--|--|--|--|--|--|
| 1 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | | | | | | |
| 2 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | 粗粒砂 | 10YR6/6明黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm)をやや多く含む | | | | | |
| 3 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | 中粒砂 | 10YR4/4褐色粗粒砂ブロックを多く含む | | | | | |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粗粒砂 | | | | | | |
| 5 | 5YR3/2 | 暗赤褐色 | 粗粒砂 | 7.5YR4/6褐色粗粒砂ブロック(径1cm)を多く含む | | | | | |
| 6 | 10YR3/1 | 黒褐色 | 中粒砂 | 10YR5/6黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm)を多く含む | | | | | |
| 7 | 10YR3/1 | 黒褐色 | 中粒砂 | 10YR5/4にぶい黄褐色粗粒砂ブロック(径1cm)を多く含む | | | | | |
| 8 | 7.5YR5/6 | 明褐色 | 極粗粒砂 | 10YR3/1黒褐色中粒砂ブロック(径2cm)を多く、小礫(径5mm)を少量含む | | | | | |
| 9 | 5YR4/3 | にぶい赤褐色 | 中粒砂 | 10YR5/6黄褐色中粒砂ブロック(径1cm)を多く含む | | | | | |
| 10 | 10YR6/4 | にぶい黄褐色 | 中粒砂 | | | | | | |
| 11 | 10YR6/6 | 明黄褐色 | 中粒砂 | | | | | | |
| 12 | 7.5YR4/6 | 褐色 | 粗粒砂 | 7.5YR5/6明褐色極粗粒砂ブロック(径1cm)を多く含む | | | | | |
| 13 | 7.5YR5/6 | 明褐色 | 極粗粒砂 | 小礫(径5mm)を少量含む | | | | | |
| 14 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | 粗粒砂 | | | | | | |
| 15 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | 粗粒砂 | | | | | | |
| 16 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | 粗粒砂 | | | | | | |

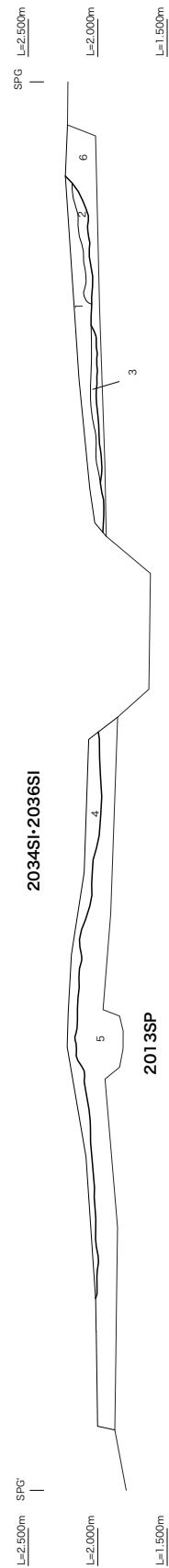
図 57 08B 区 2007SD・2016SK・2031SI・2033SI・2042SI 平面および土層断面図【平面 1:100、土層断面 1:50】



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色 中粒砂
- 2 2.5Y4/4 オリーブ褐色 中粒砂
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色 中粒砂



- 1 10YR5/6 黄褐色 粗粒砂まじり中粒砂 赤色化し締まりはやや強い
- 2 2.5Y7/4 浅黄色 粗粒砂



- 1 10YR4/6 褐色 中粒砂
 - 2 2.5Y6/3 に近い黄色 粗粒砂
 - 3 10YR6/6 明黄褐色 粗粒砂
 - 4 10YR5/4 に近い黄褐色 粗粒砂
 - 5 10YR4/4 褐色 粗粒砂
 - 6 2.5Y7/4 浅黄色 粗粒砂
- 炭化物少量含む

図 58 08B 区 2013SP・2034SI・2035SI・2036SI
 平面および土層断面図【平面 1:100、土層断面 1:50】

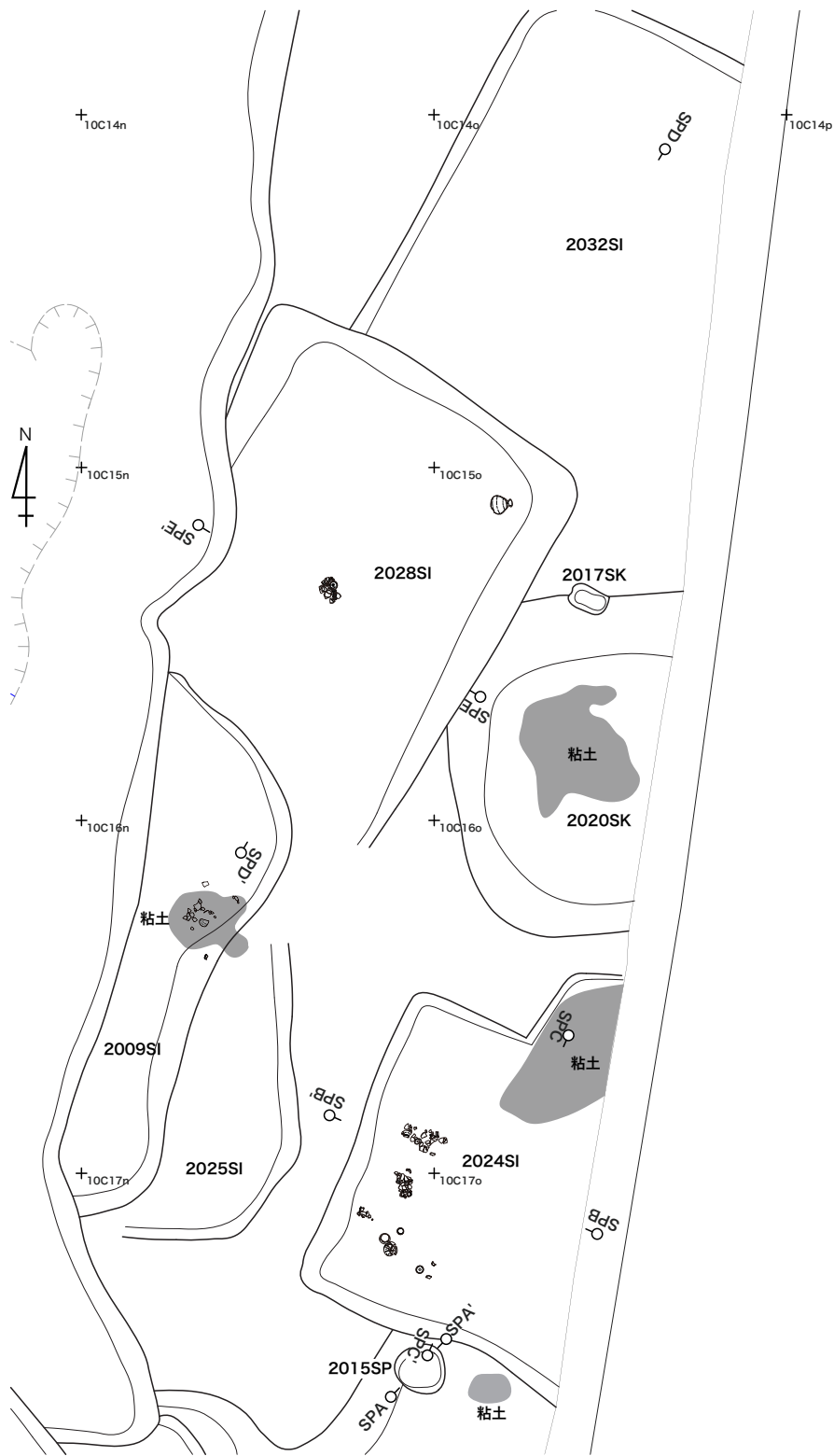
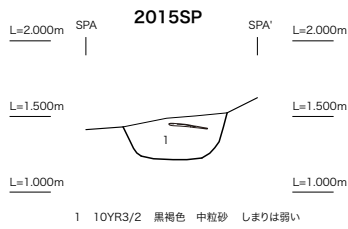
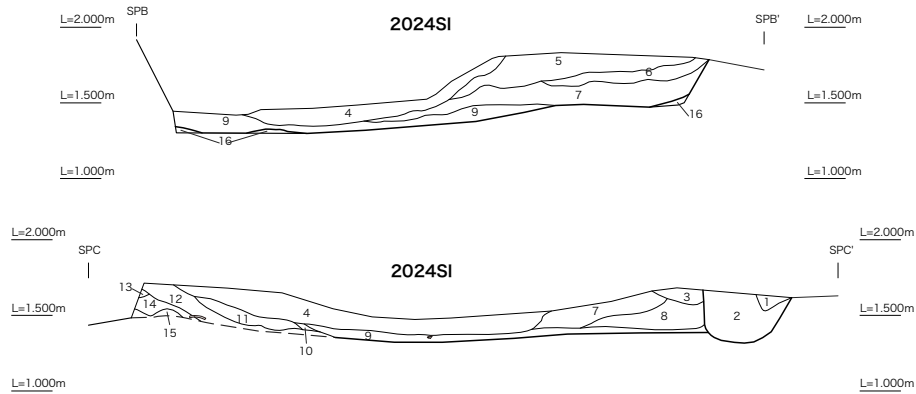


図 59 08B 区 2009SI・2015SP・2017SK・2020SK・2024SI・2025SI・2028SI・2032SI 平面図【 1:100 】

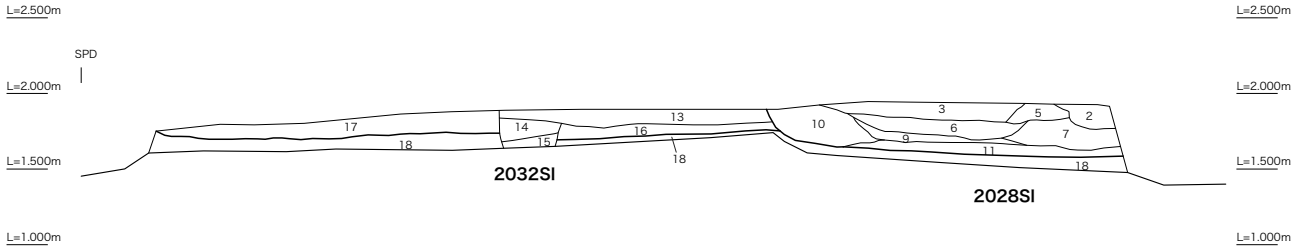


Bライン・Cライン共通

1	7.5YR4/1	褐灰色	中粒砂	7.5YR5/4にふい褐色粗粒砂小ブロックを多く含む	9	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂	10YR3/2黒褐色中粒砂ブロック(径5cm)をやや多く含む
2	10YR6/4	淡黄色	中粒砂	7.5YR4/2灰褐色粗粒砂小ブロックを多く含む	10	7.5YR5/1	褐灰色	粗粒砂	やや粘性あり
3	7.5YR3/3	暗褐色	粗粒砂	礫を少量含む	11	10YR4/3	にふい黄褐色	細粒砂	粘性あり
4	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂		12	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂	5Y7/4淡黄色砂質シルト粒、炭化物・焼土粒を多く含む
5	10YR4/3	にふい黄褐色	粗粒砂	2.5Y5/1黄灰色中粒砂ブロック(径4cm)を含む	13	7.5YR3/3	暗褐色	細粒砂	
6	10YR5/3	にふい黄褐色	粗粒砂	礫を少量含む	14	7.5YR4/3	褐色	粗粒砂	
7	7.5YR5/4	にふい褐色	粗粒砂	礫を少量含む	15	10YR6/4	にふい黄褐色	粘土	7.5YR4/3褐色粗粒砂ブロック(径3cm)を多く含む
8	10YR4/4	褐色	粗粒砂	礫を少量含む	16	10YR4/1	褐灰色	粗粒砂	

1 10YR3/2 黒褐色 中粒砂 しまりは弱い

2028SI・2032SI



1	10YR4/3	にふい黄褐色	中粒砂	10YR6/8明黄褐色中粒砂小ブロック(径1cm)を少し含む
2	7.5YR3/2	黒褐色	中粒砂	粗粒砂を多く含む
3	7.5YR4/3	褐色	中粒砂	
				10YR5/3にふい黄褐色粗粒砂小ブロック(径1cm)をやや多く含む
4	10YR3/1	黒褐色	中粒砂	
5	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂	
6	7.5YR4/3	褐色	粗粒砂	
7	7.5YR3/3	暗褐色	中粒砂	
8	5YR4/3	にふい赤褐色	中粒砂	7.5YR5/4にふい褐色粗粒砂ブロック(径3cm)を多く含む
9	10YR3/3	暗褐色	中粒砂	
10	7.5YR3/2	黒褐色	中粒砂	
11	7.5YR4/6	褐色	粗粒砂	
12	10YR6/6	明黄褐色	中粒砂	
				10YR4/3にふい黄褐色粗粒砂小ブロック(径2cm)を多く含む
13	7.5YR4/3	褐色	中粒砂	
14	5YR4/3	にふい赤褐色	中粒砂	
15	5YR3/3	暗赤褐色	中粒砂	
16	5YR4/4	にふい赤褐色	中粒砂	
17	7.5YR4/4	褐色	中粒砂	7.5YR5/6明褐色極粗粒砂小ブロック(径3cm)を多く含む
18	7.5YR5/6	明褐色	粗粒砂	

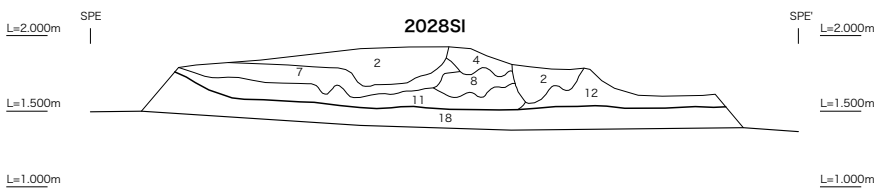
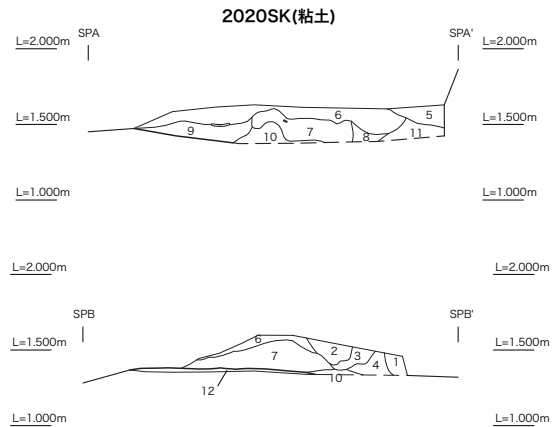
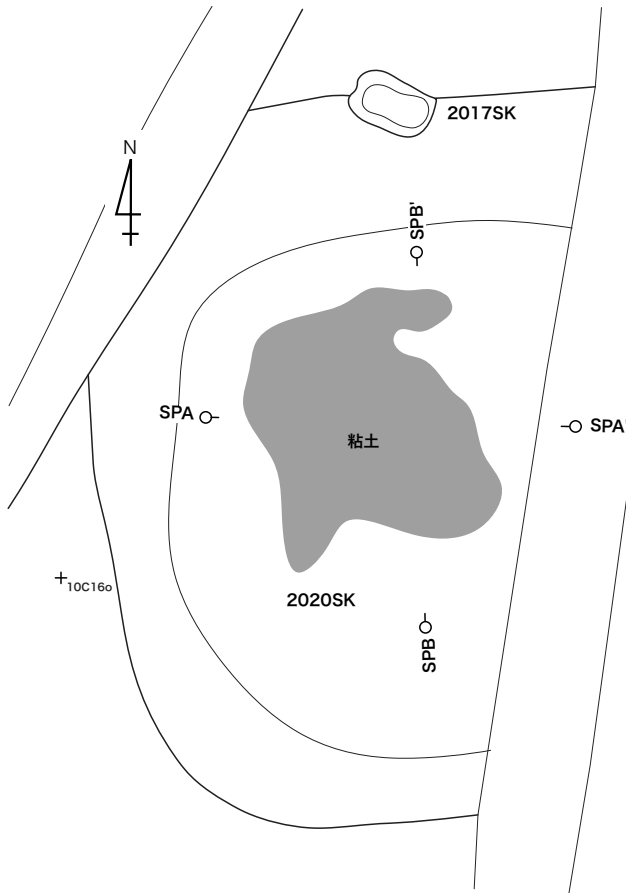
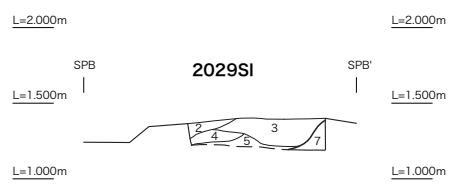
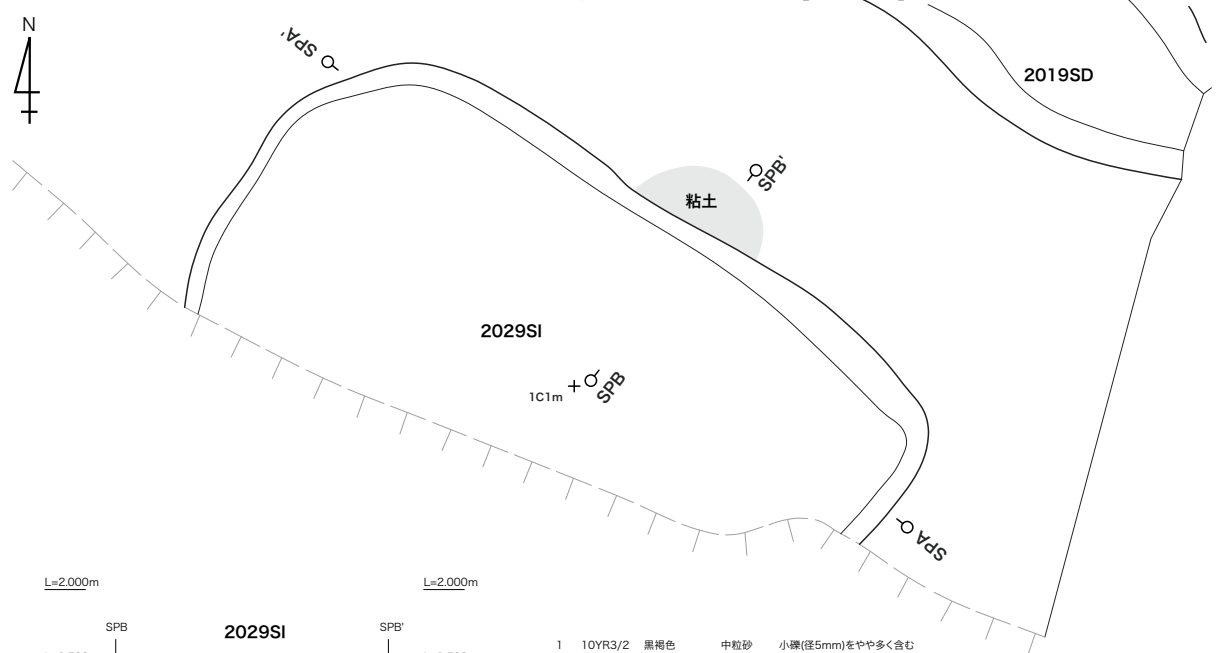


図 60 08B 区 2015SP・2024SI・2028SI・2032SI 土層断面図【 1:50 】



- | | | | | |
|----|---------|---------|-----------|---|
| 1 | 2.5Y4/2 | 暗灰黄色 | 中粒砂 | やや粘性あり |
| 2 | 2.5Y5/4 | 黄褐色 | 粘土 | 小礫(径3~5mm)を少量含む |
| 3 | 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 中粒砂 | やや粘性あり |
| 4 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | 粘土 | 10YR4/4褐色粘土ブロック(径3cm)を少量、焼土粒(1cm)を極少量含む |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | 貝殻微細片・焼土粒を少量、小礫(径2mm)を極少量含む |
| 6 | 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 中粒砂 | 極少量の焼土粒を含む |
| 7 | 2.5Y5/3 | 黄褐色 | シルト | |
| 8 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粗粒砂 | やや粘性あり |
| 9 | 2.5Y3/3 | 暗オリーブ褐色 | 粘質シルト | 5Y5/3灰オリーブ色粘土ブロック(径3cm)を多く含む |
| 10 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粗粒砂混じりシルト | 焼土粒・炭化物を少量含む |
| 11 | 2.5Y3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | |
| 12 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粗粒砂 | |

図 61 08B 区 2020SK 平面図・土層断面図【 1:50 】



- | | | | | |
|---|---------|--------|-----|----------------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 中粒砂 | 小礫(径5mm)をやや多く含む |
| 2 | 10YR4/1 | 褐灰色 | 粗粒砂 | 小礫(径5mm)をやや多く含む |
| 3 | 10YR5/1 | 褐灰色 | 中粒砂 | 10YR6/4にぶい黄褐色粘土ブロック(径5cm)をやや多く含む |
| 4 | 10YR5/2 | 灰褐色 | 粗粒砂 | |
| 5 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 粗粒砂 | |
| 6 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | 粗粒砂 | |
| 7 | 10YR5/1 | 褐灰色 | 粗粒砂 | |

図 62 08B 区 2029SI 平面図・土層断面図【 1:50 】

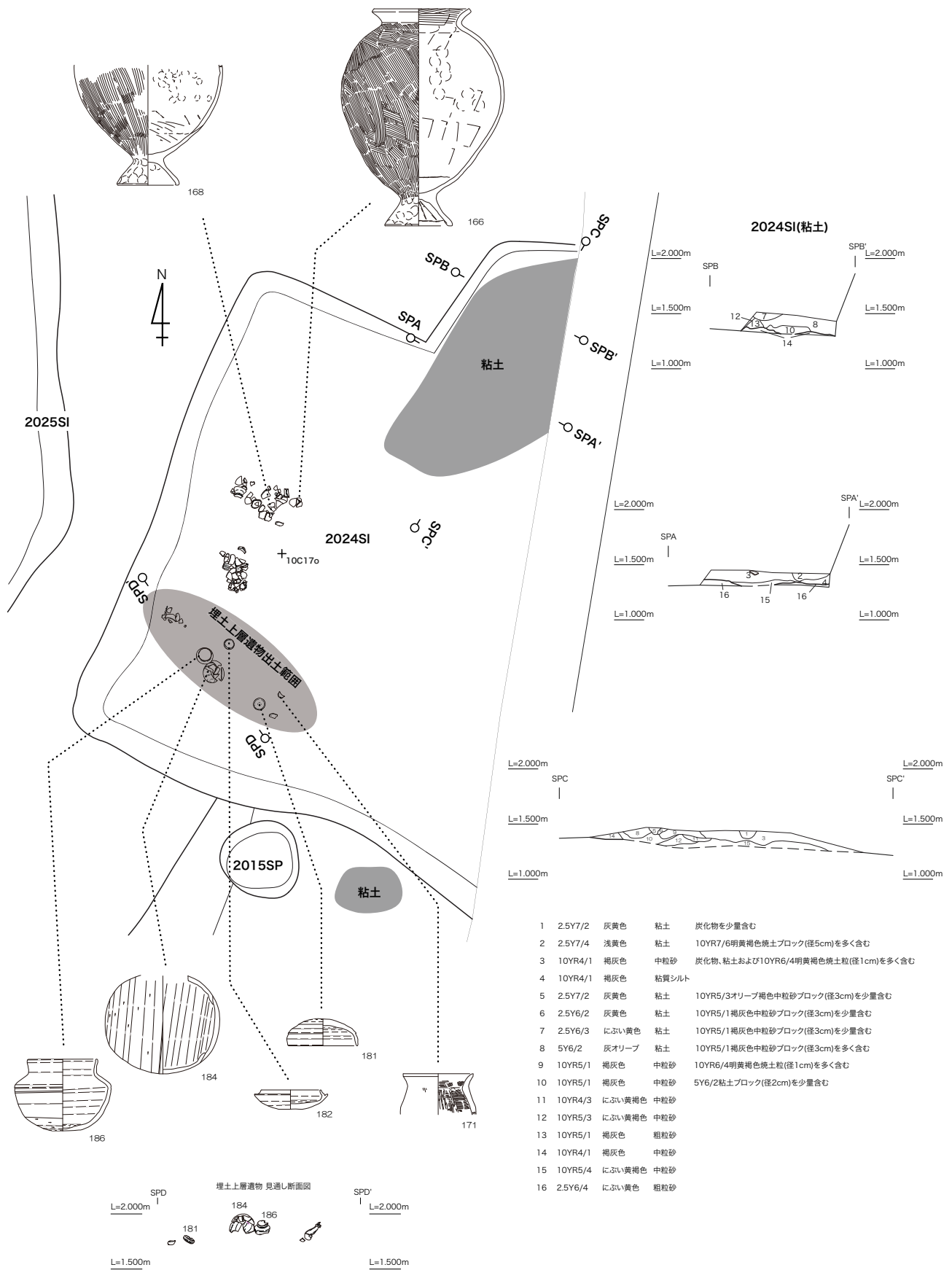


図 63 08B 区 2024SI 平面図・土層断面図【 1:50 】

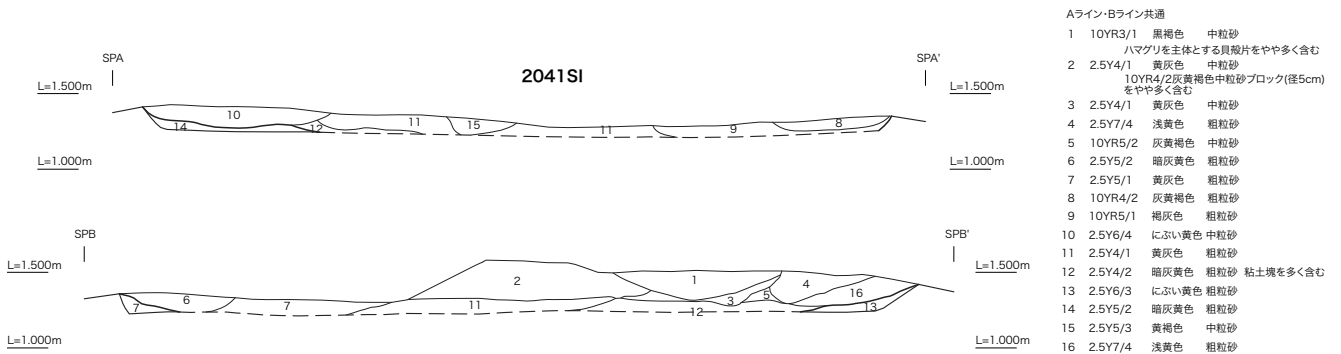
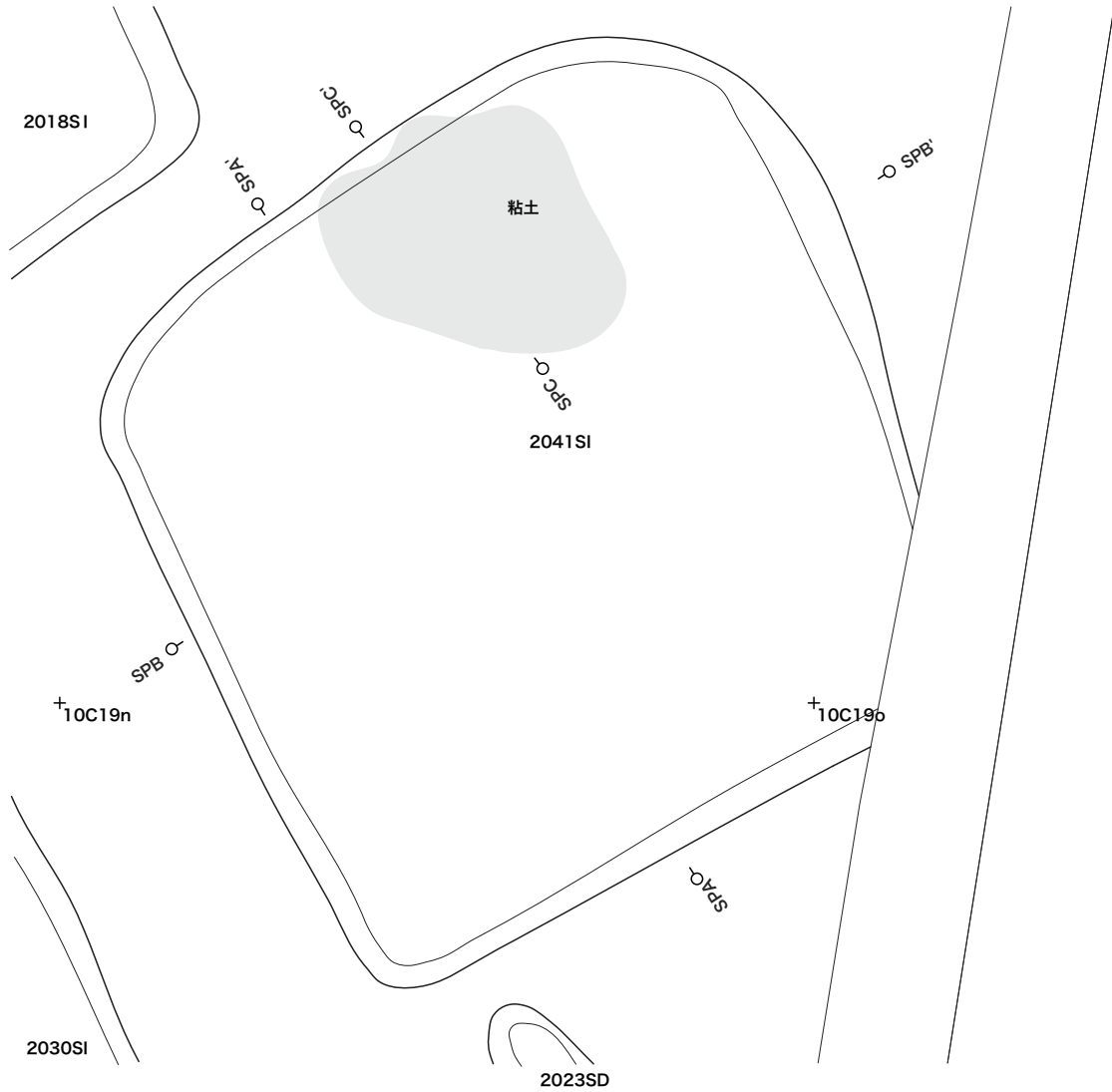
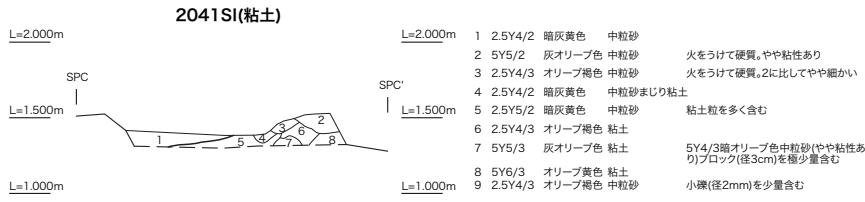


図 64 08B 区 2009S・2025SI 平面図・土層断面図【 1:50 】

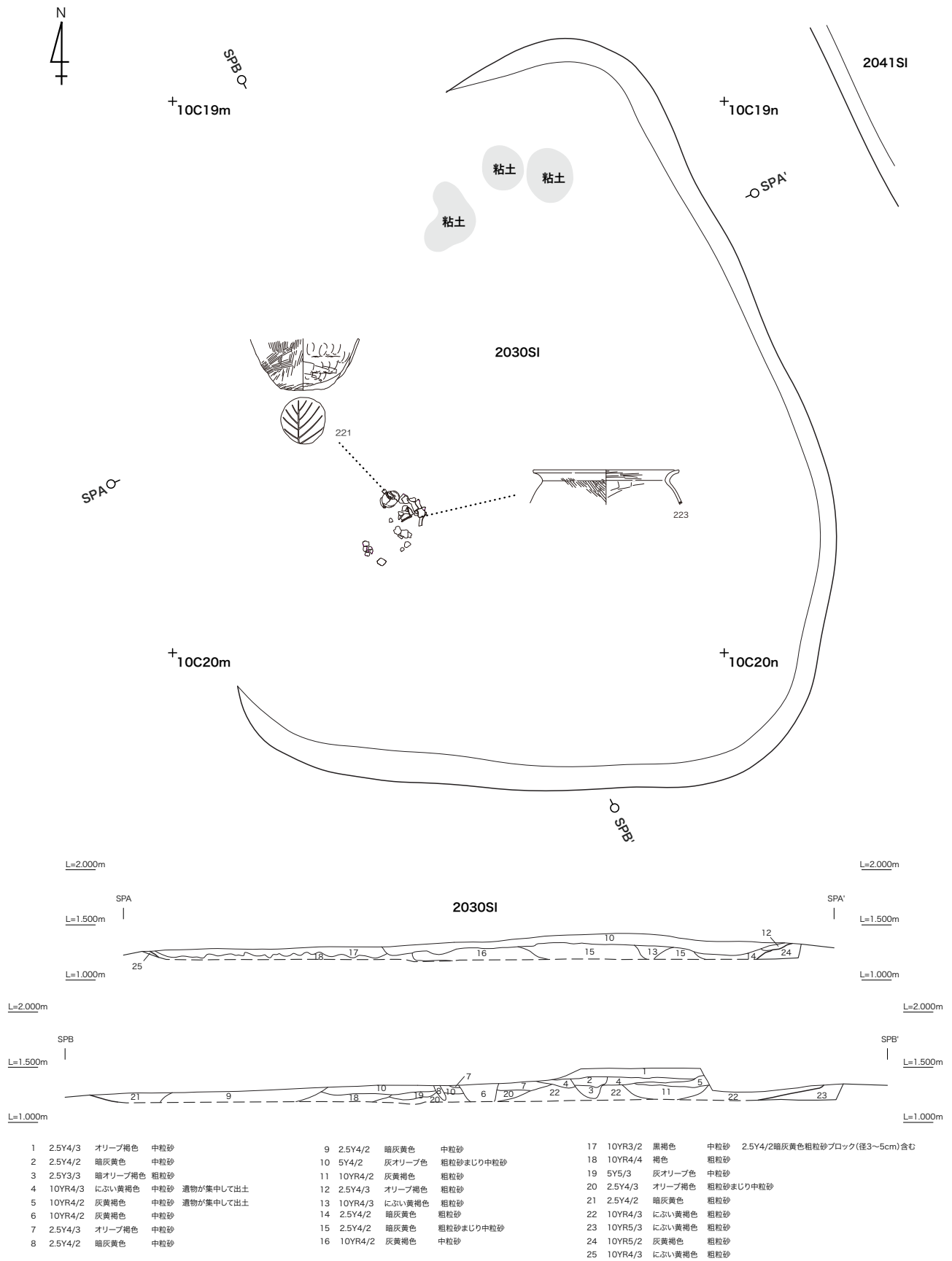
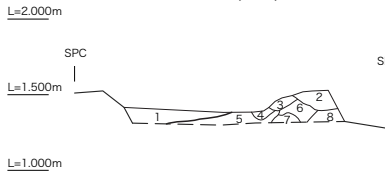
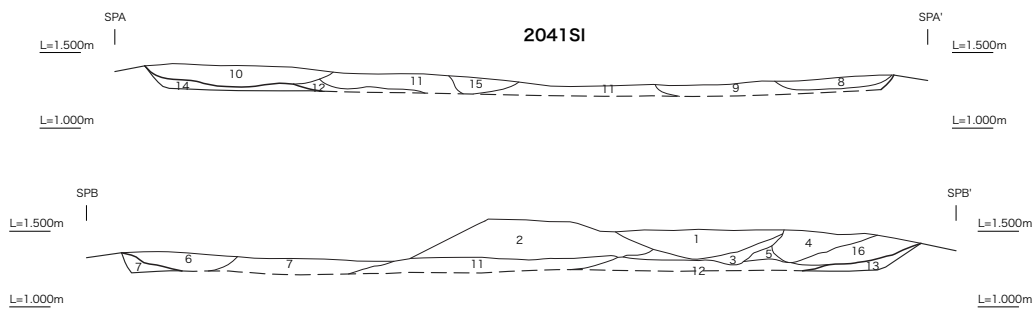
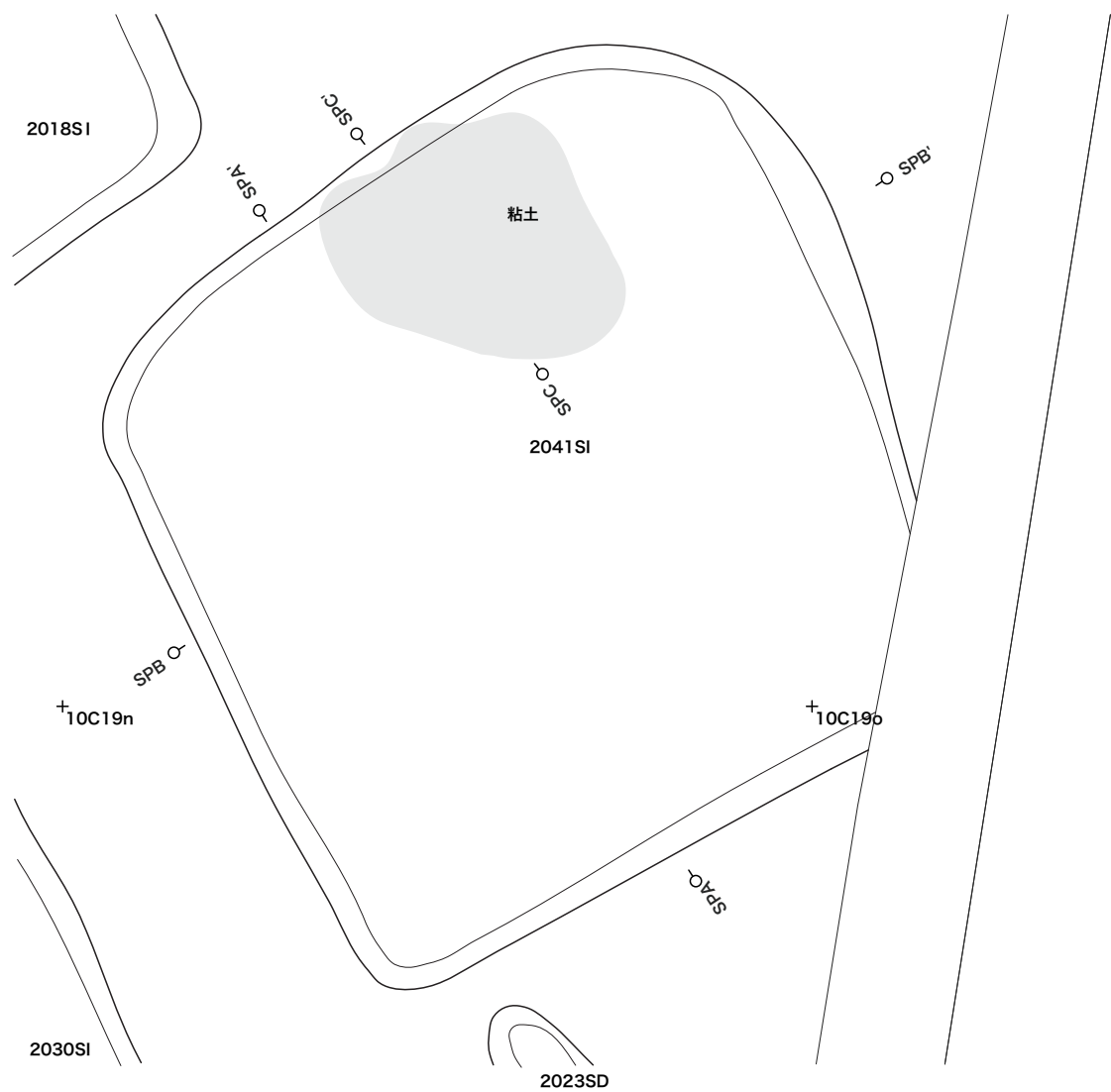


図 65 08B 区 2030SI 平面図・土層断面図【 1:50 】

2041SI(粘土)



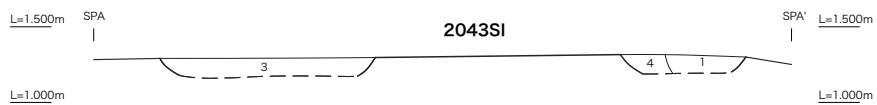
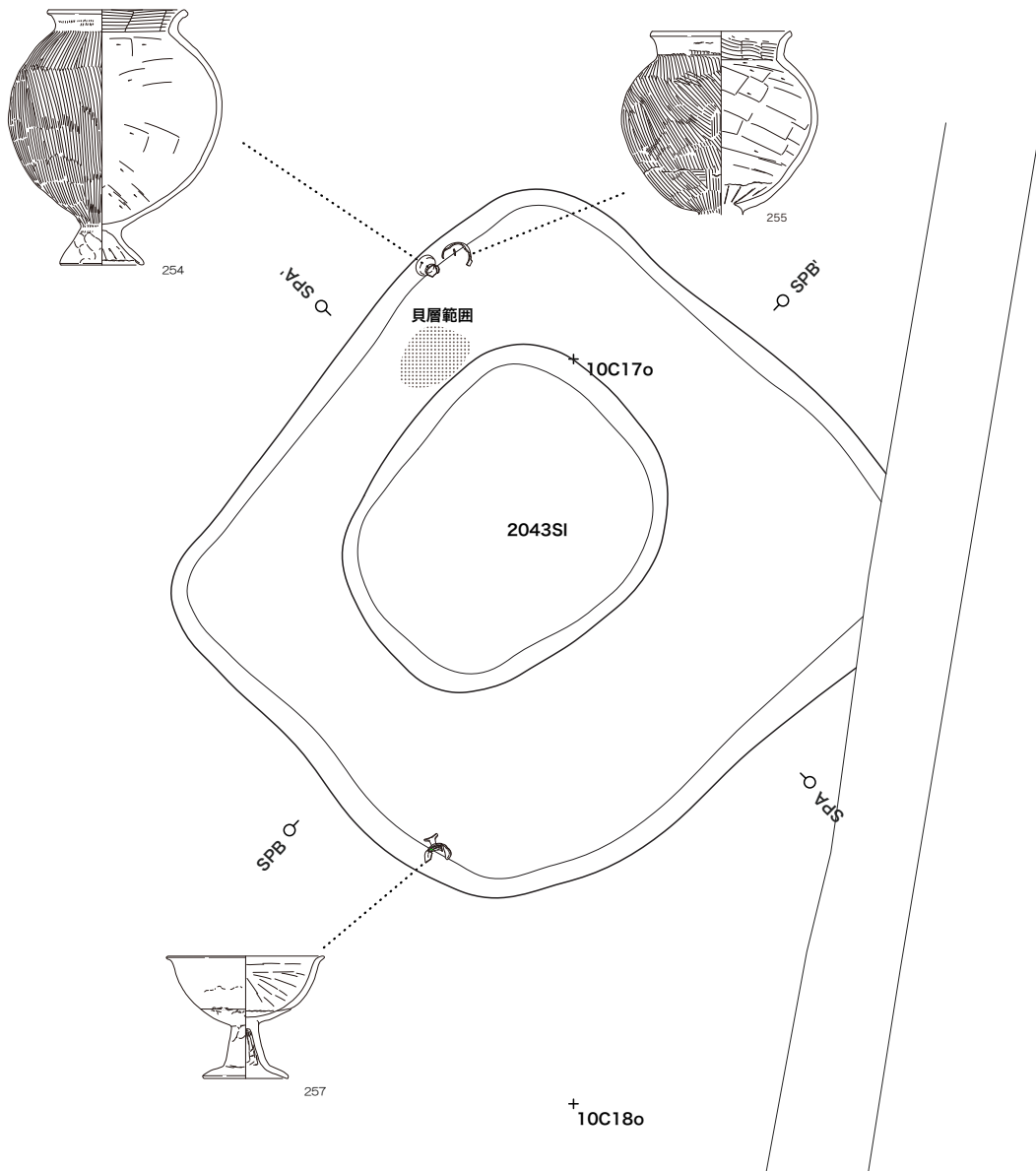
L=2.000m	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂	
	2	5Y5/2	灰オリーブ色	中粒砂	火をうけて硬質。やや粘性あり
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	火をうけて硬質。2に比してやや細かい
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	中粒砂まじり粘土	
L=1.500m	5	2.5Y5/2	暗灰黄色	中粒砂	粘土粒を多く含む
	6	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土	
	7	5Y5/3	灰オリーブ色	粘土	5Y4/3暗オリーブ色中粒砂(やや粘性あり)ブロック(径3cm)を極少量含む
L=1.000m	8	5Y6/3	オリーブ黄色	粘土	
	9	2.5Y4/3	オリーブ褐色	中粒砂	小礫(径2mm)を少量含む



Aライン・Bライン共通

1	10YR3/1	黒褐色	中粒砂	ハマグリを主体とする貝殻片をやや多く含む
2	2.5Y4/1	黄灰色	中粒砂	10YR4/2灰黄褐色中粒砂ブロック(径5cm)をやや多く含む
3	2.5Y4/1	黄灰色	中粒砂	
4	2.5Y7/4	浅黄色	粗粒砂	
5	10YR5/2	灰黄褐色	中粒砂	
6	2.5Y5/2	暗灰黄色	粗粒砂	
7	2.5Y5/1	黄灰色	粗粒砂	
8	10YR4/2	灰黄褐色	粗粒砂	
9	10YR5/1	褐灰色	粗粒砂	
10	2.5Y6/4	にぶい黄色	中粒砂	
11	2.5Y4/1	黄灰色	粗粒砂	
12	2.5Y4/2	暗灰黄色	粗粒砂	粘土塊を多く含む
13	2.5Y6/3	にぶい黄色	粗粒砂	
14	2.5Y5/2	暗灰黄色	粗粒砂	
15	2.5Y5/3	黄褐色	中粒砂	
16	2.5Y7/4	浅黄色	粗粒砂	

図 66 08B 区 2041SI 平面図・土層断面図【 1:50 】



- | | | | | |
|---|---------|------|-----|----------------------------------|
| 1 | 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 中粒砂 | 2.5Y4/3オリブ褐色中粒砂ブロック(径3cm)をやや多く含む |
| 2 | 2.5Y5/1 | 黄灰色 | 中粒砂 | |
| 3 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 中粒砂 | |
| 4 | 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 中粒砂 | ハマグリを主体とする貝を多く含む |

図 67 08B 区 2043SI 平面図・土層断面図【1:50】

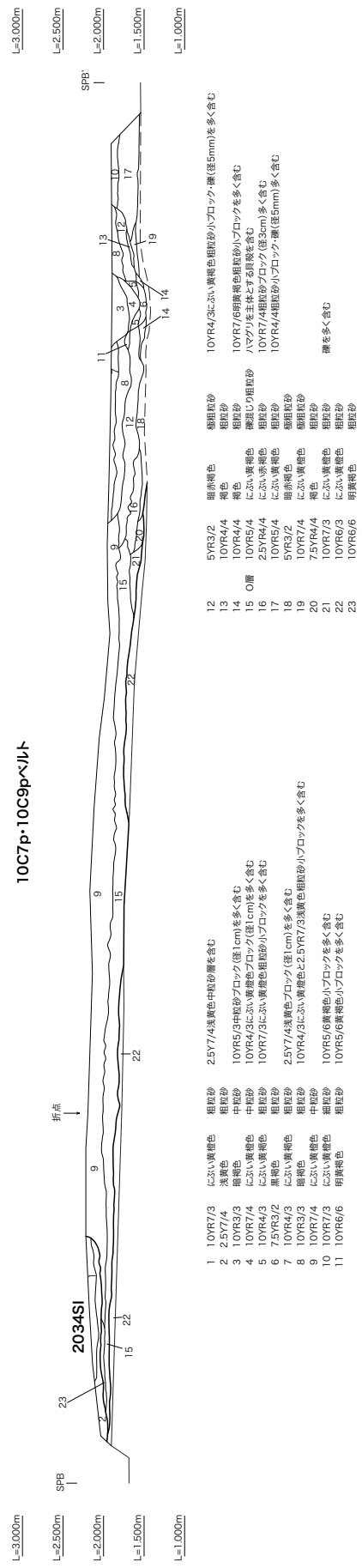
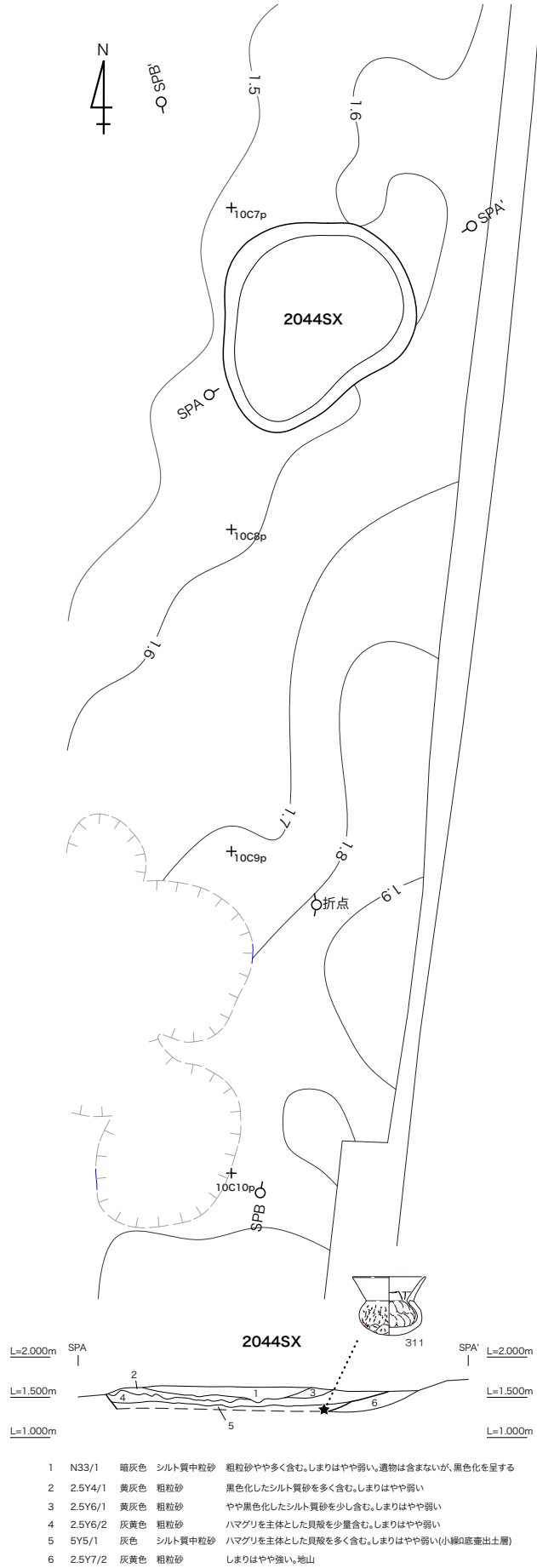


図 68 08B 区 2044SX など平面図・土層断面図【平面 1:100、土層断面 1:80】

第6節 12A区の層序と遺構

12A区は、12区の中でも最も北側に位置しており、長さ100mほどである。調査においては、土層断面状況を確認することから、調査区壁に併

行する方向で、東西方向に8本、調査区中央の南北方向に1本のトレンチを設定し、土層観察

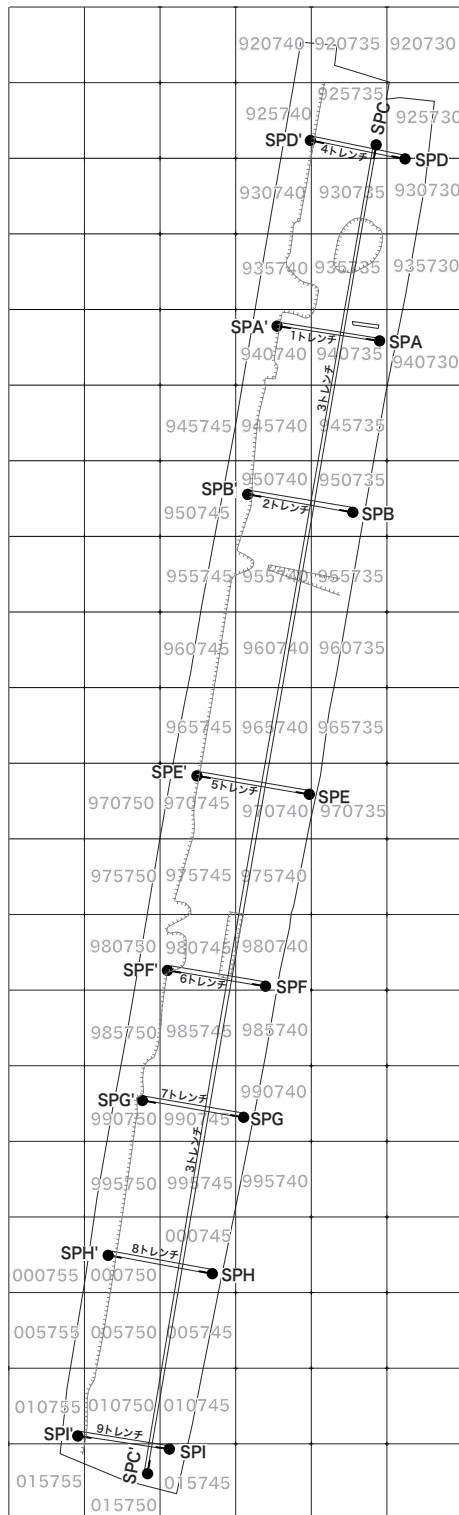


図 69 12A区セクションポイント位置図

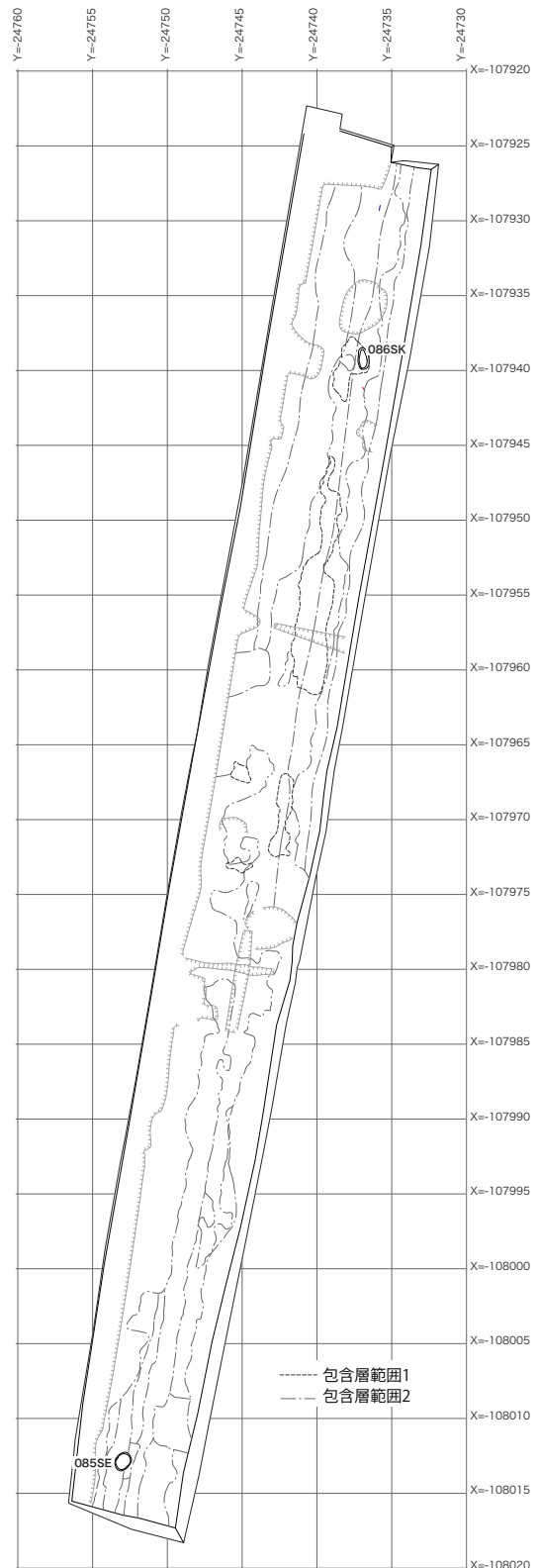
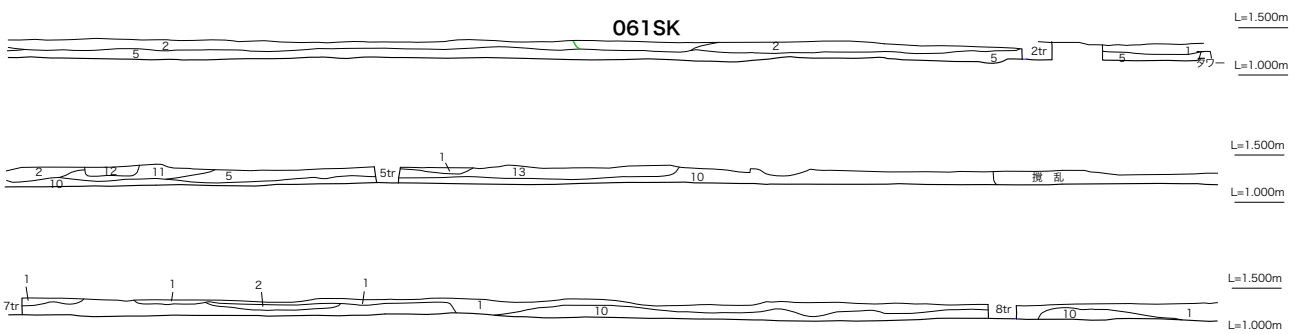
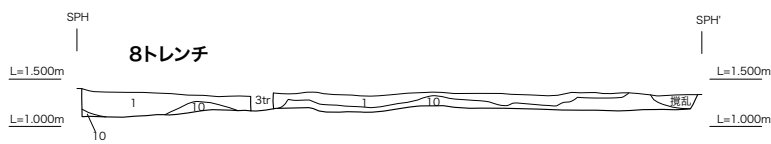
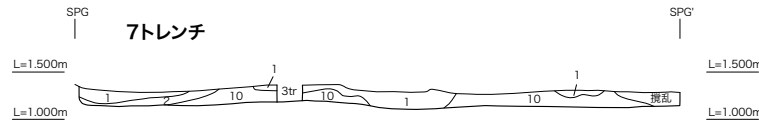
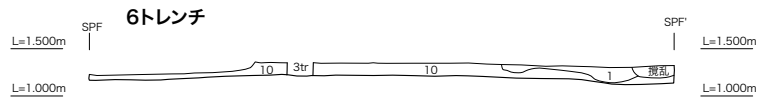


図 70 12A区平面図【1:500】



- | | | | | | | | |
|------------|----------|---------|-------------|-------------|----------|---------|-------------|
| 1. 10YR3/2 | 黒褐色粗粒砂 | 10YR4/2 | 灰黄褐色極粗粒砂斑土混 | 8. 10YR3/2 | 黒褐色粗粒砂 | 10YR4/2 | 灰黄褐色極粗粒砂斑土混 |
| 2. 10YR3/2 | 黒褐色粗粒砂 | 10YR4/2 | 灰黄褐色極粗粒砂象理 | 9. 10YR6/2 | 灰黄褐色粗粒砂 | | |
| 3. 10YR4/2 | 灰黄褐色極粗粒砂 | | | 10. 10YR4/4 | 褐色極粗粒砂 | | |
| 4. 10YR2/2 | 黒褐色粗粒砂 | | | 11. 10YR6/2 | 灰黄褐色極粗粒砂 | | |
| 5. 10YR6/2 | 灰黄褐色極粗粒砂 | | | 12. | 枕木下の礫 | | |
| 6. 10YR3/2 | 黒褐色粗粒砂 | 10YR4/2 | 灰黄褐色極粗粒砂斑土混 | 13. 10YR4/2 | 灰黄褐色極粗粒砂 | | |
| 7. 1.と同一層 | | | | 14. 10YR6/2 | 灰黄褐色極粗粒砂 | | |

土層断面図 1 【 1:80 】

においても製塩土器 1 類の出土が目立ったのは、
多いに注目される。遺物の出土は 5 層に食い込

んで存在していたものが見られる点からも、
08B 区 N 層との関係が窺えるのである。

第7節 12B 区の層序と遺構

12B 区は、今回設定された中では中央の調査区で、長さ 90m ほどである。上浜田遺跡の想定されている範囲の東端に当たる。12A 区同様に、東西方向では 4 箇所、南北方向では調査区西壁を用いて、遺跡内の土層関係を検討した。土層堆積状況は、12A 区と同様に、大別層 1・2・3・5 層であるが、12B 区では 5 層を掘り込む形で古代の遺構および包含層を検出した。

遺構および包含層は、087SK・089SU・090SK（貝層 3）・貝層 1・貝層 2 である。

貝層 1 と貝層 2 は隣接して確認されたが、層厚は薄い状態であった。さらに貝層 3（090SK）を含めて、これらの貝層は 5 m 四方におさまる範囲で隣接して見つかった。

貝層 3 は、検出当初、環状に広がる貝の集積程度と思われた。しかし、精査する過程で、8 世紀初頭前後の須恵器が出土し、周辺より土色が暗色気味であることが分かった。そこで、さらに精査を行なった結果、当初見えていた貝層 3 の上層とは別に、3～3.5m を測る不定形な土坑状の落ち込みの中にも下の貝層が存在していることが明らかとなり、これを 090SK とした。深さは 30cm 前後である。この上下二層の広がり土坑中央部分、黒色系の砂層が貝の腐食した範囲だとすれば、土坑の 2/3 くらいにわたって広がっていたと考えられる。下の貝層の下位からは馬の下顎骨などが出土した。馬骨は埋葬ではなく、解体処理がされていたようで、下顎骨や大腿骨が隣接して出土するなど、非解剖学的な出土状況を呈している。土坑内の西北寄りには焼土および炭化物の出土が目立った。この部分に貝殻の出土はなく、8 世紀初頭前後の須恵器を中心に、濃尾系甕と伊勢系甕

や甌を含む、土器類のまとまった出土があった。

貝層を伴わない土坑 087SK と土器集積 089SU が 090SK の北側 10m 地点で確認した。089SU は径 1.5m 前後の土坑で、浅く窪む

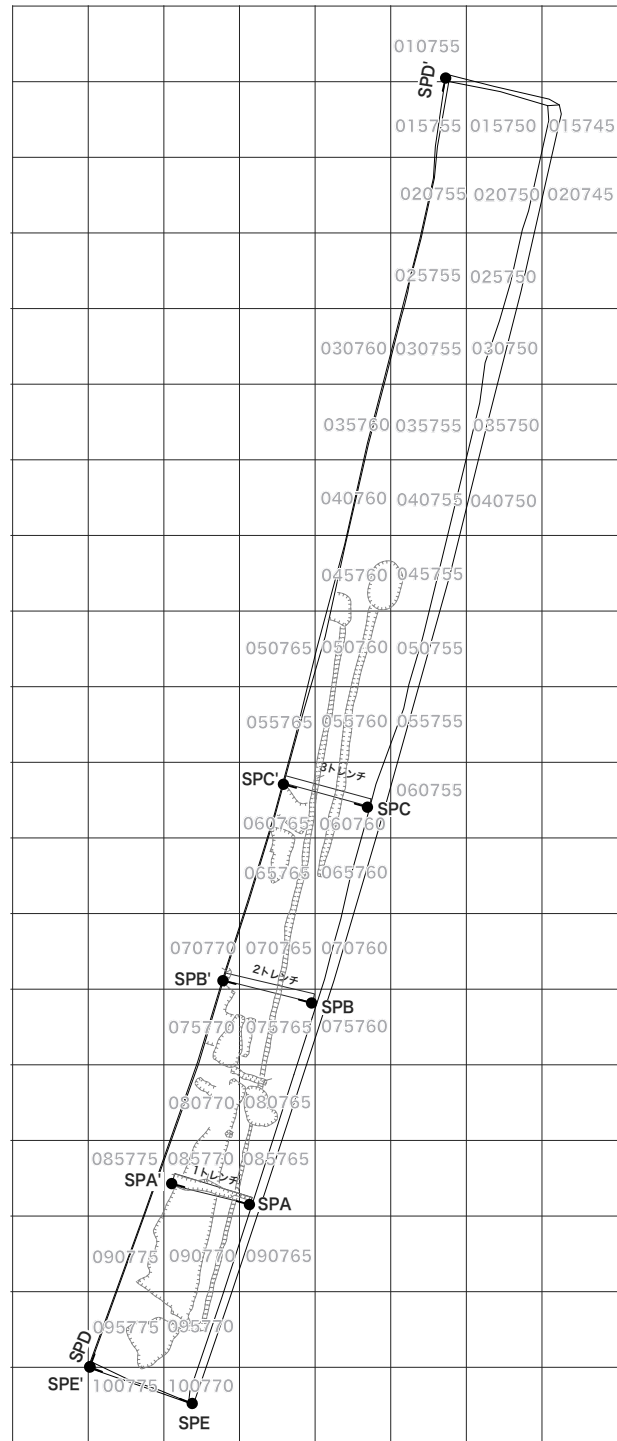


図 72 12B 区セクションポイント位置図

20 cm以下の堆積層を確認した。炭化物や被熱痕は認められなかったので、カマドではないと考え

られる。埋土に粘土が多く混じっており、出土遺物には濃尾系甕などがあつた。

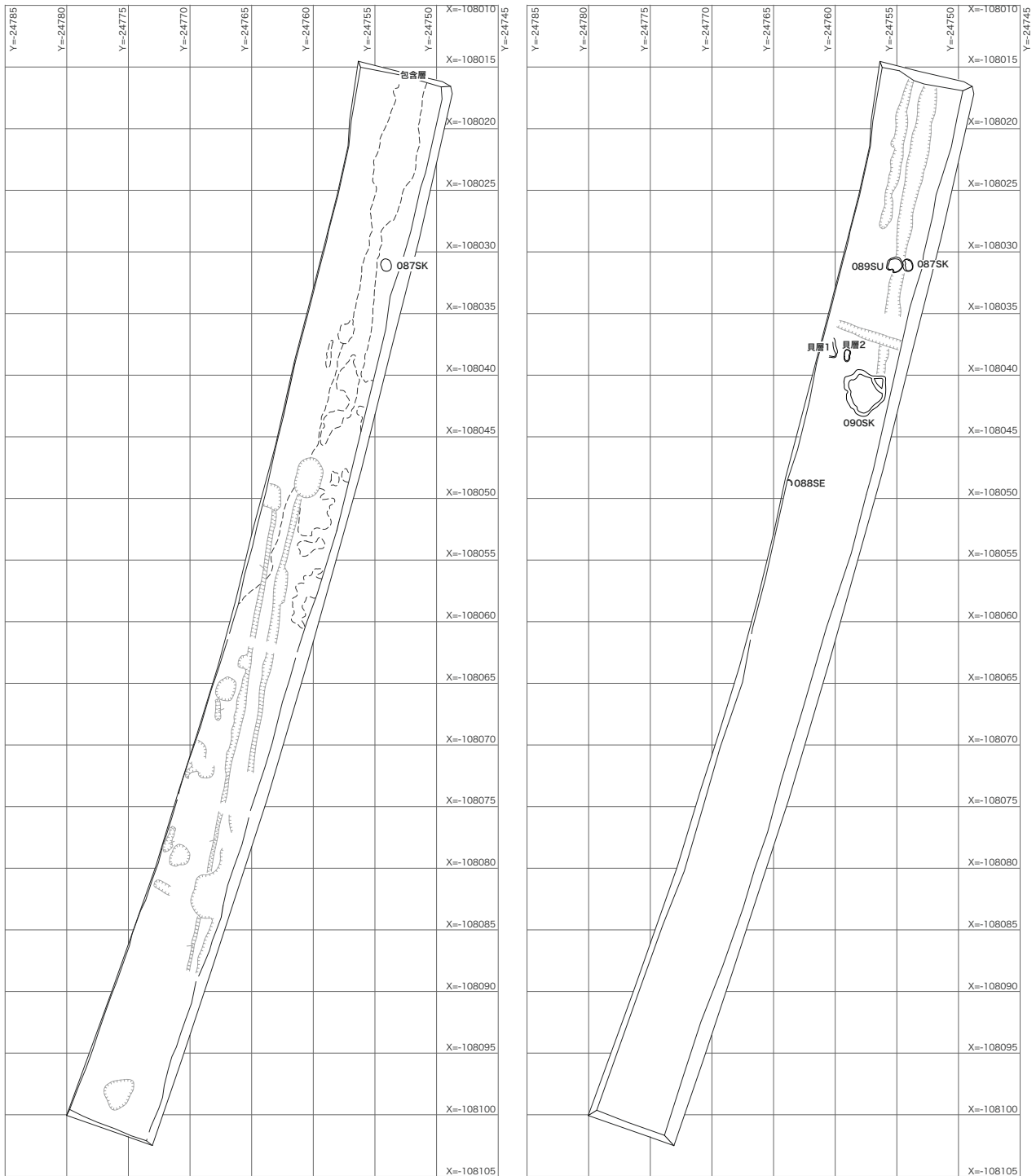
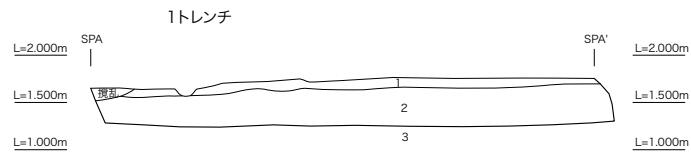
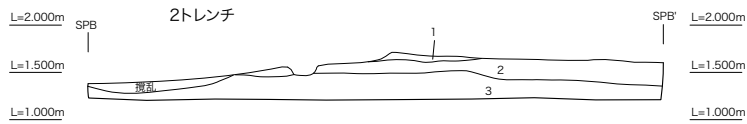


図 73 12B区平面図【1:500】



1. 10YR4/2 ~ 10YR6/2 灰黄褐色粗粒砂
2. 10YR4/2 灰黄褐色 ~ 10YR4/4 褐色粗粒砂 遺物あり
3. 10YR6/2 灰黄褐色極粗粒砂礫混



1. 10YR4/2 ~ 10YR6/2 灰黄褐色粗粒砂
2. 10YR4/2 灰黄褐色 ~ 10YR4/4 褐色粗粒砂 遺物あり
3. 10YR6/2 灰黄褐色極粗粒砂礫混

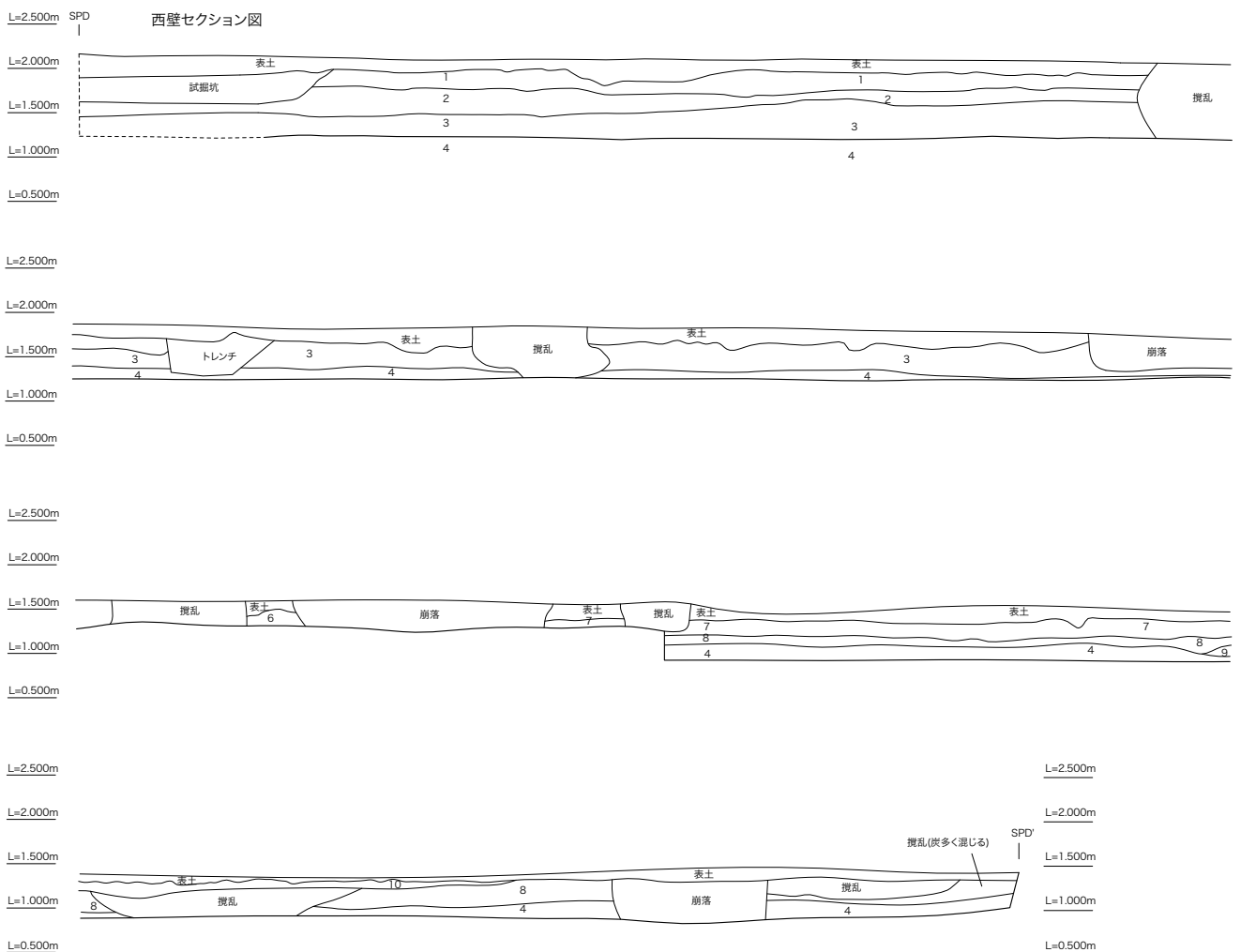
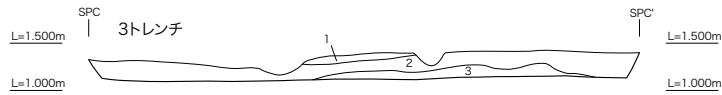
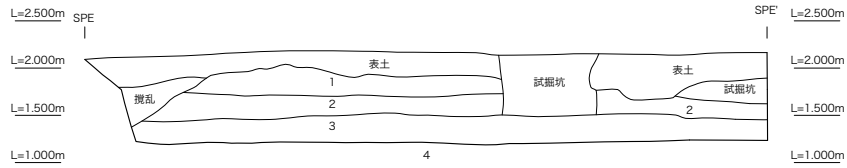


図 74 12B区

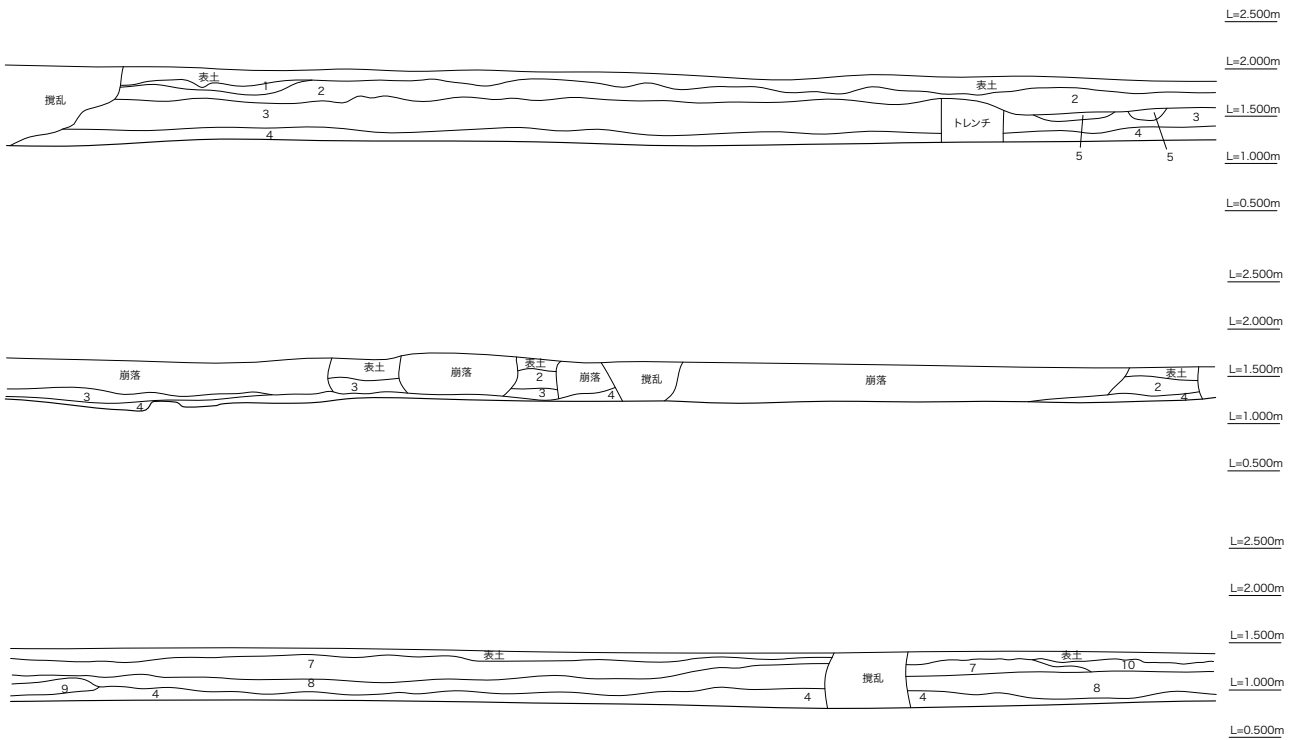


1. 10YR4/2 ~ 10YR6/2 灰黄褐色粗粒砂
2. 10YR4/2 灰黄褐色 ~ 10YR4/4 褐色粗粒砂
3. 10YR6/2 灰黄褐色極粗粒砂細礫混

南壁セクション



1. 10YR4/2 ~ 10YR6/2 灰黄褐色粗粒砂
2. 10YR4/2 灰黄褐色 ~ 10YR4/4 褐色粗粒砂
3. 10YR3/2 黒褐色粗粒砂
4. 10YR6/2 灰黄褐色極粗粒砂細礫混



1. 10YR4/2 ~ 10YR6/2 灰黄褐色粗粒砂
2. 10YR4/2 灰黄褐色 ~ 10YR4/4褐色粗粒砂
3. 10YR3/2 黒褐色粗粒砂
4. 10YR6/2 灰黄褐色極粗粒砂細礫混
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂 10YR3/2 黒褐色粗粒砂斑土
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂
7. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粗粒砂 旧耕作土か
8. 10YR6/2 灰黄褐色極粗粒砂 4区トレンチ5層
9. 10YR6/2 灰黄褐色極粗粒砂 混具層
10. N4/ 灰色粗粒砂 旧耕作土か

土層断面図 1 【 1:80 】

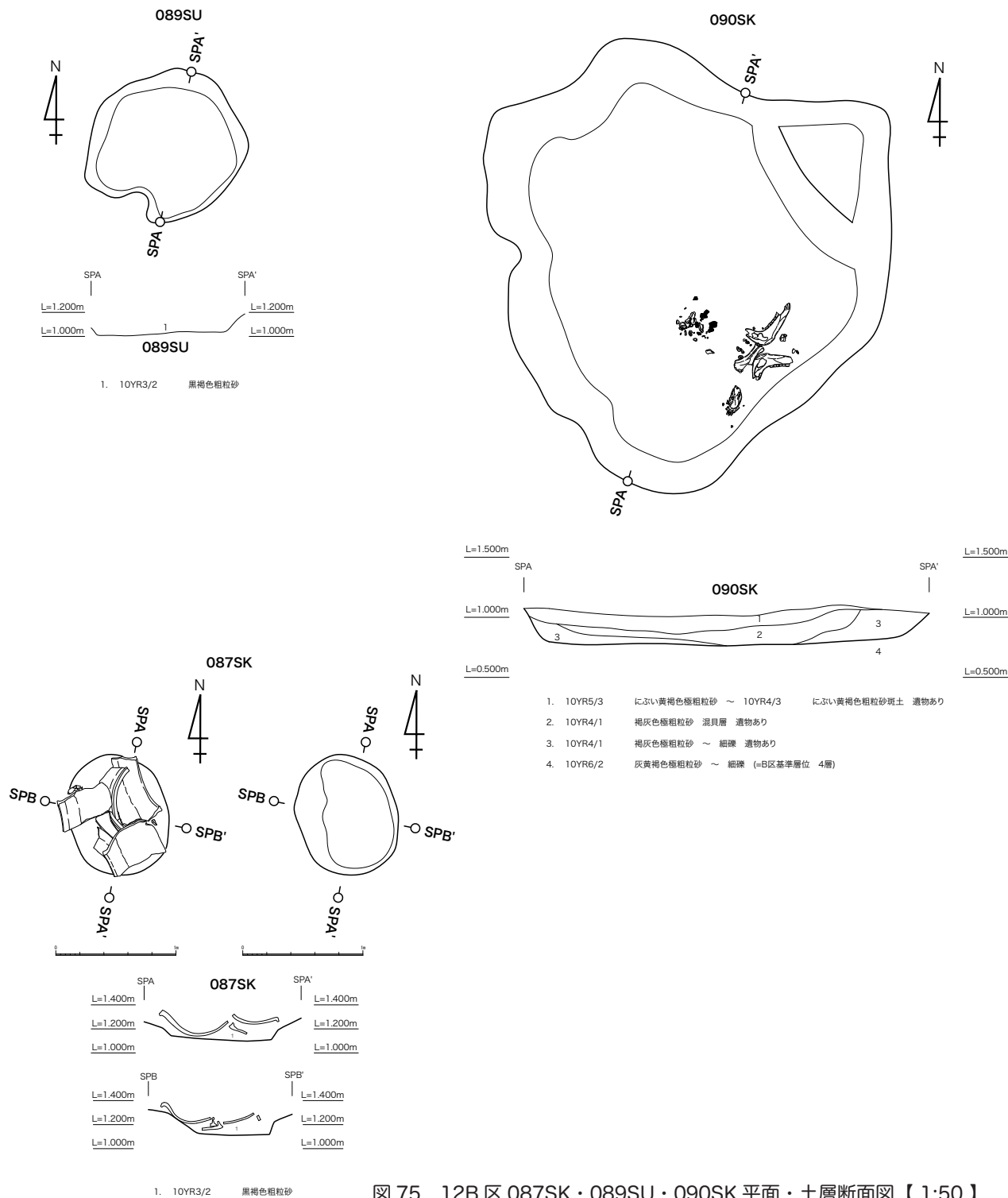


図 75 12B 区 087SK・089SU・090SK 平面・土層断面図【1:50】

第8節 12C 区の層序と遺構

12C 区は最も南側に設定された調査区で、12B 区同様に上浜田遺跡範囲の東端に当たることが想定されていた。調査区に横断方向で4本、調査区東壁および西壁を用いて土層断面状況を確認しつつ、調査を行なった。12C 区は、調査区北 25m 付近と、南側とでは様相が大きく異なる。より堆積層などが確認できるのが北 25m 付近までであり、南側は低地部分に当たる。図7の最右に示した、基本層序も、この北 25m 付近までの状況であり、この地点について中心に報告する。

この北 25m 付近までは、高台の形状を呈しており、12B 区側あるいは調査区西側へと広がっている。ここでは、大別層 1～5 層までの堆積が確認され、特に 4 層とした灰色斑土が確認できたことは、遺跡の保存が良好であったことを示す。この 12C 区で 1 層に相当するのは近代以降の硬化した整地層である。累々と堆積層の重なりが確認できることから、古代から現代近くまで地形が近似していたと考えられる。この高台の形状は、大別層 5 層とした、砂堆による凸状の高まりによる。この砂堆の落ち際に沿って、近代以降に道が整備されたようである。

古代の遺構としては、105SX・106SX・107SX・108SXを確認した。いずれも貝層であり、5 層の凹んだ地点で検出された。いずれも、調査区西壁沿いに列状に展開することから、砂堆上に带状に廃棄された貝層がたまたま遺存していた可能性もある。12B 区同様に、出土遺物から 8 世紀初頭前後に形成されたものと考えられる。

一方、この高台の南側は、調査前までは水田が営まれていた。北 25m 付近の高台が南東側へ傾

斜しているところでは、並列して上位列は丸太杭列、下位列は円柱状のコンクリート杭列があった。これらは水田用地との境界に打ち込まれた土留め関連の杭列と考えられる。

12C 区外の南西方向には、戦前までタイル工

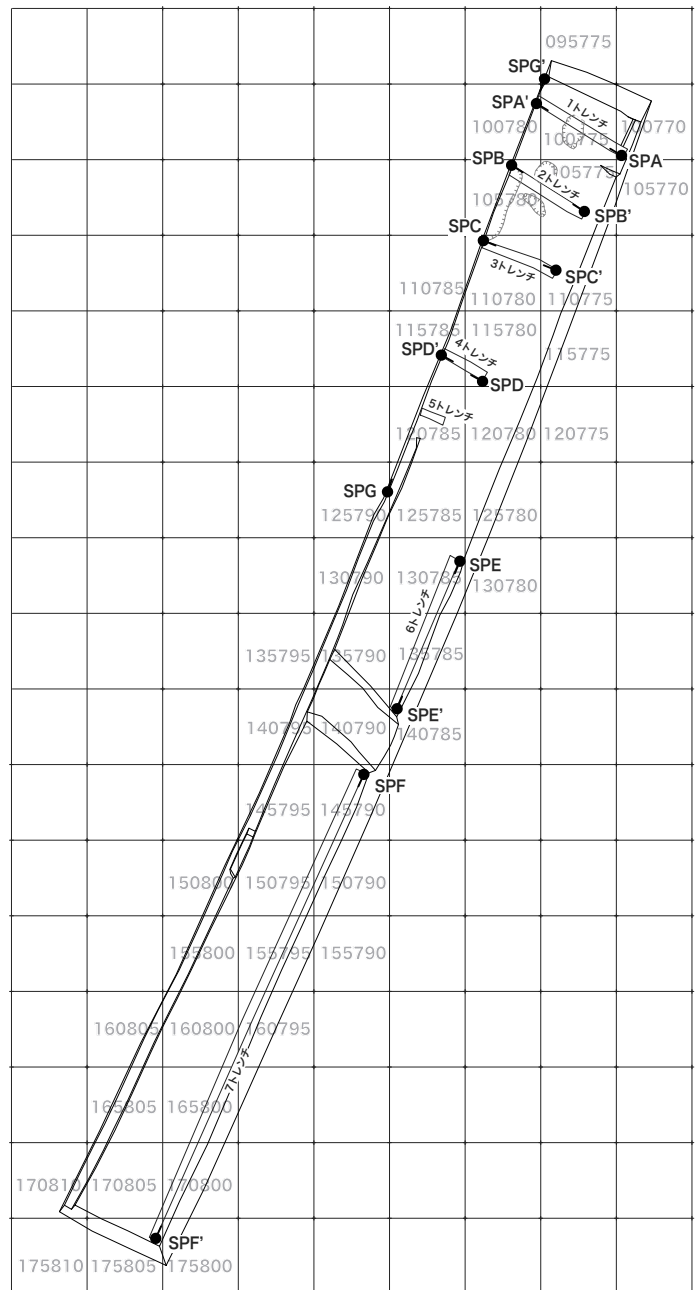


図 76 12C 区セクションポイント位置図

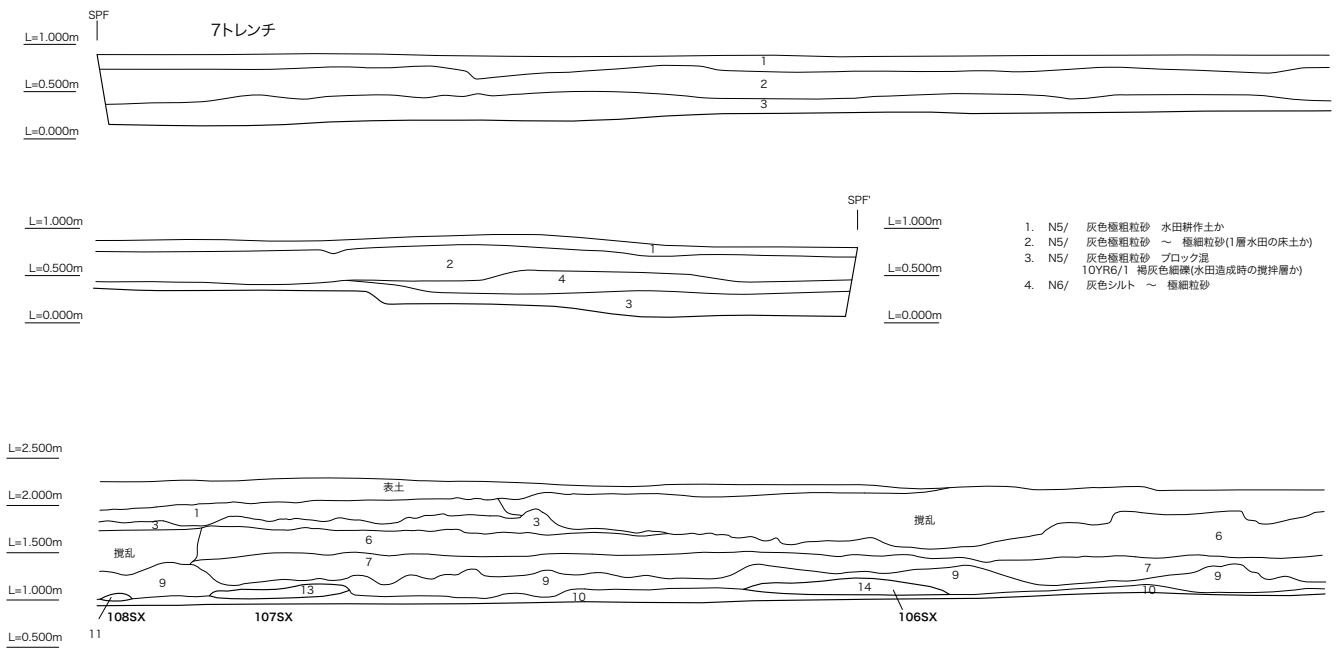
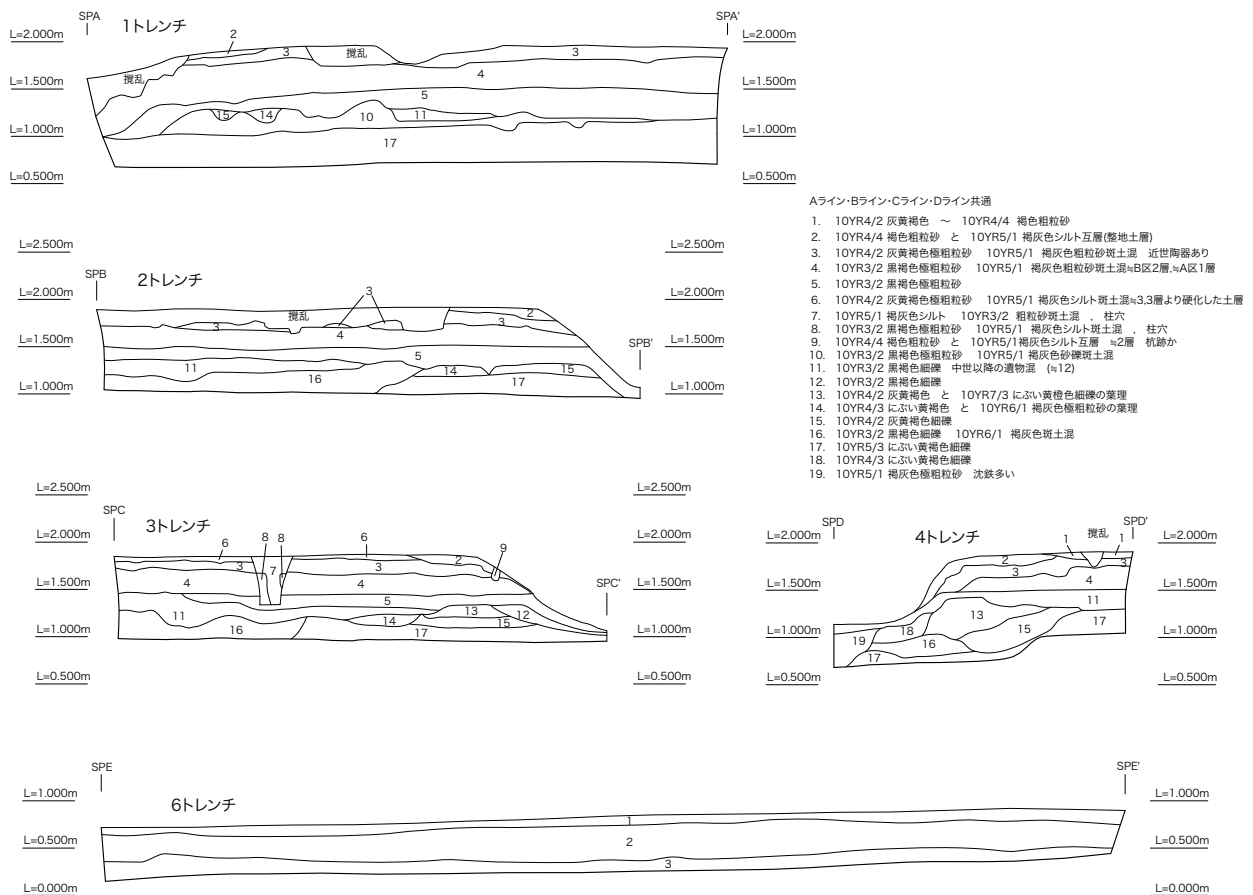


図 77 12C 区



1. N5/ 灰色極粗粒砂 水田耕作土(1層上位の客土を埋める道希)
2. N5/ 灰色極粗粒砂 ~ 極細粒砂(1層水田の床土か)
3. N5/ 灰色極粗粒砂 ブロック混 10YR6/1 褐灰色細礫(水田造成時の攪拌層か)

図 78 12C 区土層断面図 2【1:80】

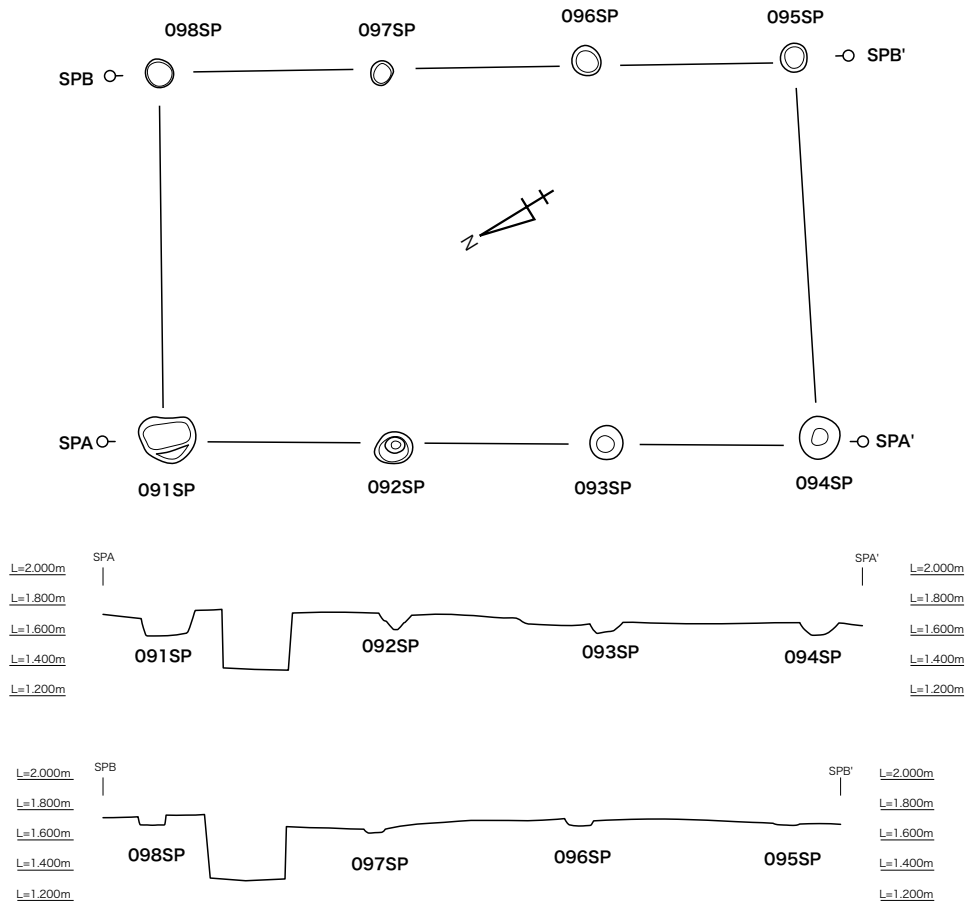


図 80 12C 区掘立柱建物跡平面図および掘方立面図【1:50】

表 3 松崎遺跡・上浜田遺跡周辺 愛知鉄道関連年表（永井宏幸作成）

和 暦	西 暦	月 日	愛 知 鉄 道	知 多 鉄 道
明治45年	1912	2月18日	愛知鉄道開業 大野町～伝馬町間 開通	
明治45年	1912	8月1日	伝馬町～秋葉前間 延長	
大正2年	1913	3月29日	大野町～常滑間 延長	
大正2年	1913	8月31日	秋葉前～神宮前間 延長	
大正6年	1917	5月10日	大江・聚落園駅 開業	
大正10年	1921	8月14日	加家～尾張横須賀間 複線化	
大正11年	1922	6月25日	大田川車庫 完成	
大正11年	1922	7月26日	大田川駅 尾張横須賀駅寄りに0.3マイル（482.8m）移動	
大正12年	1923	9月29日	名和村～加家間 複線化	
大正12年	1923	6月	大田川にテニスコート開設	
大正14年	1925	6月19日	柴田～名和村間 複線化	
昭和5年・6年頃	1930、1931		大田川 から 太田川に改称	
昭和6年	1931	4月1日		知多鉄道開業 太田川～成岩間 開通 【太田川～知多半田間は複線】
昭和7年	1932	7月1日		成岩～河和口間 開通
昭和10年	1935	2月1日	名古屋鉄道と合併 名古屋鉄道常滑線となる	
昭和10年	1935	8月1日		河和口～河和間 開通
昭和17年	1942	10月	聚落園駅を太田川寄りに移設	
昭和18年	1943	2月1日		名古屋鉄道と合併 名古屋鉄道河和線となる

場があったと言われている。この調査区内でも、その作業時に使用されたと考えられる窯道具がまとまって出土した（写真4）。

第9節 愛知鉄道関連の遺構

12A区・12B区では、細い溝状の落ち込みが、多数列をなして検出できた。落ち込みは、長さ2m、幅20～40cmほどである。この落ち込みは、上層から確認はできたものの、大別5層上面にまでその痕跡が達していた。形状や配列の様相から、鉄道の枕木跡であることが考えられる。沈下した箇所には礫が落ち込んでおり（充填）、おおよそ角礫ではなく円礫（川原石）であった。

両調査区で確認された列は2列あり、複線であることが考えられる。ただし、直近の線路に伴う枕木と碎石（角礫）はすでに除去された状態で調査を開始しているため、痕跡はおよばないはずである。したがって、これら2列の痕跡は古い段階に設置された枕木痕と想定でき、枕木を支える杭列は丸太木と枕木を再利用した角材の両者が使用されていた。

表3は、松崎遺跡・上浜田遺跡周辺における愛知鉄道関連の年表である。この表からも分かるように、開通当初（明治45年）は単線であったが、大正10年にはすでに複線化されていた。したがって、ふるくさかのぼると大正10年までとなる。調査時は認識していなかったが、大正11年までかつての「大田川駅」は12B区内にあったようだ（図81）。このことから、図82の12B区に提示した枕木痕跡が途切れたあたりから南に延びるピット列は線路に並行して設置されたホームに関連する杭列ではないかと思われる。大正



写真4
12C区出土窯道具

11年に現「太田川駅」は旧「大田川駅」から0.3マイル尾張横須賀駅寄りに設置されたようで、駅は距離からするとちょうど12C区のピット列（掘立柱建物跡）あたりが相当する。この掘立柱建物跡は、駅に関連する施設かもしれない。

図81の大正13年地形図には大田川駅と駅につながる道が表記されており、12C区を通っている。現在も12C区西側にある細い道は関連する道の可能性が高い。一方、明治24年地形図では道の表記はなく、そのときには鉄道の敷設はない。このことから、この道は駅が開設したのちに整備された可能性がある。



図81 愛知鉄道敷設位置図【1:25,000】
（陸地測量部大正13年地形図「鳴海」より）

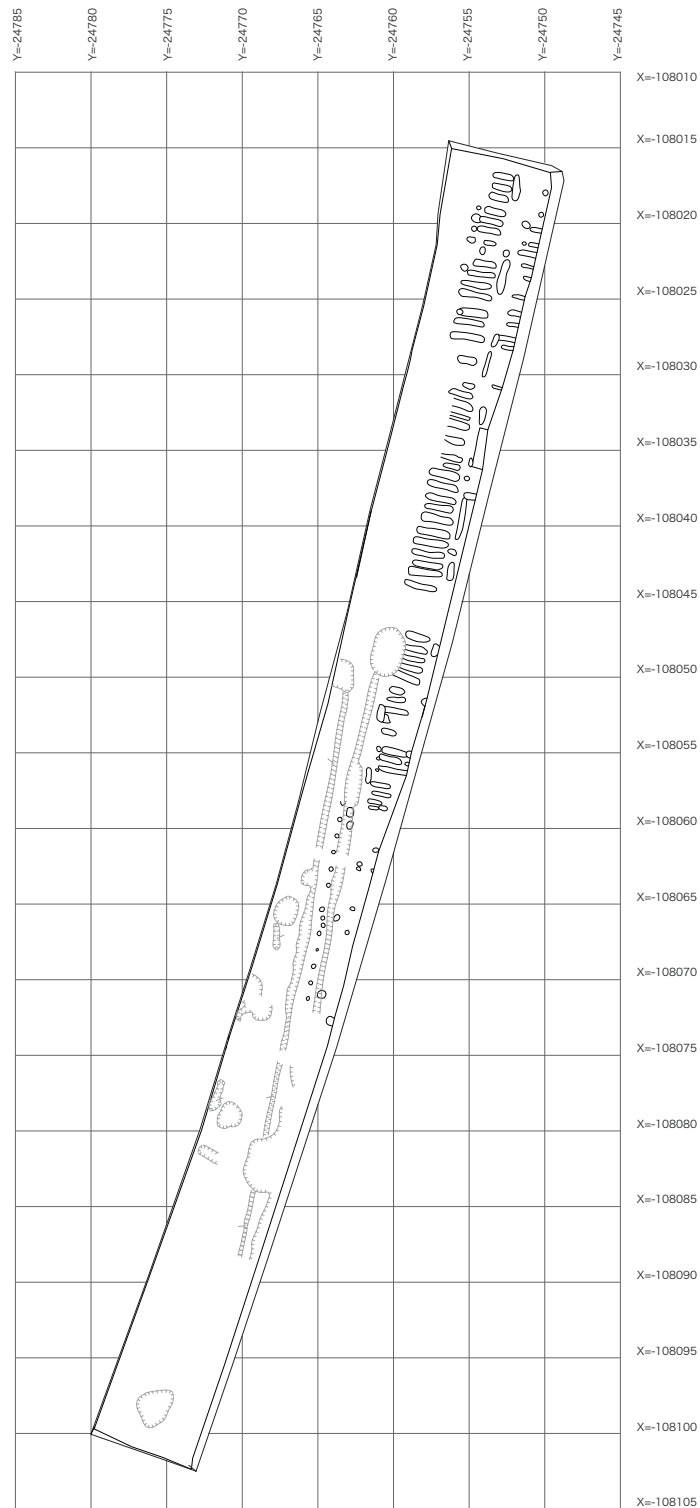
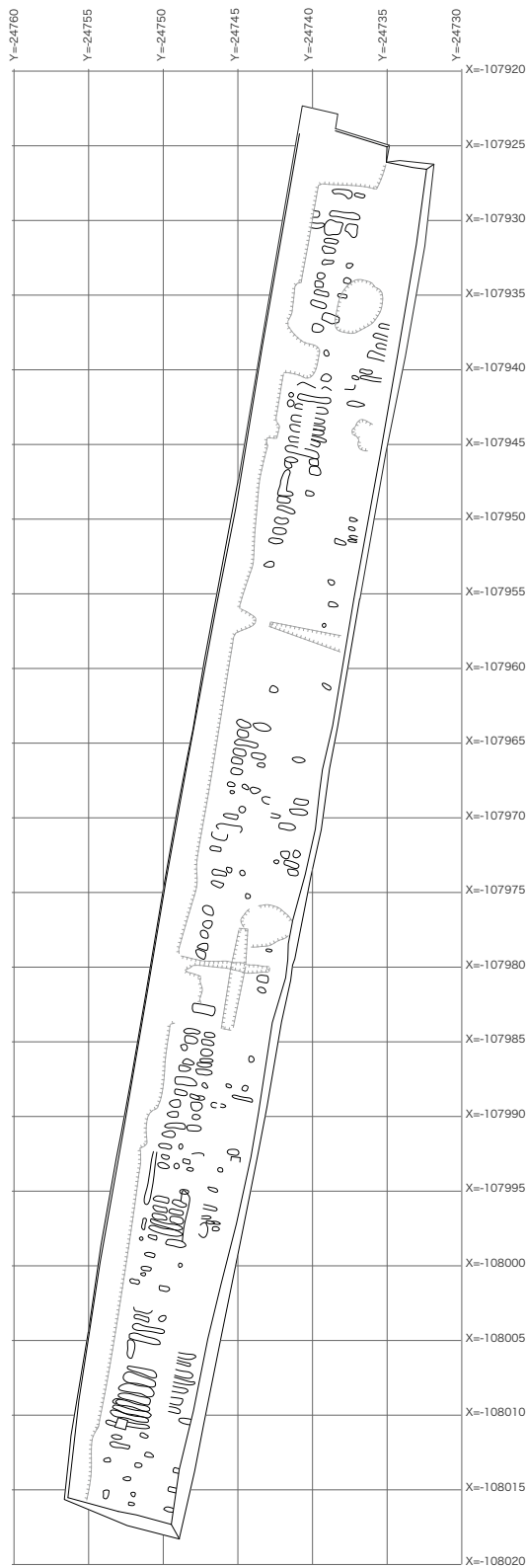


图 82 12A 区·12B 区平面图【1:500】

第3章 出土遺物

第1節 出土遺物の分布状況

1. 出土遺物整理の手順

この松崎遺跡・上浜田遺跡での資料整理では、出土資料から遺跡形成過程の分析に迫ることを目的としている。そのことから、調査で取り上げられた情報を斟酌し、それに加えて、数量的な遺物の出土状況と遺物自体の属性を引き出して、総合的に分析を行なうことを心がけた。

そのための具体的方法は、以下の通りである。

1. グリッド・遺構・層位・日付別に、出土遺物の分類を行なう。

2. 出土遺物の記録に関しては、最小個体数を考慮した点数を記録し、それに加えて重量の計測も行なった。重量計測は、最小分類単位で行なうことが望ましいが、整理の時間的制約から、大別分類に基づく計測に留まっている。

3. これら出土記録から、一部について細片化の程度を数値で示す試みを行なった。用いた値は、重量 / 点数の除数値である。同一の重量でも、大型破片が少数存在している場合と、細片化された破片が多数存在している場合とでは、遺跡に存在するまでの過程が大きく異なっていたことが容易に想定できる。

4. 器種によっては、対象とする個別の全資料について計測し、法量などの散布傾向を検討する。

5. 上記の過程を経て全体の出土傾向を確認してから、適宜図化資料を選定し、実測作業を行なった。

上記1～3が、遺跡形成過程を出土遺物から考える上で重要な作業になると考えている。報告者は、これまで古瀬戸・山茶碗の中世窯業遺跡で

ある塚原1号窯跡と（川添ほか2012）と、縄文時代晩期の馬見塚遺跡（川添2013）で同様の分析を行ない、塚原1号窯跡では整地層および作業場の様相の差を指摘し、馬見塚遺跡では居住域あるいは廃棄帯の推定を行なうことができた。今回の分析結果を次に示す。

2. 出土資料の分布傾向

ここでは、土器・土製品について、分布傾向をまとめて行く。この分布傾向をみる上で、一つ前提とすべき事柄がある。それは、08Ab区と08B区で、第1次調査区と重複している点であり、ある一定量の遺物がすでに持ち出されている点である。その点については、第5章の考察で補うこととし、ここでは、今回の調査で出土した資料ということに限定して、概観していきたい。

A. 土器製塩作業時の遺物

製塩土器

脚台式製塩土器とその分布については、すでに早野浩二が述べている（早野2013、CD収録）。ここでは、知多式1類以降について、概観する。

製塩土器は、細片化されているものがほとんどである。このため、最小個体数の集計には明確な基準が必要となる。ここでは、杯底部（脚部に連続する部分）をもって1個体と数えることとした。

まず、図83には、1類～5類を合計した、口縁部・胴部の重量分布と脚部の重量分布を示した。すべてを合計した結果であり、土器製塩活動中の形成状況について言及することはできないが、両

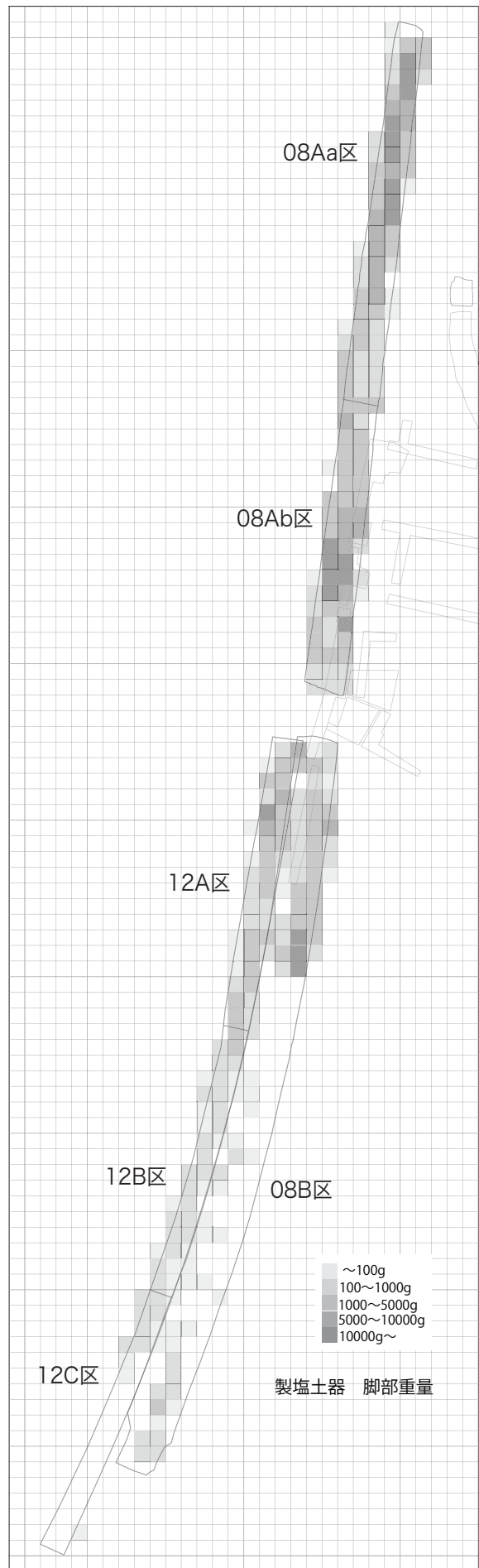
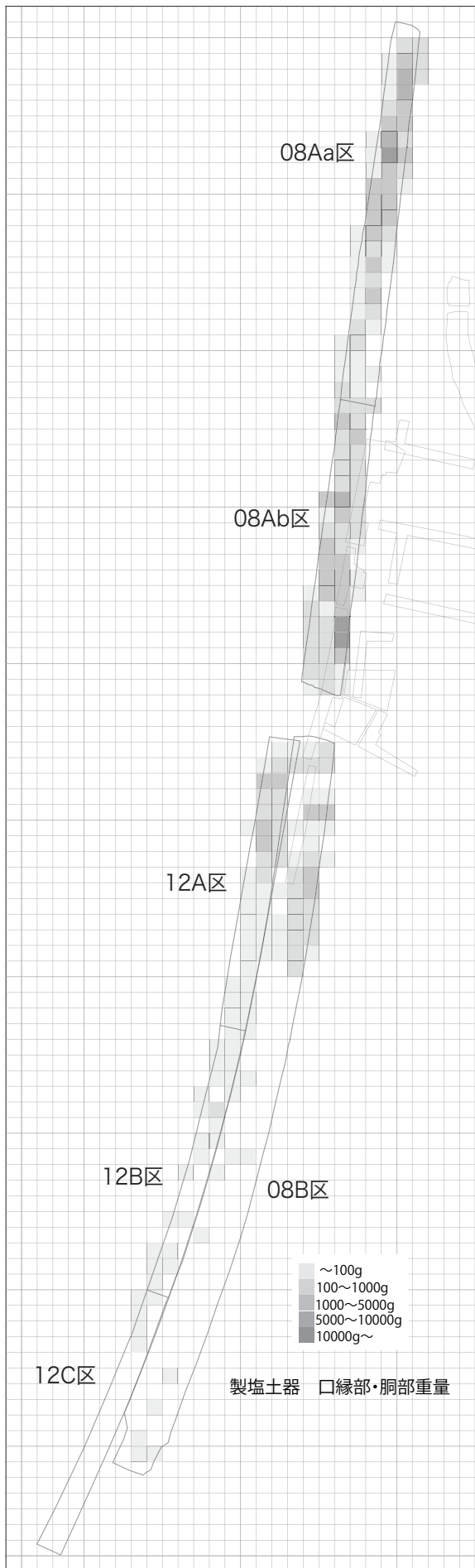


図 83 出土遺物の分布状況 1 (1 : 5,000)

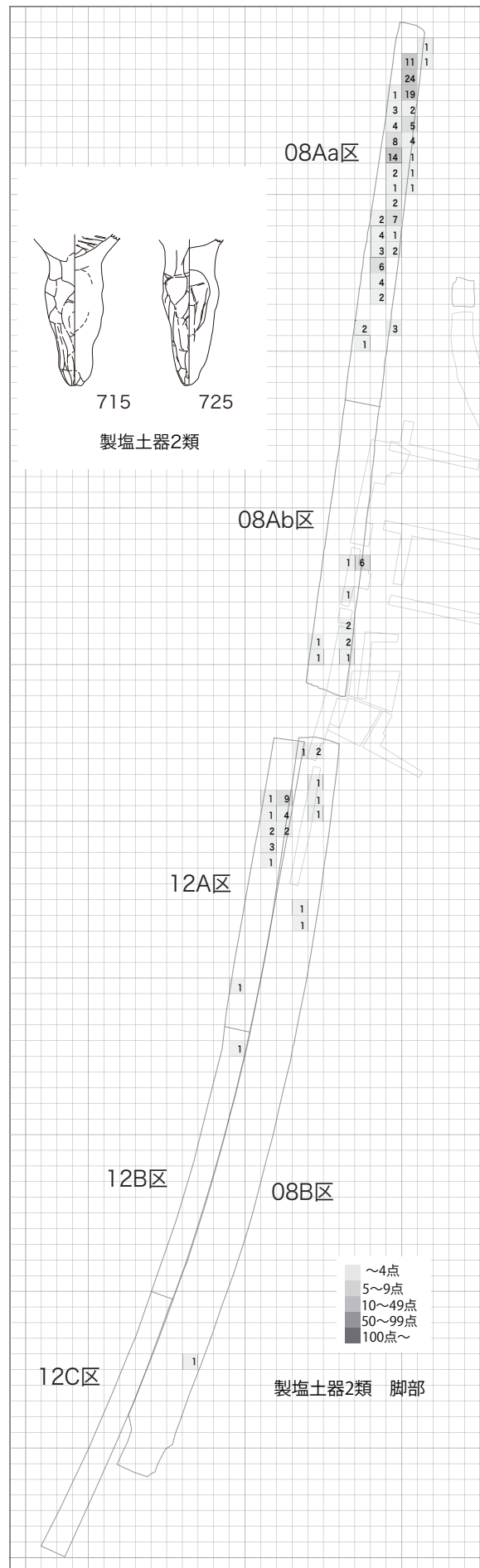
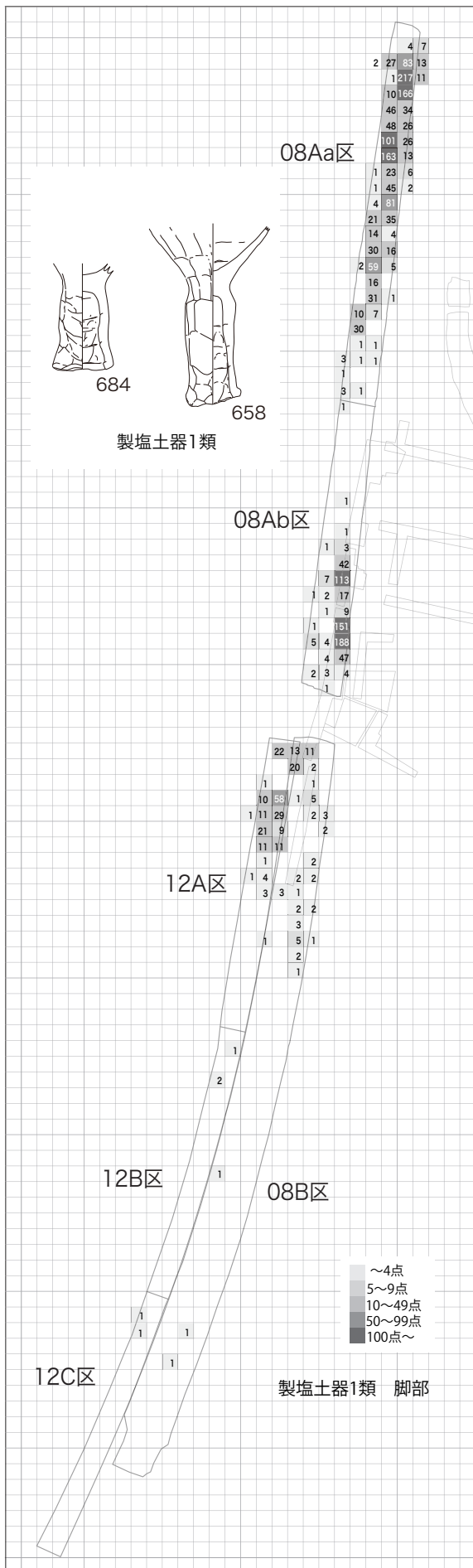


図 84 出土遺物の分布状況 2 (1 : 5,000)

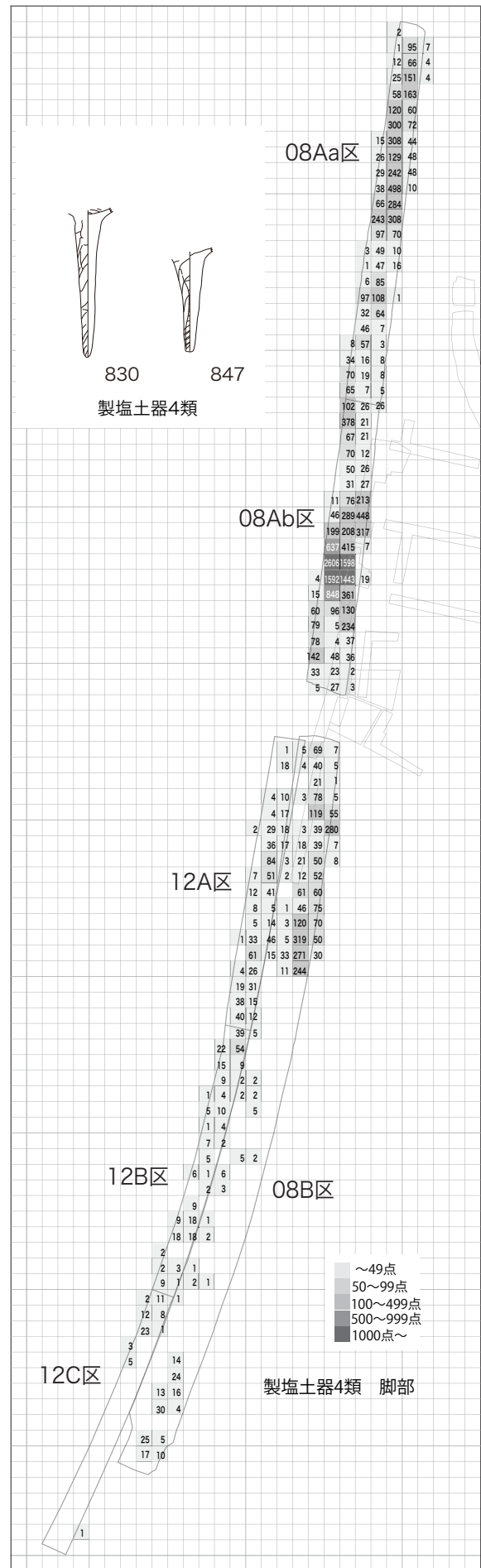
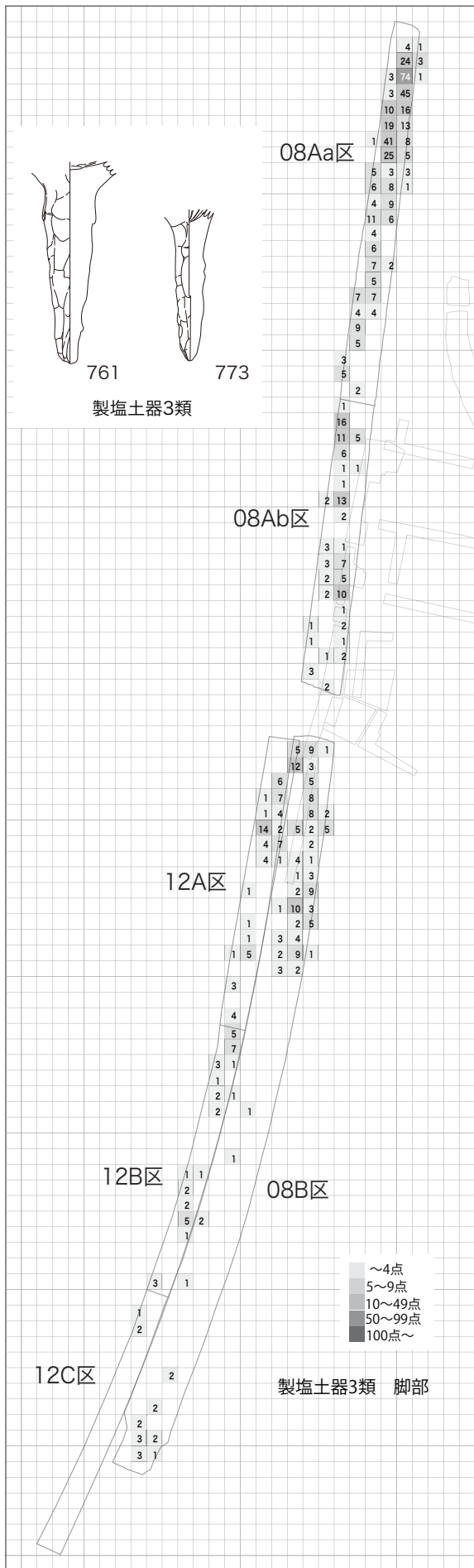


図 85 出土遺物の分布状況 3 (1 : 5,000)

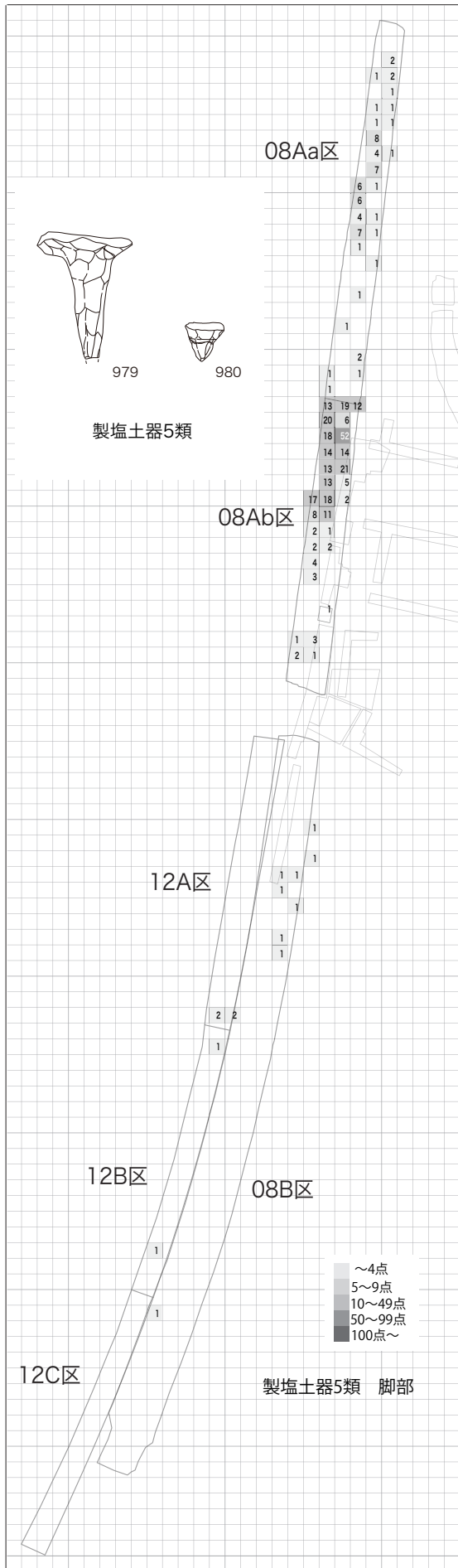


図 86 出土遺物の分布状況 4 (1 : 5,000)

者を比較すると、脚部の方が、口縁部・胴部に比べて分布範囲が広がっていることが分かる。広がっている範囲は、08B 区の南側と、土器製塩が行なわれていたなかった、低地部である。ここでは、上浜田遺跡側から包含層などの二次堆積があり、遺物が混入したものと考えられるが、口縁部・胴部よりも脚部の方が残存しやすいことを示す好例といえる。

図 84 ~ 86 は、知多式 1 類から 5 類を類別に出土点数を示したものである。1 類の集中域は、08Aa 区全体・08Ab 区南東端・08B 区北西端から 12A 区北端の 3 ヶ所で認められた。08B 区北西端から 12A 区北端については、発掘調査では焼土・炭化物を多量に有する包含層は確認されていない。しかし、もともとこの付近にも土器製塩に関わる包含層が形成されていた可能性が高く、後世の活動によって削平されてしまったものと考えられる。2 類は、1 類と併行する時期に製作・使用されたこともあり、1 類と分布状況は類似する。但し、08Aa 区北端での集中出土が著しいことは注目できよう。3 類は、出土が調査区全体に広がる傾向ではあるが、2 類同様に 08Aa 区北端でまとまった出土状況を呈する。3 類の分布の中心と 2 類の分布の集中が一致することは、2 類から 3 類の変化を考える上で、重要と考えられる。4 類も 3 類同様に遺跡全体に分布が広がる。特に分布が密な区域として、08Aa 区中央・08Ab 区中央があり、08B でも若干集中する部分がある。特に濃密なのは、08Ab 区中央で、10×10m の範囲で最小個体数 7,000 点以上の出土をみた。ところが 5 類になると、数量全体も少なくなる上、08Ab 区の北西端で集中するなど、これまでの出土傾向とは大きく異なるようになる。

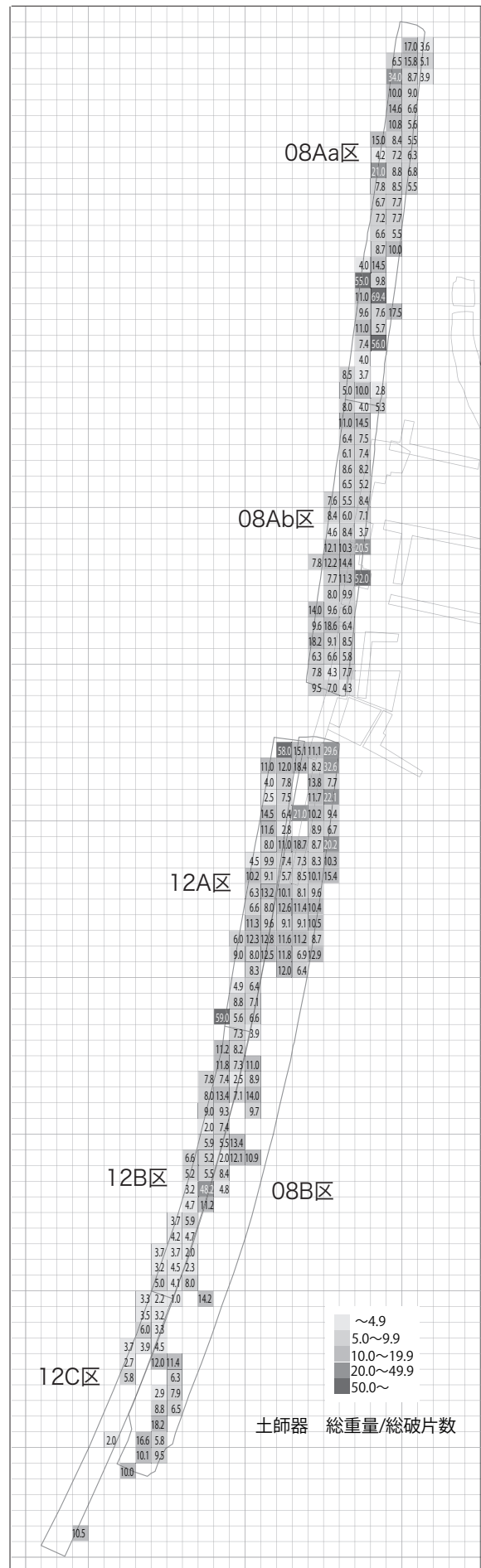
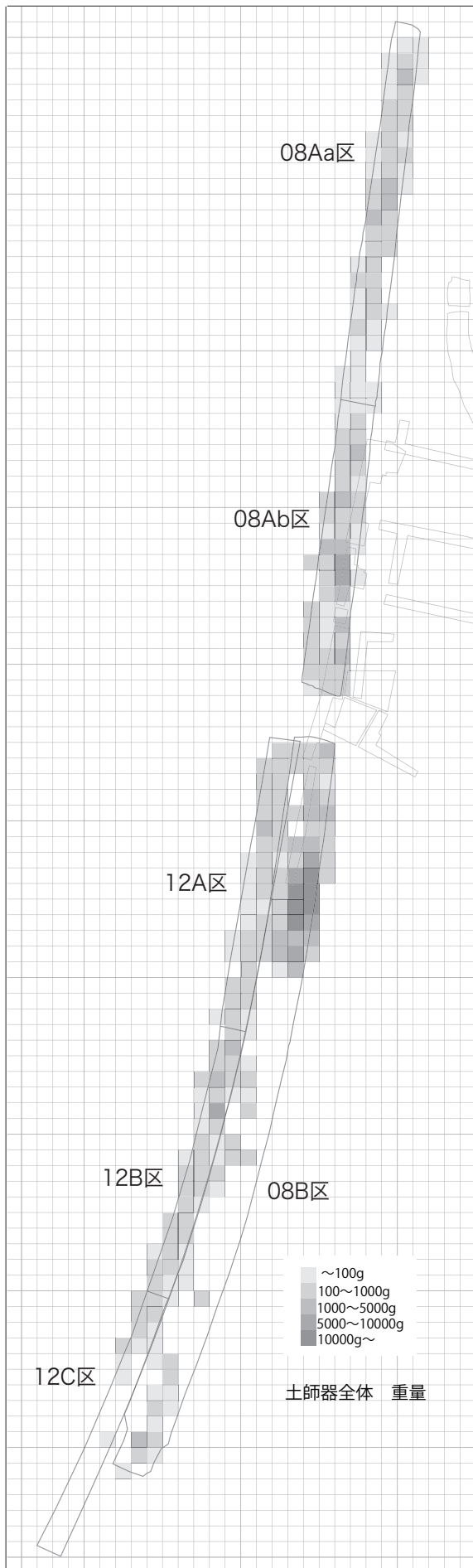


図 87 出土遺物の分布状況 5 (1 : 5,000)

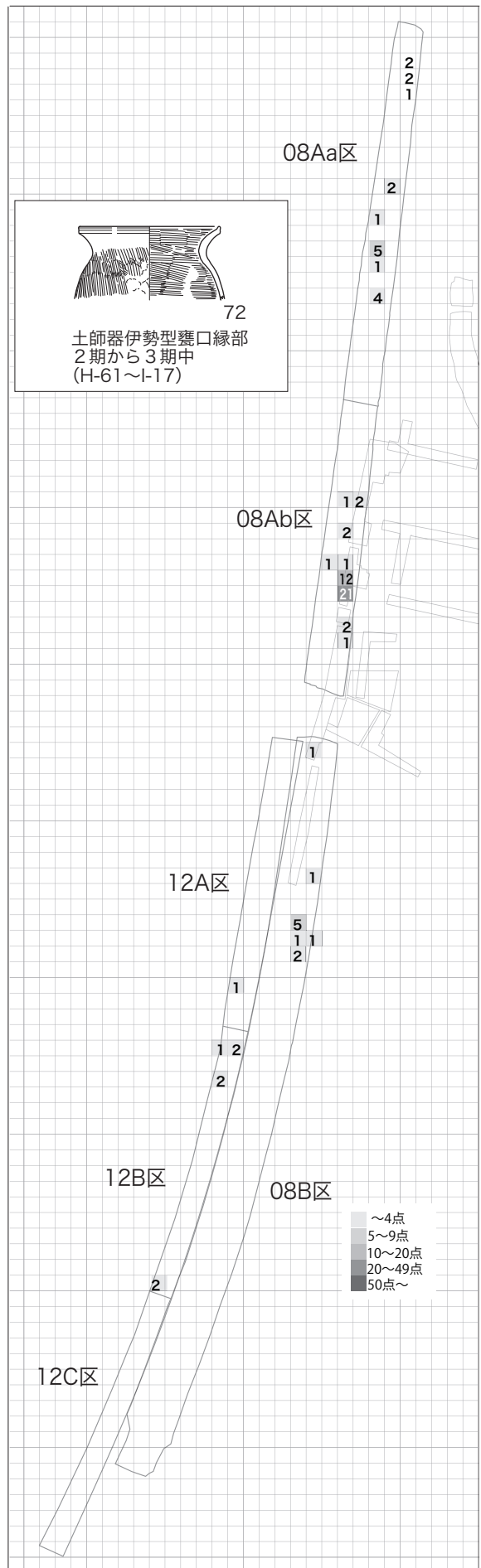
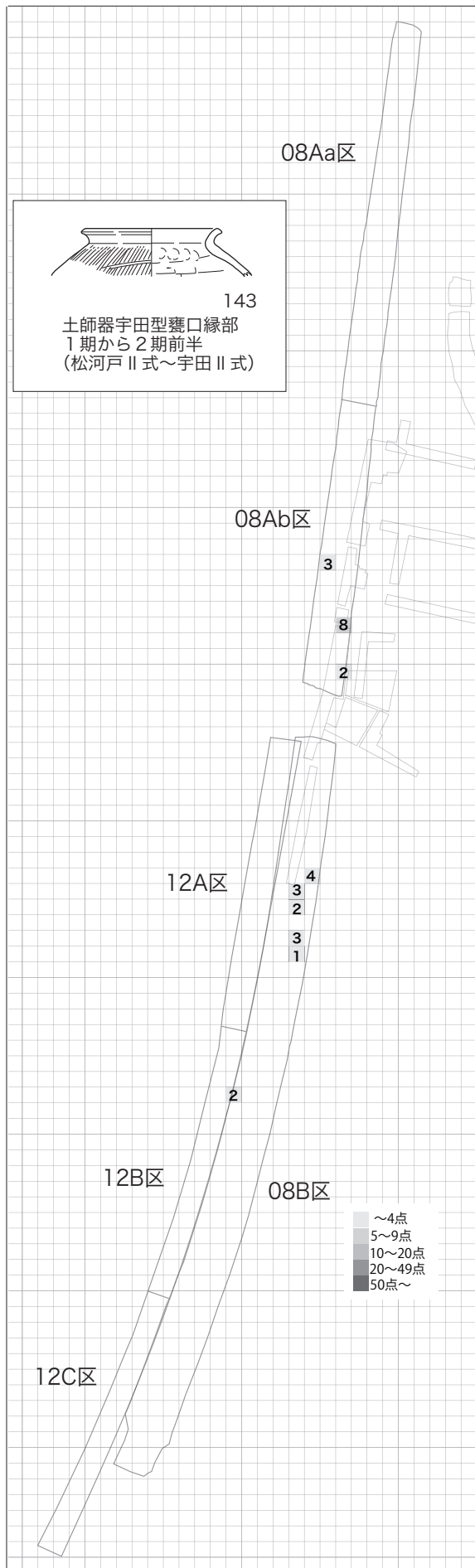


図 88 出土遺物の分布状況 6 (1 : 5,000)

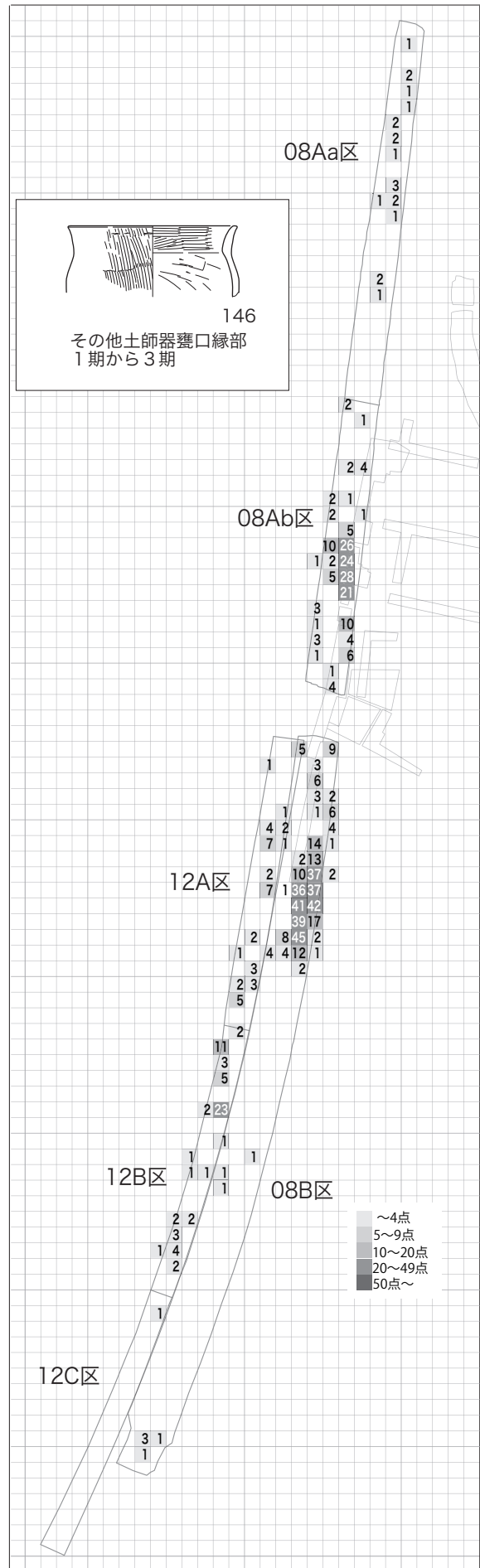
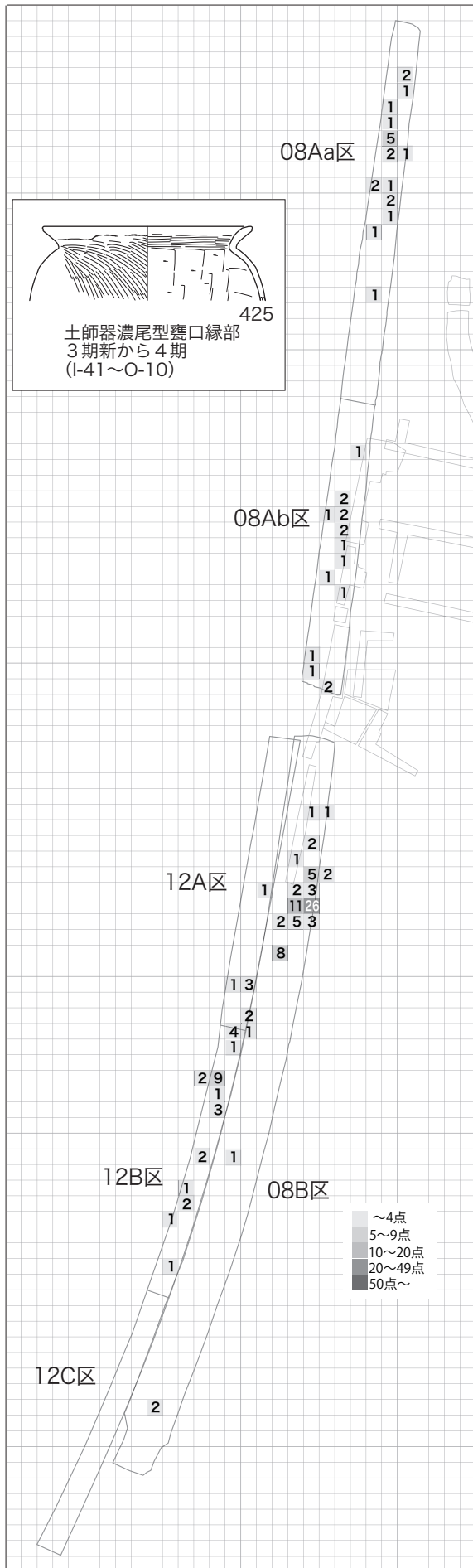


図 89 出土遺物の分布状況 7 (1 : 5,000)

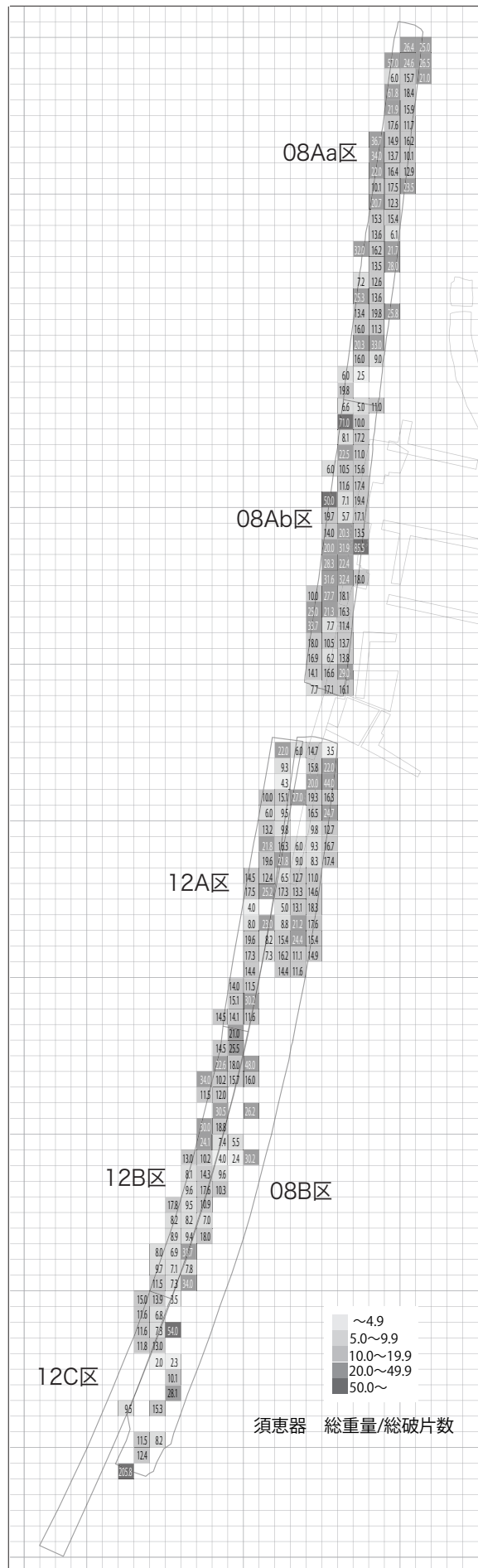
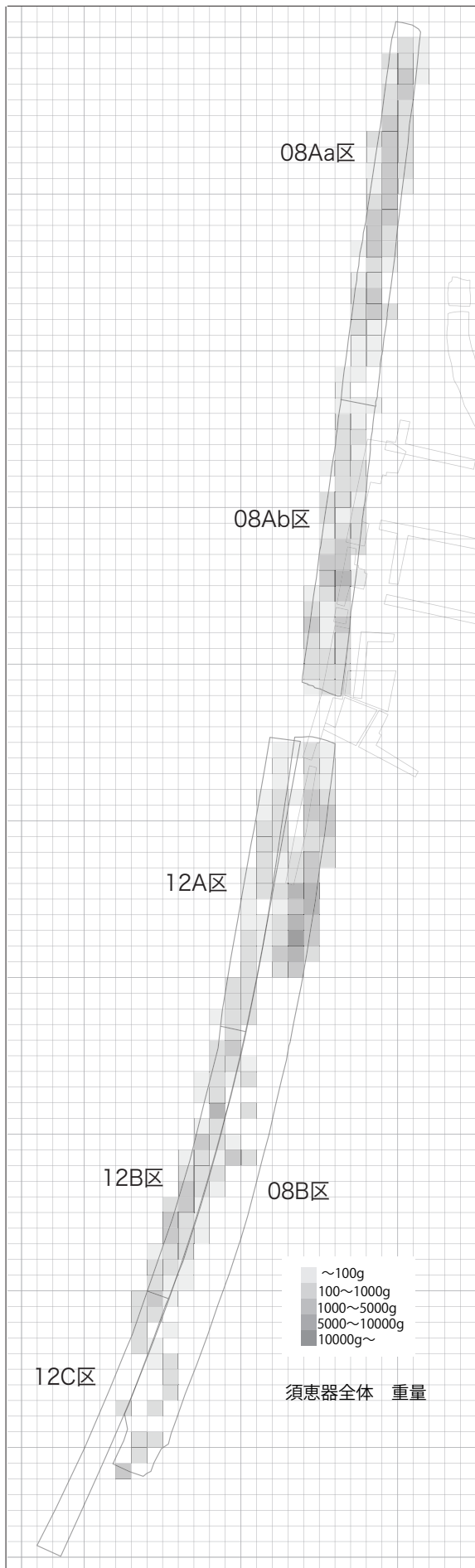


図 91 出土遺物の分布状況 9 (1 : 5,000)

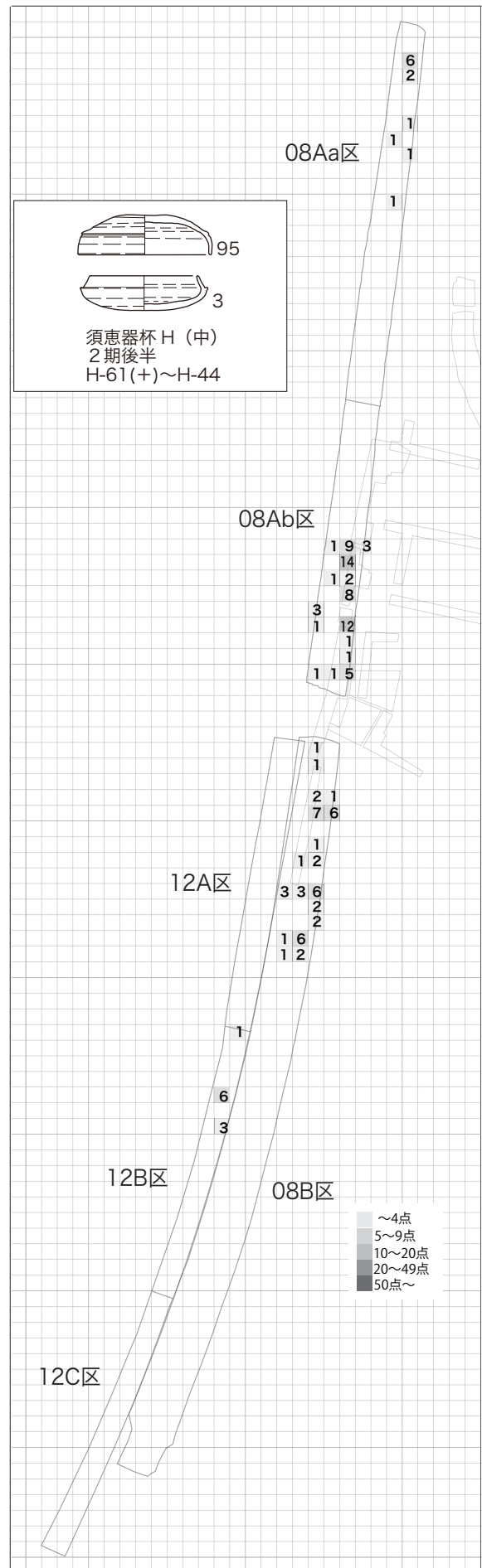
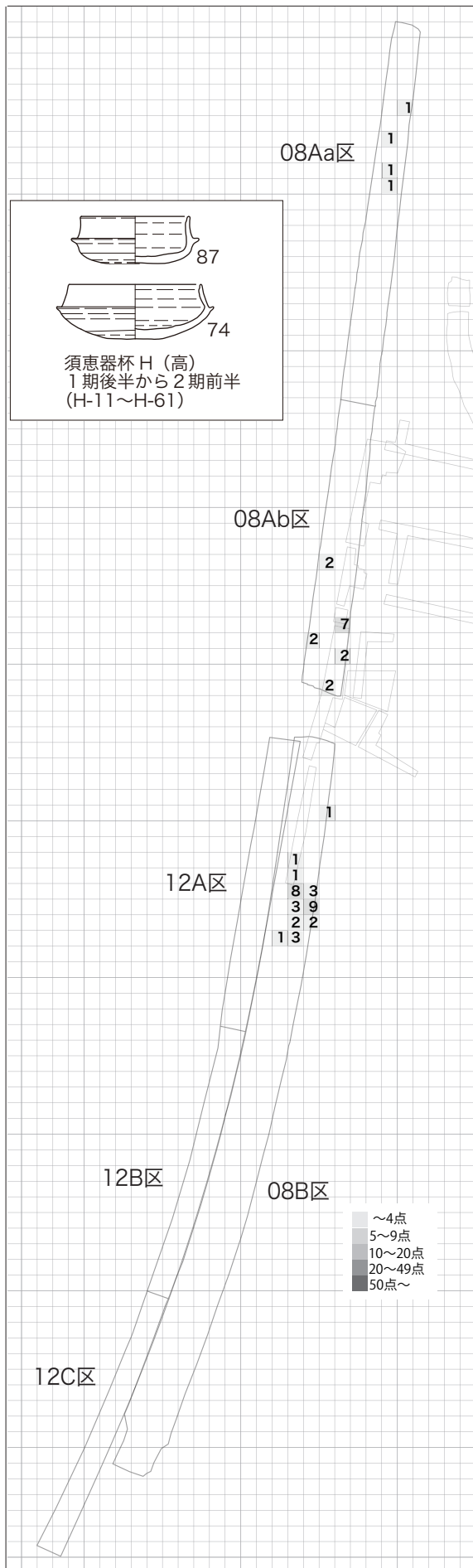


図 92 出土遺物の分布状況 10 (1 : 5,000)

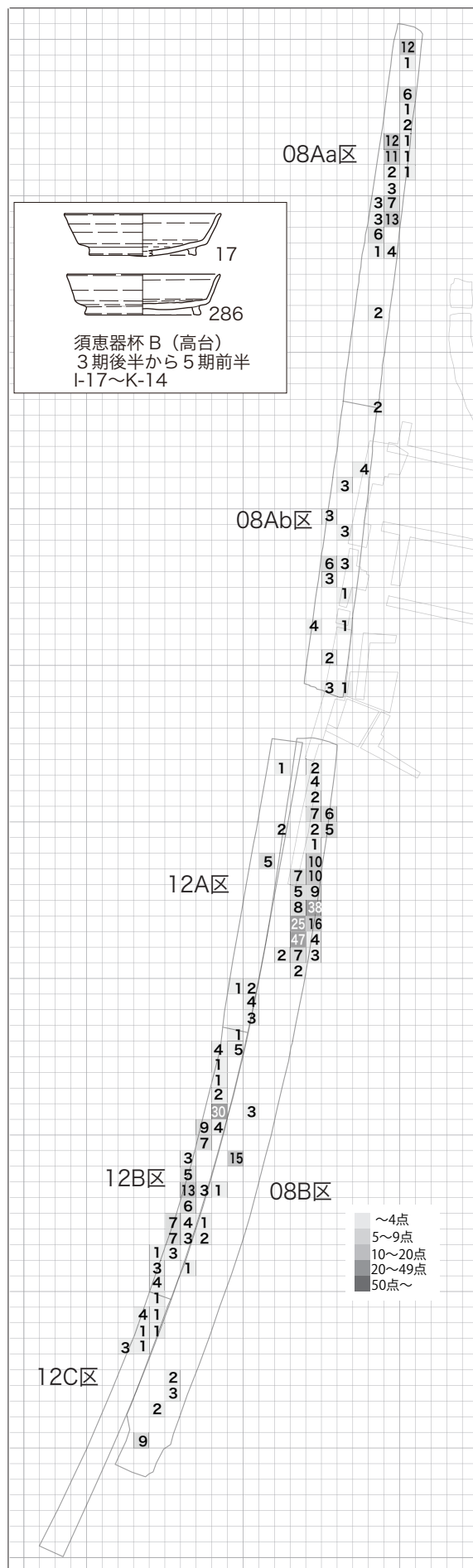
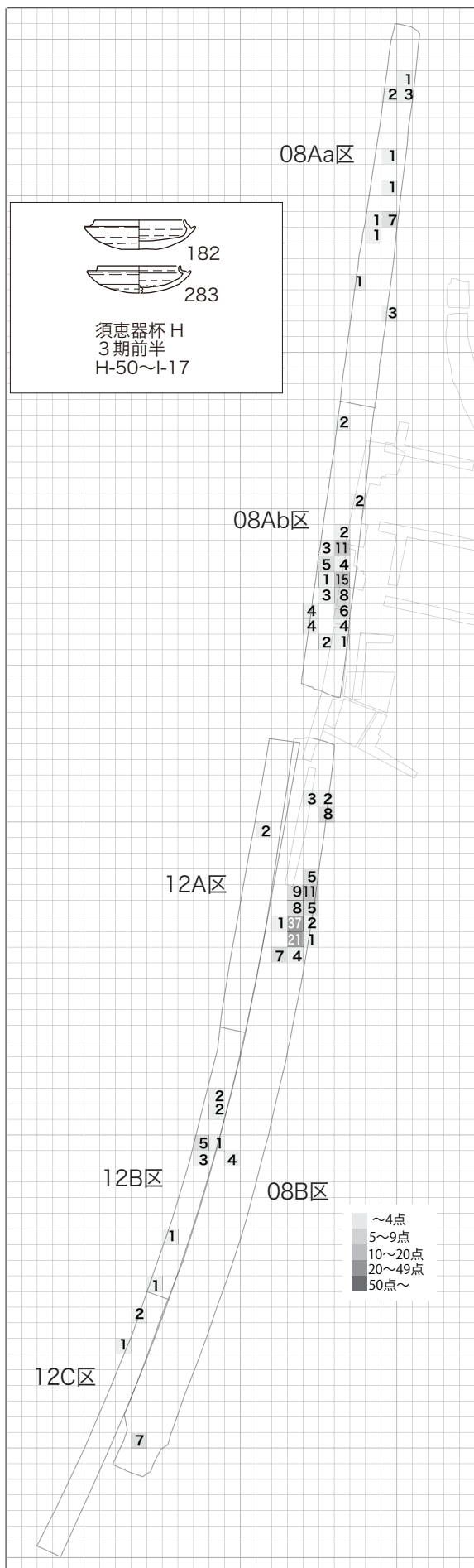


図 93 出土遺物の分布状況 11 (1 : 5,000)

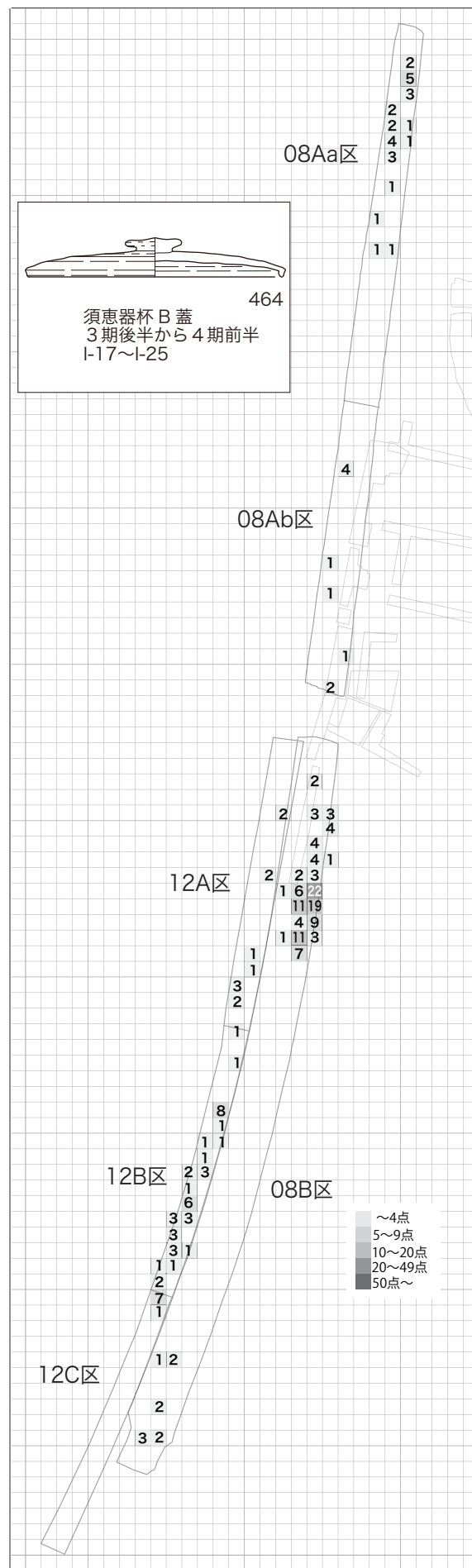
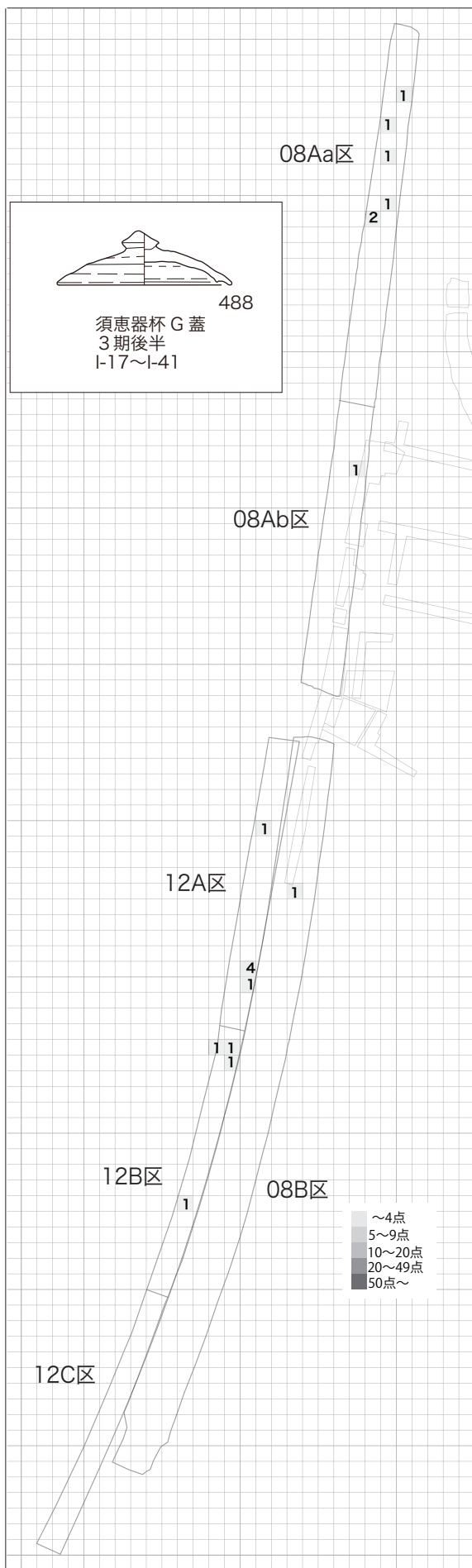


図 94 出土遺物の分布状況 12 (1 : 5,000)

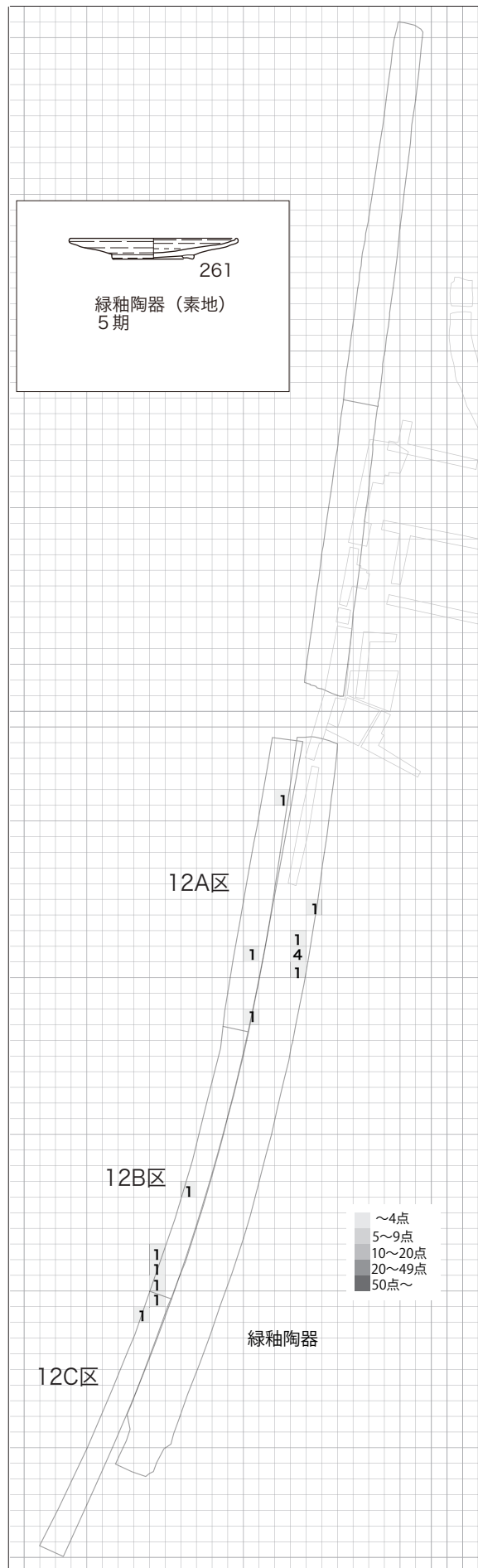
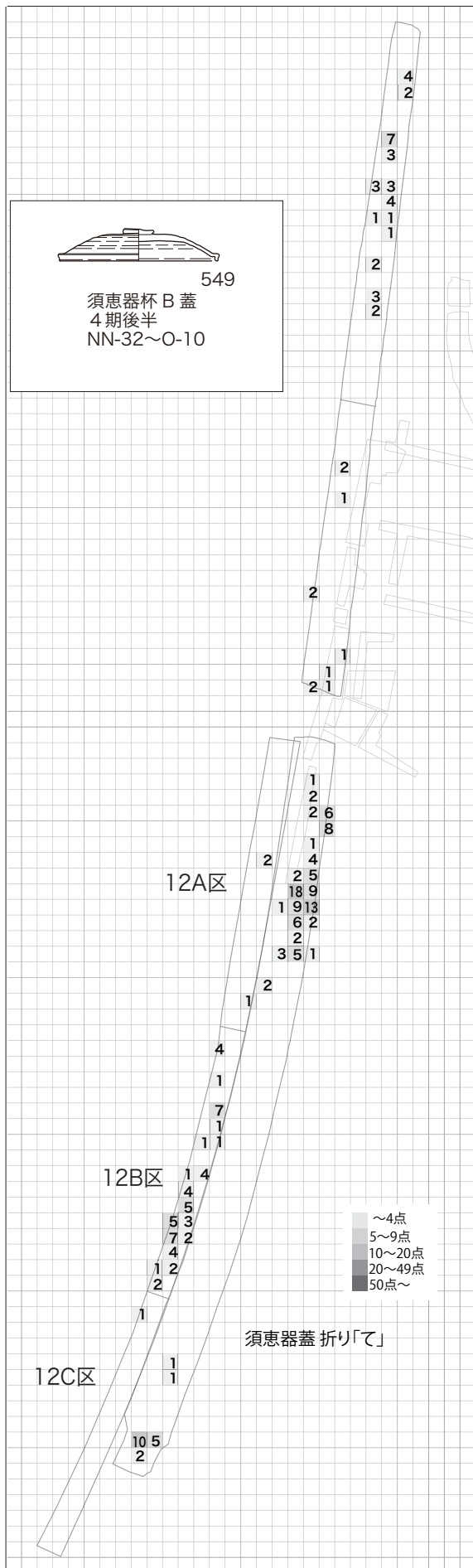


図 95 出土遺物の分布状況 13 (1 : 5,000)

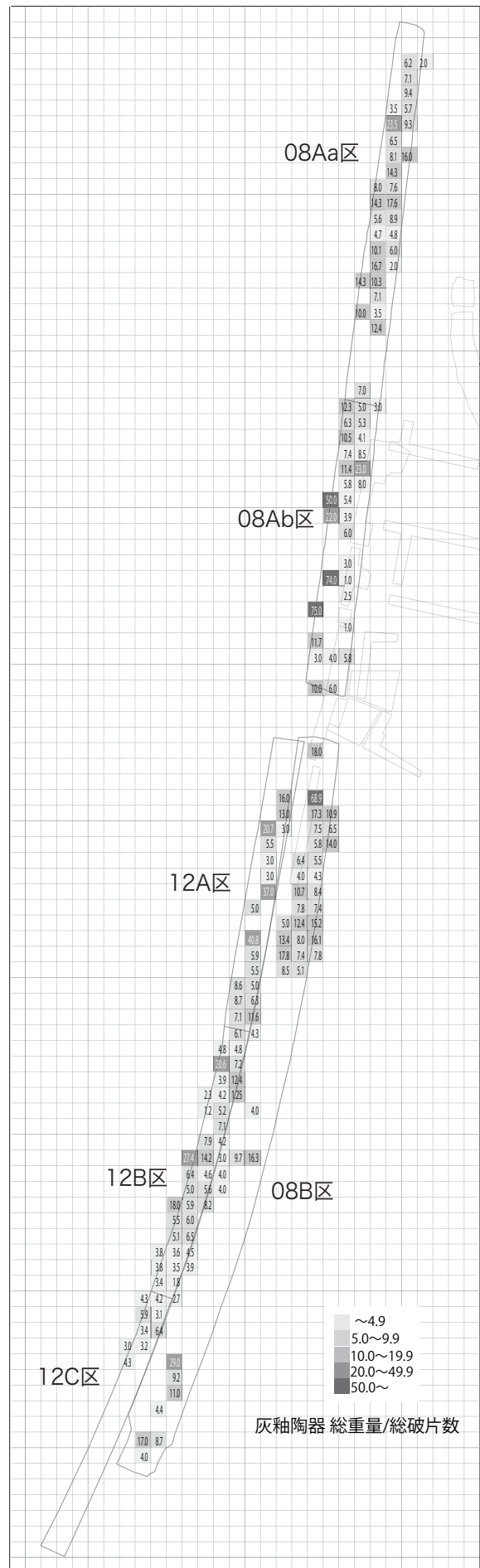
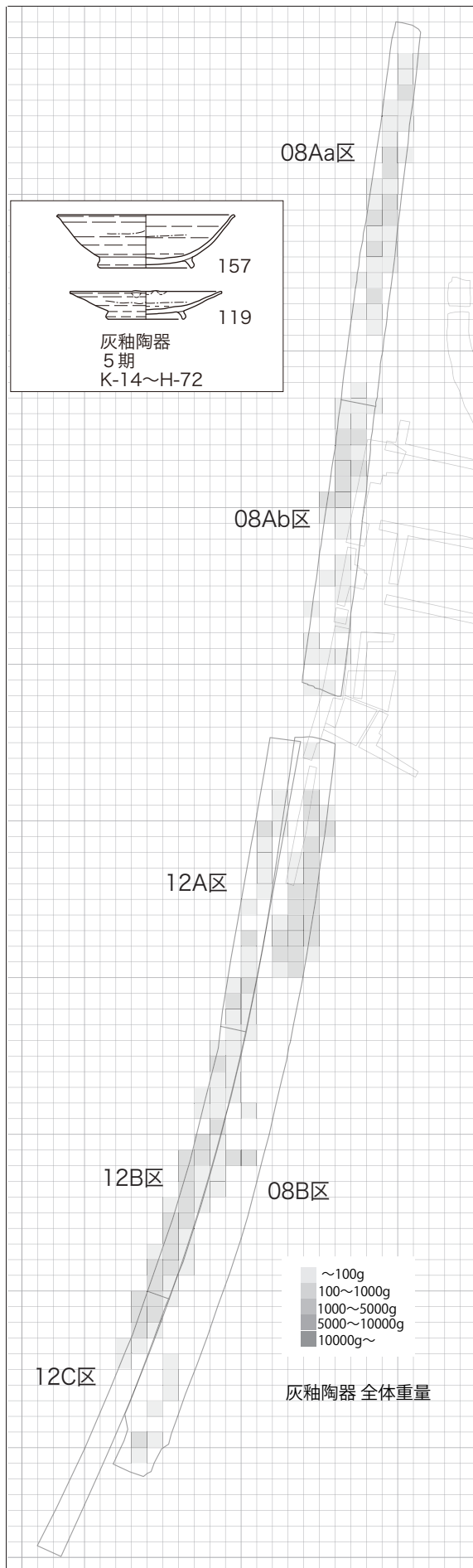


図 96 出土遺物の分布状況 14 (1 : 5,000)

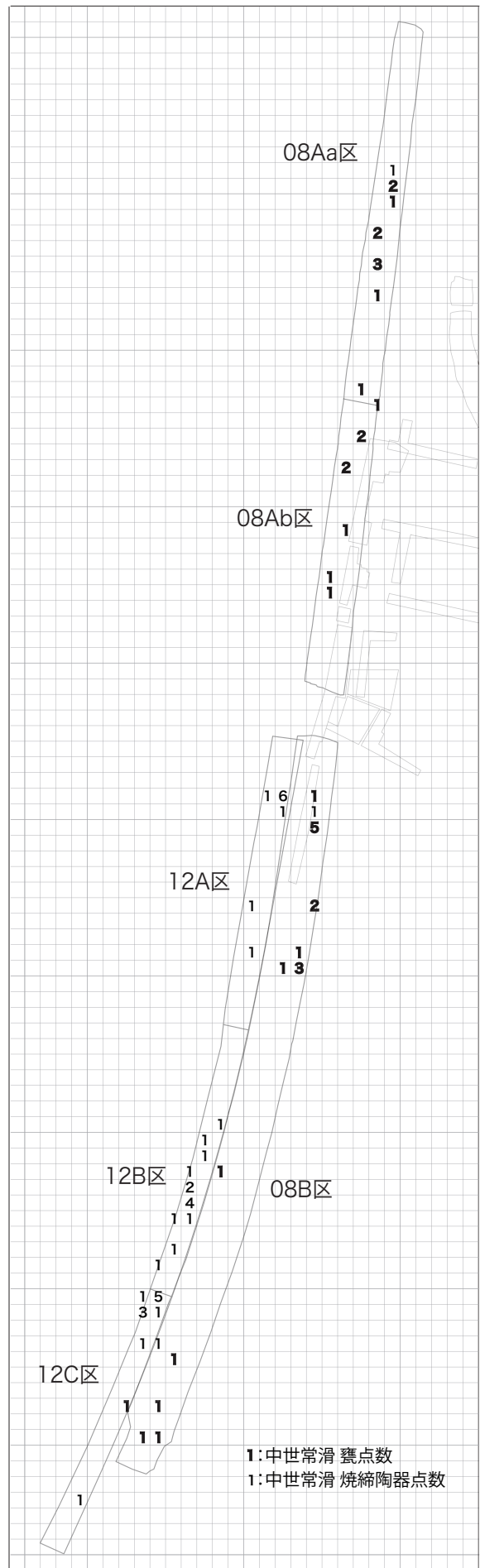
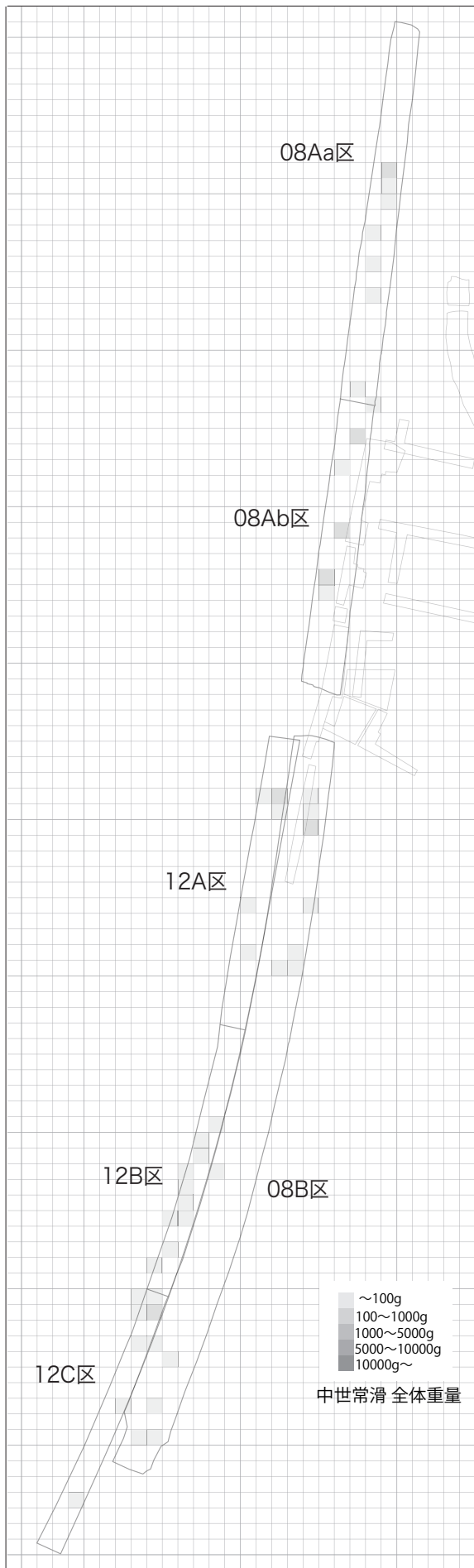


図 97 出土遺物の分布状況 15 (1 : 5,000)

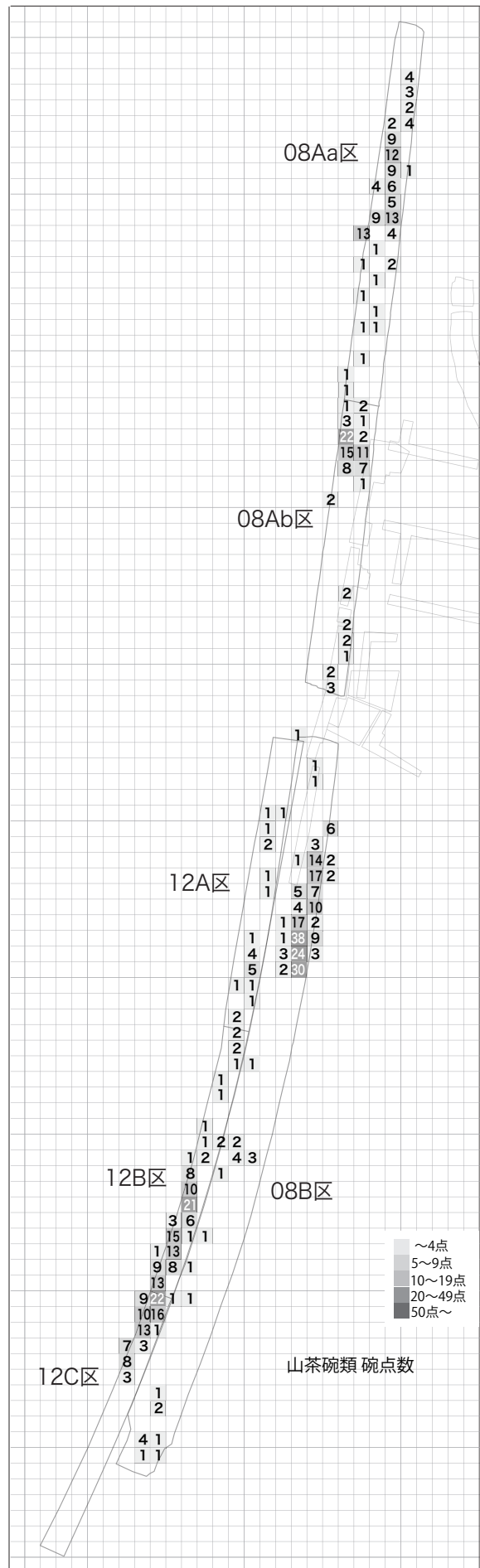
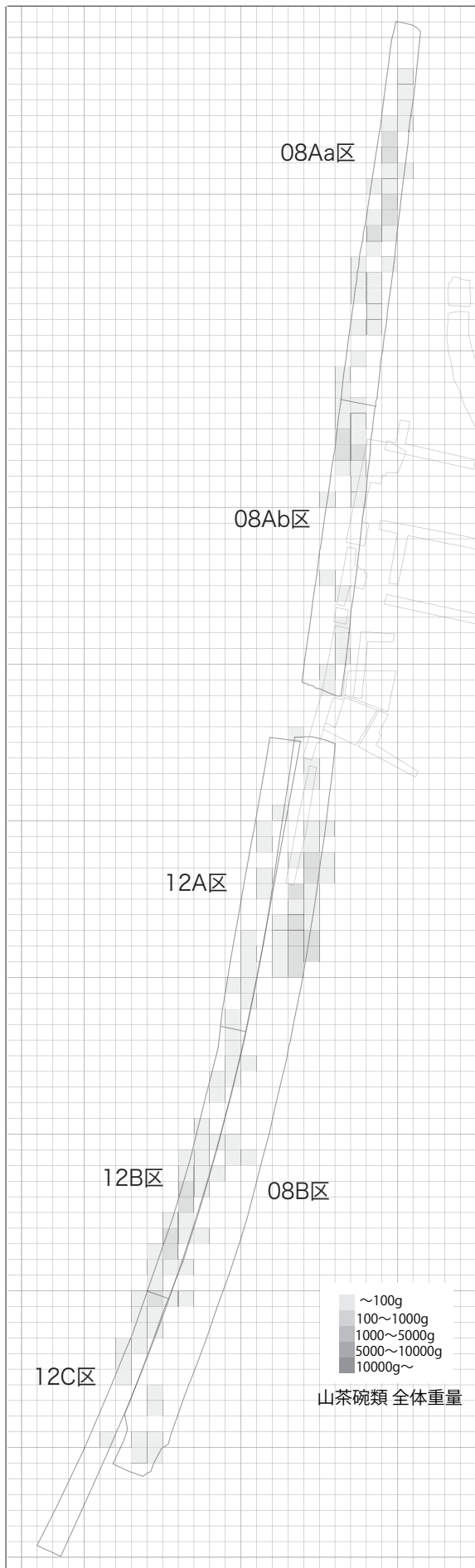


図 98 出土遺物の分布状況 16 (1 : 5,000)

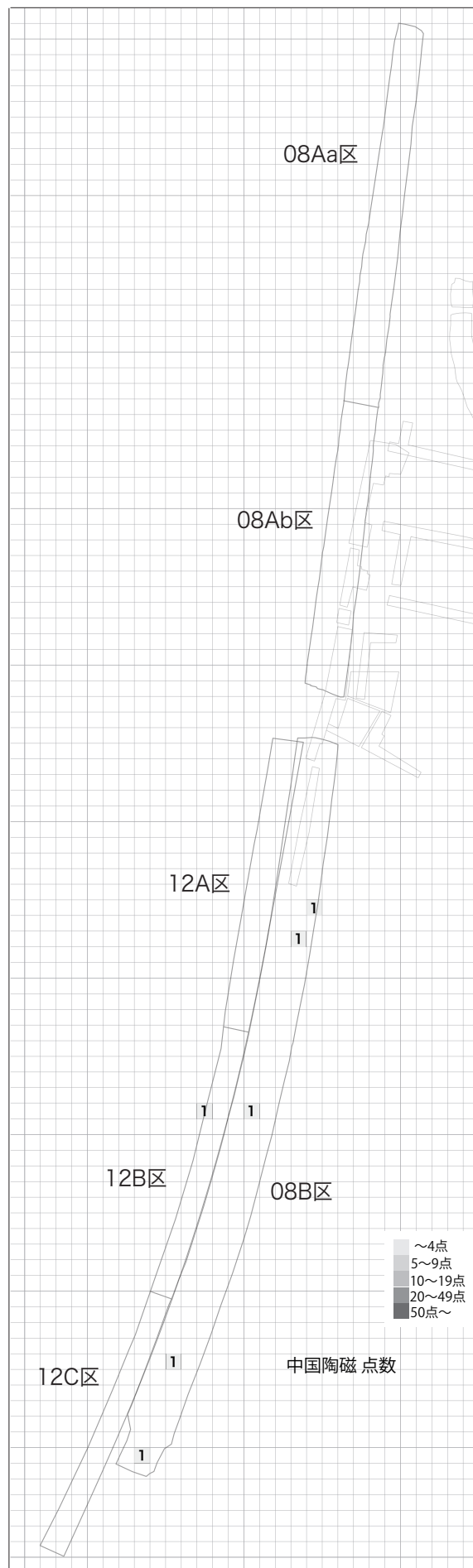
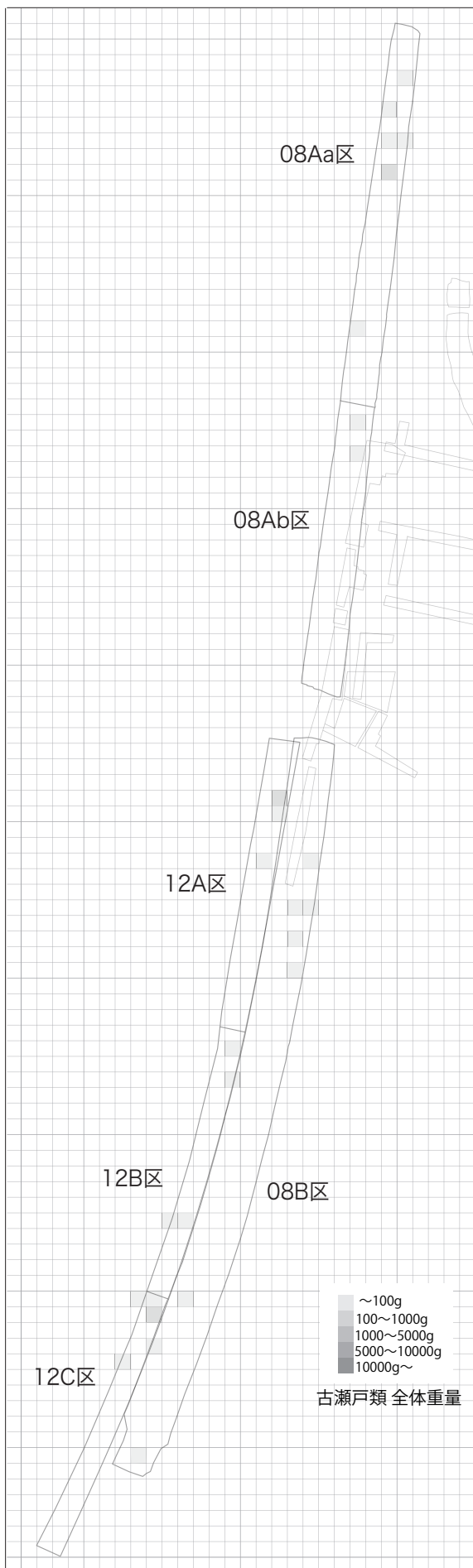


図 100 出土遺物の分布状況 18 (1 : 5,000)

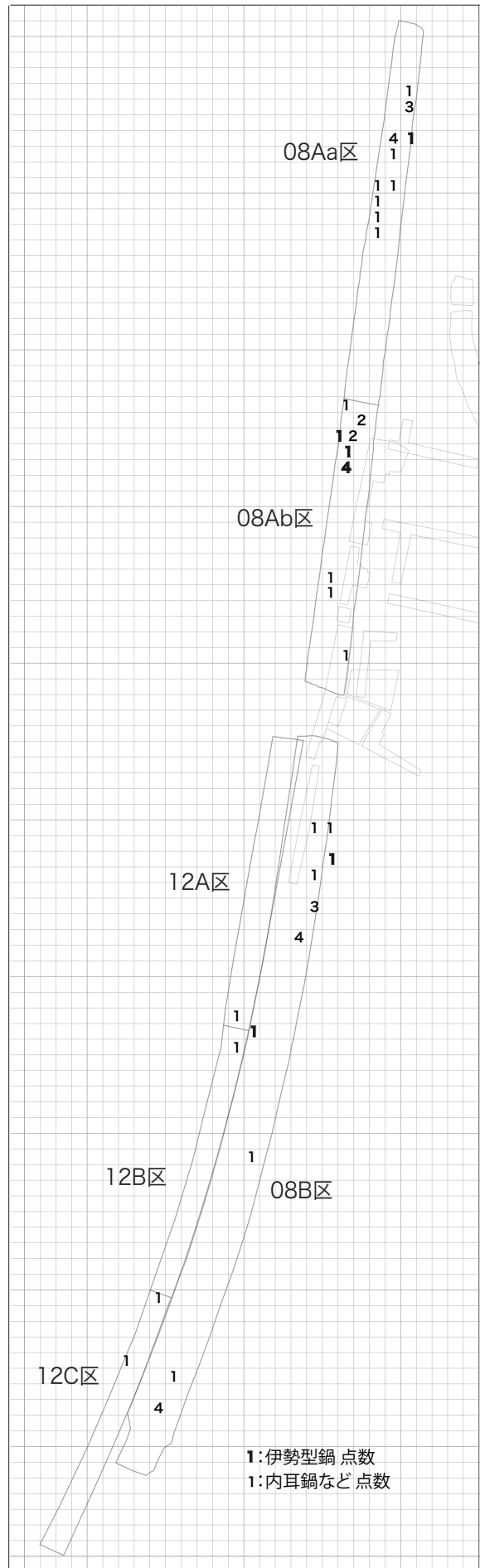
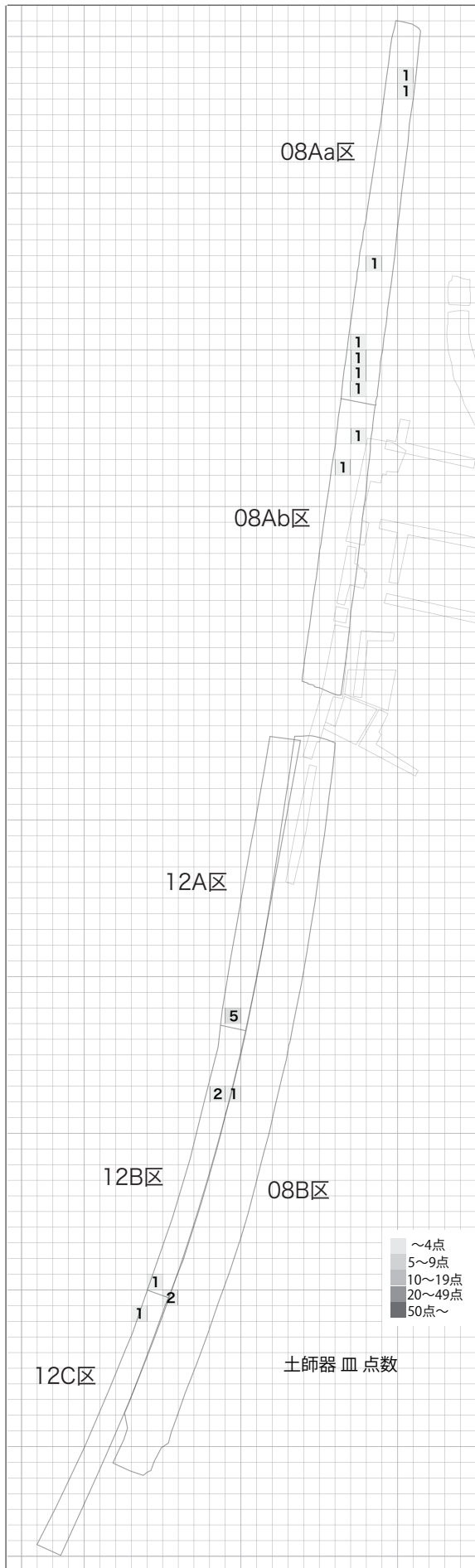


図 101 出土遺物の分布状況 19 (1 : 5,000)

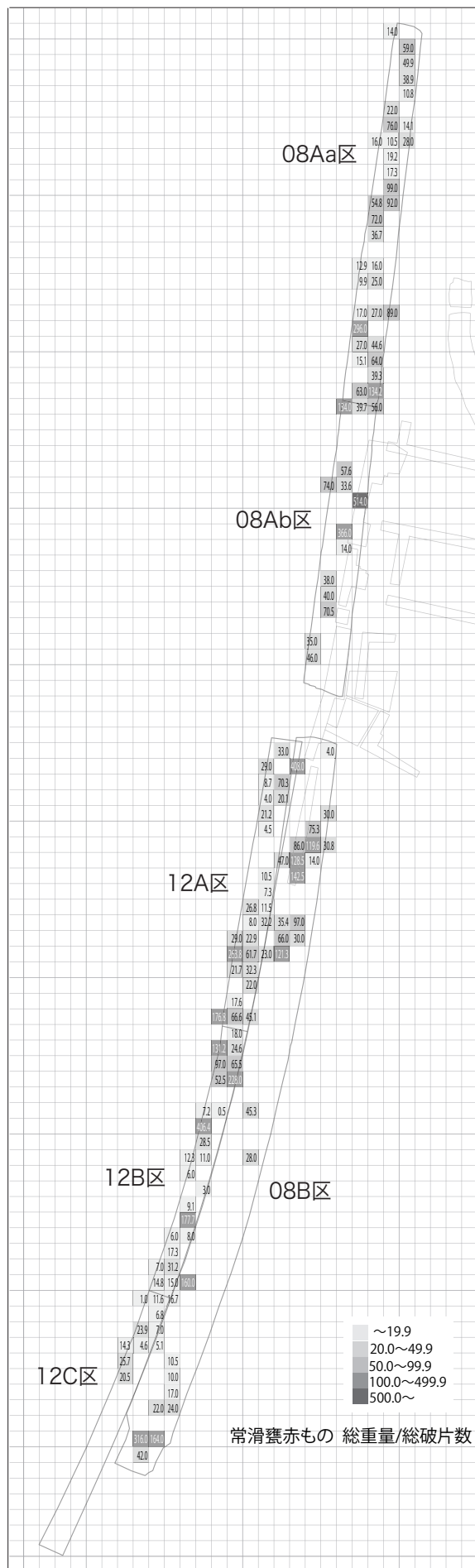
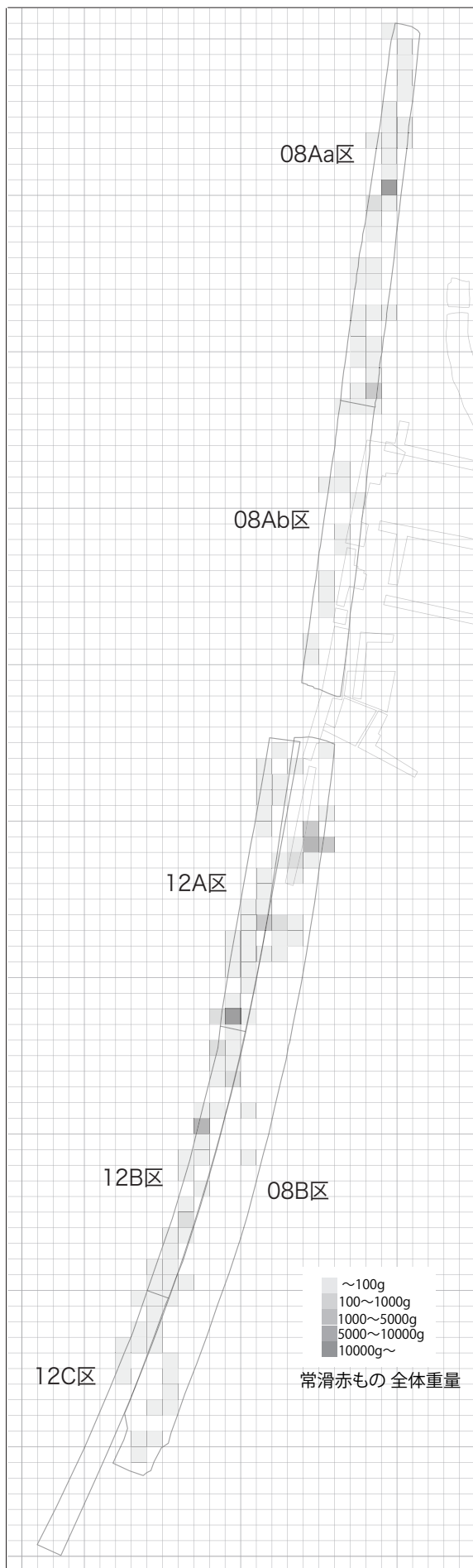


図 102 出土遺物の分布状況 20 (1 : 5,000)

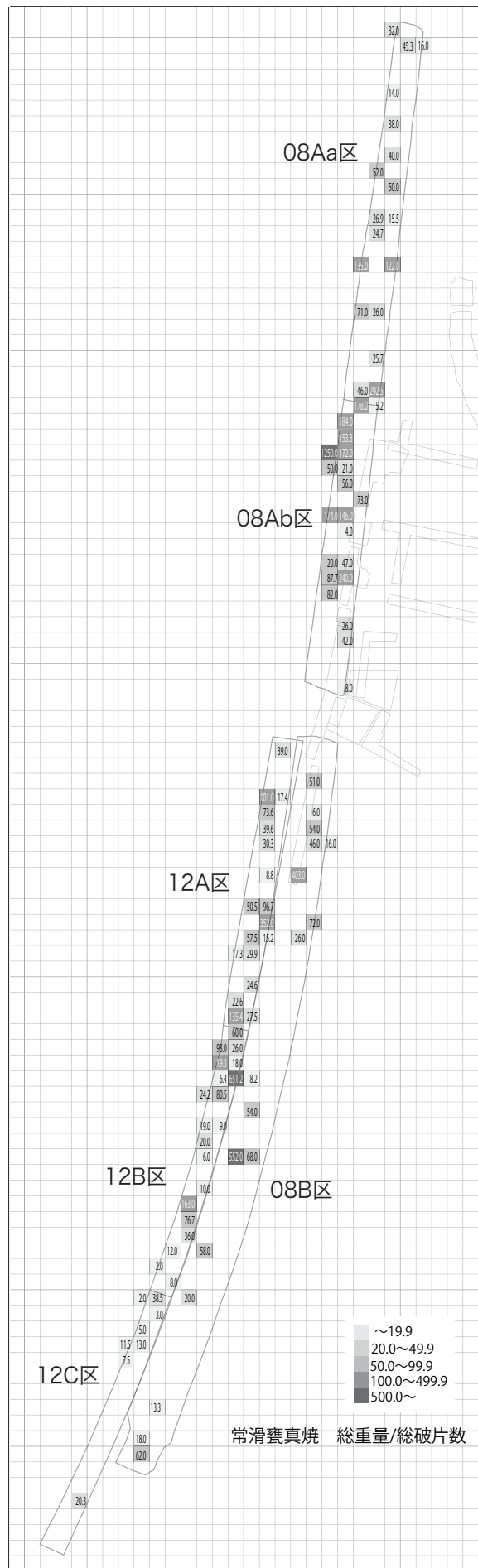
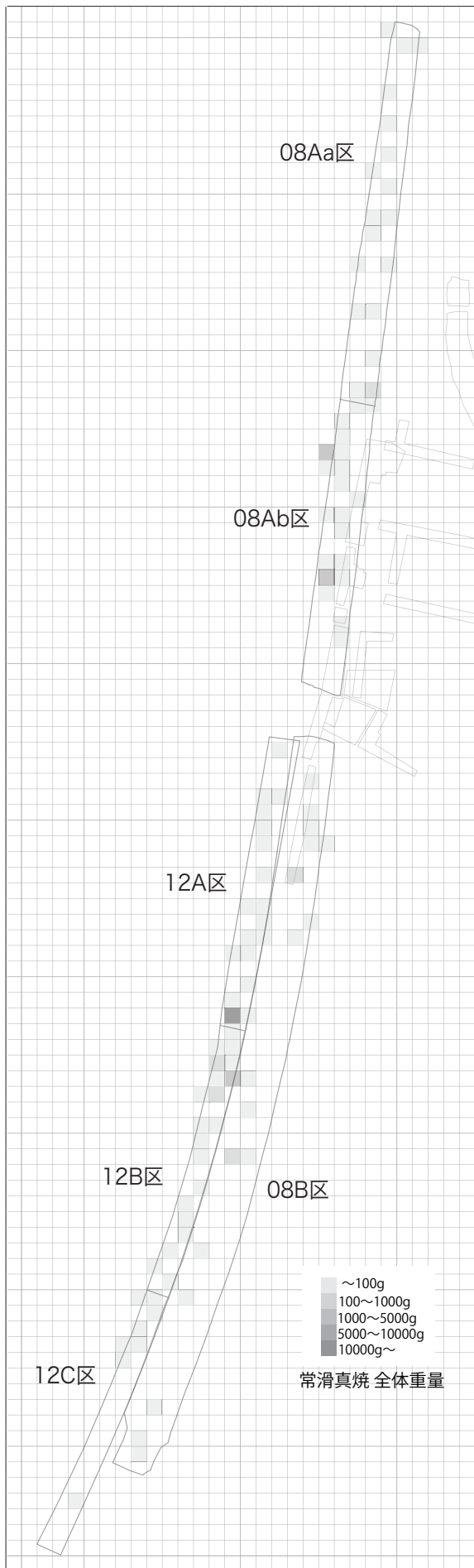


図 103 出土遺物の分布状況 21 (1 : 5,000)

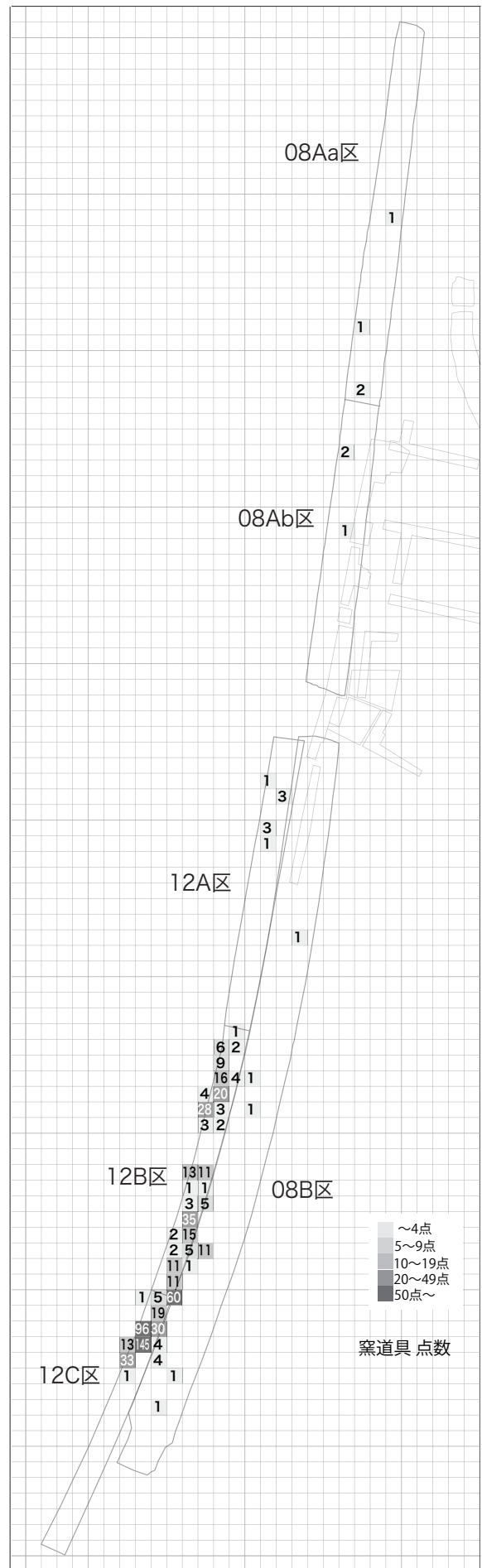
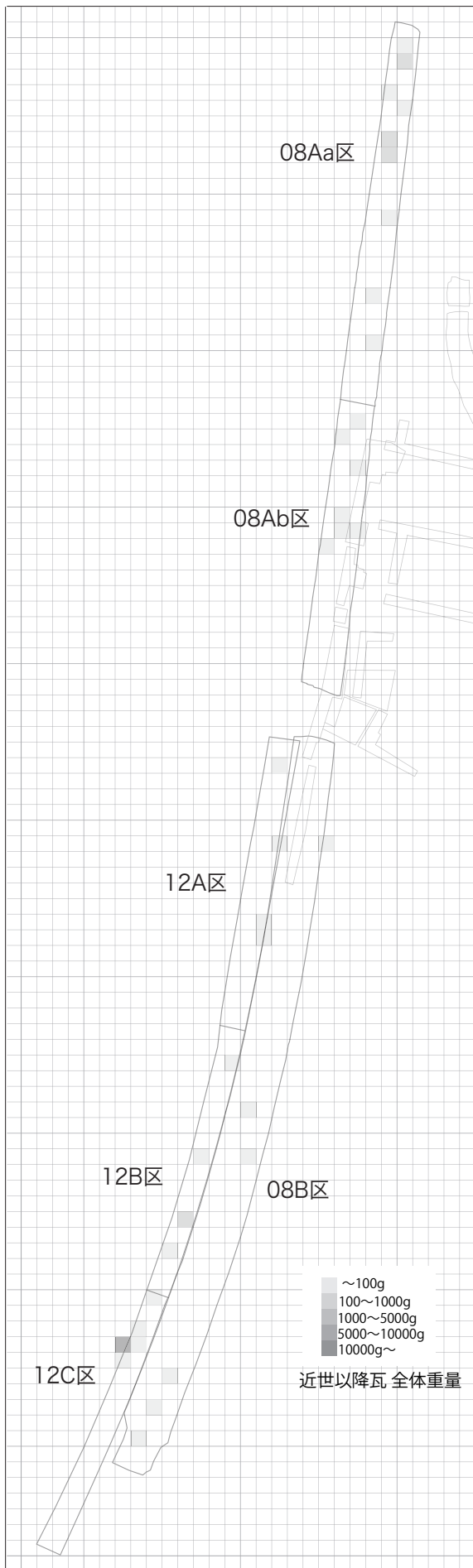


図 104 出土遺物の分布状況 22 (1 : 5,000)

たもの（右）である。全体の重量を見ると、調査区全体に渡って出土している中で、08Ab 区の中央付近と 08B 区北側で濃密に分布している箇所がある。一方、重量 / 点数の除数値で見るとこの濃密に分布しているところのほか、周囲で、大型破片が存在している場合が散見され、08B 区南端のように、二次堆積層の中から大型破片が出土した事例もある。そのような状況の中で、08Ab 区中央では 20.0 以上の値を示す範囲が、北西から南東方向に伸びて展開している範囲がある。砂堆の微地形の形状に沿ったものかもしれない。

図 92～95 は、須恵器の各器種別に出土状況を点数で示したものである。器高の高い杯 H は製塩土器知多式 1 類などに分布が近いようにも見えるが、12A 区北端には集中域はなく、08B 区北側に認められる。この 08B 区の遺物集中域は、器高の中ほどの杯 H・同じく低い杯 H・杯 B に至っても、変わらず集中域になっていることが注目できる。12B 区では、器高の中ほどの杯 H から遺物の出土が確認され、杯 B へと変遷するに従い、遺物の出土量が增大する。この遺物の出土傾向の増大は、08Aa・08Ab・08B の各調査区でも同様である。杯 G 蓋は、遺物の確認点数自体が少なく、特に 08B 区北側での出土が極めて少ない。杯 B 蓋では、杯 B と同様の傾向があるものの、08Ab 区の出土量が少ないか。

灰釉陶器

図 96 は、全体の重量（左）と、重量 / 点数の除数値を示したもの（右）である。これも調査区全体に出土する傾向があるものの、08Ab 区においてはこれまで出土の集中域であった中央あるいは南東側での分布が希薄であり、一方で 08Ab 区北西側での出土分布が密となっている。12 区に関しては、12B 区を中心に 12A 区・12C 区

でも出土の広がりを確認することができる。また、緑釉陶器および緑釉素地の出土については、08Aa 区・08Ab での出土は確認できず、08B 区と 12A 区・12B 区での出土となっている。

以上、古墳時代から古代にかけての土師器・須恵器・灰釉陶器について概観した場合、器種により遺物出土分布域に変遷が認められる一方で、08B 区北側ではほぼ同じ場所で遺物が集中出土していることが分かる。この区域は、竪穴建物跡が集中して存在していた場所にあたり、土器製塩作業を行なうに際して、活動の拠点にしていたなど、継続して要になった地点であることを推定することができる。

B. 土器製塩操業後の遺物

松崎遺跡・上浜田遺跡の改変を考える上で、後世の遺物出土状況を同様に比較することは、極めて重要である。

中世常滑甕

中世常滑甕片は調査区全体で確認することができたが、甕と焼締陶器とでは遺物出土傾向が背反的であることを指摘できる。08Aa・08Ab・08B 区では、甕の出土が圧倒的多数であることに對して、12A・12B・12C 区ではほぼ焼締陶器の出土のみになっている。これは土地利用の状況を反映しているものと考えられ、前者が畑地などの生産域、後者が居住域であったのであろうか。

山茶碗類

常滑窯の製品ではあるが、甕などとは区別して出土傾向を集計した。山茶碗類では碗と小皿を確認した。

碗の出土傾向は、上記の甕および焼締陶器の出土傾向とは著しく異なる傾向を見ることができ

る。類似した出土傾向を灰釉陶器で見ることができ、特に 08B 区での分布集中には著しいものがある。出土位置は、砂堆の上面と傾斜して低なる場所での出土が確認できるが、08Ab 区北西側での集中も勘案すると、後者の傾向を強く見ることができる。小皿は点数自体が少ないものの、碗と同様の傾向があると考えられる。12B 区でまとまっていることが特徴である。

古瀬戸類

若干ではあるが、碗を中心に古瀬戸後期の各器種を確認することができた。山茶碗類の出土傾向に近いものと考えられる。

中世土師皿

点数自体は少ないものの、12A 区南から 12B 区北側でややまとまる傾向がある。山茶碗類でみた、08B 区の集中域からは 1 点も確認されていないことは、注目できるであろう。

伊勢型鍋・内耳鍋

両者合わせた出土傾向は、山茶碗類小皿に極めて近い。両者の別に見た場合、08Aa 区と 08Ab 区の北側までは両者が共存している一方、08Ab 区の南側から 08B 区、および 12A 区・12B 区・12C 区では、内耳鍋の出土が卓越する。

常滑甕（赤もの・真焼）

調査区全体に渡って出土分布が認められるものの、08Ab 区での出土は少ない。各調査区で、大型破片の状態の出土を示している場所が認められる。08Aa 区は水田造成に伴う盛り土内から出土しており、08B 区では井戸枠として利用されていた。一方、真焼に関しては、08Ab 区での出土が多くなる傾向にある。

近世以降の瓦

瓦については、各調査区で散漫な出土状況を呈している中、12C 区北側では極めて集中した出

土を確認できた。

窯道具

12C 区の調査成果で報告したように、12C 区外南西側にタイル工場があつといわれ、それに伴う窯道具の出土を見た。種類には、トチンや匣鉢があるが、前者が圧倒的に多い。特に 12C 区北側での集中は注目できる。出土の疎密は別にすると、近世以降の瓦と出土傾向は類似するといえる。

第2節 土器・陶器類および脚台式製塩土器

1. 時期区分

松崎遺跡・上浜田遺跡において出土した製塩土器以外の土器を1期から5期の5期に区分し、各期を「前半」と「後半」または3、4の小期（計18小期）に細分する。以下、各時期に対応する土器型式（窯式）を示し、併せて知多式製塩土器

との対応を予測的に示した。時期区分は、主として、松河戸・宇田式編年（赤塚1994、赤塚・早野2001）、古代の土師器・須恵器・施釉陶器編年（城ヶ谷2010）、知多式製塩土器編年（立松2010）を参照した。

【1期】松河戸式～宇田I式—松崎類・知多式0類

[前半] 1：松河戸I式—松崎A類？（S字甕D類中）

2：松河戸II式—松崎B類？（S字甕D類新・宇田型甕1類主体）

[後半] 3：宇田I式—松崎C類・知多式0類（ハケ台付甕主体、初期須恵器）

【2期】H-11号窯期～H-44号窯期—知多式1類・2類

[前半] 1：H-11号窯期—知多式1A（2A）類（宇田型甕3類主体）

2：H-61号窯期—知多式1B（2B）類（平底甕主体？）

[後半] 3：H-61（+）号窯期—知多式1C（2C）類

4：H-44—知多式1C（1D）類

【3期】H-50号窯期～I-41号窯期—知多式3類・4A1類

[前半] 1：H-50号窯期—知多式3類

[後半] 2：I-17号窯期—知多式4A1類主体

3：I-41号窯期—知多式4A1類主体

【4期】C-2号窯期～O-10号窯期—知多式4類

[前半] 1：C-2号窯期

2：I-25号窯期

[後半] 3：NN-32号窯期

4：O-10号窯期

【5期】K-14号窯期～H-72号窯期—知多式4類・5類

[前半] 1：K-14号窯期—知多式4類主体

2：K-90号窯期—知多式5A類主体

[後半] 3：O-53号窯期—知多式5A・5B類

4：H-72号窯期—知多式5B類主体

2. 古墳時代から古代の土器

整理、報告時の記述に際しては、各調査区単位で遺構、包含層・その他に区分した。包含層は調査時の出土層位を優先し、下位の層準から順次、資料を提示する。資料の提示に際しては、各遺構、層位の全体的な内容に加えて、特徴的な個体についてやや詳細な内容を記述する。

【08Aa 区包含層等】

G層、F層、D層、C層の出土土器（1～23）、検出面付近、表土・客土等の出土土器（24～51）を抽出、図化した。C層に宇田式、F層にH-11号窯期の土器を含むが、各層ともH-61(+)号窯期以降の各時期の土器が混在する。

・G層、F層、D層、C層

G層（1～7）、F層（8～10）はH-11号窯期からO-10号窯期まで各時期の須恵器を含む（灰釉陶器は含まない）。D層（11～14）はH-44号窯期以降、O-53号窯期までの灰釉陶器を含む。C層（15～23）はH-50号窯期からI-41号窯期を主体として、K-90号窯期の灰釉陶器までを含む。表土・客土直下の検出面付近（34～46）はC-2号窯期以降の須恵器、K-90号窯期からO-53号窯期の灰釉陶器、表土はO-10号窯期以降の須恵器と灰釉陶器が多い。

G層の5は口縁部先端付近が内側に屈折する合子形の須恵器杯Bで、I-25号窯期のK-41号窯に類例がある。7はO-10号窯期の須恵器ミニチュア長頸瓶で、底部外面に墨痕がある。D層の12は土師器濃尾型甕である。C層の21は杯部全体が内彎する灰釉陶器皿で、K-90号窯期に相当する。22は宇田式の台付甕、23は土師器伊勢型甕で、I-17号窯期からI-41号窯期に対応する。

・検出面付近、表土・客土等

29は（畿内産）土師器碗で、杯部内面に暗文を施す。31は高台を付した須恵器甕で、K-90号窯期のK-119号窯等に類例がある。39は器種不明須恵器（杯？）で、（底部）外面に線刻がある。40は土師器竈、41・42は伊勢型甕、43は清郷型鍋で、K-90号窯期からO-53号窯期に対応する。45はK-90号窯期の灰釉陶器碗で、底部内面に朱墨痕がある。

【08Ab 区遺構】

・1015SI

H-61(+)号窯期からI-41号窯期の土器がある（52～56）。55は口縁部が内彎気味の土師器甕、56は土師器竈で、H-61(+)号窯期からI-41号窯期のいずれかの時期に対応する。

・1017SI

H-50号窯期からI-17号窯期を前後する須恵器高杯（57）、小型の短頸壺（58）、把手付鍋（59）がある。

・1020SI

宇田I式から宇田II式の土器がある（60～63）。60は小型の土師器伊勢型甕で、器壁が一樣に薄い。61は宇田I式の土師器台付甕で、ナゲ調整を基調とする。62は全体に重厚で鈍い作りを特徴とする須恵器無蓋高杯で、H-111号窯期に相当する可能性がある。

・1030SX（SX群）

各遺構を通じてH-50号窯期からI-17号窯期の土器を主体とする。64は頸部がほとんどくびれない土師器甕、65は板状の棧を付す土師器甕で、棧の外面に木葉痕がある。71は寸胴な長胴の体部を特徴とする土師器甕で、72は土師器伊勢型甕である。

【08Ab 区包含層等】

W層、V層、U層、T層、S層、R層、Q層、M層、L層、K層、J層、I層、B層の出土土器（73～125）、検出面付近、表土・客土等の出土土器（126～162）を抽出、図化した。

遺構群下位のW層（73～86）、鍵層であるQ層下位のV層、U層、T層、S層（87～109）は混在が著しいが、上位のQ層、M層、L層、K層、J層、I層、B層（111～125）は層準と土器型式（窯式）の推移が概ね対応する。

・W層、V層、U層、T層、S層、R層

W層（73～86）は松河戸式の土師器を含みつつ、H-61号窯期からI-17号窯期を主体とする。V層（87・88）はH-11号窯期、U層（89～94）はH-50号窯期が多く、T層（95～108）、S層（109）はH-61号窯期以前の土器を含まず、H-61(+)号窯期からI-17号窯期を主体とする。

・Q層、M層、L層、K層、J層、I層、B層

Q層（111）はC-2号窯期の須恵器を包含し、L層（114～117）はO-10号窯期からK-14号窯期、J層・I層（119～122）はK-90号窯期前後、B層（123～125）はK-90号窯期からO-53号窯期を主体とする。

W層の84は土師器伊勢型把手付鍋、86はS字甕D類中段階で松河戸I式2・3段階に相当する。V層の88は宇田型甕、U層の93は伊勢型甕の範疇とした。T層の103は球形の体部を特徴とする須恵器壺、106・107は頸部がほとんどくびれない土師器甕で、いずれも類例に乏しい。Q層の111は須恵器杯Aで、底部外面を二段ケズリで仕上げる。J層の119はK-90号窯期の灰釉陶器輪花皿、I層の121はK-14号窯期の須恵器碗、122はO-53号窯期の灰釉陶器碗、B層の125はK-90号窯期の灰釉

陶器段皿である。

・検出面付近、表土・客土等

東海市教育委員会による第1次・第2次調査の調査区と重複する旧調査区部分、検出面付近、表土・客土等の出土土器（126～162）において、各時期の土器が出土している。

127は土師器濃尾型甕、133は土師器伊勢型甕である。138は須恵器大型浅鉢で、側面に環状の把手を付す。143は宇田型甕3類で、宇田II式に対応する。145は土師器碗形高杯で、H-61号窯期を前後する時期と考えられる。146はT層に多い頸部がほとんどくびれない土師器甕である。158はK-90号窯期の灰釉陶器段皿で、口縁部内面に同心円状のやや稚拙な花文を線刻する。161は横位のヘラミガキを入念に施した精製の土師器杯である。関東（鬼高）系の須恵器模倣杯の可能性もあるが、確実ではない。

【08B 区遺構】

・2024SI

各時期の遺物が混在するが、松河戸II式から宇田I式、H-61号窯期からC-2号窯期の土器が多い（163～191）。163は宇田型甕1類で、松河戸II式、164は宇田型甕3類で、宇田II式、165～167は口縁部先端をわずかに内外に拡張し、ハケ調整を基調とする土師器台付甕で、宇田I式に相当すると考えられる。175は宇田I式を前後する土師器大型高杯を転用した轆羽口で、先端にはガラス質化した滓が付着し、被熱による色調変化も明瞭に認められる。177は須恵器甕または把手付鍋の把手部分で、把手は挿入法による。184はフラスコ形長頸瓶で、H-50号窯期からI-17号窯期、188は長胴の土師器平底甕で、H-61号窯期前後に相当すると考えられる。

• 2009SI

宇田 I 式、O-10 号窯期の土器の両者が混在する (192～199)。192 は土師器高杯、193 は大型高杯である。194 は土師器と同様の焼成の大型高杯であるが、脚端部は須恵器高杯の技法で作されている。いわゆる「須恵器系土師器」の範疇に含まれる。

• 2025SI

H-44 号窯期から C-2 号窯期の土器が混在する (200～202)。201 は陶馬の肢部、202 は土師器伊勢型把手付鍋で、I-17 号窯期前後に対応すると考えられる。

• 2028SI

松河戸 I 式の土師器から K-90 号窯期までの灰釉陶器が混在するが、H-11 号窯期前後、H-50 号窯期から I-17 号窯期にまとまりがある (203～218)。203 は S 字甕 D 類中段階で、松河戸 I 式 2・3 段階、204 は宇田型甕 3 類で、宇田 II 式、205・206 はハケ調整を基調とする土師器台付甕で、宇田 I 式に相当すると考えられる。209 は須恵器無蓋高杯で、脚部に 3 方向の透孔を切削する。H-11 号窯期に相当する。216 は灰白色を呈する瓦質に近い焼成で、筒形土製品 (土管) と考えられる。I-17 期号窯期の I-77 号窯、S-2 号窯等に類例がある。

• 2030SI

松河戸 II 式、H-61(+) 号窯期から H-50 号窯期、NN-32 号窯期から O-10 号窯期の土器が混在する (219～227)。219 は土師器有段口縁壺、220 は高杯で、いずれも松河戸 II 式に相当する。221～224 は土師器濃尾型甕で、NN-32 号窯期から O-10 号窯期に対応する。

• 2041SI

松河戸 II 式の土師器から K-90 号窯期までの

灰釉陶器が混在する (228～247)。土師器は松河戸 II 式の小型壺 (233)、宇田 I 式の台付甕 (228・229)、高杯 (230～232) がある。須恵器は H-11 号窯期の杯 H 蓋 (234)、H-44 号窯期から H-50 号窯期の杯 H (235～237)、C-2 号窯期の台付の大型短頸壺 (239)、I-25 号窯期の短頸壺 (240)、NN-32 号窯期の杯 B 蓋 (241)、O-10 号窯期の杯 A (242)、長頸瓶または水瓶 (243) 等、灰釉陶器は K-90 号窯期の皿 (245)、長頸瓶 (247) 等がある。

• 2033SI

松河戸 II 式、I-17 号窯期から I-41 号窯期の土器が混在する (248～251)。251 は土師器濃尾型甕で、I-41 号窯期に対応すると考えられる。

• 2039SI

土師器甕のみを抽出、図化した。252 は松河戸 II 式から宇田 I 式のナゲ調整を基調とする台付甕、253 は頸部に断面三角形状の突帯を付した甕であるが、類例を欠く。

• 2043SI

抽出した土器は宇田 I 式の土師器で占められる。254・255 はハケ調整を基調とする台付甕、256 は中型直口壺、257 は杯部が深い高杯である。

• 2005SD (SD 群)

宇田 I 式の土師器から K-90 号窯期の灰釉陶器が混在する (258～261)。261 は K-90 号窯期の緑釉陶器素地皿で蛇ノ目高台を付す。水簸した灰白色土を使用し、内外面に細かいミガキを施す。

• 2010SK

松河戸 II 式を主体とする土師器と O-10 号窯期から O-53 号窯期または H-72 号窯期の灰釉陶器が混在する (267～272)。267 は S 字甕 D 類新段階で、松河戸 II 式に相当する。

• 2020SK

各時期の土器が混在するが、宇田Ⅰ式、H-11号窯期、I-17号窯期にまとまりがある(273～288)。287はI-17号窯期の須恵器甕で、体部外面に記号状の線刻がある。288は土師器甕で、掛け口、把手、突帯が残存する破片を復元的に図示した。突帯付近にはわずかに底部分(曲げ底)が残存する。I-17号窯期に対応すると考えられる。

・2004SX

各時期の土器が混在するが、宇田Ⅰ式にまとまりがある(289～301)。292はナデを基調とする土師器台付甕の体部で、絵画(記号)状の線刻がある。

・2022SX

各時期の土器が混在する(302～310)。302は土師器の筒状の容器(土製品)で、飯蛸壺の可能性もある。ただ、体部上位の欠損により、紐孔の有無は明らかでない。307は(フラスコ形)長頸瓶で、I-17号窯期に相当する。

・2044SX

311は基盤層付近で出土した土師器小型壺で、松河戸Ⅰ式2・3段階に相当する。

【08B区包含層等】

O層、I層、H層、G層、B層、A層の出土土器(312～403)、検出面付近、表土・客土等の出土土器(404～484)を抽出、図化した。基盤層直上のO層(312～317)、最上位のB層、A層(391～403)を除いた各層(318～390)は混在が著しい。

・O層

O層はH-11号窯期以前のO-2層(312～314)、H-11号窯期以後のO-1層(315～317)に細分される。312は土師器小型壺で、松河戸

Ⅰ式2・3段階、313は土師器大型高杯で、宇田Ⅱ式に相当する。杯部が浅い特徴から、伊勢北部地域との関連が想定される。類似した大型高杯は第1次調査第Ⅱ区中トレンチ住居からも出土している。315はH-50号窯期の須恵器杯H蓋、316はI-17号窯期の須恵器高杯、317はH-11号窯期の須恵器杯H蓋である。

・I層、H層、G層、F層

I-3・4層出土の318はS字甕D類新段階で、松河戸Ⅱ式、320は羽釜形態に近似する須恵器杯で、H-111号窯期前後に相当する。328は緑釉陶器碗で、濃緑色の緑釉を施す。灰色の胎土で、猿投窯産以外(篠窯等)の製品である可能性がある。I-2層出土の332はS字甕D類中段階で、松河戸Ⅰ式2・3段階に相当する。I-3層出土の342はC-2号窯期の台付の大型短頸壺で、内外面に黄土を塗布する。343は須恵器横瓶で、C-2号窯期前後の時期に相当すると思われる。また、H層にはK-90号窯期の灰釉陶器(352・353・360・361)が良好な状態で包含される。その他、355は口縁部先端付近のみがやや外反する土師器甕で、甑の可能性もある。358はC-2号窯期の甕で内外面に黄土を塗布する。

F層出土の365は布留式系甕とした。松河戸Ⅰ式に対応すると考えられる。372は須恵器無蓋高杯で透孔を切削する。381は器種不明の須恵器で線刻がある。384は土師器濃尾型甕で、底部外面に木葉痕がある。385～387は土師器清郷型鍋で、口縁部が外傾く個体(385)、短く水平に折り曲げられる個体(386)、断面三角形の縁帯が形成される個体(387)がある。389は緑釉緑彩陶器の大型稜碗で、薄緑色の緑釉を内外面に施釉し、筆による筆致で花文を描く。K-90号窯期に相当する。近隣における緑(白・淡黄)釉

緑彩陶器の出土は、明和町齋宮跡、松阪市朝見遺跡、名古屋市八事一堂跡等に例がある。390はやや高い高台を付す緑釉陶器碗で、O-53号窯期に相当する。

・B層、A層

B層・A層出土土器はC-2号窯期以降に限られ、灰釉陶器の出土も多い。灰釉陶器は396・397がK-14号窯期、398～400がK-90号窯期、401がO-53号窯期に相当する。402はやや高い高台を付す緑釉陶器碗で、O-53号窯期に相当する。

・検出面付近、表土・客土等

各時期の土器が出土している(404～484)。410は宇田型甕3類で、宇田Ⅱ式に相当する。411は土師器高杯で、杯部内面にごく細い線による線刻がある。412は小型の高杯で類例は少ない。413は土師器羽釜で、H-50号窯期からI-17号窯期を前後する時期に相当すると考えられる。415は須恵器ミニチュア長頸瓶で、底部外面に刻書があるが、判読に至っていない。417はH-72号窯期の灰釉陶器碗で、底部外面に朱墨痕がある。418は緑釉陶器碗で、K-90号窯期に相当する。419は有段口縁壺で、松河戸Ⅱ式から宇田Ⅰ式に対応する。422は平行叩きを施した甕で、朝鮮半島系軟質土器の可能性もある。423は土師器甕で丸底の底部に、中央にやや大きい蒸気孔(径約1.2cm)、その周囲に多数の小さい蒸気孔(径約0.6cm)を穿つ。424は頸部がほとんどくびれない土師器甕、424～426は濃尾型甕で底部(425・426)には木葉痕がある。431は須恵器把手付鍋で、球形の器形を特徴とする。I-17号窯期を前後する時期と考えられる。436は宇田型甕2類で、宇田Ⅰ式に相当する。443は手捏ね土器で、松河戸Ⅱ式から宇田式のいずれ

かに相当すると考えられる。

447は宇田型甕1類で、松河戸Ⅱ式に相当する。448は三河地域以東に散見される土師器二段高杯で、豊明市若王子遺跡、南区桜本町遺跡を含め、西限の出土例となる。455は縄蓆叩き、456は格子叩きを施した須恵器甕で、457の無蓋高杯を含めH-111号窯期に相当すると考えられる。475はK-90号窯期の灰釉陶器大碗、483は同時期の緑釉陶器素地皿で、蛇ノ目高台を付す。

484は緑釉(彩釉)菩薩形立像(小像)である。近世以降の整地層より出土した。頭部と上腕を除く両腕、左足を欠損し、残存長は8.5cmを計測する。緑釉はほとんどが剥落するが、蛍光X線分析によって鉛成分を検出した。小嶋泉氏(名古屋市博物館)からは、像が肉厚である特徴から平安時代の作風に近いとのご教示を得た。

陶製の仏像(小像)としては、名古屋市博物館所蔵(北村斌夫コレクション)の瑞穂区萩山公園付近出土の仏頭(須恵質)、NN-32号窯期のK-8号窯出土(本多静雄コレクション)の陶製小像(須恵質)が知られているが、緑釉(彩釉)陶器製の仏像としては初見の資料と思われる。K-8号窯出土の陶製小像は残存長9cm程度の台座を欠く造形で、右手に何かを持つしぐさをし、左手に水瓶を提げている。なお、K-8号窯は浄瓶、香炉蓋、陶塔、宝珠硯、獣足壺、鳥形平瓶等の特殊な器種を数多く焼成している。また、緑釉(二彩・三彩)の仏教関連の造形物としては、松阪市伊勢寺廃寺出土の三彩陶器「須弥山」、木津川市馬場南遺跡出土の彩釉「山水陶器」、奈良市平城京左京二条四坊・平城京左京一条三坊・東大寺旧境内出土の三彩・無釉「須弥山」形土製品がある。

表4 遺物包含状況と製塩

時期区分		1期		2期				3期			4期				5期				
型式/窯式	製塩土器	松河戸式		宇田式		H-61	(+)	H-44	H-50	I-17	I-41	C-2	I-25	NN-32	O-10	K-14	K-90	O-53	H-72
		I式	II式	I式	II式 H-11	1B	1C	1C/1D	3	4A1				4			5A	5A/5B	5B
08Aa	G層							H-61物主体											
	F層																		灰軸陶器を含まない
	D層																		灰軸陶器を含まない
	C層								H-50物主体										灰軸陶器を含まない
	検出											C-2物主体							
	表土・客土														O-10以降				
08Ab	1020SI			宇田式															
	1015SI							H-50前後											
	1017SI							H-50前後											
	SX							H-50/I-17											
	W層	松河戸式/宇田式を含まない																	
	V層																		
	U層								H-50物主体										
	T・S・R層								H-61/I-17/I-41物主体										
	Q層											C-2							
	M・L・K層														O-10/I-25物主体				
J・I層																	K-90物主体		
B層																		K-90/I-25/SX	
08B	2044SX	松河戸式																	
	2022SX		松河戸I式以降																
	2010SK		松河戸I式以降																
	2030SI		松河戸I式以降																
	2041SI		松河戸I式以降																
	2024SI		松河戸I式以降																
	2043SI			宇田式															
	2009SI			宇田式以降															
	2004SX			宇田式以降															
	2028SI			宇田式以降															
	2020SK			宇田式以降															
	O層								松河戸I式~I-17										
	I-4・3層																		宇田I式~K-90
	I-2・1層																		宇田I式~K-90
H層																		宇田I式~K-90	
G・F層																		宇田I式~O-53	
B層																		O-5/I-25/SX	
12A	5層		松河戸式以降																
	3層			宇田式以降															
12B	090SK										I-41/C-2物主体								
	5層											C-2							
	4層														O-10物主体				
12C	4層																	O-10/I-25/SX物主体	
	3層											C-2							

複数個体出土
 包含する可能性
 出土を確認

※表中の注記は層準に伴う包含状況の変化の傾向を示す

土器の出現頻度との対応関係

時期区分		製塩土器出現頻度					
型式/窯式		製塩土器出現頻度					
製塩土器		1類	2類	3類	4類	5類	
08Aa	G層	■	□	■	■	□	G層 (882)
	F層	■	□	■	■	□	F層 (402)
	D層	■	□	■	■	□	D層 (420)
	C層	■	□	■	■	□	C層 (1,212)
	検出	■	□	■	■	□	検出 (498)
	表土・客土	■	□	■	■	□	表土 (1,222)
08Ab	1020SI						
	1015SI						
	1017SI						
	SX						
	W層	■	□	■	■	□	W層 (753)
	V層	■	□	■	■	□	V層 (306)
	U層	■	□	■	■	□	U層 (132)
	T・S・R層	■	□	■	■	□	T・S・R層 (2,658)
08B	Q層	■	□	■	■	□	Q層 (258)
	M・L・K層	■	□	■	■	□	P・O・N・M・L・K層 (2,732)
	J・I層	■	□	■	■	□	J・I層 (73)
	B層	■	□	■	■	□	B・A層 (430)
	2044SX						
	2022SX						
2010SK							
2030SI							
2041SI							
2024SI							
2043SI							
2009SI							
2004SX							
2028SI							
2020SK							
12A	O層	■	□	■	■	□	N・J層 (10)
	I-4・3層	■	□	■	■	□	I層 (124)
	I-2・1層	■	□	■	■	□	
	H層	■	□	■	■	□	H層 (13)
	G・F層	■	□	■	■	□	G・F層 (399)
	B層	■	□	■	■	□	B・A層 (1,220)
12B	5層	■	□	■	■	□	5層 (118)
	3層	■	□	■	■	□	3・2層 (110)
12C	090SK						
	5層	■	□	■	■	□	5層 (33)
	4層	■	□	■	■	□	
	3層	■	□	■	■	□	3層 (199)
	4層	■	□	■	■	□	4層 (24)
3層	■	□	■	■	□	3層 (25)	

【12A 区包含層】

5層は松河戸式以降、3層は宇田式以降の各時期の土器が混在して出土している (485～523)。

・5層

須恵器はH-61(+)号窯期の杯H蓋 (485)、I-17号窯期の杯G蓋 (488)、I-41号窯期の杯G (489)、O-10号窯期の杯B (490～492) 等がある。494は長胴壺でC-2号窯期に相当する。土師器は松河戸I式2・3段階の高杯 (497)、松河戸式から宇田式の台付甕 (498)、濃尾型甕 (502)、清郷型鍋 (505)、竈 (506) 等がある。灰釉陶器はK-90号窯期の椀 (507・508)、耳皿 (509)、O-53号窯期の椀 (510)、H-72号窯期以降の椀 (511) がある。

・3層

土師器は宇田式の台付甕 (512)、須恵器はH-61号窯期の杯H (513)、O-10号窯期の杯B (517) 等がある。519は緑釉陶器椀で、K-90号窯期に相当する。

・その他

523は土師器杯で、杯部外面に横位、内面に斜位のミガキ、底部外面周囲にヘラケズリを施す。関東 (鬼高) 系の須恵器模倣杯の可能性もあるが、確実ではない。

【12B 区遺構】

・090SK

I-41号窯期からC-2号窯期を

主体として、H-50 窯期、O-10 号窯期の土器を含む (524～539)。

須恵器は H-50 号窯期の杯 H (524)、I-41 号窯期の杯 G (525・526)、高杯 (527)、C-2 号窯期の杯 B (528・529)、杯 B 蓋 (530・531)、台付の大型短頸壺 (533)、甕 (534)、長胴壺 (535)、陶白 (536)、O-10 号窯期の杯 B (532) がある。杯 G の 525・526 は底部外面に刻書があるが、判読に至っていない。土師器は濃尾型甕 (538・539) 等がある。

・089SU

540 は H-50 号窯期の須恵器杯 H、541・542 は土師器濃尾型甕で、C-2 号窯期に対応すると考えられる。

【12B 区包含層等】

・5 層

C-2 号窯期を主体とする (543～546)。

543 は C-2 号窯期の杯部が深い須恵器杯 A、544 は同時期の須恵器杯 B、546 は土師器甕で、丸底の底部に半円形の蒸気孔を穿つ。

・4 層・3 層

O-10 号窯期から O-53 号窯期を主体とするが、松河戸式の土師器が混在する (547～567)。

547 は S 字甕 D 類古段階から中段階で松河戸 I 式 2 段階に相当する。須恵器は O-10 号窯期の甕 (548)、杯 B 蓋 (549) がある。

551・552 (同一個体の可能性がある) は土師器有段口縁壺で松河戸 II 式から宇田 I 式に相当すると考えられる。554 は平行叩きを施した甕で、朝鮮半島系軟質土器の可能性はある。須恵器は O-10 号窯期の杯 B (555～557)、杯 A (558)、長頸瓶 (560・561) 等がある。567 は底部が鏢状に突出する須恵器甕で、K-90 号窯期の K-89

号窯等に類例がある。灰釉陶器は K-90 号窯期の椀 (568～571) と段皿 (572)、O-53 号窯期の椀 (573～575) と皿 (576)、H-72 号窯期の椀 (577) がある。

・その他

各時期の土器が混在して出土している (578～591)。

582 は緑釉陶器素地稜椀で、水簸した灰白色土を使用し、内外面に細かいミガキを施す。583・584 は緑釉陶器椀で、K-90 号窯期に相当する。

【12C 区】

・4 層

592 は NN-32 号窯期の須恵器杯 B 蓋、593 は底部が鏢状に突出する須恵器甕で、K-90 号窯期に相当すると考えられる。594 は K-90 号窯期の灰釉陶器椀である。

・3 層

C-2 号窯期の須恵器杯 B 蓋 (595) のみを抽出した。

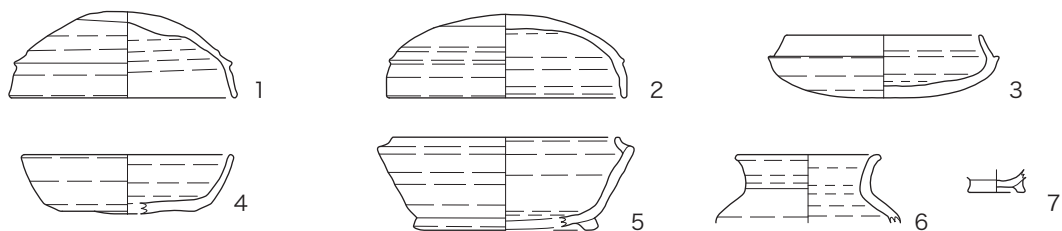
・その他

O-10 号窯期の杯 B (596) のみを抽出した。

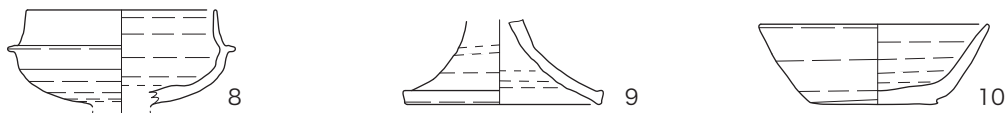
ごく少ないが、各調査区から中世以降の土器、陶磁器が出土している。

中世の土器・陶磁器として、08Aa 区から中

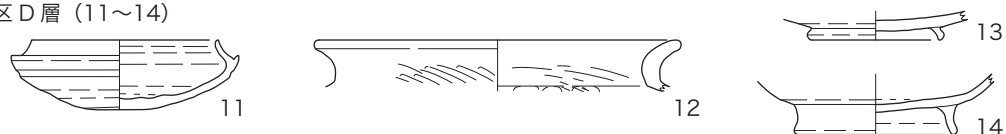
08Aa区 G層 (1~7)



08Aa区 F層 (8~10)



08Aa区 D層 (11~14)



08Aa区 C層 (15~23)

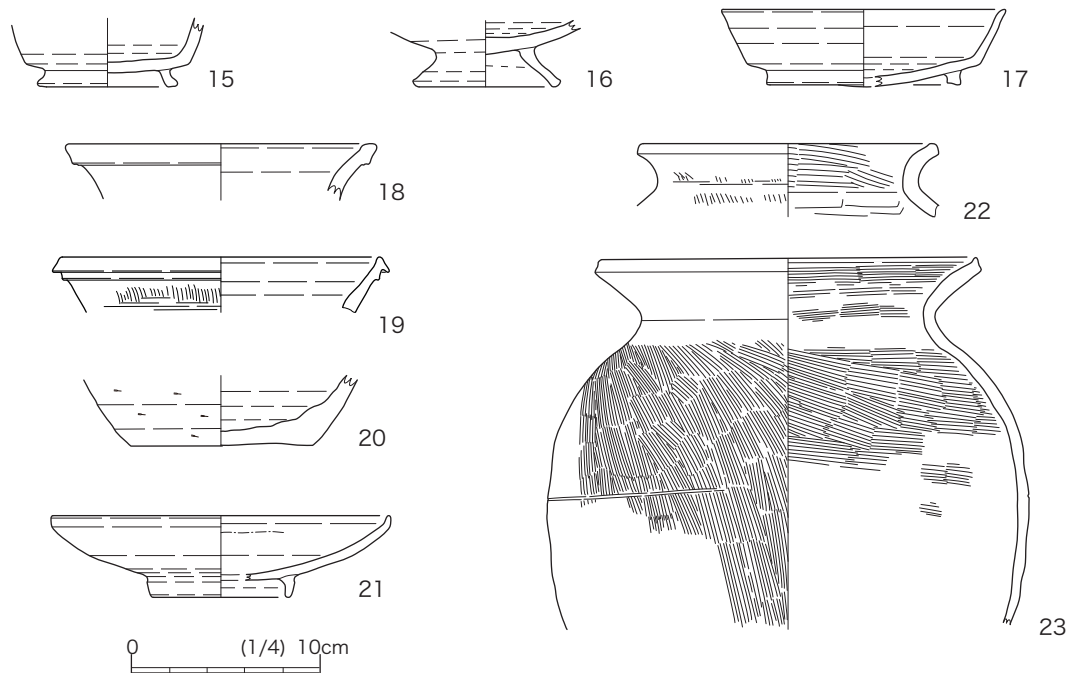
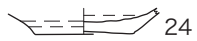
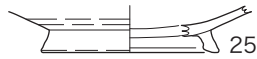


図 105 古墳時代から古代の土器 1

08Aa 区ベルト (24・25)



24

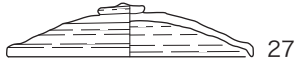


25

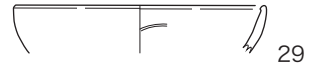
08Aa 区西傾斜面 (26~33)



26



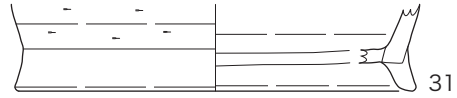
27



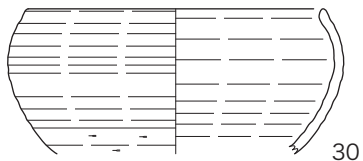
29



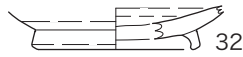
28



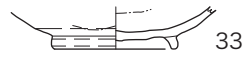
31



30



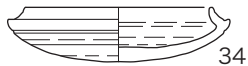
32



33



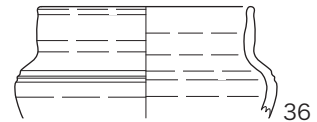
08Aa 区検出 (34~46)



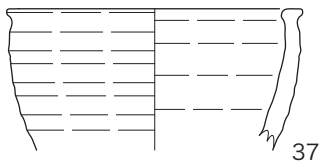
34



35



36



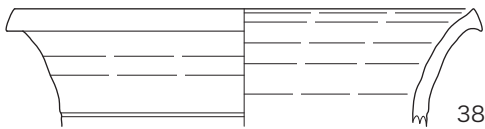
37



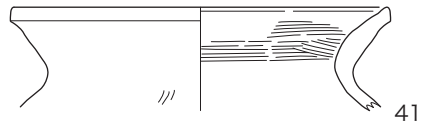
39



40



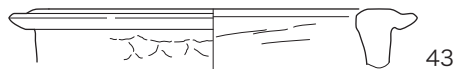
38



41



42



43



44

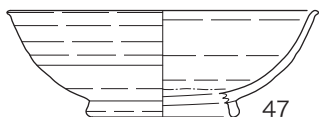


45



46

08Aa 区表土



47

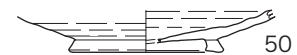


48

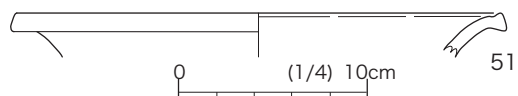
08Aa 区攪乱・客土



49



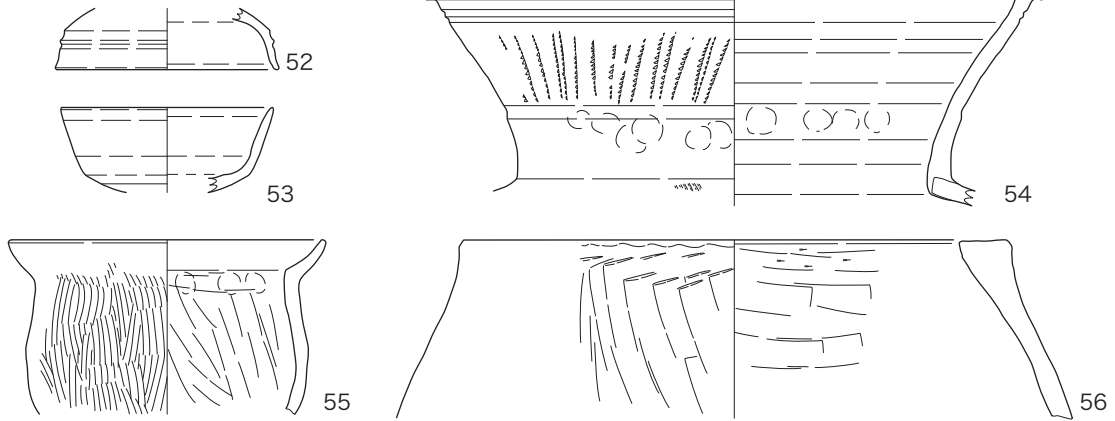
50



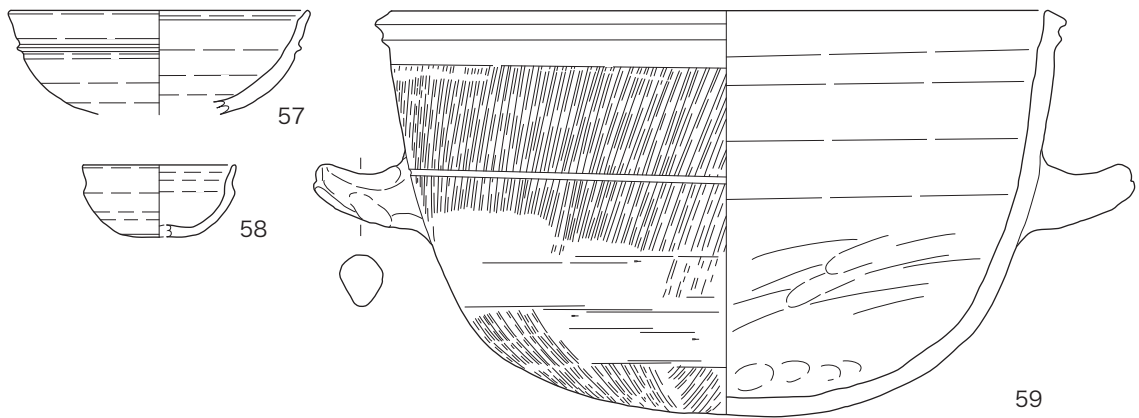
51

図 106 古墳時代から古代の土器 2

08Ab 区 1015SI (52~56)



08Ab 区 1017SI (57~59)



08Ab 区 1020SI (60~63)

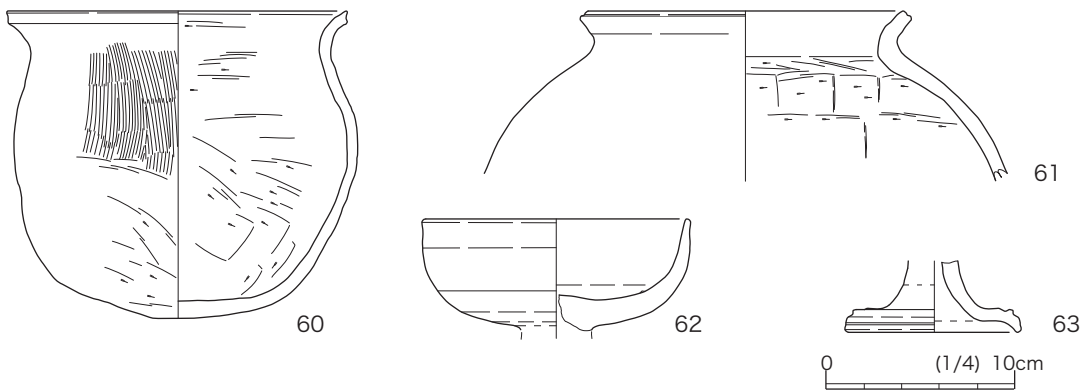
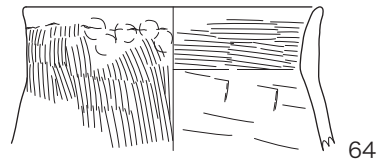
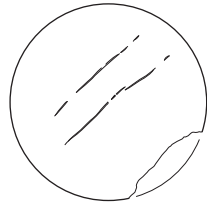


図 107 古墳時代から古代の土器 3

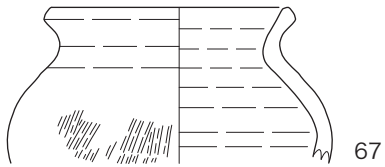
08Ab 区 1030SX (64~67)



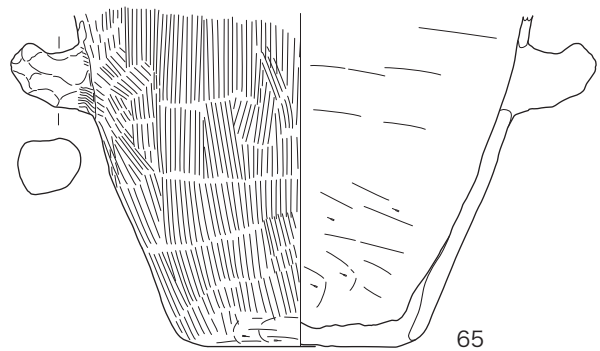
64



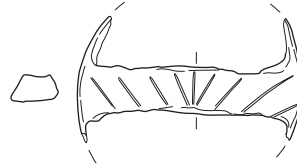
66



67



65

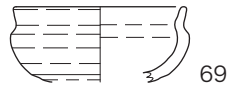


08Ab 区 1007SX (68)



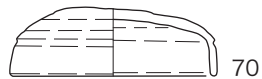
68

08Ab 区 1010SX (69)

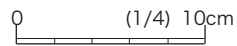


69

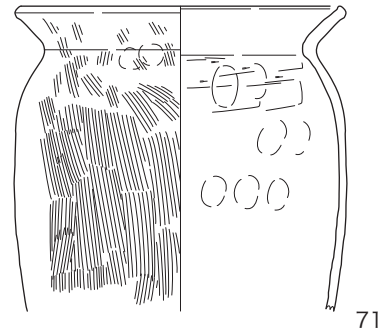
08Ab 区 1011SX (70)



70

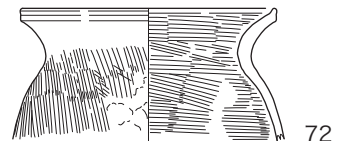


08Ab 区 1018SX (71)



71

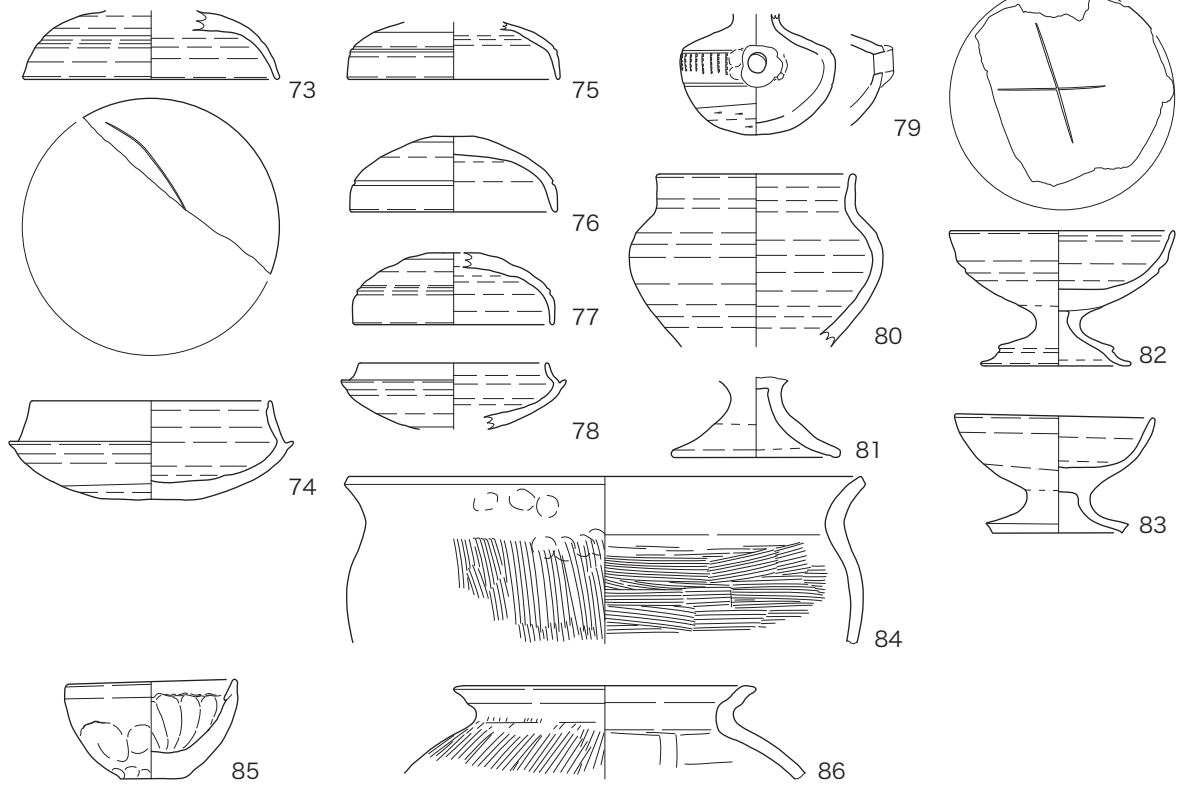
08Ab 区 1027SX (72)



72

図 108 古墳時代から古代の土器 4

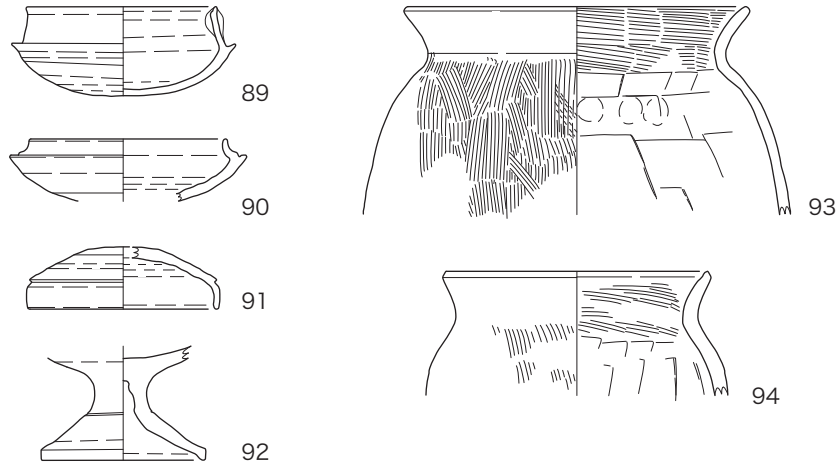
08Ab区 W層 (73~86)



08Ab区 V層 (87・88)



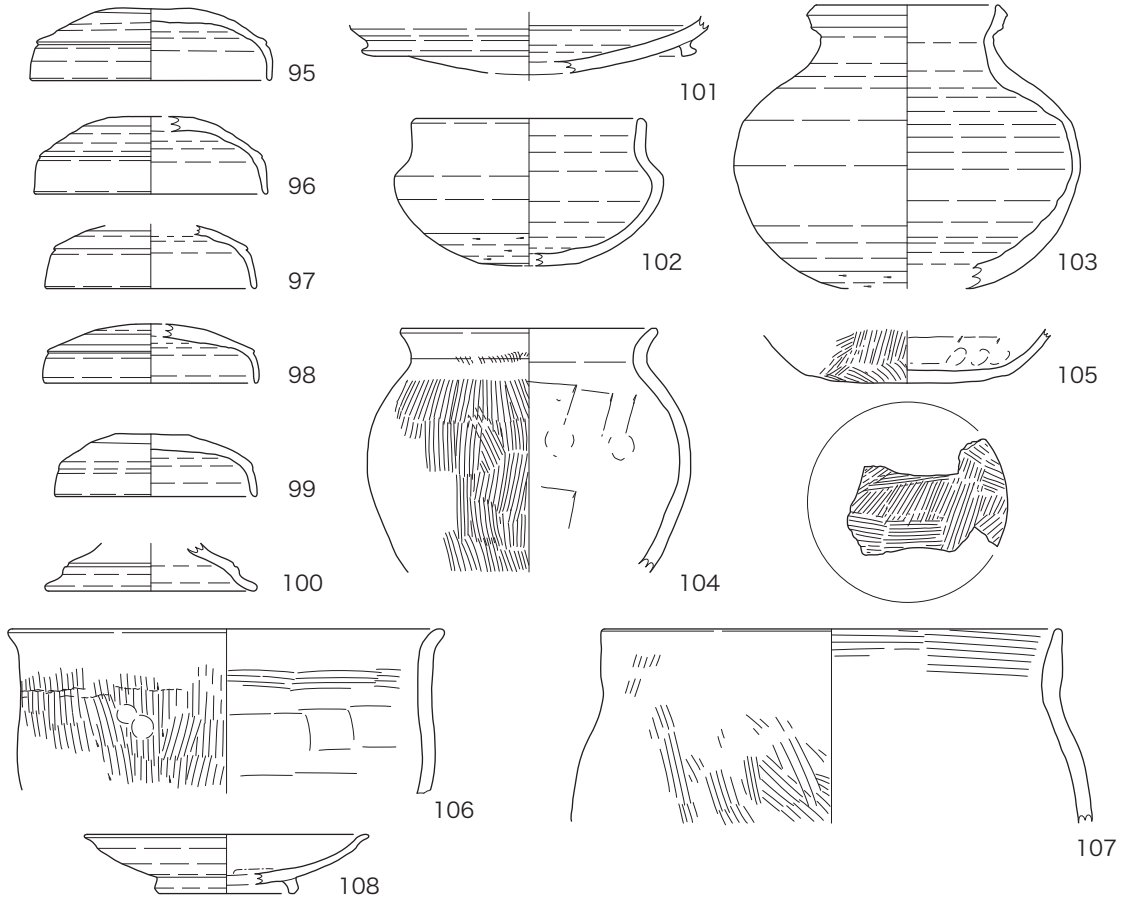
08Ab区 U層 (89~94)



0 (1/4) 10cm

図 109 古墳時代から古代の土器 5

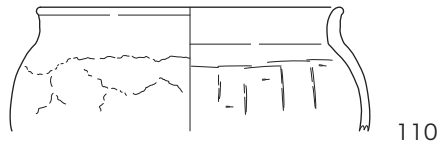
08Ab 区 T 層 (95~108)



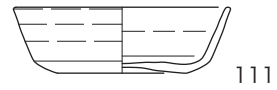
08Ab 区 S 層 (109)



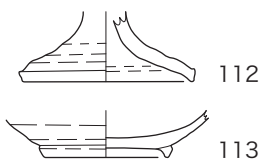
08Ab 区 R 層 (110)



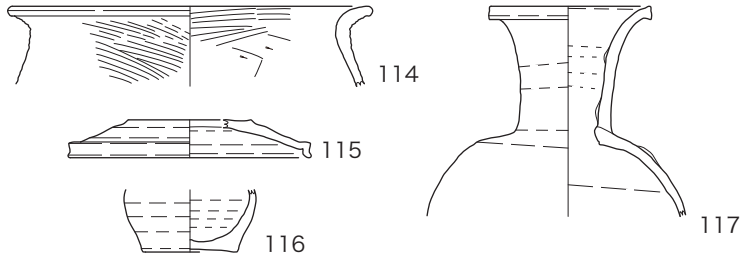
08Ab 区 Q 層 (111)



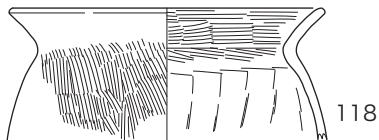
08Ab 区 M 層 (112・113)



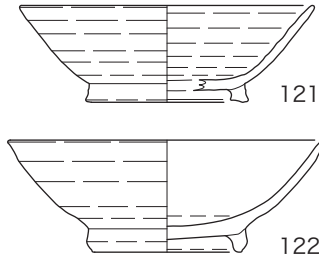
08Ab 区 L 層 (114~117)



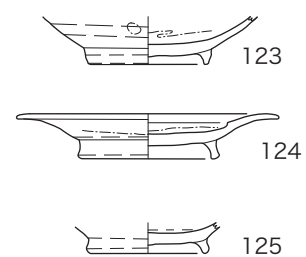
08Ab 区 K 層 (118)



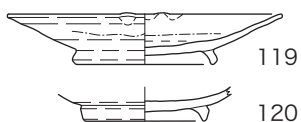
08Ab 区 I 層 (121・122)



08Ab 区 B 層 (123~125)



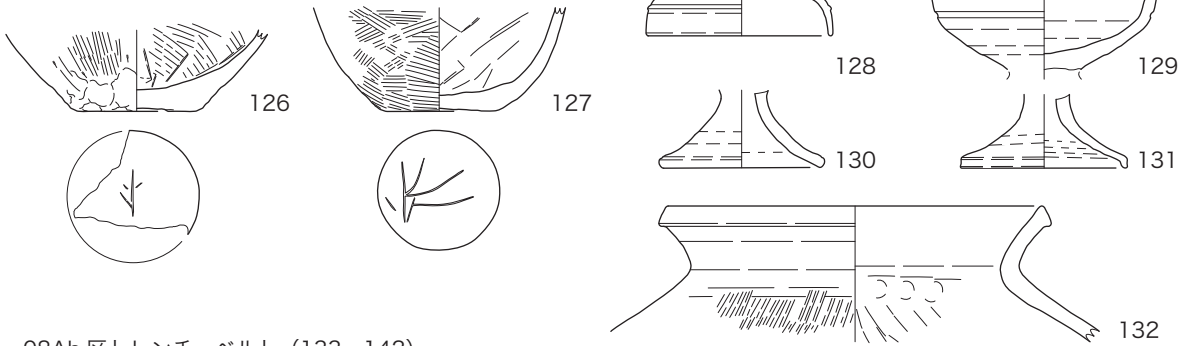
08Ab 区 J 層 (119・120)



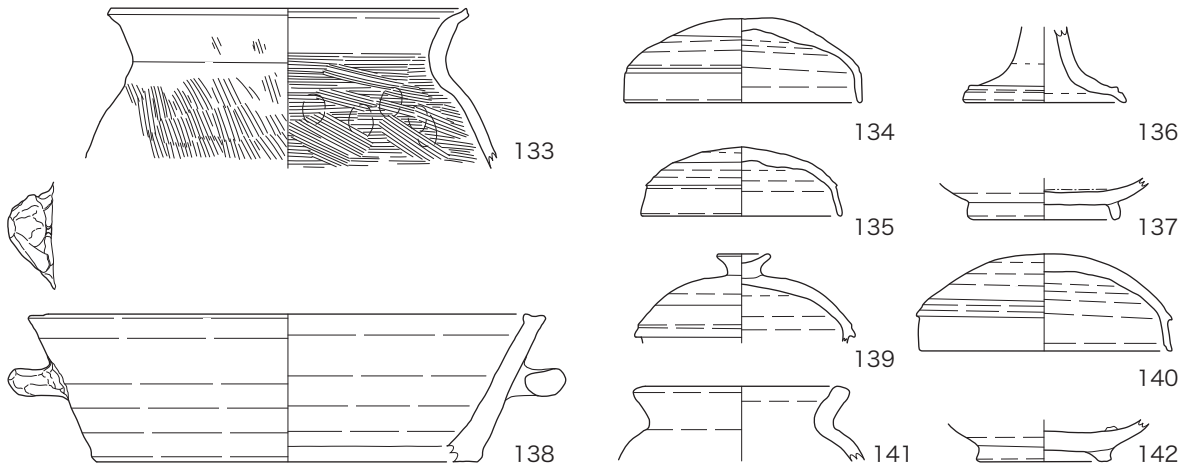
0 (1/4) 10cm

図 110 古墳時代から古代の土器 6

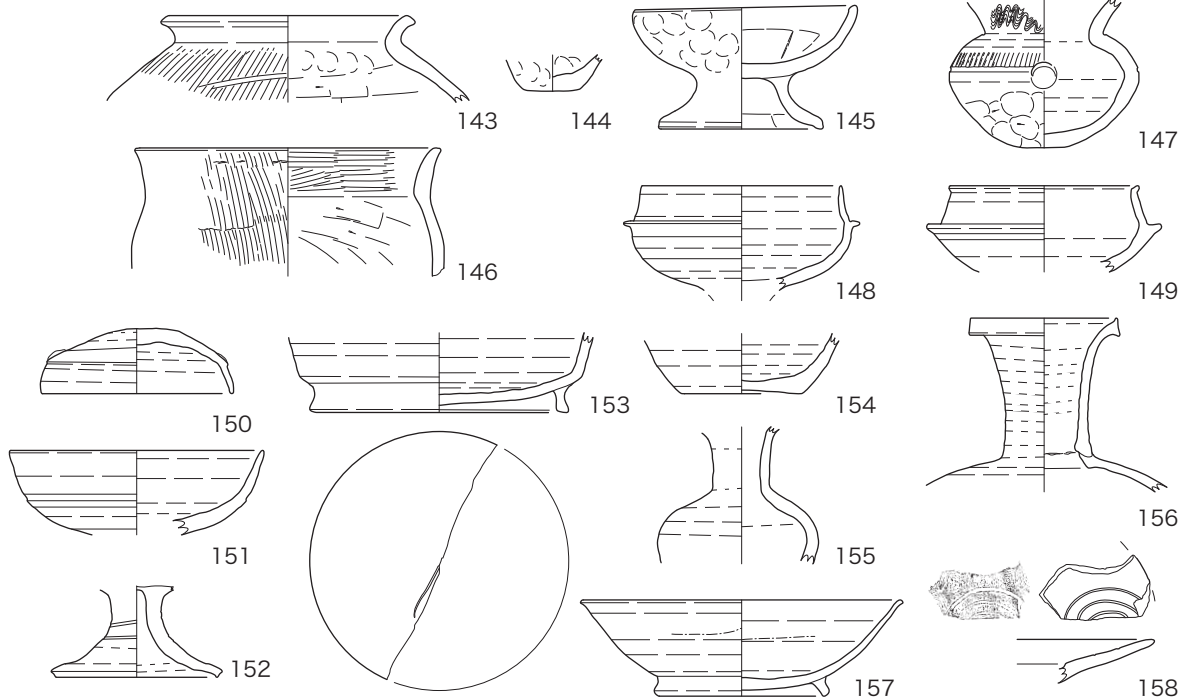
08Ab 区旧調査区 (126~132)



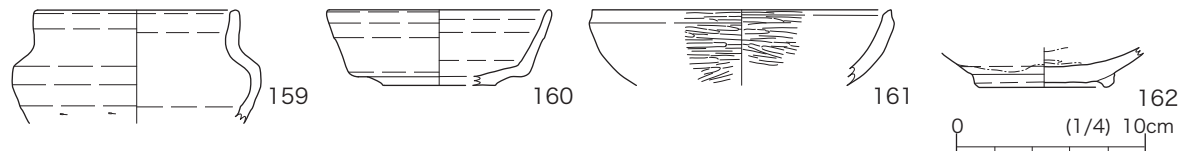
08Ab 区トレンチ・ベルト (133~142)



08Ab 区検出・表土 (143~158)



08Ab 区客土・攪乱 (159~162)



0 (1/4) 10cm

図 111 古墳時代から古代の土器 7

08B 区 2024SI (163~191)

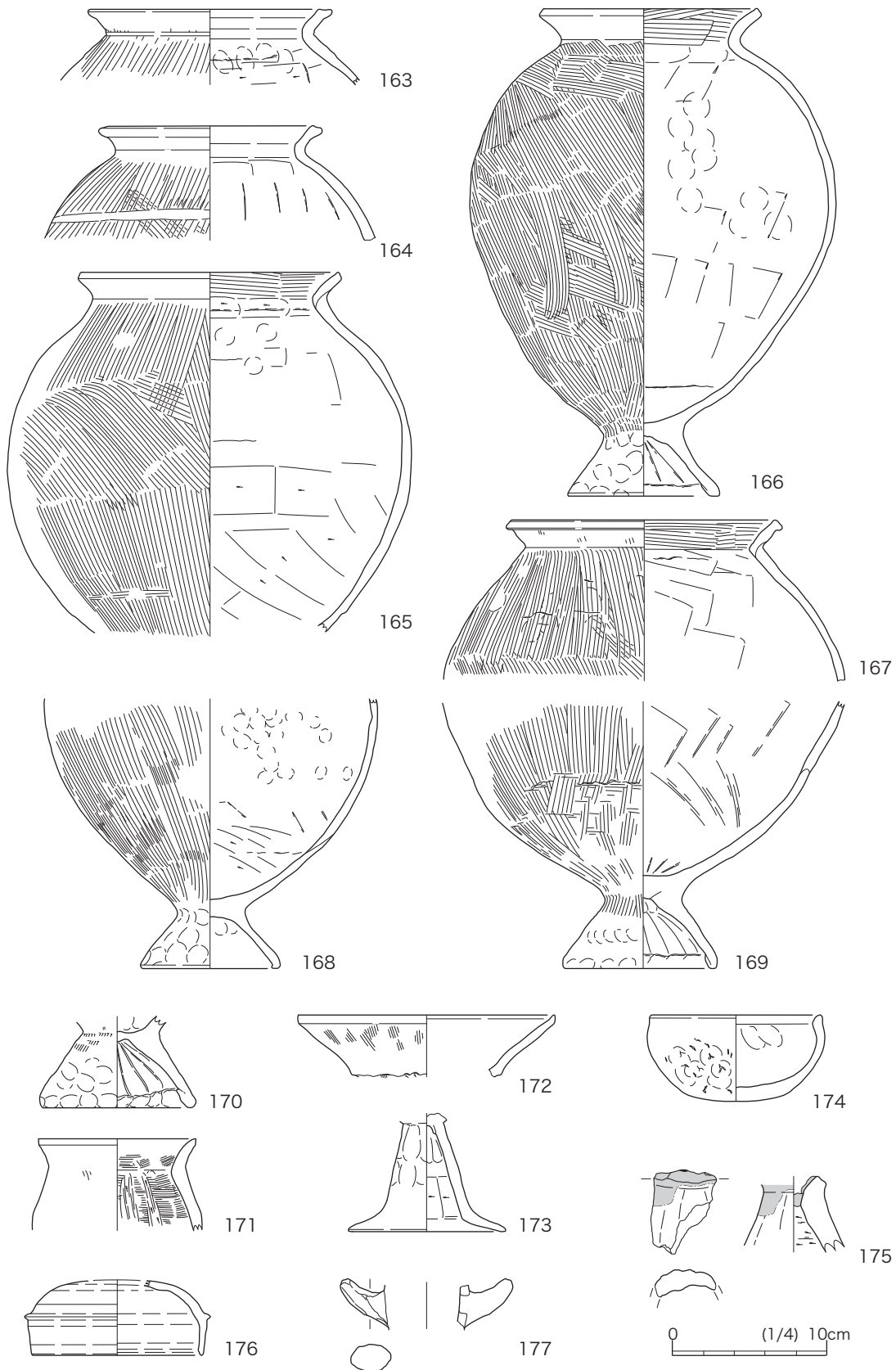


図 112 古墳時代から古代の土器 8

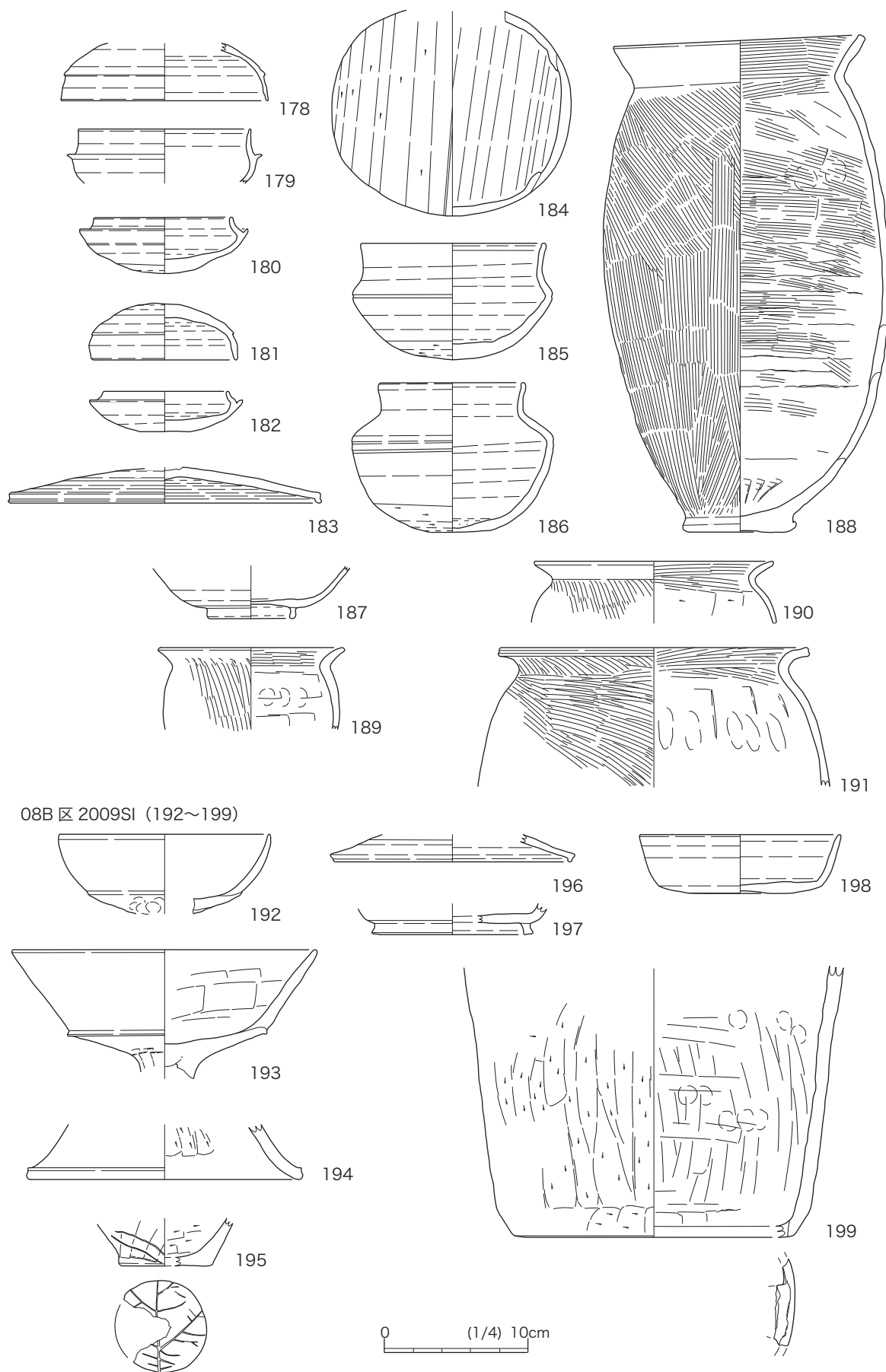
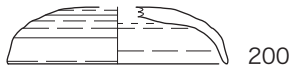


図 113 古墳時代から古代の土器 9

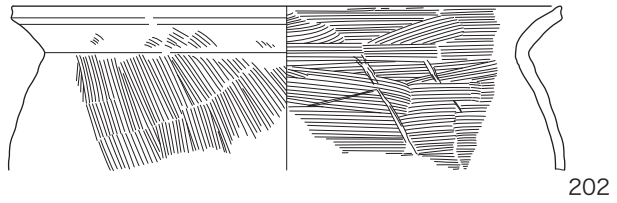
08B 区 2025SI (200~202)



200

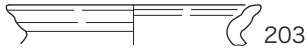


201

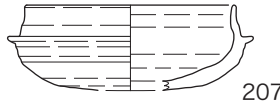


202

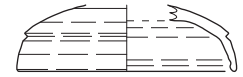
08B 区 2028SI (203~218)



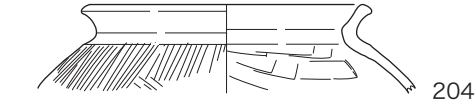
203



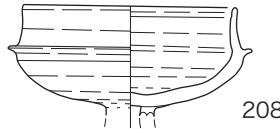
207



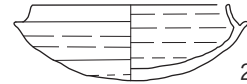
210



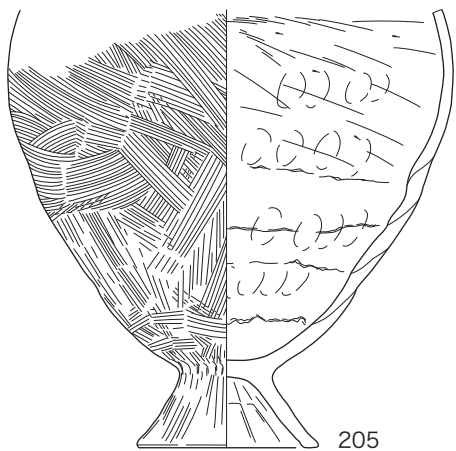
204



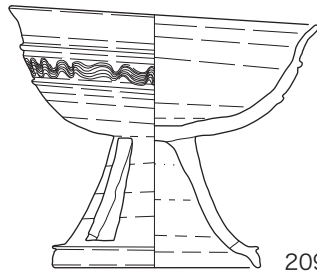
208



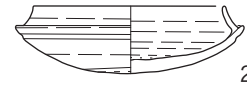
211



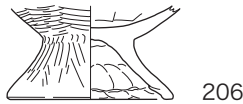
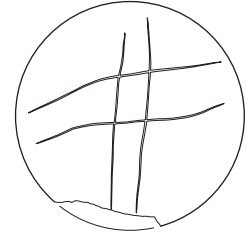
205



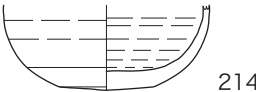
209



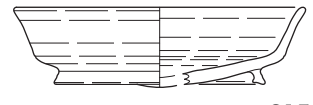
212



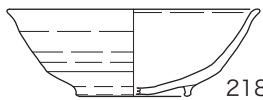
206



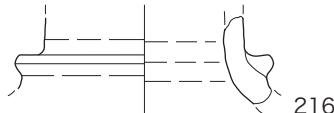
214



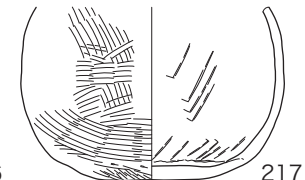
215



218

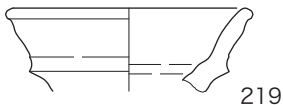


216

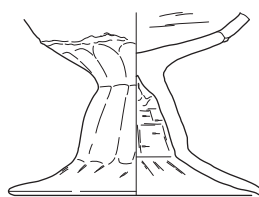


217

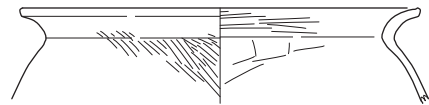
08B 区 2030SI (219~227)



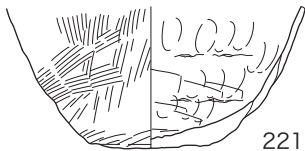
219



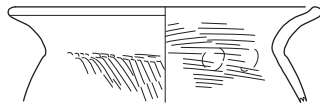
220



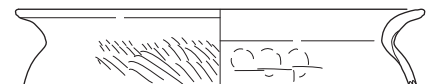
223



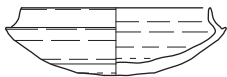
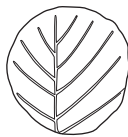
221



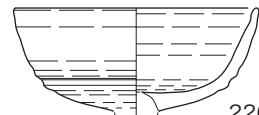
222



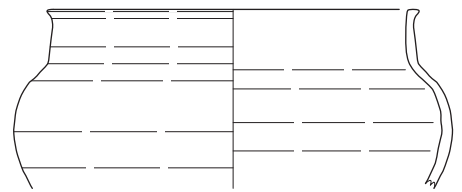
224



225



226



227

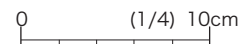
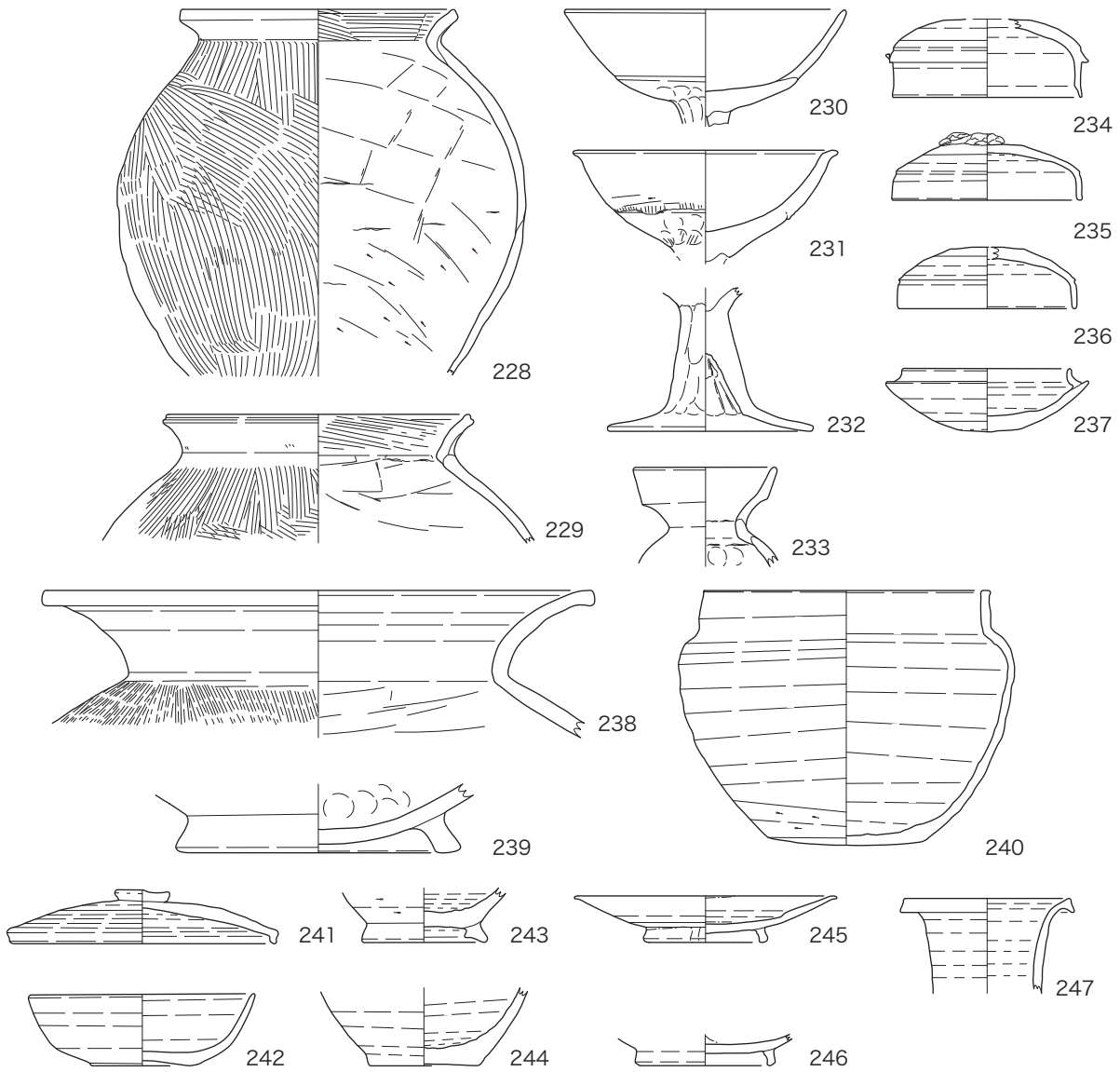
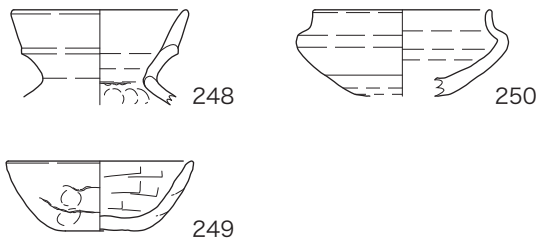


図 114 古墳時代から古代の土器 10

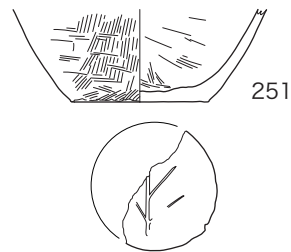
08B区 2041SI (228~247)



08B区 2033SI (248~250)



08B区 2029SI (251)



08B区 2039SI (252・253)

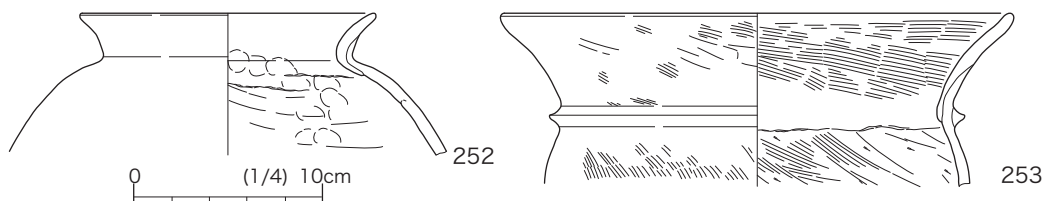
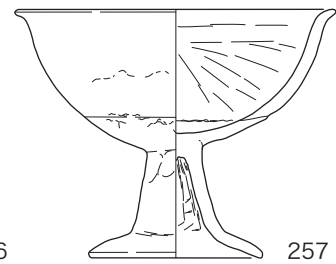
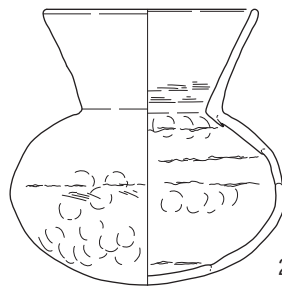
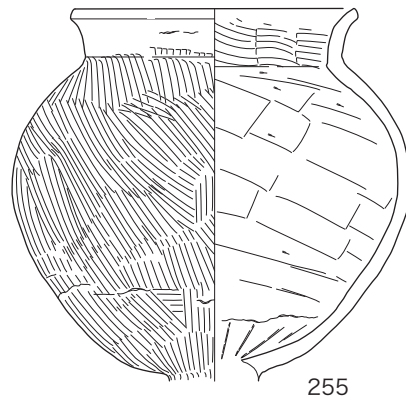
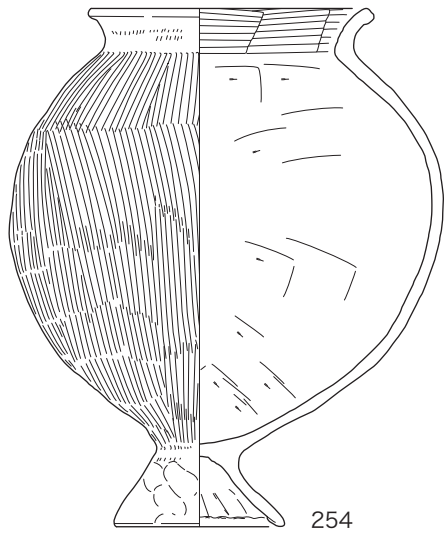
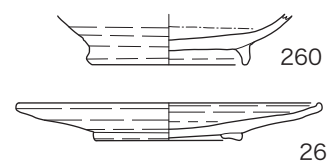
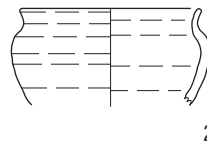
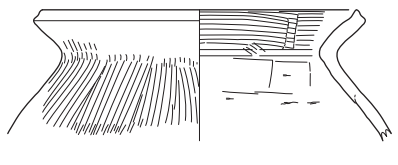


図 115 古墳時代から古代の土器 11

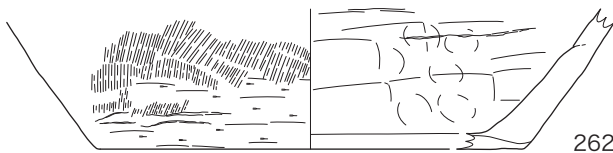
08B 区 2043SI (254~256)



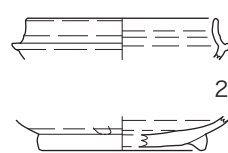
08B 区 2005SD (258~261)



08B 区 2019SD (262)



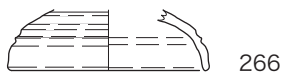
08B 区 2006SD (263・264)



08B 区 2007SD (265)



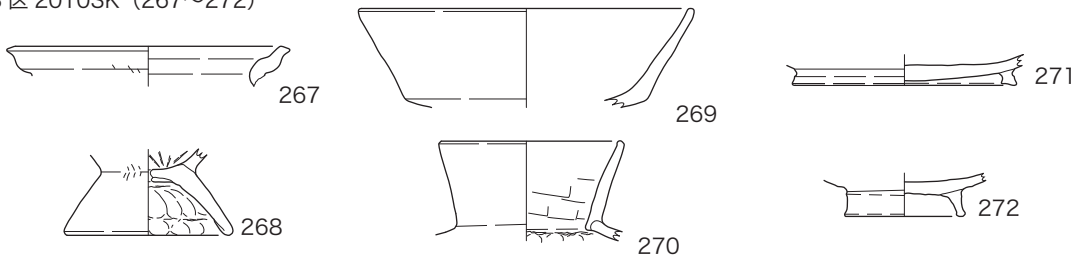
08B 区 2015SP (266)



0 (1/4) 10cm

図 116 古墳時代から古代の土器 12

08B 区 2010SK (267~272)



08B 区 2020SK (273~288)

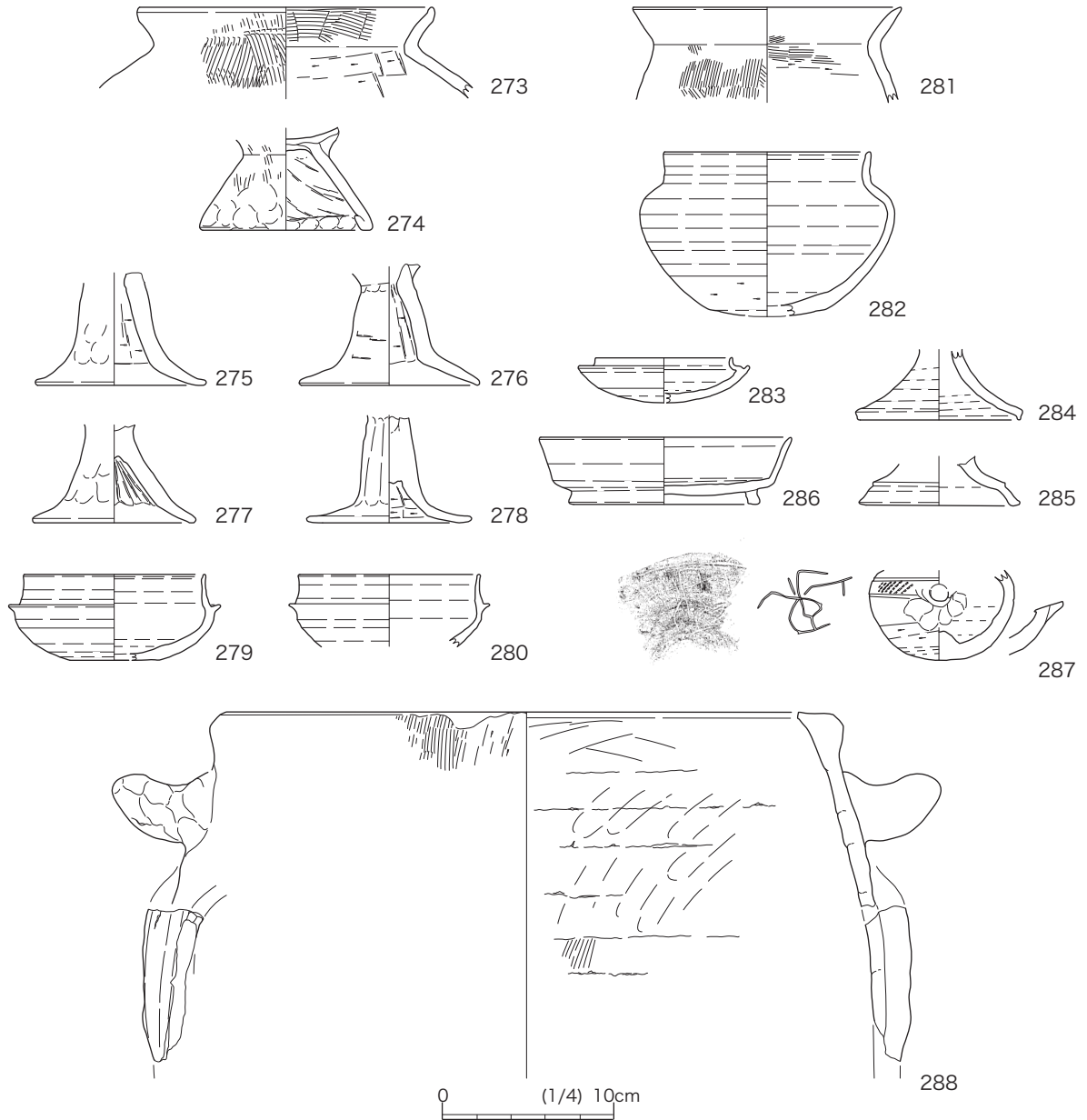
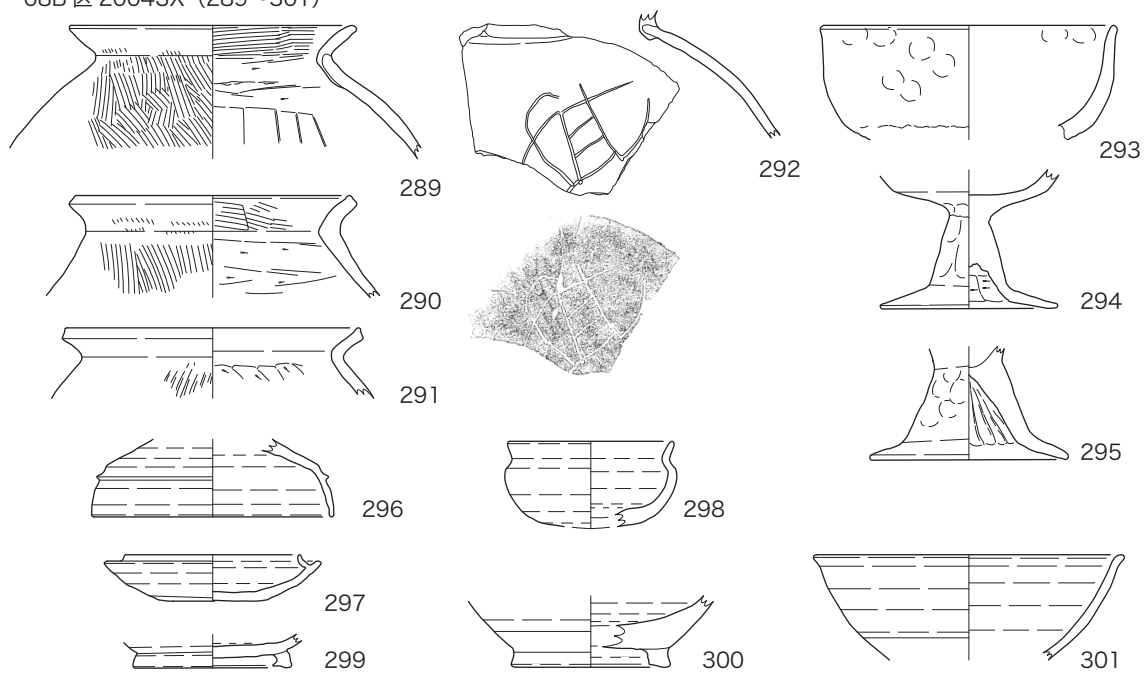
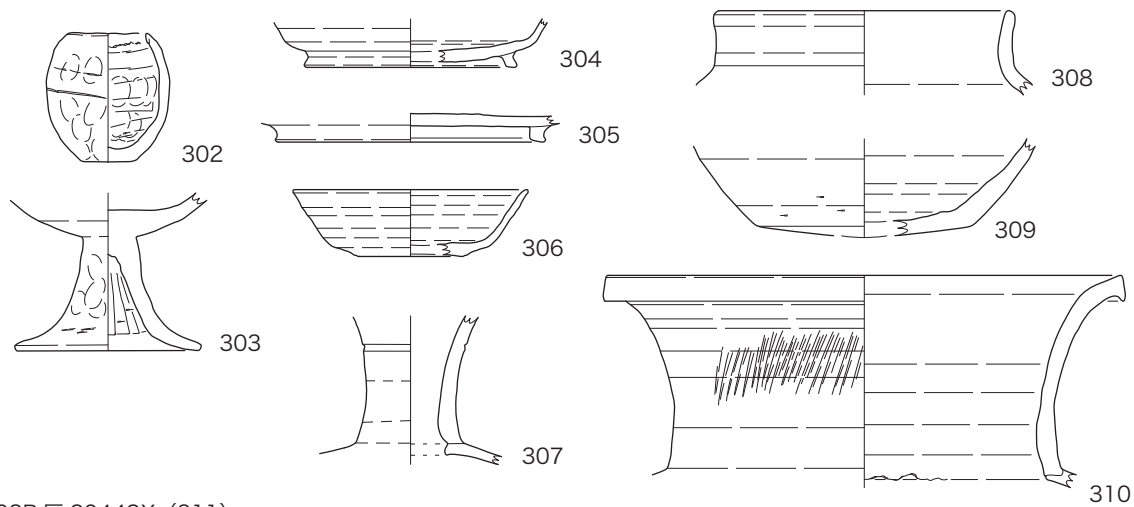


図 117 古墳時代から古代の土器 13

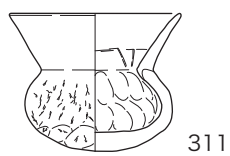
08B区 2004SX (289~301)



08B区 2022SX (302~310)



08B区 2044SX (311)



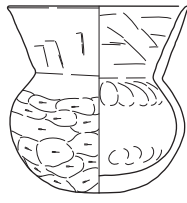
0 (1/4) 10cm

図 118 古墳時代から古代の土器 14

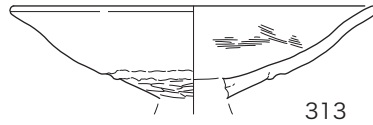
08B区O-2層 (312~314)

08B区O-1層 (315・316)

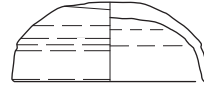
08B区基盤層上 (317)



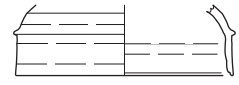
312



313



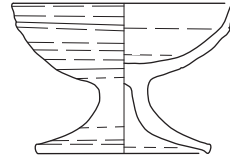
315



317

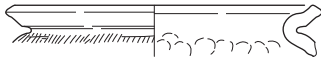


314

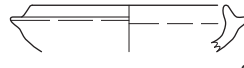


316

08B区I-3・4層 (318~331)



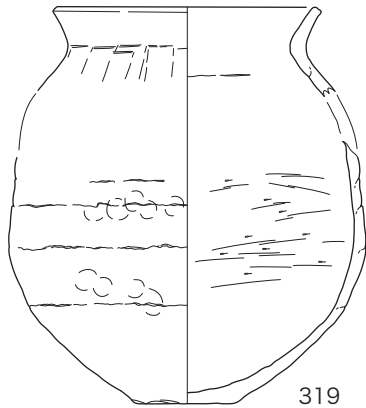
318



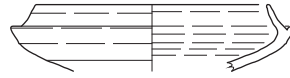
320



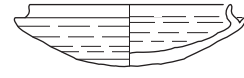
321



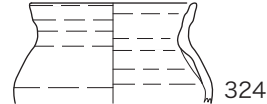
319



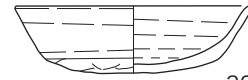
322



323



324



325



326



327



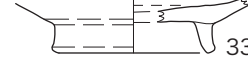
328



329

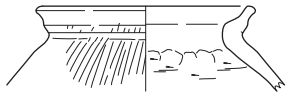


330

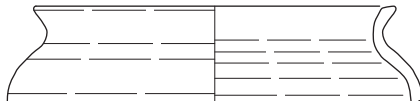


331

08B区I-2層 (332~335)



332

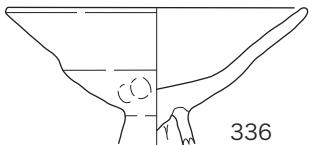


333

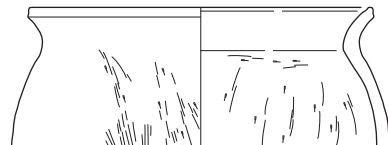


334

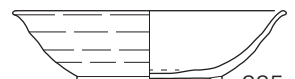
08B区I-1層 (336~349)



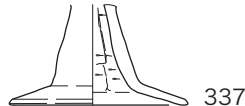
336



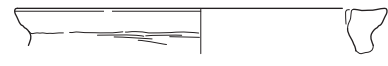
338



335



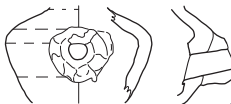
337



339



340



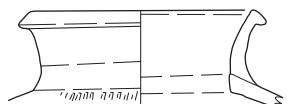
341



342



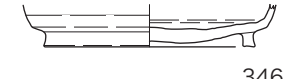
345



343



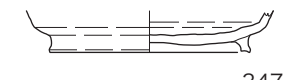
344



346



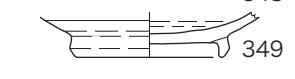
344



347



348



349

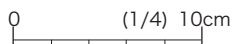
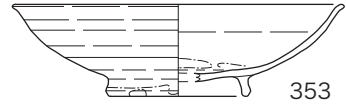
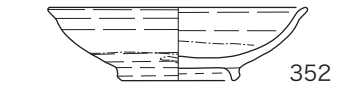
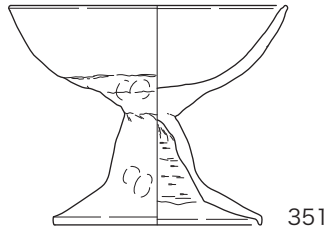


図 119 古墳時代から古代の土器 15

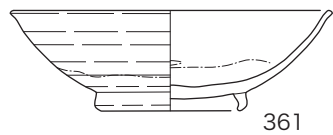
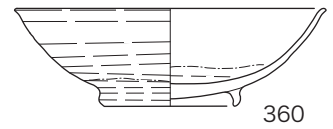
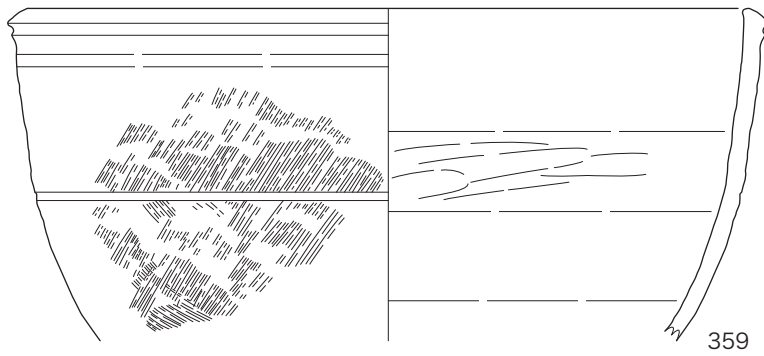
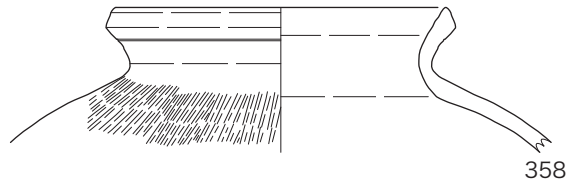
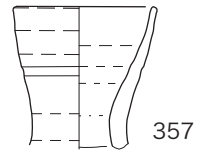
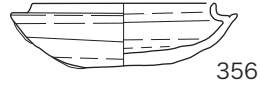
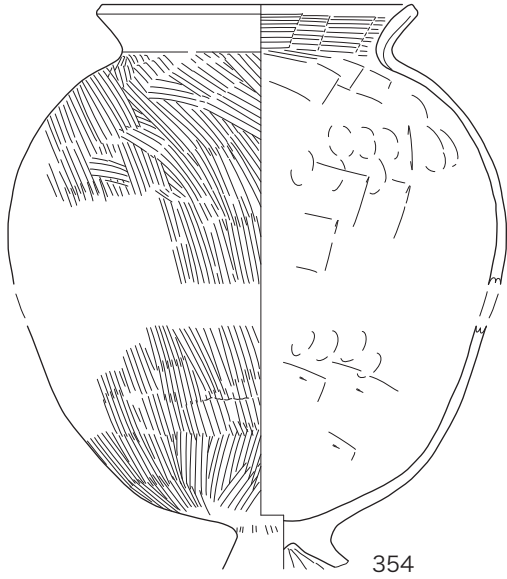
08B 区H-3 層 (350)



08B 区H-2 層 (351~353)



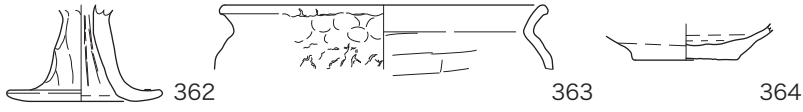
08B 区H-1 層 (354~361)



0 (1/4) 10cm

図 120 古墳時代から古代の土器 16

08B区G層 (362~364)



08B区F層 (365~390)

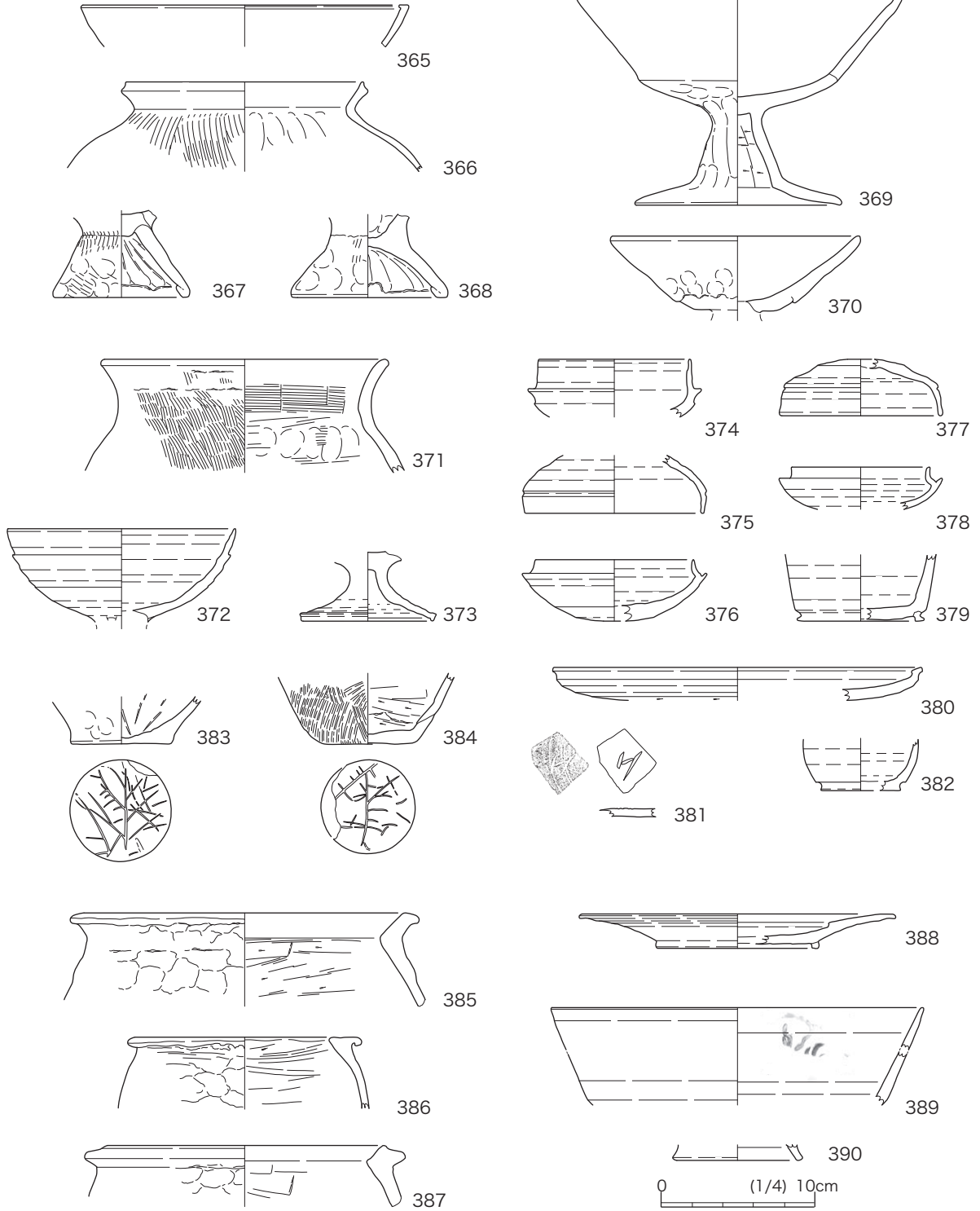
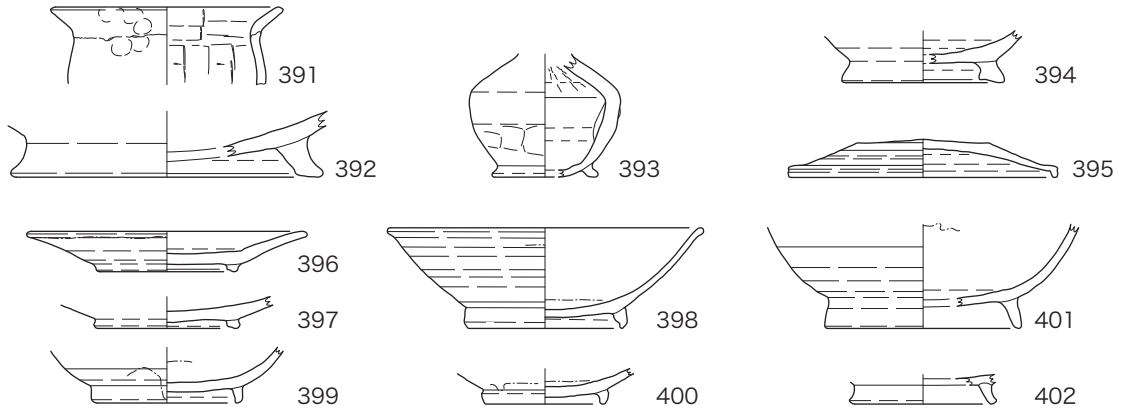
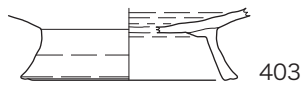


図 121 古墳時代から古代の土器 17

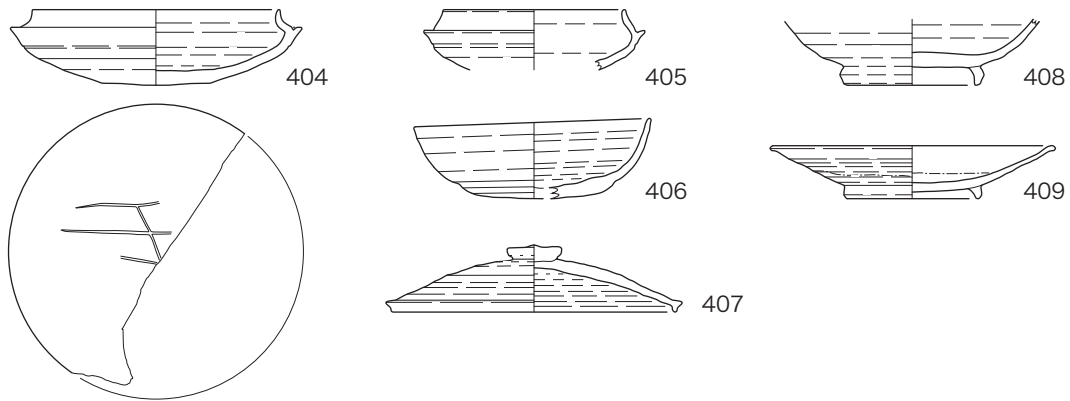
08B区B層 (391~402)



08B区A層 (403)



08B区検出3・検出4 (404~409)



08B区検出1・検出2 (410~418)

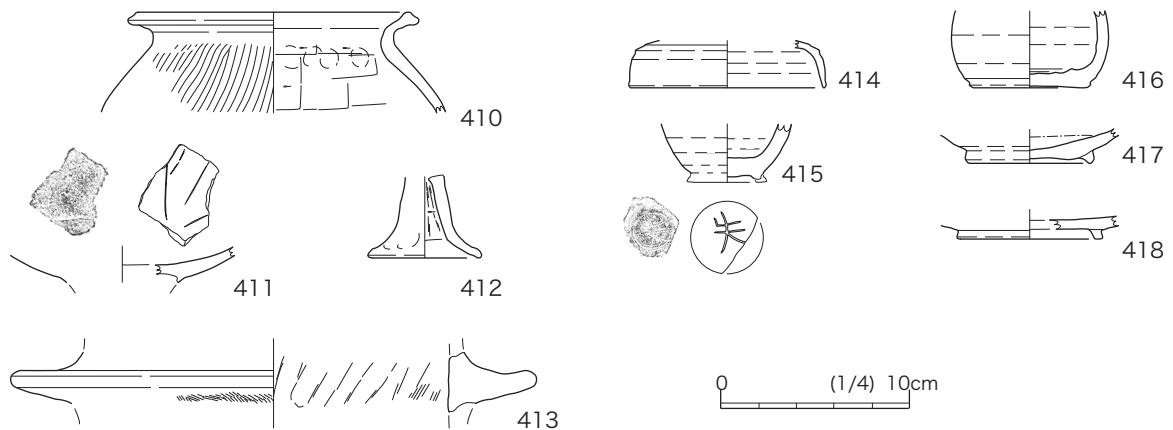
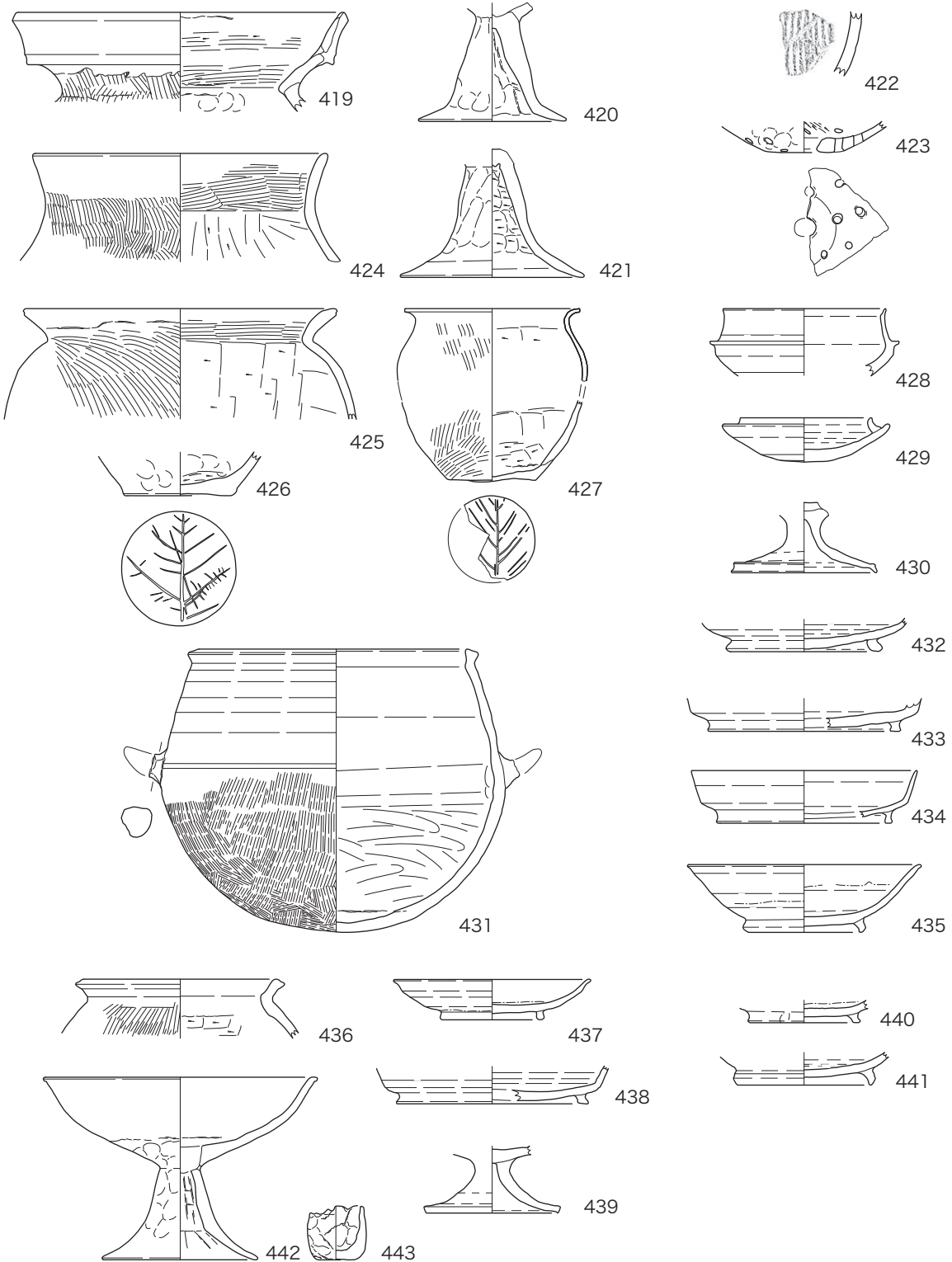


図 122 古墳時代から古代の土器 18

08B 区ベルト・トレンチ (419~443)



08B 区旧調査区 (444~446)

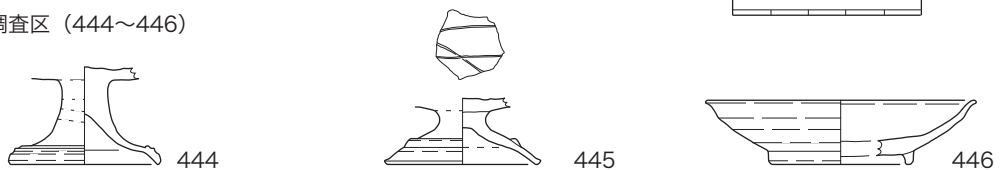


図 123 古墳時代から古代の土器 19

08B 区客土・攪乱 (447~484)

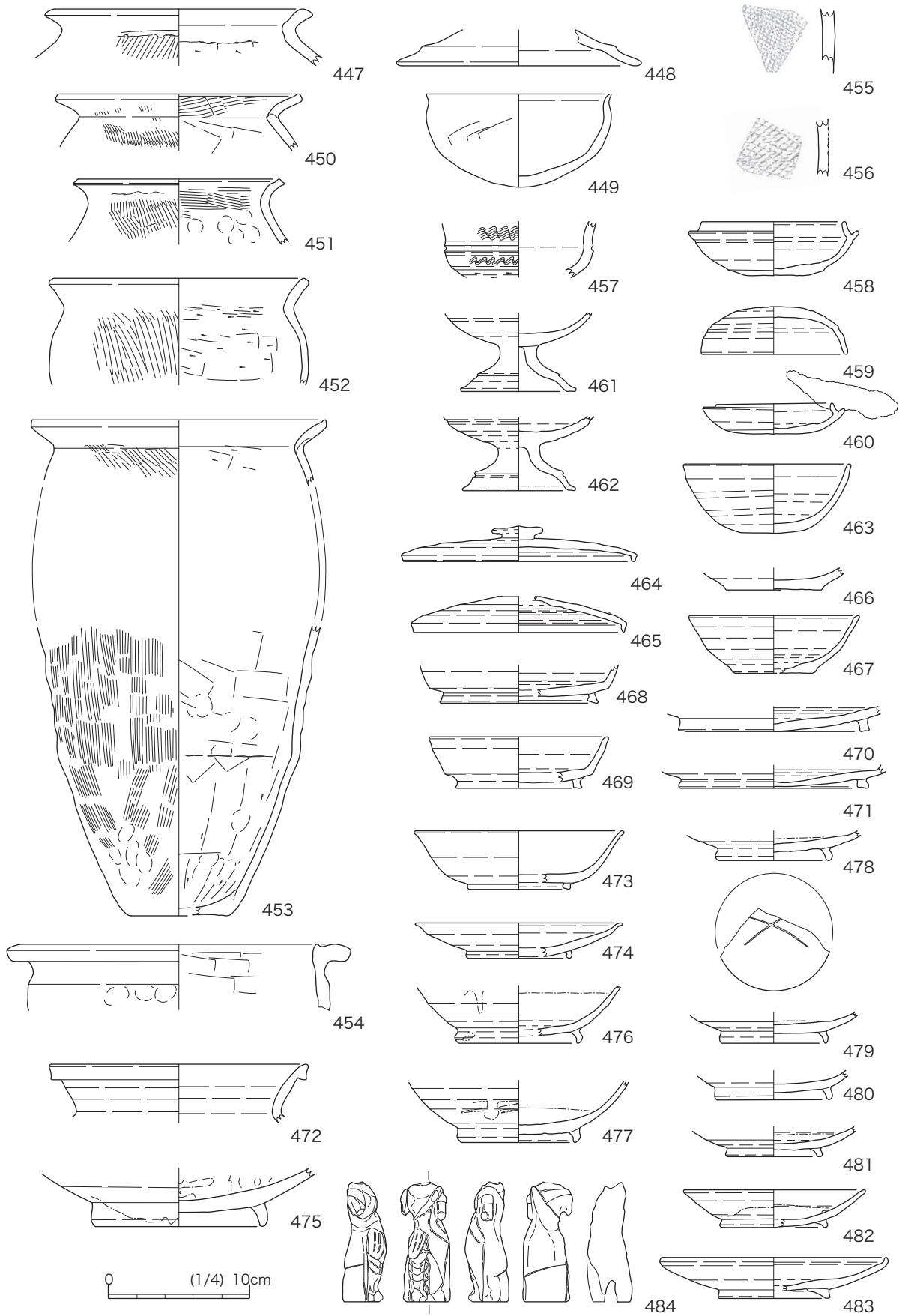
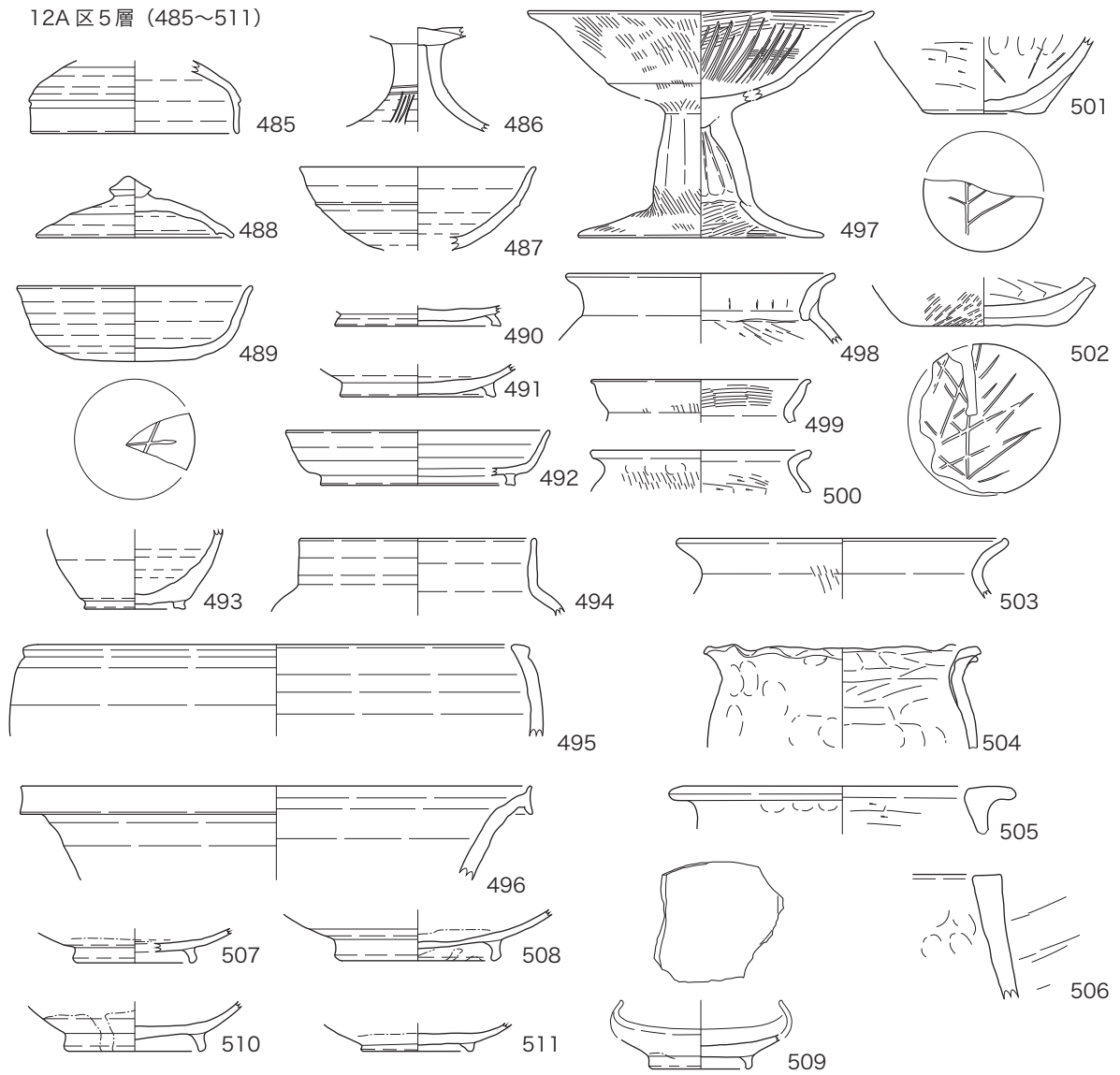
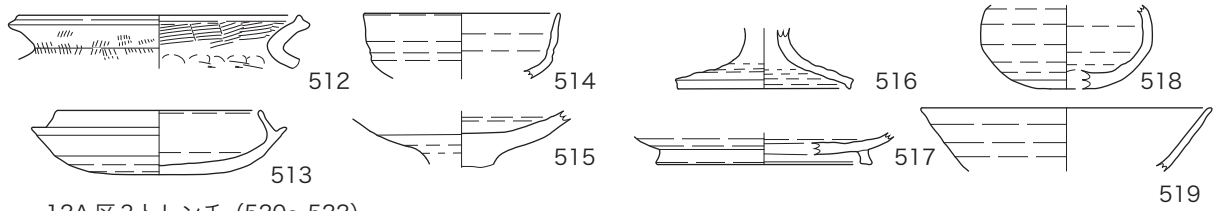


図 124 古墳時代から古代の土器 20

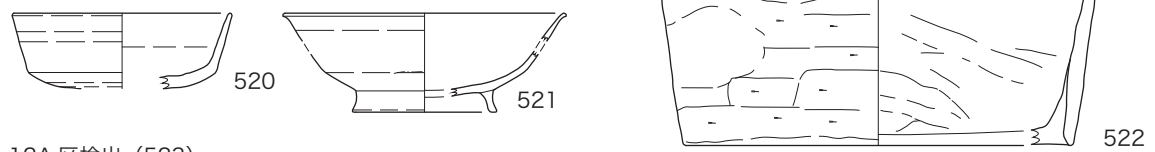
12A区5層 (485~511)



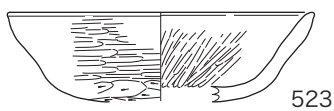
12A区3層 (512~519)



12A区3トレンチ (520~522)



12A区検出 (523)



0 (1/4) 10cm

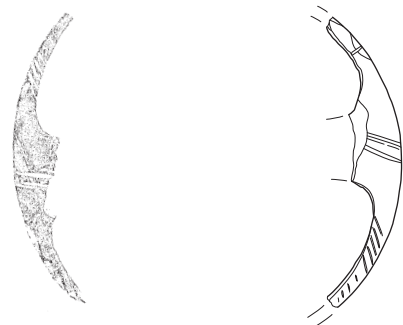
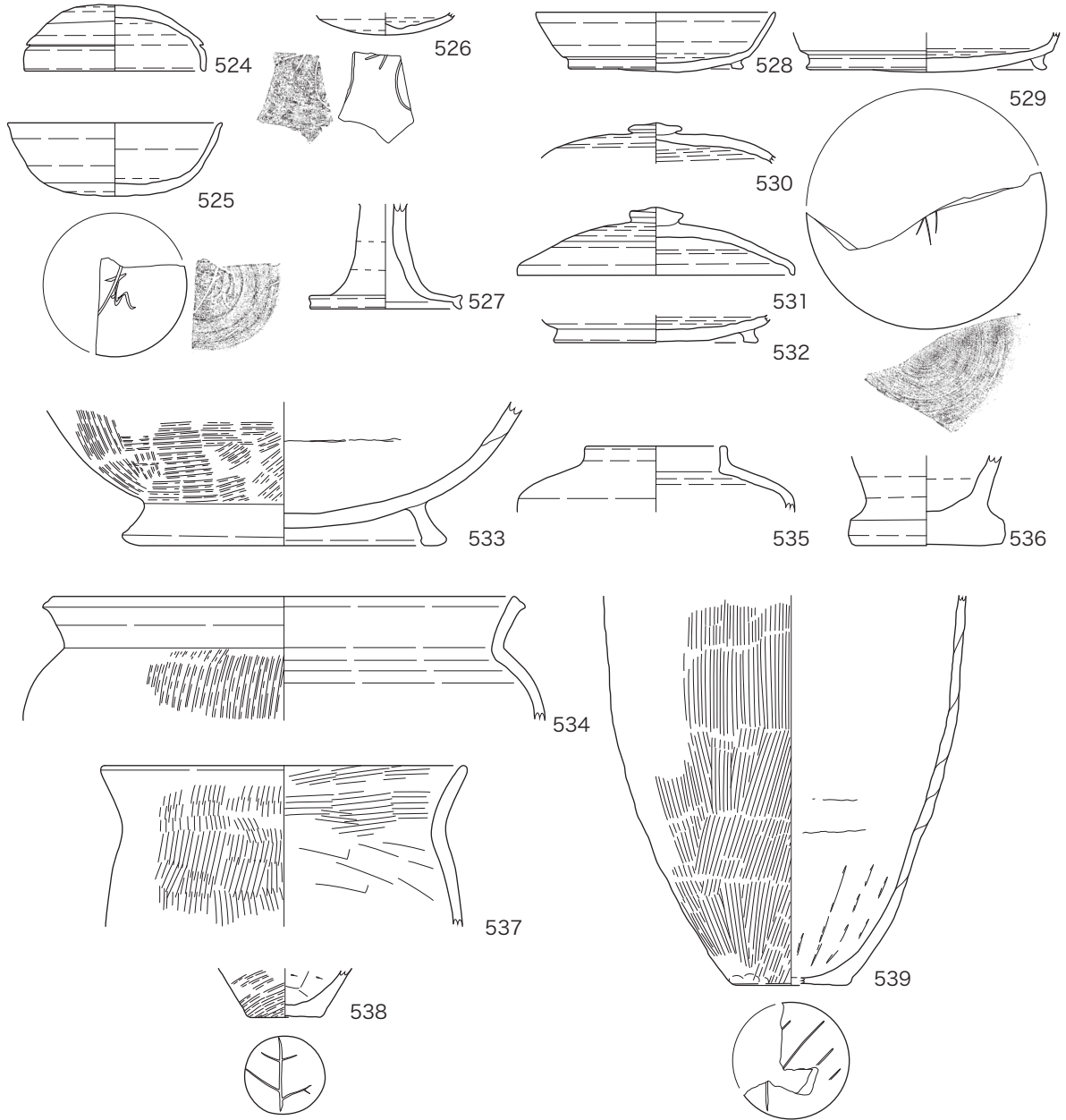


図 125 古墳時代から古代の土器 21

12B 区 090SK (524~539)



12B 区 089SU (540~542)

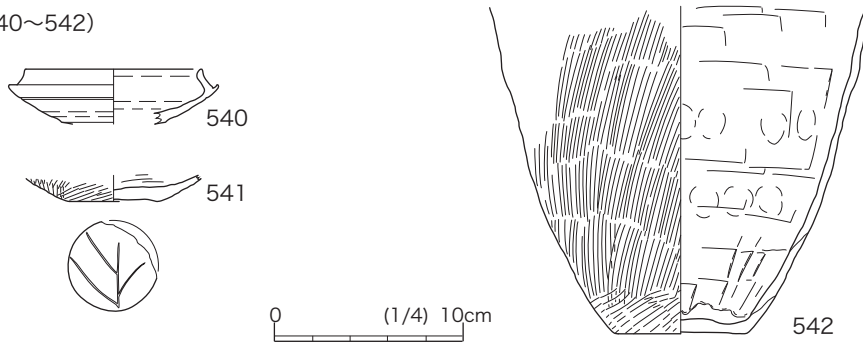
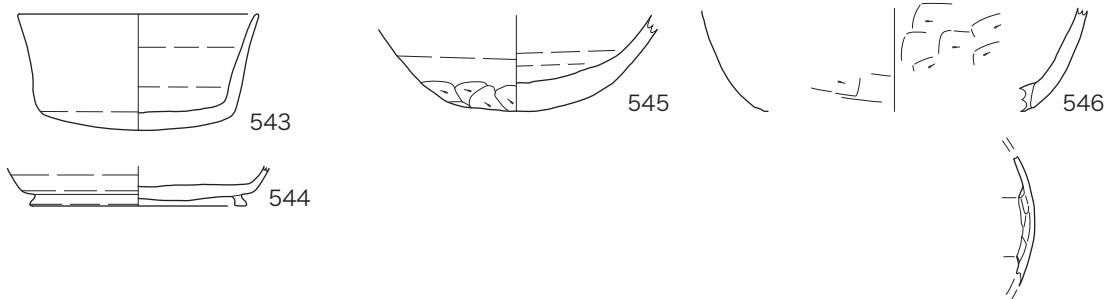
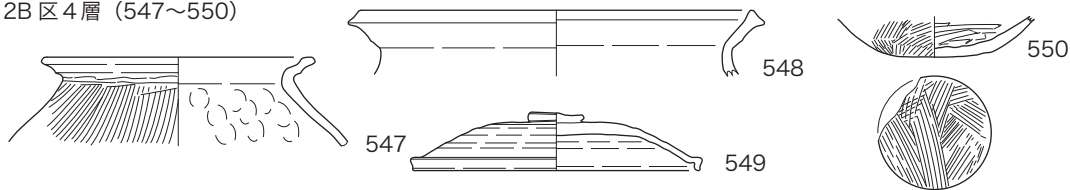


図 126 古墳時代から古代の土器 22

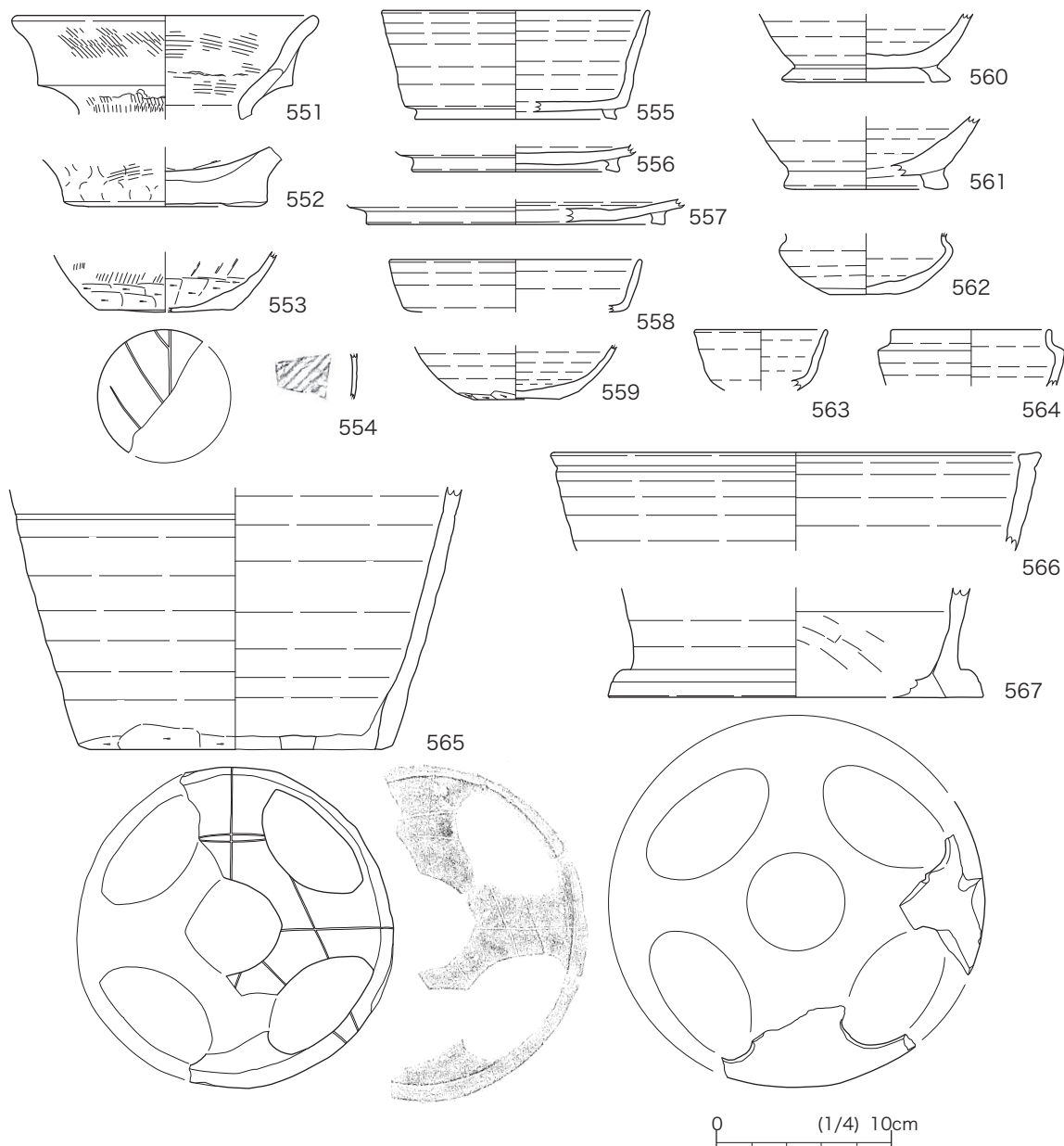
12B区5層 (543~546)



12B区4層 (547~550)

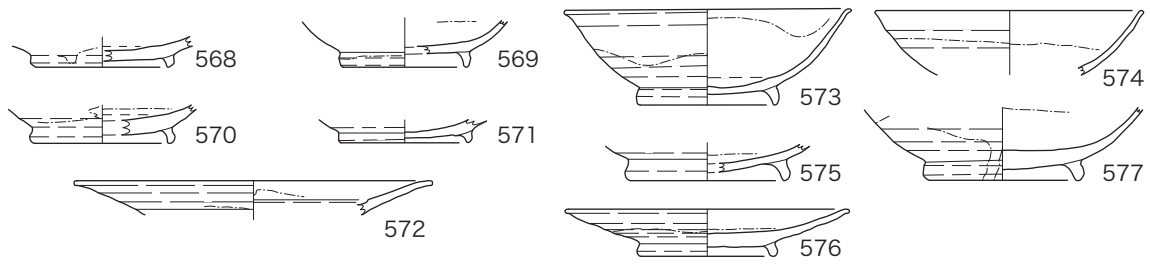


12B区3層 (551~576)

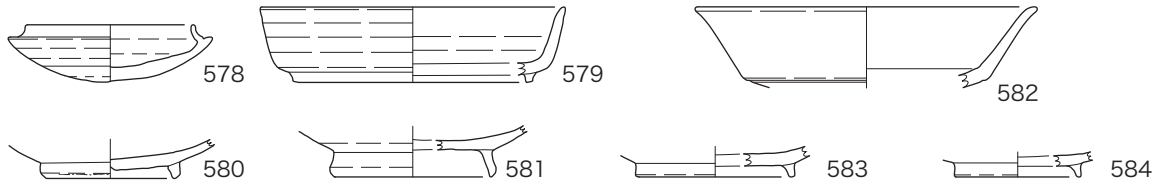


0 (1/4) 10cm

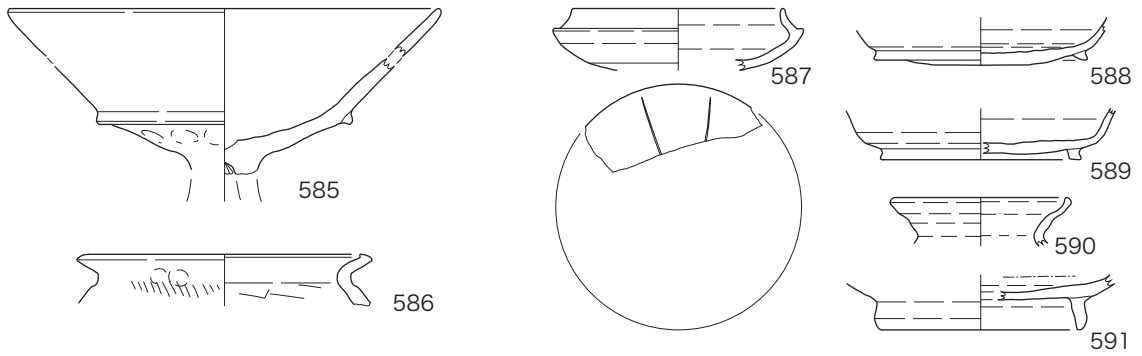
図 127 古墳時代から古代の土器 23



12B 区トレンチ (578~584)



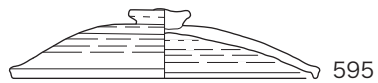
12B 区検出・攪乱 (585~591)



12C 区4層 (592~594)



12C 区3層 (595)



12C 区攪乱 (596)

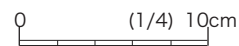
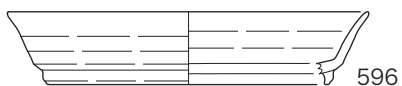
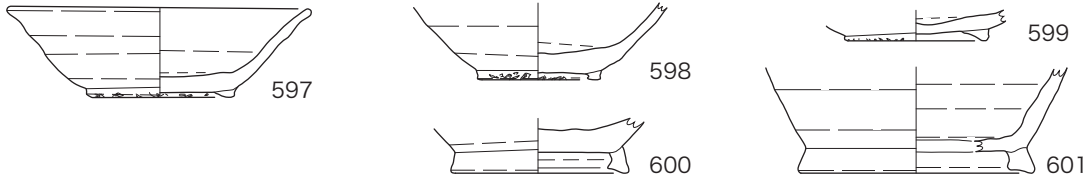
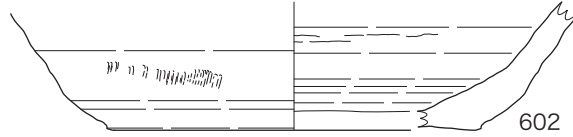


図 128 古墳時代から古代の土器 24

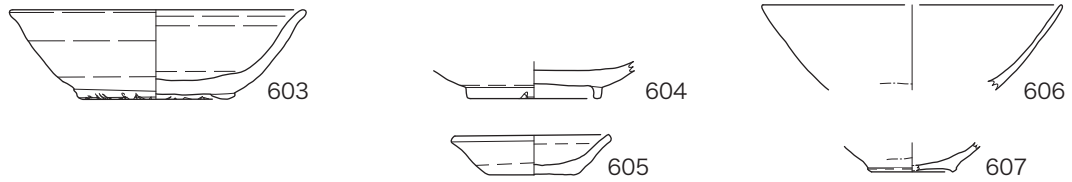
08Aa 区 (597~601)



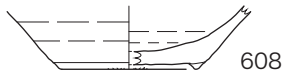
08Ab 区 (602)



08B 区 (603~607)



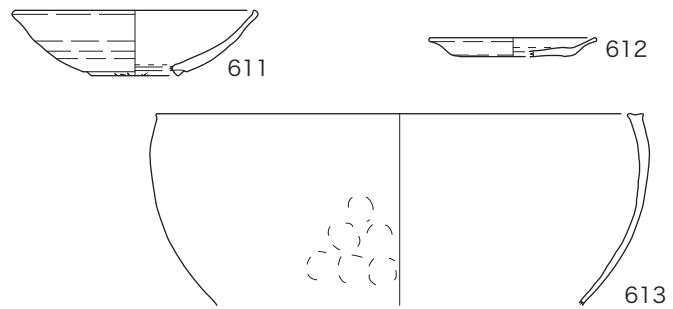
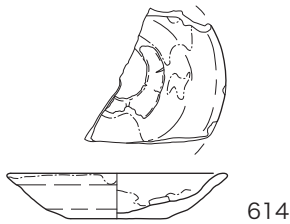
12A 区 (608)



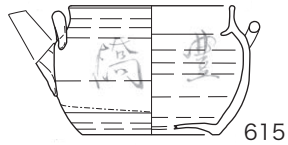
12B 区 (609~613)



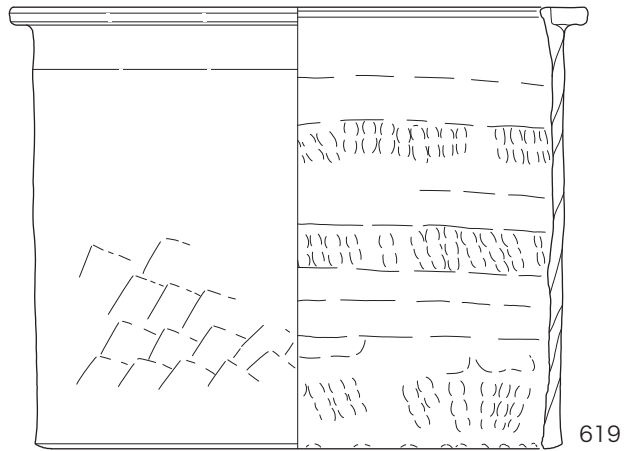
12C 区 (614)



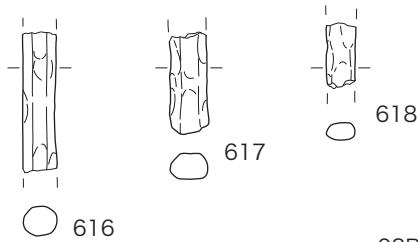
08Aa 区 (615)



08Aa 区 (619)



12A 区 (616~618)



08B 区 (620)

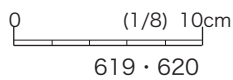
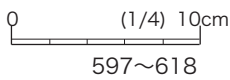
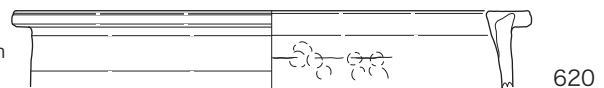
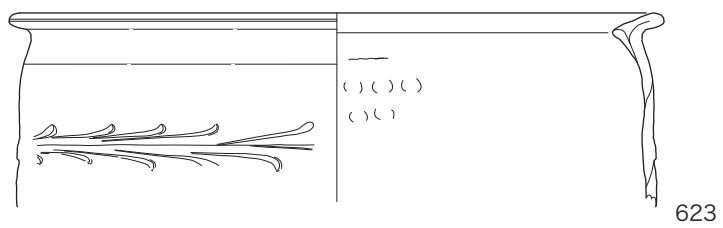
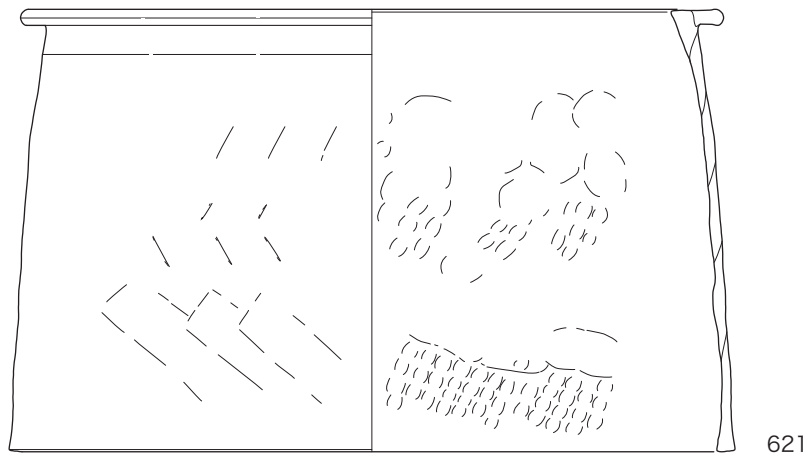


図 129 中世以降の土器・陶磁器 1

12A区 (621~623)



12C区 (624)

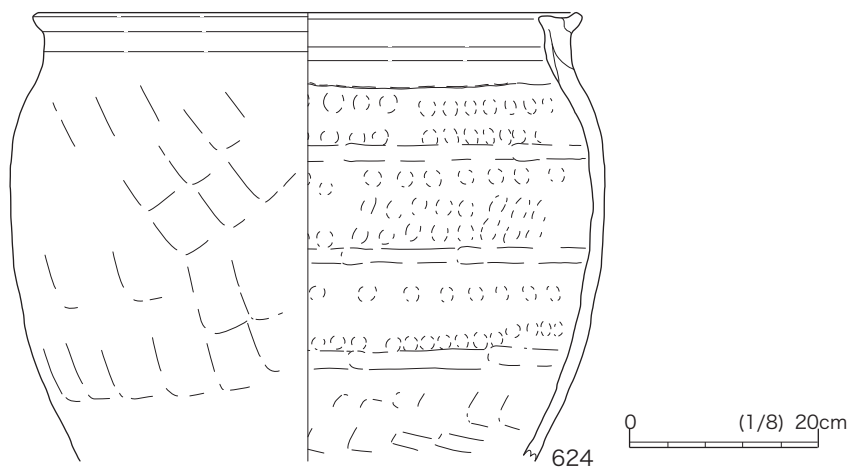


図 130 中世以降の土器・陶磁器 2

3. 中世以降の土器・陶磁器

世の尾張型山茶碗 (597～599)、古瀬戸四耳壺 (600・601)、08Ab 区から中世の常滑産甕 (602)、08B 区から尾張型山茶碗 (603～605)、白磁碗 (606・607)、12A 区から尾張型山茶碗 (608)、12B 区から尾張型山茶碗 (609・610)、東濃型山茶碗 (611・612)、半球形の内耳鍋 (613)、12C 区から古瀬戸縁釉小皿 (614) が出土している。

近世以降の土器・陶磁器として、08Aa 区から出土した汽車土瓶 (615)、12A 区から出土した窯道具のトチン (616～618) に加えて、井戸側として利用された常滑産陶器 (619～624) が出土している。

4. 脚台式製塩土器

脚台式製塩土器については、過去に松崎遺跡・上浜田遺跡において出土した個体を含めて分類し、一定の評価を示した (早野 2013)。以下の記述もそれに依拠する。

脚台式製塩土器を法量、胎土・色調、焼成等によって、「松崎A類」、「松崎B類」、「松崎C類」に分類する。

脚台式製塩土器に類似した土器 (625～627)

製塩土器として認定するのは困難であるが、脚台式製塩土器に類似する、またはそれとの関連が推測される土器を3点抽出、図化した。625は脚部がやや低く直線的に開く (脚台I式にも類似する) 脚台で、外面に右上がりの粗い叩きを施す。脚端部も叩き工具で整えられ、明確なヨコナデを欠く。製塩土器としての使用痕跡は認められない一方、類似した器形の土器も管見に及ばない。帰属時期、系譜等も不明であるが、製塩土器製作を

応用して製作した台付甕の可能性がある。

626、627は低い脚台を付した (脚台II式または脚台III式に類似する) 鉢状の器形の土器であるが、体部の器壁は厚い。626は体部下半に叩き調整がわずかに確認される。なお、626は後述の松崎B類に混在して出土した。

松崎A類 (628～631)

淡橙色から橙色を呈し、焼成はやや軟質である。砂粒がわずかに混入する。7点 (628～631) を抽出、図化した。脚台の法量から脚径7cm前後のA1類 (628～631)、脚径6cm前後のA2類 (632～634) に細分される。既出の個体を含めた計測値はA1類 (6点) が脚径7.2～7.4cm (平均7.3cm)、脚高0.6～1.0cm (平均0.8cm)、最小径4.2～5.6cm (平均5.0cm)、A2類 (7点) が脚径5.4～6.6cm (平均6.1cm)、脚高0.6～1.6cm (平均1.3cm)、最小径3.4～4.0cm (平均3.7cm) である。A1類は杯底部が平坦なものが多く、A2類は脚端部を内面に折り返すものが多い。

松崎B類 (635～639)

今回の調査において新たに抽出した脚台式製塩土器で、黄橙色を呈し、堅緻に焼成されるが、いずれも脚台下半に黒斑を生じている。5点 (635～639) を抽出、図化した。脚径4.5cm前後で、5点の計測値は脚径4.1～4.8cm (平均4.5cm)、脚高1.9cm (平均1.9cm)、最小径3.8～4.1cm (平均4.0cm) である。A類と比較して脚径は小さいが、脚高が大きい。

松崎C類 (640～648)

既定の「松崎類」に対応する脚台式製塩土器で、赤褐色から褐色を呈する。堅緻に焼成され、黒斑はほとんど認められない。9点 (640～648) を抽出、図化した。脚径3～4cm前後で、既

出の個体を含めた25点の計測値は脚径3.0～4.4cm(平均3.7cm)、脚高0.0～0.9cm(平均0.4cm)、最小径2.2～3.4cm(平均2.6cm)である。脚下端はいずれも押し広げられた状態か、つまみ出したままの状態、642、646など不整な円形を呈するものも多い。

知多式0類類似(649)

知多式0類に類似する胎土・色調、法量で、黄橙色を呈する。非常に堅緻に焼成される。脚下端は平坦で、わずかに内側に広げられる。法量は脚径5.6cm、脚高3.3cm、最小径3.6cmを計測する。なお、今回の調査において明確な知多式0類は抽出されなかった。

小結

脚台式製塩土器の編年的位置については、先に大阪湾沿岸の脚台式製塩土器、渥美式製塩土器との対比を通じて、およそ松崎A類を廻間Ⅲ式、松崎B類を松河戸Ⅰ式からⅡ式、松崎C類を宇田式に対比した。しかし、松崎遺跡・上浜田遺跡は松河戸Ⅰ式2段階を上限としつつも、遺構・遺物が増加するのは松河戸Ⅱ式から宇田Ⅰ式以降であることは明らかで、松崎A類、松崎B類とした脚台式製塩土器のみ松河戸Ⅰ式以前の編年的位置を想定するのは不自然である。なお、松崎A類または渥美式AⅠ類と松崎B類は、能登半島の脚台式製塩土器(能登式製塩土器)とも類似することから、畠貝塚における出土状況、大阪湾脚台Ⅱ式・Ⅲ式との比較に加えて、能登半島の脚台式製塩土器(能登式製塩土器)との比較も踏まえつつ編年的位置を模索することも必要であろう。

能登半島の脚台式製塩土器も良好な出土状況には恵まれないが、七尾市小島西遺跡D区下層4層出土の脚台式製塩土器は、脚径6～7cmの一群を主体とし、漆町13群(松河戸Ⅱ式から宇田Ⅰ

式に併行)の土師器が対応する可能性が高いとされる。この一群の脚台式製塩土器と松崎A類の類似、松崎遺跡・上浜田遺跡の出土状況を重視すれば、松崎A類または渥美式AⅠ類が松河戸Ⅱ式から宇田Ⅰ式、松崎B類が宇田Ⅰ式、松崎C類(渥美式AⅡ類・AⅢ類)が宇田Ⅰ式から宇田Ⅱ式に対応する可能性も想定される。脚台式製塩土器の編年的位置と系譜にはなお不安定な側面が多いが、この問題については機会を改めて詳述したい。

各型式の脚台式製塩土器と知多式0類の分布は県センター08B・12A区北部から東海市教委Ⅰ区・Ⅵ区・Ⅶ区にかかる南北約80m、東西約20mの範囲、上浜田遺跡(東海市教委1998年調査区)の南北約20m、東西約20mの範囲、標高3.0m付近の微高地南西端に限定される。前者の分布域を松崎地区、後者を上浜田地区とすると、AⅠ類、AⅡ類、B類は松崎地区のみ、C0類と知多式0類は上浜田地区のみの10mから20m程度の範囲に、C類は両地区の30mから40m程度の範囲にまとまって分布する。また、脚台式製塩土器と松河戸式・宇田式の土師器(宇田型甕、高杯等)の分布は一致する傾向にあることも脚台式製塩土器の時期を判断する際に参考となる。

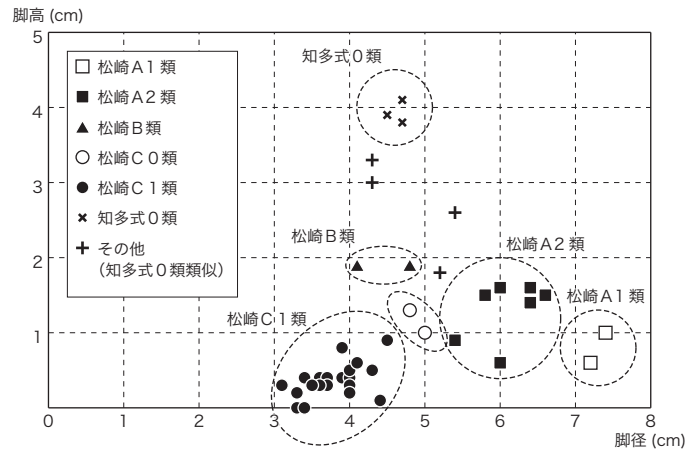


図 131 脚台式製塩土器法量散布図

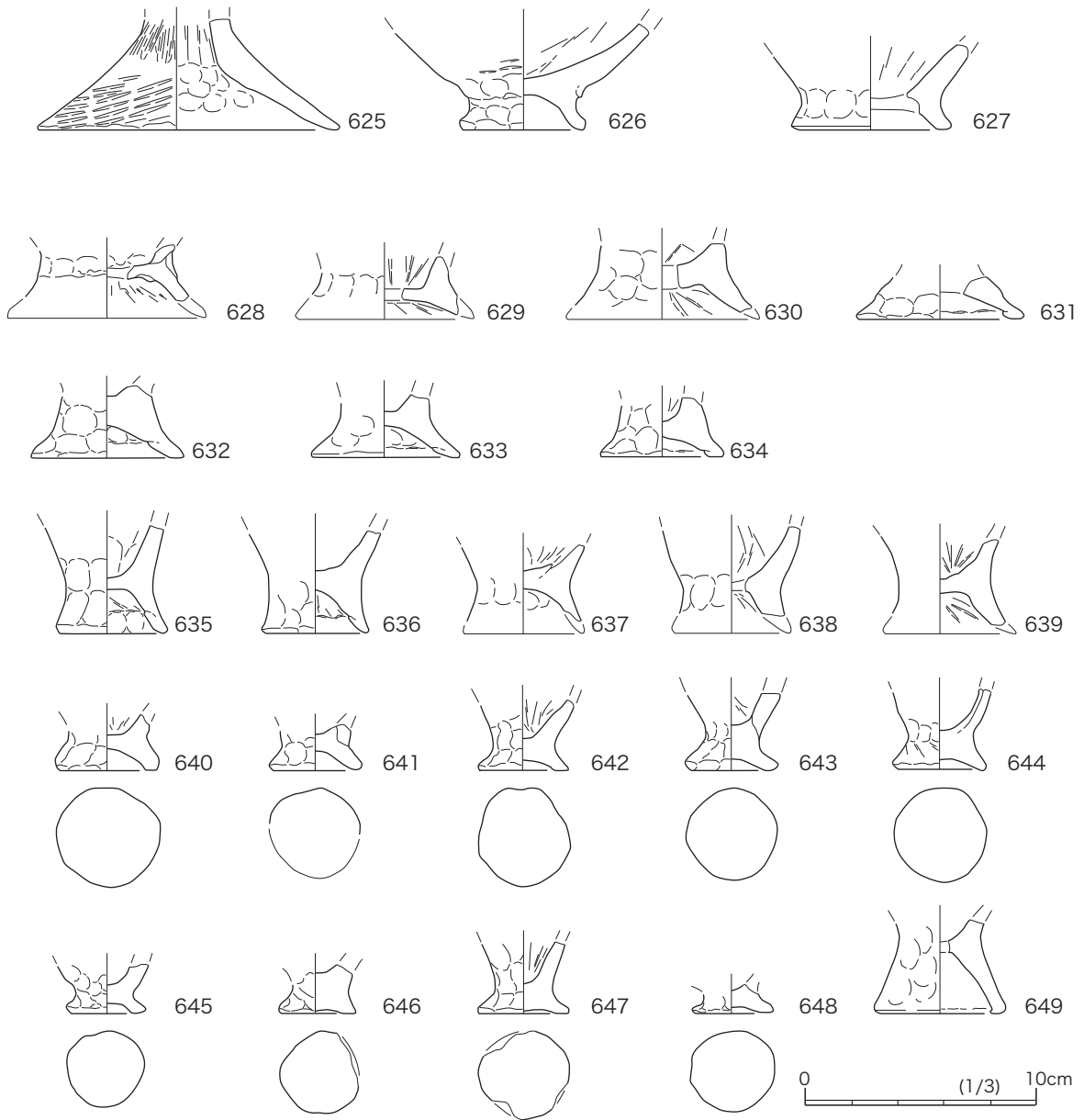


図 132 脚台式製塩土器

第3節 知多式製塩土器

1. 整理作業の手順

今回の松崎遺跡・上浜田遺跡からはおびただしい量の製塩土器が出土した。各調査区で出土した重量は、08Aa区で口縁胴部 78,327.3g・脚部 359,146.5g、08Ab区で口縁胴部 106,035.0g・脚部 343,982.8g、08B区で口縁胴部 9,662.1g・脚部 33,050.0g、12区全体で口縁胴部 14,346.2g・脚部 76,368.3gで、今回の調査総計では口縁胴部 208,370.6g・脚部 812,547.6gに至り、合わせて1トン以上の重量が出土したことになる。今回の出土資料からは、全形を窺い知る資料は認められず、すべてが破片資料であった。出土遺物の中で製塩土器を分類時に、まずは口縁部および胴部と脚部とに分けて、各グリッド・層や遺構別に重量を量った。その後、脚部のみについて取り上げて、1類から5類の大分類を行ない、出土点数を数えた。図84～86、および表6は、この段階で確認した出土点数一覧で、遺跡全体の出土傾向を見ることができる。脚部自体も全体の形状を窺い知る資料はその中でも限定的であった。その中から、計測など統計的

処理に耐えうる資料のみを抽出して、図133に示した部位の計測を行なった。但し、4類に関しては、先端まで残存している資料は極めて少ないことから、先端部が欠損していても径5mm以下であれば、脚部完存と見做し、計測資料として取り上げた。

2. 脚部の分類と分析

これまでの製塩土器の分類では、脚部法量による分類で、時期・時代差の指摘（立松1984など）や、全体（杯部）の法量を推定することが言われてきており（福岡編1991）、これが分類基準の要になることは現状も変わらない。しかし、報告者は、考古資料の分析において、素材獲得から、製作・使用・流通・廃棄（埋納）までを、一貫した分析として必要と考えている立場から、今回は、資料に残されている製作上の特徴に基づいた分類を行い、その上で、これまで行なわれてきた計測上の分析と重ね合わせる方針で分析を行なった。

そこで、先学の大分類を参考にしつつ、各大分類で認められる製作上の特徴で、分類することと

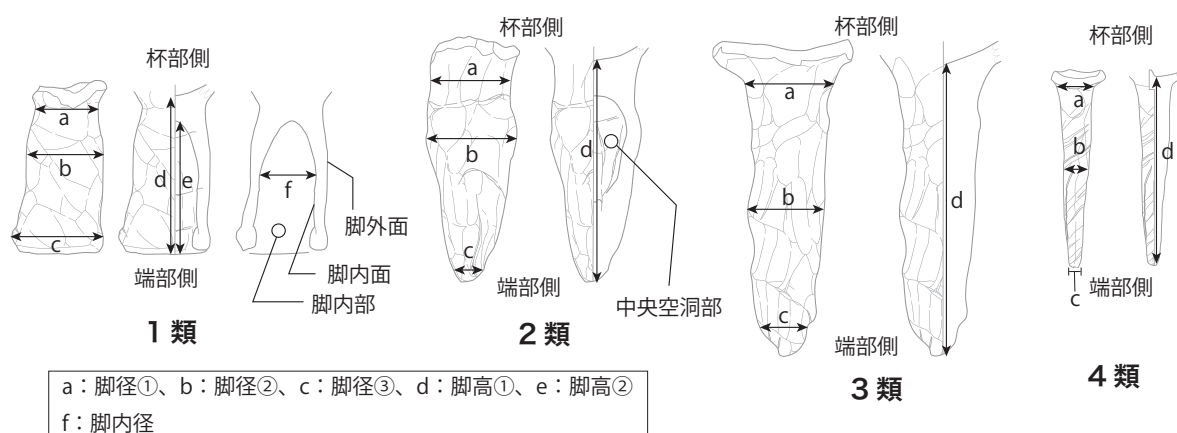


図133 製塩土器計測部位

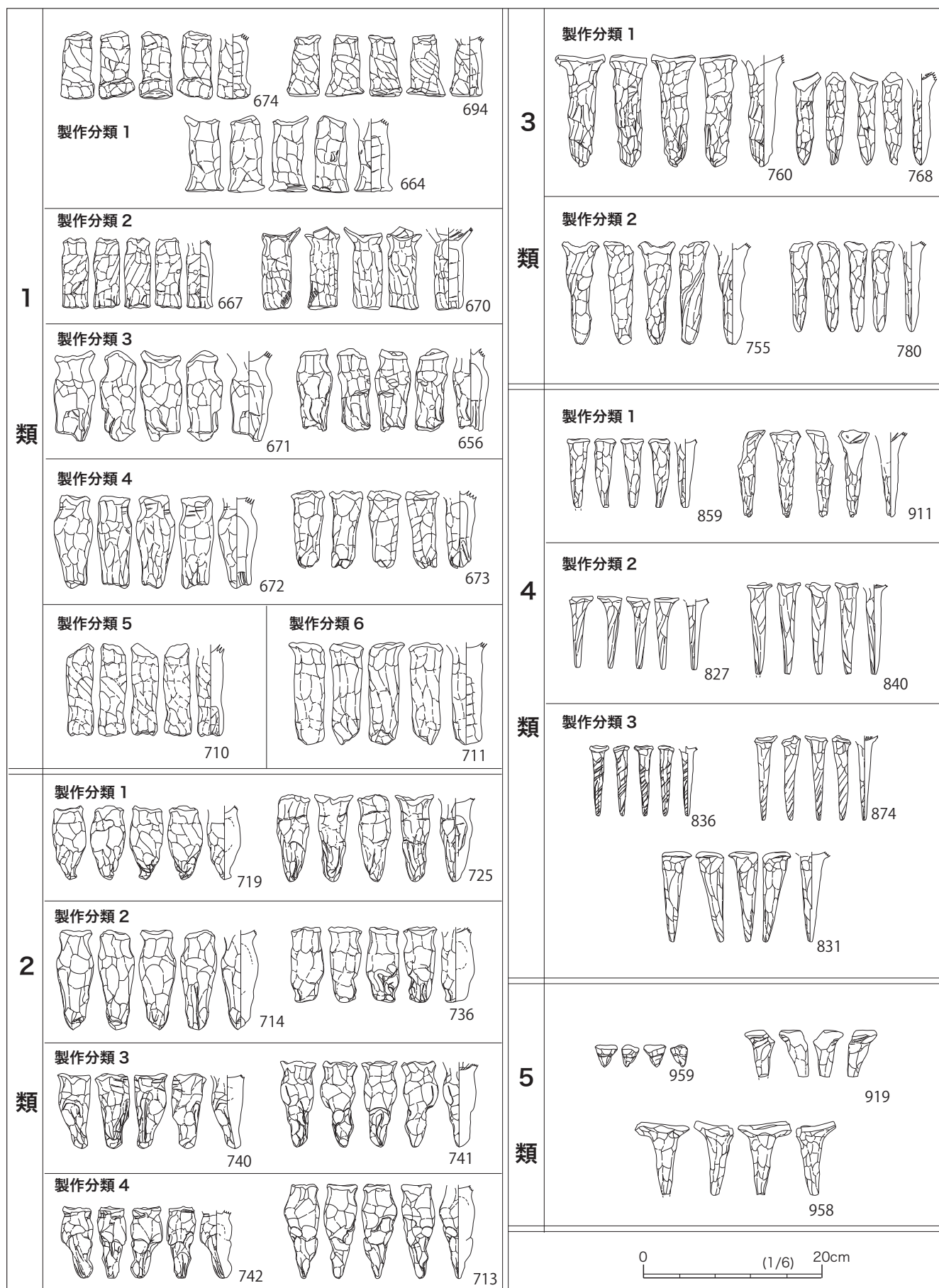


图 134 製塩土器分類図

表 5 製作分類と実資料対照表

大分類	製作分類	資料番号
1類	製作分類1	650・653・654・658・660・663~666・668・669・674・675・677~679・681~708
	製作分類2	651・657・659・662・670・676・712
	製作分類3	655・656・661・667・671・709
	製作分類4	672・673・680
	製作分類5	652・710
	製作分類6	711
2類	製作分類1	717・719・720・722・724~726・728・732・738・743~745
	製作分類2	714・715・718・723・727・730・731・734・736・739
	製作分類3	716・721・729・737・740・741・746・747
	製作分類4	713・733・735・742
3類	製作分類1	749・750・754・756・757・759~762・765・767~772・776・778・781~783
	製作分類2	750・752・753・755・758・763・764・766・773~775・777・779・780
4類	製作分類1	829・838・839・846・850・854・859・860・866・867・869・870・876・877・882・885・891・892・895・896・899・904・910・912・913・932
	製作分類2	827・828・833~835・840・841・844・845・847~849・851・853・857・862~865・911・914・916・919・923・930
	製作分類3	830・836・837・842・843・852・855・856・858・861・868・875・889・898・902・903・915・917・918・920・921・922・924・925・929・931

した。以下が、脚部による分類の内容である。なお、製作分類番号の内容は、各大分類で異なり、大分類を超えた製作分類同士の共通性はない。

1類から4類について、各製作分類に対応する掲載資料を表5に提示する。

1類 (0類を含む)：筒形を呈する脚部で、先端が開いているものである。形状としては、先端に向かって外反するもの(664・694など)や、凸状に張り出すもの(674など)、すぼまるもの(671など)が散見される。

製作分類1：脚端部に明瞭な幅をもった面が形成されるもので、平坦な面の上で自立するもの。底部端付近には整形時にオサエの痕跡が明瞭に残されているものがある。最終整形時に台の上などに立位状態において行なったものと考えられる。663のように、別の粘土を板状に貼付けて、まれに開口部を大きく塞ぐ形状のものもある。

製作分類2：脚端部には明瞭な面の形成は認められないが、端部は水平に整えられており、平坦な面の上で自立するもの。最終整形時には中空でユビオサエを行なったとも考えられる。

製作分類3：脚端部は水平に整えられておらず、平坦な面では自立しないもの。端部の最終整形は中空で行なったものと考えられ、粘土を折り重ねるように処理を行なうなど、縦方向に粘土接合痕が認められるものもある。

製作分類4：脚端部の開口部が著しく小さく、平坦な面では自立をしないもの。ユビのオサエが明瞭に残り、断面形状が正円にはならず、隅丸の多角形状を呈するものである。この一群は、製作分類1～3に比べて脚内径が著しく小さくなる傾向がある。

製作分類5：脚長①に対して、脚長②の値が著しく小さいもの。脚部の半分以上が中実にており、端部側若干のみが開口する形状である。

製作分類6：外形上は、製作分類3に類似するが、器壁が厚く、脚内径が小さいもの。

この製作分類別に基づいて1類の脚部法量について検討したのが、図135である。ここでは、脚高①に対して、脚径①の場合(左)と脚径③の場合(右)とを示した。今回の資料について、脚高①が低く、0類と特定できる資料が多くないことを見ることができる。散布図では2点、この

表 6-1 層・遺構別製塩土器類別出土点数

調査区	遺構など	製塩土器出土点数				
		1類	2類	3類	4類	5類
08Aa区	007SX					1
08Aa区	011SP	1				
08Aa区	012SX	2				3
08Aa区	013SX	2				4
08Aa区	014SD					5
08Aa区	015SD					2
08Aa区	A層	6	1	3	154	1
08Aa区	B層					1
08Aa区	C層	310	24	84	793	1
08Aa区	C・D層	17	2	3	19	
08Aa区	C・G層	32	3	1	47	
08Aa区	C-H層	8		2	56	5
08Aa区	D層	132	15	19	254	
08Aa区	D・G層					10
08Aa区	E層	116	18	29	87	2
08Aa区	F層	146	14	60	182	
08Aa区	G層	192	17	81	591	1
08Aa区	H層	56	8	11	183	
08Aa区	貝層(砂層)					36
08Aa区	表土・客土	138	5	38	990	51
08Aa区	検出・トレンチ・攪乱など	304	41	67	57	29
08Aa区	製塩土器脚部総点数	1462	148	398	3425	90
08Ab区	1001SD					1 4
08Ab区	1002SD			4	7	21
08Ab区	1004SP					1
08Ab区	1007SX					2
08Ab区	1009SX			1		
08Ab区	1010SX	1		1		
08Ab区	1015SI	1			361	
08Ab区	1017SI		1	1		
08Ab区	1020SI	7		2	6	
08Ab区	1022SK				50	
08Ab区	1024SK				4	
08Ab区	1027SX				1	
08Ab区	1028SX	1				
08Ab区	1030SX			1	2	
08Ab区	1031SX	112			2	
08Ab区	1032SK	4				
08Ab区	A-B層				4	
08Ab区	A層			28	42	2
08Ab区	A層(客土2)	57	1	2	67	
08Ab区	B層				28	44
08Ab区	B層			4	77	74
08Ab区	I層				30	30
08Ab区	J層				5	8
08Ab区	K層				169	
08Ab区	K1層	2			983	
08Ab区	K2層(1003SK)				110	
08Ab区	K3層				16	
08Ab区	L層				12	8
08Ab区	L1層				5	2
08Ab区	L2層				3	2
08Ab区	L3層				2	17
08Ab区	L4層				12	16
08Ab区	L5層			1	11	
08Ab区	M層				188	1
08Ab区	M1層				9	
08Ab区	M3_S15層				1	
08Ab区	M3層	1		2	881	2
08Ab区	M4層				5	
08Ab区	M5層				76	
08Ab区	N層					4
08Ab区	O層	5			102	
08Ab区	P層				83	1
08Ab区	Q層	1		7	235	15
08Ab区	R層	3		6	443	1
08Ab区	S層	2			386	
08Ab区	S1層				142	
08Ab区	S2~3層				5	
08Ab区	S2層	1		1	51	
08Ab区	S3層				187	
08Ab区	S4層				51	
08Ab区	S5層			8	6	
08Ab区	S6層				76	
08Ab区	S7層				21	
08Ab区	S8層				76	
08Ab区	S9層				5	
08Ab区	S10層				30	
08Ab区	S11層				11	
08Ab区	S12層				8	
08Ab区	S13層				1	

調査区	遺構など	製塩土器出土点数				
		1類	2類	3類	4類	5類
08Ab区	S14層					57
08Ab区	S15層					85
08Ab区	S16層					1
08Ab区	S18層					10
08Ab区	S19層					98
08Ab区	S20層					17
08Ab区	S21層					25
08Ab区	S23層					7
08Ab区	S24層					1
08Ab区	S27層					104
08Ab区	S29層					2
08Ab区	S30層				1	232
08Ab区	S31層					4
08Ab区	S32層					137
08Ab区	S34層					5
08Ab区	T層	7		6	335	3
08Ab区	T層・U層					6
08Ab区	U層	4	1			127
08Ab区	V層					1
08Ab区	V1層	43				25
08Ab区	V2層	127	1	1		11
08Ab区	V3_V4層	1				4
08Ab区	V3層	18	1			22
08Ab区	V4層	11		2		26
08Ab区	V5層	9				3
08Ab区	W層					13 7
08Ab区	W1層	14		2	256	
08Ab区	W2層	2		3	89	4
08Ab区	W3層	7		3	335	4
08Ab区	W4層	1				4
08Ab区	W5層					7 2
08Ab区	表土・客土	3		6	197	13
08Ab区	検出・トレンチ・攪乱など	245	10	21	4918	91
08Ab区	製塩土器脚部総点数	690	15	114	12256	376
08B区	2001SE		2			25
08B区	2002SE					19
08B区	2003SK					11
08B区	2004SX	2				16
08B区	2005SD			3		23
08B区	2006SD					7
08B区	2007SD				1	6
08B区	2009SI				6	13
08B区	2010SK				2	6
08B区	2011SK					5
08B区	2020SK	1			2	18
08B区	2022SX					4
08B区	2024SI	1		3		14
08B区	2025SI		1			7
08B区	2025SI_2009SI				2	1
08B区	2028SI	2			2	13
08B区	2029SI					3
08B区	2030SI	4				12
08B区	2033SI					1
08B区	2041SI					22
08B区	B-A層				9	291 1
08B区	B-B層	4		7	904	4
08B区	B-C1層					12
08B区	B-C2層					7
08B区	B-D層	1				17
08B区	B-D2層	1				1
08B区	B-E層					3
08B区	B-E1層					4
08B区	B-E2層					3
08B区	B-E3層					4
08B区	B-F層	4		12	342	
08B区	B-F2層	2				2
08B区	B-F3層	1				23 1
08B区	B-G層			1		12
08B区	B-H1層					11
08B区	B-H3層					1
08B区	B-H4層					1
08B区	B-I層	2		5	35	
08B区	B-I1層				1	17
08B区	B-I3層	2	1	4	44	
08B区	B-I4層			2	11	
08B区	B-J層					1
08B区	B-N層	5	1	2	1	
08B区	表土・客土1・客土2	6	2	27	278	
08B区	検出・トレンチ・攪乱など	51	4	77	1474	13
08B区	製塩土器脚部総点数	89	11	168	3725	19

表 6-2 層・遺構別製塩土器類別出土点数

調査区	遺構など	製塩土器出土点数				
		1類	2類	3類	4類	5類
12A区	085SE			1	5	
12A区	2層	12		8	18	
12A区	3層	22	8	8	34	
12A区	5層		6	24	151	7
12A区	検出など	72	10	41	549	11
12A区	製塩土器脚部総点数	106	24	82	757	18
12B区	3層	1		30	166	2
12B区	5層	1		1	31	
12B区	検出など	1	1	8	86	
12B区	製塩土器脚部総点数	3	1	39	283	2
12C区	1層				2	
12C区	2層				1	
12C区	3層			1	24	
12C区	4層	1			23	
12C区	検出など	1		2	16	
12C区	製塩土器脚部総点数	2		3	66	

うちの1点は706である。

図135の左を見ると、製作分類4の一群のみは、他の群とは散布範囲が大きく異なっていることが観察できる。この製作分類4はこれまで言われていたID類に相当するが(立松2010b)、脚内径が著しく小さくなることからしても、製作上に大きな違いが認められるものである。

図135右では、製作分類1～4までが、ある一定幅をもって連続した散布状況を示しているようにもみえる。詳細にみると、製作分類別に散布傾向が異なることを見いだすことができる。製作分類1は脚径①が2.2～3.2cmの幅で、脚高①が8cm以下の範囲に集中していることが分かる。一方、製作分類4を中心に脚径①が2.6～4.0cmの幅におさまる一群もあり、両者は脚高①が7.0～8.0cm付近で接している様子を見ることができる。この両者の差は、杯部底部の幅が異なっていることを意味しており、杯部の法量差を指摘できるかもしれない。これまで言われている1A類はこの前者の一群であり、製作分類2が散布する範囲が1A2類、製作分類1のみで分布している範囲のものが1A1類に当たるものと考えられる。

製作分類1～3・6では、脚内面に粘土紐接合痕がほぼすべてで観察できた。接合痕は水平横方

向というよりは、上下斜め方向に展開しているものが多い。接合痕はユビナデなどにより平滑化されている場合が多いが、08Ab区1031SXで確認できた資料では、粘土紐の凹凸が明瞭に観察できる状態のまま製作されている特徴を有する(681～695)。

2類：筒形を意識して作られたのち、先端を閉じるものである。製作工程上、脚部内部は空洞が存在すると考えられるものである。

製作分類1：粘土接合痕の顕著に確認される部位が、先端のみのも。先端部には面が形成されているものとされていないものがある。

製作分類2：顕著な粘土接合痕が、一ヶ所、脚部上方にも入り込んでいるもの。

製作分類3：顕著な粘土接合痕が、二ヶ所以上、脚部上方にも入り込んでいるもの。

製作分類4：脚先端部には別の粘土を貼付けた状態が明瞭なもの。この場合、横方向あるいは斜方向の粘土接合痕が明瞭である。

上記製作分類に基づき、脚径①と脚高①の法量散布を示したのが、図136の左である。これまで2類は脚高①によって、2A類・2B類・2C類の3群に分類されており、図中にはその範囲を示している。今回の出土資料では、2A類に属する資料が少ない。脚高①の値が7.2cmより10.0cm付近まで法量分布が連続かつ集中しており、この範囲の2B類・2C類が2類の主体になると考えられる。各製作分類と法量との関係は、範囲を重複しながら、若干の相違が認められる。製作分類1と製作分類2は脚高①の値が9.0cmも付近を中心に集中する。一方、製作分類3は7～8.5cmほどが分布の中心であり、製作分類4は8.0cm以上に多い。

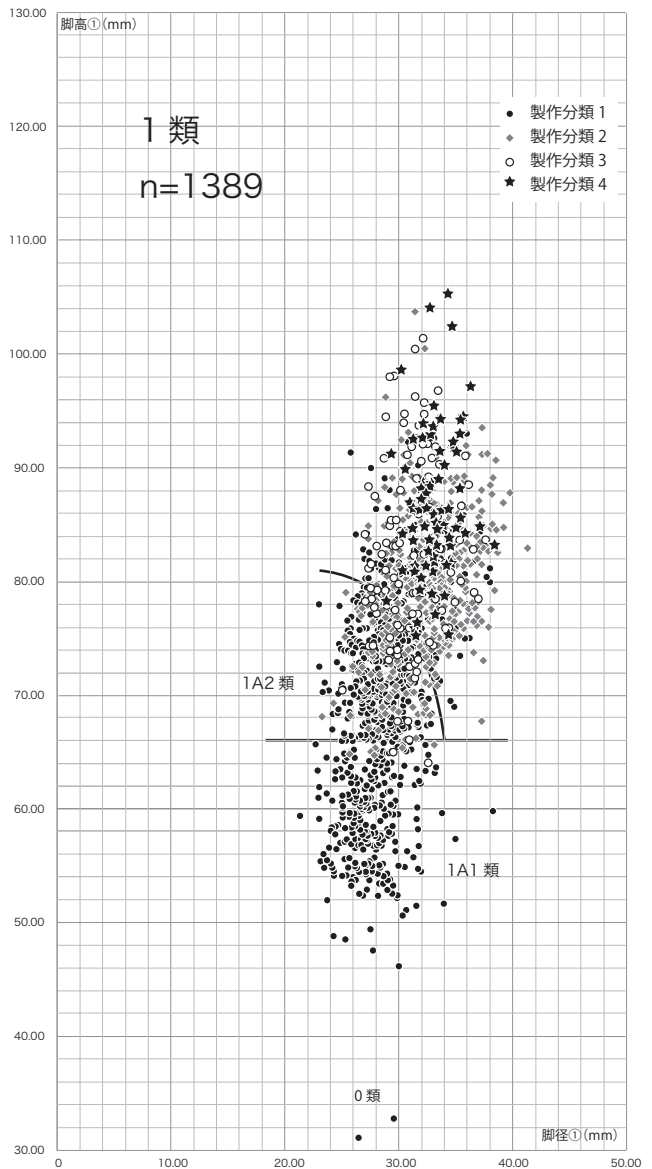
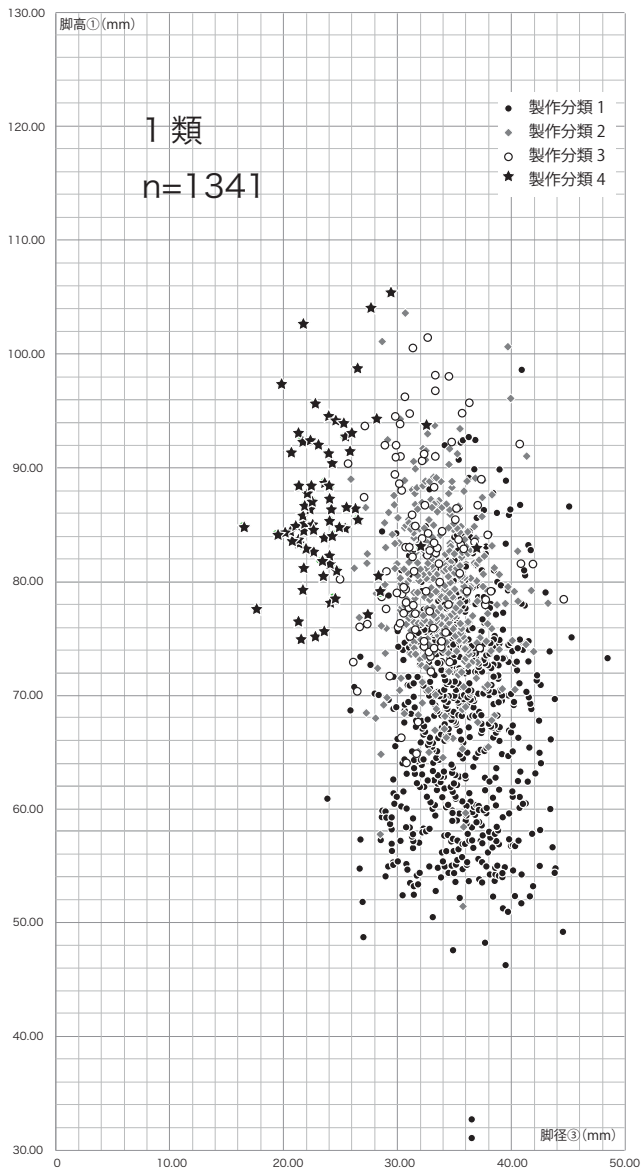


図 135 製塩土器脚部法量散布図【知多式 1 類】

3 類：筒を作らずに、棒状の粘土からオサエによって製作・整形されるものである。1 類・2 類との違いは、製作当初に筒を意識していたか否かにある。

製作分類 1：部位に関わらず、全面にユビオサエの痕跡が明瞭に残るものである。

製作分類 2：全面にユビオサエが認められるものの、脚部下半は先端側へ押し引いた様なオサエとなっているものである。最終調整の稜線が細長くなる傾向にある。

同様に、この製作分類に基づき、脚径①と脚高①の法量散布を示したのが、図 136 の右である。これまでの分類を参考に、脚径①は 2.6cm で、脚高①は 9.6cm を境とした場合、3A 類と 3B 類との区別は明瞭となる。製作分類 1 は 3A 側に集中する傾向が明瞭であり、製作分類 2 は 3A 側にも認められるが、3B 側での主体となっている。脚径① 2.6cm 以下・脚高① 9.6cm 以下を 3B2 類とした場合、散布図中のように、3A1 類・3A2 類・3B1 類を設定することができるようである。この分類と製作分類との関係とで見た場合、

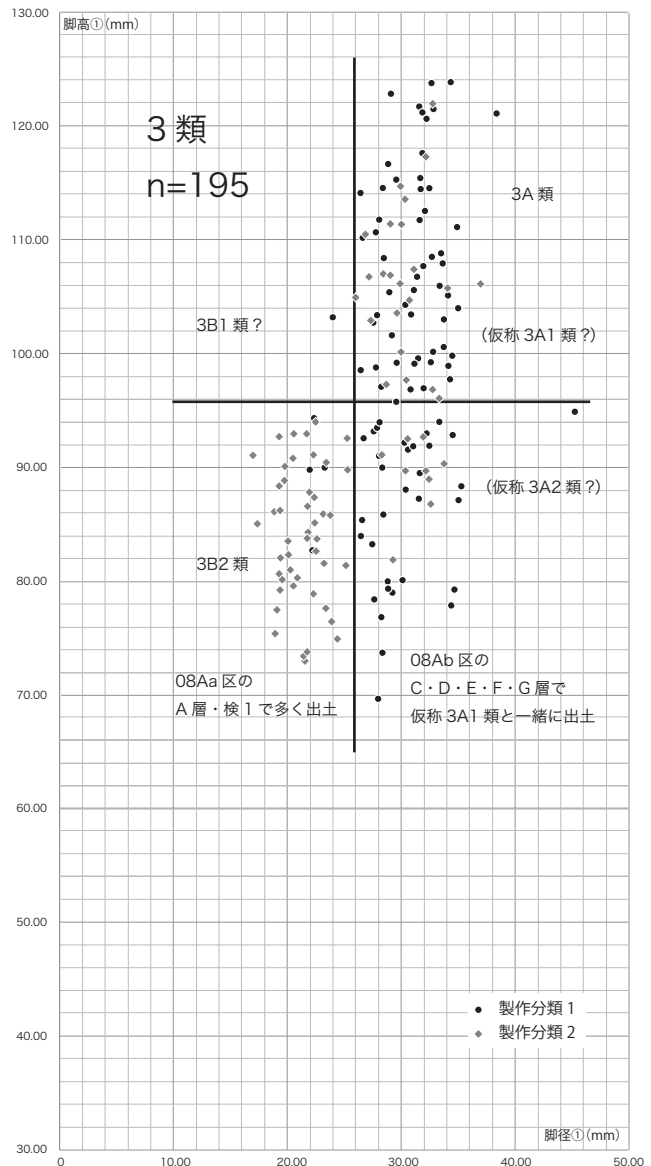
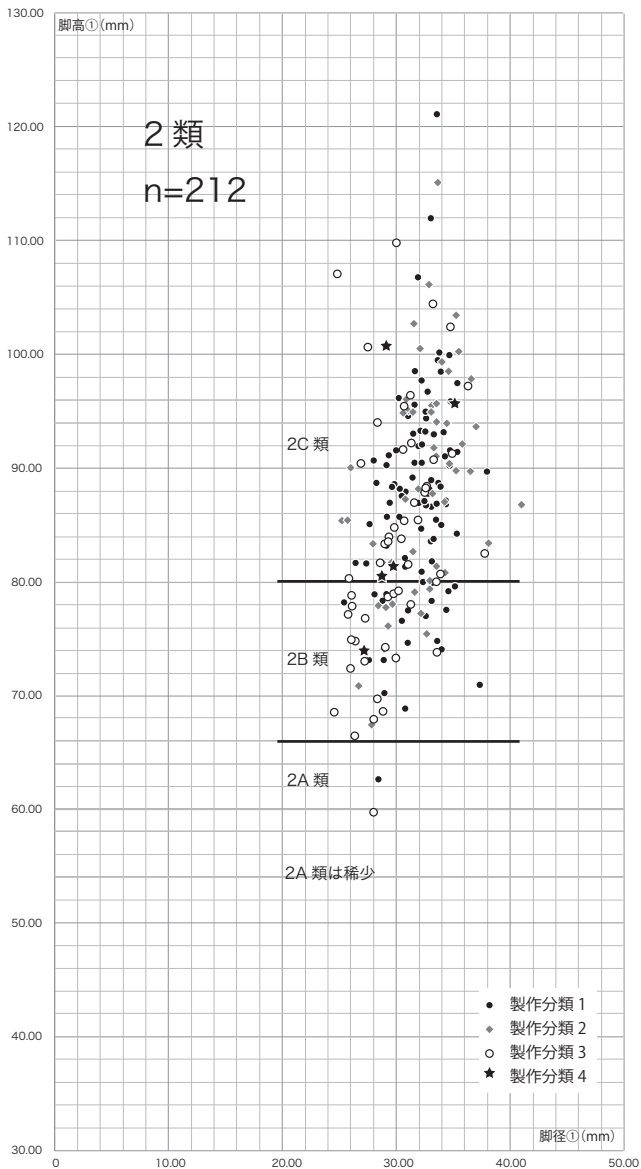


図 136 製塩土器脚部法量散布図【知多式 2 類・3 類】

3A2 類は製作分類 1 が主体となっている。

4類：棒状の脚部で、器面の凹凸がなく、比較的なめらかなものである。3類と異なる点は、製作・整形まで一貫してオサエのみで行なわれている訳ではないことである。これまでも、板の上で回転させることで製作されていたことが指摘されている。また、胎土はきめ細かいことも特徴で、胎土分析の結果にもそれが表れている（福岡編 1991）。

製作分類 1：回転整形後の上に全体に渡ってオサエ痕が残るもの。このオサエ痕は、脚部の最終調整として確認できるもののみ限定し、杯部との接合時につくオサエ痕は除く。

製作分類 2：回転整形後に脚部下半を中心に先端側へ向かってナデ調整が施されているもの。

製作分類 3：縦および斜方向の粘土接合痕が明瞭なもの。複数の粘土紐を組み合わせて整形したことが明らかなものである。

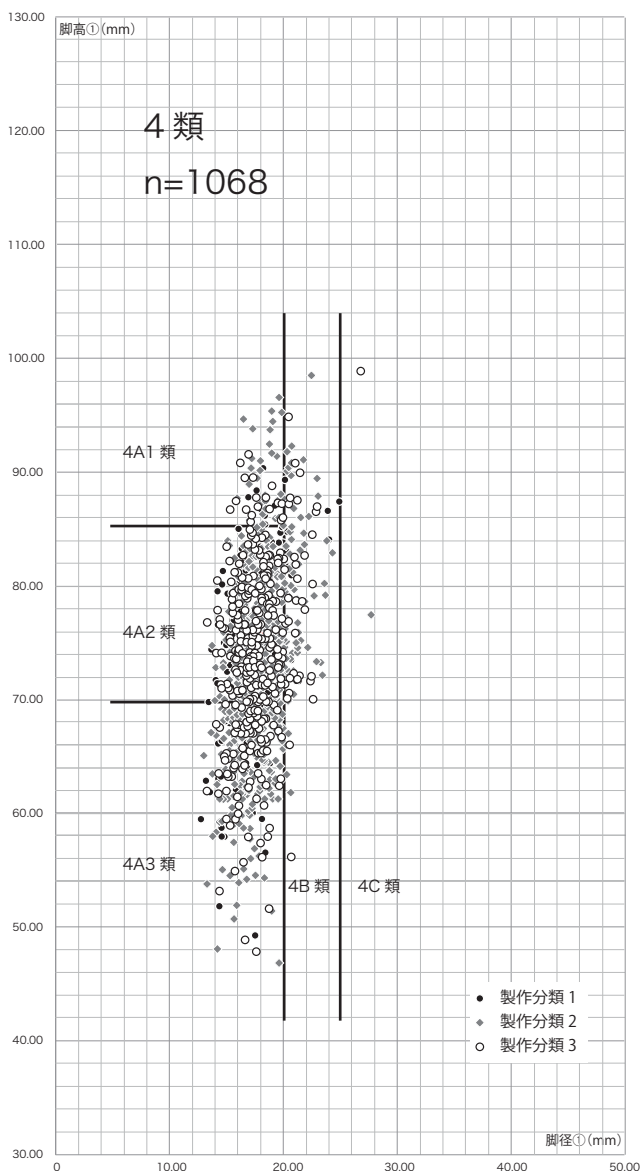


図 137 製塩土器脚部法量散布図【知多式 4 類】

これまで、脚径①によって 4A 類・4B 類・4C 類に、さらに 4A は脚高①によって 4A1 類・4A2 類・4A3 類に細分されており、その法量分布範囲を入れたものが、図 137 である。今回の資料においても、4A 類が圧倒的に多く、4C 類にあたる資料は稀少であることがわかる。4A 類の中では脚高①が 6.0～8.5cm の範囲に著しい集中が窺えられることから、4A2 類および 4A3 類が 4A 類の主体と位置づけることができる。製作分類との比較に言及すると、製作分類 2・製作

分類 3 はすべての法量範囲で重複する傾向があるものの、製作分類 1 は 4A 類に集中する傾向がある。また、製作分類 3 の一部は 4X 類に該当する可能性もあるが、今回の資料では前の報告（福岡編 1991）に提示されたような粘土紐を編んだような極端な事例は確認できなかった。

第 2 章で報告したように、08Ab 区では 4 類を中心として良好な包含層の存在を確認した。4 類の分類による、各層別の出土点数を表 7 に示しておく。この中で、A 層と B' 層は後述する 5 類を主体として出土する層であるので、出土傾向からは除外する。その他でいえば、いずれの層も 4A 類が主体であり、その中でも 4A2 類の割合が最も高い。他分類について言えば、4A3 類の点数が多くなるのは M3 層と K1 層であり、K1 層に関しては 4B 類の出土点数も高い。やや不明瞭な形ではあるが、層序と形成時期が反映されたものである可能性があろう。

5 類：製作上は、ユビによるオサエが顕著になることがあげられる。また、杯部と脚部との結合部分は、粘土がねじれたような様相を呈していることが特徴である。杯部は緩やかな碗形から、平底状を呈することが言われており、杯部が横に伸びる形状のものが多い。脚部の法量で著しく小さいものが出現する。また、4 類に比べて胎土が粗雑になり、モミガラを含むようになることも 5 類の特徴と言われている。

表7 08Ab区4類細別類型別出土点数一覧

調査区	層位・遺構など	4A1	4A2	4A3	4B	4C
08Ab区	1015SI	1	21	8	6	
08Ab区	1022SK	1	1	1		
08Ab区	A層				1	
08Ab区	B層		15	2		
08Ab区	K1層	3	55	21	20	
08Ab区	K2層		1		1	
08Ab区	K層		8	3	1	
08Ab区	M3層		26	13	1	
08Ab区	M4層		1			
08Ab区	M5層		3		1	
08Ab区	M層		1	1	1	
08Ab区	O層		3	2		
08Ab区	P層		2	1		
08Ab区	Q層		2	1		
08Ab区	R層		5			
08Ab区	S1層	1	8	2		
08Ab区	S2層		1	2		
08Ab区	S3層		12	2		
08Ab区	S4層		1			
08Ab区	S6層		3	5		
08Ab区	S7層	1				
08Ab区	S8層		3		1	
08Ab区	S10層		1			
08Ab区	S11層				1	
08Ab区	S14層	1		4		
08Ab区	S15層		3	3		
08Ab区	S19層	1	4	1		
08Ab区	S20層		1	1	1	
08Ab区	S21層	1	1	1	1	
08Ab区	S22層			1		
08Ab区	S23層			1		
08Ab区	S27層		2	8	1	
08Ab区	S30層		7	4		
08Ab区	S32層	2	6	3		
08Ab区	S34層		1			
08Ab区	S層	2	18	15	1	
08Ab区	T層		7	7		
	計	14	223	113	38	0

3. 脚部の個別資料について

個別の資料については、添付 CD に収録した遺物一覧表を参考願いたい。ここでは、全体を通して認められた傾向などについて報告して行く。

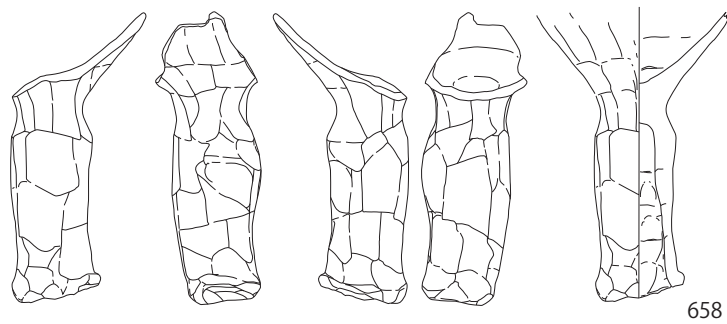
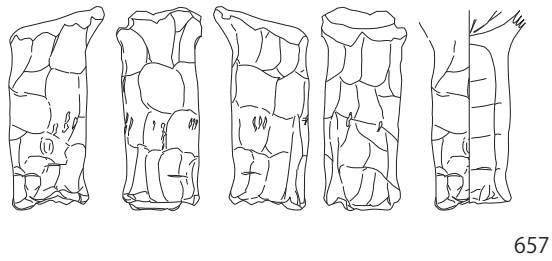
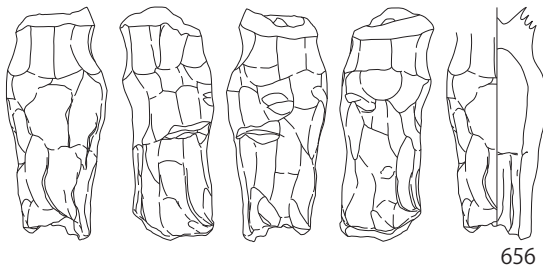
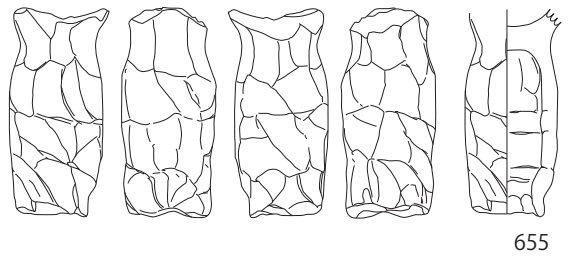
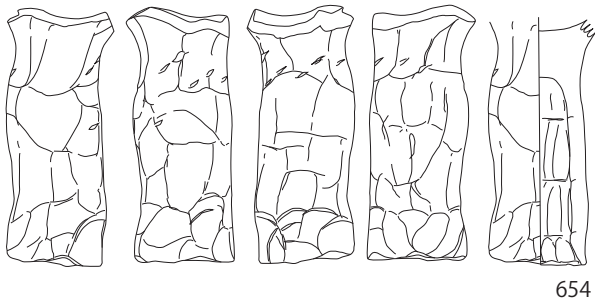
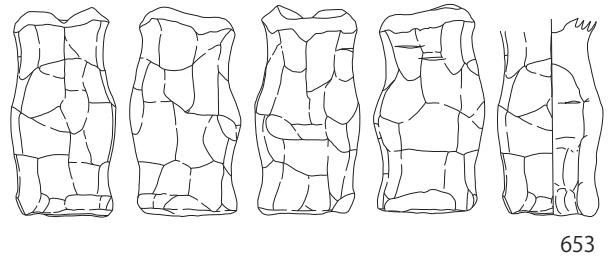
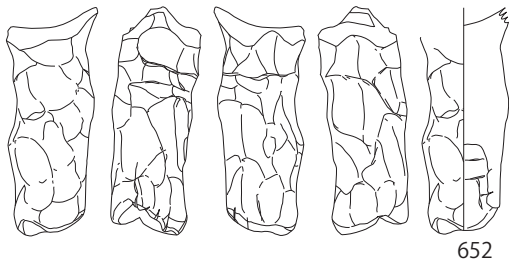
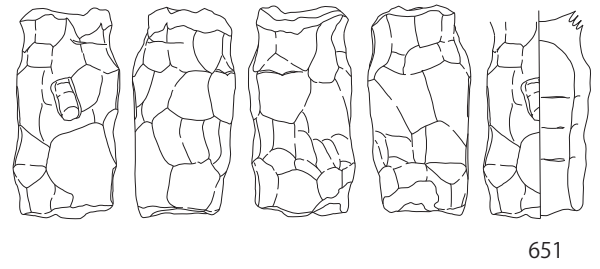
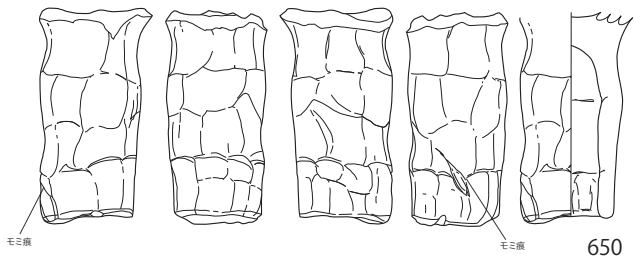
釉の付着 1類は、器面にさまざまな痕跡が認められる。器面に自然釉が認められるものがある。図中で示したものでは、684・691・694・696と、1A類が主体である。中には673のように1D類にも認められ、726のように2類でも若干認められる。

胎土・圧痕など 製塩土器を観察すると、さまざまな痕跡を見つけることができる。ここでは、胎土と胎土に記された圧痕について述べておく。

これまでも、5類にはモミガラを含むことが言われてきたが、松崎遺跡出土資料では1類からモミガラの痕跡を観察することができ、脚表面などにその痕跡を確認することができるものもある。胎土内には、草本類植物の茎がスサ状に認められることもある。また、1類から4類にかけて、モミ圧痕をしばしば確認することができ、中には4類の胎土内に埋め込まれたことを示す状態で確認されるものもあった(895)。

また、胎土内に貝殻片が認められるものも散見されている。これも1類から4類まで認められる。927は4類の脚部中央にアラムシロなどの巻貝の形状を残す圧痕が認められる。

使用の痕跡 いずれの資料も程度の差はあれ、被熱痕および赤色化の現象を確認したものが多数であった。



08Aa 区 C 層

图 138 製塩土器脚部実測图 1【知多式 1 類】

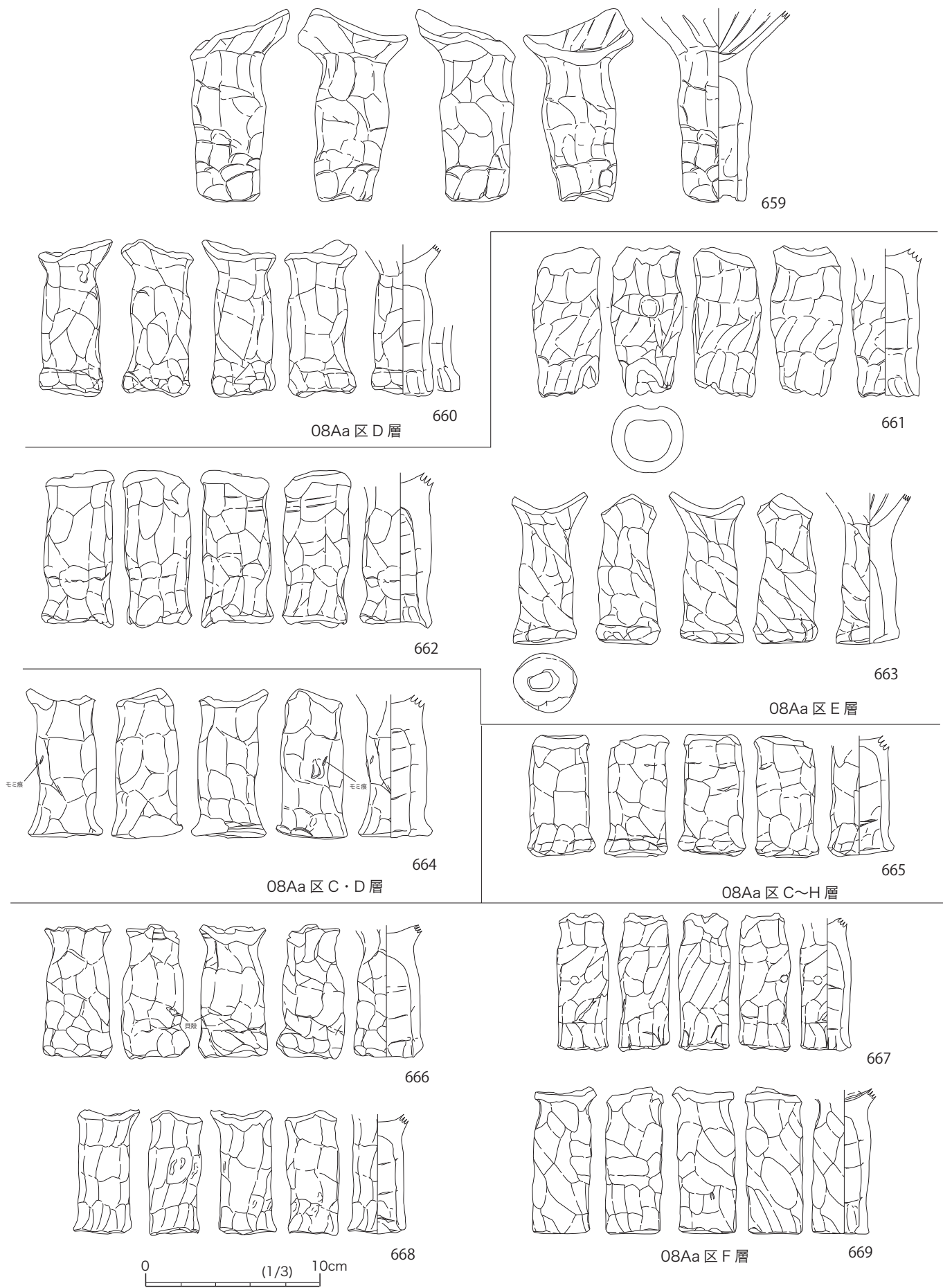


图 138 製塩土器脚部実測図 1【知多式 1 類】

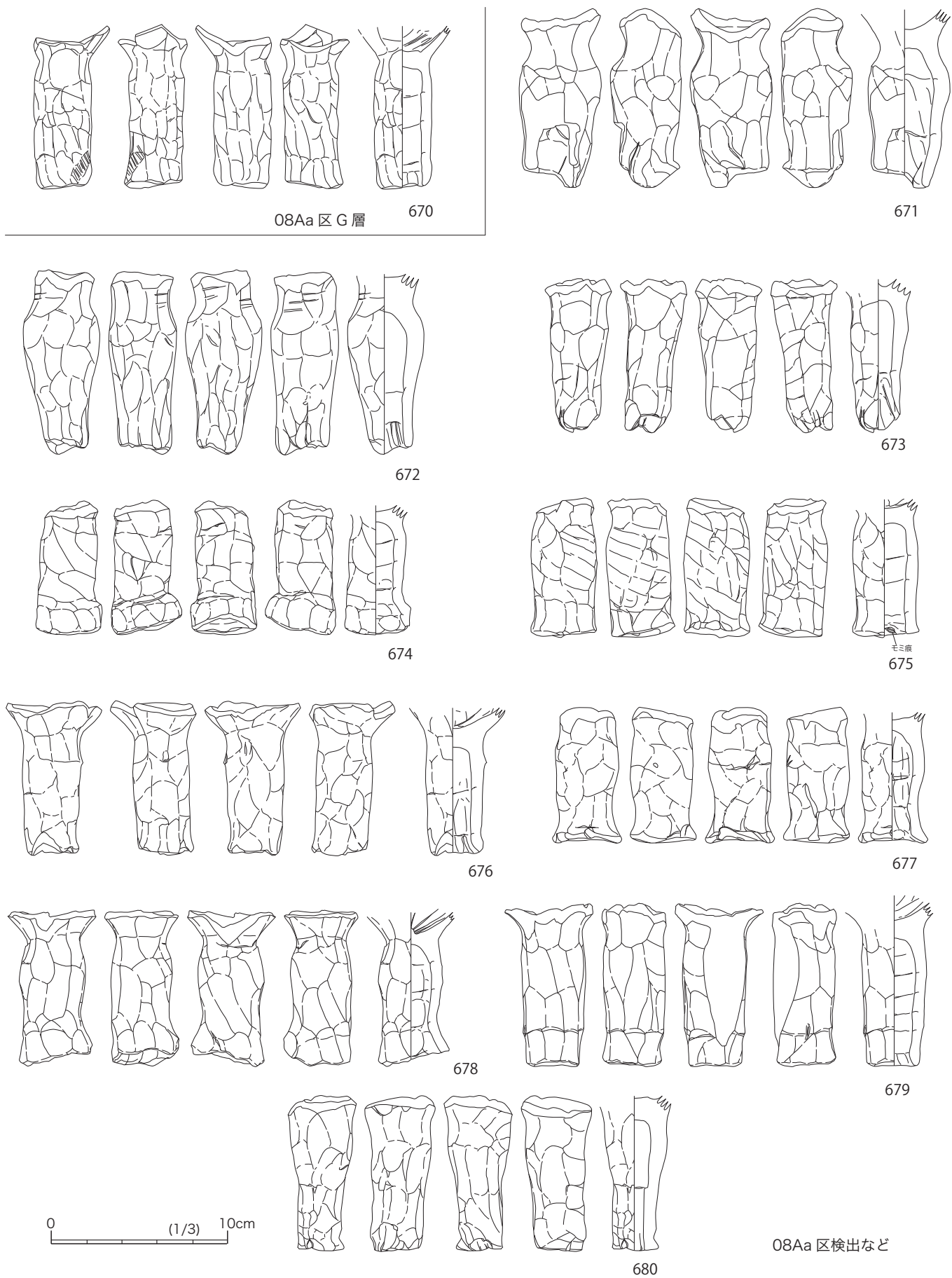
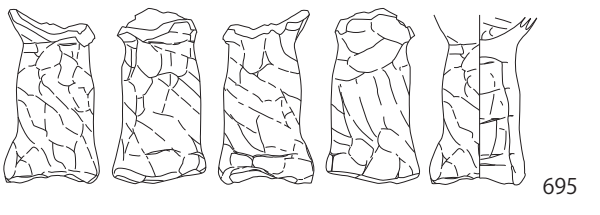
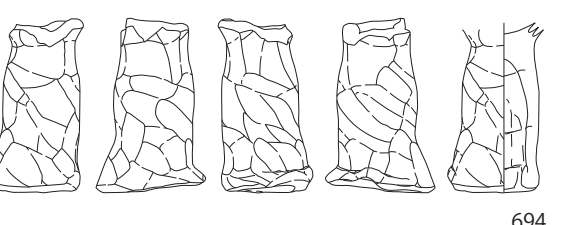
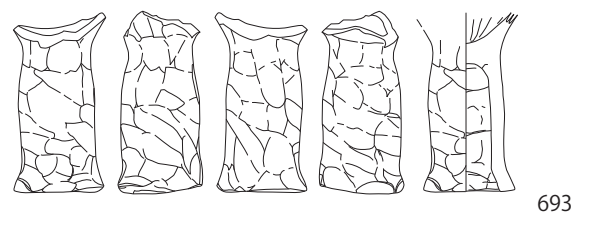
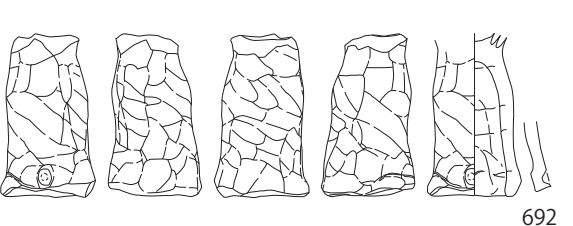
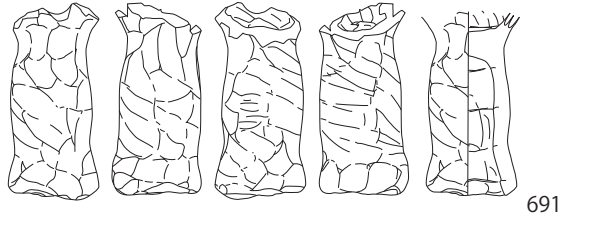
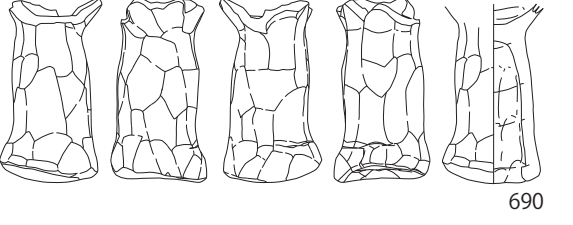
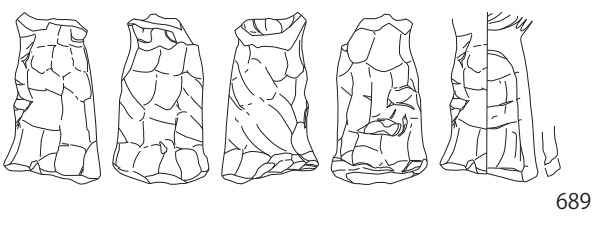
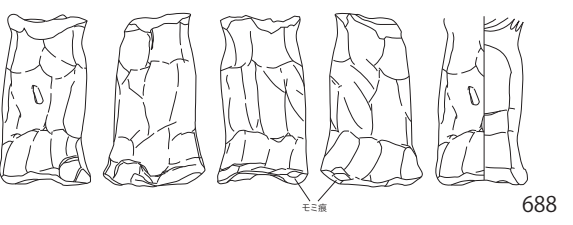
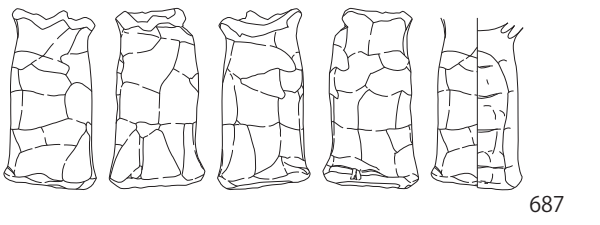
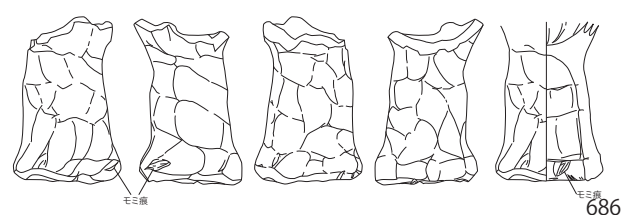
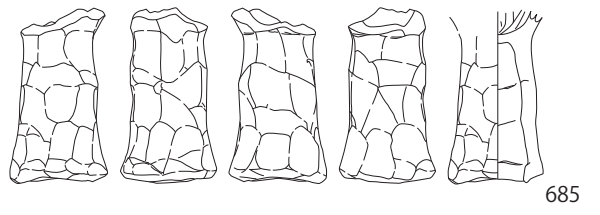
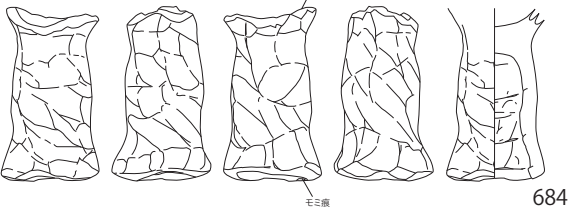
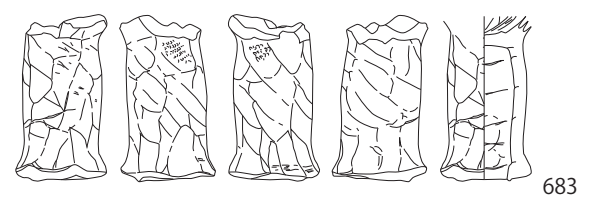
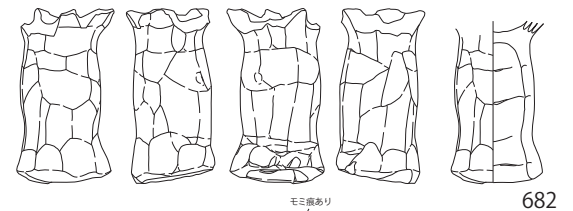
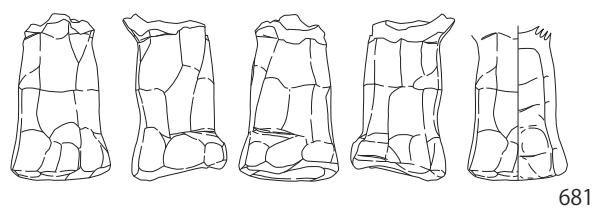


図 140 製塩土器脚部実測図 3【知多式 1 類】



08Ab 区 1031SX

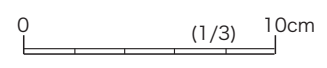
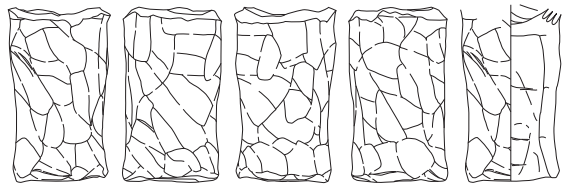
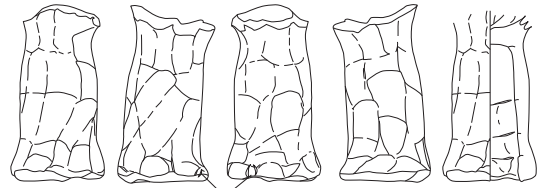


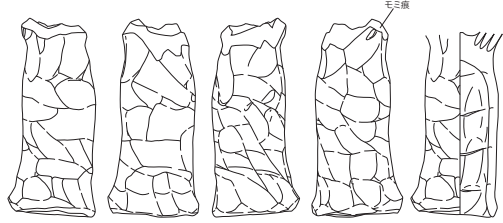
图 141 製塩土器脚部実測図 4【知多式 1 類】



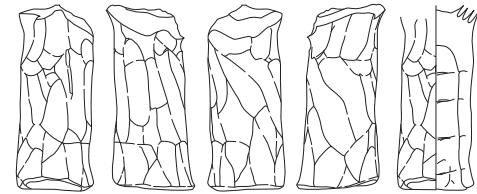
08Ab 区 1032SX 696



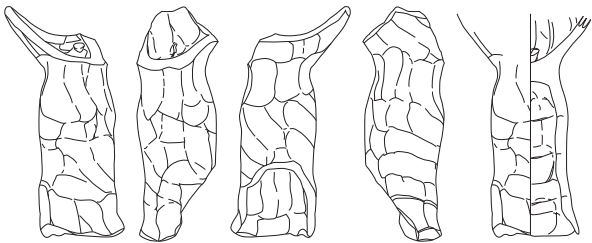
08Ab 区 K1 層 697



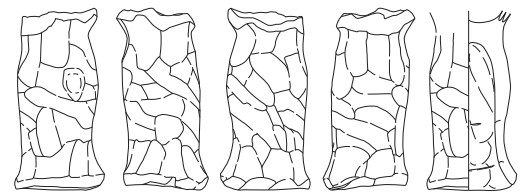
698 08Ab 区 V2 層



699



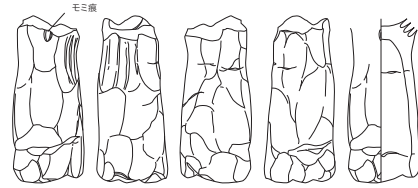
700



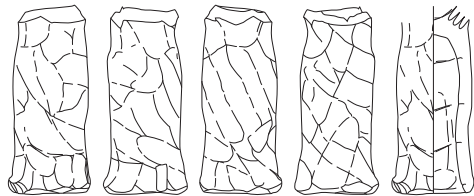
701



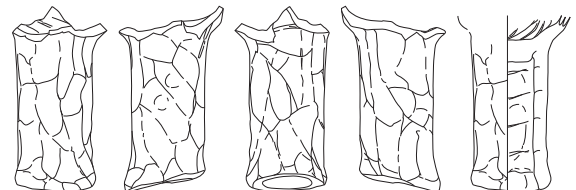
08Ab 区 M1 層



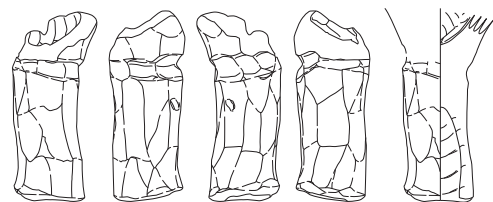
702



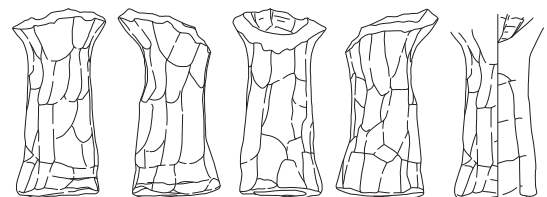
703



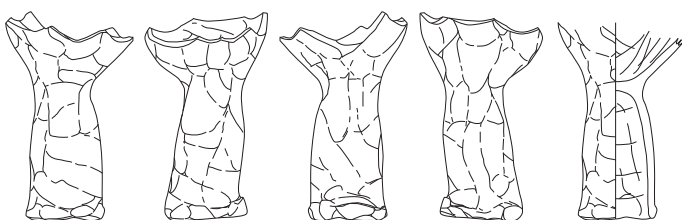
704



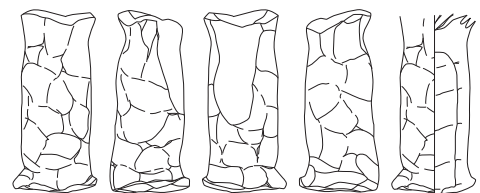
705



706



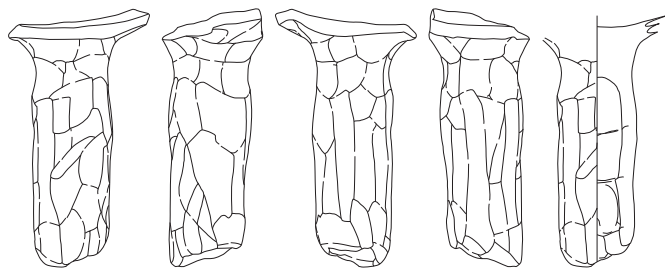
707



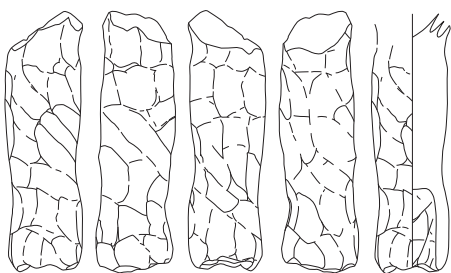
08Ab 区 検出 など

708

図 142 製塩土器脚部実測図 5【知多式 1 類】

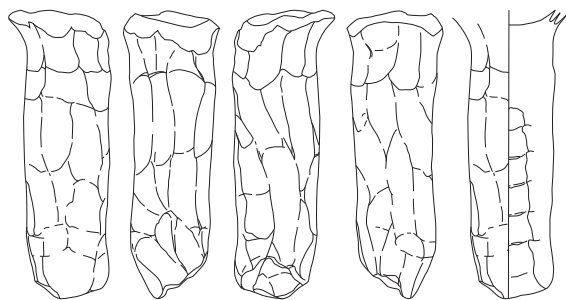


709 08B 区 N 層

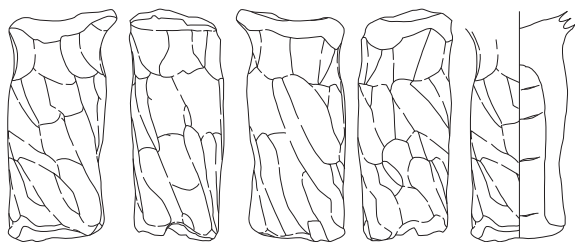


710

08B 区検出など



711



712

12A 区 5 層

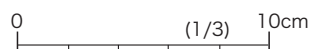
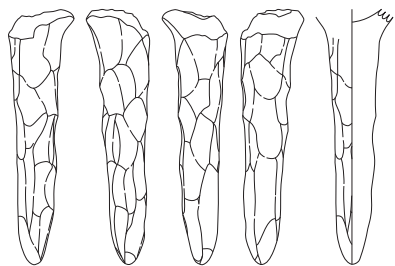
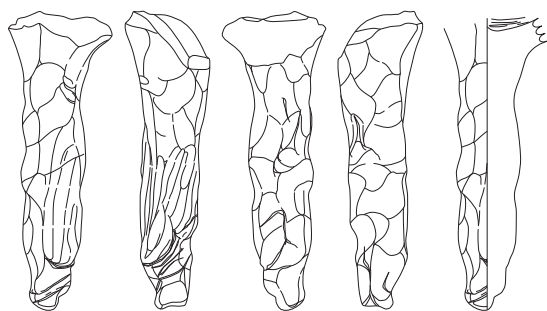


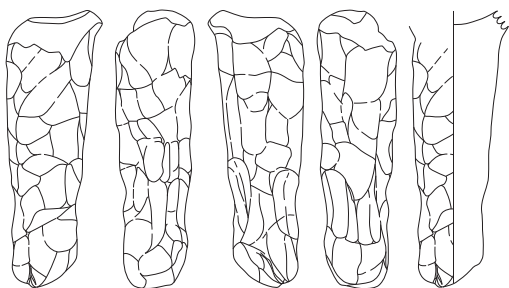
図 143 製塩土器脚部実測図 6【知多式 1 類】



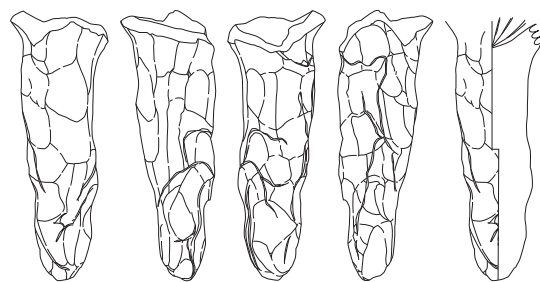
08Ab 区 T 層 780



08Ab 区検出など 781



08B 区 2028SI 782



12A 区 3 層 783

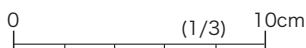


図 150 製塩土器脚部実測図 12【知多式 3 類】

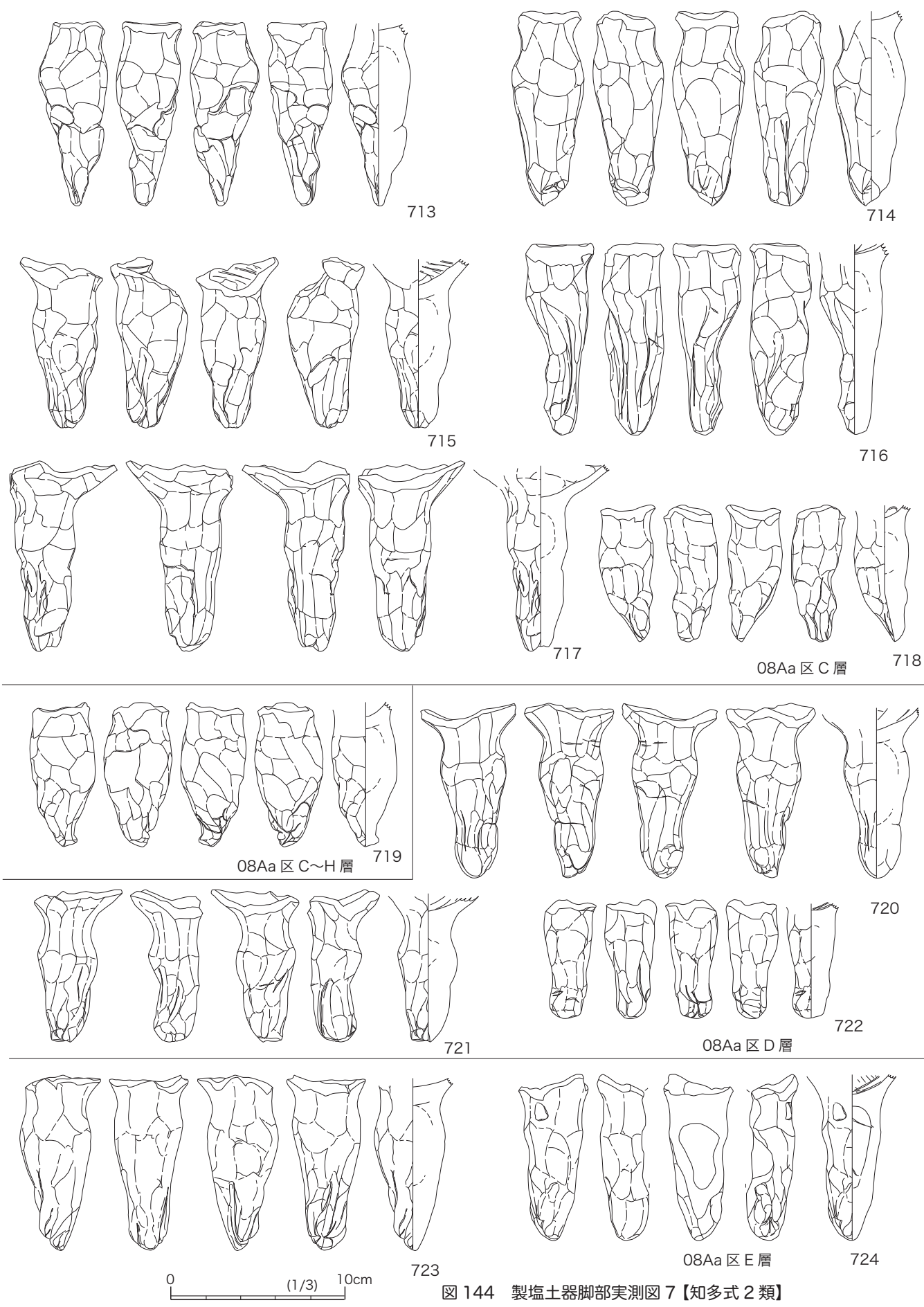
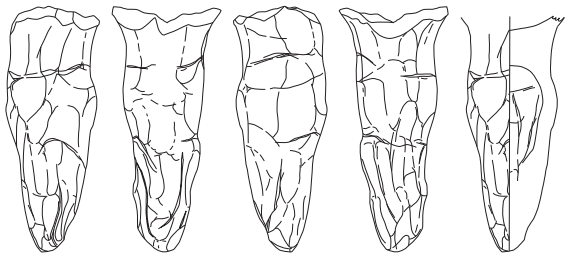
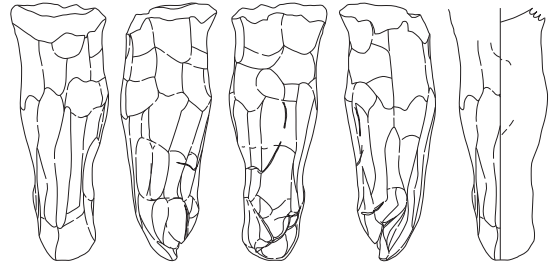


図 144 製塩土器脚部実測図 7【知多式 2 類】

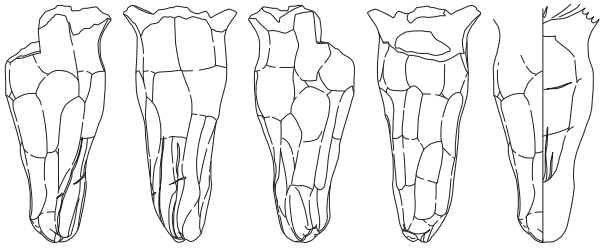


725

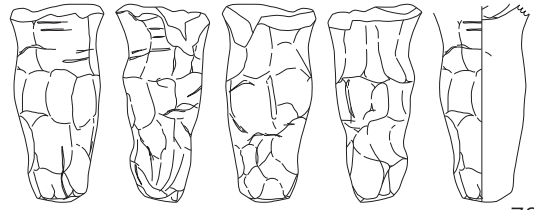


726

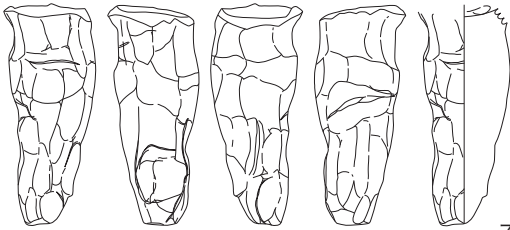
08Aa 区 E 層



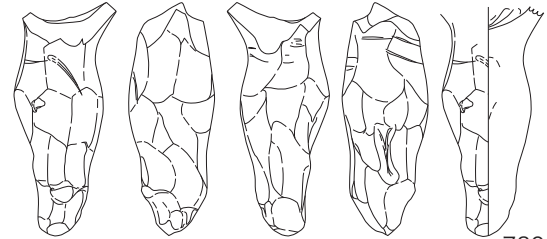
727



728

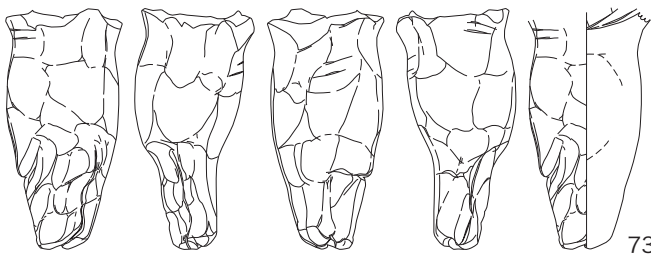


729

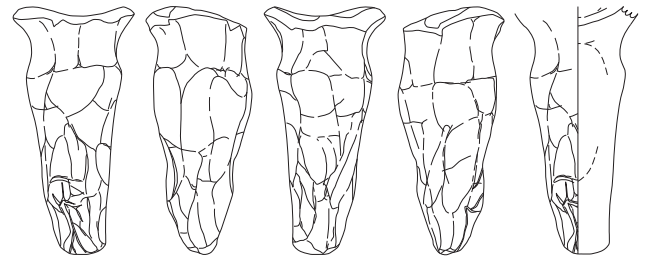


730

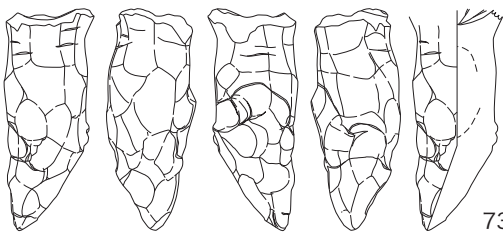
08Aa 区 F 層



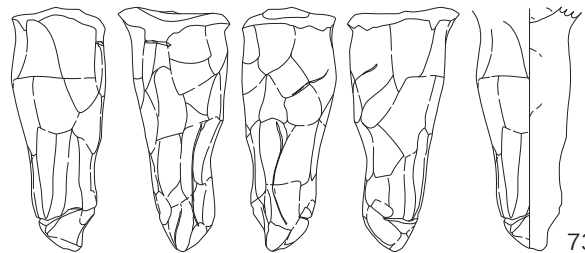
731



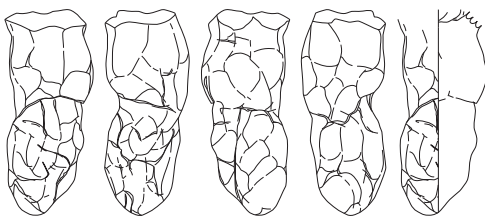
732



733

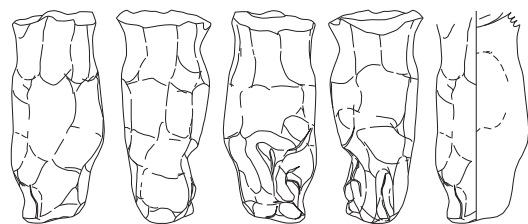


734



735

08Aa 区 G 層

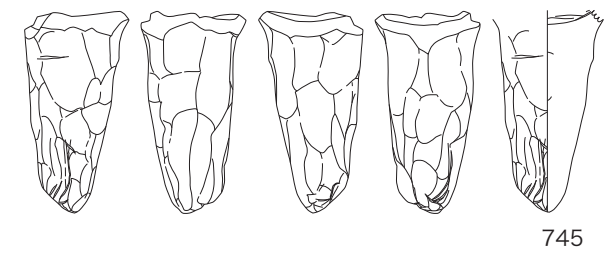
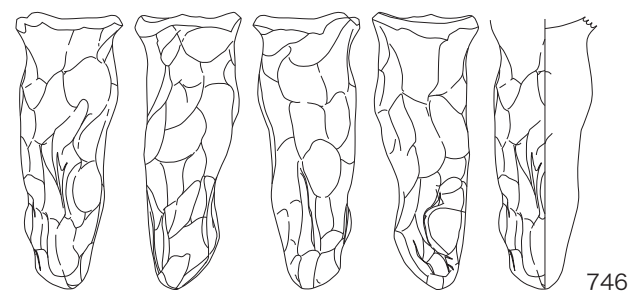
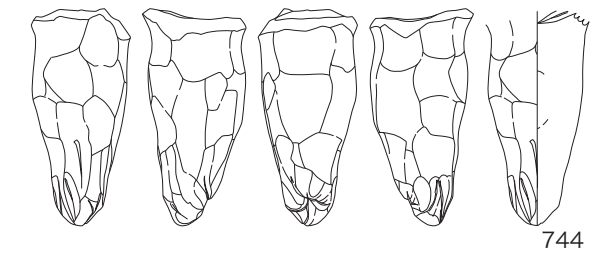
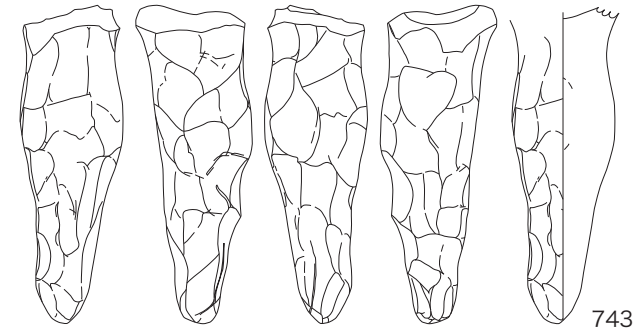
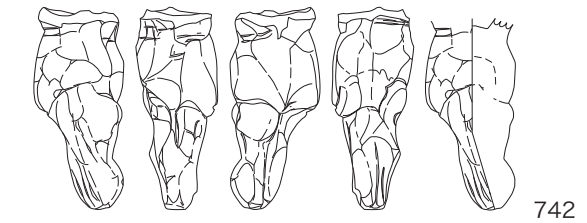
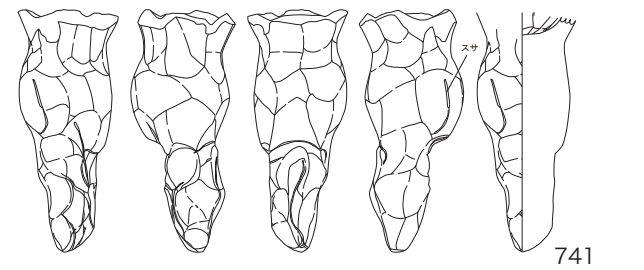
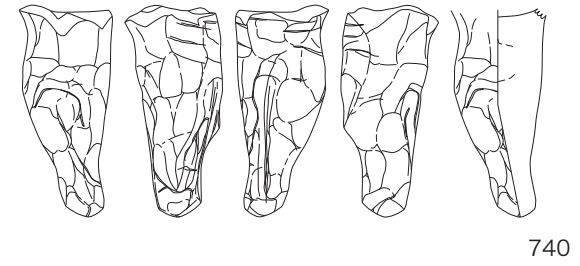
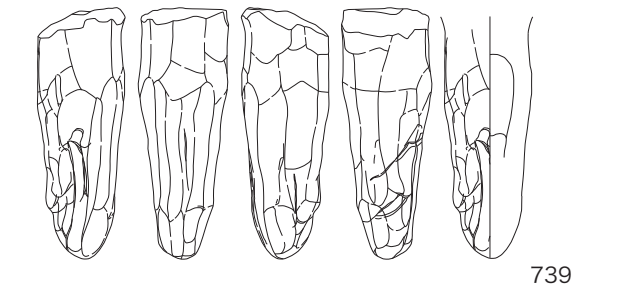
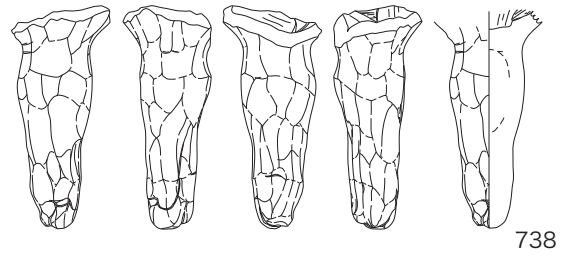
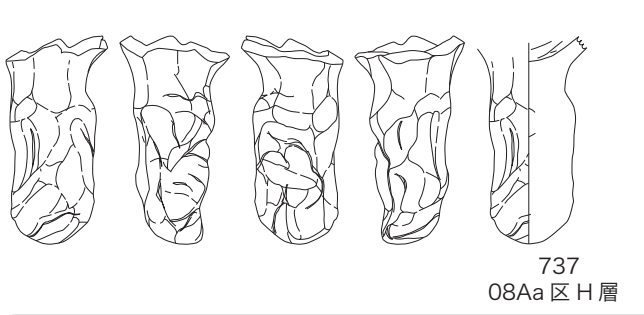


736

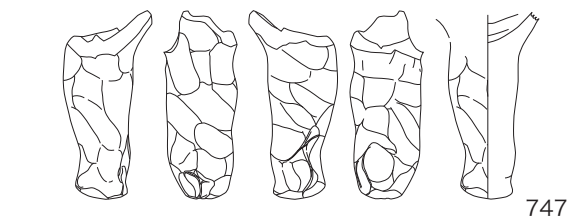
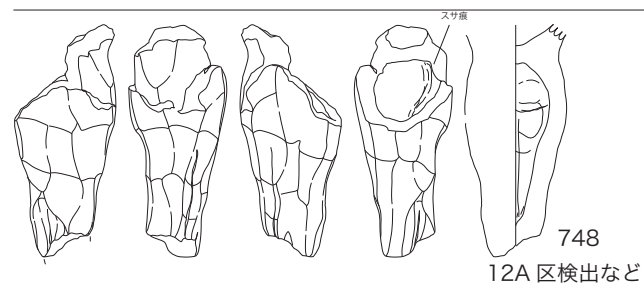
08Aa 区 H 層

図 145 製塩土器脚部実測図 8【知多式 2 類】

0 (1/3) 10cm



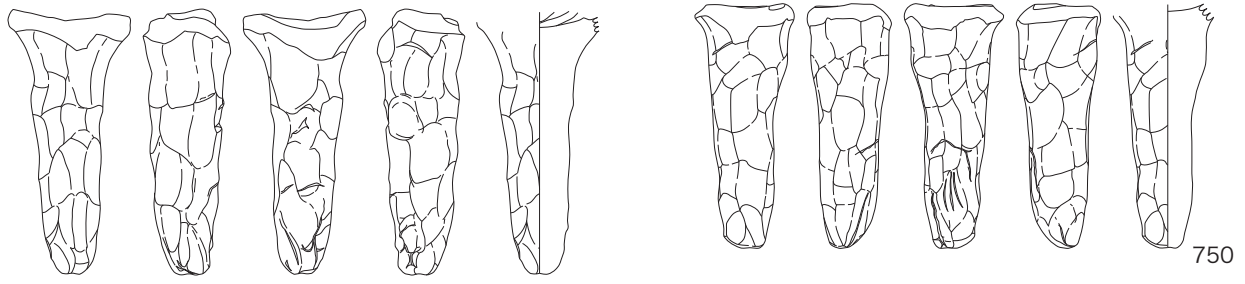
08Aa区検出など



08Ab区B'層

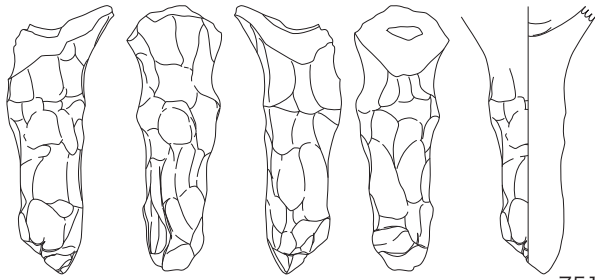
0 (1/3) 10cm

図 146 製塩土器脚部実測図 9【知多式 2 類】

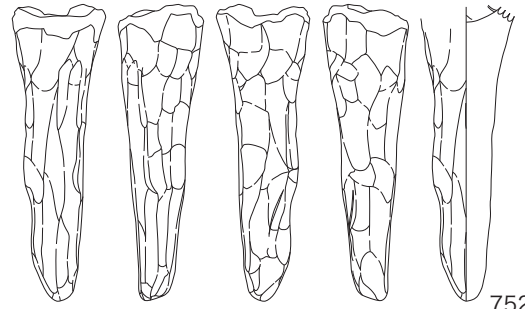


749

750

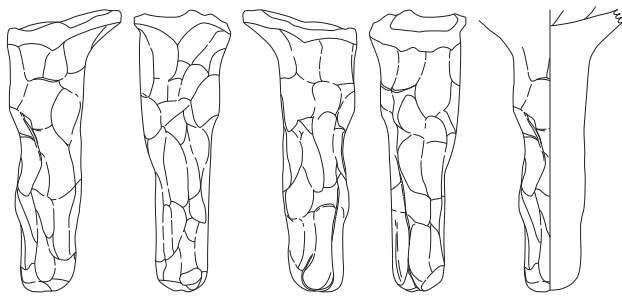


751



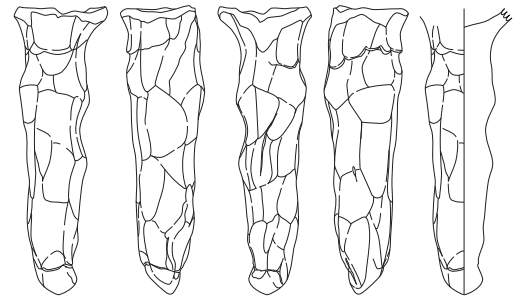
752

08Aa 区 C 層

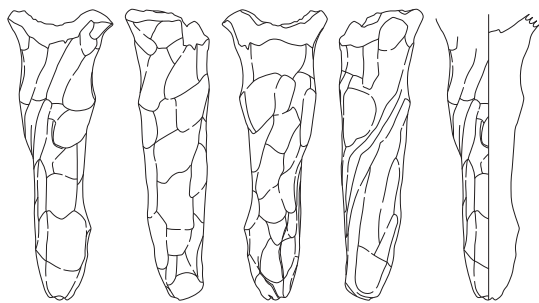


753

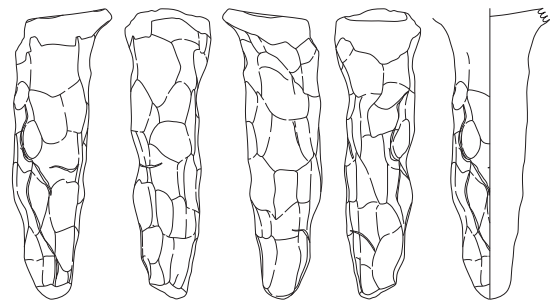
08Aa 区 C · D 層



754

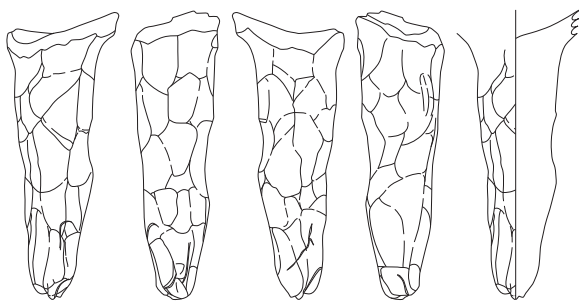


755

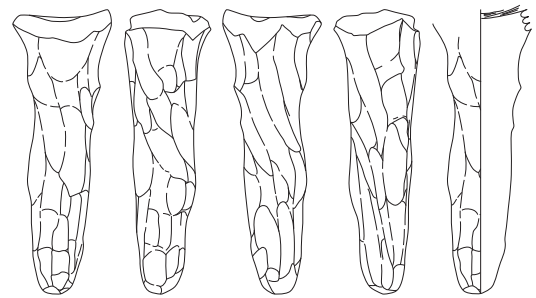


08Aa 区 E 層

756



757



08Aa 区 F 層

758

0 (1/3) 10cm

図 147 製塩土器脚部実測図 10 【知多式 3 類】

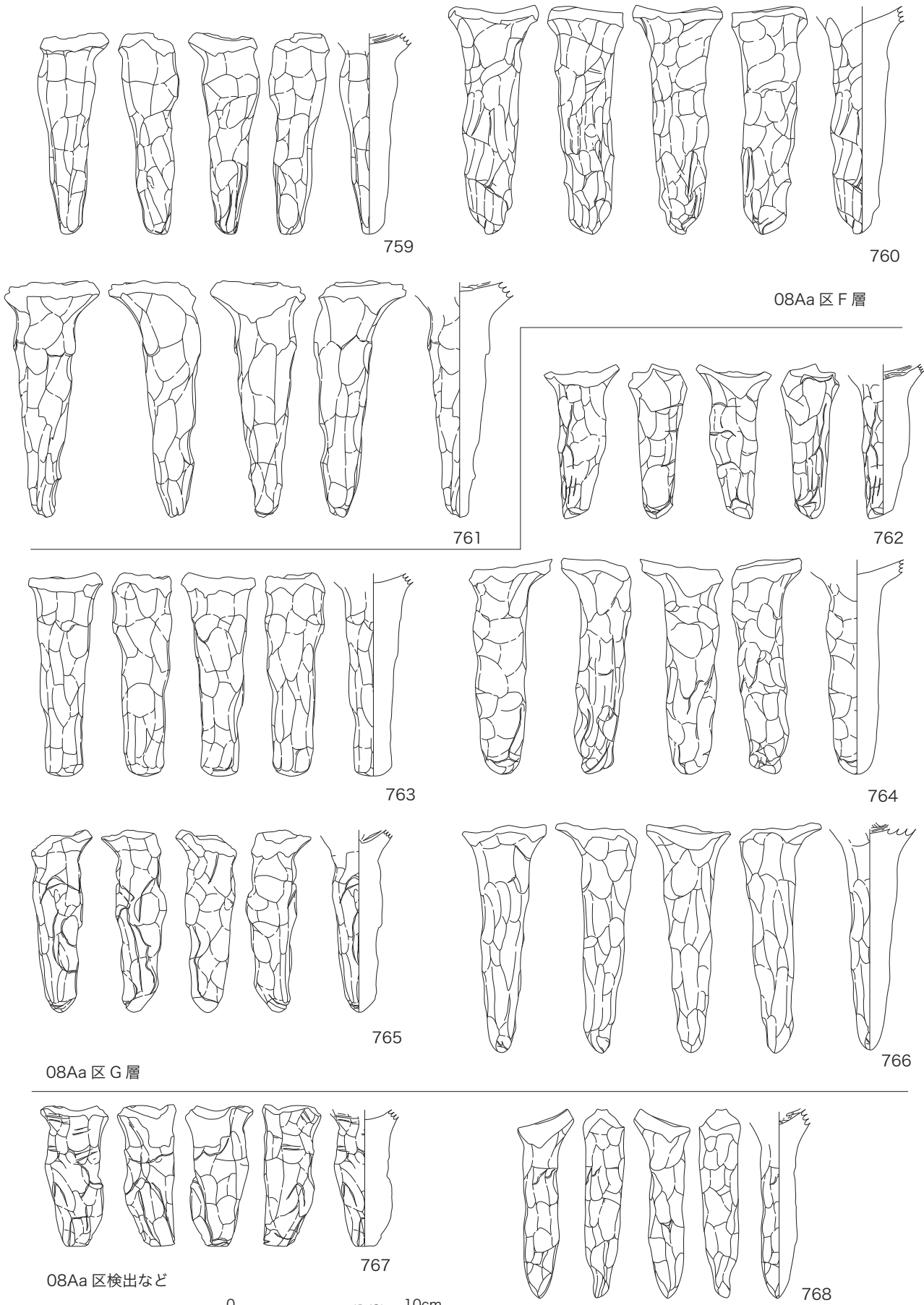


図 148 製塩土器脚部実測図 11【知多式 3 類】

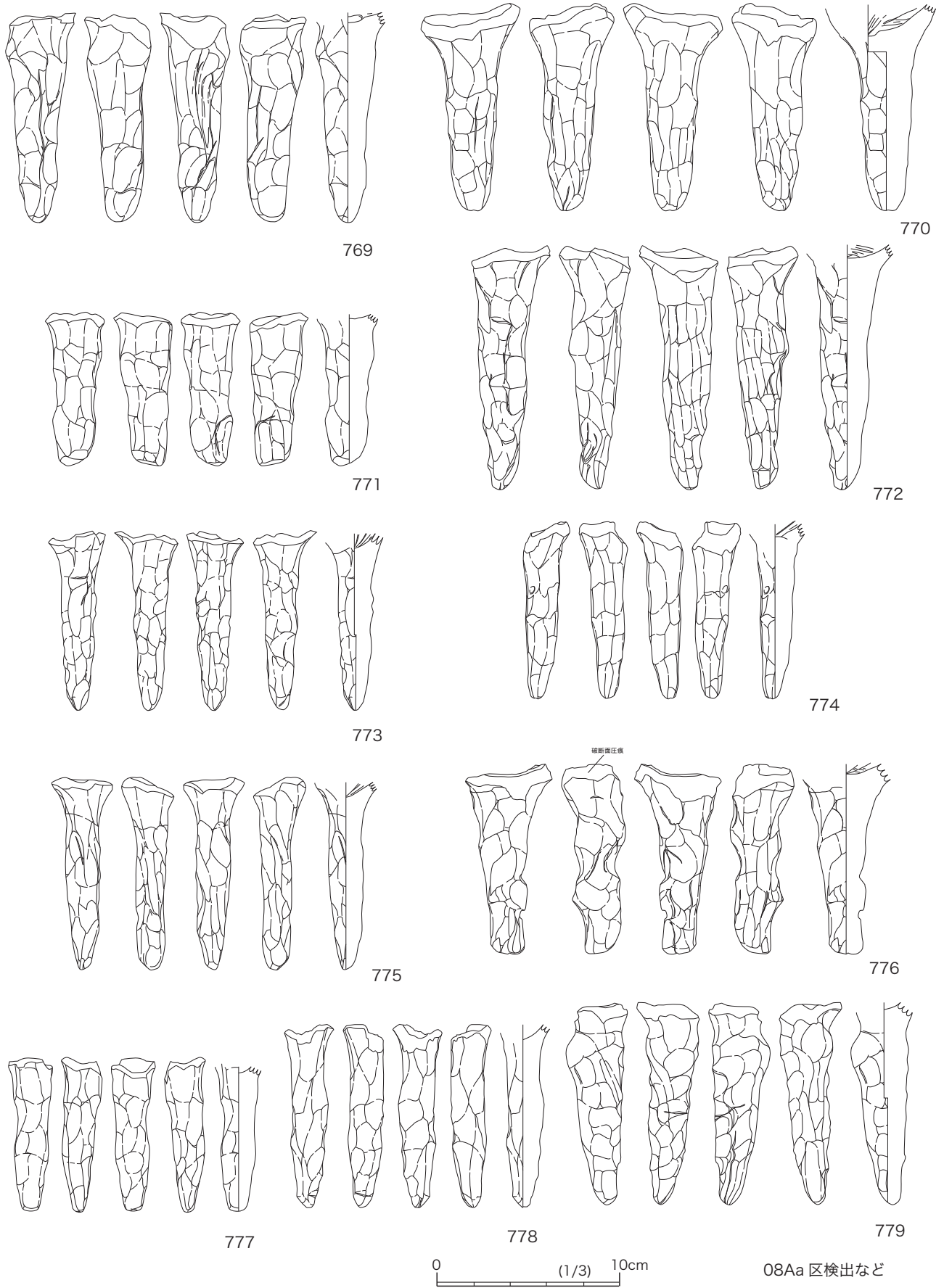


図 149 製塩土器脚部実測図 12【知多式 3 類】

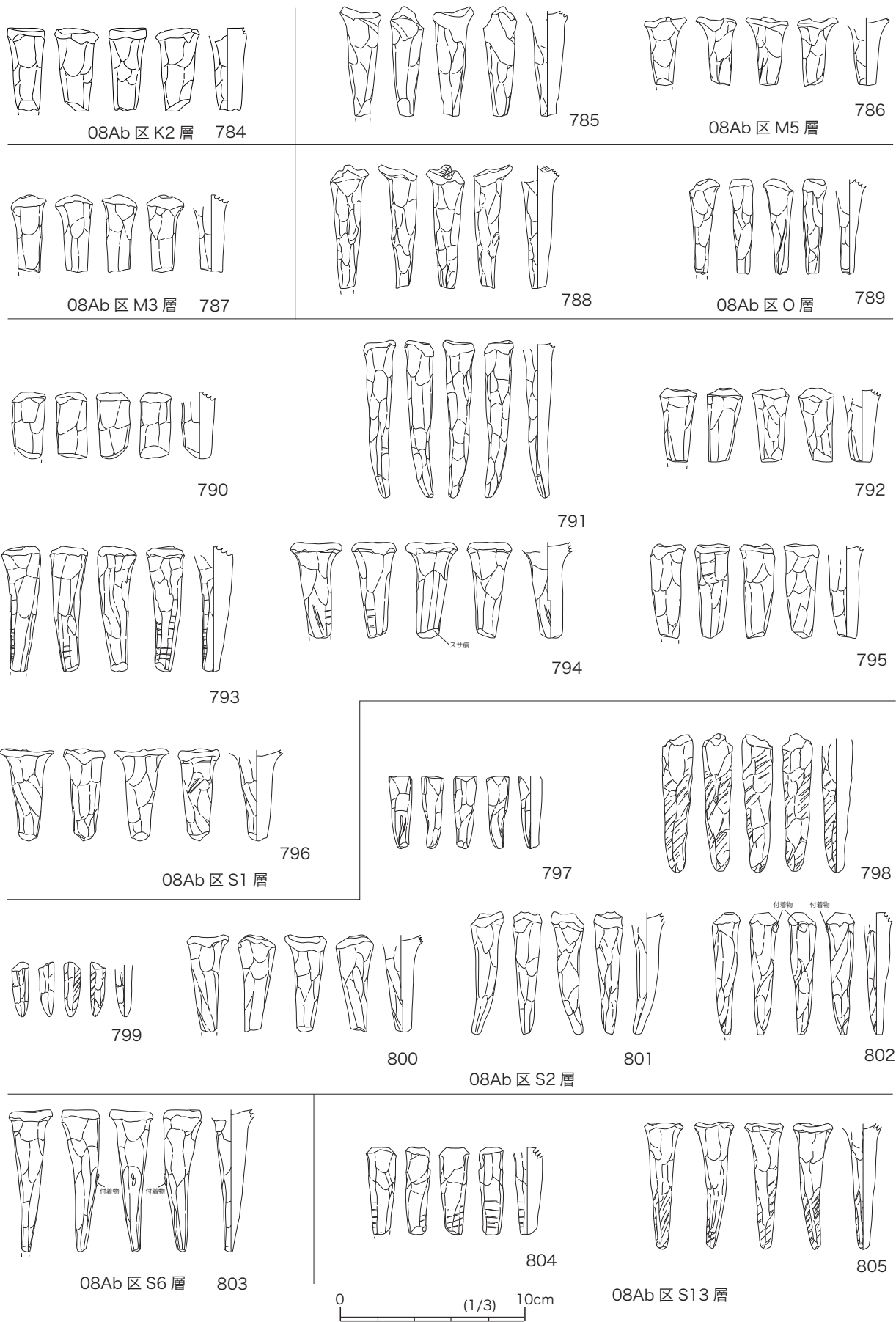


図 151 製塩土器脚部実測図 14 【知多式 4類】

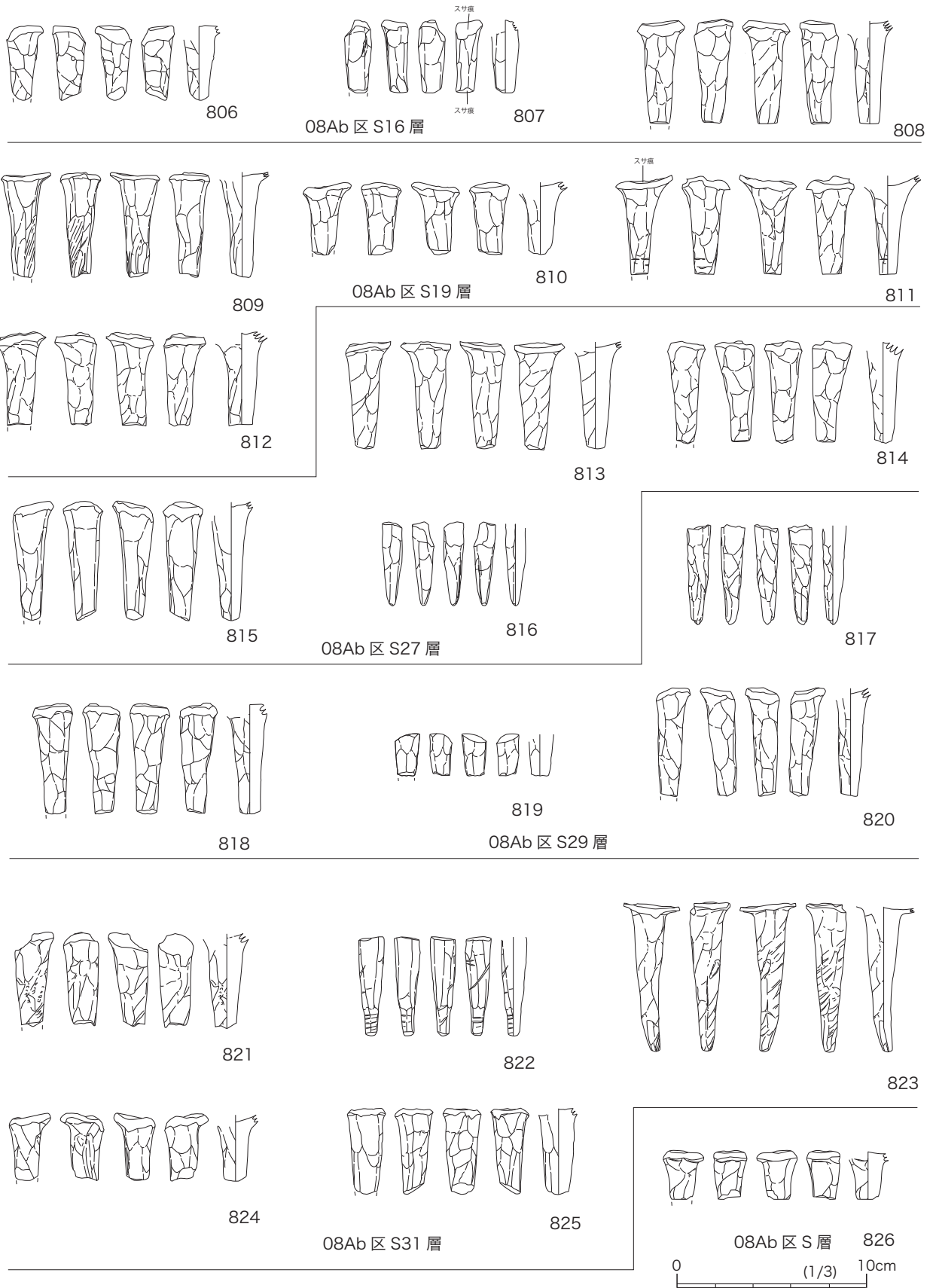


図 152 製塩土器脚部実測図 15【知多式 4 類】

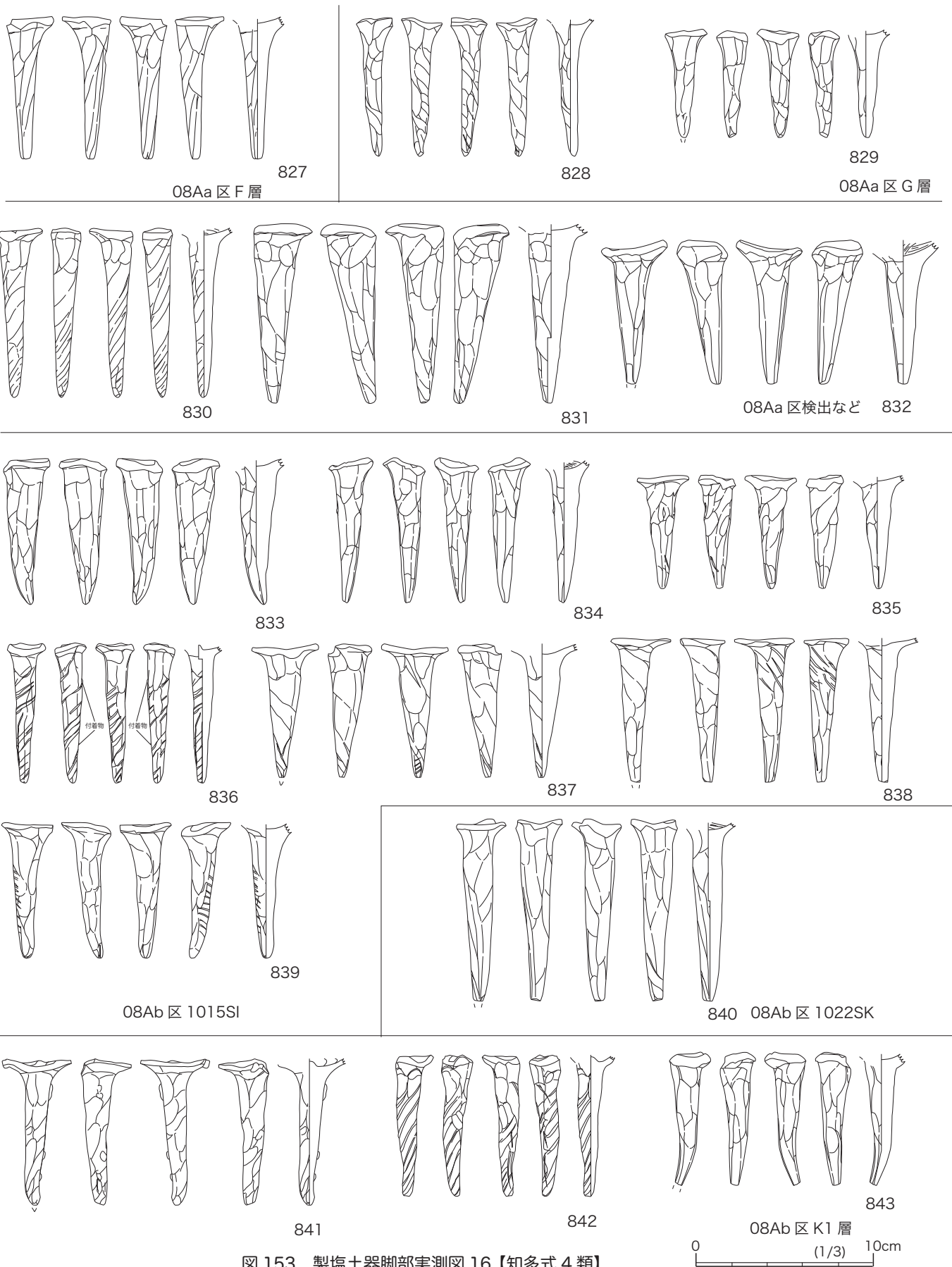


図 153 製塩土器脚部実測図 16【知多式4類】

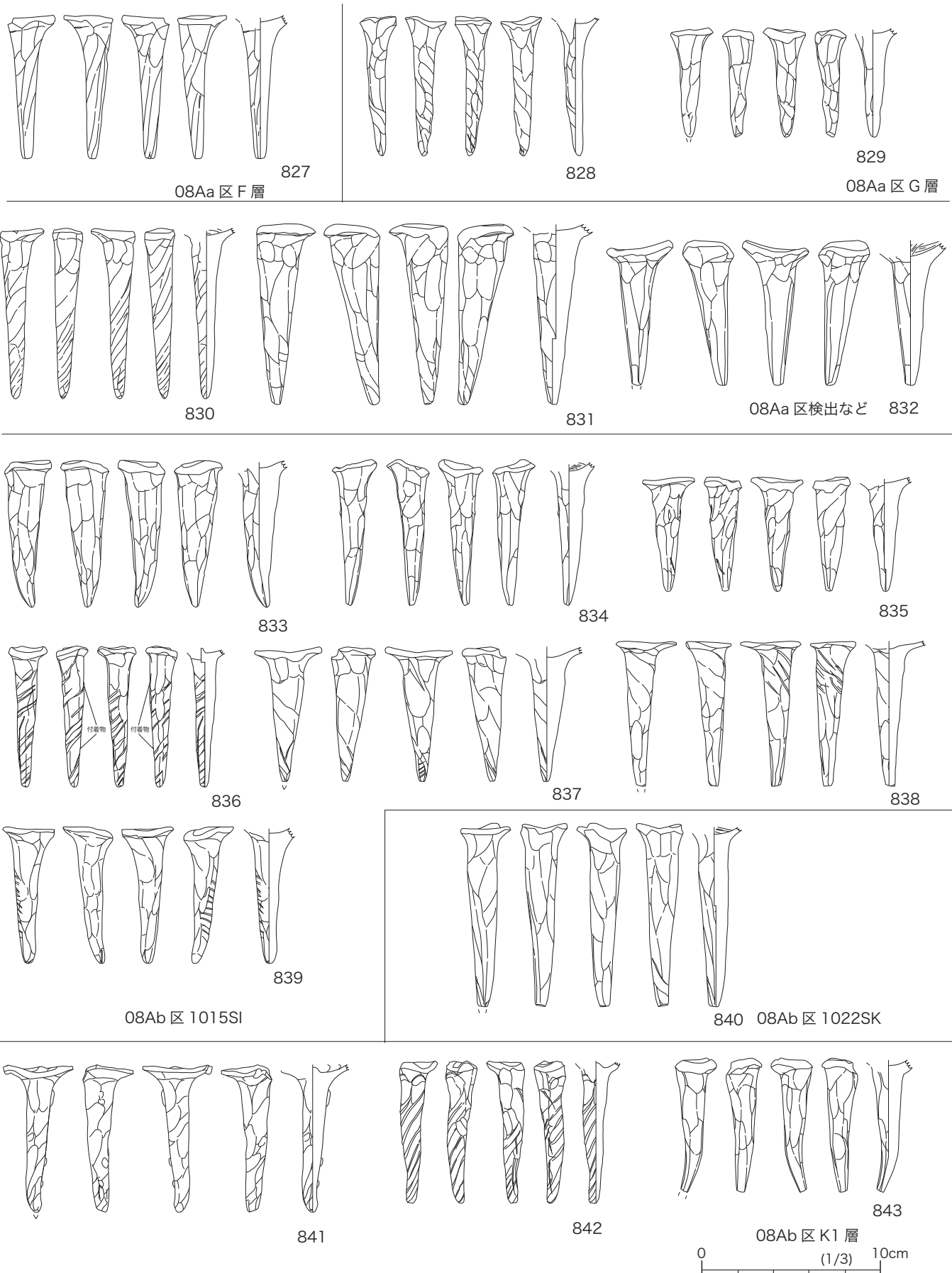
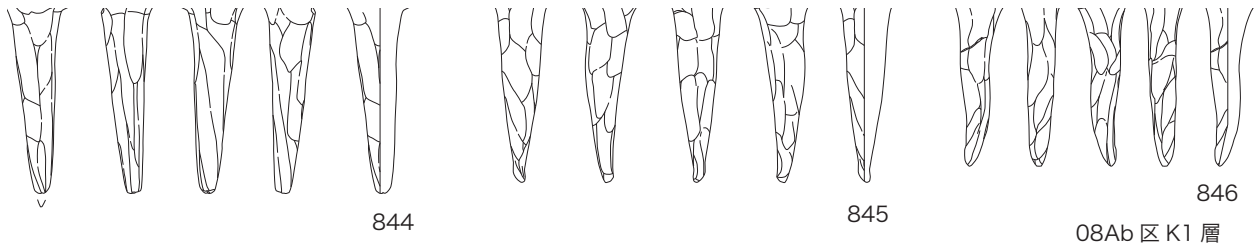


図 154 製塩土器脚部実測図 17 【知多式 4 類】

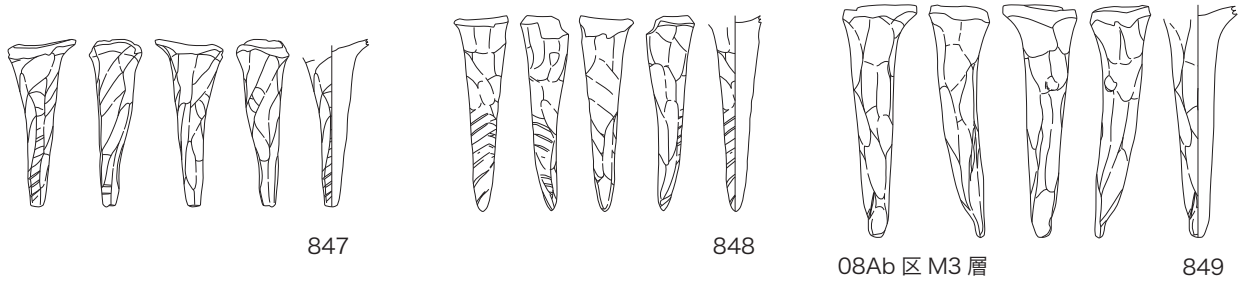


844

845

846

08Ab区 K1層

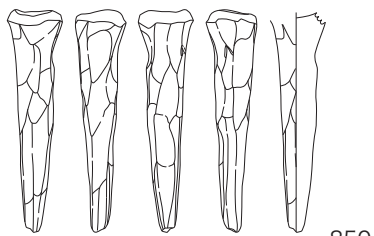


847

848

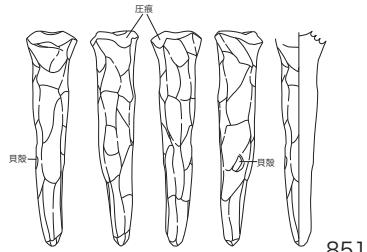
08Ab区 M3層

849



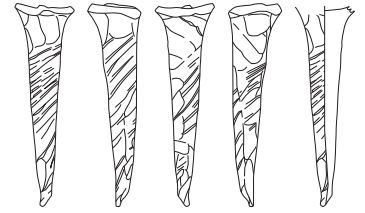
850

08Ab区 K2層



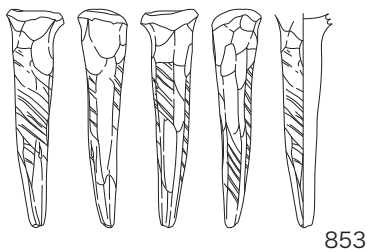
851

08Ab区 M5層

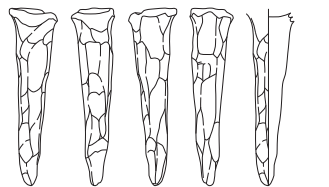


852

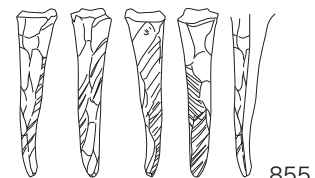
08Ab区 O層



853

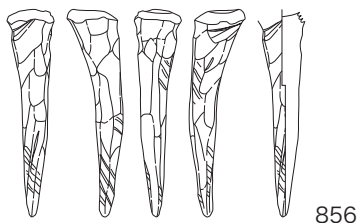


854

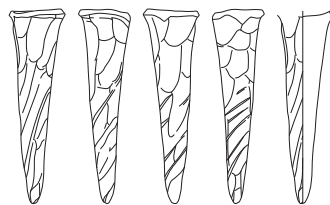


855

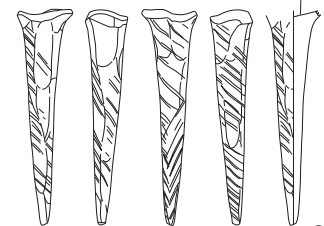
08Ab区 Q層



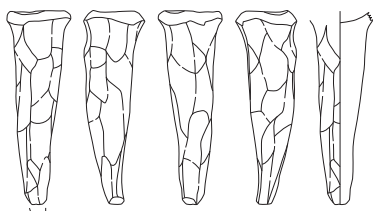
856



857



858



859

08Ab区 R層



図 155 製塩土器脚部実測図 18 【知多式 4 類】

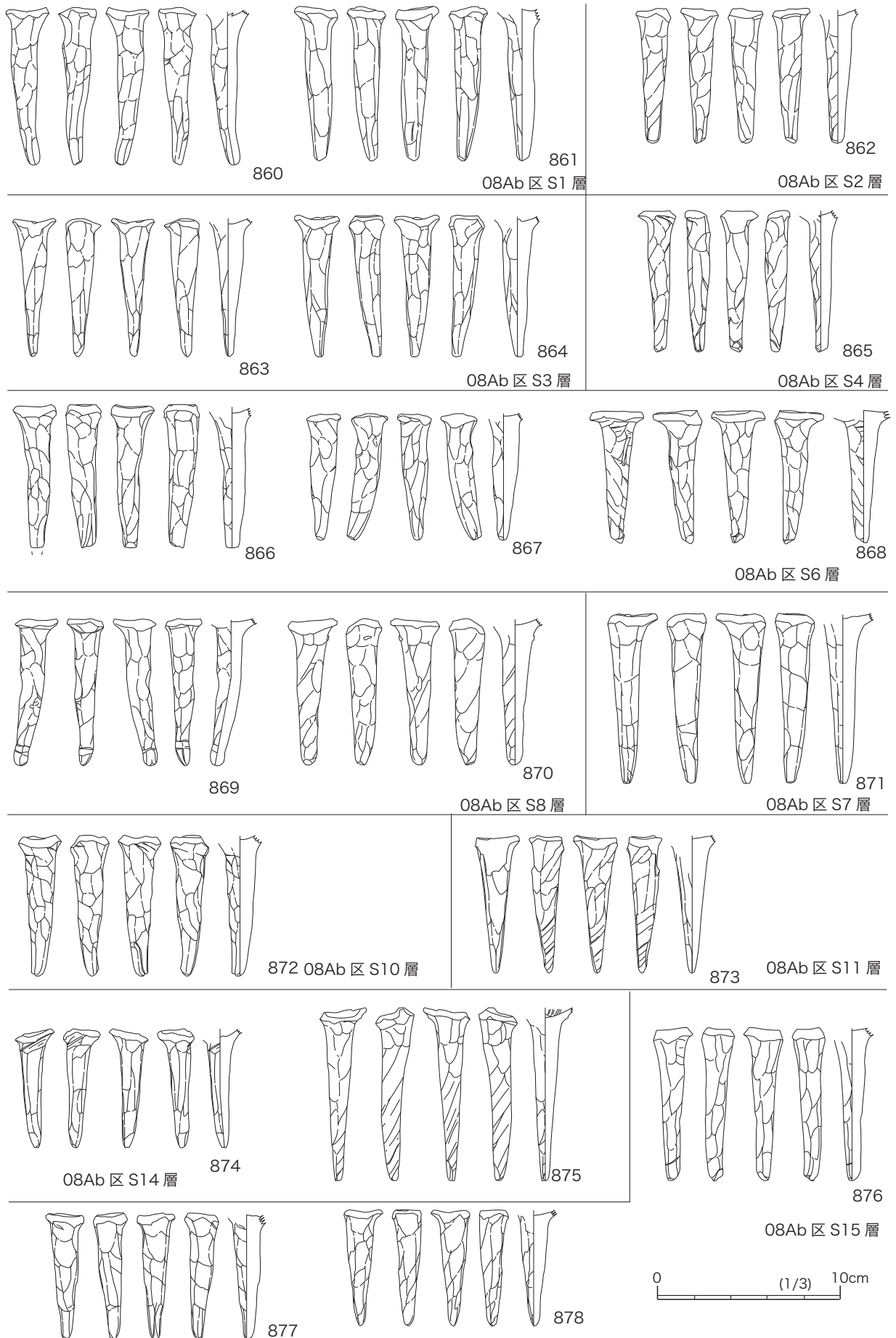


図 156 製塩土器脚部実測図 19【知多式 4 類】

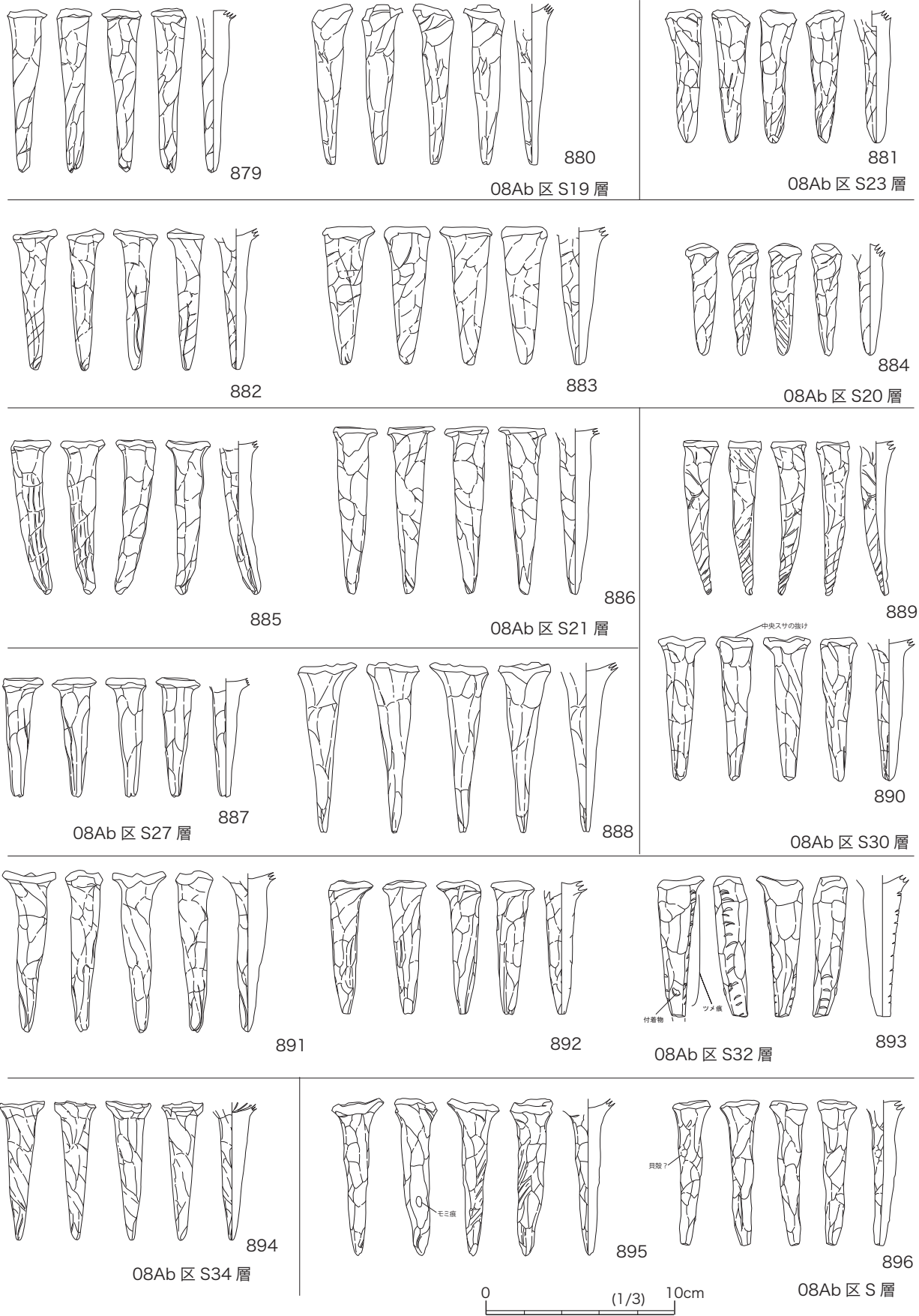


図 157 製塩土器脚部実測図 20 【知多式 4 類】

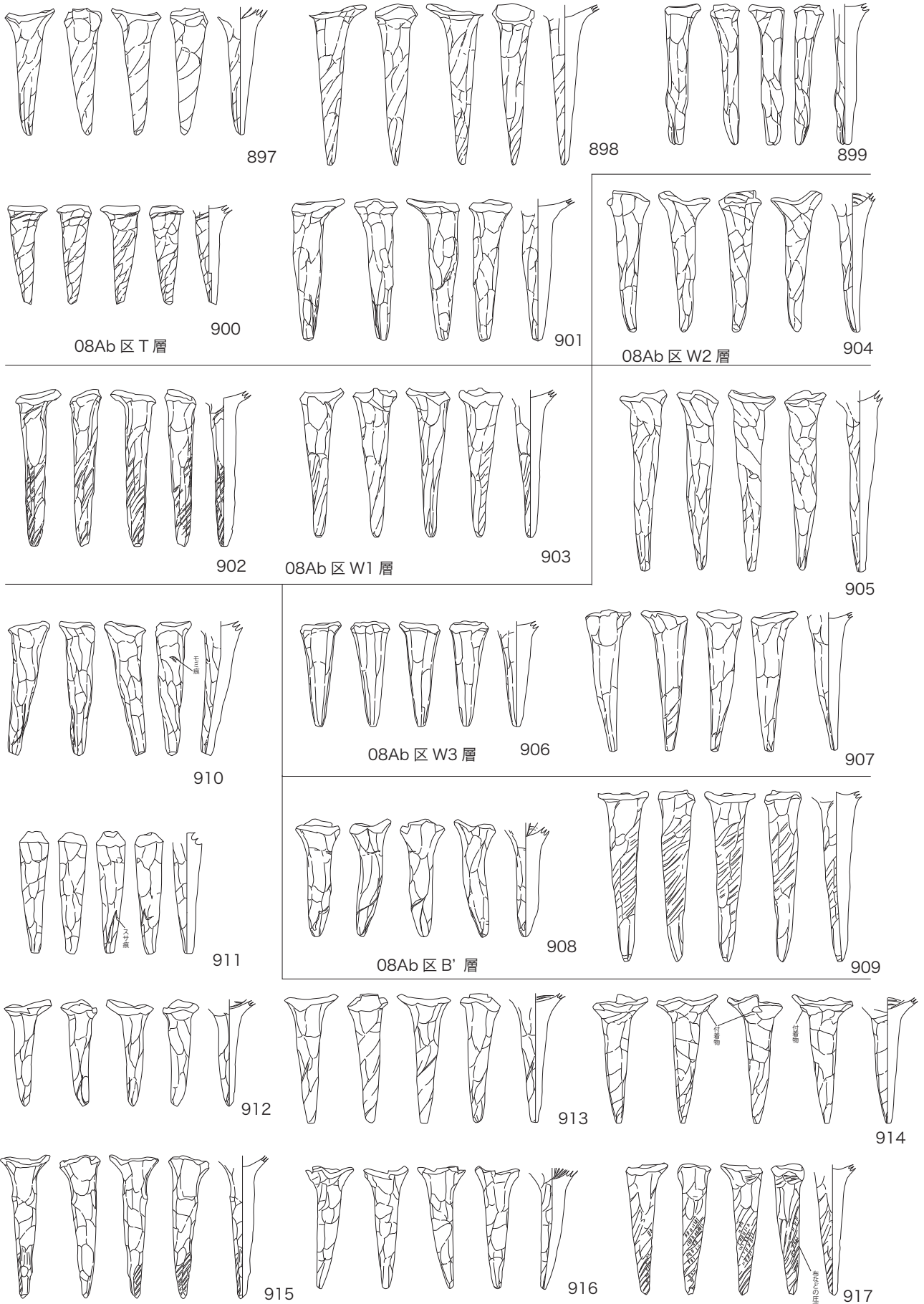


図 158 製塩土器脚部実測図 21 【知多式 4 類】

0 (1/3) 10cm

08Ab区検出など

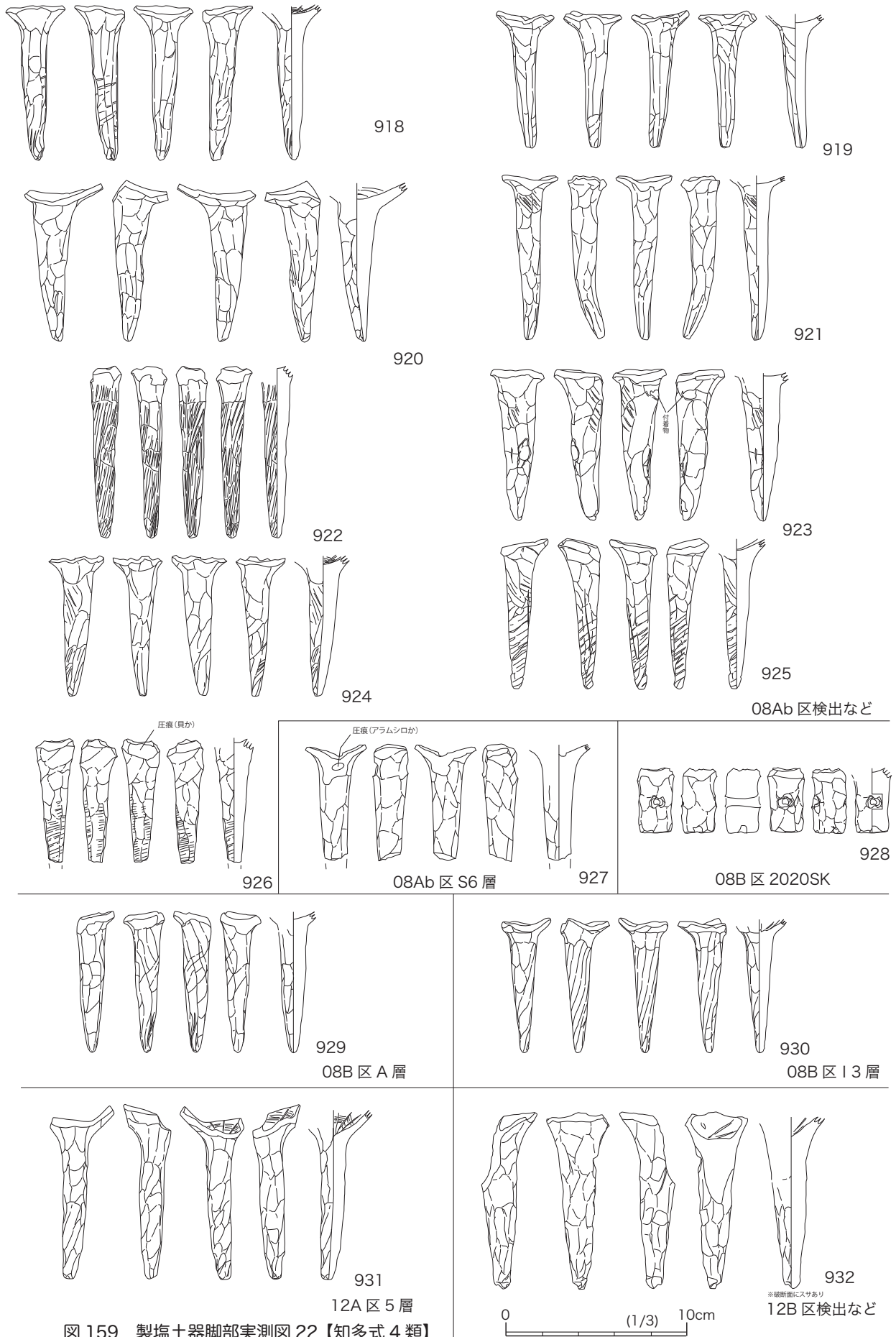
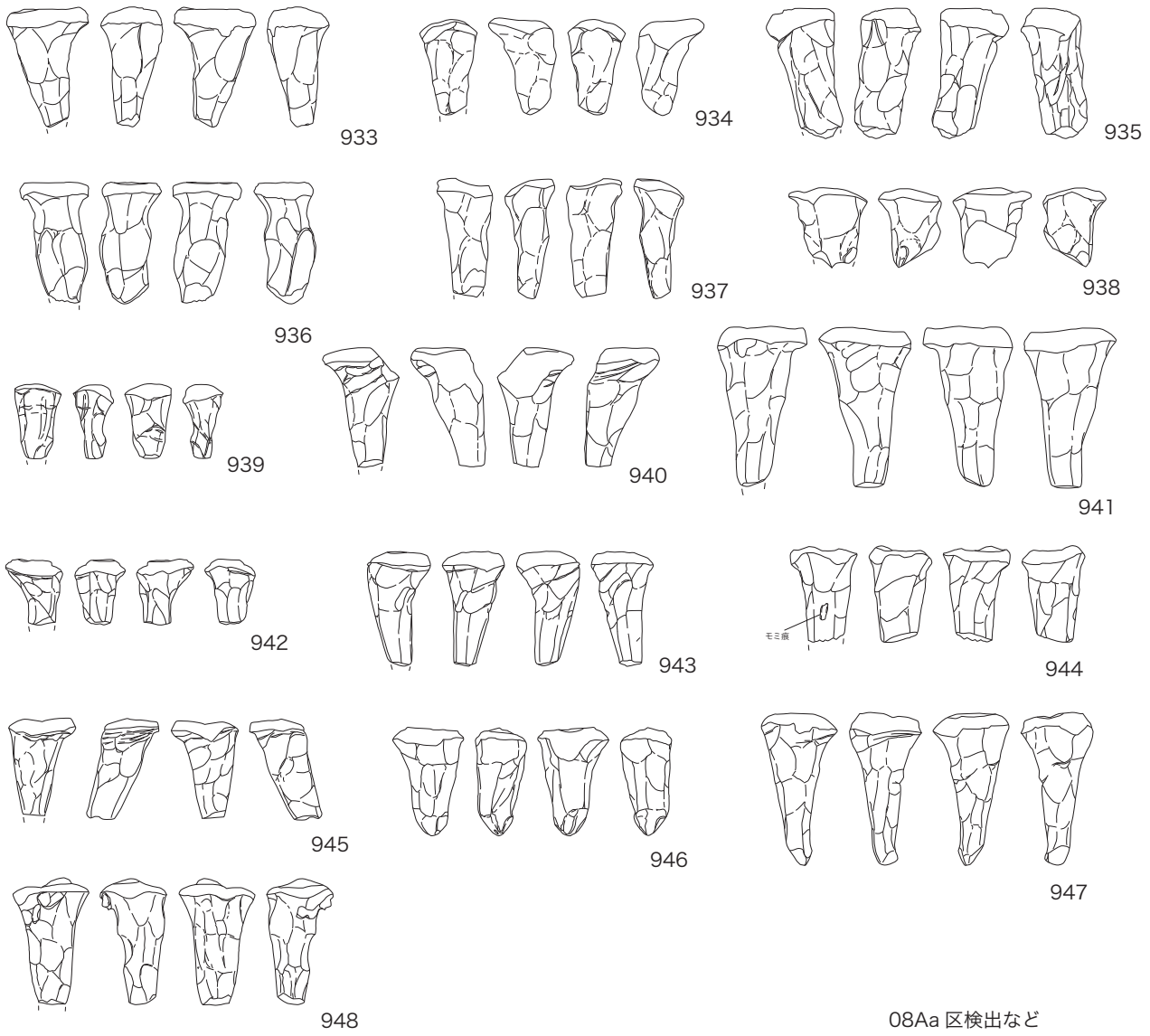
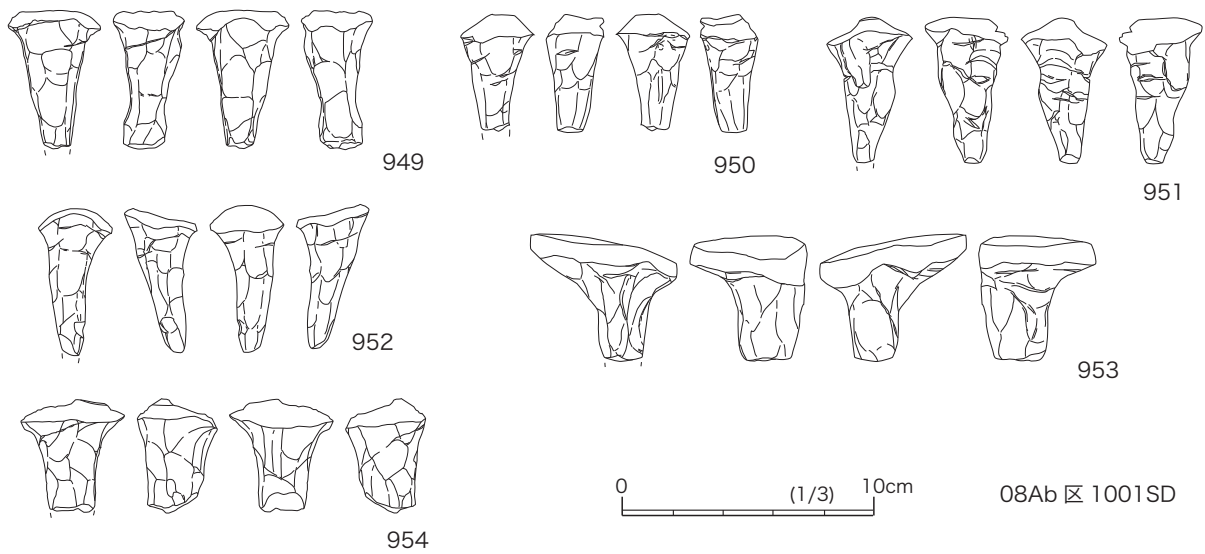


図 159 製塩土器脚部実測図 22 【知多式 4 類】



08Aa 区検出など



08Ab 区 1001SD

図 160 製塩土器脚部実測図 23 【知多式 5 類】

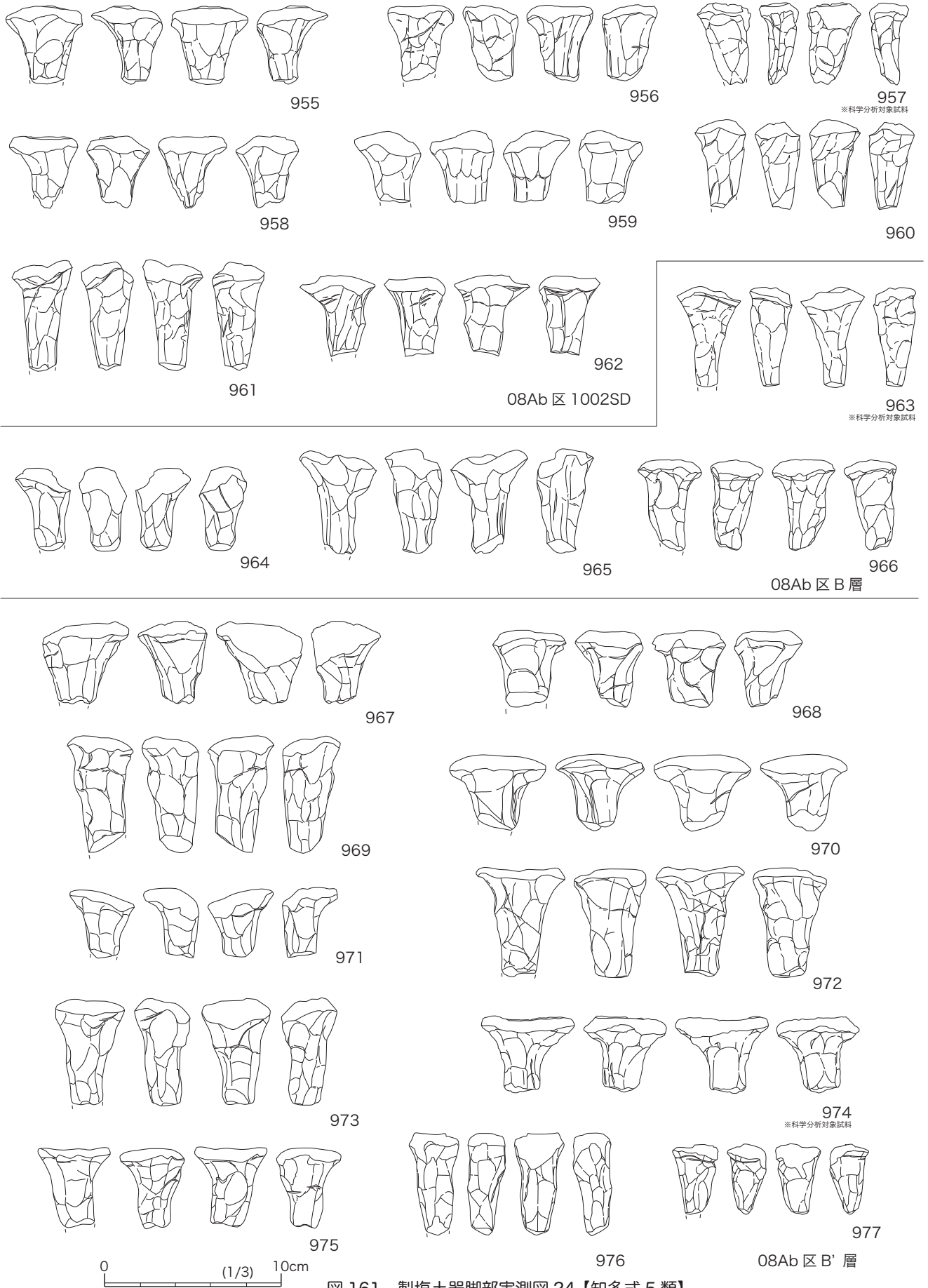


图 161 製塩土器脚部実測图 24 【知多式 5 類】

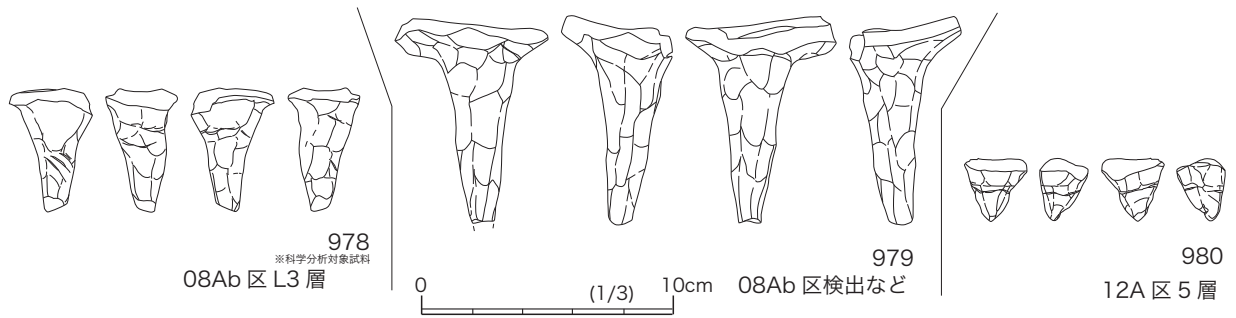


図 162 製塩土器脚部実測図 25【知多式 5 類】

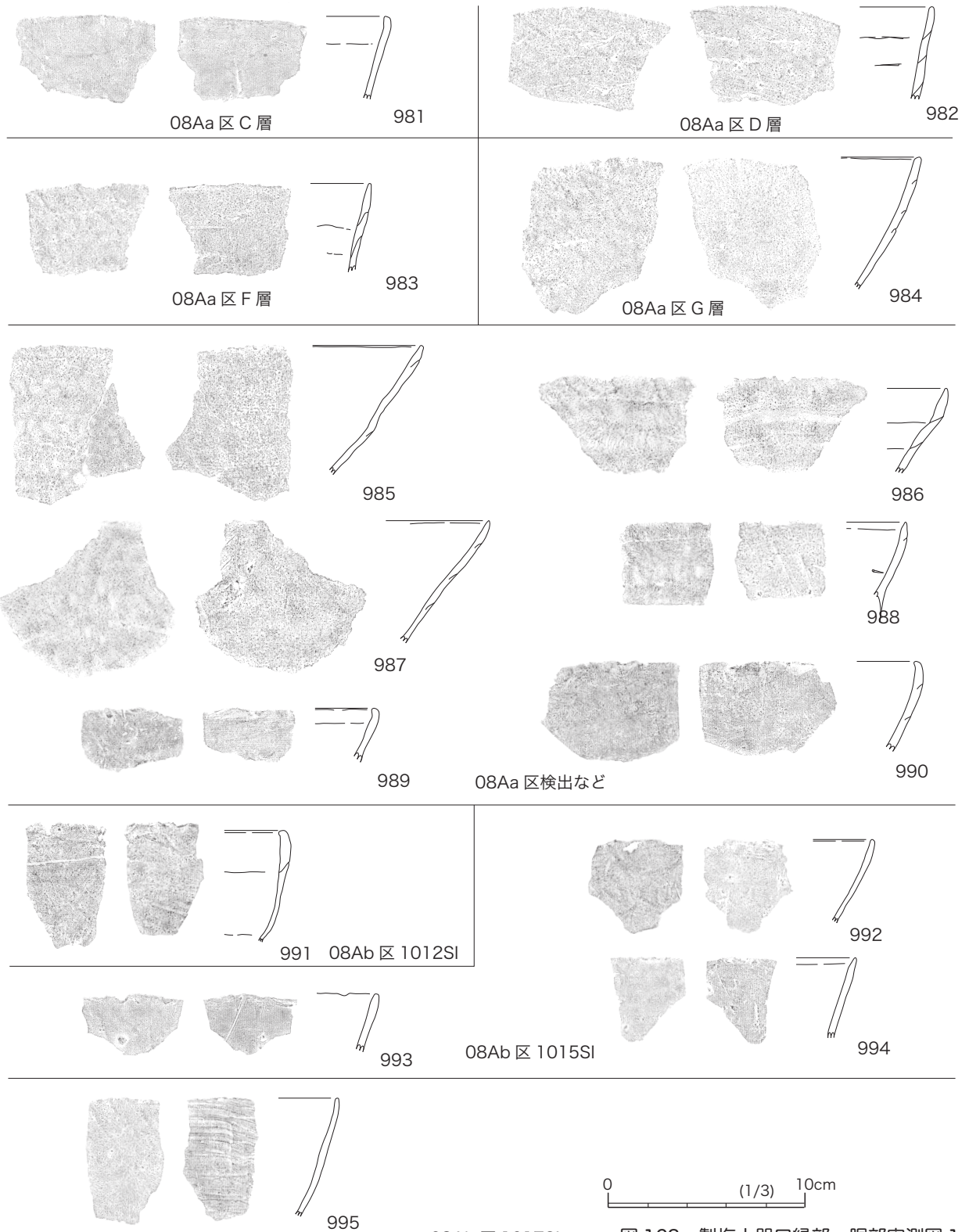
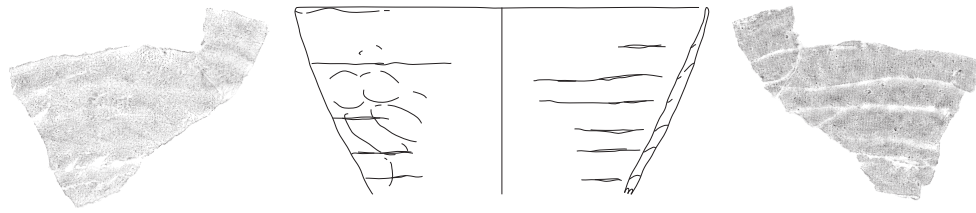
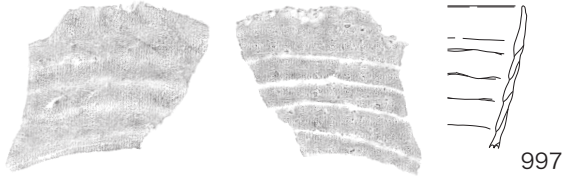


図 163 製塩土器口縁部・胴部実測図 1



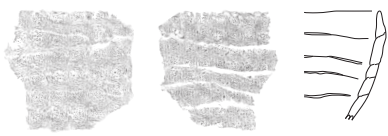
996



997



998



999

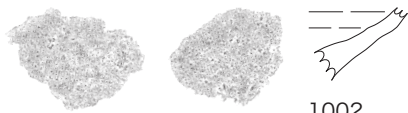


1000



1001

08Ab区 1031SX



1002

08Ab区 I層



1003

08Ab区 K2層

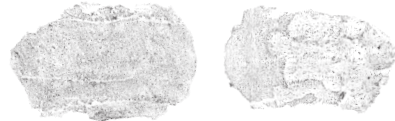


1004

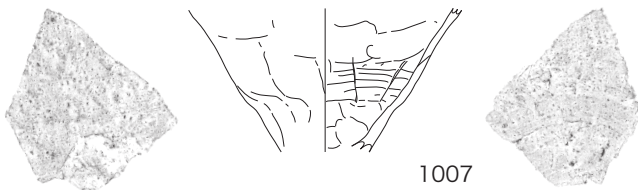
08Ab区 S2層



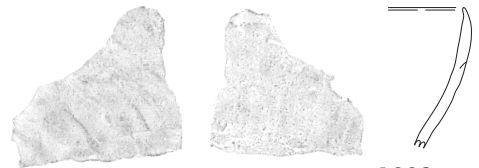
1005



1006

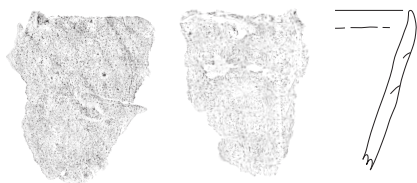


1007



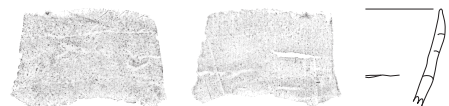
1008

08Ab区 V1層

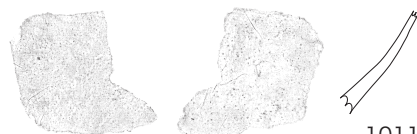


1009

08Ab区 V2層



1010



1011

0 10cm (1/3)

図 164 製塩土器口縁部・胴部実測図 2

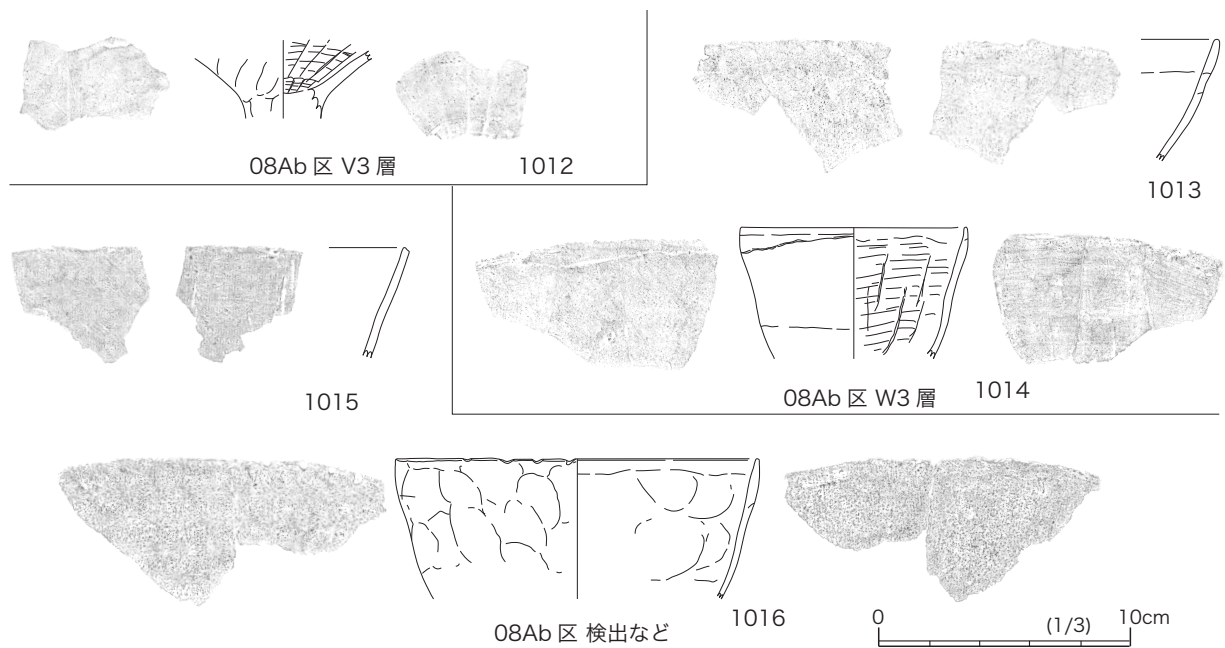


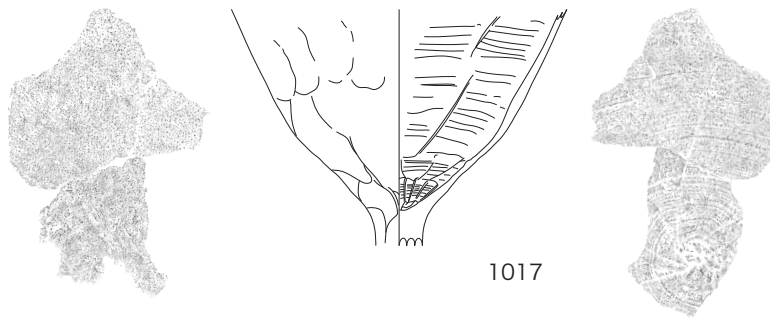
図 165 製塩土器口縁部・胴部実測図3

4. 口縁部・胴部について

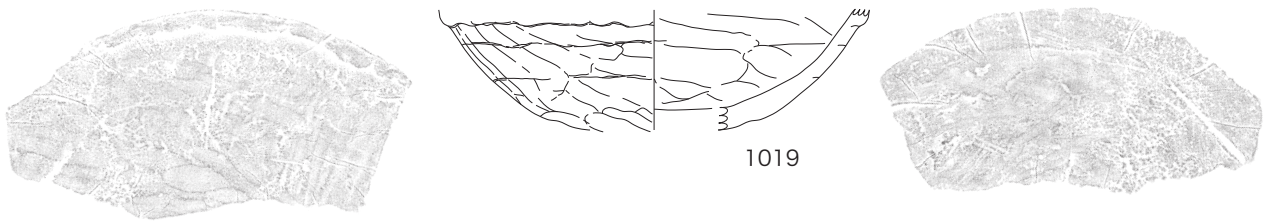
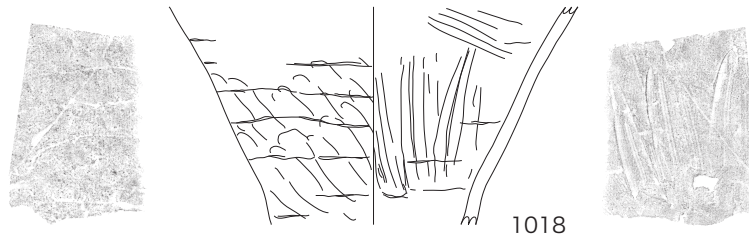
今回の調査分では、口縁部片・胴部片で、杯部だけでも全体の形状が窺い知れるものはごく限られていた。

その中でも、08Ab区 1031SXで出土したものは、器面内外面に粘土接合痕が明瞭に残るものがまとまっており、極めて特徴的である。1031SXからは1類の脚部が多数出土しており、その脚部内面も同様な状態を呈している。

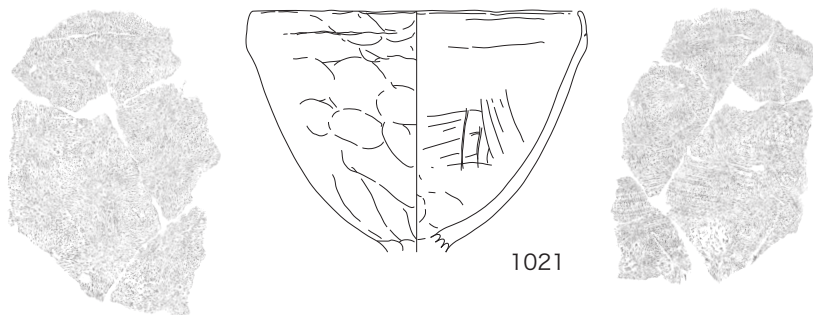
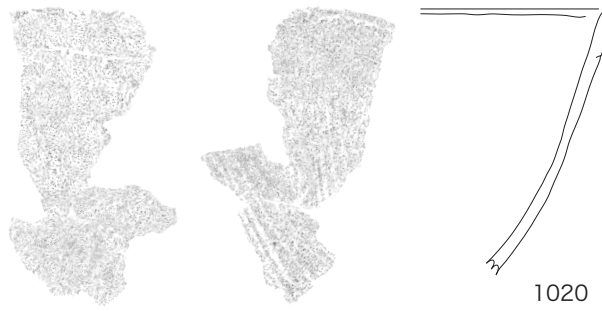
1003は4A3類など、小型の部類に対応する杯部であろう。1004も同様かもしれない。



08B区 2020SK



08B区 2037SI



0 10cm (1/3)

08B区 F層

图 166 製塩土器口縁部・胴部実測図 4

第4節 土製品・石製品

1. 土器製塩操業時の土製品

a. 土錘

今回の報告する土製品で最も点数が多い器種になる。形態上、大きくは管状土錘・球状土錘があり、管状土錘が325点・球状土錘が20点出土した。これら土錘を、以下のように、管状土錘はA～D類に、球状土錘はA～C類に分類した(図167)。

管状A類：中央部で最大径を測り、端部径との差が著しいもの。

管状B類：中央部で最大径を測るが、端部径との差はA類ほど著しくないもの。

管状C類：細長い筒状を呈するもの。

管状D類：太い筒状を呈するもの。

球状A類：球状を意識して作られたもの。製作上、やや潰れた形状を呈しているものもここに入れる。

球状B類：平面形状が面長な楕円形を呈するものである。

管状土錘では、A類が273点、B類が21点、C類が21点、D類が3点、である。これで示

すように、A類が主体となっていることが分かる。球状土錘については、20点中18点がA類で、主体となっている。資料の全体の3分の2は、欠損状態であり、かつ全形を窺えられる資料についても孔端部に磨滅や微細な剥離などがあり、使用されたものと考えられる。2061などのように端部が欠損しても使用され続けたため、上下の形状が不均等となっているものもある。2083は製作時に潰れてしまったようで、孔径が極めて狭く、磨滅痕なども確認できないことから、錘としては使用されてなかったものと考えられる。

図174は、完形資料について、分類別に重量と孔径との関係を散布図に示したものである。管状D類の2048は重量80gを越え、かつ孔径も大きいなど今回の資料群の中では特異な存在となっている。球状B類の2089も重量60gと、土錘群の中では特別に大きいといえる。管状土錘では重量10g以下、孔径の大きさ4.5mm以下で著しい集中が認められる。より重量のあるものも散見され、40g程度までは連続して確認することができる。一方、球状土錘について見ると、資料数が少なく断言できないが、重量20～30gの範囲でやや集中が認められる。

土錘について分類別に出土状況を示したのが、図175～177である。管状A類の分布では、08Aa区と08B区で集中して出土していることを指摘することができる。一方、08Ab区は、第1次調査区と重複しているとはいえ、重複していない範囲においても出土状況は散発的であり、12B区と類似した状況を呈している。

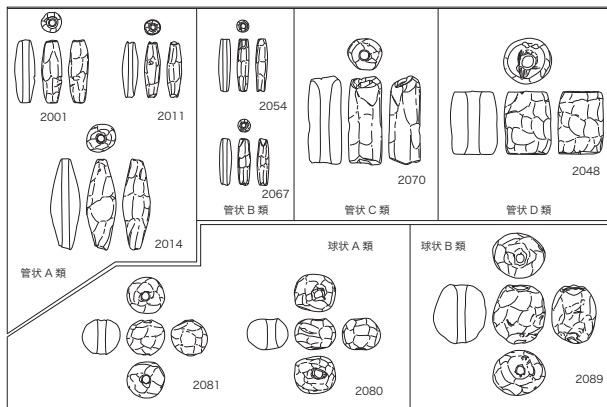


図167 土錘分類図

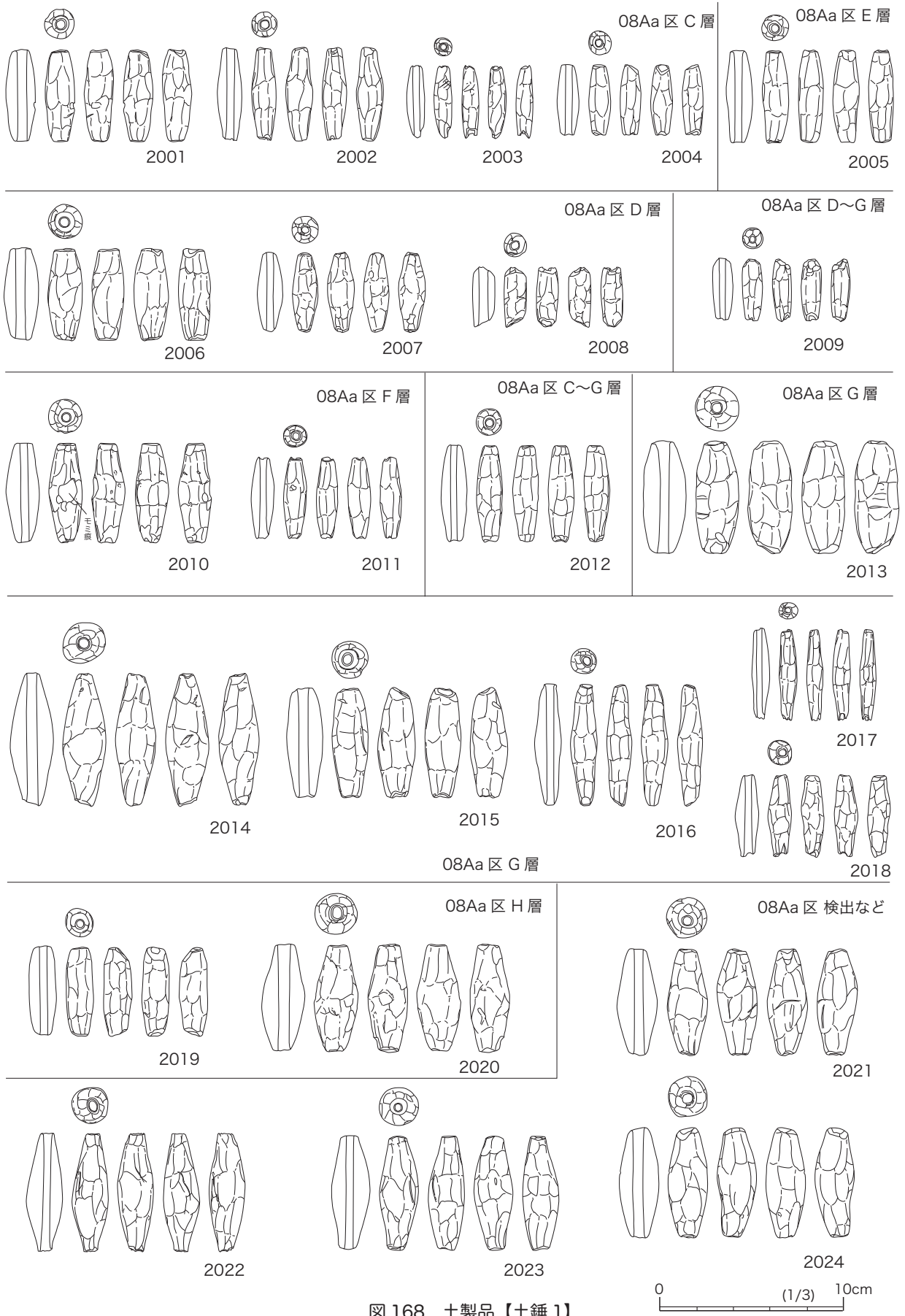


図 168 土製品【土錘 1】

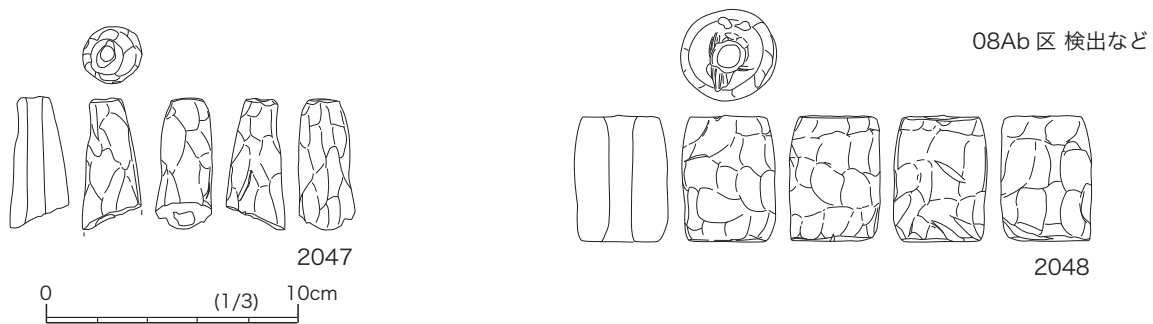
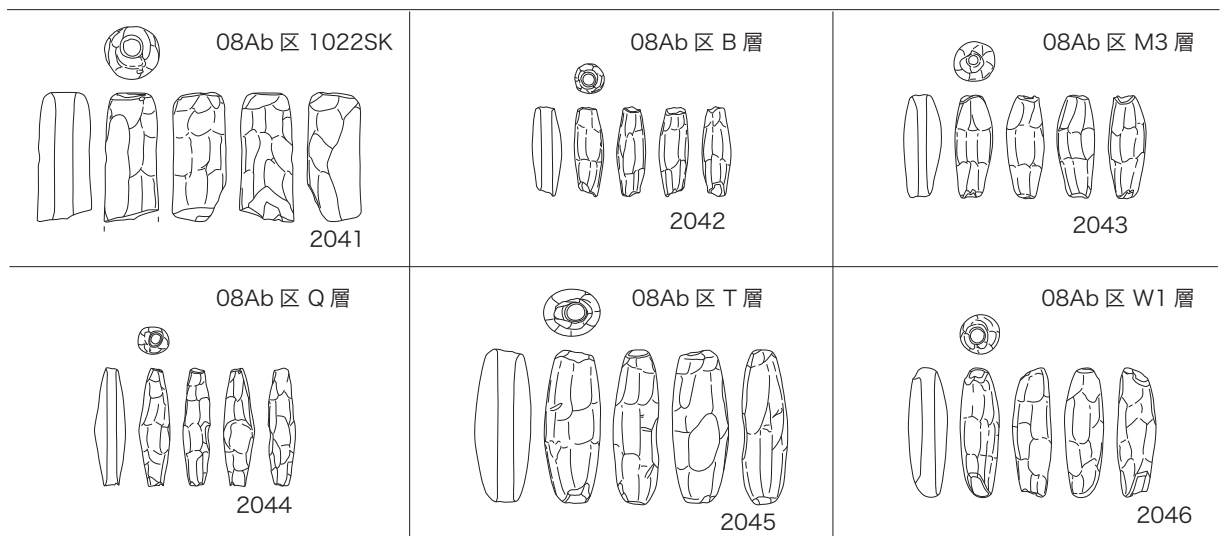
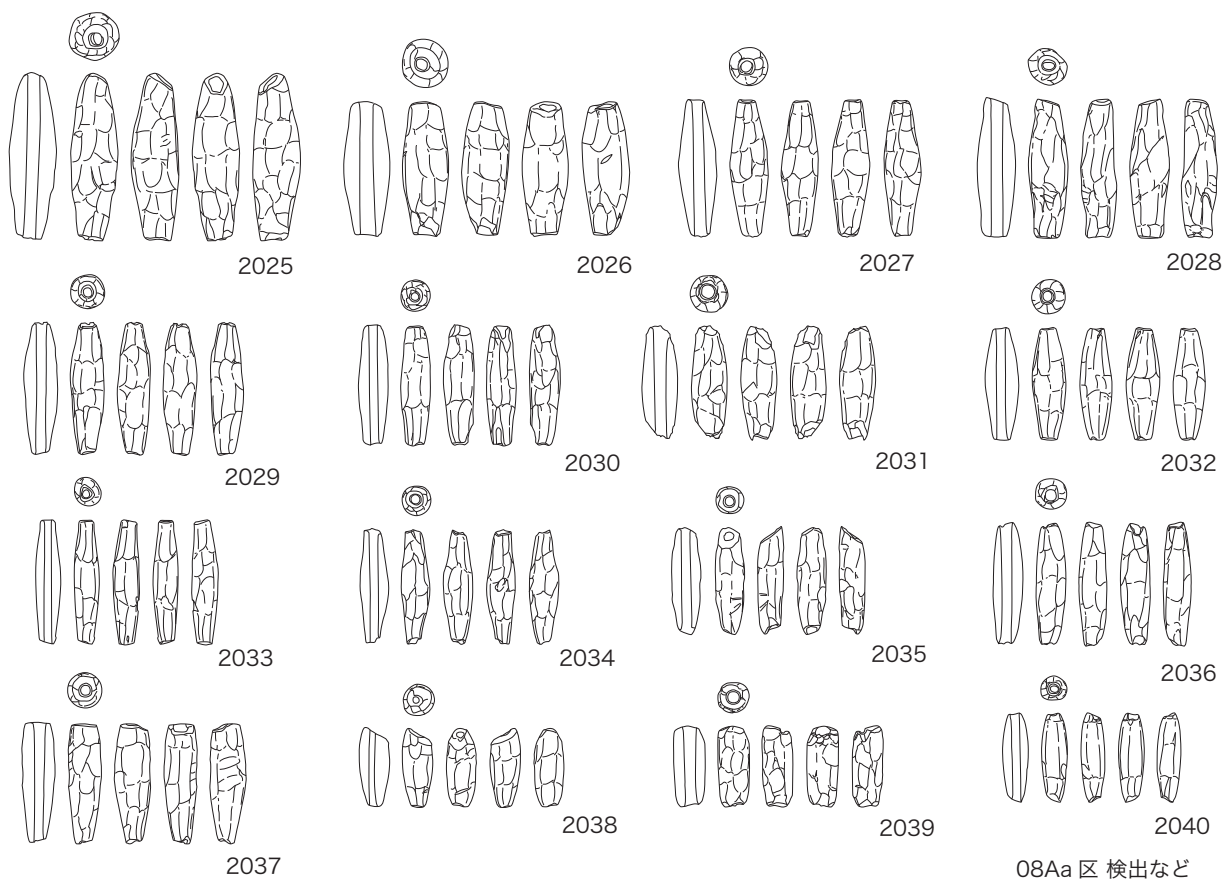


図 169 土製品【土錘 2】

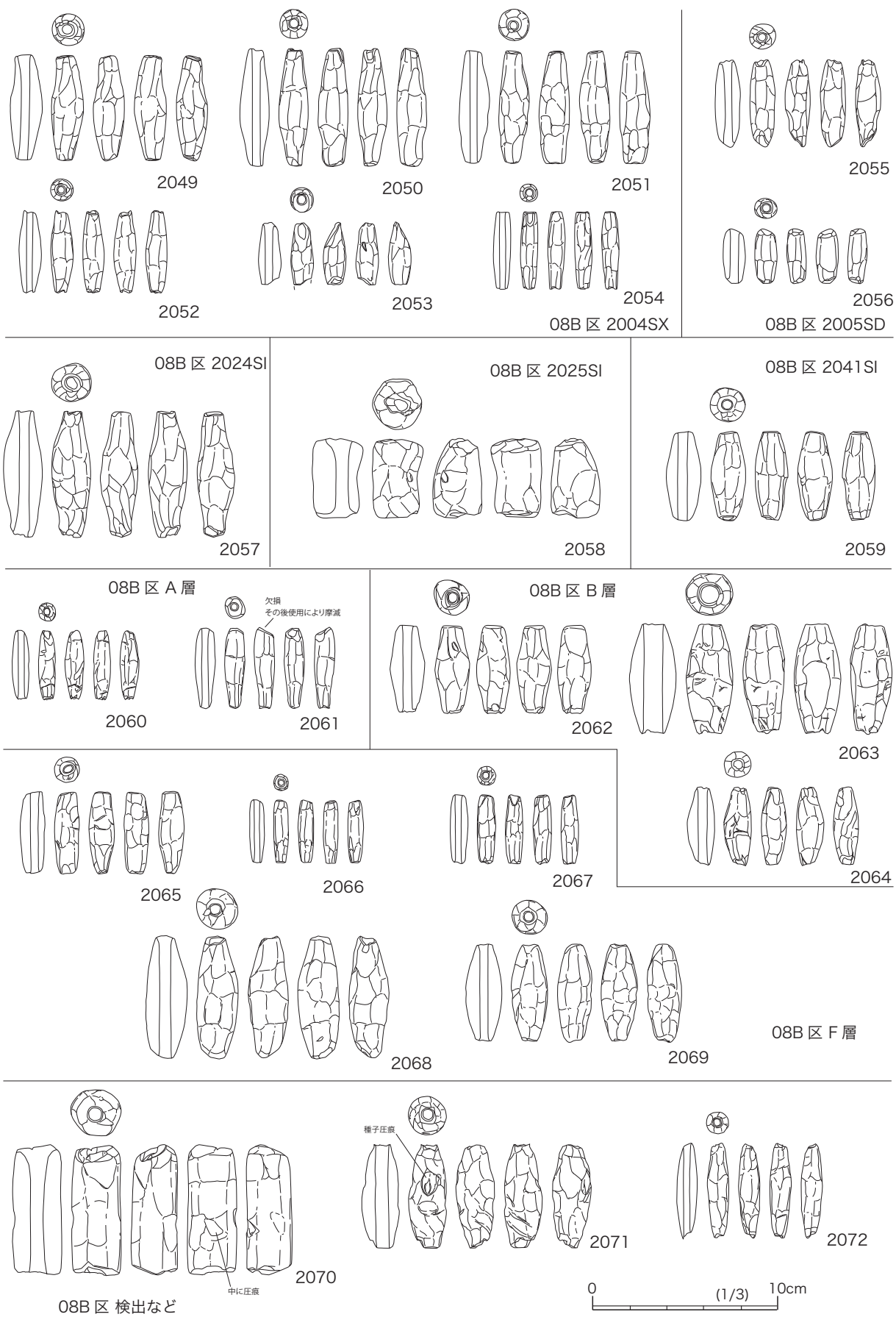


図 170 土製品【土錘 3】

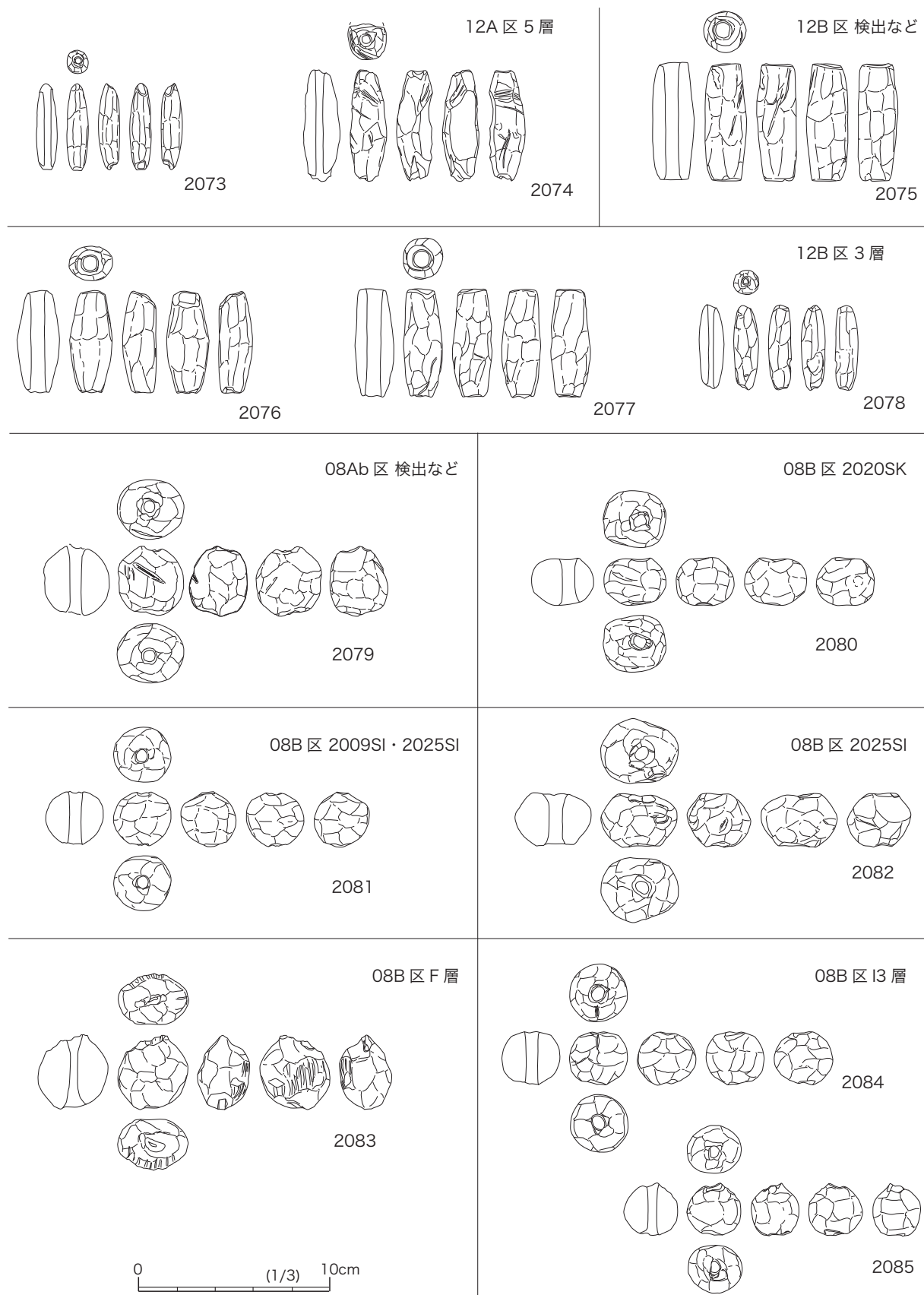
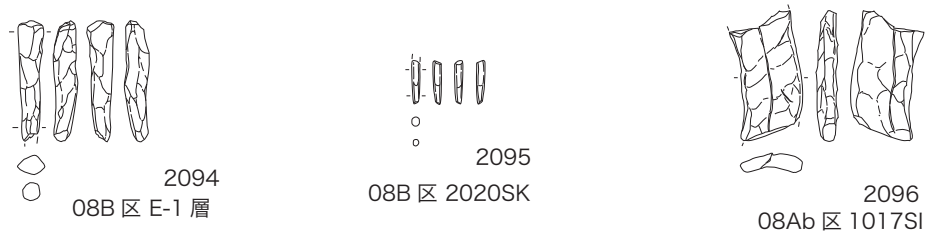
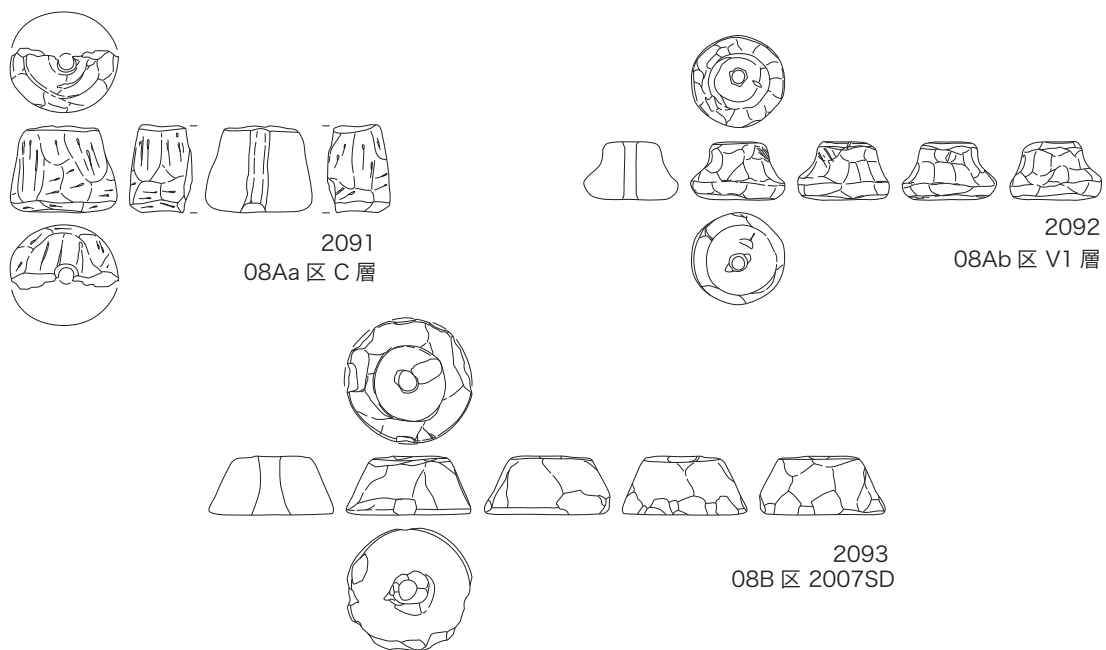
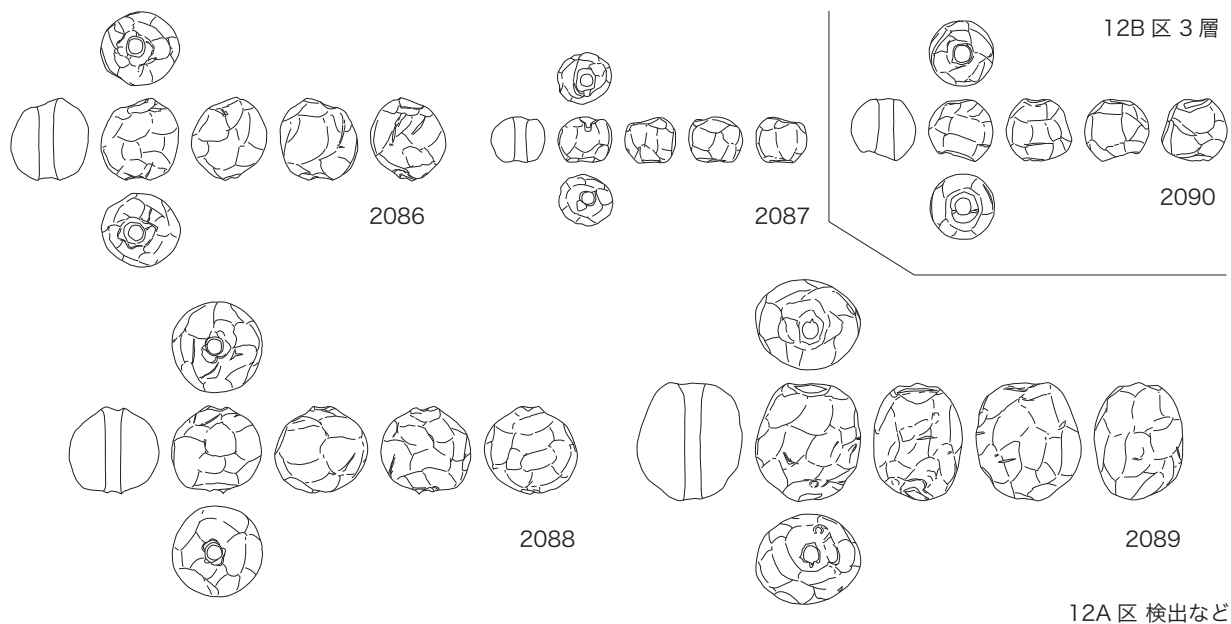


図 171 土製品【土錘 4】



0 (1/3) 10cm

図 172 土製品【土錘 5・紡錘車・不明土製品】

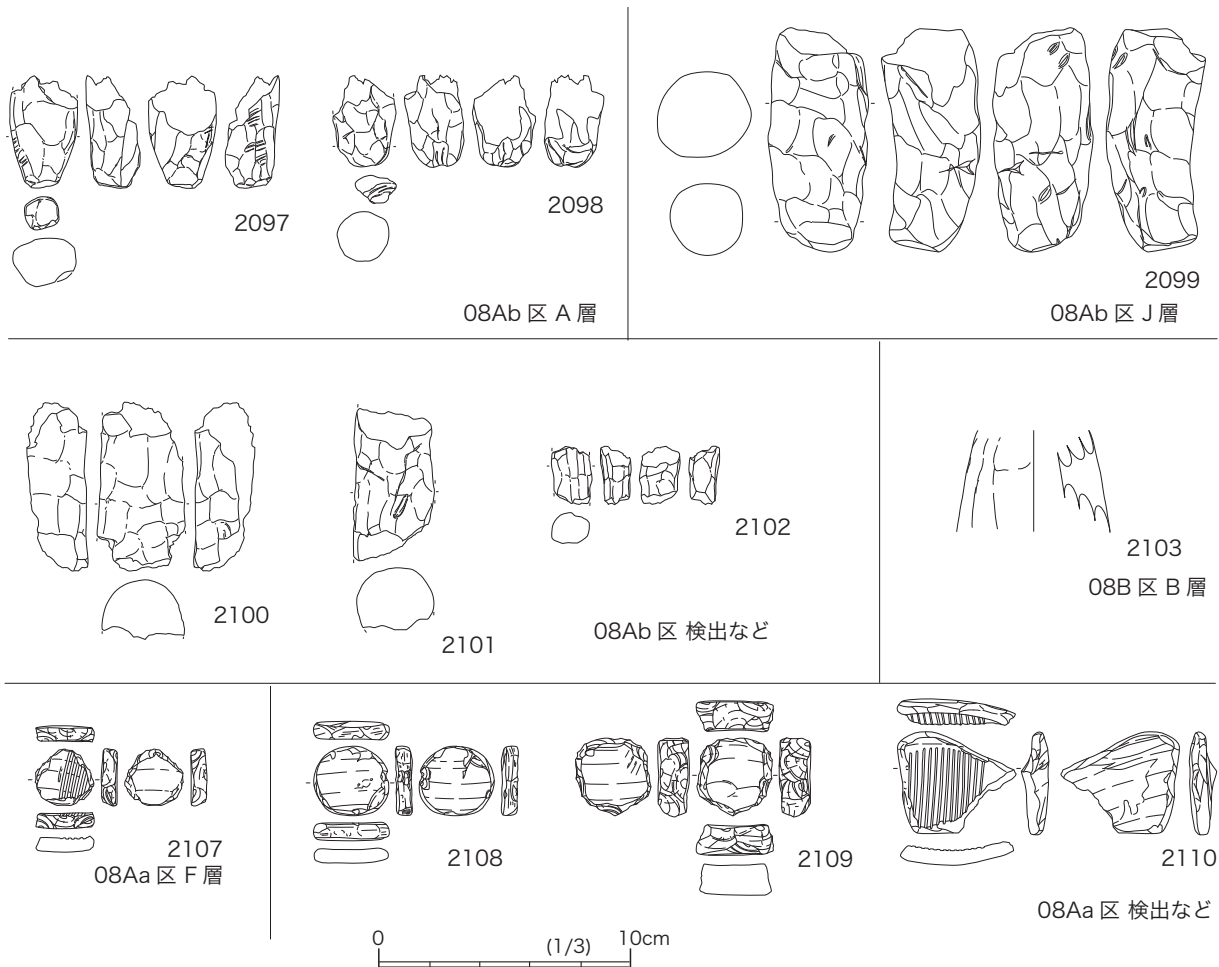


図 173 土製品【支脚・フィゴの羽口・調整使用痕陶器片】

今回出土した土錘にも、製塩土器同様に胎土中あるいは器面に圧痕を確認することができる。2010は胎土中にモミ状圧痕が確認できる。2071で確認できるものは、大型の種子圧痕であろうか。

b. 土製紡錘車

土製紡錘車は3点出土した。2091・2093は側面観が台形を呈する形状で、2092は凸字状を呈するものである。2091は器面にケズリ痕が著しく認められる。重量でみると、2092は28.5g、2093は58.4gと、両者は法量に差が認められる。

c. 土製支脚

いずれも破片の状態で、14点出土した。最も状態が良く残っているものは2099で、現存値で長さ10cm・幅4.8cmを測る。全面にユビなど

による調整痕が明瞭に残されているものである。器面にはモミ・モミガラ・スサ状の圧痕を多数確認することができる。その他は2099に比べていずれも幅の小さいものである。2097は一端に面が形成されている。2011・2012は著しい二次焼成の痕跡を有するものである。これらは08Aa区・08Ab区・08B区から出土しており、08Ab区でいえば、A層やJ層など、いずれもより上位層にまとまっている傾向が認められる。

また、支脚とは別に、構造物片と考えられる土製品断片が08Aa区・08Ab区・08B区から出土している。厚みが1cm以上と厚手のものが多く、胎土内には多量のモミ・モミガラ・スサを包含する様子を観察することができる(2104～2106)。出土層としては、08Ab区のI層での集

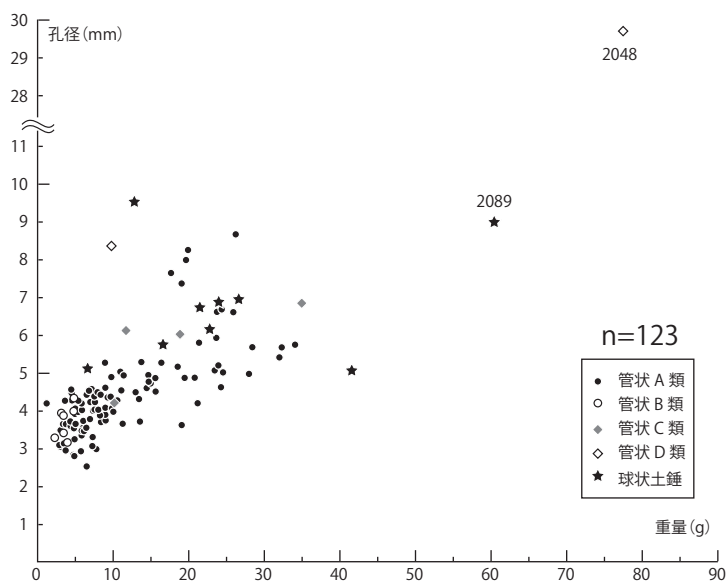


図 174 土錘の法量散布図【孔径×重量】

中を指摘することができる。

d. ファイゴの羽口

2103 は、最も残りの良いものを 1 点図化した。一方が広がる形状を呈するものと考えられる。第 3 章第 1 節では土師器高杯の転用品が報告されている (175)。また、後述する金属製品の出土分布状況とともに、ファイゴの羽口の出土傾向も示しておいた (図 181)。

e. その他土製品

不明土製品として、3 点挙げておく。2094 は一端が扁平な形状を呈する粘土紐状のものである。胎土は製塩土器 4 類に類似する。焼成されているが、製塩土器脚部を製作するもとの粘土紐であった可能性もある。2095 は極めて細い形状を呈する土製品で、器面は平滑に整形されている。2096 は、2 本の粘土紐を横に並べて接合したものである。両面からユビオサエが施されているが、焼成前に接合できる程度で留めていたかもしれない。

また、08B 区からは、土製仏像が 1 点出土している (484)。詳細は、第 3 章第 1 節を参照さ

りたい。

2. 土器製塩操業後の土製品

a. 調整使用痕陶器片

今回の調査で 4 点出土した。いずれも近世陶器片で、2107・2110 は播鉢片、2108・2109 は碗などの破片を利用している。2107・2109 は周囲を敲打調整によって加工しているもので、円盤形を呈している。2108 も同様な工程をもって円盤形に作られているものであるが、周囲は使用などにより磨滅しており、滑らかな面にな

っている。2110 も同様に、側面にアバタ状の痕跡があるなど、使用による痕跡が認められるものである。

b. その他

近代以降のタイル工場に由来すると考えられる窯道具も多数出土した (616～618・2112～2116)。その他、図示はしていないが、常滑窯で製作されたと考えられる管状土錘が 3 点出土している。

3. 石製品

08Ab 区や 08B 区から砥石が出土している。刀子など、鉄製利器に対応するものと考えられ、被熱を受けているものもある。また、今回の調査でも、2004SX などで、礫がまとまって出土している。扁平な面には磨滅痕が認められ、台石などのような使用がなされたものと考えられる。

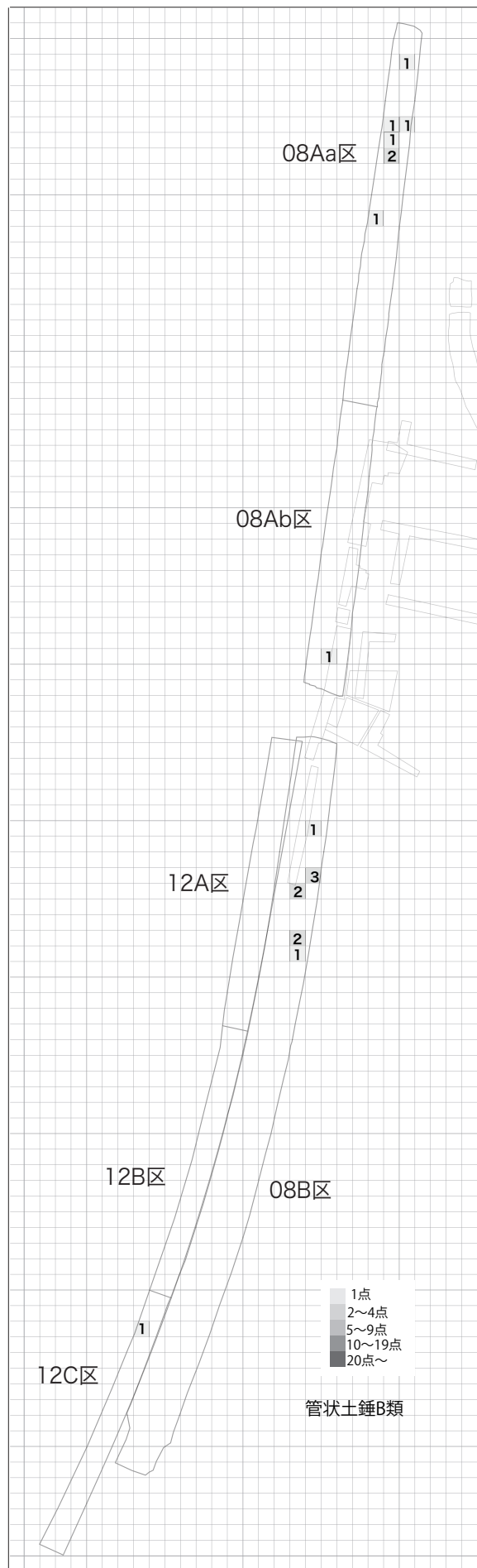
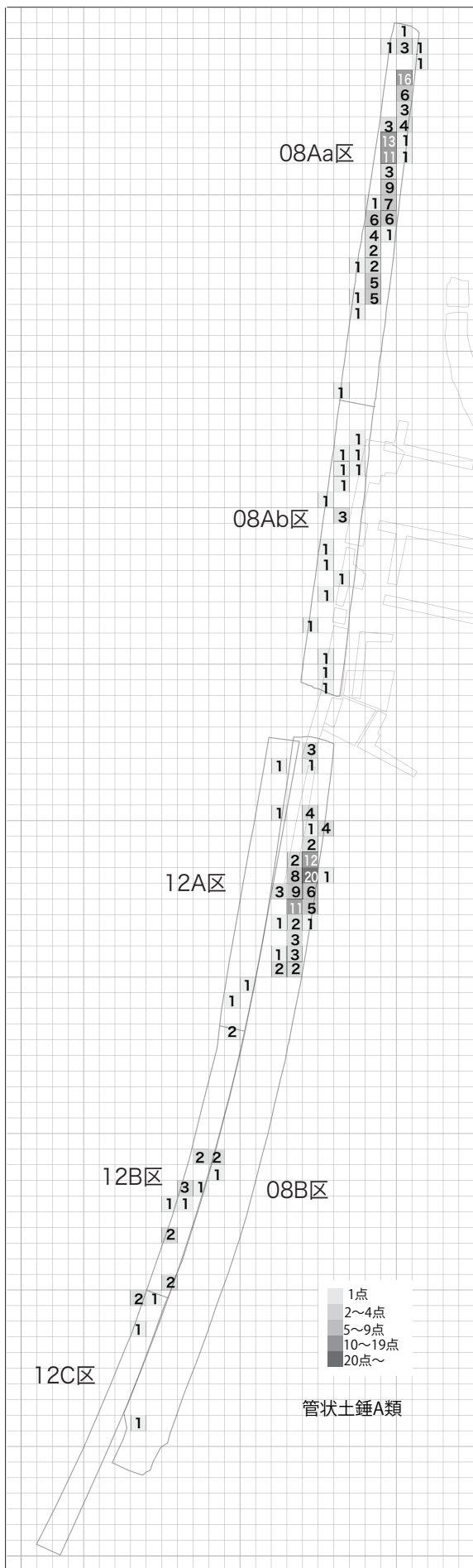


図 175 土製品出土点数傾向 1

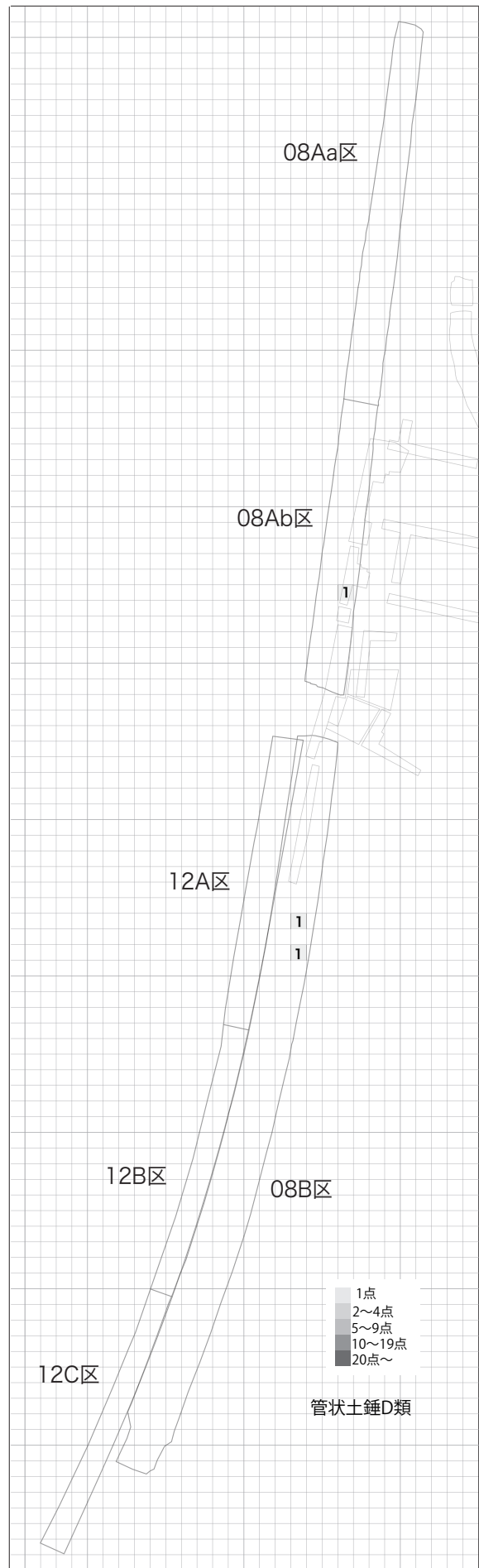
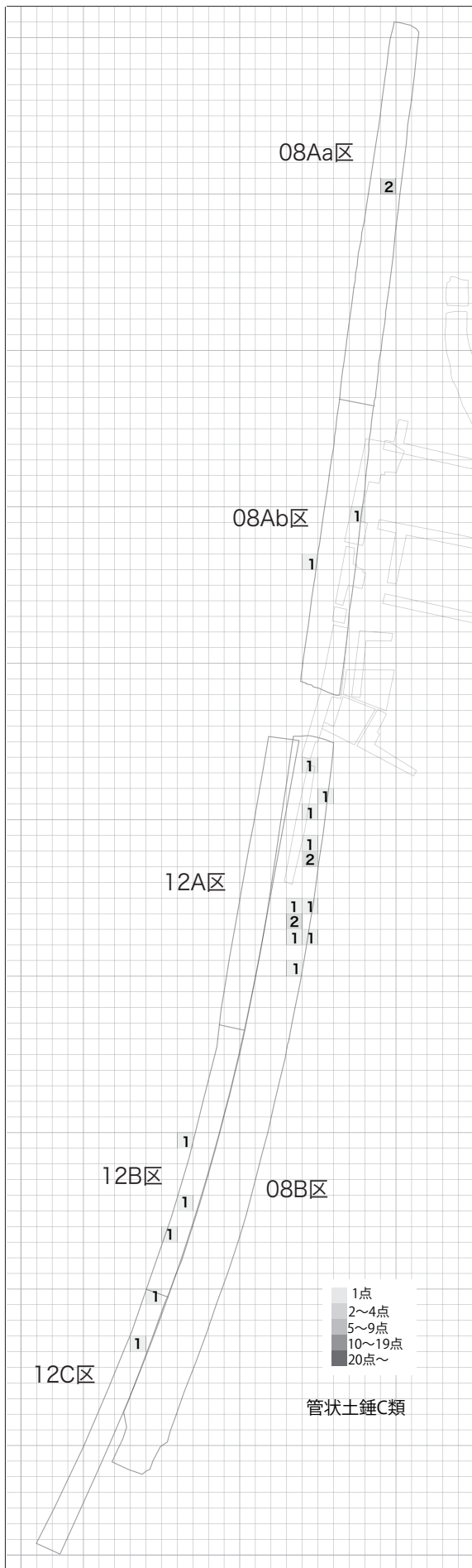


図 176 土製品出土点数傾向 2

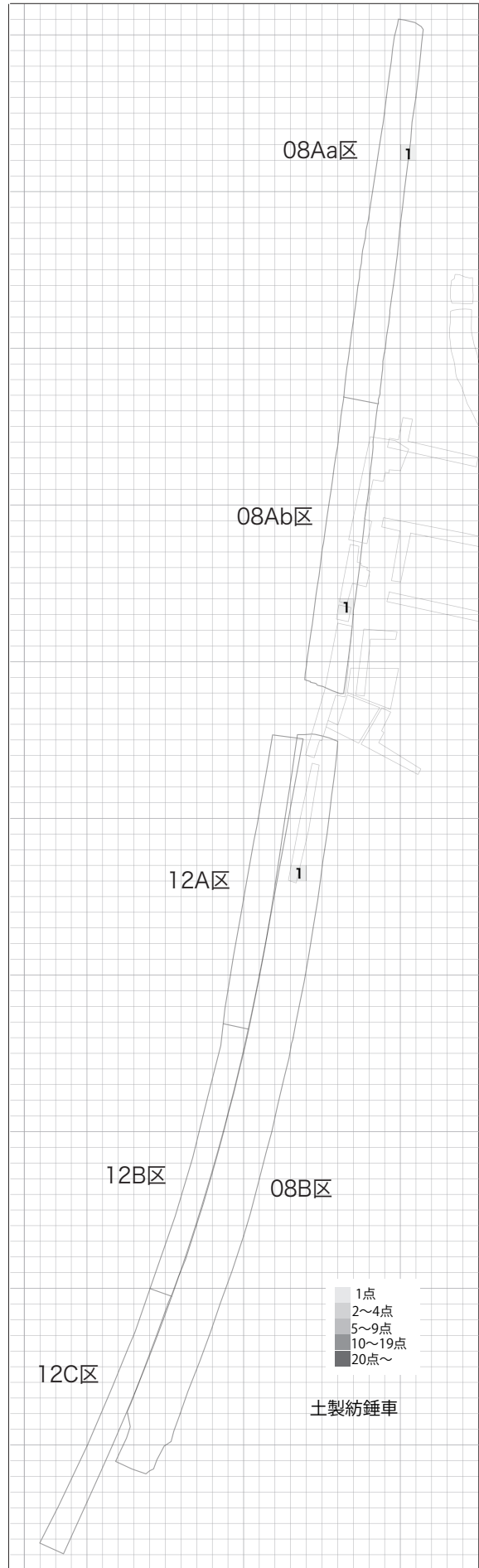
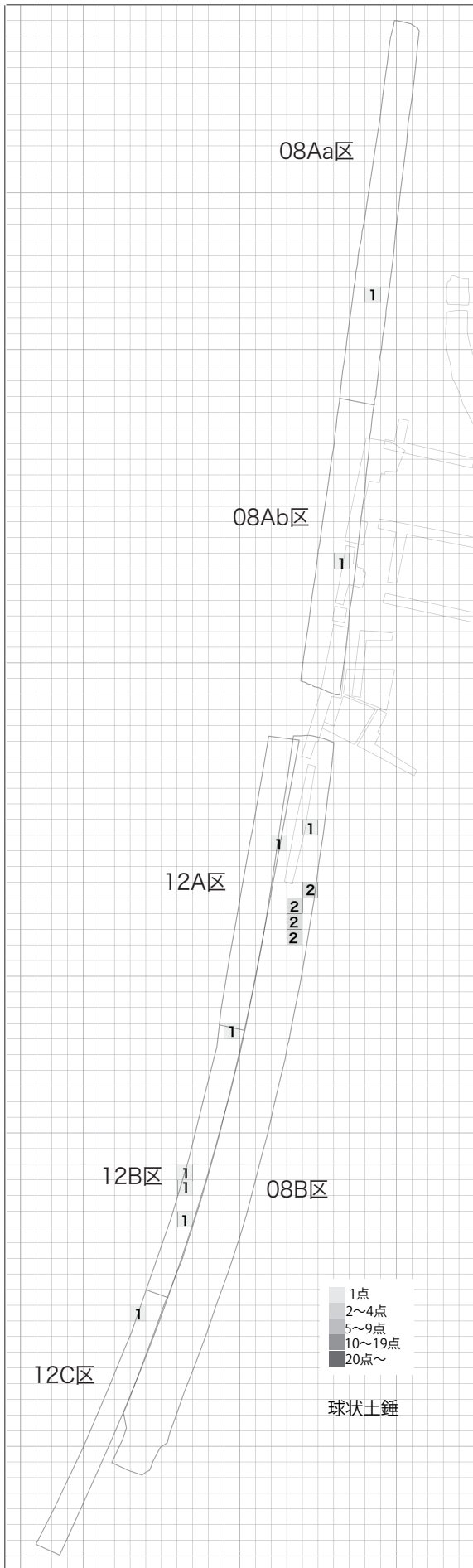


图 177 土製品出土点数傾向 3

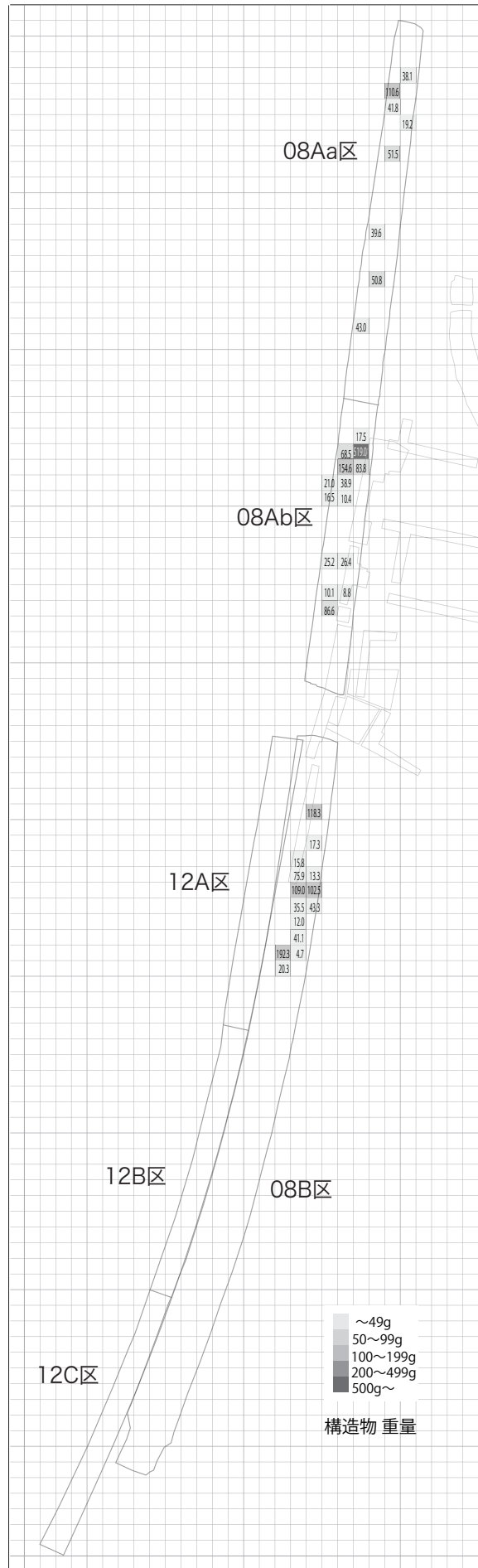
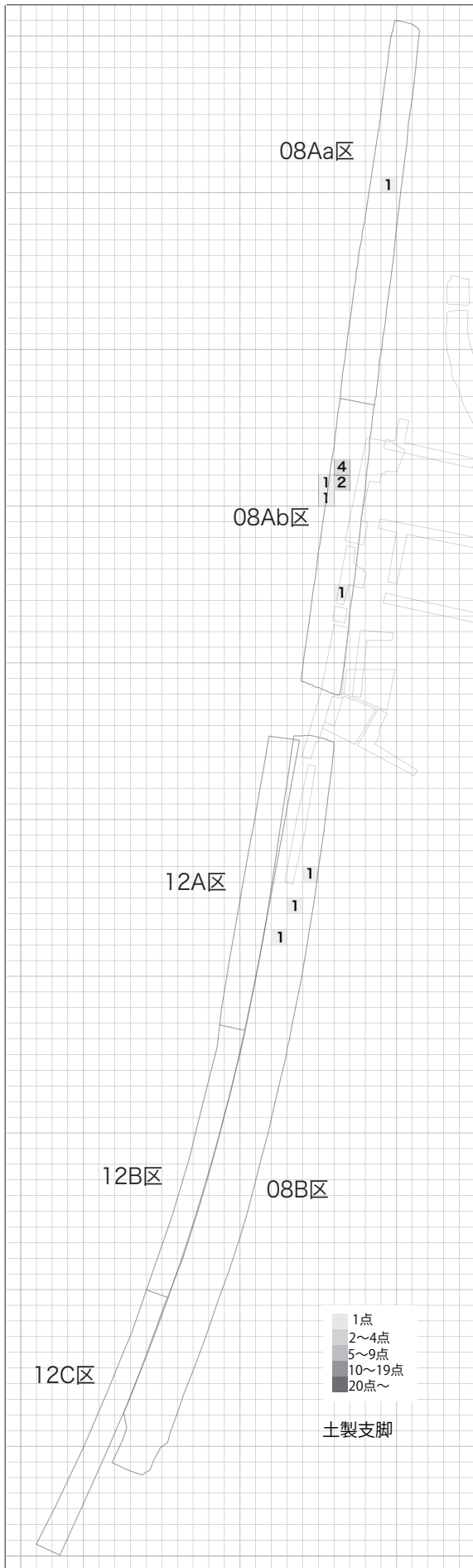


図 178 土製品出土点数傾向 4

第5節 金属製品

金属製品としては、土器製塩操業時を中心に、近代以降の鉄道敷設に関連するものまで確認された。ここでは、土器製塩操業時から近世までのものを報告する。

1.1005SZ 出土金属製品

1005SZ は成人男性が埋葬された土壙である。人骨に伴って、金属製品が出土した。すべて鉄製である。

2001 は長さ 13.8cm・幅 1.2cm を測るもので、[状を呈するのである。2002 は長さ 10.5cm・幅 1.2cm を測るもので、一端が細長く尖るものである。表面には木質の残存が認められる。2003 は長さ 7.0cm・幅 1.0cm を測るもので、側面観ではやや湾曲した形状を呈する。表面にはウルシ様の付着物が認められる。2004 は鎖の一部と考えられるが、環の大きさが異なっており、別の対象物へとつながる部分であったのであろうか。2005 は湾曲した形状で、平坦、一端に向かって細くなる様子を見ることが出来る。鎌と考えられる。これらはいずれも、人骨の頭部から肩甲骨にわたって絡まるように出土した。埋葬者からみて上面のみならず、背面側にも金属製品が存在していたことが注目されよう。

2. その他金属製品（鉄製）

a. 刀子（2007～2012）

今回の調査で 10 点と、金属製品の中で最も多く出土している。そのうち 6 点を図化した。いずれの資料も幅は 1cm 程度と共通しているもの

の、長さは 2007 で 17.8cm、2010 で 10.3cm を測る。使用による刃部側の磨滅・欠損・再生などにもあったと思われるが、2009～2011 では、柄部分の長さも 2007 に比べて短く、もともと刃部側も短かった可能性も考えられる。

b. 鏃（2013～2015）

3 点出土して、すべて図化した。いずれも有茎である。

c. 釣針（2018・2019）

2 点出土してすべて図化した。2018 はチモト部分が欠失しているもので、現存で 3.9×3.0cm を測る。軸自体の太さは 0.3×0.4cm を測る。先端は屈折するように折れ曲がった形状を呈しているが、内アグになると考えられる。2019 は、全体の形状が窺えられ、5.8×4.0cm を測る。軸自体の太さは径 0.6cm を測る。チモト部分には別の金属片が付着する。また、先端部の形状は内アグを呈している。

d. その他

2016 は釘と考えられる。断面形状が扁平な長方形を呈する。表面には木質が残存していた。

2017 は一端が尖る針状の製品と考えられる。幅 2mm 程度と、極めて細い。2020 は、長さ 12.6cm・幅 0.9cm の棒状の製品で両端が同じ側に屈曲するものである。2011 と同種の製品と考えられる。2021 は、軸に対して一端が垂直方向に環状を呈するもので、もう一端は鉤状に屈曲しているものである。長さ 8.1cm・幅 3.5cm を測るものである。2022 は板状のものを筒形に巻いてあるもので、鉸止めが一ヶ所確認できる。

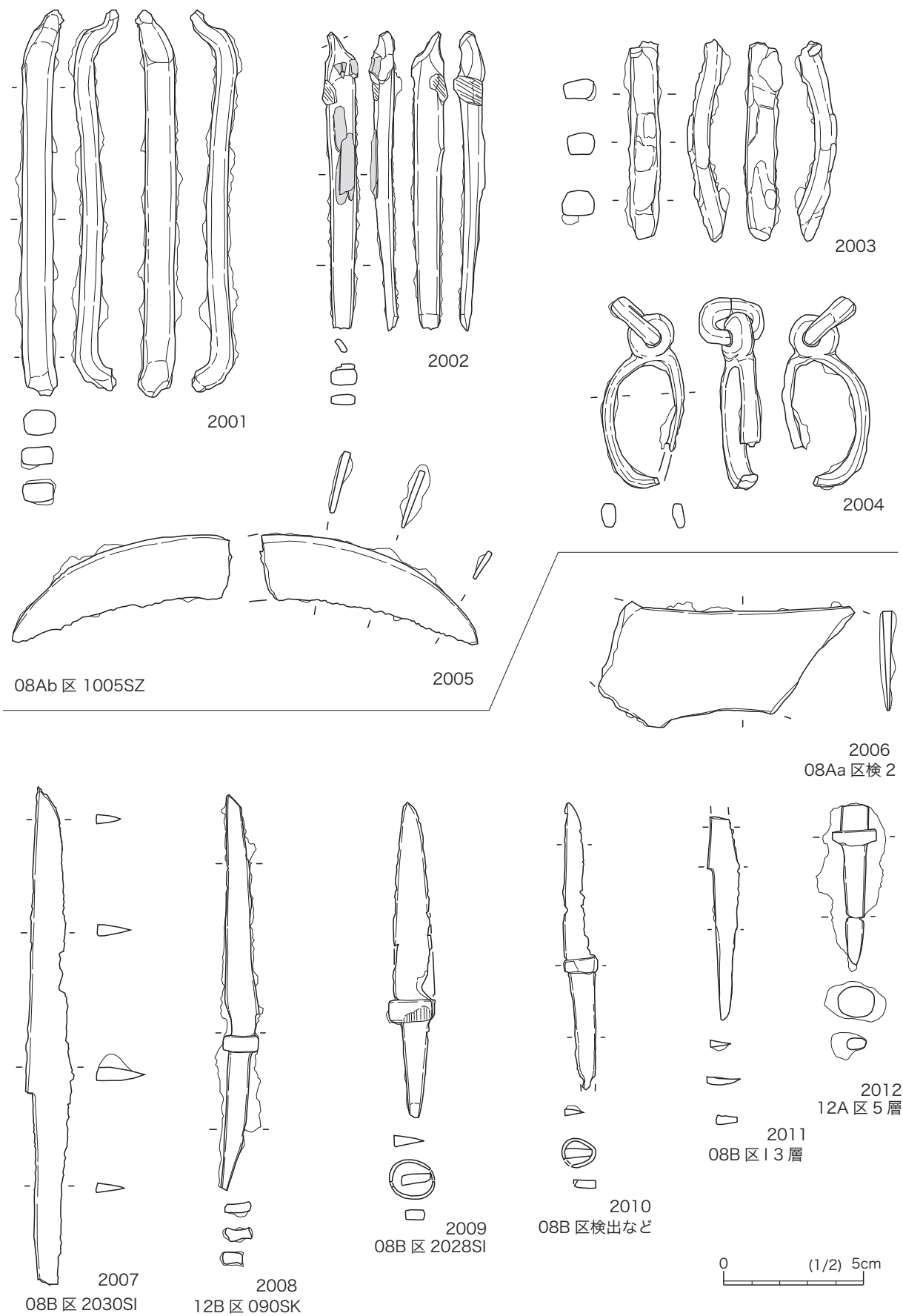


図 179 金属製品 1

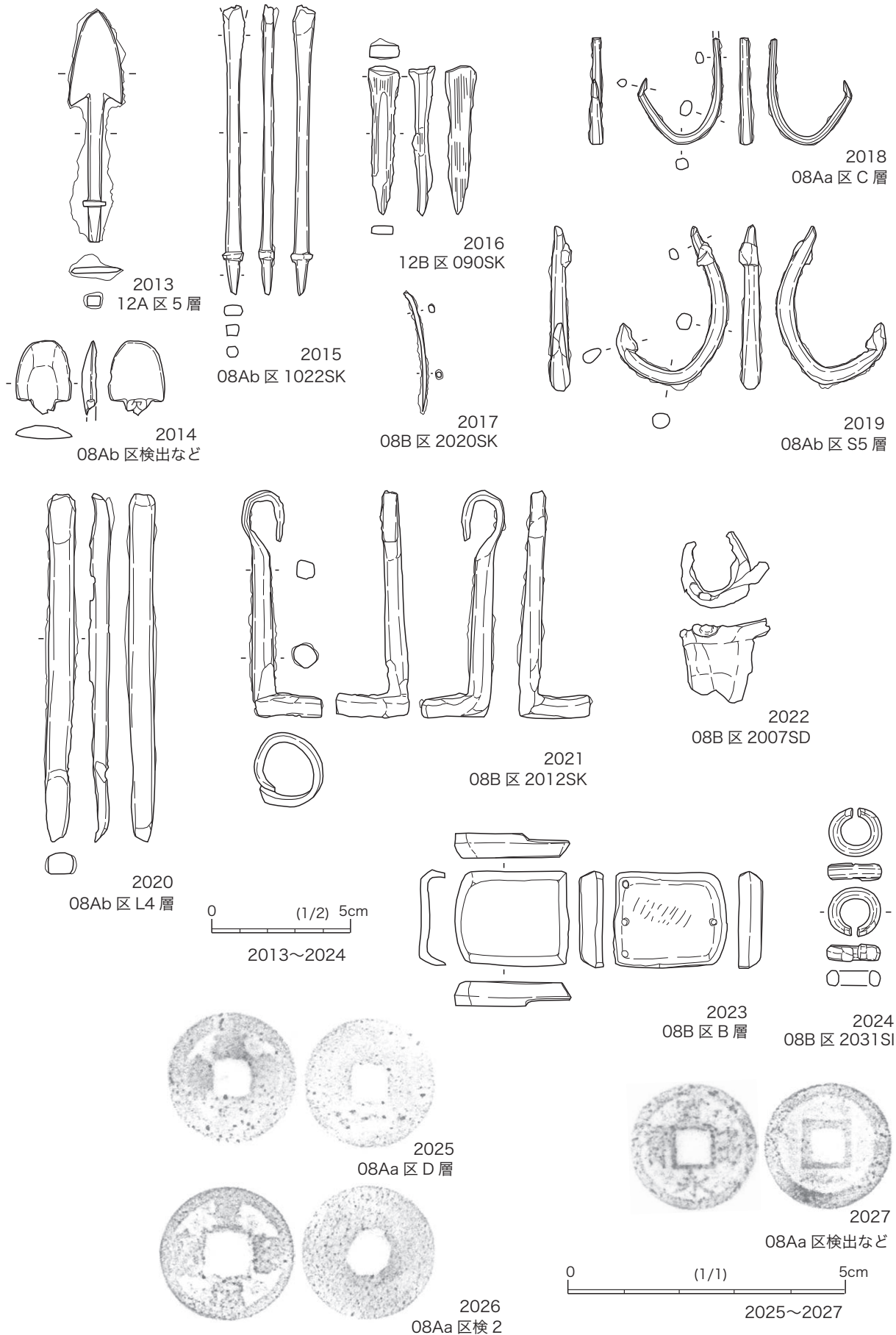


図 180 金属製品 2

3. その他金属製品(青銅製など)

2023は銜帯金具である。法量は、長さ4.0cm・幅3.4cm・厚さ0.8cmを測るもので、凹みのある内面側には小さい凸部分が4ヶ所作り出されている。2024は金環である。長さ1.8cm・幅1.9cm・厚さ0.6cmを測るもので、軸自体は径0.5cmを測る。側面観では、やや湾曲する様子を見ることができる。青銅に金箔を貼ったものか。

4. 土器製塩操業後の金属製品

2025～2027は銅銭である。2025は元豊通寶(篆書)、2026は皇宋通寶(篆書)、2027は寛永通寶である。2025・2026ともに現状では文字の部分が不鮮明である。いずれも08Aa区から出土した。その他、08Aa区からは明治年間の一銭硬貨2枚と大正年間の一銭硬貨1枚、12C区からも大正年間の一銭硬貨1枚の出土をみた。

5. 出土状況

土器製塩操業時の金属製品について、出土位置を示したものが、図181左である。08Aa区では金属製品の出土の少ない傾向が窺えられる。一方、金属製品の出土が集中するのは、08B区である。しかし、釣針の出土が08Aa区と08Ab区のみであったことは、場の利用を考える上で、参考になろう。なお、図中では1005SZ内で埋葬人骨とともに出土した2001～2003のような細かい金属製品を不明金具1とした。この類例は1005SZ以外でも08Ab区および08B区でも出土していることが分かる。

図181右には、鉄滓など金属製品製作に関する遺物の出土傾向を示した。碗形滓をはじめとする鉄滓が各調査区で出土している様子が観察できるが、その中でも08B区での集中が特に顕著である。特に2024SIではまとめて出土しており、この竪穴建物跡内からは土師器高杯を転用したフイゴの羽口も出土している。2024SIは、金属製品製作の痕跡が明瞭に残された場といえよう。

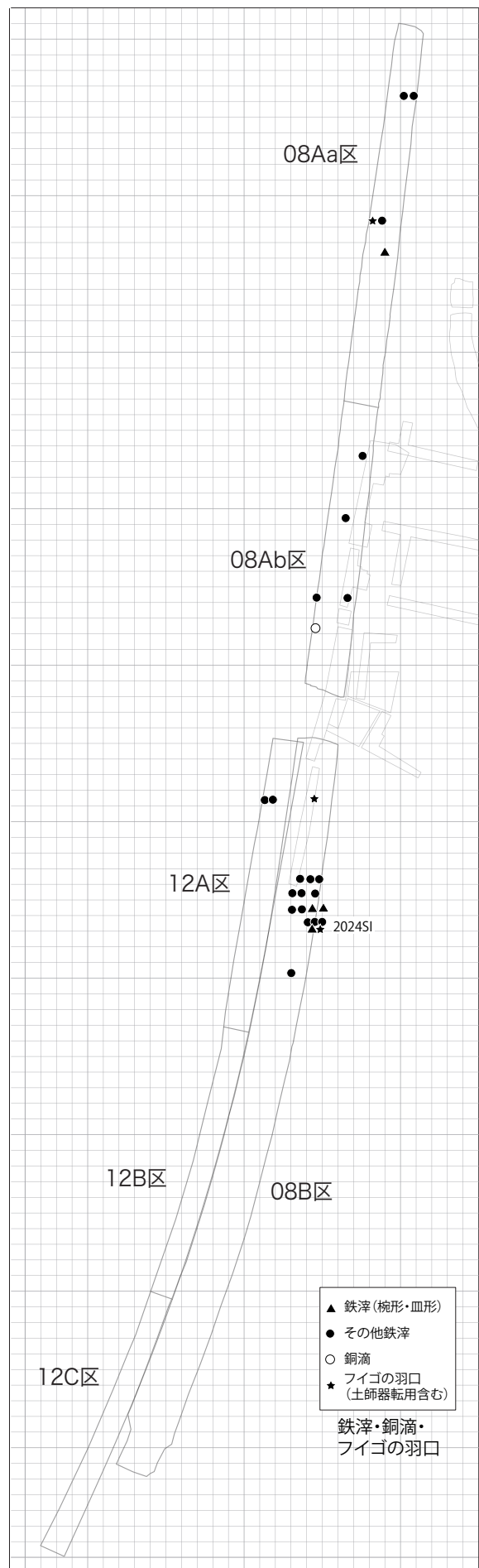
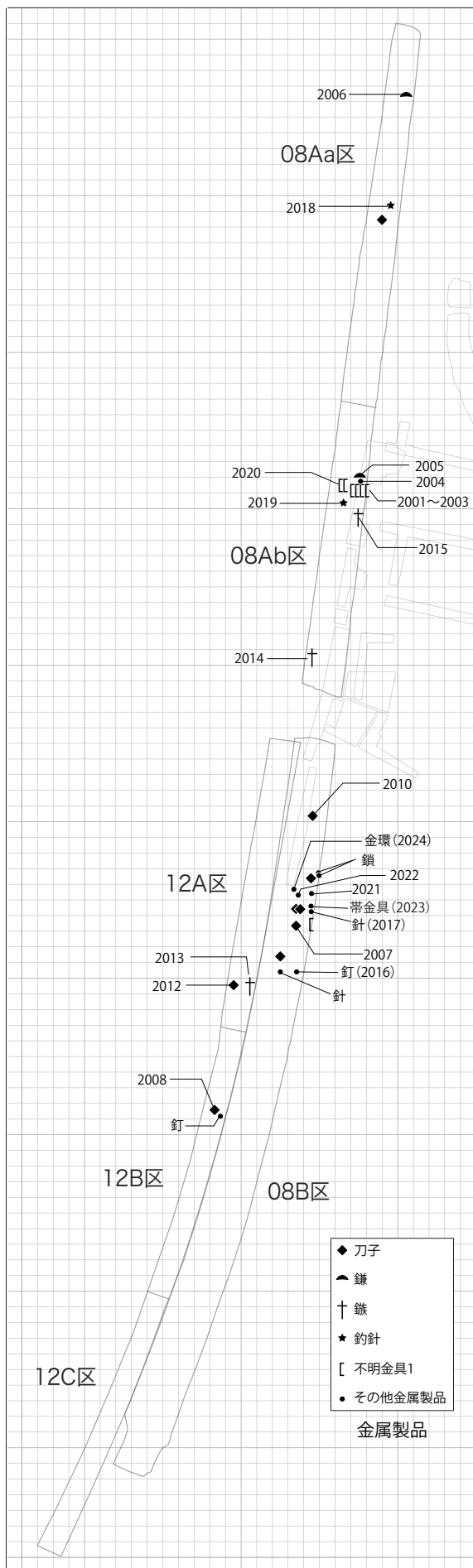


図 181 金属製品関連遺物分布状況

第6節 骨角製品

骨角製品は、時代・時期および地域により使用される器種が異なり、それに従って製作様相に変化が認められる場合がある。第1次以来これまでの調査で確認できた器種は、鏃・刺突具・ヘラ・刃器?・針・敲打具・擬似餌・ユヅカ?・刀子柄・その他加工のある鹿角および骨である。いずれの骨角器も金属器（鉄器）による加工痕が認められる。なお、鹿角製に関しては、鹿角素材の表面側を表面とし、髄部分を裏面と呼称する。

1. 鹿角素材のもの

3001～3003は点状刺突具で、3001は鏃と考えられる。基部を若干欠損しているが、長さ4.5cm・幅1.2cm・厚さ0.6cmの、全形を窺い知ることのできる資料である。表面・裏面ともに平滑にした後で鏃身部に短い線刻がまとめて施されているもので、表面には鹿角素材の

溝、裏面には髄の露出を観察できる。3002は幅0.8cm、2003も幅0.6cmと細めの刺突具で、いずれも2分の1を欠損する。3004は角枝部分を利用した、ソケット状の製品である。一端には径0.5cm・深さ1.0cmの穿孔が施されている。擬似餌状の形状にも見えるが、不明である。3005・3006は刀子柄の端部である。いずれも表面の凹凸が全く消失する程度に削られており、一部、内側の髄の露出を観察することができる。

3001～3003までは、角幹などの鹿角素材を半截などした板材から製作されたものである。3004～3006は鹿角素材を半截することなく、製作されたものである。

また、ごく若干ではあるが、鹿角素材も出土した(3007・3008)。いずれも加工の加えられており、当時の鹿角に対する利用率の高さを窺わせるものとなっている。

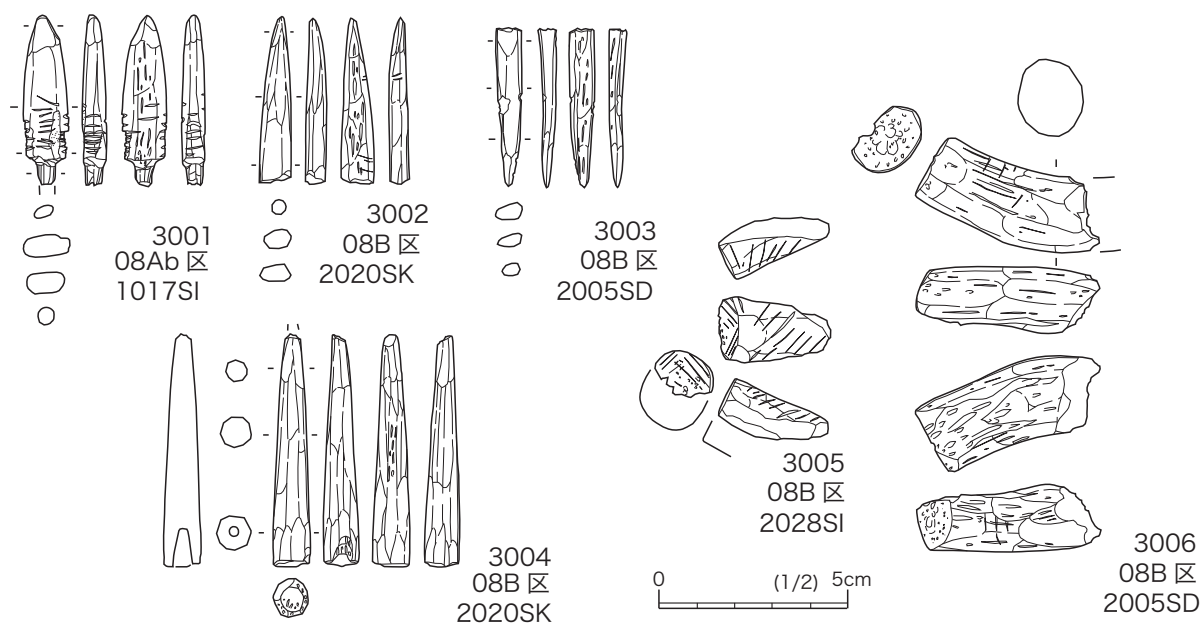
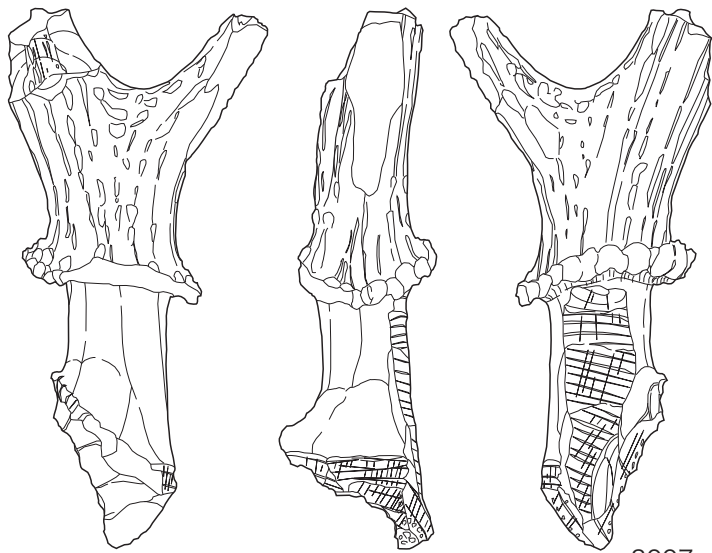
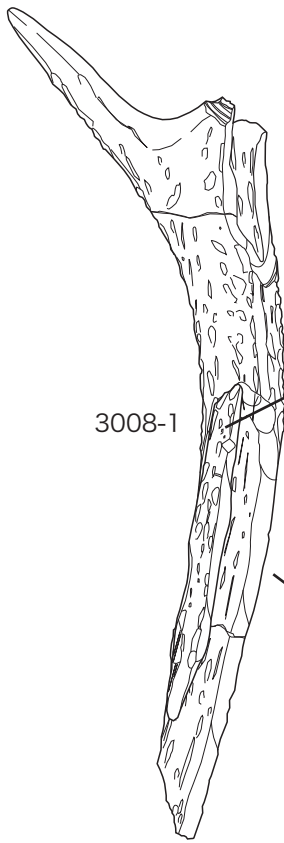


図182 骨角製品1



3007
08Ab区検出など

0 (1/2) 5cm

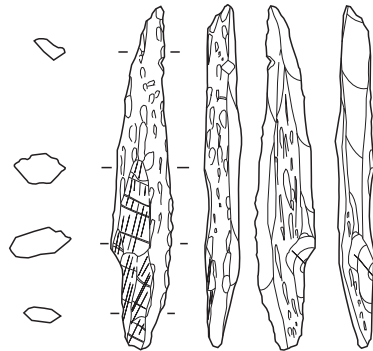


3008-1

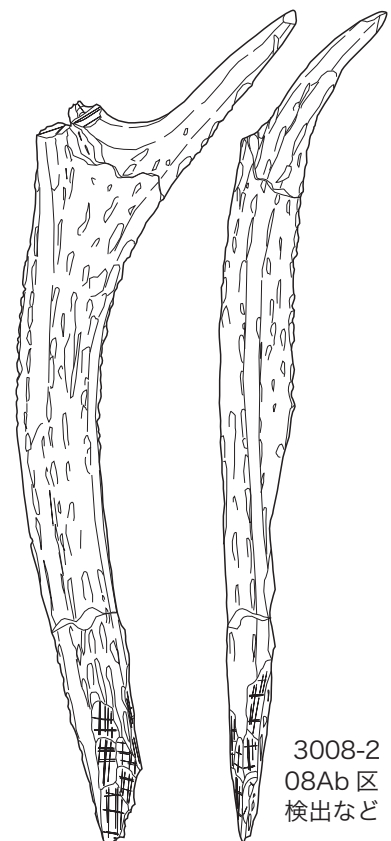


3008-2

3008



3008-1
08Ab区 1002SD



3008-2
08Ab区
検出など

図 183 骨角製品 2

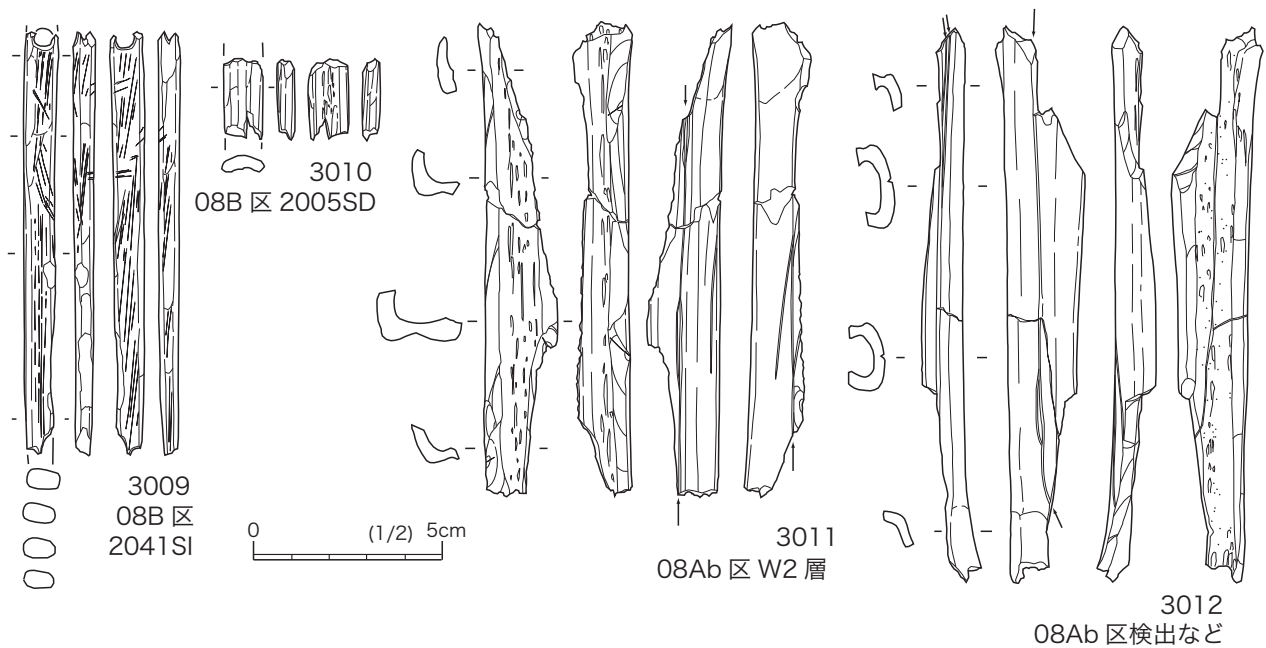


図 184 骨角製品 3

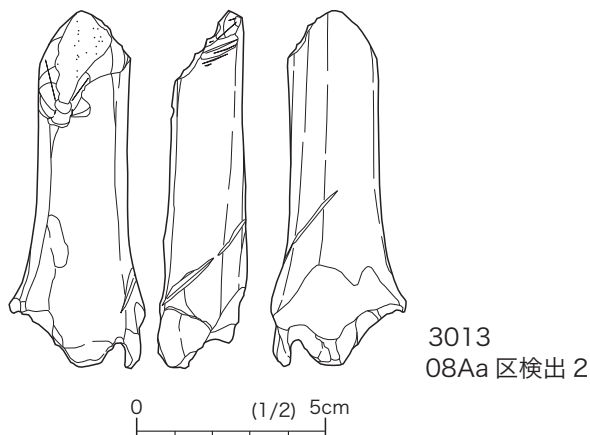


図 185 解体痕のある骨

3007 は鹿角右の角座骨から角座・第一枝分岐までである、非落角状態のものである。頭蓋骨から鹿角を切断しようとしたと考えら、角座骨端部周辺や表面には、幅 2cm 内の工具痕が連続して認められる。角枝および角幹は折り取られた様な状態となっている。3008 は残された二又部が第 2 枝との分岐点であるならば、鹿角右となるか。角幹先端側は、周囲から斜方向に連続して敲打・打ち込みを行うことによって切断している。また、角幹の基部側ではさらに水平に近い傾斜角度で敲

打・打ち込みが行なわれている。3008 は接合資料であるが、この分離には顕著な工具痕は認められなかった。

2. 骨素材のもの

今回確認された製品は 2 点のみと極めて少ない。3009 は一端に穿孔を有する針状で、長さ 11.2cm・幅 0.8cm・厚さ 0.5cm を測る。両面にわたって平滑に加工されており、器面には削がれたような加工痕が明瞭に残る。3010 は幅 1.0cm・厚さ 0.5cm と薄手のものである。シカ管状骨製と考えられるが、部位・部分は不明である。ヘラ状あるいは弓柄状のものと考えられる。3011・3012 はシカ中手骨で、縦方向に擦り切りによる切断痕が認められるものである。両端部は敲打などによってあらかじめ切断を行なったものであるか。鉄製刀子によるものと考えられるが、素材の凹み部分などには関係なく切断が行なわれていることは、極めて注目される点である。また、

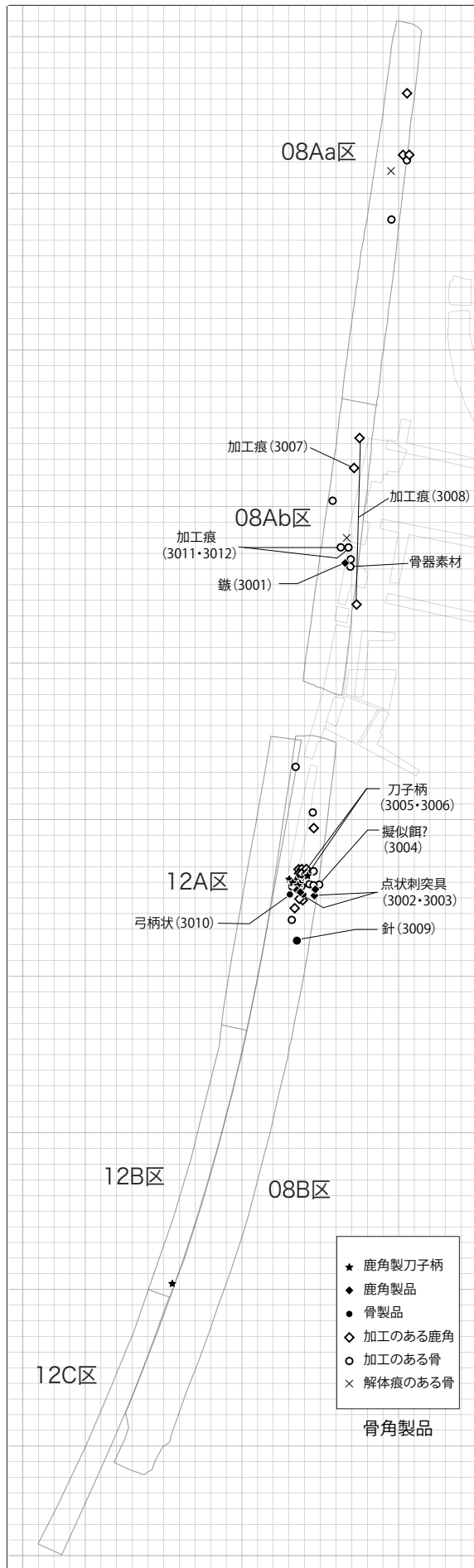


図 186 骨角器関連遺物分布状況

鹿角でみた敲打・打ち込みのみならず、擦切りも行なわれていたことも注意に値しよう。1017SIからはシカ中足骨が未加工の状態で出土している。これも素材として持ち込まれたものと考えられるであろう。

3. その他

3013はシカ頸骨左の遠位端である。側面を中心に金属による傷が認められ、これが解体痕になると考えられる。

4. 出土分布の様相

図 186 に今回出土した骨角製品の出土分布状況を示した。08Aa区では製品の出土はないが、加工のある鹿角・骨の出土が確認される。08Ab区でも製品の出土は少なかったが、1017SI内から出土した鹿角鏃と骨器素材としてのシカ中足骨の出土は、注目できる。遺物の集中が確認されるのは、08B区である。特に、2028SIおよびその周辺からは、加工された鹿角や刀子柄の出土が集中しており、かつ多くの資料は被熱により黒色化が認められた。この様相を勘案すると、2028SIおよびその周辺が刀子柄を中心とした骨角製品を最終的に形作る場であり、今回の08Aa区や08Ab区のように、鹿角やシカ中手骨・中足骨の切断・分割を行なった区域とは別になっていた可能性も示唆される。

第4章 自然科学的分析

第1節 松崎遺跡より検出された住居床面の土の蛍光 X 線分析

竹原弘展 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

東海市大田町に所在する松崎遺跡は、伊勢湾岸に面した、最も海側の浜堤上(砂堆)に立地する、古墳時代～古代にかけての製塩遺跡である。今回の調査で検出された古墳時代の住居床面の土について、一部非常に固く締まっている箇所が見つかった。ここでは、その箇所の土について蛍光 X 線分析による元素分析を行い、その原因を検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、古墳時代の住居 1017SI の床面一部の固く締まった土である。

分析は、蛍光 X 線分析装置を用いて、8mm 径での面分析と、100 μ m 径で試料台を走査しながら測定する元素マッピング分析を実施した。

分析装置は、面分析には、エスアイアイ・ナノテクノロジー(株)製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA1200VX を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV、1000 μ A のロジウム (Rh) ターゲット、X 線照射径が 8mm または 1mm、検出器は SDD 検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することで S/N 比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム (Na) ～ウラン (U) である。測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが 15kV (一次フィルタ無し)・50kV (一次フィルタ Pb 測定用・Cd 測定用) の計 3 条件で、測

定時間は各条件 1000s、管電流自動設定、照射径 8mm、試料室内雰囲気真空中に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダード FP 法による半定量分析を行った。定量値の解釈については大まかな参考値程度にとどめておくべきである。

元素マッピング分析には、(株)堀場製作所製 X 線分析顕微鏡 XGT-5000Type II を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV、1.00mA のロジウムターゲット、X 線ビーム径が 100 μ m、検出器は高純度 Si 検出器で、検出可能元素はナトリウム～ウランである。試料ステージを走査させながら測定することにより、元素マッピング分析が可能である。測定条件は、元素マッピング分析では 50kV、1.00mA、測定時間 2000s を 5 回走査に設定した。

使用装置の一覧を表 8 に示す。

表 8 蛍光 X 線分析装置仕様

		XGT-5000Type II	SEA1200VX
管球	最大電圧	50kV	
	最大電流	1mA	
	ターゲット	Rh	
照射径		100 μ m	8mm or 1mm
集光素子		モノキャピラリ	コリメータ
一次フィルタ		無し	内蔵(4種)
照射方式		上面照射	下面照射
検出機構		エネルギー分散型	
検出器		HP-Si	SDD
元素マッピング分析		可能	不可

3. 分析結果

面分析により得られた結果を図 187 に示す。ケイ素 (SiO_2) とカルシウム (CaO) が主に検出され、他に鉄 (Fe_2O_3)、アルミニウム (Al_2O_3)、カリウム (K_2O)、マグネシウム (MgO)、リン (P_2O_5) などが検出された。

ケイ素 (Si) とカルシウム (Ca) の元素マッピング分析結果を図 188 に示す。ケイ素が粒子状に分布し、その間隙にカルシウムが分布する様子が確認された。

4. 考察

分析の結果、カルシウムの含有量が非常に多いという特徴がみられた。また、ケイ素に対してアルミニウムがかなり少ないことから、粘土分は少なく砂が多いと考えられる。元素マッピング分析の結果と併せると、砂の間隙にカルシウムが分布しているといえる。

固く締まった床の土から高く検出されるカルシウムという特徴は、いわゆる「たたき」を想起させる。「たたき」は、土と漆喰を混ぜて固めたものであり、硬化した漆喰の主成分が炭酸カルシウム (CaCO_3) である。炭酸カルシウムは、貝殻の主成分でもある。松崎遺跡は海に近い浜堤に立地し、貝類遺体が多量に出土していることから、1017SI 周辺にも貝殻が豊富に存在していると考えられるが、単純に貝殻破片が土に混ざっているだけでこのように土ごと固まることは考え難い。漆喰のように硬化させるには、炭酸カルシウムを 900°C 以上に加熱して生石灰 (CaO) とし、そこに水を加えて消石灰 (Ca(OH)_2) とし、消石灰が大気中の二酸化炭素を吸収して再び炭酸カルシウムとして硬化させるというプロセスが必要と

なる。

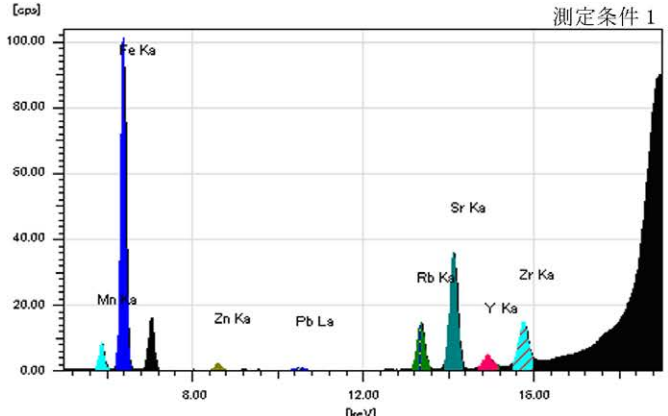
以上より、意識的に行われたか、偶然そのようになったのかは不明であるが、加熱された貝殻破片が生石灰化し、住居床面の土に混ざって、水や大気的作用を受けて硬化したと推定される。

5. おわりに

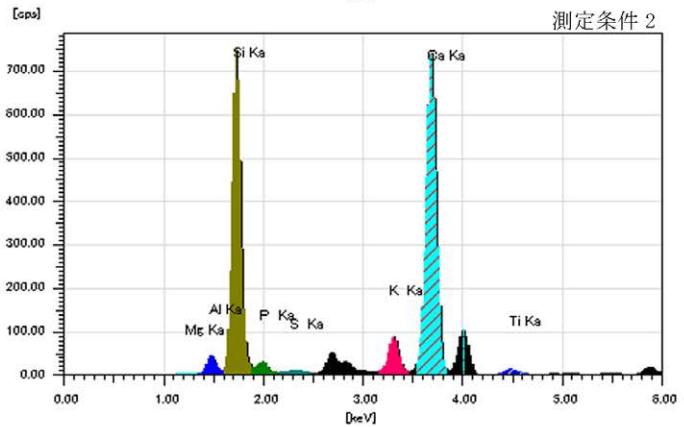
松崎遺跡で検出された古墳時代の住居床面の一部非常に固く締まっている箇所の土について、蛍光 X 線分析を行った結果、カルシウムが特徴的に検出された。カルシウム分の作用により固結しているものと考えられる。

参考文献

中井泉編 (2005) 蛍光 X 線分析の実際, 242p, 朝倉書店.



測定装置		SEA1200VX		
管球ターゲット元素		Rh		
	測定条件1	測定条件2	測定条件3	
測定時間 (秒)	1000	1000	1000	
有効時間 (秒)	610	714	757	
コリメータ	φ 8.0mm	φ 8.0mm	φ 8.0mm	
励起電圧 (kV)	50	15	50	
管電流 (μA)	394	40	1000	
フィルター	Pb用	OFF	Cd用	
マイラー	フィルム	フィルム	フィルム	
雰囲気	真空	真空	真空	
ピーキングタイム	8.0usec	8.0usec	8.0usec	



元素	含有量(±3σ) (wt%)	X線強度(±3σ) (cps)
MgO	1.90(±0.31)	9.894(±1.609)
Al ₂ O ₃	2.94(±0.16)	60.163(±3.348)
SiO ₂	70.07(±0.18)	3918.542(±10.135)
P ₂ O ₅	1.87(±0.05)	107.827(±3.104)
S	0.04(±0.01)	12.193(±2.365)
K ₂ O	2.42(±0.02)	516.900(±4.183)
CaO	16.89(±0.05)	4097.374(±11.474)
TiO ₂	0.17(±0.01)	33.781(±2.272)
MnO	0.38(±0.01)	59.135(±1.575)
FeO	3.04(±0.02)	770.801(±4.879)
ZnO	0.02(±0.00)	17.626(±0.827)
Rb ₂ O	0.03(±0.00)	146.200(±1.764)
SrO	0.07(±0.00)	384.365(±2.640)
Y ₂ O ₃	0.01(±0.00)	38.708(±1.790)
ZrO ₂	0.03(±0.00)	148.441(±2.327)
BaO	0.12(±0.00)	90.113(±2.564)
PbO	0.01(±0.00)	6.646(±0.727)

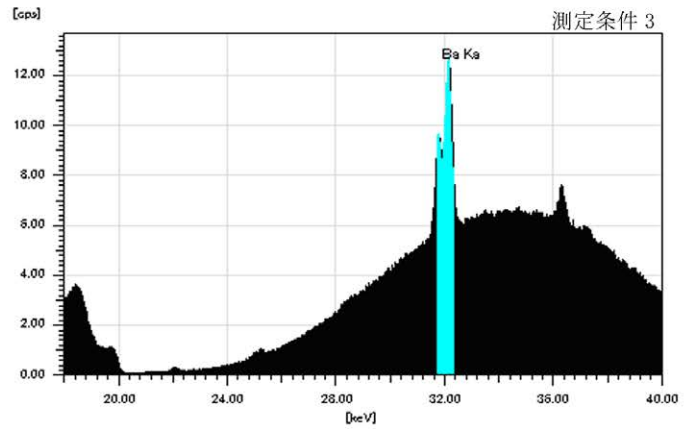


図 187 蛍光 X 線面分析結果

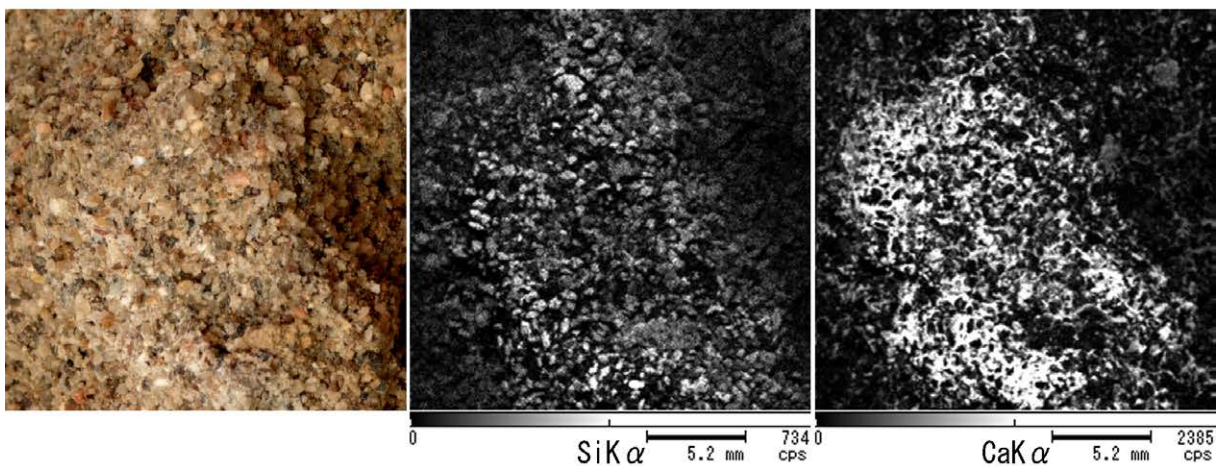


図 188 元素マッピング分析結果

第2節 出土人骨の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一

Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎

1. はじめに

愛知県東海市の松崎遺跡は、海岸平野の浜堤上に位置する。松崎遺跡の発掘調査では人骨が複数体出土しており、ここでは1988年度の発掘調査で出土した人骨3体、2008年度の発掘調査で出土した人骨1体、計4体を対象とした。人骨4体について加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。また、人骨コラーゲンが土壌中の有機物などにより骨の外部から汚染されていないかを評価するために炭素窒素比（C/N比）を測定した。海産物の摂取による¹⁴C年代への海洋リザーバー効果の影響を検討するため、炭素安定同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、窒素安定同位体比（ $\delta^{15}\text{N}$ ）に基づいて、摂取された食物の種類についても推定した（別項参照）。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表9のとおり

である。

1号人骨（PLD-21090）は、若年の男性と推定され、ほぼ全身が出土した。1号人骨からは肋骨破片を採取した。2号人骨（PLD-21091）は、若年と推定され、性別不明（女性？）であり、ほぼ全身が出土した。2号人骨からは部位不明の破片を採取した。3号人骨（PLD-21092）は、8歳と推定され、性別不明であり、頭部のみ出土した。3号人骨からは頭蓋骨破片を採取した。1005SZ出土人骨（PLD-21435）からは肋骨を採取した。

それぞれ1g程度の人骨破片について、超音波洗浄した後に、コラーゲンを抽出し、放射性炭素年代測定用の試料とした。また、コラーゲンをC/N比、 $\delta^{13}\text{C}$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ の測定用に分取した。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

表9 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-21090	試料No.1号人骨 年齢性別:若年男性	種類:骨(ヒト肋骨破片) 状態:dry	超音波煮沸洗浄 コラーゲン抽出(含有率1.9%)
PLD-21091	試料No.2号人骨 年齢性別:若年の女性?	種類:骨(ヒト部位不明破片) 状態:dry	超音波煮沸洗浄 コラーゲン抽出(含有率4.1%)
PLD-21092	試料No.3号人骨 年齢性別:8歳前後	種類:骨(ヒト頭蓋骨破片) 状態:dry	超音波煮沸洗浄 コラーゲン抽出(含有率1.3%)
PLD-21435	遺構: 1005SZ 調査区: 2TM08A b その他: 090121	種類:骨(ヒト肋骨破片) 状態:dry	超音波洗浄 コラーゲン抽出(含有率5.8%)

3. 結果

表 10 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、図 189 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年

代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.1 (較正曲線データ: IntCal09) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4. 考察

4 体の人骨から抽出したコラーゲンは、コラーゲン含有率が 1.9%、4.1%、1.3%、5.8%であり、別項のとおり C/N 比は一般的な骨コラーゲンの C/N 比 2.9~3.6 の範囲内に収まっている。コラーゲン含有率と C/N 比から、4 体ともコラーゲンの保存状態は問題ないと言える。

また、1 号人骨 (PLD-21090)、2 号人骨 (PLD-21091)、3 号人骨 (PLD-21091) の 3 体は、炭素安定同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$) と窒素安定同位体比 ($\delta^{15}\text{N}$) に基づき、主に陸産物を摂取していたと推定され、人骨の ^{14}C 年代への海洋リザーバー効果の影響は小さいと考えられる。一方、1005SZ 出

表 10 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-21090 (1号人骨)	-20.11 \pm 0.19	1333 \pm 19	1335 \pm 20	658AD(68.2%)680AD	650AD(87.2%)695AD 700AD(1.2%)707AD 747AD(7.0%)765AD
PLD-21091 (2号人骨)	-20.48 \pm 0.16	1293 \pm 19	1295 \pm 20	674AD(42.7%)709AD 747AD(25.5%)766AD	666AD(59.6%)728AD 736AD(35.8%)772AD
PLD-21092 (3号人骨)	-20.99 \pm 0.12	1256 \pm 19	1255 \pm 20	694AD(58.2%)748AD 765AD(10.0%)774AD	678AD(92.4%)781AD 791AD(3.0%)807AD
PLD-21435 (1005SZ)	-16.95 \pm 0.16	1291 \pm 19	1290 \pm 20	675AD(42.0%)710AD 747AD(26.2%)766AD	667AD(58.9%)728AD 736AD(36.5%)772AD

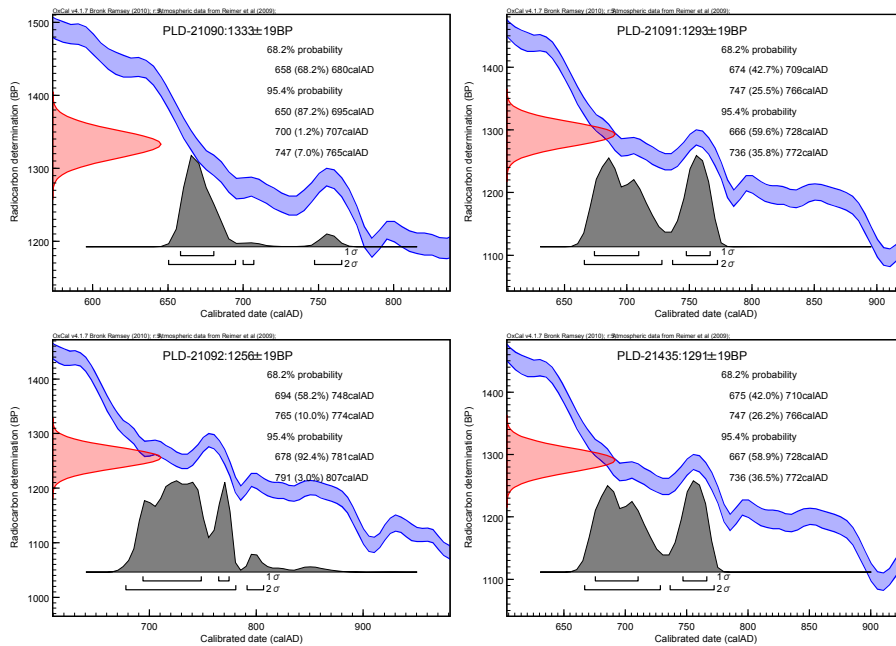


図 189 暦年較正結果

土人骨 (PLD-21435) は 1～3 号人骨に比べて海産物を摂取する割合が高かったと推定され、海洋リザーバー効果によりある程度古い年代が得られていると考えられる。

1 号人骨 (PLD-21090) は、650-695 cal AD(87.2%)、700-707 cal AD(1.2%)、747-765 cal AD(7.0%) の暦年代範囲を示した。これらの範囲は、古墳時代後期～奈良時代に相当する。

2 号人骨 (PLD-21091) は、666-728 cal AD(59.6%) および 736-772 cal AD(35.8%) の

暦年代範囲を示した。これらの範囲は古墳時代後期～奈良時代に相当する。

3 号人骨 (PLD-21092) は、678-781 cal AD(92.4%) および 791-807 cal AD(3.0%) の暦年代範囲を示した。これらの範囲は古墳時代後期～平安時代初頭に相当する。

1005SZ 出土人骨 (PLD-21435) は、667-728 cal AD(58.9%) および 736-772 cal AD(36.5%) の暦年代範囲を示した。Nakamura ほか (2007) は知多市楠廻間貝塚において縄文時代早期の炭化材とハイガイを 2 対測定しており、陸産物と海産物の ^{14}C 年代差が 140 と 235 程度であることを示している。1005SZ 出土人骨が示した暦年代範囲は古墳時代後期～奈良時代であるが、海洋リザーバー効果の影響を考慮すると最大で平安時代 (11 世紀) まで新しくなる可能性もある。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編 「日本先史時代の ^{14}C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- Nakamura, T., Nishida, I., Takada, H., Okuno, M., Minami, M. and Oda, H. (2007) Marine Reservoir Effect Deduced from ^{14}C Dates on Marine Shells and Terrestrial Remains at Archeological Sites in Japan. *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research B*, 259, 453-459.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0–50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 51, 1111-1150.

第3節 出土人骨の炭素・窒素安定同位体分析

山形秀樹・中村賢太郎（パレオ・ラボ）

1. はじめに

愛知県東海市に位置する松崎遺跡より検出された人骨を対象として、炭素と窒素の安定同位体比を測定した。また、炭素含有量と窒素含有量を測定して試料の C/N 比を求めた。なお、放射性炭素年代測定を行っている（放射性炭素年代測定参照）。

2. 試料および方法

試料は、若年男性の肋骨破片（1号人骨）、若年女性?の部位不明破片（2号人骨）、8歳前後の頭蓋骨破片（3号人骨）、1005SZ 出土人骨肋骨破片の計4点である。

測定を実施するにあたり、人骨試料は、超音波洗浄を施して表面に付着した汚れを除去した後、試料からコラーゲンを抽出し、それをを用いて測定を行った。

炭素含有量および窒素含有量の測定には、EA（ガス化前処理装置）である Flash EA1112（Thermo Fisher Scientific 社製）を用いた。スタンダードは、アセトニトリル（キシダ化学製）を使用した。

炭素安定同位体比（ $\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ ）および窒素安定同位体比（ $\delta^{15}\text{N}_{\text{Air}}$ ）の測定には、MASS（質量分析計）である DELTA V（Thermo Fisher Scientific 社製）を用いた。スタンダードは、炭素安定同位体比が IAEA Sucrose（ANU）、窒素安定同位体比が IAEA N1 を使用した。

測定は、次の手順で行った。スズコンテナに封入した試料を、超高純度酸素と共に、EA 内の燃焼炉に落とし、スズの酸化熱を利用して高温で試料を燃焼、ガス化させ、酸化触媒で完全酸化させた。次に還元カラムで窒素酸化物を還元し、水を過塩素酸マグネシウムでトラップ後、分離カラムで CO_2 と N_2 を分離し、TCD でそれぞれ検出・定量を行った。得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいて C/N 比を算出した。この時の炉および分離カラムの温度は、燃焼炉温度 1000°C 、還元炉温度 680°C 、分離カラム温度 45°C であった。分離した CO_2 および N_2 はそのまま He キャリアガスと共にインターフェースを通して MASS に導入し、安定同位体比を測定した。

3. 結果

表 11 に、試料名と炭素安定同位体比、窒素安定同位体比、炭素含有量、窒素含有量、C/N 比を示す。図 190 は炭素安定同位体比と窒素安定同位体比の関係を示したものである。

4. 考察

一般的に骨のコラーゲンの C/N 比は 2.9 ~ 3.6 の間に収まる (DeNiro, 1985)。人骨試料 3

表 11 結果一覧表

試料番号	試料名	$\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ (%)	$\delta^{15}\text{N}_{\text{Air}}$ (%)	炭素含有量 (%)	窒素含有量 (%)	C/N比
1号人骨	人骨コラーゲン 若年男性（肋骨破片）	-18.8	10.6	42.7	14.6	3.41
2号人骨	人骨コラーゲン 若年女性?（不明破片）	-18.9	10.8	42.7	14.8	3.36
3号人骨	人骨コラーゲン 8歳前後（頭蓋骨破片）	-19.6	11.1	41.5	13.5	3.58
1005SZ	人骨コラーゲン （肋骨破片）	-17.2	12.5	39.2	13.7	3.34

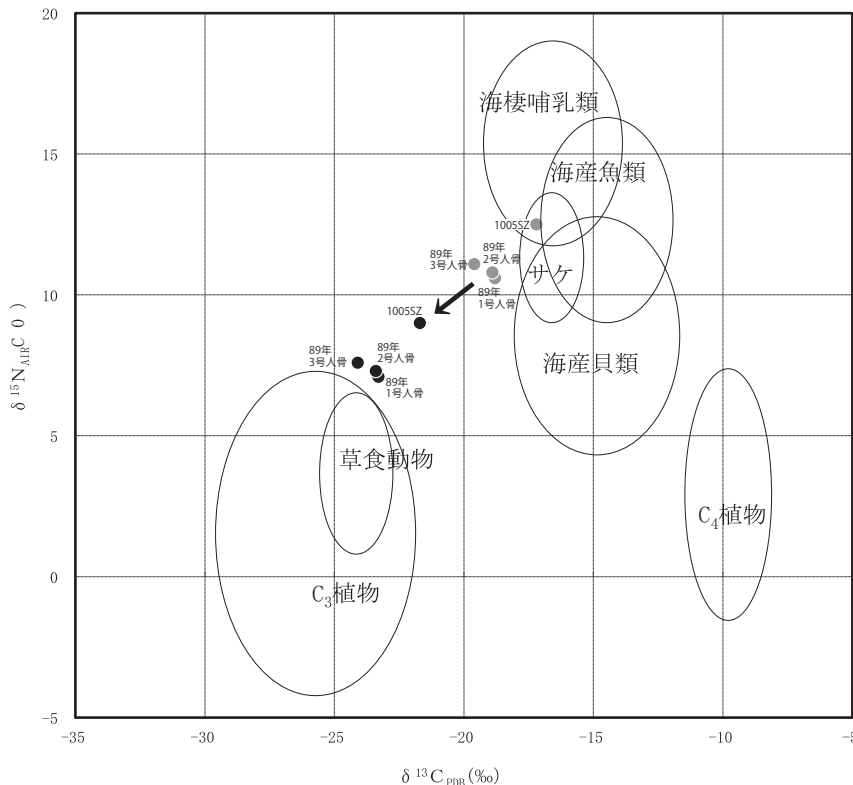


図 190 炭素・窒素安定同位体比 (吉田・西田 (2009) に基づいて作成)

る。このため、人の体組織の同位体組成から、主に消費した食物の情報を推定することが可能となる。

人が食物中のタンパク質を利用して体組織を構成する際に同位体分別が起きる。人骨中のコラーゲンについては、分析値に $\delta^{13}\text{C}$ で 4.5‰、 $\delta^{15}\text{N}$ で 3.5‰ 差し引くことにより体内での同位体分別効果を補正することができる (Ambrose, 1993)。体内での同位体分別効果を補正した結果を図 190 に示した。1～3号人骨は互いに近い値を示

点の C/N 比は 3.41～3.58 であり、この範囲に収まる値を示した。

人の成長に必要な生体組織を構成する際、食物に含まれているタンパク質が利用される。このとき、食物の分子組成は変化するが、同位体組成はほとんど変えることなく体組織の一部に残存す

し、 C_3 植物や草食動物付近の結果を示したことから、主に食していたのは C_3 植物、草食動物など陸産物であると考えられる。一方、1005SZ の人骨は、1～3号人骨に比べ $\delta^{13}\text{C}$ と $\delta^{15}\text{N}$ が高く、1～3号人骨よりも海産物を摂取する割合が高かったと推定される。

参考文献

- DeNiro MJ. (1985) Postmortem preservation and alteration of in vivo bone collagen isotope ratios in relation to palaeodietary reconstruction. *Nature* 317: 806-9.
- 赤澤威・南川雅男 (1989) 炭素・窒素同位体比に基づく古代人の食生活の復元. 田中琢・佐原眞編「新しい研究法は考古学になにをもたらしたか」: 132-143, クバプロ.
- Ambrose SH. (1993) Isotopic analysis of paleodiet: methodological and interpretive considerations. In: Sandford MK, editor. *Investigations of ancient human tissue: chemical analysis in anthropology*. Langhorne: Gordon and Breach. 59-130.
- 南川雅男 (2001) 炭素・窒素同位体分析により復元した先史日本人の食生活. 国立歴史民俗博物館研究報告, 86, 333-357.
- Yoneda, M., M. Hirota, M. Uchida, A. Tanaka, Y. Shibata, M. Morita, and T. Akazawa (2002) Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan. *Radiocarbon* 44(2), 549-557.
- 吉田邦夫・宮崎ゆみ子 (2007) 煮炊きして出来た炭化物の同位体分析による土器付着炭化物の由来についての研究. 平成 16-18 年度科学研究補助金基礎研究 B (課題番号 16300290) 研究報告書研究代表者西田泰民「日本における稲作以前の主食植物の研究」, 85-95.
- 吉田邦夫・西田泰民 (2009) 考古学が探る火炎土器. 新潟県立歴史博物館編「火炎土器の国 新潟」: 87-99, 新潟日報事業社.

第4節 松崎遺跡出土の人骨について

堀木真美子

1. はじめに

松崎遺跡は、愛知県東海市の海岸平野の浜堤上に位置している(図191)。現在の標高は2.2～4mである。当センターでは、1988年度、2008年度、2012年度の3カ年に発掘調査を行っている。

遺跡からは、古墳時代から古代・中世・近世の遺構や遺物が見つかっている。特に古墳時代から古代にかけては、製塩土器が大量に出土している。また貝層も多く検出されており、古墳時代の貝層ではたくさんの魚骨や獣骨が包含さ

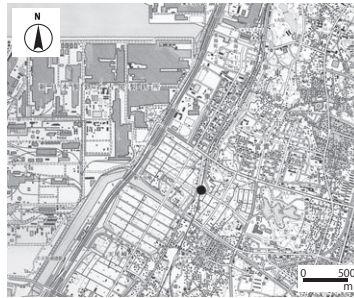
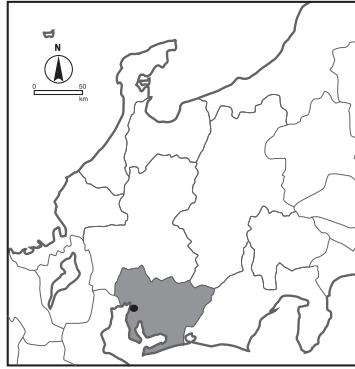


図191 松崎遺跡の位置

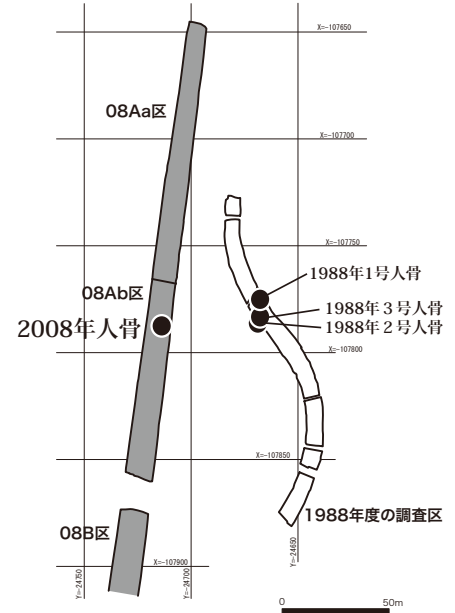


図192 人骨出土位置

れていた。中世では遺構や遺物の種類は多くないが、ピットや山茶碗等が確認されている。1988年度の発掘では3体、2008年度の発掘で1体の人骨が出土し、いずれも中世のものと推測されている(図192)。近世からは新田開発に伴う遺構が確認されている(福岡1991、川添2009、永井2013)。

今回は、2008年度の調査で出土した保存状態が良好な人骨の観察を行い、年齢、性別の判定および主な骨の計測を行った。あわせて1988年度に出土した2体の成人人骨の再計測を行った。

2. 出土状況

2008年度の調査において、08Ab区の埋葬土壇(1005SZ)より、保存状態の良好な人骨が出土した。この埋葬土壇は長方形をなす。埋葬形態

は、頭を北北東に向けた仰臥伸展葬である。下顎骨が本来の位置から北西へ約30センチ離れて出土している(図193・写真5)。また頭蓋骨は大後頭孔が上を向いた状態であった(写真6)。その他の部位は、埋葬時の位置をほぼ保っている。右肩甲骨付近に鉄器が出土している。埋土は、黄褐色の中粒砂である。

3. 残存部位

ほぼ全身の骨が残存している。手指骨と足指骨の一部が確認されていない(表12)。

頭蓋骨では鼻骨の下部が欠損する以外、ほぼ完全に残っている。下顎骨も正中面で破損しているが、完全に残存している。歯列は以下のとおり、ほぼすべての歯が残存している。

M ³	M ²	M ¹	P ²	P ¹	C	P ²	P ¹	I ¹	I ²	C	P ¹	P ²	M ¹	M ²	M ³
×	M ₂	M ₁	P ₂	P ₁	C	l ₂	(l ₁)	l ₁	l ₂	C	P ₁	P ₂	M ₁	M ₂	M ₃

(): 遊離歯 × : 欠歯

上顎の歯は、左右ともに中切歯から第3大臼歯まですべて残存する。右第1大臼歯は歯根だけが釘植している。右側第2小白歯の近心面と第2大臼歯の遠心面にう蝕が見られる。また第1大臼歯の頬側の歯槽骨は侵食されて歯根が露出している(写真8)。切歯、側切歯は、象牙質にいたる咬耗がみられる。犬歯は象牙質に達するダイヤモンド型の咬耗がある。第1小白歯の頬側咬頭では象牙質が1×4mm程の線状に露出している。舌側咬頭ではエナメル質にとどまる咬耗である。第2小白歯の頬側咬頭では、咬耗はエナメル質にとどまっている。舌側咬頭は付着物があり確認できない。第2大臼歯は、近心舌側咬頭では象牙質が直径1mm程の円状に、遠心舌側咬頭では点状に露出している。咬耗は咬合面全体にみられる。頬側よりも舌側の咬耗が激しい。裂溝は中央から頬側にのびるものと遠心舌側咬頭の付け根の部分のものが確認できる。第3大臼歯では近心舌側咬頭の近心側に弱い咬耗がみられる。上顎左側も中切歯から第3大臼歯まで確認できる。第3大臼歯は歯根のみが釘植している。第2小白歯の遠心面と第1大臼歯の近心面にう蝕が見られる。また第2大臼歯付近の頬側の歯槽骨に骨吸収が見られる。中切歯、側切歯、犬歯は右側と同様に、象牙質が露出する咬耗がみられる。犬歯は右側よりも咬耗が進んでいる。第1小白歯は中央溝が消失し、エナメル質が外周にだけ残存する程の咬耗がみられる。第2小白歯は、頬側咬頭の近心側に、3×2mm程の楕円状に象牙質が露出する咬耗がみられる。舌側咬頭は直径1mm程度の円形に象牙質が露出している。第1大臼歯は裂溝が確認できない程の咬

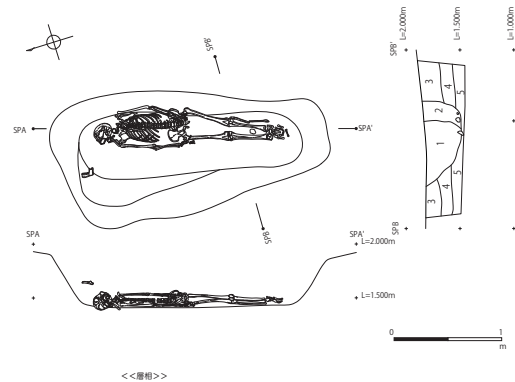


図 193 出土状態図

耗がみられる。特に近心側では歯冠面の30%程度を象牙質が露出している。遠心頬側咬頭、遠心舌側咬頭では、いずれも直径1mm程度の円状に象牙質が露出している。第2大臼歯は遠心側のほぼ半分がう蝕で失われている。近心頬側咬頭では、エナメル質にとどまる咬耗がみられる。近心舌側咬頭では直径1mm程度の円形に象牙質が露出している。

下顎の右側は側切歯から第2大臼歯まで残存している。中切歯は確認されていないが歯槽が開いている。第3大臼歯はレントゲン撮影により埋伏歯ではないことが確認できる。また咬合の様子と上顎の右第3大臼歯が近心側にしか咬耗がみられないことから、第3大臼歯が先天性欠如であると推測できる(写真7・写真8)。すべての歯に咬耗がみられる。側切歯と犬歯では象牙質が現れている。第1小白歯は頬側咬頭で咬耗が強く、3×1mmの菱形に象牙質が露出している。第2小白歯は頬側咬頭に直径1mmの円形に象牙質が露出しているが、舌側咬頭ではエナメル質にとどまる。第1大臼歯は近心頬側咬頭と遠心舌側咬頭で直径2mm、近心舌側咬頭と遠心頬側咬頭で点状の象牙質の露出がみられる。裂溝は中心部から舌側にのびるものだけが明瞭に観察できる。第2大臼歯では近心頬側咬頭で点状に象牙質が露出している。咬



写真5 出土状況



写真6 頭部拡大



写真7 下顎骨 レントゲン写真

表12 人骨残存部位

	2008年度人骨	1988年1号人骨	1988年2号人骨	1988年3号人骨
頭蓋骨	○			○
下顎骨	○	○		
脊柱	○	○	○	
環椎から腰椎(L5)	○	○		
仙骨	○	○近位端のみ		
尾骨	○			
胸郭	○	○		
肋骨	○左右13本づつ			

	2008年度人骨		1988年1号人骨		1988年2号人骨		2008年度人骨		1988年1号人骨		1988年2号人骨	
	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R
上肢骨												
鎖骨	○	○	○	○		○						
肩甲骨	○	○	○	○		○						
上腕骨	○	○	○	○		○						
橈骨	○	○	○	○	○	○						
尺骨	○	○	○	○	○	○						
手骨												
船状骨	○	○	○	○		○						
月状骨	○	○	○	○		○						
三角骨	○	○	○	○		○						
豆状骨	○	○	左右不明1点									
小菱形骨	○		○	○								
大菱形骨	○	○				○						
有頭骨	○	○	○	○		○						
有鈎骨	○	○	○	○		○						
第1中手骨	○	○	○	○		○						
第2中手骨	○	○	○	○		○						
第3中手骨	○	○	○	○	○	○						
第4中手骨	○	○	○	○	○	○						
第5中手骨	○	○	○	○	○	○						
第1基節骨	○	○	○	○	○	○						
第2基節骨	○	○	○	○								
第3基節骨	○	○	○	○		○						
第4基節骨	○	○	○	○		○						
第5基節骨	○	○	○	○	○	○						
第2中節骨	○	○	○	○								
第3中節骨	○	○	○	○								
第4中節骨	○	○	○	○	○	○						
第5中節骨	○	○	○	○								
第1末節骨	○	○			○	○						
第2末節骨	○	○	○	○								
第3末節骨	○											
第4末節骨		○										
第5末節骨												
下肢骨												
寛骨	○	○	○	○		○						
大腿骨	○	○	○	○		○						
膝蓋骨	○	○	○	○		○						
脛骨	○	○	○	○		○						
腓骨	○	○	○	○		○						
足骨												
踵骨	○	○	○	○		○						
距骨	○	○	○	○		○						
船状骨	○	○	○	○		○						
内側楔状骨	○	○	○	○		○						
中間楔状骨	○	○	○	○		○						
外側楔状骨	○	○	○	○		○						
立方骨	○	○	○	○		○						
第1中足骨	○	○	○	○		○						
第2中足骨	○	○	○	○		○						
第3中足骨	○	○	○	○		○						
第4中足骨	○	○	○	○		○						
第5中足骨	○	○	○	○		○						
第1基節骨	○	○	○	○		○						
第2基節骨	○	○	○	○		○						
第3基節骨	○	○	○	○		○						
第4基節骨	○	○	○	○		○						
第5基節骨	○	○	○	○		○						
第2中節骨	○	○	○	○		○						
第3中節骨	○	○	○	○		○						
第4中節骨	○	○	○	○		○						
第5中節骨	○	○	○	○		○						
第1末節骨	○	○	○	○		○						
第2末節骨	○	○	○	○		○						
第3末節骨	○	○	○	○		○						
第4末節骨	○	○	○	○		○						
第5末節骨	○	○	○	○		○						

耗は面的に広がり、近心舌側咬頭付近と中心部の裂溝以外は観察できない。左側は中切歯から第3大臼歯まですべて残存している。第1大臼歯の遠心面にう蝕が確認できる。中切歯、側切歯、犬歯はいずれも象牙質が露出している。第1小白歯は頬側咬頭で咬耗が激しく、5×3mmの三角形に象牙質が露出している。舌側咬頭は、遠心側に傾く面でエナメル質にとどまる咬耗がみられる。第2小白歯はエナメル質にとどまる咬耗である。第1大臼歯はすべての咬頭で咬耗が象牙質に至っている。歯冠面のほぼ8割が象牙質である。第2大臼歯は象牙質に至らない程度の咬耗であるが、裂溝は中央部分に観察できる程度である。第3大臼歯は近心側の咬頭でエナメル質にとどまる咬耗がみられる。

胴骨では、脊柱全体の椎骨すべてと胸骨、肋骨をすべて残す。上肢骨では、指骨以外のものはすべて残存している。右側では、小菱形骨、右

第1末節骨、第3末節骨、第5末節骨が不明である。左側では、第5中



写真8 上顎・下顎 右側面

末節骨、第5末節骨が不明である。下肢骨も指骨を除き多くの骨が残存している。右側では中間楔状骨、第1基節骨、第2から第5中節骨、第2から第5末節骨が不明である。左側では、第2基節骨、第2中節骨、第5中節骨、第2から第5末節骨が不明である(表12)。

4. 性別・年齢

性別は、寛骨の大坐骨切痕の角度が狭く、男性と判断される。年齢については、頭蓋骨の縫合線のいずれも閉鎖していないこと、第3大臼歯が左

表13 主な骨の計測値

	2008年人骨		1988年1号人骨		1988年2号人骨	
	L	R	L	R	L	R
頭蓋骨						
1. 脳頭蓋最大長	183.0	-	-	-	-	-
5. 頭蓋底長	103.0	-	-	-	-	-
8. 頭蓋最大幅	148.0	-	-	-	-	-
9. 最小前頭幅	103.8	-	-	-	-	-
11. 頭蓋長幅示数(8/1)	80.9	-	-	-	-	-
17. バジオン・フレグマ高	133.0	-	-	-	-	-
12. 頭蓋長高示数(17/1)	72.7	-	-	-	-	-
13. 頭蓋幅高示数(17/8)	89.9	-	-	-	-	-
23. 頭蓋水平周	527.5	-	-	-	-	-
24. 横弧長	311.0	-	-	-	-	-
25. 正中矢状弧長	365.0	-	-	-	-	-
26. 正中矢状前頭頂長	120.0	-	-	-	-	-
27. 正中矢状頭頂弧長	129.0	-	-	-	-	-
28. 正中矢状後頭頂長	116.0	-	-	-	-	-
29. 正中矢状前頭頂長	108.0	-	-	-	-	-
30. 正中矢状頭頂弧長	114.0	-	-	-	-	-
31. 正中矢状後頭頂長	95.5	-	-	-	-	-
40. 顔長	95.0	-	-	-	-	-
43. 上顔幅	110.8	-	-	-	-	-
45. 頬骨弓幅	148.8	-	-	-	-	-
46. 中顔幅	105.5	-	-	-	-	-
47. 顔高	121.6	-	-	-	-	-
48. 上顔高	70.0	-	-	-	-	-
138. コルマン顔示数(47/45)	0.8	-	-	-	-	-
139. コルマン上顔示数(48/45)	0.5	-	-	-	-	-
50. 前眼窩間隔	24.6	-	-	-	-	-
51. 眼窩幅	43.8 (L) 42.2 (R)	-	-	-	-	-
52. 眼窩高	35.9 (L) 35.3 (R)	-	-	-	-	-
142. 眼窩示数(52/51)	0.8 (L) 0.8 (R)	-	-	-	-	-
54. 鼻幅	27.5	-	-	-	-	-
55. 鼻高	55.2	-	-	-	-	-
57. 鼻骨最小幅	9.5	-	-	-	-	-
147. 鼻示数(54/55)	49.8	-	-	-	-	-
61. 上顎歯槽突起幅	64.5	-	-	-	-	-
65. 下顎歯槽突起幅	131.5	-	-	-	-	-
66. 下顎角幅	115.0	102.7	-	-	93.9	-
70. 下顎枝高	60.9	59.2	-	-	-	-
71. 下顎枝幅	40.4	37.8	-	-	34.8	-
単位 mm						

	2008年人骨		1988年1号人骨		1988年2号人骨	
	L	R	L	R	L	R
鎖骨						
1. 最大長	139	-	-	138	-	-
上腕骨						
1. 最大長	315	321	289	302	-	-
4. 下端幅	63	62	51	51	-	58
5. 中央最大径	25	25	19	20	-	-
6. 中央最小径	17	18	17	17	-	-
7. 骨体最小周	67	67	57	59	-	60
7a. 骨体中央周	71	72	62	62	-	-
8. 頭周	147	147	-	-	-	-
橈骨						
1. 最大長	242	245	214	222	-	-
3. 骨体最小周	43	43	38	40	40	41
4. 骨体横径	16	17	14	15	19	-
5. 骨体矢状径	12	12	12	12	12	-
尺骨						
1. 最大長	261	-	235	242	-	263
3. 骨体最小周	41	40	35	34	36	37
11. 骨体矢状径	13	12	12	11	12	12
12. 骨体横径	17	17	14	16	15	18
大腿骨						
1. 最大長	453	453	410	410	472	466
6. 中央矢状径	28	29	25	25	28	28
7. 中央横径	28	29	27	26	29	30
8. 中央周	90	90	80	83	90	92
9. 上部横径	36	35	33	33	36	37
10. 上部矢状径	26	26	22	23	25	25
17. 頸径	104	104	91	92	-	-
20. 頭周	156	154	135	135	-	147
脛骨						
1. 最大長	350	353	345	-	-	-
1a. 最上長	352	354	-	-	-	-
8. 中央最大径	32	32	29	-	-	-
8a. 栄養孔部矢状径	35	34	31	32	35	36
9. 中央横径	22	22	20	-	-	-
9a. 栄養孔部横径	24	24	21	22	21	23
腓骨						
1. 最大長	345	345	-	324	-	-
2. 中央最大径	-	14	-	-	-	-
3. 中央最小径	-	15	-	-	-	-
4. 中央周	-	47	-	-	-	-
4(1). 上端幅	-	29	-	35	-	-
4(2). 下端幅	26	27	24	24	-	25

下顎骨の欠歯を除いてすべて萌出していること、長骨の骨端部がすべて癒合していること、および恥骨結合面の状態から、20代半ばから後半であると思われる。

5. 計測値

頭蓋骨および長骨の計測値を表13に示す。1988年度の調査時に出土した成人人骨2体(1988年1号人骨・1988年2号人骨)についても再度計測を行った。1988年3号人骨は、頭蓋骨の一部と乳臼歯1本、大白歯2本が出土した小児である。1988年1号人骨は、大坐骨切痕の角度が鋭角であること、頭蓋骨の縫合がいずれも癒合していないことや第3大白歯が萌出していることなどから、若年の男性と判断された。1988年2号人骨は、腸骨が広いことや上腕骨に滑車上孔がみられること等から女性の可能性が大きいとされていた。年齢については、上顎右第3大白歯が遊離歯であること、下顎の左右の第3大白歯がともに未萌出であること、四肢長骨の骨端が閉じてい

ることから、若年とした(堀木 1998)。しかし、再検討の結果、大坐骨切痕の角度と四肢長骨の大きさや筋付着部の状態等から男性と判定した。身長を藤井(1960)の身長推定式からもとめた。この式は、中世日本人の身長を複数の骨から推定する場合に骨の種類による推定誤差を最小にするとされる(長岡ら、2008)。推定結果は表14に示す。2008年人骨の推定身長が約163cm、1988年1号人骨が約156cm、1988年2号人骨が約168cmとなった。長岡ら(2008)がこの方法で算出した各地の中世人男性の平均身長は158cm前後であり、1988年1号人骨は平均的、2008年人骨はかなり高く、1988年2号人骨は著しく高いことになる。

謝辞

人骨の年齢推定および性別判定、計測については、長野県立看護大学 多賀谷昭教授にご指導・ご教授いただいた。また下顎骨のレントゲン撮影は鬼頭剛が行った。記して感謝いたします。

表14 推定身長

男性[♂]用推定式(藤井 1960)	2008年人骨(男)		1988年1号人骨(男)		1988年2号人骨(男)	
	計測値	推定身長	計測値	推定身長	計測値	推定身長
・上腕骨最大長 左: $Y = 2.83X + 729.08$ 右: $Y = 2.79X + 732.42$	315	1620.53	289	1545.54		
	321	1628.01	302	1575.00		
・橈骨最大長 左: $Y = 3.30X + 834.01$ 右: $Y = 3.23X + 842.96$	242	1632.61	214	1540.21		
	245	1634.31	222	1560.02		
・尺骨最大長 左: $Y = 3.25X + 792.01$ 右: $Y = 3.09X + 825.87$	261	1640.26	235	1555.76		
			242	1573.03	263	1638.54
・大腿骨最大長 左: $Y = 2.50X + 535.60$ 右: $Y = 2.47X + 549.01$	453	1668.10	410	1560.60	472	1715.60
	453	1667.92	410	1561.71	466	1700.03
・脛骨最大長 左: $Y = 2.36X + 775.42$ 右: $Y = 2.47X + 739.99$	350	1601.42	345	1589.62		
	353	1611.65				
・腓骨最大長 左: $Y = 2.55X + 729.70$ 右: $Y = 2.60X + 709.25$	345	1609.96				
	345	1606.25	324	1551.65		
平均推定身長(mm)		1629.18		1561.31		1684.72

参考文献

- 川添和暁 (2009) 松崎遺跡・上浜田遺跡. 愛知県埋蔵文化財センター年報, 平成20年度 .24-27.
 永井宏幸 (2013) 松崎遺跡・上浜田遺跡. 愛知県埋蔵文化財センター年報, 平成23年度 .10-11.
 長岡朋人・平田和明・大平里沙・松浦秀治 (2008) 鎌倉由比ヶ浜南遺跡から出土した中世人骨の身長推定. Anthropological Science(Japanese Series) Vol.116(1),25-34.
 福岡晃彦 (1991) 松崎遺跡. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第20集 .138pp.
 藤井明 (1960) 四肢長骨の長さと言長の関係について. 順天堂大学体育学部紀要 ,3:49-61.
 堀木真美子 (1998) 松崎遺跡出土の人骨について. 愛知県埋蔵文化財センター年報, 平成9年度 .156-164.



頭蓋骨 正面



左側面



上面



上顎



下顎



寛骨



鎖骨・肩甲骨・上腕骨



大腿骨・膝蓋骨



橈骨・尺骨



脛骨・腓骨

写真9 人骨写真

第5節 松崎遺跡出土ハマグリ成長線分析

畑山智史(東京大学総合研究博物館)

1. はじめに

松崎遺跡の調査では、古墳時代から古代の貝層を検出している。貝層から得られる貝殻には、成長に伴い、成長線(日周線)が刻まれ、それを読み解くことで、遺跡における貝採集季節が明らかにされてきた。愛知県内における、この成長線を用いた分析は、大曲輪遺跡や伊川津貝塚、水神貝塚、大西貝塚など主に縄文時代の報告をはじめ、本報告とは別地点の松崎遺跡、また近世の築根遺跡が挙げられる。

本稿は、既報(蔵本 2001、2005)で報告後、新たに発掘調査で検出した貝層を試料に貝殻成長線分析を用いて、古墳時代から古代の季節について推定した。

2. 試料と方法

試料は、ハマグリ *Meretrix lusoria* 53点である(表 15)。出土貝層・遺構は、Q、S2、S5、S15、S20、S27、S30、V3、V4、W1層、2007SDである。

貝殻成長線分析のレプリカ法は、常法(Koike, 1980)を用いた。破壊分析のため、切断作業の前に試料の計測を行い、ノギスを用いて、小数点以下第2位までの有効数字とした。計測後、ダイヤモンドカッターを用いて切断した試料を樹脂で包埋し、固化後、耐水研磨紙で切断面を研磨する。希塩酸によるエッチングを行った後、酢酸エチルを滴下し、アセチルセルロースフィルムで成長線を転写した。転写したフィルムをプレパラートに挟み込み、貝殻成長線分析の観察用プレパラート

表 15 サンプルの計測値

No.	LR	遺構・貝層	殻長	殻高	殻厚
215	L	S2層	46.60	38.95	11.93
216	L	S20層	41.53	33.46	10.64
217	L	S27層	67.70	53.68	17.53
218	L	V4層(上層)	64.64	51.35	11.98
219	L	W1層	59.96	48.90	16.20
220	L	W1層	75.35	62.22	20.80
221	L	W1層	72.90	59.90	19.46
222	L	V3層下層	-	24.00	6.91
223	L	V3層下層	-	7.34	7.68
224	L	V3層下層	-	29.20	9.02
225	L	V3層下層	40.62	34.14	11.05
226	R	V3層下層	28.54	25.42	8.16
227	R	V3層下層	31.81	28.93	8.59
228	R	V3層下層	32.04	29.39	8.74
229	R	V3層下層	48.50	40.79	13.10
231	L	Q層	29.74	27.36	8.36
232	L	Q層	41.28	36.30	11.88
233	L	Q層	43.00	36.52	10.98
234	L	Q層	45.89	42.06	12.32
235	L	Q層	52.86	45.36	13.74
236	L	Q層	51.94	45.46	12.98
237	L	Q層	51.98	42.91	13.68
238	L	Q層	59.39	49.62	15.50
239	L	Q層	62.64	52.32	16.60
240	L	Q層	[68.70]	56.57	170.30
241	L	S5層	37.30	34.54	10.82
242	L	S5層	42.15	36.28	11.60
243	L	S5層	43.08	38.72	11.28
244	L	S5層	42.70	37.92	12.52
245	L	S5層	[43.76]	37.08	11.80
246	L	S5層	50.72	37.26	13.44
247	L	S5層	52.92	43.92	15.32
248	L	S5層	63.94	52.08	16.36
249	L	S5層	70.98	58.02	18.54
311	L	S15層	42.96	36.46	10.87
312	L	S15層	45.94	40.53	14.21
313	L	S15層	49.37	42.68	15.12
314	L	2007SD	45.93	39.98	13.18
315	L	2007SD	49.31	42.10	11.04
316	L	2007SD	49.59	42.42	12.92
317	L	2007SD	55.28	47.37	13.96
318	L	2007SD	57.46	47.42	14.33
324	L	V4層(上)	[44.32]	45.16	13.88
325	L	V4層(上)	62.18	51.19	16.68
326	L	V4層(上)	[59.34]	49.67	13.62
327	R	V4層(上)	54.20	45.98	12.62
328	R	V4層(上)	[49.80]	43.37	14.64
401	L	S30層	57.23	48.04	14.38
402	L	S30層	42.34	36.13	12.04
403	L	S30層	40.09	33.93	11.20
404	L	S30層	39.72	34.06	10.60
405	L	S30層	40.14	34.42	11.61
406	L	S30層	33.56	28.98	9.30

とした。検鏡は生物顕微鏡を用いて40～200倍下で観察を行った。

貝類の採集(死亡)時季は、縁辺に最も近い

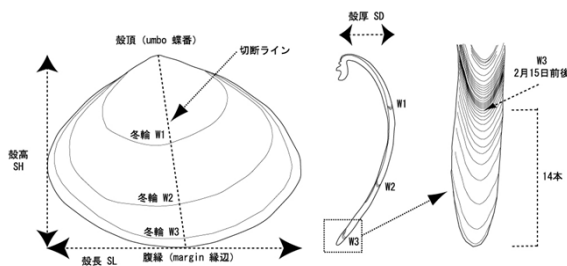


図 194 貝殻の計測値と切断面

冬輪（最終冬輪）から縁辺までの日周線の本数（最終日輪）がその後に生存した日数を表していることから、これを計算し求めている。冬輪は、2月～3月初旬頃と推定されている。多くの日本産二枚貝の場合（ホタテガイなど除く）、毎年繰り返し観察される成長不良な部分は、冬季における成長部分と考えられることから冬輪と認定して、その中心が日本沿岸において海水温度の最も低くなる2月15日に近接すると推定されている（Koike1980）。

よって、採集時季は、（2月15日）+（日輪の本数）=（貝の死亡日）として算出し、それを四季の二分割程度の大別に当てはめ直してから採集時季の推定に利用している（Koike1980）。

貝の死亡時季を推定するために小池が定めた日周線の本数を基準とした季節の時期は、1年を8期に区分しており、今回採用した（表16）。

表 16 日周線による季節区分

日周線数	月日	時季	主な行事
07 45	2月15日～3月31日	春季前半	雛祭（3月3日）
467 90	4月1日～5月15日	春季後半	端午（5月5日）、立夏（5月6日頃）
917 135	5月16日～6月29日	夏季前半	夏至（6月21日頃）
1367 180	6月30日～8月13日	夏季後半	立秋（8月7日頃）
1817 225	8月14日～9月27日	秋季前半	
2267 270	9月28日～11月11日	秋季後半	立冬（11月7日頃）
2717 315	11月12日～12月26日	冬季前半	冬至（12月22日頃）
3167 365	12月27日～2月14日	冬季後半	元日（1月1日）、立春（2月4日頃）

小池（1980ほか）を基に作成した。旧暦1月1日は、毎年1月22日頃～2月19日頃までを移動する。

3. 結果と考察

1. 分析結果の概要及びサンプルの状態

検鏡できたサンプルの点数は、57点中25点である。サンプルは、2～3歳の若齢個体为中心であり、春先の採集が多くを占めた。

サンプルの状態は、一部縁辺部の欠損個体が見られたが、全体的に良好であり、十分に計測可能であった。特にS20層より出土したNo. 216は、かなり良好であり、貝殻形成初期から成長線が残存していた。一般的に貝殻の1年目にあたる成長線は、磨耗や欠損が著しく、観察できない。だが、No.216は、良好であり、1年目の冬輪から形成初期までの成長線を計数すると、142本であったことから、9月26日（秋季前半）に幼生期を終え、貝殻を形成したと推定された。ハマグリの産卵期は、7～9月であり、孵化後、幼生となり3週間ほどの浮遊生活を過ごす。このことから、当時のハマグリの産卵期は、9月初旬頃と推定される。

2. 年齢組成

推定できた個体は、2歳が最も多く（10点、40%）であり、3歳（8点、32%）、5歳（4点、16%）と若齢個体が目立った。このような若齢個体は、繁殖活動に達していない可能性があり、

表 17 分析の結果

No.	貝層	時代	最終日輪	推定季節	年齢
215	S2	古代	224	秋季前半	2
216	S20	古代	271	冬季前半	2
217	S27	古代	36	春季前半	5
218	V4 層上層	古墳	13	春季前半	5
219	W1	古墳	109	夏季前半	5
223	V3 下層	古墳	0	春季前半	2
228	V3 下層	古墳	66	春季後半	2
229	V3 下層	古墳	5	春季前半	3
232	Q	古代	18	春季前半	3
233	Q	古代	10	春季前半	3
237	Q	古代	25	春季前半	4
238	Q	古代	18	春季前半	6
240	Q	古代	13	春季前半	7
241	S5	古代	140	夏季後半	2
242	S5	古代	202	秋季前半	2
244	S5	古代	159	夏季後半	2
246	S5	古代	244	秋季後半	2
311	S15 層	古代	192	秋季前半	2
313	S15 層	古代	104	夏季前半	3
314	2007SD	古代	257	秋季後半	3
316	2007SD	古代	155	夏季後半	3
324	V4 層上層	古墳	31	春季前半	3
326	V4 層上層	古墳	22	春季前半	5
405	S30 層	古代	76	春季後半	2
428	2007SD	古代	213	秋季前半	3

最終日輪は、最終冬輪から腹縁までの日輪数を示す。
No. 428 のみシオフキの分析である。

水産資源の枯渇が危惧される。

3. 推定季節

推定できた個体は、春季が最も多く（13点、52%）、であり、夏季（5点、20%）、秋季（6点、24%）、冬季（1点、4%）であった。既報（蔵本 2001、2005）においても、春から冬にかけて、貝採集の減少傾向が指摘されており、本結果も同様であった。

春季の中でも、春季前半（2月15日～3月31日に相当）が11点であり、全体の中でも4割を占めており、本遺跡において最も貝採集が盛んな時季であった。その一方、貝採集に適していると思われる春季後半（4月1日～5月15日に相当）と夏季前半（5月16日～6月29日に相当）でそれぞれ2点が確認できたのみであった。この時季は気温や海水温度も上がり、貝採集のみなら

表 18 年齢組成

年齢	比率	個体数
1歳	0.00	0
2歳	0.40	10
3歳	0.32	8
4歳	0.04	1
5歳	0.16	4
6歳	0.04	1
7歳	0.04	1
8歳	0.00	0
合計	1.00	25

表 19 季節組成

四季区分	比率	個体数	八季区分	比率	個体数
春	0.52	13	春季前半	0.44	11
			春季後半	0.08	2
夏	0.20	5	夏季前半	0.08	2
			夏季後半	0.12	3
秋	0.24	6	秋季前半	0.16	4
			秋季後半	0.08	2
冬	0.04	1	冬季前半	0.04	1
			冬季後半	0.00	0
合計	1.00	25	合計	1.00	25

ず、稲作や製塩などの生業活動にも適している。この結果は、他の生業に労力を集中したため、貝採集活動の停滞を示しているのかもしれない。

4. まとめ

本稿は、松崎遺跡で検出した貝層より得られたハマグリを分析し、その採集季節や年齢組成について検討した。その結果、採集季節は春が最も多く、夏季や秋季、冬季にかけて減少傾向であった。特に春先の採集が多く、その一方、貝採集に適していると思われる春季後半と夏季前半が停滞気味であった。その要因については、稲作や製塩などの他の生業が示唆される。

また年齢組成は、2～3歳の若齢個体で占められており、資源の枯渇が危惧される。

謝辞

分析にあたり、東京大学総合研究博物館年代測定室の米田 穰教授、大森貴文氏、宮崎ゆみこ氏に協力頂いた。最後に成長線分析について、岡山理科大学総合情報学部の富岡直人教授にご指導

頂いた。記して感謝の意を表します。また本稿は、平成 24 年度ニッセイ財団 環境問題研究助成 若手研究・奨励研究「貝殻に記録された災害史復元手法の開発」における成果の一部である。

参考文献

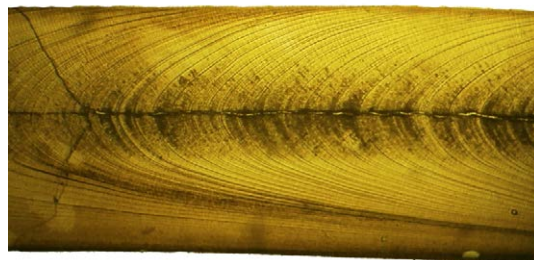
- 蔵本俊明 2001 「原始・古代製塩の季節に関する研究—ハマグリ成長線の分析に基づいて (1)—」『研究紀要』第 8 号 [静岡県埋蔵文化財調査研究所] : pp. 1-21
- 蔵本俊明 2005 「原始・古代製塩の季節に関する研究—ハマグリ成長線の分析に基づいて (2)—」『設立 20 周年記念論文集』[静岡県埋蔵文化財調査研究所] : pp. 127-138
- Koike, H. 1980 'Seasonal dating by growth line counting of the clam, *Meretrix lusoria*', "The university museum, The university of Tokyo, Bulletin" 18: pp. 1-104.



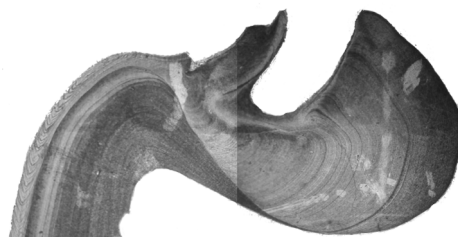
No.216 の切断面



a. 腹縁部の拡大



b. 冬輪群の拡大



c. 拓頂の拡大

写真 10 貝殻成長線顕微鏡写真

第6節 松崎遺跡・上浜田遺跡周辺の表層地形解析

鬼頭 剛

1. はじめに

松崎遺跡・上浜田遺跡の調査地点がどのような地形環境に立地するのか。1/2500の等高線図の作成と地形解析を行ない、調査地点の立地環境について検討した。

2. 分析方法

調査地点を含めた広域的な周辺地形を解析するため、1/2500スケールで等高線図を作成した。等高線図の作成にあたり愛知県東海市役所発行の「都市計画図(1/2500)」にプロットされた標高値を基にした。なお、都市計画図は現況版に比べて人工的な土地の改変面積の少ない1969年(昭和44年)版を用いた。現況版との違いは、国道247号西知多産業道路にある横須賀ICが工事途中であることや、現在の加家ICから荒尾町を通り大池の北側を通る道路もできていないこと、横須賀町から中央町を経て諏訪神社の北を通る国道155線がないことが挙げられる。また、東海市役所がなく(なお、目印となるので現在の場所を図には入れている)、市役所の西を南北に通る道路もない。ちなみに現在の東海市役所庁舎は1979年(昭和54年)に中央町に開庁している。なお解析にあたって、河川堤防や高速道路、工場や学校、あるいは東海市の伊勢湾側にひろがる海岸の埋め立て地のような、人工的に建設・造成されたことが明らかな標高値は除外して等高線を描画した。描画後には現地踏査を実施し、さらに航空写真を基に検討を加えた。

3. 分析結果

遺跡周辺の等高線図

東西、南北とも約2.7km四方の範囲全体には標高0mから標高40mまでの等高線が描かれ、解析範囲全体では北端と南端で相対的に高く、西に向かい低くなる傾向がある(図195)。解析範囲の現在の状況は、図の中央を南北方向に名古屋鉄道常滑・河和線が通り、太田川駅より南において常滑線と河和線とに分かれる。図の西には名古屋臨海鉄道が通る。道路では図の西側に国道247号西知多産業道路が北東-南西方向に通り、県道東海緑線が北で、国道155号線が南でそれぞれ西知多産業道路に合流する。図の中央よりやや北には南東から北西方向に大田川が流れる。大田川は曾根で東から流下してくる渡内川と合流し、大田川となって西で伊勢湾に注ぐ。なお、大田川は川北新田より西の国道247号西知多産業道路や名古屋臨海鉄道を越えたあたりから南西方向に大きく屈曲し、本論の解析範囲からは外れるが、約2.4km南で伊勢湾(名古屋港)に注いでいる。これは屈曲点よりも西の東海市東海町・元浜町が広大な埋め立て地となっているからである。

解析図全体について、図の北東、東海市役所のある中央町や富木島町を南端として標高10~40m、図の南ないし南東の坂下や大田町でも標高10~40mと相対的に標高が高い。いっぽう、相対的に低いところとしては図の西において、北から順に大田町、浜新田、後浜新田、川南新田、天尾崎、汐田、川田、成宝新田、横須賀町、元浜

町にかけて標高0mの等高線が認められる。また、等高線としては描いていないものの標高0mの等高線よりもさらに西には標高-0.2mや-0.3mなどの標高0mよりも明らかに低い標高値がみられることをつけ加えておく。以上のように、図

の北東や南東には標高10～40mの相対的に高い丘陵地があり、それらの丘陵地に囲まれて標高10mよりも低い場所がみられ、一部の地域ではさらに標高5mよりも低い場所がみられる。標高5mよりも低い地域は等高線間隔を1m（一部で

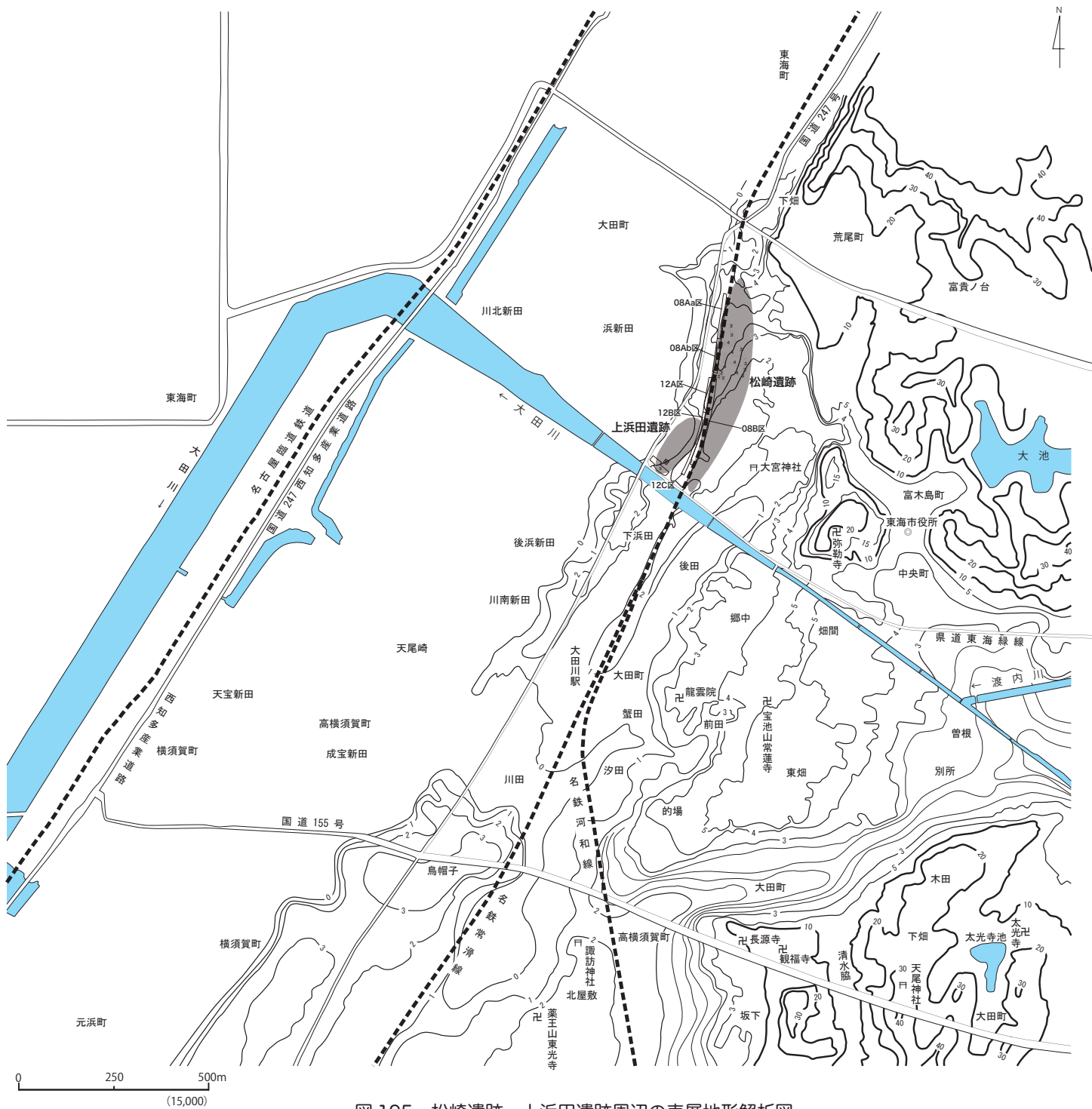


図 195 松崎遺跡・上浜田遺跡周辺の表層地形解析図
図には08区・12区の調査区も配置した。

はさらに 0.2m) ごとに等高線を描いた。本論では主に標高 5m 以下に認められる地形の起伏についての特徴を、周りよりも相対的に標高の高い尾根地形と低い谷地形とに分けて述べる。

尾根地形を北から南へ順に、さらに詳しい地形要素を列記する。

1. 図の北、荒尾町の西にある下畑を北端として南の下浜田、川南新田までに標高 1.0 ～ 4.0m で北東 - 南西方向に距離約 1.2km、東西の幅が浜新田付近で約 140m、後浜新田で約 100m の南に凸の舌状地形がある。

2.1 の舌状地形の東に平行して、大宮神社から南西方向の名鉄太田川駅にかけて標高 1.0 ～ 2.0m で南北約 790m、東西約 75m の、名鉄太田川駅付近を南端とする南に凸の舌状地形がある。

3. 弥勒寺のある標高 10 ～ 20m で東西約 210m、南北約 290m の小丘状の地形が東海市役所の西に隣接してみられるが、そこから南方向に標高 3.0 ～ 5.0m で、東西の最大距離約 670m、南北の最大距離約 890m の南に凸の舌状地形がみられる。これは解析範囲内においてもっとも大きな舌状地形である。この地形は北の畑間から南の東畑にかけてが標高 5m よりも高い地形の尾根線となっており、それを境にして西ないし東へ次第に標高を減じる。

4. 図の南、烏帽子から横須賀町にかけて標高 0 ～ 3.0m で、認められるだけで南北約 930m 以上、東西最大約 400m の北側に凸の舌状地形がある。

5. 同じく図の南、北屋敷には標高 2.0m よりも高い、確認できるだけで東西約 270m 以上、南北約 330m 以上の北に凸の尾根地形がある。

以上のように、解析範囲の標高 5m 以下には 5 つの相対的に標高の高い場所が認められた。

つぎに、等高線から読み取れる谷地形について

北から南へ順に述べる。

1. 図の北側、下畑を北端として南の下浜田、川南新田までにみられた標高 1.0 ～ 4.0m の南に凸の舌状地形の東には、下浜田から大田町にかけて標高 0 ～ 2.0m で東西約 100m、南北約 660m の緩傾斜の凹地がある。

2. 大宮神社から名鉄太田川駅にかけてみられた舌状地形の東には、後田から蟹田にかけて標高 0 ～ 2.0m で東西約 75m、南北約 720m の緩傾斜の凹地がみられる。

3. 図の中央からやや東、東海市役所のある中央町や富木島町付近を境にして北方向へ、南東から北西に傾斜する標高 2.0 ～ 10m で東西約 90m、南北約 360m の谷地形がある。

4.3 と同様に東海市役所のある中央町や富木島町付近を境にするが、今度は北から南東方向に傾斜し、富木島町から中央町、曾根に至る標高 2.2 ～ 5.0m で東西約 580m、南北約 950m の、南に開いた谷地形がみられる。

5. 図の中央、弥勒寺から南にひろがった標高 3.0 ～ 5.0m の尾根地形の南西にみられる、宝池山常蓮寺から西へ、前田を通り蟹田、汐田に至る標高 0 ～ 5.0m で東西約 530m、南北約 250m の南西方向に開いた谷地形がある。

6. 図の中央、大田町から高横須賀町に至る標高 2.0 ～ 2.6m で東西約 630m、南北約 260m の西に開いた谷地形が認められる。

7. 図の南西端で、烏帽子の東側にみられ標高 0 ～ 2.0m で東西 360m 以上、南北 660m 以上の北に開いた谷地形がある。

以上の 7 つの谷地形が認められた。まとめると、解析範囲の標高 5m 以下には周りよりも標高のたかい 5 つの舌状地形あるいは尾根地形と、標高の低い 7 つの谷地形が認められることになる。

現在の大田川の流路

表層地形解析によって北や南でみられた標高10～40mの相対的に標高の高いところは、地質学的には新第三系中新統～鮮新統の常滑層群布土累層からなる丘陵地となっている(牧野内, 1988)。いっぽう、標高10mよりも低いところには地質学的にもっとも新しい完新統堆積物が分布する。特に標高5m以下には5つの尾根地形と7つの谷地形がみられ、完新統の分布域にも軽微な起伏があることがわかった。さて、本論では松崎遺跡・上浜田遺跡の調査地点がどのような地形の上に立地しているのか検討を加えるわけであるが、それにあたり注意しなければならないことがある。それは、発掘調査地点の南を流れる大田川の流路位置である。現在の大田川は解析範囲内において、東の曾根付近から北西方向へ畑間、後田、下浜田を通り、途中で屈曲することなくまっすぐに流下している(図195)。流路は各等高線に対して直交していることがわかる。ふつう、河川流路のある場所は谷地形の中となり、等高線を描いた場合、等高線のひとつひとつは相対的に標高の高い方へ凸の形をした曲線となる。また、流路を挟んだ両側や片側には等高線が流路に対して平行に並んだり、流路方向に平行な長軸をもつ閉曲線からなる等高線が描かれ、いわゆる堤防状に描画されるときもある。ところが、現在の大田川にはそのどちらの特徴もみられず、等高線とはまったく整合性をもたずに流下しているのである。このように、等高線とまったく調和しない河川流路が認められる原因のひとつとして、「瀬替え」といった人工的な流路の改変が推定される。実際にこの大田川の流路の改変について、歴史的には尾張藩2代藩主徳川光友が1666年(寛文6年)に現在の高横須賀町に「横須賀御殿」を造営

したのに合わせて、人工的に現在の流路の位置に改修されたものと伝えられる(石川, 1977; 立松編, 1997; 有馬, 2012; 筧, 2012; 坂野, 2013など)。また筧(2012)は、改修の事実を示す18世紀以降に描かれたとされる「知多郡大里村絵図」により、弥勒寺付近の南を北西方向にまっすぐに流下する大田川が描かれていることを紹介した。以上のように、現在の大田川は人工的に開削された河川であることがわかっており、西暦1600年代よりも古い地形を考察する際には注意が必要である。

松崎遺跡・上浜田遺跡地域にみられる砂堆について

知多半島西岸の海岸沿いには地質学的には新第三系中新統～鮮新統あるいは第四系更新統の堆積物からなる丘陵地を浸食・開析し、開析された谷を埋めた完新統が分布する。それらのうち知多半島の西岸や南西岸にみられるものは、半島の南端より北へ向かって順に1. 南知多町の豊浜、2. 南知多町の山海、3. 南知多町内海、4. 美浜町上野間から野間にかけて、5. 知多市の新舞子から常滑市の榎戸、古場にかけて、6. 名古屋市緑区大高から東海市名和町、同町大田町、同町横須賀町、知多市新舞子にかけての6つの地域がある。このような完新統の分布域のうち松崎遺跡・上浜田遺跡は、6番目の名古屋市緑区大高から東海市大田町・横須賀町、知多市新舞子までにみられるもっとも完新統の分布面積が広い場所にあつている。東海市名和周辺には砂堆や砂州がみられる場所としても知られ、海岸線に並行する複数の砂堆列の存在が指摘されている。東海市大田町、横須賀町にみられる砂堆地形について横須賀町史編集委員会編(1969)や石川(1971)は3つの砂堆列に区分し、干拓地を別にした現在の海岸線にあ

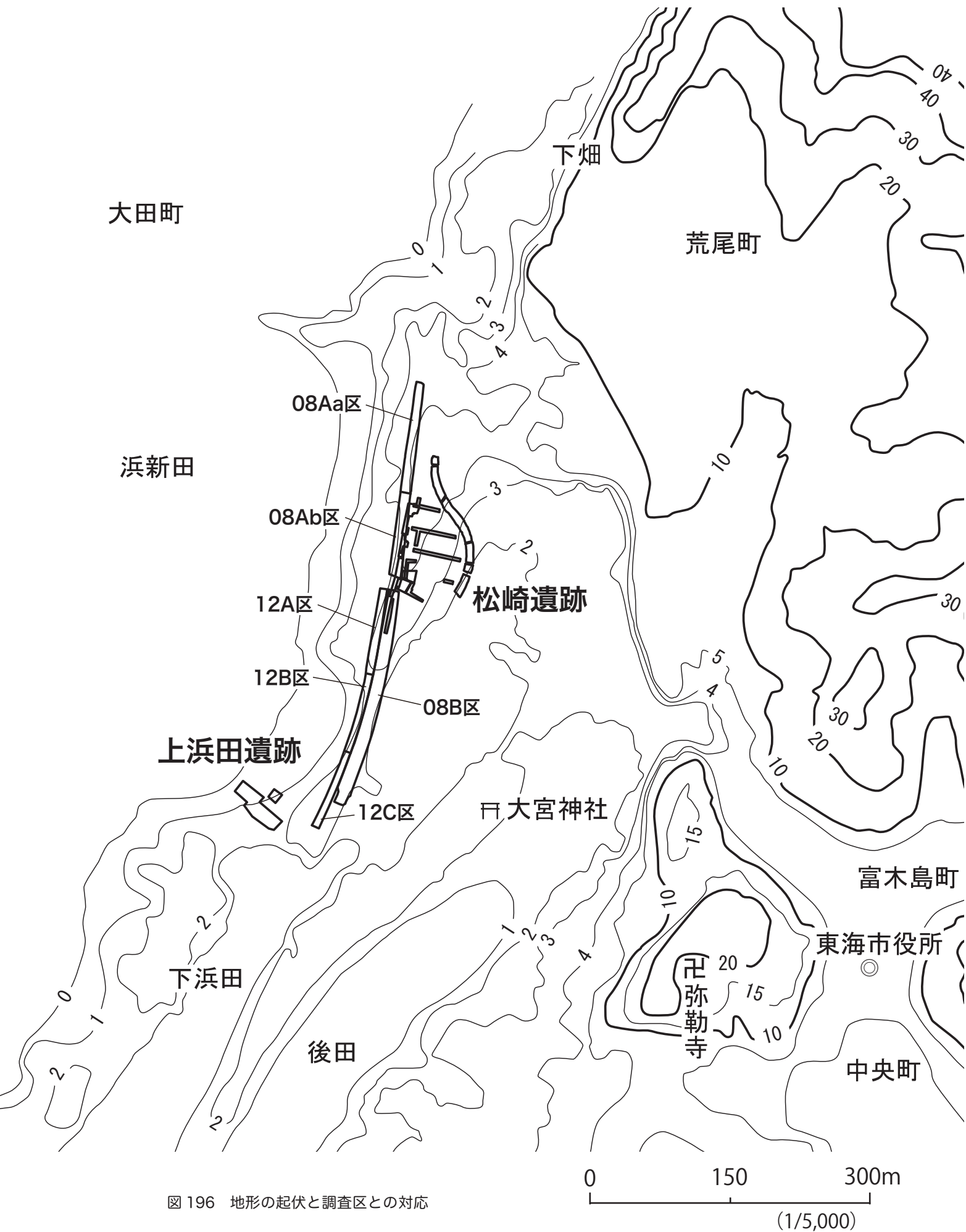


図 196 地形の起伏と調査区との対応

るものを第三砂堆、大字大田や高横須賀にあるものを第二砂堆、第一砂堆はもっとも陸側にあり海蝕崖に近いものを指した。いっぽう、宮澤(2012)や有馬(2012)、坂野(2013)は一番陸寄りでもっとも砂堆面積の大きいものを第1砂堆、大宮神社から太田川駅にかけて細長くのびるものを第2砂堆、現在の海岸線にあり、その北端が丘陵に接するものを第3砂堆と呼んだ。これらの区分のうち、現在の海岸線にある第3砂堆は横須賀町史編集委員会編(1969)などと宮澤(2012)などによる区分とは一致する。ところが、第1砂堆と第2砂堆には相違がみられ、横須賀町史編集委員会編(1969)などが第二砂堆としたものは宮澤(2012)などの第1砂堆にあたる。また、横須賀町史編集委員会編(1969)などによれば第一砂堆はすべて畑地となり、最も小さいものと記述されており、柳が坪、野崎付近の砂堆地形のことを指すようにも考えられるが、提示された地形区分図には凡例が示されていないため詳細がわからない。加えて、横須賀町史編集委員会編(1969)などが行なった地形区分が何を基に判断したのか、その方法についての記載がないため検証することができない。

本論では混乱を避けるために宮澤(2012)、有馬(2012)、坂野(2013)の砂堆区分の名称を踏襲することとする。さて、宮澤(2012)などの区分と筆者の表層地形解析から読み取れる地形との対応関係をみれば、弥勒寺のある閉曲線からなる小丘状の地形を北端として、その南方向に標高3.0～5.0mで東西の最大距離約670m、南北約890mの南に凸の舌状地形がみられた。これは宮澤(2012)などの述べた第1砂堆にあたる。その舌状地形に平行して西には、大宮神社から南西方向に向けて標高1.0～2.0mで南北約790m、東西約75mの、名鉄太田川駅付近を南端とする

舌状地形があった。これはちょうど第2砂堆に対応する。また、そこからさらに西側にも、舌状地形に平行に北の下畑から浜新田を通り、南の川南新田にかけて標高1.0～4.0mで南北約1.2km、東西約100～140mの、大田町付近を南端とし南に凸の舌状地形があり、それは宮澤(2012)などの述べた第3砂堆に対応する。このように、本論の表層地形解析から得られる尾根地形と谷地形との地形配列は、宮澤(2012)などが述べた第1から第3までの砂堆地形と非常によく対応関係があり、宮澤(2012)などの地形区分を追認する形となった。これらの舌状地形のうち、松崎遺跡・上浜田遺跡は下畑を北端として南の下浜田、川南新田までにみられた標高1.0～4.0mの舌状地形の上であり、図195・196をみても明らかなように現在の海岸にもっとも近い第3砂堆の上に立地している。

松崎遺跡・上浜田遺跡の立地環境

松崎遺跡・上浜田遺跡は下畑を北端として南の下浜田、川南新田までにみられた標高1.0～4.0mの舌状地形の上にあることがわかった。ここではさらに詳細に検討を加えたい。

北の下畑から南の川南新田までにみられる舌状地形の尾根線は北から南へ連続するわけではなく、舌状地形が南へ向かうにしたがって尾根線は途切れ、閉曲線で囲まれた小丘状を呈するようになる(図196)。尾根線の連続性がもっとも良いのが標高1.0～4.0mのちょうど松崎遺跡・上浜田遺跡の調査区がのる舌状地形である。この地形は北で標高3.0～4.0mと相対的に高い。この高い場所にあたっているのが08Aa区・08Ab区・12A区である。これらの調査区からは古墳時代の製塩土器片が出土している(川添, 2009)。標

高 2.0～3.0m までは北からのびる尾根線と舌状地形の南端がみられる。標高 2.0m 等高線は 08B 区や 12B 区・12C 区のある付近で東西幅が約 15m と狭くなる。この狭くなる部分の西には、標高 0～2.0m の等高線が東に凸でゆるやかに屈曲した入り江状の海岸線をつくっていることがわかる。これに対応するのは 12B 区である。考古学的な所見では 12B 区と 12C 区北寄りではハマグリを主体とする貝層をとまなう土坑が検出されている。出土する土器片から奈良時代初期の遺構であると考えられており(永井, 2013)、その後の海水準の上昇・下降がないとすれば、標高 0～2.0m の東へ凸のゆるく屈曲する等高線付近が当時の陸と海との境界付近であったと思われる。いっぽう、狭くなる部分の東には標高 1.0～2.0m の南へ開口した凹地となっている。この凹地は標高 2.0m の等高線西側において、舌状地形が狭くなっている部分で西へゆるやかに湾曲し、周りよりも標高が相対的に低くなっていることがわかる。これに関して考古学的には 08B 区の調査区中央部付近で地形が落ち込んでおり、調査区中央部から南方向にかけて湿地状の地形を呈していたとの所見が得られており(川添, 2009)、地形解析の結果と考古学的な発掘調査の結果とは調和的である。

ところで、ちょうど調査区が設定された南北方向には 1900 年代初めに愛知鉄道の線路があった

事実があり、実際に発掘調査でもその頃の遺構が確認されている(川添, 2009; 永井, 2013)。表層地形解析に現われる地形は鉄道敷設時の土地改変による影響を少なからず被っているものと思われるが、その改変量がどれ程のものであったのか不明である。また、松崎遺跡・上浜田遺跡が立地する舌状地形は標高 2.0m の等高線が南へ凸の形をした部分で途切れ、その南の下浜田にみられる標高 2.0m の閉曲線からなる小丘状地形との間には軽微な凹地が存在する。この凹地部分には現在の大田川の流路が通っており、この凹地が先に述べた大田川の人工的な開削により形成されたものか、それとも開削される前からもともと存在した地形なのか、それを判断する情報を筆者は持たない。今後の検討課題である。

謝辞

本論を作成するにあたり、東海市平洲記念館・郷土資料館の立松 彰館長には考古遺跡に関する文献資料を借用させていただくとともに、東海市の考古遺跡についてご教示いただいた。株式会社島田組の筧 和也氏にはかつての大田川の流路について教えていただいた。図面の作成では国際文化財株式会社の内田恭司氏にお世話になった。試料の整理・保管と原図作成では整理補助員の前田弘子氏、鈴木好美氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

参考文献

- 有馬啓介, 2012, 遺跡の位置と環境, 有馬啓介編 畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告, 愛知県東海市教育委員会, 12-17.
- 坂野俊哉, 2013, まとめ 一大田地区における遺跡の消長についてー, 坂野俊哉・宮澤浩司編 畑間・東畑・龍雲院遺跡発掘調査報告, 愛知県東海市教育委員会, 117-125.
- 石川玉紀, 1971, 柳が坪遺跡の位置と付近の地形・地質, 愛知県東海市柳が坪遺跡, 東海市教育委員会, 1-3.
- 石川玉紀, 1977, 位置と地形・地質, 杉崎 章編 愛知県東海市 松崎貝塚発掘調査報告, 愛知県東海市教育委員会, 1-3.
- 笥 和也, 2012, まとめ, 笥 和也編 平成 22 年度 畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告, 愛知県東海市教育委員会, 82-89.
- 川添和暁, 2009, 松崎遺跡・上浜田遺跡, 平成 20 年度 愛知県埋蔵文化財センター 年報, 愛知県埋蔵文化財センター, 24-27.
- 牧野内 猛, 1988, 常滑層群, 日本の地質 5 中部地方 II, 共立出版, 134-136.
- 宮澤浩司, 2012, 遺跡の位置と環境, 笥 和也編 平成 22 年度 畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告, 愛知県東海市教育委員会, 2-4.
- 永井宏幸, 2013, 松崎遺跡・上浜田遺跡, 平成 24 年度 愛知県埋蔵文化財センター 年報, 愛知県埋蔵文化財センター, 10-11.
- 立松 彰編, 1997, 愛知県東海市 東畑遺跡等試掘調査報告, 愛知県東海市教育委員会, 36p.
- 横須賀町史編集委員会編, 1969, 横須賀町史, 横須賀町役場, 1001P.

第7節 松崎遺跡・上浜田遺跡出土製塩土器の塩化物イオン分析および脂質分析

堀内晶子（国際基督教大学）・宮田佳樹（金沢大学 環日本海域環境研究センター）

塩化物イオン分析

1. はじめに

塩は水に良く溶けるため、製塩に使われた土器に付着・吸着された塩（主成分は塩化ナトリウム）は時を経るごとに雨などの自然水によって洗い流されて、土器から塩を直接検出することは難しいと考えられてきた。

しかし、土器の構成成分である粘土はイオン交換能力を持ち、塩の成分の一つである塩化物イオンの一部（保存性塩化物イオン）が、水に溶け出さないで土器内部に残ること、また、粘土の主成分であるケイ酸との親和性が高いフッ化物イオンは塩化物イオンと交換されることにより、保存性塩化物イオンが回収できることが明らかになった⁽¹⁾⁽²⁾。

そこで、松崎遺跡出土知多式製塩土器に残留している塩化物イオン量を部位ごとに測定し、その傾向を考察した。

2. 試料

表20に分析した資料をまとめて示す。知多式1,2類と、4類の2種類の製塩土器を口縁部、胴部上部、胴部下部、脚に分けて分析を行った。写真7に分析した試料の写真を示す。脚は写真7のように、2つ、ないし3つに切断し、それぞれ、a,b / a,b,cとした。底部は壊れやすく、明らかに形が残っている土器片が少ないため、今回は分析対象から外した。

3. 分析方法

まず土器片表面の塩分を蒸留水中で繰り返し超音波洗浄し、0.1 M 硝酸銀溶液を加えても塩化銀の白色沈殿が出なくなるまで塩化物イオン（Cl⁻）を除去した後乾燥し、粉碎して試料とした。土器の内部には、まだ水によって溶け出す流出性Cl⁻が残っている可能性があるため、粉碎した試料をさらに蒸留水中で、Cl⁻濃度が検出限界（2 mg/L）以下になるまで繰り返し抽出・回収し、その総量を流出性Cl⁻量（mg Cl⁻/g 土器）とした。その後、水には溶け出さずに強く土器胎土に保持されている保存性Cl⁻を0.28 Mフッ化アンモニウム水溶液で繰り返し抽出し、その総量を保存性Cl⁻量（mg Cl⁻/g 土器）とした。抽出したCl⁻の定量には、塩化物イオン選択電極（TOA-DDK, CL-2021）を使用した⁽¹⁾。

4. 分析結果と考察

表20に土器試料に残存していた総流出性Cl⁻量、総保存性Cl⁻量と総流出性Cl⁻量/総保存性Cl⁻量比を示す。

1) 流出性塩化物イオン

流出性Cl⁻量は、全試料の約45%（29試料中13点）が検出限界以下（BD）で、MZ03aの0.273 mg Cl⁻/g 土器を除くと、検出された値は、いずれも0.034 mg Cl⁻/g 土器以下と非常に少なく、検出された平均（MZ03aを除く）は0.025 ± 0.013（max=0.037, min=0.011）mg Cl⁻/g 土器であった。雨の多い日本では、土器に残った

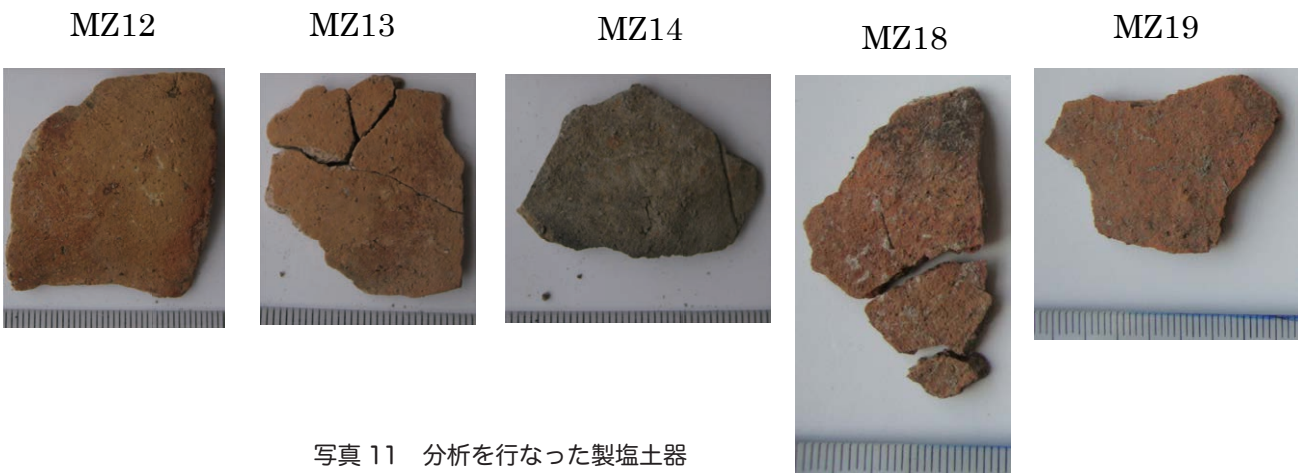
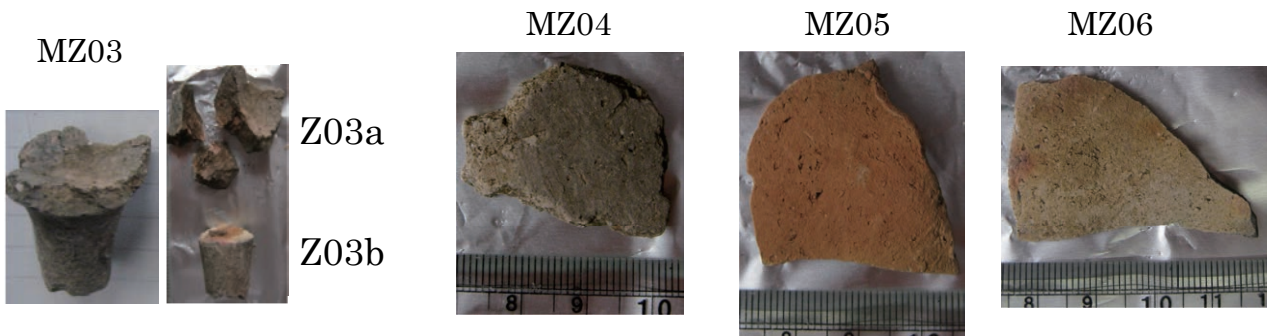
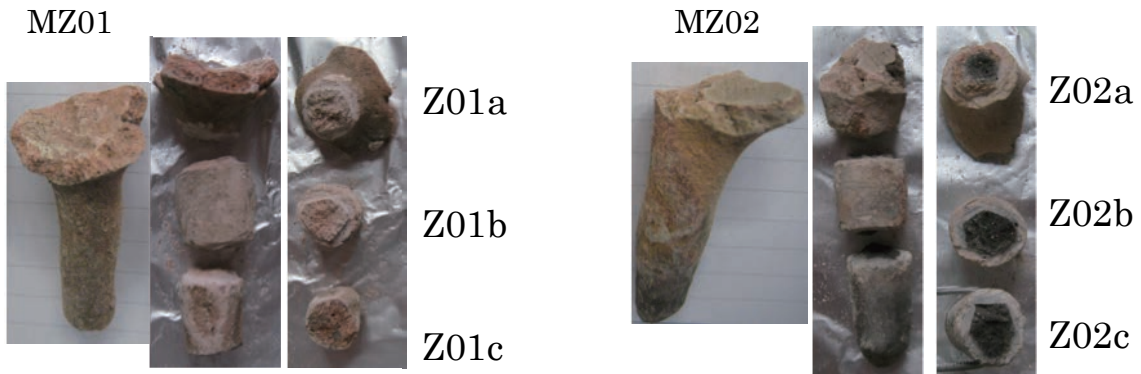


写真 11 分析を行なった製塩土器

流出性 Cl⁻ は長い年月を経て殆ど洗い流されている事を示唆している。MZ03a は知多式 4 類の脚上部で、土器の底に一番近い部分にあたり、分析した 29 の土器片のうち、飛び抜けて値が高く、次に示す保存性 Cl⁻ も同様であった。

2) 保存性塩化物イオン

Cl⁻ が検出限界以下になるまで、繰り返し蒸留水で流出性 Cl⁻ を除去した土器粉末を、フッ化アンモニウム溶液で再度抽出し、土器胎土に強く保持されている、保存性 Cl⁻ を抽出・回収すると、いずれも流出性 Cl⁻ より高い値が得られ、水では流出しない Cl⁻ が土器内部に残存していた事を示している。

これまでに報告した広島県蒲刈町沖浦遺跡出土製塩土器（胴部）(1)(3) と非製塩・未使用製塩土器（胴部）の保存性 Cl⁻ 値と、今回測定した製塩土器の保存性 Cl⁻ 値を合わせて、値の大きい順に並べたのが図 2 である。沖浦遺跡出土製塩土器はいずれも 0.16 - 0.14mg Cl⁻/g 土器以上、非製塩・未使用製塩土器（胴部）の値はいずれも 0.14 mg Cl⁻/g 土器以下である。沖浦遺跡出土土器を基準にすると、少なくとも 0.10 mg Cl⁻/g 土器以下の MZ08, MZ10, MZ11, MZ12, MZ14, MZ23, MZ25, MZ26 の 8 試料は海水、あるいは鹹水を繰り返し加熱濃縮して塩を十分結晶化する前に壊れてしまった土器片か、未使用の製塩土器と推測される。

上記の製塩操作に十分関与しなかった土器片 8 点を除いた 1, 2 類と 4 類土器の部位別保存性 Cl⁻ 値を表 2 に、平均値を図 3 に示す。脚の部位は他より値が高く、4 類の脚の平均値 (2.161±1.279 mg Cl⁻/g 土器) は、4 類の他の部位をすべて合わせた平均値 (0.402±0.233mg Cl⁻/g 土器) の 5 倍以上になっている。一般的に製塩土

表 20 松崎遺跡出土製塩土器の塩化物イオン分析結果

試料番号	出土情報	類別	土器の部位	流出性塩化物イオンの総量 (mg Cl ⁻ /g 土器)	保存性塩化物イオンの総量 (mg Cl ⁻ /g 土器)	流出性/保存性 (%)
MZ01a	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	脚上部	0.060	0.446	13.5
MZ01b		4類	脚中部	0.030	0.434	6.8
MZ01c		4類	脚下部	0.034	0.428	8.0
MZ02a	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	脚上部	0.022	0.282	7.9
MZ02b		4類	脚中部	0.039	0.413	9.5
MZ02c		4類	脚下部	BD	1.012	-
MZ03a	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	脚上部	0.273	3.540	7.7
MZ03b		4類	脚下部	BD	1.930	-
MZ04	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	胴下部	BD	0.552	-
MZ05	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	口縁部	BD	0.668	-
MZ06	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	口縁部	0.013	0.322	3.9
MZ07	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	胴下部	BD	0.590	-
MZ08	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	胴上部	0.016	0.047	34.8
MZ09	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	胴下部	0.029	0.155	18.4
MZ10	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	口縁部	0.037	0.043	84.6
MZ11	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	胴上部	0.034	0.031	107.2
MZ12	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	口縁部	0.015	0.034	44.7
MZ13	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	胴上部	0.014	0.186	7.3
MZ14	08AB区, 9c13p, S6層, 090119, 2TM08Ab	4類	胴上部	0.011	0.039	29.4
MZ18	08AB区, 9c19q, V2層(中層), 090204, 2TM08Ab	1, 2類	胴上部	0.021	0.590	3.5
MZ19	08AB区, 9c19q, V2層(中層), 090204, 2TM08Ab	1, 2類	胴上部	0.015	0.297	5.2
MZ20	08AB区, 9c19q, V2層(中層), 090204, 2TM08Ab	1, 2類	胴上部	BD	0.264	-
MZ21	08AB区, 9c19q, V2層(中層), 090204, 2TM08Ab	1, 2類	口縁部	BD	0.315	-
MZ22	08AB区, 9c19q, V2層(中層), 090204, 2TM08Ab	1, 2類	胴下部	BD	0.651	-
MZ23	08AB区, 9c19q, V2層(中層), 090204, 2TM08Ab	1, 2類	口縁部	BD	0.027	-
MZ24	08AB区, 9c19q, V2層(中層), 090204, 2TM08Ab	1, 2類	胴下部	BD	0.148	-
MZ25	08AB区, 9c19q, V2層(中層), 090204, 2TM08Ab	1, 2類	口縁部	BD	0.039	-
MZ26	08AB区, 9c19q, V2層(中層), 090204, 2TM08Ab	1, 2類	胴下部	BD	0.079	-
MZ27	08AB区, 9c19q, V2層(中層), 090204, 2TM08Ab	1, 2類	胴上部	BD	1.449	-

BD=検出限界以下
(below detection limit)

流/保=20以上は
いずれもFの検出量か

器は、製塩過程で塩の結晶が土器マトリックス内にも生成するため壊れやすいが、脚は直接海水や熱が当たらないので、壊れにくい。ため、出土

表 21 製塩土器の部位ごとの保存性塩化物イオン値 (mgCl-/g 土器)

	口縁				胴上部				胴下部				脚			
	試料数 (n)	平均値	標準偏差	中央値	試料数 (n)	平均値	標準偏差	中央値	試料数 (n)	平均値	標準偏差	中央値	試料数 (n)	平均値	標準偏差	中央値
1,2類	1	0.315	-	-	4	0.650	0.553	0.443	2	0.400	0.356	0.400	-	-	-	-
4類	1	0.668	-	-	2	0.140	0.008	0.140	3	0.488	0.145	0.552	8	2.161	1.279	1.930

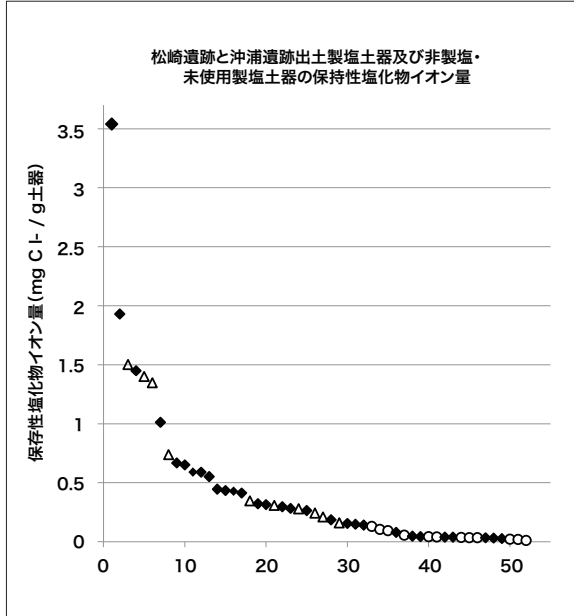


図 197 松崎遺跡と沖浦遺跡出土製塩土器及び非製塩・未使用製塩土器の保持性塩化物イオン量

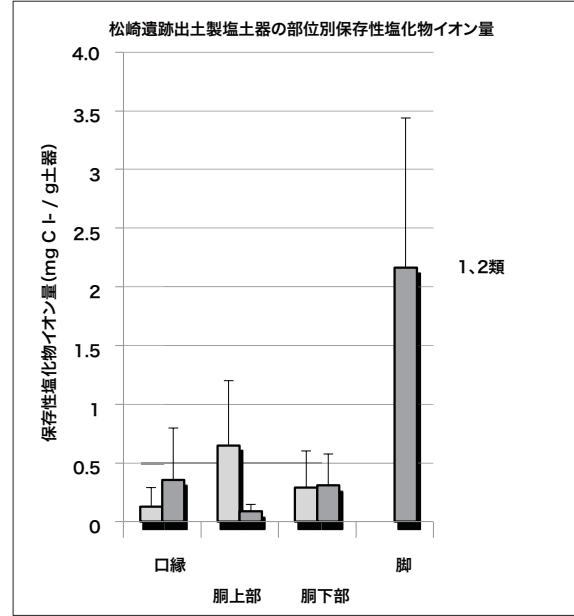


図 198 松崎遺跡出土製塩土器の部位別保存性塩化物イオン量

頻度が高いとされる部位だが、この結果は脚部も確実に塩の影響を受けている事を示している。脚を MZ03 の様に 2 つに分けた場合や MZ01、MZ02 の用に 3 つに分けた場合、塩が溜まる碗の底に近い部分の方が Cl 値が高いと予測したが、必ずしもそうでは無く、MZ03 は予測通り、碗の底に近い MZ03a が高いが、MZ01 は a, b, c は、ほぼ同等の値であり、MZ02 は碗の底から一番遠い先端の MZ02c に一番多く保存性 Cl が残留していた。この結果は、脚の部分の塩分は碗部から滲み出したものではなく、外部的要因、たとえば吹きこぼれや、塩が繰り返し滲み込んだ地面からの影響ではないかと考えられる。脚の中でも MZ03a,b は高い流出性 Cl と保存性 Cl 値をしめしていた。MZ03 はたまたま破損されにくかったため、繰り返し製塩に使われていた土器なのではないかと推測される。流出性 Cl が保

存性 Cl の何パーセントかをみると、製塩に使われたと考えられる土器片はいずれも 20%以下で、平均は $8.3 \pm 4.3\%$ となり、値が著しく高かった MZ03a も 7.7% で (MZ03b は流出性検出されず)、同じ範囲に入っている。

製塩操作に十分関与しなかった土器片を除くと試料数が減り、特に口縁部は 1, 2 類、4 類共に 1 点のみになってしまったので、この測定値を口縁部の代表値として比較検討していくのは難しい。また、これまでの経験から、口縁部は吹きこぼれがある場合、無い場合など、保存性 Cl 値にばらつきが大きい。そこで、試料数は少なくなってしまうけれども、口縁部と脚を除いた胴上部と下部のみを 1, 2 類、4 類と比較すると、胴下部は有意差が無いが、胴上部は 1, 2 類が 4 類の 4 倍以上になっている。製塩土器の胴上部は海水・鹹水に覆われたり、加熱濃縮されて乾燥されたり

が繰り返される部位で、加熱温度や濃縮の回数等によって保存性 CI 値が変化するのではないかと推測され、時代による製塩手法の差が反映されて

いる可能性があるが、今後分析件数を増やして、検証していく必要がある。

参考文献

1. Horiuchi, Akiko; Ochiai, Nobuo; Kurozumi, Hitomi; Miyata, Yoshiki. Detection of chloride from pottery as a marker for salt: A new analytical method validated using simulated salt-making pottery and applied to Japanese ceramics. Journal of Archaeological Science vol. 38 issue 11, 2011. p. 2949-2956
2. 堀内晶子、落合暢夫、宮田佳樹、土器に残存する塩の検出方法の開発：製塩土器の同定に向けて、日本文化財科学会第 27 回大会、鹿児島国際大学、2008.
3. 堀内晶子、宮田佳樹、黒住仁美、製塩土器は化学分析で同定できる、日本文化財科学会第 27 回大会、関西大学、2010.

脂質分析

1. はじめに

土器の用途を化学的に検討するため、上浜田遺跡から出土した製塩土器 3B 類の口縁部 2 点 (KH98-3BT1、KH98-3BT2)、胴部上 4 点 (KH98-3BUM1、KH98-3BUM2、KH98-3BUM3、KH98-3BUM4)、胴部下 3 点 (KH98-3BLM1、KH98-3BLM2、KH98-3BLM3)、脚 2 点 (KH98-3BH1、KH98-3BH2)、及び比較として外側にススが付着している調理用と思われる大型土器 2 点 (KH98-C1、KH98-C2) と用途不明大型土器 1 点 (KH98-U1) の計 14 点 (写真 8) をガスクロマトグラフィー (GC) で分析した。また、我々が藻塩法を用いて、作成した実験製塩土器 (SMO-T1, SMO-M1, SMO-B1) も同時に分析し、その中で、分析する為に十分な脂質が残存していた試料 8 点に付いて、ガスクロマトグラフィー・質量分析法 (GC-MS) を用いて残留していた脂質を解析した。

2. 分析方法

現代の脂質が付着している可能性のある土

器表面を約 1mm ほど削り取り、土器を粉碎した後、クロロホルム：メタノール=2：1 で脂質を抽出した。シリカゲルカラムで極性物質を除去した後、N,O-bis(trimethylsilyl)trifluoroacetamide (BSTFA) でトリメチルシリル化、または borontrifluoride-methanol 溶液でメチル化した後、GC と GC-MS 分析を行った。(GC-MS の分析条件：Finnigan TRACE GC-MS (ThermoQuest), カラム=HP-1 50 m x 0.32 mm x 0.17 μm, 注入口温度=50°C、2 分保持, 昇温 300°C まで 10°C/分、15 分保持) (1)(2)

3. 結果と考察

分析結果を表 21 にまとめた。

調理用土器：製塩土器の比較対象として調理用土器を思われる土器 2 点 (KH98-C1、KH98-C2) を GC で分析したが、いずれも脂質量は微量で、GC-MS による解析はできなかった。土器に残存する脂質量は土器の部位によっても大きな差があるため、今後、別の部位も分析する必要がある。

脂質量：全般的に、分析した試料から抽出された脂質は、これまで我々が分析した試料と比較して、いずれも非常に少なかった。残留脂

表 22 脂質分析結果

	土器の種類	脂肪酸	アルコール	可塑剤
KH98-3BT1	口縁部	C12:0, C14:0, C16:0, C18:0	C14-OH(M1), C15-OH(M2), C16-OH, C18-OH	○
KH98-3BUM3	製塩土器3B類 胴部上	C12:0, C14:0(M2), C16:0(M1), C18:0	C14-OH(M1), C16-OH(M2), C18-OH	○, silicate
KH98-3BLM1	製塩土器3B類 胴部下	C9:0, C10:0, C11:0, C12:0, C14:0(M2), C15:0, C16:0(M1), C18:0	C14-OH(M2), C15-OH(M1), C16-OH, C18-OH	○, silicate
KH98-3BLM2	製塩土器3B類 胴部下	C12:0, C14:0(M2), C16:0(M1), C18:0	C14-OH(M1), C16-OH(M2), C18-OH	○, silicate
KH98-3BH1	製塩土器3B類 脚	C16:0, C18:0	C10-OH, C11-OH, C12-OH, C13-OHa(M2), C13-OHb, C14-OHa(M1), C14-OHb, C15-OHa, C15-OHb, C16-OH, C18-OH	○
KH98-3BH2	製塩土器3B類 脚	C16:0, C18:0	C10-OH, C11-OH, C12-OH, C13-OHa, C13-OHb, C14-OHa(M1), C14-OHb, C15-OHa, C15-OHb, C16-OH(M2), C18-OH	○
KH98-3BU1	用途不明	C14:0(M2), C16:0(M1), C18:0	C10-OH(M1), C12-OH, C14-OH, C16-OH(M2), C18-OH, C20-OH, C22-OH	○
SMO-T1	実験製塩土器 口縁部 (藻塩法)	C16:0, C18:0	C10-OH, C12-OH, C13-OH, C16-OH, C14-OH, C15-OH, C17-OH, C18-OH	ND

*Cx ; yは、炭素鎖x、二重結合数yをもつ直鎖の脂肪酸
Cx-OHは炭素鎖xの直鎖アルコール、NDは検出されず。

質の中で最も一般的な長鎖脂肪酸であるパルミチン酸 (C16:0) と内部標準物質 (IS) である n-tetratriacontane の比率を見ると、たとえば青森県不備無遺跡から出土した縄文晩期の土器片 (FB9) に残存していた脂質は C16:0 が IS の約 1.3 倍 (ピーク高さ比) であったが (1)、上浜田遺跡の試料の中で一番脂質が多く含まれていた KH98-3BT1 でも約 1/2 でしたなかった。海水にも脂質が溶解しているが微量であるため、海水、あるいは海水を使った鹹水を繰り返し加熱濃縮する土器製塩法で使われる土器に、脂質が残留するとすれば、調理用土器と比べて非常に少ないと推

測でき、製塩土器であることを支持している。

脂肪酸：検出された脂肪酸はいずれも微量で、炭素鎖 18 以下で、海洋性動物に特徴的な炭素鎖 20 以上の長さ脂肪酸は検出できなかった。

長鎖アルコール：試料によって差はあるが、炭素鎖 10 から 22 までの直鎖の長鎖アルコールが多く検出されたことも特徴的である。これらのアルコールは脂肪酸より多く含まれていた。これまでに我々が分析した現代の動植物に含まれている脂肪分は脂肪酸が主で、長鎖アルコールは検出されても微量である。したがって、製塩土器は脂質分析からも食物の調理用土器や、海獣から油をとる為に使用したと考えられる土器 (3)

とは異なった用途であると識別できる。

海洋性動物：海洋生物に特徴的な pristanic acid と生体内でその前駆体となる pytanic acid や二重結合を 3 つ以上持つ多価不飽和脂肪酸が 270°C 以上に加熱された際に生成する事が知られている ω -(o-alkylphenyl)alkanoic acids (4) は検出されなかった。多価不飽和脂肪酸は動物性脂質に多く含まれており、海洋性動物の加熱調理にも用いられなかったと推測できる。

実験製塩土器 (藻塩法) との比較：実験製塩土器 (SMO-T1) からは、上浜田遺跡出土土器と同様、炭素鎖 10 から 18 の直鎖の長鎖アルコール

と C16:0、C18:0 (ステアリン酸) が検出され、炭素鎖 20 以上の長鎖脂肪酸や、pristanic acid、pytanic acid、 ω -(*o*-alkylphenyl)alkanoic acids は検出されなかった。この結果は用途不明土器 (KH98-U1) を含む上浜田遺跡出土土器が海水を加熱濃縮する際に使用された事を示唆しており、大型の KH98-U1 は鹹水を作るための土器の可能性がある。しかし用途不明土器に関しては、さらなる検討が必要である。また、この結果は脂質分析からも製塩土器がその他の土器と識別できる可能性を示している。しかし、海水との接触が少ないと思われる脚からも他の部位同様の脂質が検出されているため、検出された脂肪酸やアルコールが他からのコンタミネーションでないことを更に検討する必要がある。

参考文献

1. 堀内晶子、宮田佳樹、リチャード・エバーシェッド、「古代土器から見つかった予想外の物質—残留有機物分析の課題—」、考古学と自然科学 第 65 号、2013、27-34。
2. 堀内晶子、大木伽耶子、宮田佳樹、上條信彦、「不備無遺跡から出土した土器はどのように使われたのか：化学の視点から」、日本文化財科学会第 30 会大会，弘前大学，2013
3. Y. Miyata, A. Horiuchi, Paleo Labo AMS Dating Group and T. Nishimoto, Trace of sea mammals on pottery from the Hamanaka 2 archaeological site, Rebun Island, Japan: Implications from sterols, stable isotopes, and radiocarbon dating. Researches in Organic Geochemistry 25, 2009, 15-27.
4. F.A. Hansel, M.S. Copley, R.P. Evershed, Thermally produced ω -(*o*-alkylphenyl) alkanolic acids provide evidence for the processing of marine products in archaeological pottery vessels, Tetrahedron Letters, 29, 2004, 2999-3002.

謝辞

松崎遺跡出土土器を提供して頂いた愛知県埋蔵文化財センター、塩化物イオン分析を手伝って頂いた大木伽耶子氏に感謝致します。脂質分析で使用した上浜田遺跡出土土器を提供して頂いた東海市教育委員会、分析させて頂いたブリストル大学生物有機地球化学グループにも感謝を表します。川添和暁、鬼頭剛、立松彰、永井宏幸、宮澤浩司、森泰通、リチャード・エバーシェッドの諸氏には本稿の執筆にあたり、大変お世話になりました。末筆ながら記して謝す。

可塑剤：全ての上浜田試料から可塑剤が検出された。一部の試料からは、さらにシリコン系の添加物も検出された。これらは土器を保存する際に使われるプラスチックの袋や合成樹脂の箱、ビニール手袋などに由来するもので、試料の扱い方や保存方法に注意が必要である事を示している。

4. まとめ

上浜田遺跡から出土した製塩土器は、脂質分析の結果からも海水を濃縮される為に使用された事を示唆している。用途不明の大型土器は、鹹水を作るために使用された可能性があるが、さらなる検討が必要である。全ての試料から可塑剤が検出され、試料の取り扱いには、注意が必要である (1)。



KH98-3BT1



KH98-3BT2



KH98-3BUM2



KH98-3BUM2



KH98-3BUM3



KH98-3BUM4



KH98-3BLM1



KH98-3BLM2



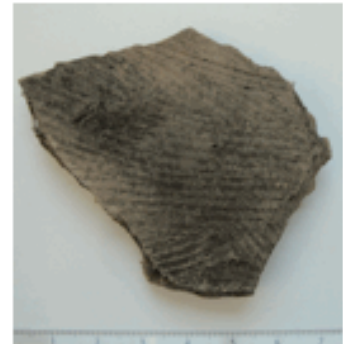
KH98-3BLM3



KH98-3BH1



KH98-3BH2



KH-C1



KH-C2



KH-U1

写真 12 分析試料

第8節 松崎遺跡・上浜田遺跡出土獣骨類の年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

中村賢太郎・伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一

Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani

1. はじめに

愛知県東海市の松崎遺跡ではウシ、ウマ、イヌ、ネコ、シカなどの哺乳類遺体が出土した。哺乳類の年代を明らかにするために、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 22 のとおりである。

試料は、イヌ 8 点、ネコ 2 点、シカ 6 点、ウシ 7 点、ウマ 12 点、計 35 点の哺乳類遺体である。

表 23-1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-24002	遺構：埋葬犬 調査区：2TM63 その他：箱13、890311	種類：骨（イヌ、肋骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N)
PLD-24003	遺構：埋葬犬 調査区：2TM63 グリッド：2G19d 層位：混貝砂 その他：箱14、890322	種類：骨（イヌ、肋骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N)
PLD-24004	遺構：1026SI 調査区：2TM08Ab グリッド：9C16q その他：箱Ab102、090311	種類：骨（イヌ、左距骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N)
PLD-24005	調査区：2TM08Ab グリッド：9C15q 層位：北端トレンチ その他：箱特、081216	種類：骨（イヌ、右下顎骨、DOT149） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N)
PLD-24006	調査区：2TM08Ab グリッド：9C10p 層位：R層 その他：箱Ab88、090114	種類：骨（イヌ、軸椎） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N)
PLD-24007	調査区：2TM08B グリッド：10C17n 層位：B-下層漸移層 その他：箱B74、090302	種類：骨（イヌ、左尺骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N)
PLD-24008	調査区：2TM08Ab グリッド：9C11 遺物No.d-125 層位：北端東西トレンチ その他：箱Aド9、081208	種類：骨（イヌ、右下顎骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N)
PLD-24009	遺構：2024SI(北半) 調査区：2TM08B グリッド：10C16n・16o その他：箱B83、090323	種類：骨（イヌ、右尺骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N)
PLD-24010	調査区：2TM08Aa 層位：東壁沿い南北深掘り(北半) その他：箱Aa68、090108	種類：骨（ネコ、左下顎骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N)

表 23-2 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-24011	調査区：2TM08Aa グリッド：18C15t 層位：検1 その他：箱Aa68、081008	種類：骨（ネコ、左上腕骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24012	遺構：1015SI 調査区：2TM08Ab グリッド：9C15q その他：箱Ab102、090305	種類：骨（シカ、右上顎後臼歯） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24013	調査区：2TM08Ab グリッド：9C10q 層位：L層 その他：箱Ab88、090226	種類：骨（シカ、右前頭骨※加工痕） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24014	遺構：2020SK(北半) 調査区：2TM08B グリッド：10C15o その他：箱B83、090316	種類：骨（シカ、左肩甲骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24015	調査区：2TM08Aa グリッド：9C10q 層位：Q層 その他：箱Aa68、090108	種類：骨（シカ、左下顎骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24016	遺構：2022SX 調査区：2TM08B グリッド：10C18n 遺物No.d-1357 その他：箱Bト12、090321	種類：骨（シカ、左距骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24017	調査区：2TM08Ab グリッド：9C14q 遺物No.d-253 層位：下層 その他：箱Aト9、090203	種類：骨（シカ、右肩甲骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24018	遺構：1030SI 調査区：2TM08Ab グリッド：9C14q 遺物No.DOT385 その他：箱特、090317	種類：骨（ウシ、右下顎骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24019	遺構：1030SI 調査区：2TM08Ab グリッド：9C14q 遺物No.DOT384 その他：箱特、090317	種類：骨（ウシ、左肩甲骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24020	調査区：2TM08Ab グリッド：9C6あーる小文字 層位：B層 その他：箱Ab88、081202	種類：骨（ウシ、右中足骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24021	遺構：2024SI 調査区：2TM08B グリッド：10C18n 遺物No.d-1431 その他：箱Bト12、090323	種類：骨（ウシ、右肩甲骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24022	遺構：2024SI 調査区：2TM08B グリッド：10C18n 遺物No.d-1428 その他：箱Bト12、090323	種類：骨（ウシ、左上腕骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24023	遺構：2022SX 調査区：2TM08B グリッド：10C18n 遺物No.d-1359 その他：箱Bト12、090321	種類：骨（ウシ右中足骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）

表 23-3 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-24034	遺構：1030SI 調査区：2TM08Ab グリッド：9C14q 遺物No.DOT383 その他：箱Aド10、090317	種類：骨（ウシ左下顎骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24024	遺構：1015SI 調査区：2TM08Ab グリッド：9C15q その他：箱Ab102、090305	種類：骨（ウマ左中手骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24025	遺構：1015SI 調査区：2TM08Ab グリッド：9C15q 遺物No.d-333 その他：箱特、090223	種類：骨（ウマ左肩甲骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24026	遺構：2022SX 調査区：2TM08B グリッド：10C18n 遺物No.d-1358 その他：箱Bド12、090321	種類：骨（ウマ右脛骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24027	遺構：2006SD内(東) 調査区：2TM08B グリッド：10C10p 遺物No.d-1187 その他：箱Bド12、090304	種類：骨（ウマ左距骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24028	調査区：2TM08Aa グリッド：9C9r 遺物No.d-088 層位：検出1 その他：箱Aド8、081118	種類：骨（ウマ左橈骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24029	調査区：2TM08Aa グリッド：9C9r 遺物No.d-111 層位：R層 その他：箱Aド8、081128	種類：骨（ウマ左中手骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24030	調査区：2TM08Ab グリッド：9C7r 遺物No.d-120 層位：北端東西トレンチ その他：箱Aド9、081208	種類：骨（ウマ右下顎骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24031	調査区：2TM08Ab グリッド：8C15s 遺物No.d-177 層位：C層 その他：箱Aド9、081226	種類：骨（ウマ右肩甲骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24032	調査区：2TM08Ab グリッド：9C16o 遺物No.d-267 層位：S23層 その他：箱Aド9、090206	種類：骨（ウマ左中足骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24033	調査区：2TM08Ab 遺物No.DOT398 層位：調査区東壁調査中 その他：箱Aド10、090321	種類：骨（ウマ仙椎） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24171	調査区：2TM08Ab グリッド：9C15q 遺物No.DOT360 その他：箱Aド10、090305	種類：骨（ウマ左中足骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）
PLD-24417	遺構：1022SK 調査区：2TM08Ab グリッド：9C11 遺物No.DOT364 その他：箱Aド10、090310	種類：骨（ウマ右距骨） 状態：dry	混合物除去 超音波洗浄 コラーゲン抽出 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：0.2N,塩酸：1.2N）

試料の選択にあたっては、考古学的所見に基づいて、できるだけ幅広い時期にまたがるようにした。

これらの骨からコラーゲンを抽出した。抽出したコラーゲンは炭素と窒素の含有量および安定同位体比測定用と、放射性炭素年代測定用に分割した。

炭素含有量および窒素含有量の測定には、EA（ガス化前処理装置）である Flash EA1112（Thermo Fisher Scientific 社製）を用いた。スタンダードは、アセトニトリル（キシダ化学製）を使用した。得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいて C/N 比を算出した。炭素安定同位体比（ $\delta^{13}\text{C}_{\text{PDB}}$ ）および窒素安定同位体比（ $\delta^{15}\text{N}_{\text{Air}}$ ）の測定には、質量分析計 DELTA V（Thermo Fisher Scientific 社製）を用いた。スタンダードは、炭素安定同位体比では IAEA Sucrose（ANU）、窒素安定同位体比では IAEA N1 を使用した。

放射性炭素年代測定用の試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表 23 に、コラーゲン収率、コラーゲンの炭素含有率、窒素含有率、炭素窒素比、安定同位体比を示す。表 24 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、1950 年の大気中の ^{14}C 濃度を 1 として計算した試料の ^{14}C 濃度を表す $F^{14}\text{C}$ 値を、図 1 に暦年較正結果の分布をそれぞれ

表 24 コラーゲン収率と C / N 比および安定同位体比

測定番号	コラーゲン収率 (%)	$\delta^{13}\text{C}$	$\delta^{15}\text{N}$	N含有率 (%)	C含有率 (%)	C/N
PLD-24002	5.32	-18.3	9.34	14.6	42.9	3.4
PLD-24003	13.27	-19.1	10.1	15.2	42.2	3.2
PLD-24004	19.54	-17.1	11.8	15.0	42.3	3.3
PLD-24005	11.36	-18.6	10.5	15.1	42.6	3.3
PLD-24006	4.70	-17.8	9.66	14.5	42.5	3.4
PLD-24007	2.39	-18.7	9.68	14.4	42.4	3.4
PLD-24008	6.22	-18.3	13.2	15.0	42.6	3.3
PLD-24009	1.77	-18.4	8.96	13.9	42.2	3.5
PLD-24010	6.96	-18.2	11.3	15.9	45.6	3.3
PLD-24011	17.90	-15.6	9.07	16.5	46.1	3.3
PLD-24012	4.30	—	—	14.8	42.1	3.3
PLD-24013	2.87	—	—	14.8	42.2	3.3
PLD-24014	2.43	—	—	14.7	42.5	3.4
PLD-24015	8.70	—	—	15.4	43.0	3.3
PLD-24016	6.89	—	—	15.6	43.8	3.3
PLD-24017	5.98	—	—	14.9	42.2	3.3
PLD-24018	1.51	—	—	14.7	42.8	3.4
PLD-24019	0.24	—	—	14.2	44.9	3.7
PLD-24020	3.47	—	—	15.1	43.3	3.3
PLD-24021	4.82	—	—	15.1	43.0	3.3
PLD-24022	3.99	—	—	14.6	42.9	3.4
PLD-24023	5.31	—	—	14.9	43.3	3.4
PLD-24034	0.24	—	—	14.8	42.8	3.4
PLD-24024	6.15	—	—	15.1	43.5	3.4
PLD-24025	6.83	—	—	15.1	43.8	3.4
PLD-24026	3.41	—	—	13.4	41.9	3.6
PLD-24027	1.16	—	—	14.1	42.5	3.5
PLD-24028	2.80	—	—	14.8	42.6	3.4
PLD-24029	5.45	—	—	14.7	42.3	3.4
PLD-24030	6.17	—	—	14.8	42.3	3.3
PLD-24031	5.30	—	—	14.7	42.3	3.4
PLD-24032	4.19	—	—	14.8	42.7	3.4
PLD-24033	5.89	—	—	10.5	40.9	4.5
PLD-24171	7.44	—	—	15.3	42.7	3.3
PLD-24417	3.86	—	—	14.8	43.2	3.4

れ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中

表 25 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP \pm 1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP \pm 1 σ)	$F^{14}\text{C}$	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
					1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-24002	-20.13 \pm 0.20	1633 \pm 20	1635 \pm 20	-	390AD(68.2%)433AD	351AD(2.7%)367AD 381AD(75.3%)443AD 449AD(1.8%)462AD 484AD(15.6%)533AD
PLD-24003	-19.93 \pm 0.18	1575 \pm 18	1575 \pm 20	-	435AD(30.2%)470AD 479AD(13.2%)494AD 505AD(24.8%)535AD	429AD(95.4%)539AD
PLD-24004	-17.26 \pm 0.22	-820 \pm 16	-820 \pm 15	1.1075 \pm 0.0022	Post-bomb NH2: 1995AD(68.2%)1998AD	Post-bomb NH2: 1957AD(3.8%)1957AD 1995AD(91.6%)...
PLD-24005	-18.86 \pm 0.28	1453 \pm 20	1455 \pm 20	-	596AD(68.2%)640AD	571AD(95.4%)646AD
PLD-24006	-18.76 \pm 0.21	1215 \pm 17	1215 \pm 15	-	775AD(47.2%)827AD 840AD(21.0%)864AD	723AD(5.1%)740AD 770AD(90.3%)883AD
PLD-24007	-19.12 \pm 0.22	1575 \pm 20	1575 \pm 20	-	435AD(29.8%)470AD 479AD(13.1%)494AD 505AD(25.3%)535AD	427AD(95.4%)540AD
PLD-24008	-18.81 \pm 0.21	1384 \pm 20	1385 \pm 20	-	644AD(68.2%)661AD	617AD(95.4%)669AD
PLD-24009	-18.14 \pm 0.21	1637 \pm 18	1635 \pm 20	-	395AD(68.2%)428AD	347AD(3.9%)370AD 378AD(83.2%)440AD 487AD(8.3%)531AD
PLD-24010	-18.86 \pm 0.21	302 \pm 19	300 \pm 20	-	1523AD(51.8%)1572AD 1630AD(16.4%)1644AD	1515AD(70.0%)1599AD 1617AD(25.4%)1649AD
PLD-24011	-15.66 \pm 0.16	-710 \pm 16	-710 \pm 15	1.0924 \pm 0.0023	Post-bomb NH2: 1957AD(16.3%)1957AD 1997AD(51.9%)1999AD	Post-bomb NH2: 1956AD(21.9%)1957AD 1997AD(73.5%)...
PLD-24012	-21.64 \pm 0.11	1159 \pm 21	1160 \pm 20	-	783AD(2.6%)788AD 819AD(13.9%)842AD 860AD(34.6%)898AD 921AD(17.1%)943AD	780AD(5.6%)792AD 804AD(64.0%)900AD 917AD(25.9%)965AD
PLD-24013	-20.29 \pm 0.13	1161 \pm 20	1160 \pm 20	-	783AD(2.6%)787AD 820AD(15.4%)842AD 861AD(36.7%)897AD 923AD(13.5%)940AD	779AD(6.5%)794AD 802AD(67.1%)900AD 917AD(21.8%)963AD
PLD-24014	-20.87 \pm 0.13	1635 \pm 21	1635 \pm 20	-	389AD(68.2%)432AD	348AD(4.3%)369AD 379AD(75.4%)442AD 451AD(1.3%)461AD 484AD(14.3%)532AD
PLD-24015	-21.21 \pm 0.15	1444 \pm 21	1445 \pm 20	-	604AD(68.2%)640AD	575AD(95.4%)650AD
PLD-24016	-21.52 \pm 0.11	1279 \pm 21	1280 \pm 20	-	684AD(38.4%)719AD 742AD(29.8%)769AD	674AD(95.4%)773AD
PLD-24017	-22.13 \pm 0.11	1496 \pm 21	1495 \pm 20	-	555AD(68.2%)597AD	537AD(95.4%)621AD
PLD-24018	-16.90 \pm 0.11	1415 \pm 21	1415 \pm 20	-	621AD(68.2%)651AD	603AD(95.4%)658AD
PLD-24019	-19.06 \pm 0.34	1882 \pm 22	1880 \pm 20	-	77AD(68.2%)134AD	70AD(87.1%)181AD 188AD(8.3%)214AD
PLD-24020	-14.42 \pm 0.26	446 \pm 20	445 \pm 20	-	1435AD(68.2%)1450AD	1425AD(95.4%)1464AD
PLD-24021	-20.37 \pm 0.14	1226 \pm 22	1225 \pm 20	-	721AD(13.3%)741AD 770AD(40.8%)826AD 841AD(14.0%)863AD	694AD(23.0%)748AD 765AD(72.4%)881AD
PLD-24022	-19.26 \pm 0.29	1304 \pm 20	1305 \pm 20	-	666AD(41.8%)694AD 702AD(4.4%)707AD 748AD(22.0%)765AD	661AD(65.7%)723AD 740AD(29.7%)771AD
PLD-24023	-15.81 \pm 0.13	1292 \pm 20	1290 \pm 20	-	674AD(42.7%)710AD 747AD(25.5%)766AD	666AD(59.3%)729AD 736AD(36.1%)773AD
PLD-24034	-18.73 \pm 0.28	1679 \pm 21	1680 \pm 20	-	345AD(68.2%)405AD	261AD(6.7%)280AD 326AD(88.7%)420AD
PLD-24024	-16.36 \pm 0.16	1274 \pm 21	1275 \pm 20	-	687AD(37.5%)722AD 741AD(30.7%)770AD	675AD(95.4%)775AD
PLD-24025	-14.23 \pm 0.21	1397 \pm 19	1395 \pm 20	-	635AD(68.2%)660AD	613AD(95.4%)663AD
PLD-24026	-18.92 \pm 0.25	1303 \pm 20	1305 \pm 20	-	667AD(40.6%)694AD 702AD(5.0%)707AD 748AD(22.6%)765AD	661AD(65.0%)723AD 740AD(30.4%)771AD
PLD-24027	-19.33 \pm 0.24	1188 \pm 21	1190 \pm 20	-	783AD(6.2%)790AD 810AD(62.0%)882AD	776AD(95.4%)892AD
PLD-24028	-15.72 \pm 0.24	1231 \pm 19	1230 \pm 20	-	715AD(22.9%)744AD 768AD(36.3%)819AD 842AD(9.0%)859AD	693AD(31.9%)749AD 765AD(63.5%)875AD
PLD-24029	-16.75 \pm 0.29	1214 \pm 22	1215 \pm 20	-	775AD(44.6%)830AD 837AD(23.6%)868AD	719AD(7.7%)743AD 769AD(87.7%)886AD
PLD-24030	-18.08 \pm 0.27	497 \pm 19	495 \pm 20	-	1419AD(68.2%)1435AD	1411AD(95.4%)1442AD
PLD-24031	-18.60 \pm 0.22	1336 \pm 20	1335 \pm 20	-	657AD(68.2%)680AD	649AD(89.1%)695AD 748AD(6.3%)765AD
PLD-24031	-17.71 \pm 0.26	1319 \pm 20	1320 \pm 20	-	660AD(59.6%)689AD 753AD(8.6%)761AD	656AD(77.1%)715AD 744AD(18.3%)769AD
PLD-24031	-18.03 \pm 0.25	1353 \pm 20	1355 \pm 20	-	653AD(68.2%)670AD	645AD(95.4%)686AD
PLD-24031	-17.32 \pm 0.23	1453 \pm 20	1455 \pm 20	-	596AD(68.2%)640AD	571AD(95.4%)646AD
PLD-24031	-17.25 \pm 0.24	1342 \pm 20	1340 \pm 20	-	655AD(68.2%)676AD	647AD(92.4%)690AD 751AD(3.0%)762AD

の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を校正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年校正には OxCal4.1 (校正曲線データ: IntCal09、1950 年以降の試料については Post-bomb atmospheric NH_2) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。

4. 考察

まず、コラーゲンの質について考察しておく。コラーゲンが劣化や変質を被っていると得られる ^{14}C 年代の確かさにも影響する。コラーゲン収率は、コラーゲン抽出に用いた骨重量に対する抽出されたコラーゲン重量の割合である。表 2 において、コラーゲン収率は、19.54 ~ 0.24% の範

囲を示している。これらのうち、PLD-24019 ウシ左肩甲骨と PLD-24034 ウシ左下顎骨は、いずれも 0.24% と特にコラーゲン収率が低い。PLD-24019 と PLD-24034 は、コラーゲンの保存状態が良くないと判断し、 ^{14}C 年代の考察から除外する。また、一般的に骨のコラーゲンの C/N 比は 2.9 ~ 3.6 の間に収まる (DeNiro 1985)。35 試料のうち、PLD-24033 ウマ仙椎の C/N 比は 4.5 とこの範囲を越えており、骨外部からの汚染が疑われる。よって、PLD-24033 も ^{14}C 年代の考察から除外する。

考察から除外した 3 試料を除く 32 試料の 2σ 暦年代範囲 (確率 95.4%) の分布をまとめた (図 1)。哺乳類全体で見ると、暦年代の分布は 4 ~ 20 世紀に及ぶ。

イヌは、最も古い試料が 4 世紀中頃 ~ 6 世紀前半の暦年代範囲を示した。イヌは 9 世紀まで連続して見られ、その後現代にも見られた。

シカは、最も古い試料が 4 世紀中頃 ~ 6 世紀前半の暦年代範囲を示した。シカは 10 世紀まで

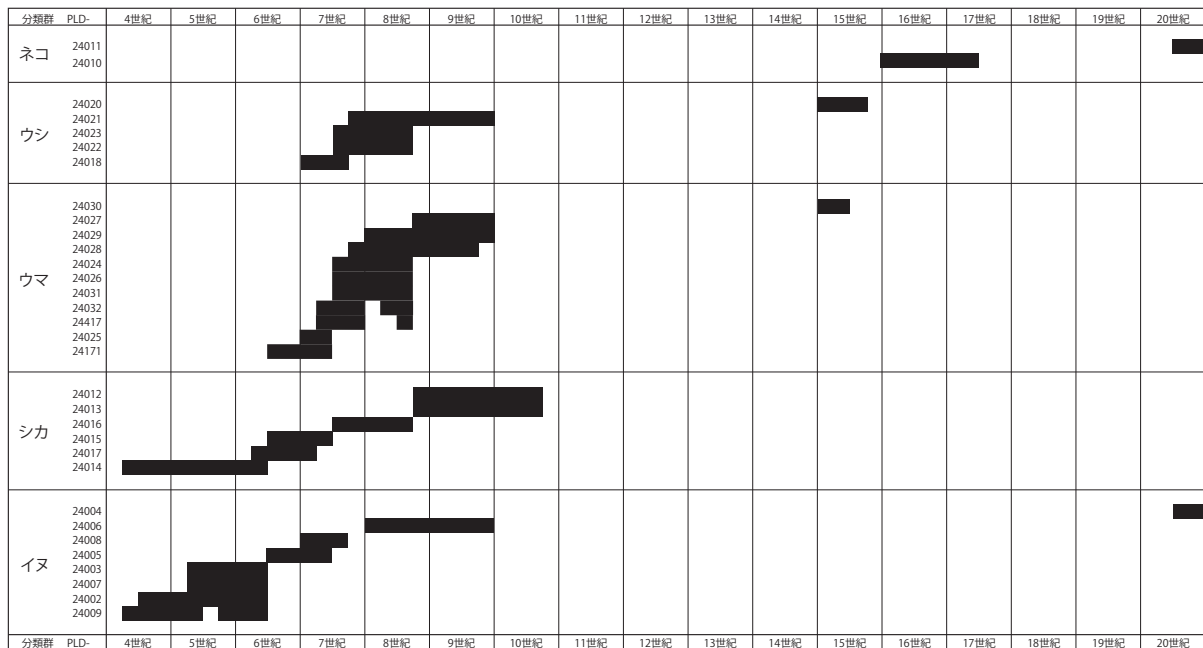


図 199 哺乳類の暦年校正結果の分布(範囲は 2σ)

連続して見られた。

ウマは、最も古い試料が6世紀後半～7世紀前半の暦年代範囲を示した。ウマは9世紀まで連続して見られ、その後15世紀にも見られた。

ウシは、最も古い試料が7世紀初頭～中頃の

暦年代範囲を示した。ウシは9世紀まで連続して見られ、その後15世紀にも見られた。

ネコは、16世紀前半～17世紀中頃と現代の暦年代範囲を示した。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- DeNiro MJ. (1985) Postmortem preservation and alteration of in vivo bone collagen isotope ratios in relation to palaeodietary reconstruction. *Nature* 317: 806-9.
- Hua, Q. and Barbetti, M. (2004) Review of Tropospheric Bomb ^{14}C Data for Carbon Cycle modeling and Age Calibration Purposes. *Radiocarbon*, 46, 1273-1298.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0–50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 51, 1111-1150.

第9節 松崎遺跡・上浜田遺跡の動物遺体

中村賢太郎 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

愛知県東海市の松崎・上浜田遺跡では、哺乳類、魚類、爬虫類、甲殻類など動物遺体が多く出土した。ここでは、動物遺体の同定結果を報告する。

また、同遺跡における海藻の利用を検討する目的で、ウズマキゴカイ類を検出するために行った堆積物の水洗選別の結果もあわせて報告する。

2. 試料と方法

試料は、水洗され、チャック付ポリ袋に1片あるいは複数片ずつ収納されていた。同定は、肉眼あるいは実体顕微鏡下で現生標本との比較により行った。切創や焼けなど特徴的な痕跡が観察された場合は記載した。一部の試料について、ノギスを用いてサイズ計測を行った。

ウズマキゴカイ類の検出では、08Aa、08Ab、08B区で得られた堆積物(砂)サンプルを水洗した。水洗した堆積物の量は、テン箱で60箱、総重量が約1tである。0.5～2mmの堆積物を篩分けし、その中に含まれるウズマキゴカイ類、海産微小貝、陸産微小貝を、肉眼、拡大鏡、実体顕微鏡下で選別した。

3. 結果

同定された分類群の一覧を表26に示す。

表26 同定された分類群一覧

哺乳綱	鳥綱
ヒト	ガンカモ科
ウマ	キジ科
ウシ	
シカ	両生綱
イノシシ	カエル類
イヌ	
ネコ	爬虫綱
タヌキ?	カメ類
イタチ科?	イシガメ科
硬骨魚綱	甲殻亜門
マグロ属	カニ類
タイ科	フジツボ類
マダイ亜科	
マダイ	
ヘダイ?	棘皮動物門
クロダイ属	スカシカシパン
フサカサゴ科	
アジ科	
フグ科	
スズキ属	
ボラ科	
ウナギ?	
軟骨魚綱	
エイ類	
トビエイ科	
サメ類	
メジロザメ科	

表 27-1 08 調査区出土動物遺体

調査区	グリッド	遺構	層位など	日付	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考	14C年代
2TM08Aa	9C18p	—	—	081118	イヌ	全身	—	—	1体分	d-089,首輪現代	
2TM08Aa	9C8r	—	北端東西トレンチ	081119	イヌ?	胸椎	—	椎体破片	3	DOT090	
2TM08Aa	9C8r	—	北端東西トレンチ	081119	イヌ?	頸椎	—	ほぼ完存	4	DOT090	
2TM08Aa	9C8r	—	北端東西トレンチ	081119	イヌ?	胸椎	—	2/3遺存	1	DOT090	
2TM08Aa	9C8r	—	北端東西トレンチ	081119	イヌ?	椎骨	—	破片	2	DOT090	
2TM08Aa	9C8r	—	北端東西トレンチ	081119	イヌ?	尾椎	—	—	1	DOT090	
2TM08Aa	9C8r	—	北端東西トレンチ	081119	イヌ?	不明	不明	破片	1	DOT090	
2TM08Aa	9C8r	—	北端東西トレンチ	081119	イヌ?	肋骨	不明	破片	3	DOT090	
2TM08Aa	8C7t	—	1検	081022	イノシシ?	基節骨	不明	完存	1	d-016,切削?	
2TM08Aa	8C6t	—	E層	081111	イノシシ	上腕骨	左	遠位端	1	d-083	
2TM08Aa	8C6s	—	1検	081022	ウシ?ウマ?	肩甲骨	不明	肩甲窩	1	d-015	
2TM08Aa	8C18t	—	F層	081113	ウシ?ウマ?	長骨	不明	骨幹破片	1	d-085	
2TM08Aa	8C4t	—	第1面検出	081021	ウシ?ウマ?	長骨	不明	骨幹破片	1	d-007	
2TM08Aa	8C6t	—	1検	081022	ウシ?ウマ?	長骨	不明	骨幹破片	1	d-014	
2TM08Aa	8C9t	—	客土1	081030	ウマ	後肢基節骨	不明	完存	1	d-034	
2TM08Aa	9C16p	—	北端東西トレンチ	081120	ウマ	寛骨	右	坐骨	1	d-098	
2TM08Aa	9C2s	—	第1面検出	081009	ウマ	脛骨	左	骨幹	1	d-001	
2TM08Aa	8C18s	—	F層	081113	ウマ	下顎第2前臼歯	左	2/3遺存,歯冠高24.3mm	1	d-086	
2TM08Aa	8C6t	—	1検	081022	ウマ	尺骨	左	近位端	1	d-017	
2TM08Aa	8C10t	—	C層	081105	ウマ	上顎第2前臼歯	左	ほぼ完存	1	d-061	
2TM08Aa	8C6t	—	1検	081022	ウマ	上顎第2前臼歯	右	ほぼ完存	1	d-018	
2TM08Aa	8C12s	—	客土1	081029	ウマ	上顎第3or4前臼歯	左	ほぼ完存,歯冠高58.9mm	1	d-031	
2TM08Aa	9C9r	—	R層	081128	ウマ	中手骨	左	完存	1	d-111, GL:208mm, Bp:42.6mm, Bd:42.3mm, 切削	PLD-24029
2TM08Aa	8C7s	—	第1面	081022	ウマ	中手骨	右	近位端~骨幹	1	d-011	
2TM08Aa	8C14s	—	第1面検出	081020	ウマ	中手骨or中足骨	不明	近位端~骨幹破片	1	d-005	
2TM08Aa	9C9r	—	R層	081128	ウマ	手根骨	不明	完存	+	d-111	
2TM08Aa	9C9r	—	検出1	081118	ウマ	橈骨	左	完存	1	d-088, GL:304.5mm, Bp:71.6mm, Bd:63.3mm, 遠位端癒合途中	PLD-24028
2TM08Aa	8C5t	—	第1面検出	081010	ウマ	中足骨	右	ほぼ完存	1	d-003	
2TM08Aa	8D4a	—	G層	081118	ウマ	中手骨	右	ほぼ完存	1	d-092	
2TM08Aa	8C4t	—	第1面検出	081021	ウマ	前肢基節骨	右	完存	1	d-010	
2TM08Aa	8C9t	—	客土1	081031	シカ	距骨	右	完存	1	d-035	
2TM08Aa	8C5t	—	第1面	081021	シカ	上腕骨	左	遠位端	1	d-008, 癒(黒色), d-009と接合	
2TM08Aa	8C5t	—	第1面	081021	シカ	上腕骨	左	骨幹破片	1	d-009, 癒(黒色), d-008と接合	
2TM08Aa	8C12t	—	H層	081201	シカ	橈骨	右	骨幹	1	d-113	
2TM08Aa	8C7t	—	検1	081022	シカ?	大腿骨	左	近位端破片	1	d-012	
2TM08Aa	8C18s	—	客土1	081029	シカ?	大腿骨	右	骨幹	1	d-030	
2TM08Aa	8C15s	—	D層	081110	タヌキ?	尺骨	左	近位端	1	d-076, 咬み痕	
2TM08Aa	8C1t	—	客土1	081127	ヒト	寛骨	右	寛骨臼	1	d-105, 成人	
2TM08Aa	8C5t	—	第1面検出	081010	ヒト	橈骨	左	遠位端~骨幹	1	d-002	
2TM08Aa	8C18s	—	C層	081105	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1	d-043	
2TM08Aa	8D4a	—	G層	081119	哺乳綱	不明	不明	破片	3	d-094	
2TM08Aa	8C12t	—	F層	081113	哺乳綱	不明	不明	破片	1	d-084	
2TM08Aa	8C6t	—	検1	081022	哺乳綱	肋骨	左?	ほぼ完存	1	d-013	
2TM08Aa	8C3t	—	第1面検出中	081015	ウマ	距骨	左	完存	1		
2TM08Aa	8C6t	—	D層	081111	ウマ	距骨	右	完存	1		
2TM08Aa	8C9t	—	客土1	081127	ウマ	踵骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Aa	8C1t	—	攪乱(西壁側)	081015	ウシ	上腕骨	左	遠位端	1		
2TM08Aa	8C19r	—	西傾斜面2	081017	シカ	下顎骨	左	下顎体	1	外側に縦方向の線状痕、前臼歯列長:34.2mm, 下顎体高(M1直前):26.7mm, 下顎体高(P2直前):21.7mm	PLD-24015
2TM08Aa	9C10q	—	Q層	090108	イノシシ?	上腕骨	左	骨幹	1		
2TM08Aa	—	—	基盤層直上(砂層)(深掘り)	090108	ネコ	下顎骨	左	ほぼ完存	1	ld-Goc:55.3+mm, Cr-Gov:28.2mm	PLD-24010
2TM08Aa	—	—	東壁沿い南北深掘り(北半)	090108	ネコ	下顎骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Aa	8D5a	—	南北トレンチ(東壁沿い)	081016	ネコ	上腕骨	左	ほぼ完存	1		PLD-24011
2TM08Aa	18C15t	—	検1	081008	ネコ	上腕骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Aa	18C15t	—	検1	081008	ネコ	大腿骨	左	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C15q	—	北端トレンチ	081216	イヌ	下顎骨	右	下顎枝上隅欠く	1	DOT149, ld-Goc:115.0+mm	PLD-24005
2TM08Ab	9C15q	1015SI	W3層	090218	イヌ	下顎骨	左	ほぼ完存	1	DOT325	
2TM08Ab	9C15q	1015SI	—	090223	ウマ	肩甲骨	左	ほぼ完存	1	d-333, HS:278mm, GLP:84.5mm	PLD-24025
2TM08Ab	9C14q	1030SI	—	090317	ウシ	下顎骨	右	ほぼ完存	1	DOT385, 外側に切削痕数, ld-Goc:301+mm, Cr-Gov:200+mm, 臼歯列長:119mm, M2萌出中, M3未萌出, 乳歯	PLD-24018
2TM08Ab	9C14q	1030SI	—	090317	ウシ	肩甲骨	左	ほぼ完存	1	DOT384, HS:267+mm, GLP:70.6mm	PLD-24019
2TM08Ab	9C19p~19p	—	(彈丸溝より西)東西トレンチ	081208	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C9r	—	A~B層	081209	イヌ	下顎骨	右	下顎体	1		
2TM08Ab	9C6r	—	B層	081202	ウシ	中足骨	右	近位端~骨幹	1	Bp:44.0mm, GL:183+mm	PLD-24020
2TM08Ab	9C10q	—	L層	090226	シカ	前頭骨	右	破片	1	角座骨に切断痕	PLD-24013
2TM08Ab	9C10p	—	R層	090114	イヌ	胸椎	—	1/3欠く	1	BFCr:28.0mm, SBV:20.4mm, H:31.9+mm, LDCr:44.0+mm	PLD-24006
2TM08Ab	9C6r	—	Aゼ(No.4)B層	090120	哺乳綱	不明	不明	破片	5		
2TM08Ab	9C6r	—	Aゼ(No.6)W層	090120	哺乳綱	橈骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C14q	—	Aゼ内	090318	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C9q	—	カクラン溝	081119	ウマ	上顎第2前臼歯	左	ほぼ完存, 遊離歯	1		
2TM08Ab	9C20q	—	旧調査区	081119	ウシ	基節骨	不明	前後不明	1		
2TM08Ab	9C16p	—	旧調査区内	090129	ネコ	大腿骨	左	完存	1		
2TM08Ab	9C16p	—	検出1(用水路跡)	081120	シカ	下顎骨	左	下顎体	1		
2TM08Ab	9C15q	—	検出5(検出中)	090317	タイ料	上後頭骨	—	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C15q	—	検出5(検出中)	090317	タイ料	歯骨	左	半欠	1		
2TM08Ab	9C15q	—	検出5(検出中)	090317	フグ科	歯骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C15q	—	検出5(検出中)	090317	哺乳綱	頭蓋骨?	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C16q	—	検出5(住居址検出中)	090311	硬骨魚綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C17q	—	検出5(住居址検出中)	090311	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C15q	—	検出5(住居址検出中)	090216	哺乳綱	不明	不明	破片	1	切削?	
2TM08Ab	9C11r	—	検出5(精査中)	090226	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C14q	—	検出5(精査中)	090314	イヌ?	胸椎	—	椎弓	1		
2TM08Ab	9C16q	—	検出5(精査中)	090316	イヌ?	頭蓋骨	—	前頭骨, 頭頂骨, 後頭骨	1		
2TM08Ab	9C17q	—	検出5(精査中)	090226	ウシ?ウマ?	長骨	不明	骨幹端部破片	1	咬み痕?	
2TM08Ab	9C16q	—	検出5(精査中)	090305	カメ類	甲羅	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C15q	—	検出5(精査中)	090305	鳥綱?	指骨?	不明	完存	1		
2TM08Ab	9C15q	—	検出5(精査中)	090305	ヒト	頭蓋骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C16q	—	検出5(精査中)	090309	哺乳綱	中手or中足骨	不明	完存	1		
2TM08Ab	9C14q	—	検出5(精査中)	090319	哺乳綱	長骨	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C11r	—	検出5(精査中)	090309	哺乳綱	不明	不明	破片	3		
2TM08Ab	9C12q~r	—	検出5(精査中)	090217	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C14q	—	検出5(精査中)	090314	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C15p	—	調査区西端トレンチ	081211	イノシシ?	肩甲骨	右	破片	1	関節未癒合	
2TM08Ab	9C16p	—	調査区西端トレンチ	081211	キジ科	鳥口骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	—	—	調査区東カベ	090317	ウマ	上顎第3or4前臼歯	左	完存, 遊離歯	1		
2TM08Ab	9C16q	—	東西アゼ	090304	イノシシ?シカ?	指骨	不明	遠位端	1		
2TM08Ab	10C1p	—	東西アゼ	090302	フグ科	前上顎骨	右	ほぼ完存	2		
2TM08Ab	10C1p	—	東西アゼ	090302	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C8q~r	—	東西アゼ(東)①(攪乱)	090219	哺乳綱	頭蓋骨	不明	耳の周辺	1		
2TM08Ab	9~7q7r	—	東西アゼ①	090219	ウシ?ウマ?	頭蓋骨	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C14q	—	東西アゼ①	—	カメ目?	甲羅?	不明	破片	1	棘皮動物?	
2TM08Ab	9C18q	—	東西アゼ①	090302	鳥綱	不明	左右	遠位端	1		
2TM08Ab	9~7q7r	—	東西アゼ①	090219	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C16p	—	東西アゼ① M3	090304	カメ類?	甲羅?	不明	破片	1	棘皮動物?	
2TM08Ab	10C2q	—	東西アゼ① T層	090302	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		

表 27-2 08 調査区出土動物遺体

調査区	グリッド	遺構	層位など	日付	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考	14C年代
2TM08Ab	9C8q~r	—	東西アゼ10層	—	哺乳綱	椎骨	—	破片	1		
2TM08Ab	9C8q~r	—	東西アゼ10層	—	哺乳綱	肋骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C8q~r	—	東西アゼ10層、東西アゼ15	—, 090223	哺乳綱	肋骨	不明	背側端	1	2片接合	
2TM08Ab	9C19q	—	東西アゼ10 W3層	090302	哺乳綱?	不明	不明	破片	11		
2TM08Ab	9C18q	—	東西アゼ11 W1層	090302	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C12r	—	東西アゼ12 W1層	090226	鳥綱	四肢骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C12q~r	—	東西アゼ13	—	イノシシ?シカ?	肋骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C8q~r	—	東西アゼ15	090223	哺乳綱	不明	不明	破片	1	摩耗	
2TM08Ab	9C14q	—	東西アゼ15	090304	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	—	東西アゼ2	090304	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	—	東西アゼ26 U層	090304	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1	咬み痕	
2TM08Ab	9~7q7r	—	東西アゼ28層	090219	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C16q	—	東西アゼ3	090304	哺乳綱	頭蓋骨	不明	破片	3		
2TM08Ab	9C14q	—	東西アゼ31 W1層	090304	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	—	東西アゼ34 W3層	090304	フク科	前上顎骨	右	半欠	1		
2TM08Ab	9C14q	—	東西アゼ34 W3層	090304	哺乳綱	上腕or大腿骨	不明	近位端破片	1		
2TM08Ab	9C14q	—	東西アゼ37 W3層	090304	イヌ?	椎骨	—	ほぼ完存	1	一部黒く変色、焼?	
2TM08Ab	9C14q	—	東西アゼ37 W3層	090304	哺乳綱	不明	不明	破片	10		
2TM08Ab	9C11q~r	—	東西アゼ④ R層	090223	ウシ?ウマ?	不明	不明	破片	1	切削	
2TM08Ab	9C11p	—	東西アゼ④ R層	090223	クロダイ属	歯骨	右	完存	1		
2TM08Ab	9C11q	—	東西アゼ⑤ W1層	090223	イノシシ?シカ?	末節骨	不明	完存	1		
2TM08Ab	9C9q~r	—	東西アゼ⑤(攪乱)	090223	硬骨魚綱	方骨	右	関節	1		
2TM08Ab	9C9q~r	—	東西アゼ⑥ Q層	090223	イノシシ?シカ?	指骨	不明	骨幹~遠位端	1	近位端未癒合	
2TM08Ab	9C14q	—	東西アゼ9	090304	シカ	中手or中足	不明	遠位端破片	1	遠位端未癒合	
2TM08Ab	9C14q	—	東西アゼ9	090304	哺乳綱?	不明	不明	破片	1	硬骨魚綱?	
2TM08Ab	9C9q~r	—	東西アゼ⑩層	090223	イノシシ?シカ?	指骨	不明	骨幹~遠位端	1	近位端未癒合	
2TM08Ab	9C5p	—	東西層一括(アゼ)	090303	硬骨魚綱	主上顎骨	左	完存	1		
2TM08Ab	9C16a~16p	—	東西トレンチ	081120	カニ綱	ツメ	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C15q~15r	—	東西トレンチ	081208	スカシカシバン	殻	—	破片	1		
2TM08Ab	9C18q	—	東西トレンチ	081208	鳥綱	脛足根骨	右	近位端	1		
2TM08Ab	9C18q	—	東西トレンチ	081208	鳥綱	長骨	不明	近位端	1		
2TM08Ab	9C16q	—	東西トレンチ内	090219	哺乳綱	長骨	不明	骨幹	1		
2TM08Ab	9C8q~r	—	当院アゼ⑩層	090223	哺乳綱	長骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	—	—	排土中	090129	イヌ	上腕骨	左	完存	1	近位端未癒合	
2TM08Ab	—	—	排土中(検出1)	081118	ウマ	上顎第2前臼歯	右	ほぼ完存、遊離歯	1		
2TM08Ab	10C17o	—	東壁沿い南北トレンチ	090202	シカ	下顎骨	不明	破片	1	歯	
2TM08Ab	—	—	表土掘削南側	081111	ウマ	上顎第1後臼歯	左	完存、遊離歯	1		
2TM08Ab	9C19q	—	北端東西トレンチ	090212	イノシシ	歯	不明	後臼歯	1		
2TM08Ab	9C9r	—	北端東西トレンチ	090219	イノシシ?シカ?	指骨	不明	遠位端	1		
2TM08Ab	9C13q~13b	—	北端東西トレンチ	090205	ウシ	上顎第4前臼歯	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C10r	—	北端東西トレンチ	081119	ウマ	上顎第2後臼歯	左	完存、遊離歯	1		
2TM08Ab	9C4q	—	北端東西トレンチ	090205	硬骨魚綱	椎骨	—	椎体と棘	1		
2TM08Ab	9C20q	—	北端東西トレンチ	090212	硬骨魚綱	角関節骨?	右?	破片	1		
2TM08Ab	9C4q	—	北端東西トレンチ	090205	硬骨魚綱	不明	不明	破片	15		
2TM08Ab	9C20q	—	北端東西トレンチ	090212	硬骨魚綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C20q	—	北端東西トレンチ	090212	硬骨魚綱	主鰓蓋骨?	左?	破片	1		
2TM08Ab	9C20q	—	北端東西トレンチ	090212	シカ	基節骨	右	後肢第3指	1		
2TM08Ab	9C20q	—	北端東西トレンチ	090212	シカ	基節骨	右	後肢第4指	1		
2TM08Ab	9C20q	—	北端東西トレンチ	090212	シカ	下顎骨	右	下顎体	1		
2TM08Ab	9C20q	—	北端東西トレンチ	090212	シカ	中足骨	右	遠位端	1		
2TM08Ab	9C20q	—	北端東西トレンチ	090212	シカ	脛骨	左	破片	1		
2TM08Ab	9C4p~4r	—	北端東西トレンチ	081210	シカ?	椎骨	左	近位端	1		
2TM08Ab	9C14p~14q	—	北端東西トレンチ	090210	スカシカシバン	殻	—	破片	1		
2TM08Ab	9C20b	—	北端東西トレンチ	081119	哺乳綱	胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C16q~16r	—	北端東西トレンチ	090202	哺乳綱	中手or中足骨	不明	骨幹	1		
2TM08Ab	9C10p	—	北端東西トレンチ	081120	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C19q	—	北端東西トレンチ	090212	哺乳綱	椎骨	—	破片	3		
2TM08Ab	9C18p~18q	—	北端東西トレンチ	090206	哺乳綱	長骨	不明	骨幹	1		
2TM08Ab	9C4q	—	北端東西トレンチ	090205	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C13q~13b	—	北端東西トレンチ	090205	哺乳綱	不明	不明	破片	4		
2TM08Ab	9C14q	—	北端東西トレンチ	090205	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C15q	—	北端東西トレンチ	090206	哺乳綱	不明	不明	破片	1	大型	
2TM08Ab	9C19q	—	北端東西トレンチ	090212	哺乳綱	不明	不明	破片	7		
2TM08Ab	9C20q	—	北端東西トレンチ	090212	哺乳綱	不明	不明	破片	3		
2TM08Ab	9C19q	—	北端東西トレンチ	090212	哺乳綱	指骨	不明	破片	4		
2TM08Ab	9C4q	—	北端東西トレンチ	090205	哺乳綱	肋骨	不明	破片	1	小型	
2TM08Ab	9C13q~13r	—	北端東西トレンチ	090205	哺乳綱?	椎骨?	—	破片	1		
2TM08Ab	9C15q~15r	—	北端トレンチ	090123	スカシカシバン	殻	—	破片	1		
2TM08Ab	9C10p~10q	—	北端トレンチ	090107	哺乳綱	尾椎	—	完存	1		
2TM08Ab	9C10q~10r	—	北端トレンチ(西掘削)	090114	ヒト	足中節骨	右	完存	1		
2TM08Ab	9C10q~10r	—	北端トレンチ(西掘削)	090114	ヒト	足母指基節骨	右	完存	1		
2TM08Ab	9C10q~10r	—	北端トレンチ(西掘削)	090114	ヒト	足母指中節骨	右	完存	1		
2TM08Ab	9C10q~10r	—	北端トレンチ(西掘削)	090114	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	10C2q	—	北端東西トレンチ	090212	哺乳綱?	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	10C1q	—	北端東西トレンチ	090212	フク科	前上顎骨	右	半欠	1		
2TM08Ab	10C1q	—	北端東西トレンチ	090212	マダイ亜科	歯骨	左	破片	1		
2TM08Ab	10C1q	—	北端東西トレンチ	090212	マダイ亜科	左主鰓蓋骨	左	破片	1		
2TM08Ab	10C1q	—	北端東西トレンチ	090212	シカ	下顎第1切歯	左	完存	1		
2TM08Ab	10C1q	—	北端東西トレンチ	090212	硬骨魚綱	不明	不明	破片	5		
2TM08Ab	—	—	調査区東壁、精査中	090321	スカシカシバン	殻	—	破片	2		
2TM08Ab	—	—	調査区東壁、精査中	090321	マダイ亜科	主鰓蓋骨	右	破片	1		
2TM08Ab	—	—	調査区東壁、精査中	090321	硬骨魚綱	椎骨	—	椎体	1	焼(白色)	
2TM08Ab	—	—	表土(コスモス畑)	081112	動物ではない	不明	不明	不明	—		
2TM08Ab	9C17以南	—	東カベ	090313	哺乳綱	大腿骨?	左?	骨幹	1	小型	
2TM08Ab	—	—	調査区東カベ	090317	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	10C1q	—	北端東西トレンチ	090212	硬骨魚綱?	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C9q	—	T層	081211	ウマ	大腿骨	右	近位端破片	1		
2TM08Ab	9C9q	—	T層	081211	ウマ?	大腿骨?	右?	遠位端破片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090210	クロダイ属	歯骨	左	完存	1		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090210	タイ科	角骨	右	2/3片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090210	タイ科	方骨	右	2/3片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090210	タイ科	腹椎	—	破片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090210	タイ科	尾椎	—	3			
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090210	ボラ科	腹椎	—	椎体	1		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090210	フサカゴ科	前上顎骨	右	破片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090210	スカシカシバン	殻	—	破片	2		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090210	哺乳綱	不明	不明	破片	5		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090210	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090210	硬骨魚綱	椎骨	—	椎体	3		
2TM08Ab	9C17o~17p	—	M層	081215	哺乳綱	肋骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	—	K-1層(南端)	081212	スカシカシバン	殻	—	破片	2		
2TM08Ab	9C15q	—	M3層	081216	スカシカシバン	殻	—	破片	6		
2TM08Ab	9C14q	—	K-1層(南端)	081212	スカシカシバン	殻	—	破片	47		
2TM08Ab	9C15q	—	K-1層	081215	スカシカシバン	殻	—	破片	1		
2TM08Ab	9C15q	—	K-1層	081216	スカシカシバン	殻	—	破片	4		
2TM08Ab	9C15q	—	K層	081218	スカシカシバン	殻	—	破片	1		
2TM08Ab	9C15q	—	K層	081218	硬骨魚綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C15q	—	K層	081218	スカシカシバン	殻	—	破片	1		
2TM08Ab	9C15q	—	K層	081218	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C15q	—	K層	081218	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C15q	—	T層	090130	マクロ属	椎骨	—	椎体破片	1		

表 27-3 08 調査区出土動物遺体

調査区	グリッド	遺構	層位など	日付	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考	14C年代
2TM08Ab	9C15q~15r	—	T層, ヘルコンより東, 検出中	090123	スカシカシパン	殻	—	破片	1		
2TM08Ab	9C9p~9q	—	L1層	081212	ネコ	上腕骨	左	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C14p~14q	—	O層, 検出中	090107	カエル類	上腕骨	左	遠位端~骨幹	1		
2TM08Ab	9C14p~14q	—	O層, 検出中	090107	カエル類	大腿骨	不明	骨端~骨幹	1		
2TM08Ab	9C14p~14q	—	O層, 検出中	090107	カエル類	脛腓骨	右	完存	1		
2TM08Ab	9C14p	—	M層	081215	スカシカシパン	殻	—	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	—	南端, K-1層	081212	スカシカシパン	殻	—	破片	2		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090203	マダヒ亜科	主髀蓋骨	左	破片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090203	タイ科	主髀蓋骨	左	破片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090203	フグ科	前上顎骨or歯骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090203	アザ科	尾椎	—	破片	1		マアジ?
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090203	ヘダヒ?	第1椎骨	—	破片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090203	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	U層	090203	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+		
2TM08Ab	9C17o~17p	—	S層	090216	イノシシ	上顎第3後臼歯	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C10q	—	O層	090108	フグ科	前上顎骨	左	破片	1		
2TM08Ab	9C10q	—	O層	090108	カニ類	ツメ	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C10q	—	O層	090108	シカ	上顎第3前臼歯	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C11q	—	O層	090108	トビエイ科	歯板	—	完存	1		
2TM08Ab	9C11q	—	O層	090108	フグ科	前上顎骨	左	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C11q	—	O層	090108	サメ類	椎骨	—	破片	1		
2TM08Ab	9C11q	—	O層	090108	カニ類	ツメ	不明	破片	3		
2TM08Ab	9C11q	—	O層	090108	フグ科	主髀蓋骨	左	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C11q	—	O層	090108	フササゴ科?	前上顎骨	左	破片	1		
2TM08Ab	9C11q	—	O層	090108	硬骨魚綱	椎骨	—	破片	4		
2TM08Ab	9C11q	—	O層	090108	硬骨魚綱	不明	不明	破片	5		
2TM08Ab	9C11q	—	O層	090108	哺乳綱	不明	不明	破片	3		
2TM08Ab	9C17p	—	S層	090217	マダヒ	髀膝棘	—	破片	1		
2TM08Ab	9C13p	—	T層	090130	クロダイ属	歯骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C13p	—	T層	090130	スカシカシパン	殻	—	破片	2		
2TM08Ab	9C13p	—	T層	090130	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C10q	—	L層	090226	哺乳綱	頭蓋骨	不明	破片	8		
2TM08Ab	9C7r	—	O層(七)	090116	鳥綱	寛骨	左右	完存	1		
2TM08Ab	9C7r	—	O層(七)	090116	鳥綱	大腿骨?	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C7r	—	O層(七)	090116	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	T層	090203	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C13q	—	T層, 検出中	090123	哺乳綱	手根骨or足根骨	不明	完存	1		
2TM08Ab	9C12q~12r	—	T層	090203	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C12q~12r	—	T層	090203	硬骨魚綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C12q	—	R層, 検出中	090115	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C17o~17p	—	T層	090128	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C16p~16q	—	T層	090128	硬骨魚綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C9q	—	J層	081211	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	3C14p	—	M3層(確認トレンチ)	081216	哺乳綱	不明	不明	破片	2		焼
2TM08Ab	9C9q	—	J層	081211	イヌ?	下顎骨	左	下顎体破片	1		
2TM08Ab	9C9q	—	J層	081211	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C10p~10q	—	L4層上層(アゼ)	081218	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C12q	—	R層	090119	哺乳綱	不明	不明	破片	6		
2TM08Ab	9C13p	—	R層	090113	哺乳綱	肋骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	—	U層	090203	イヌ	尺骨	右	完存	1		
2TM08Ab	9C14q	—	U層	090203	イヌ	胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C14q	—	U層	090203	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	—	U層	090203	イヌ	中手骨	不明	完存	1		
2TM08Ab	9C15q	—	U層	090203	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C18q	—	VI層	090204	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C15p	—	VI層	090212	シカ	中手or中足骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C18q	—	VI層	090204	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C18q	—	VI層	090204	硬骨魚綱?	主上顎骨?	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C20q	—	VI層(アゼ)	090206	スカシカシパン	殻	—	破片	1		
2TM08Ab	9C20q	—	V3層下層	090204	スカシカシパン	殻	—	破片	5		
2TM08Ab	9C20q	—	V3層下層	090204	哺乳綱	椎骨	—	破片	2		
2TM08Ab	9C20q	—	V3層(下層)	—	サメ類	歯	不明	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C20q	—	V3層(下層)	—	硬骨魚綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C18o~18p	—	W3層	090216	ウマ	末節骨	不明	2/3欠	1		
2TM08Ab	9C15p~16q	—	W3層	090217	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14p	—	検出4(清掃中)	090202	哺乳綱	肩甲骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C19q	—	V5層	090205	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C19q	—	V3層	090205	哺乳綱	尾椎	—	完存	1		
2TM08Ab	9C19q	—	V2層(中層)	090204	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C20q	—	V3層(下)	090205	哺乳綱	手根骨or足根骨	不明	完存	1		
2TM08Ab	9C20p~20q	—	V3層(上層)	090204	タイ科	前上顎骨	左	破片	1		
2TM08Ab	9C16q	—	包含層(W-3層)	090313	哺乳綱	不明	不明	破片	7		
2TM08Ab	9C16q	—	包含層(W-3層)	090313	哺乳綱	長骨	不明	骨幹	1		
2TM08Ab	9C14p	—	W3層, 検出中	090213	サメ類	椎骨	—	完存	1		
2TM08Ab	9C14p	—	W3層, 検出中	090213	マダヒ亜科	歯骨	左	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C14p	—	W3層, 検出中	090213	マダヒ亜科	歯骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C14p	—	W3層, 検出中	090213	硬骨魚綱	髀棘	不明	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C16q	—	W3層	090217	ウシクウマ?	肋骨	左	背側端	1		
2TM08Ab	9C16q	—	W3層	090217	ウシクウマ?	不明	不明	破片	5		
2TM08Ab	9C12q~r	—	W3層	090216	ウマ?	臼歯	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C12q~r	—	W3層	090216	硬骨魚綱	不明	不明	破片	8		
2TM08Ab	9C12q~r	—	W3層	090216	硬骨魚綱	椎骨	—	半欠	2		
2TM08Ab	9C4q~4r	—	検出4(検出中)	081209	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C9r	—	検出4(検出中)	090206	哺乳綱	長骨	不明	骨端破片	1		
2TM08Ab	9C18q	—	W1層	090212	哺乳綱	不明	不明	破片	3		
2TM08Ab	9C14p~14r	—	W3層	090217	フジツボ類	殻	—	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C18o	—	W3層	090216	スカシカシパン	殻	—	破片	1		
2TM08Ab	9C18o	—	W3層	090216	硬骨魚綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C9q	—	検出1	081118	ウマ	寛骨	左	寛骨白	1		
2TM08Ab	9C15p	—	W1層	090210	スカシカシパン	殻	—	破片	1		
2TM08Ab	9C20q	—	V3層(アゼ)	090206	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	W3層	090216	シカ	中節骨	不明	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C13q	—	W3層	090216	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C20p~20q	—	V4層(上層)	090204	硬骨魚綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C5q~5r	—	検出4(検出中)	081209	哺乳綱	不明	不明	破片	5		
2TM08Ab	9C19q	—	V5層	090205	スカシカシパン	殻	—	破片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	W5層	090219	フグ科	前上顎骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C13q	—	W5層	090219	インガメ科	腹甲	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	W5層	090219	哺乳綱	不明	不明	破片	4		
2TM08Ab	9C17o~17p	—	W3層	090216	哺乳綱	不明	不明	破片	3		
2TM08Ab	9C19p	—	W3層	090216	シカ	中節骨	不明	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C20q	—	V4層(F)	090209	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	2		
2TM08Ab	9C19q	—	V2層(上層)	090204	哺乳綱	椎骨	—	破片	1		
2TM08Ab	9C18q	—	検出4	090202	哺乳綱	椎骨	—	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C18q	—	検出4	090202	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C19q	—	V2層(下層)	090204	ウニ綱?	殻	—	破片	6		
2TM08Ab	9C19q	—	V2層(下層)	090204	哺乳綱	不明	不明	破片	3		
2TM08Ab	9C7q~7r	—	W2層	090209	哺乳綱	頭蓋骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C7q~7r	—	W2層	090209	哺乳綱	胸椎	—	半欠	1		
2TM08Ab	9C7q~7r	—	W2層	090209	哺乳綱	肋骨	不明	破片	2		切削
2TM08Ab	9C20p~20q	—	V3~V4層	090204	哺乳綱	不明	不明	破片	1		

表 27-4 08 調査区出土動物遺体

調査区	グリッド	遺構	層位など	日付	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考	14C年代
2TM08Ab	9C16q~16r	—	検出4(清掃中)	090129	イヌ	上腕骨	右	近位端	1		
2TM08Ab	9C15q	—	W2層	090210	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	2		
2TM08Ab	9C19p~19q	—	検出1	081114	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C13p	—	旧調査区内	081125	イシガモ科	腹甲	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C20p~20q	—	検出1	081114	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C18q	—	検出1	081114	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	2		
2TM08Ab	9C18q	—	客土2	081125	イヌ	脛骨	右	近位端	1		
2TM08Ab	9C18q	—	客土2	081125	哺乳綱	長骨	不明	骨幹	1		
2TM08Ab	9C18q	—	客土2	081125	哺乳綱(海獣)	頭蓋骨	—	破片	1		
2TM08Ab	9C20q	—	V4層(上)	090205	哺乳綱	頸椎	—	半欠	1		
2TM08Ab	9C8q	—	検出1	081118	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C7r	—	I層	081209	シカ?	角?	不明	破片	1	加工による平坦面	
2TM08Ab	9C9p~9q	—	B層	090128	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C8q	—	B層	081209	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C7q	—	検出1	081118	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C16q~16r	—	検出1	081114	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C6r	1002SD	—	081210	ウマorクシ	長骨	不明	近位端	1		
2TM08Ab	9C6r	1002SD	—	081210	哺乳綱	椎骨	—	椎弓	1		
2TM08Ab	9C7r	1002SD	—	081210	哺乳綱	頭蓋骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C6r	1002SD	—	081210	哺乳綱	頭蓋骨?	不明	破片	3		
2TM08Ab	9C6r	1002SD	—	081210	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	2		
2TM08Ab	9C7r	1002SD	—	081210	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C6r	1002SD	—	081210	哺乳綱	不明	不明	破片	3		
2TM08Ab	9C9r	1005SZ	—	090119	硬骨魚綱	舌顎骨	右	完存	1		
2TM08Ab	9C9r	1005SZ	—	090119	硬骨魚綱	不明	不明	破片	3		
2TM08Ab	9C9r	1005SZ	—	090119	ヒト	末節骨	不明	完存	1		
2TM08Ab	9C9r	1005SZ	—	090119	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C9r	1005SZ	—	090119	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C9r	1005SZ	—	090119	哺乳綱	肋骨	不明	背側端	2	小〜中型破損で4破片	
2TM08Ab	9C14g	1007SX	—	090205	硬骨魚綱	尾椎	—	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C14g	1010SX	—	090204	カメ類?	甲羅?	不明	破片	1	棘皮動物?	
2TM08Ab	9C14q	1015SI	清掃中	090226	イタチ科?	肩甲骨	左	関節窩	1		
2TM08Ab	9C14q	1015SI	清掃中	090226	イタチ科?	尺骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C14q	1015SI	清掃中	090226	イタチ科?	椎骨	—	破片	2		
2TM08Ab	9C15q	1015SI	—	090305	ウマ	中手骨	左	遠位端	1	Bd:4.43mm	PLD-24024
2TM08Ab	9C14q	1015SI	清掃中	090226	クロダイ属	方骨	右	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	1015SI	清掃中	090226	クロダイ属	角骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C14q	1015SI	清掃中	090226	クロダイ属	主上顎骨	右	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	1015SI	清掃中	090226	クロダイ属	歯骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C14q	1015SI	—	090304	硬骨魚綱	顎骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C15q	1015SI	—	090305	シカ	上顎後臼歯	右	遊離歯	1	近遠心径:18.0mm, 頬舌径:16.4mm	PLD-24012
2TM08Ab	9C15q	1015SI	—	090305	鳥綱	長骨	不明	骨幹	2		
2TM08Ab	9C15q	1015SI	南西	090223	フグ科	前鰓蓋骨	左	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	1015SI	清掃中	090226	哺乳綱	手根or足根骨	不明	完存	1		
2TM08Ab	9C15q	1015SI	—	090305	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	3		
2TM08Ab	9C15q	1015SI	—	090305	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08Ab	9C15q	1015SI	清掃中	090226	哺乳綱	椎骨	—	椎体	1		
2TM08Ab	9C15p~q	1015SI	アゼ①	090223	哺乳綱	椎骨?	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C15q	1015SI	—	090305	哺乳綱	不明	不明	破片	19		
2TM08Ab	9C14q	1015SI	清掃中	090226	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C14q	1017SI	北西	090309	ウニ綱?	咀嚼器?	不明	破片	1	裸混ざる	
2TM08Ab	9C15q	1017SI	—	090304	カエル目	上腕骨	右	遠位端	1		
2TM08Ab	9C15q	1017SI	—	090304	カエル目	脛腓骨	左	骨幹	1		
2TM08Ab	9C15q	1017SI	—	090304	カエル目	脛腓骨	右	骨幹	1		
2TM08Ab	9C15q	1017SI	—	090304	カエル目	大腸骨	不明	骨幹	1		
2TM08Ab	9C15q	1017SI	—	090304	カエル目	腸骨	左	破片	1		
2TM08Ab	9C15q	1017SI	—	090304	カエル目	腸骨	右	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	1017SI	埋土②	090312	カメ類?	甲羅?	不明	破片	30	棘皮動物?	
2TM08Ab	9C15q	1017SI	南東	090309	カメ類?	甲羅?	不明	破片	8		
2TM08Ab	9C14q	1017SI	埋土②	090312	硬骨魚綱	棘	—	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C15q	1017SI	トレンチ	090304	硬骨魚綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C15q	1017SI	南東	090309	硬骨魚綱	棘	—	完存	1		
2TM08Ab	9C15q	1017SI	南東	090304	硬骨魚綱	棘	—	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C14q	1017SI	南東	090309	硬骨魚綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	1017SI	南東	090309	タイ科?	鱗	不明	完存	1		
2TM08Ab	9C14q	1017SI	北西	090309	フグ科?	前鰓蓋骨	左	半欠	1		
2TM08Ab	9C14q	1017SI	埋土①	090312	哺乳綱	中手or中足骨?	不明	ほぼ完存	1	d-377	
2TM08Ab	9C15q	1017SI	—	090304	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C17o	1018SX	粘土内	090305	カメ類?	甲羅?	不明	破片	1	棘皮動物?	
2TM08Ab	9C17o	1018SX	粘土内	090305	硬骨魚綱	方骨	左	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C17o	1018SX	粘土内	090305	硬骨魚綱	方骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C17o	1018SX	粘土内	090305	硬骨魚綱	角骨	左	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C17o	1018SX	粘土内	090305	硬骨魚綱	棘	—	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C17o	1018SX	粘土内	090305	硬骨魚綱	腹椎	—	椎体	1		
2TM08Ab	9C17o	1018SX	粘土内	090305	硬骨魚綱	尾椎	—	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C17o	1018SX	粘土内	090305	硬骨魚綱	尾部棒状骨	—	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C17o	1018SX	粘土内	090305	硬骨魚綱	不明	不明	破片	11		
2TM08Ab	9C17o	1018SX	粘土内	090305	スズキ目	口蓋骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C17o	1018SX	粘土内	090305	フグ科	歯骨・角骨	左	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C17o	1018SX	粘土内	090305	フグ科	前鰓蓋骨	左	ほぼ完存	3		
2TM08Ab	9C17o	1018SX	粘土内	090305	フグ科	前上顎骨	右	半欠	1		
2TM08Ab	9C16q	1020SI	下層,南東	090310	ヒト?	頭蓋骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C16q	1020SI	W4層	090309	硬骨魚綱	椎骨	—	椎体	2		
2TM08Ab	9C16q	1020SI	W4層	090309	硬骨魚綱	不明	不明	破片	4		
2TM08Ab	9C16q	1020SI	W4層	090309	硬骨魚綱	主鰓蓋骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C16q	1020SI	W4層	090309	二枚貝綱	殻	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C16q	1020SI	W4層	090309	フグ科	前上顎骨	左	完存	1		
2TM08Ab	9C16q	1020SI	W4層	090309	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C15q	1020SI	W4層	090309	マガキ?	殻	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	1021SI	埋土②	090311	硬骨魚綱?	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	1021SI	埋土②	090311	硬骨魚綱	顎骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	1021SI	南東	090309	硬骨魚綱	顎骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C13q	1021SI	北東	090309	哺乳綱	胸椎	—	ほぼ完存	1	イヌ?	
2TM08Ab	9C13q	1021SI	埋土②	090311	哺乳綱	歯	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C13q	1021SI	埋土②	090311	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C11r	1022SK	清掃中	090311	硬骨魚綱	棘	不明	破片	1	裸混ざる	
2TM08Ab	9C11r	1022SK	—	090310	哺乳綱	不明	不明	破片	10	炭焼混ざる	
2TM08Ab	9C11r	1022SK	清掃中	090311	哺乳綱	不明	不明	破片	1	頭蓋骨?	
2TM08Ab	9C11r	1023SK	南半	090310	硬骨魚綱	不明	不明	破片	3		
2TM08Ab	9C11r	1023SK	南半	090310	硬骨魚綱	顎骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C16q	1026SI	—	090311	イヌ	距骨	左	完存	1	GL:26.0mm	PLD-24004
2TM08Ab	9C16q	1026SI	—	090311	イヌ	脛骨	左	遠位端	1		
2TM08Ab	9C16q	1026SI	—	090311	イヌ	腓骨	左	遠位端	1		
2TM08Ab	9C16q	1026SI	—	090311	イヌ?	指骨?	不明	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C16q	1026SI	—	090311	硬骨魚綱	椎骨	—	椎体	1		
2TM08Ab	9C16q	1026SI	—	090311	硬骨魚綱	歯?	不明	不明	1		
2TM08Ab	9C16q	1026SI	—	090311	硬骨魚綱	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C16q	1026SI	—	090311	硬骨魚綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C16q	1026SI	—	090311	哺乳綱	肋骨	不明	破片	15	切創あるもの含む	
2TM08Ab	9C16q	1028SI	南西	090312	ガンカモ科	肩甲骨	左	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C16q	1028SI	南西	090312	ガンカモ科	尺骨	左	遠位端	1		

表 27-5 08 調査区出土動物遺体

調査区	グリッド	遺構	層位など	日付	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考	14C年代
2TM08Ab	9C16q	1028SI	南西	090312	ガンカモ科	股足根骨?	左	遠位端	1		
2TM08Ab	9C16q	1028SI	アゼ	090312	鳥綱	四肢骨?	不明	不明	1		
2TM08Ab	9C15q	1030SI	—	090316	哺乳綱	椎骨	—	破片	1		
2TM08Ab	9C15q	1031SX	下層	090318	カメ類?	腹甲?	不明	破片	1	大型 棘皮動物? 藻泥さる	
2TM08Ab	9C15q	1031SX	下層	090318	硬骨魚綱?	不明	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C15q	1031SX	下層	090318	硬骨魚綱?	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	8C12s	—	検2-2	081110	ウナギ目?	歯骨	右	半欠	1		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	エイ・サメ類	椎骨	—	椎体	1		
2TM08Ab	8C12s	—	検2-2	081110	エイ類	歯板	—	完存	2		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	カニ類	ソメ	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	カメ類?	甲羅?	不明	破片	9	棘皮動物?	
2TM08Ab	9C13q	—	W2層	090210	硬骨魚綱	鱗	—	破片	1		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	硬骨魚綱	角骨	右	破片	1		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	硬骨魚綱	椎骨	—	椎体	4		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	硬骨魚綱	鱗	—	破片	2		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	硬骨魚綱	不明	不明	破片	16		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	硬骨魚綱	主総蓋骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	タイ科	歯骨	左	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C14g	—	T層	090203	二枚貝綱	殻	不明	破片	2		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	フグ科	歯骨	左	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	フグ科	歯骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	フグ科	前総蓋骨	右	半欠	1		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	フグ科	前上顎骨	左	ほぼ完存	2		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	フグ科	前上顎骨	右	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	フジツボ類	—	—	破片	28		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	フネガイ科	殻	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	不明	不明	不明	破片	9		
2TM08Ab	9C10p~10q?	—	L1層	081212	哺乳綱	頭蓋骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14g	—	T層	090203	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	8C8t	—	G層	081118	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C13q	—	DOT258(一括)	090206	哺乳綱	肋骨	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14g	—	T層	090203	マガキ	殻	左	殻頂	1		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	マガキ	殻	不明	破片	4		
2TM08Ab	9C20q	—	W4層	090213	マガキ	殻頂	左	破片	2		
2TM08Ab	9C14g	—	T層	090203	マガイ	上後頭骨	—	ほぼ完存	1		
2TM08Ab	9C14g	—	T層	090203	メジロザメ科	歯	不明	完存	1		
2TM08Ab	8D2b	012SX	南半	081211	動物ではない	鉄器	—	—	—	d-130	
2TM08Ab	9C15r	跡か	北端東西トレンチ	081208	動物ではない	—	—	—	—	d-126	
2TM08Ab	9C15p	—	M3層	081218	動物ではない	岩石	—	—	—	DOT153	
2TM08Ab	9C14q	1007SX	—	090226	哺乳綱	中手骨or中足骨	不明	ほぼ完存,砂付着	2	DOT342	
2TM08Ab	9C15q	1015SI	—	090226	哺乳綱	不明	不明	破片	3	DOT337	
2TM08Ab	9C15q	1015SI	—	090226	哺乳綱	不明	不明	破片	1	DOT339	
2TM08Ab	9C11r	—	北端東西トレンチ	081208	イヌ	下顎骨	右	完存	1	d-125, Id-Goc:122.2mm, Cr-Gov:49.3mm	PLD-24008
2TM08Ab	9C8r	—	I層	081209	イヌ	寛骨	右	寛骨臼	1	DOT127	
2TM08Ab	9C8r	—	I層	081209	イヌ	大腿骨	右	近位端	1	DOT127	
2TM08Ab	9C8r	—	I層	081209	イヌ	腹椎	—	ほぼ完存	1	DOT127	
2TM08Ab	9C8r	—	I層	081209	イヌ?	椎骨	—	破片	6	DOT127	
2TM08Ab	9C8r	—	I層	081209	イヌ?	長骨	不明	破片	12	DOT127	
2TM08Ab	9C15p	—	O層	081224	イヌ?	椎骨	—	ほぼ完存	1	DOT176	
2TM08Ab	9C14q	—	W3層	090226	イノシシ	下顎骨	左	下顎体破片	1	M3未萌出, DOT340	
2TM08Ab	9C14q,15q,15r,15p,15t	—	W3層	090223	ウシ	肩甲骨	右	肩甲骨	1	d-328	
2TM08Ab	9C7r	—	I層	081210	ウシ	上腕骨	左	遠位端~骨幹	1	DOT129	
2TM08Ab	9C11r	—	—	090206	ウシ?ウマ?	頸椎	—	ほぼ完存	1	d-298	
2TM08Ab	9C13q	—	T層	090203	ウシ?ウマ?	上腕骨?	不明	骨幹破片	1	DOT250	
2TM08Ab	9C15q	—	T層	090203	ウマ	後頭骨	—	破片	1	d-254	
2TM08Ab	9C11r	—	—	090206	ウマ	下顎骨	左	吻部欠く	1	d-299	
2TM08Ab	9C7r	—	北端東西トレンチ	081208	ウマ	下顎骨	右	吻部と後端欠く	1	d-120, Cr-Gov:225mm	PLD-24030
2TM08Ab	8C15s	—	C層	081226	ウマ	肩甲骨	右	肩甲骨	1	d-177, GLP:76.3mm	PLD-24031
2TM08Ab	9C16o	—	S23層	090206	ウマ	中足骨	左	近位端~骨幹	1	d-267, Bp:47.1mm	PLD-24032
2TM08Ab	9C16p	—	S23層	090206	ウマ	中足骨	左	骨幹破片	1	d-268	
2TM08Ab	9C8r	—	I層	081210	ウマ	椎骨	左	近位端~骨幹	1	DOT128, Bp:67.1mm	
2TM08Ab	9C15q	—	T層	090203	ウマ?	不明	不明	破片	1	d-254	
2TM08Ab	9C14q	—	T層	090123	スカシカシバン	殻	—	破片	1	DOT186	
2TM08Ab	9C13q	—	T層	090123	カメ目	腹甲	不明	破片	1	DOT187	
2TM08Ab	9C14q	—	下層	090203	シカ	肩甲骨	右	肩甲骨	1	d-253, GLP:38.8mm	PLD-24017
2TM08Ab	9C15q	—	T層	090204	シカ	未肋骨	不明	ほぼ完存	1	d-247	
2TM08Ab	9C11p	—	O層	090108	シカ?	脛骨	右	骨幹	1	DOT182	
2TM08Ab	8D4a	—	H層	081212	ネコ	大腿骨	右	完存	1	d-135, GL:110.1mm, Bp:22.0mm, Bd:19.3mm	
2TM08Ab	9C15q	—	—	090216	哺乳綱	不明	不明	破片	1	d-321	
2TM08Ab	9C14p	—	—	090122	哺乳綱	不明	不明	破片	1	DOT194	
2TM08Ab	8D4a	—	H層	081212	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08Ab	9C14q	—	T層	090123	哺乳綱	不明	不明	破片	1	DOT186	
2TM08Ab	9C15q	—	K層下砂層	081216	哺乳綱	不明	不明	破片	1	DOT146	
2TM08Ab	9C8r	—	I層	081209	哺乳綱	不明	不明	破片	2	DOT127	
2TM08Ab	9C14q	1017SI	埋土①	090312	スカシカシバン	殻	—	破片	2	d-378, 1/2片と小片	
2TM08Ab	9C11r	1022SK	—	090310	ウマ	胸椎	—	ほぼ完存	1	DOT368	
2TM08Ab	9C11r	1022SK	—	090310	ウマ	胸椎	—	ほぼ完存	1	DOT369	
2TM08Ab	9C11r	1022SK	—	090310	ウマ	距骨	右	完存	1	DOT364, GL:108.2mm	PLD-24417
2TM08Ab	9C11r	1022SK	—	090316	ウマ	脛骨	右	近位端~骨幹	1	DOT370, Bp:88.0mm	
2TM08Ab	9C11r	1022SK	—	090310	ウマ	肋骨	右	背側端	1	DOT365	
2TM08Ab	9C16q	1028SI	内	090312	イヌ	全身	—	1体分	1	d-372, 現代	
2TM08Ab	9C14q	1030SI	—	090317	ウシ	下顎骨	左	ほぼ完存	1	DOT383, Cr-Gov:19.2mm, M2萌出中, M3未萌出, 乳歯	PLD-24034
2TM08Ab	9C14q	1030SI	—	090317	カメ目	腹甲	不明	破片	1	DOT382	
2TM08Ab	9C16p	—	W3層	090305	ウシ?ウマ?	頸椎	—	ほぼ完存	2	DOT361, 連開	
2TM08Ab	9C15q	—	—	090305	ウマ	中足骨	左	ほぼ完存	1	DOT360, GL:263mm, Bd:43.6mm	PLD-24171
2TM08Ab	—	—	調査区東壁調査中	090321	ウマ	胸椎	—	ほぼ完存	1	DOT398	
2TM08Ab	—	—	調査区東壁調査中	090321	ウマ	仙椎	—	ほぼ完存	1	DOT398, GL:211mm	PLD-24033
2TM08B	10C14o	2004SX	—	090321	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	2		
2TM08B	10C14m	2004SX	下層(ベルト部)	090226	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08B	10C14o	2004SX	南東	090209	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08B	10C15n	2005SD	—	090209	硬骨魚綱	椎骨	—	椎体	1		
2TM08B	10C15n	2005SD	—	090209	硬骨魚綱	不明	不明	破片	1		
2TM08B	10C15o	2005SD	—	090209	シカ	大腿骨	左	近位端	1	痕(黒色)	
2TM08B	10C15m	2005SD	—	090209	哺乳綱	椎骨?	—	破片	1		
2TM08B	10C15n	2005SD	—	090209	哺乳綱	肋骨	不明	破片	1		
2TM08B	10C15n	2005SD	—	090219	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08B	10C10p	2006SD	—	090304	哺乳綱	長骨	不明	破片	1		
2TM08B	10C10p	2006SD	—	090304	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08B	10C10o, 10C10p-一括	2006SD	—	090305	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08B	10C14o	2007SD	—	090309	カエル目	四肢骨	不明	骨幹	1		
2TM08B	10C14o	2007SD	—	090309	フジツボ類	殻	—	破片	1		
2TM08B	10C17n	2010SK	北側	090311	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	2		
2TM08B	10C15o	2020SK	北半	090316	シカ	肩甲骨	左	半欠, 肩甲骨	1	HS:178.8mm, GLP:38.8mm	PLD-24014
2TM08B	10C15o	2020SK	北半	090316	シカ	中肋骨	不明	ほぼ完存	1	痕(黒色)	
2TM08B	2020SK	東西トレンチ	—	090326	スズキ属	主総蓋骨	左	—	1		
2TM08B	10C15o	2020SK	貝層	090324	マガイ	脛骨棘	—	破片	1		
2TM08B	10C15o	2020SK	貝層	090324	硬骨魚綱	椎骨	—	椎体	2		
2TM08B	10C16o	2020SK	南側	090318	硬骨魚綱	舌顎骨	不明	ほぼ完存	1		
2TM08B	10C15o	2020SK	—	090312	哺乳綱	頭蓋骨	不明	破片	6		
2TM08B	10C15o	2020SK	—	090312	哺乳綱	肋骨	不明	破片	2		

表 27-6 08 調査区出土動物遺体

調査区	グリッド	遺構	層位など	日付	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考	14C年代
2TM08B	10C15o	2020SK	—	090312	哺乳綱	不明	不明	破片	+		
2TM08B	10C15o	2020SK	—	090312	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08B	10C15o	2020SK	—	090323	哺乳綱	肋骨	不明	破片	1		
2TM08B	10C16o	2020SK	南側	090318	哺乳綱	肋骨	左	骨髄端	1		
2TM08B	—	2020SK	東西トレンチ	090326	哺乳綱	長骨	不明	骨幹	1	焼(黒色)	
2TM08B	10C16o	2020SK	南側	090318	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08B	—	2020SK	東西トレンチ	090326	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08B	10C15o	2020SK	—	090323	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08B	10C15O	2020SK	南東部	090326	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08B	10C16o	2020SK	南側	090318	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08B	10C15o	2020SK	貝層	090324	哺乳綱	肋骨	不明	破片	1	小型	
2TM08B	10C15o	2020SK	貝層	090324	哺乳綱	不明	不明	破片	9		
2TM08B	10C15o	2020SK	貝層	090324	鳥綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08B	10C18n	2022SX	—	090323	ウシ?ウマ?	上腕骨or大腿骨	骨髄	破片	2		
2TM08B	10C18n	2022SX	—	090323	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08B	10C18n	2022SX	—	090321	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08B	10C19o	2023SD	—	090321	哺乳綱	頭蓋骨	不明	破片	1		
2TM08B	10C16n・16o	2024SI	北半	090323	イヌ	尺骨	右	近位端	1	DPA:18.1mm	PLD-24009
2TM08B	10C17o	2024SI	南半	090323	シカ	上腕骨	右	遠位端	1		
2TM08B	10C17o	2024SI	南半	090323	哺乳綱	不明	不明	破片	9		
2TM08B	10C17o	2024SI	南半	090323	哺乳綱	指骨	不明	完存	1	小型	
2TM08B	10C17n	2025SI	北半	090319	イノシシ	上腕骨	左	遠位端	1	焼?白色,亀裂	
2TM08B	10C17n	2025SI	南半	090319	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08B	9C16n	2025SI,2009SI(ベルト)	土層④の4)	090325	哺乳綱	長骨	不明	近位端破片	3		
2TM08B	9C16n	2025SI,2009SI(ベルト)	土層④の①)	090325	哺乳綱	不明	不明	破片	3		
2TM08B	10C18n	2026SI	—	090321	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08B	10C18n	2026SI	—	090321	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08B	10C15n	2028SI	東西ベルト	090325	ヒト?	長骨	不明	骨幹破片	3	土層⑦)	
2TM08B	10C15n	2028SI	西半	090319	哺乳綱	上腕骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08B	10C14n,15n	2028SI	—	090321	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1	焼(黒色)	
2TM08B	10C5n	2028SI	東西ベルト	090325	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1	土層②)	
2TM08B	10C15o	2028SI	—	090321	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08B	10C15o	2028SI	土器集中部	090321	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08B	10C15n	2028SI	西半	090319	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	2		
2TM08B	10C15n	2028SI	西半	090319	哺乳綱	不明	不明	破片	3		
2TM08B	10C14o	2028SI	ベルト	090321	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08B	10C18n,18o	2041SI	北部	090325	シカ	臼歯	不明	破片	1		
2TM08B	10C18n,18o	2041SI	北部	090325	哺乳綱	下顎骨or上顎骨	不明	破片	1		
2TM08B	10C18n	2041SI	北部	090326	哺乳綱	肩甲骨or肋骨	不明	破片	1		
2TM08B	10C18n,18o	2041SI	北部	090325	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08B	10C18n	2041SI	カマド一括	090327	鳥綱	腸骨	不明	骨幹破片	1	針状	
2TM08B	10C18n	2041SI	北部	090326	硬骨魚綱	不明	不明	破片	2		
2TM08B	10C16o	—	東壁沿い南北トレンチ	090316	イノシシ	中肋骨	不明	完存	1	焼(黒色)	
2TM08B	10C10o	—	カクラン	090116	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1		
2TM08B	10C15o	2005SD	—	090210	哺乳綱	不明	不明	破片	1	d-1056	
2TM08B	10C10p	2006SD内(東)	—	090304	ウマ	距骨	左	完存	1	d-1187,GH:54.4mm,GB:55.5mm	PLD-24027
2TM08B	10C17n	201ESP	—	090317	ヒト	脛骨	右	骨幹	1	d-1302	
2TM08B	10C17n	201ESP	—	090323	ヒト	大腿骨	左	骨幹	1	d-1440	
2TM08B	10C15n	2020SK	—	090319	シカ	大腿骨	左	近位端	1	d-1336,焼,近位端未癒合	
2TM08B	10C18n	2022SX	—	090321	ウシ	脛骨	右	骨幹	1	d-1376	
2TM08B	10C18n	2022SX	—	090321	ウシ	大腿骨	右	骨幹破片	1	d-1369	
2TM08B	10C18n	2022SX	—	090321	ウシ	中足骨	右	近位端~骨幹	1	d-1359,Bp:44.0mm	PLD-24023
2TM08B	10C18n	2022SX	—	090321	ウシ?	上腕骨or大腿骨	不明	骨幹破片	1	d-1368	
2TM08B	10C18n	2022SX	—	090321	ウシ?	長骨	不明	骨幹破片	6	d-1369	
2TM08B	10C18n	2022SX	—	090321	ウシ?ウマ?	長骨	不明	骨幹破片	1	d-1360	
2TM08B	10C18n	2022SX	—	090321	ウマ	大腿骨	右	近位端骨頭破片	1	d-1356	
2TM08B	10C18n	2022SX	—	090321	ウマ	脛骨	右	遠位端~骨幹	1	d-1358,Bd:64.5mm	PLD-24026
2TM08B	10C18n	2022SX	—	090321	ウマ	脛骨	左	骨幹	1	d-1370	
2TM08B	10C18n	2022SX	—	090321	シカ	距骨	左	ほぼ完存	1	d-1357, GL:36.6mm	PLD-24016
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウシ	肩甲骨	左	肩甲骨	1	d-1433	
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウシ	肩甲骨	右	肩甲骨	1	d-1431, SLC:37.1mm	PLD-24021
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウシ	上腕骨	左	遠位端~骨幹	1	d-1428,遠位端未癒合, Bd:65.5+mm, SD:26.5mm	PLD-24022
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウシ	上腕骨	左	骨幹	1	d-1425	
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウシ	上腕骨	右	遠位端	1	d-1434,遠位端未癒合	
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウシ	桃骨	左	遠位端	1	d-1429,遠位端未癒合,d-1430と同一個体	
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウシ	桃骨	左	骨幹	1	d-1430,遠位端未癒合,d-1429と同一個体	
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウシ	桃骨	右	近位端~骨幹	1	d-1432,遠位端未癒合,d-1439と同一個体	
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウシ	桃骨	右	遠位端	1	d-1439,遠位端未癒合,d-1432と同一個体	
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウシ?	椎骨	—	破片	1	d-1439	
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウシ?	上腕骨?	不明	近位端?破片	1	d-1434,骨端未癒合	
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウシ?	大腿骨	不明	近位端骨頭破片	1	d-1439,近位端未癒合	
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウシ?	大腿骨	右	骨幹	1	d-1427	
2TM08B	10C17o	2024SI	—	090323	ウシ?ウマ?	不明	不明	破片	+	d-1441	
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	ウマ	上腕骨	左	骨幹	1	d-1426	
2TM08B	10C17o	2024SI	—	090326	ウマ	上腕骨	右	骨幹	1	d-1498	
2TM08B	10C18n	2024SI	—	090323	哺乳綱	不明	不明	破片	3	d-1426	
2TM08B	10C18n	2041SI	—	090323	ウシ	脛骨	左	骨幹	1	d-1409	
2TM08B	10C18n	2041SI	—	090323	ウシ	上腕骨	右	遠位端~骨幹	1	d-1414,遠位端未癒合	
2TM08B	10C18n	—	—	090323	アカニシ	股軸	—	破片	1	d-1438	
2TM08B	1C5m	—	覆乱底部	081222	イヌ	下顎骨	左	下顎体	1	d-1006(骨)	
2TM08B	1C5m	—	覆乱底部	081222	イヌ	上顎骨	左	破片	1	d-1006(骨)	
2TM08B	10C18o	—	南北トレンチ	081219	ウシ?	寛骨	不明	破片	1	d-1005	
2TM08B	10C18n	—	—	090323	ウシ?ウマ?	上腕骨or大腿骨	不明	破片	2	d-1438	
2TM08B	10C18n	—	—	090323	ウマ	距骨	左	2/3遺存	1	d-1438	
2TM08B	10C18m	—	第1面精査	090128	ウマ	上腕骨	右	遠位端~骨幹	1	d-1011と1012が接合	
2TM08B	10C18n	—	B-F層(漸移層)	090304	シカ	下顎第1or第2後臼歯	左	遊離歯	1	d-1177	
2TM08B	10C18o	—	B-F層(漸移層)	090304	シカ	上顎後臼歯	左	遊離歯	1	d-1176	
2TM08B	10C18n	—	B-F層(漸移層)	090304	シカ	上顎後臼歯	右	遊離歯	1	d-1175	
2TM08B	10C18n	—	B-F層(漸移層)	090304	シカ	上顎前臼歯	左	遊離歯	1	d-1181	
2TM08B	10C19n	—	B-F層	090213	シカ	臼歯	不明	上下不明,遊離歯	1		
2TM08B	10C19n	—	B-F層	090213	シカ	肩甲骨	右	肩甲骨	1		
2TM08B	10C18o	—	B-4層	090316	シカ	中手骨	左	遠位端	1		
2TM08B	10C18o	—	B-4層	090316	哺乳綱	不明	不明	破片	1		
2TM08B	10C18o	—	B-4層	090316	シカ	踵骨	左	ほぼ完存	1		
2TM08B	10C18m	—	B-4層	090321	イヌ	尺骨	左	近位端	1	DPA:18.0mm, SDO:18.7mm, LO:24.1mm	PLD-24007
2TM08B	10C17n	—	B-下層漸移層	090302	哺乳綱	不明	不明	破片	2		
2TM08B	10C17n	—	B-下層ゼンイ層	090302	鳥綱	不明	不明	破片	1		
2TM08B	10C17n	—	B-下層ゼンイ層	090302	シカ	下顎第3後臼歯	左	遊離歯	1		
2TM08B	10C18n・18o	—	B-4層	090312	哺乳綱	不明	不明	破片	+		
2TM08B	10C18n・18o	—	B-4層	090312	シカ	脛骨	左	遠位端	1		
2TM08B	10C18m・18o	—	B-1層	090311	シカ	踵骨	右	半欠	1		
2TM08B	10C18m・18o	—	B-1層	090311	哺乳綱	長骨	不明	破片	2		
2TM08B	10C18m・18o	—	B-1層	090311	ウシ	上顎第1後臼歯	左	ほぼ完存,遊離歯	1		
2TM08B	10C9o・9p	—	カクラン(アゼ沿い)	090127	ウシ	上顎第2後臼歯	左	ほぼ完存,遊離歯	1		
2TM08B	10C9o・9p	—	カクラン(アゼ沿い)	090127	ウシ	上顎第3後臼歯	左	ほぼ完存,遊離歯	1		
2TM08B	10C9o・9p	—	カクラン(アゼ沿い)	090127	シカ	距骨	左	完存	1		
2TM08B	10C10o	—	北端東西トレンチ	090121	ウマ	上顎第2前臼歯	右	ほぼ完存,遊離歯	1		
2TM08B	10C10o	—	南北トレンチ(B-H-O層)	090316	ウマ	下顎第3後臼歯	左	ほぼ完存,遊離歯	1		

表 28 1988 年度調査区の埋葬犬

調査区	グリッド	遺構	層位など	日付	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考	14C年代
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	頭蓋骨(頬骨)	右	破片	1		
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	下顎骨	左	完存	1	ld-Goc:113.8mm, Cr-Gov:45.3mm	
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	尾椎	—	完存	7		
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	肋骨	不明	破片	+		PLD-24002
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	中手骨(第2)	右	完存	1		
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	中手骨(第3)	右	完存	1		
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	中手骨(第4)	右	完存	1		
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	中手骨(第5)	右	完存	1		
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	肩甲骨	右	破片	2		
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	寛骨	右	腸骨~座骨	1	GL:117.7+mm, LA:17.0mm	
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	大腿骨	右	遠位端	1	Bd:24.6mm	
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	距骨	左	完存	1		
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	足根骨	左	完存	9		
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	指骨(前後不明)	不明	完存	12		
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	不明	不明	破片	1		
2TM63		埋葬犬		890311	イヌ	一括土ごと保存	—	上記以外の部位	一体分		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	頭蓋骨	—	ほぼ完存	1	A-Pr:152.8mm, Pr-B:136.3mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	下顎骨	左	完存	1	ld-Goc:114.2mm, Cr-Gov:43.9mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	下顎骨	右	ほぼ完存	1	ld-Goc:109.9+mm, Cr-Gov:44.8mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	環椎	—	半欠	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	軸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第3頸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第4頸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第5頸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第6頸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第7頸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第1胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第2胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第3胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第4胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第5胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第6胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第7胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第8胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第9胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第10胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第11胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第12胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第13胸椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第1腰椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第2腰椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第3腰椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第4腰椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第5腰椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第6腰椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	第7腰椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	仙椎	—	ほぼ完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	尾椎	—	完存	5		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	肋骨	不明	破片	+		PLD-24003
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	肩甲骨	左	ほぼ完存	1	HS:99.5+mm, GLP:21.8mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	肩甲骨	右	ほぼ完存	1	HS:100.4+mm, GLP:21.9mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	上腕骨	左	完存	1	GL:124.3mm, Bp:22.0mm, Bd:24.8mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	上腕骨	右	完存	1	GL:124.1mm, Bp:22.5mm, Bd:23.8mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	橈骨	左	近位端	1	Bp:14.5mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	橈骨	右	完存	1	GL:118.8mm, Bp:14.3mm, Bd:18.8mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	尺骨	左	近位端	1	DPA:18.2mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	尺骨	右	完存	1	GL:140.3mm, DPA:18.3mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	中手骨(第3)	左	完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	中手骨(第2)	右	完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	中手骨(第3)	右	完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	中手骨(第5)	右	完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	寛骨	左	腸骨~座骨	1	LA:17.0mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	大腿骨	左	完存	1	GL:133.0mm, Bp:30.2mm, Bd:24.2mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	大腿骨	右	完存	1	GL:132.3mm, Bp:30.1mm, Bd:23.5mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	脛骨	左	近位端	1	Bp:25.9mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	脛骨	右	完存	1	GL:135.9mm, Bp:25.8mm, Bd:17.1mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	腓骨	左	完存	1	GL:124.4mm	
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	腓骨	右	骨幹	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	踵骨	右	完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	距骨	右	完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	足根骨	右	完存	8		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	中足骨(第2)	右	完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	中足骨(第3)	右	完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	中足骨(第4)	右	完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	中足骨(第5)	右	完存	1		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	指骨(前後不明)	不明	完存	19		
2TM63	2G19d	埋葬犬	混貝砂	890322	イヌ	不明	不明	破片	+		

表 29 土壌水洗によるウズマキゴカイ類選別結果

調査区	グリッド	層	遺構	DOT	備考	土重量(g)	陸産微小貝	海産微小貝	ウズマキゴカイ類	ウズマキゴカイ類の個数	ウズマキゴカイ類/土1000g
2TM08Aa	8C10t~8D10a	東西ベルト, No.2, D層	—	—	—	32,500	○	○	△	13	0.40
2TM08Aa	8C10t~8D10a	東西ベルト, No.4, F層	—	—	1/2	ca. 10,000	—	△	—		
2TM08Aa	8C10t~8D10a	東西ベルト, No.4, F層	—	—	2/2	18,000	△	○	—		
2TM08Aa	8C10t~8D10a	東西ベルト, No.5, G層	—	—	—	22,500	△	△	—		
2TM08Aa	8C10t~8D10a	東西ベルト, No.6, H層	—	—	1/2	13,900	△	○	—		
2TM08Aa	8C10t~8D10a	東西ベルト, No.6, H層	—	—	2/2	10,000	△	△	—		
2TM08Aa	8C10t~8D10a	東西ベルト, No.7-1	—	—	—	25,000	△	△	—		
2TM08Aa	8C10t~8D10a	東西ベルト, No.7-2	—	—	—	9,000	△	△	—		
2TM08Aa	8C10t~8D10a	東西ベルト, No.8-1	—	—	—	ca. 10,000	—	△	—		
2TM08Aa	8C10t~8D10a	東西ベルト, No.9-1	—	—	—	ca. 10,000	△	○	—		
2TM08Aa	8C10t~8D10a	東西ベルト, No.9-2	—	—	1/2	8,300	△	△	—		
2TM08Aa	8C10t~8D10a	東西ベルト, No.9-2	—	—	2/2	24,950	△	△	△	2	0.08
2TM08Ab	9C9q	L1層	—	332	ブロックサンプル3	17,700	○	○	—		
2TM08Ab	9C10q	L2層	—	331	ブロックサンプル2	32,800	○	○	△	1	0.03
2TM08Ab	9C12p	Q層	—	336	ブロックサンプル4	14,700	△	△	—		
2TM08Ab	9C12p	Q層	—	336	ブロックサンプル4	ca. 10,000	△	△	—		
2TM08Ab	9C13q	埋土1	1021SI	—	—	6,600	—	—	—		
2TM08Ab	9C13q, 14q	—	1021SI	—	サンプル	7,300	△	—	—		
2TM08Ab	9C13q, 14q	—	1021SI	—	サンプル	5,000	—	△	—		
2TM08Ab	9C14p	S層(上層)	—	355	ブロックサンプル6	21,550	○	◎	—		
2TM08Ab	9C14p	S層(中層)	—	356	ブロックサンプル6	22,000	△	◎	—		
2TM08Ab	9C14p	S層(下層)	—	357	ブロックサンプル6	19,500	○	◎	△	5	0.26
2TM08Ab	9C14p	S層(下層)	—	357	ブロックサンプル6	24,500	○	◎	—		
2TM08Ab	9C14p	S層(下層)	—	357	ブロックサンプル6	16,000	△	◎	—		
2TM08Ab	9C14p	—	1011SX	313	—	29,000	—	△	—		
2TM08Ab	9C14p	—	1013SX	312	—	3,300	△	—	—		
2TM08Ab	9C14q	—	1031SI	396	ブロックサンプル	2,500	○	○	—		
2TM08Ab	9C14q	最下層	1017SI	—	—	5,500	△	△	—		
2TM08Ab	9C14q	床面	1017SI	—	—	5,650	—	—	—		
2TM08Ab	9C14q	Q層	—	327	ブロックサンプル1	19,500	◎	○	—		
2TM08Ab	9C14q	Q層	—	327	ブロックサンプル1	13,050	○	△	—		
2TM08Ab	9C14q	埋土2	1032SK	—	サンプル	6,000	△	△	—		
2TM08Ab	9C15p	—	1012SX	311	—	1,700	—	—	—		
2TM08Ab	9C15q	埋土	1019SX	—	—	6,200	—	△	—		
2TM08Ab	9C17o	S層	—	—	ブロックサンプル7	ca. 10,000	△	◎	—		
2TM08Ab	9C17o	T層	—	358	ブロックサンプル7	19,500	○	◎	△	1	0.05
2TM08Ab	9C17o	T層	—	359	ブロックサンプル7	20,000	△	◎	—		
2TM08Ab	9C18o	—	1018SX	—	—	5,500	△	—	—		
2TM08Ab	9C18o	—	1018SX	—	—	ca. 10,000	○	△	—		
2TM08Ab	9C18o	—	1018SX	—	—	13,850	○	△	—		
2TM08Ab	9C18o	埋土	1018SX	—	—	ca. 10,000	—	—	—		
2TM08Ab	9C18o	埋土	1018SX	—	—	14,500	◎	△	—		
2TM08Ab	9C18o	埋土	1018SX	—	—	ca. 10,000	△	△	—		
2TM08Ab	9C18o	埋土	1018SX	—	—	10,700	○	△	—		
2TM08Ab	9C19q	V2層	—	345	ブロックサンプル5	13,550	△	◎	—		
2TM08Ab	9C19q	V2層	—	345	ブロックサンプル5	15,900	△	◎	—		
2TM08B	10C11o, 12o	東西ベルト, B層	—	—	B.S.No.2	27,500	◎	○	—		
2TM08B	10C11o, 12o	東西ベルト, B層	—	1345	B.S.No.2	ca. 10,000	△	○	—		
2TM08B	10C11o, 12o	東西ベルト, B層	—	1345	B.S.No.2	7,700	△	○	—		
2TM08B	10C13o, 14n, 14o	ベルト, B-D層	2032SI	1380, 1388	B.S.No.3	13,300	△	△	—		
2TM08B	10C13o, 14n, 14o	ベルト, B-D層	2032SI	1380, 1388	B.S.No.3	ca. 10,000	△	△	—		
2TM08B	10C13o, 14n14pベルト, 14m14oベルト	B-D層	—	—	B.S.No.3	ca. 10,000	△	△	—		
2TM08B	10C13o, 14n14pベルト, 14m14oベルト	B-D層	—	—	B.S.No.3	9,500	△	△	—		
2TM08B	10C18m	I2層	—	1416	—	14,000	△	—	—		
2TM08B	10C18n	東西ベルト, I4層	—	1298	B.S.No.1	13,700	—	—	—		
2TM08B	10C18n	東西ベルト, I4層	—	1298	B.S.No.1	169,500	△	△	—		
2TM08B	10C18n	粘土の上側	2041SI	1547	—	2,200	—	—	—		
2TM08B	10C18n	粘土の下側	2041SI	1548	—	1,400	—	—	—		
2TM08B	—	貝層一括	2044SX	—	—	ca. 10,000	○	○	—		
2TM08B	—	貝層	2043SI	—	—	16,500	△	○	—		

◎:多量
○:中量
△:少量

哺乳類では、ウマとシカが多く、ウシとイヌがそれらに次いで多く、その他にイノシシ、ネコ、ヒト、タヌキ?、イタチ科?が見られた。ウマとウシの一部には切創が見られた。シカは焼けや加工痕が見られる破片が複数あった。イノシシも焼けた破片が複数見られた。イヌは埋葬された状態の個体が複数見られた。

哺乳類以外の魚類、鳥類、両生類、爬虫類、甲殻類、フジツボ類などは、食用可能であり、食用

の可能性がある。一方、棘皮動物のスカシカシパンは可食部に乏しいので、食用ではなく、自然に砂浜に打ち上げられた可能性が考えられる。

ウズマキゴカイ類は、数カ所で検出されたが、検出数は堆積物 1kg に対して 1 片未満で、いずれも少ない。ウズマキゴカイ類の中には黒灰色で焼けていると見られるものもあった。なお、海産微小貝の中にも黒灰色で焼けていると見られるものもあった。



写真 13 哺乳類遺体 (1)

1-8. イヌ(1-2: 右下顎骨, 3: 軸椎, 4-5: 肋骨, 7: 右尺骨, 8: 左距骨)、9-10. ネコ(9: 左下顎骨, 10: 左上腕骨)
 11-16. シカ(11: 右前頭骨, 12: 右上顎後臼歯, 13: 左下顎骨, 14: 左肩甲骨, 15: 右肩甲骨, 16: 左距骨)
 17-23. ウシ(17: 左下顎骨, 18: 右下顎骨, 19: 左肩甲骨, 20: 右肩甲骨, 21: 左上腕骨, 22-23: 右中足骨)



写真 14 哺乳類遺体 (2)、ウズマキゴカイ、微小貝

1-11. ウマ (1: 右下顎骨, 2: 仙椎, 3: 左肩甲骨, 4: 右肩甲骨, 5: 左橈骨, 6-7: 左中手骨, 8: 右脛骨, 9: 左距骨, 10: 右踵骨, 11: 左中足骨)、12. ウズマキゴカイ類 13. 微小貝類

第 10 節 松崎遺跡・上浜田遺跡の出土貝類について

1. はじめに

松崎遺跡は、かつては松崎貝塚と言われていたように、遺跡全体に貝層が存在していることが、この遺跡の特徴の一つである。本節では、今回の調査で確認された主に大型の貝類について、種類と出土傾向について報告する。

2. 調査の方法

今回の調査では、掘削した包含層について、約 10mm の大きさですべて篩掛けしたことを報告した。また、遺構内に貝層が認められたものについては、そのまま土壌を取り上げて、0.5mm メッシュを最細として土壌洗浄を行なった。このように回収された貝類は 08Aa 区・08Ab 区・08B 区で 18 リットルコンテナにして 135 箱に及んだ。さらに 12A 区・12B 区・12C 区で出土した資料も加え、各グリッド単位で、層別・遺構別に、貝種および左右を分類し、点数と重量の計測を行なった。

出土傾向をすべて示した調査区は、08Ab 区・08B 区・12A 区・12B 区・12C 区であり、08Aa 区については、一部しか反映できなかった。しかしながら、08Aa 区では包含していた貝の細片化傾向が著しかったことと、回収できた貝がコンテナ計 5 箱程度であったことから、全体の出土傾向を示す点では、問題ないと考えている。

3. 貝類の種類と出土傾向

今回の調査で確認できた貝種について示したのが表 30 で、主要な貝種について層別および遺構別で出土点数および重量を示したものが、表 31 である。主要な貝種について、グリッド別の出土傾向を示したものが、図 200～206 である。全体的な傾向としては、ハマグリ・マガキ・シオフキ・ウミナナ類を主体として、ツメタガイ・サルボウ・イタボガキ・ヤマトシジミ・マテガイなどを包含する様子を見ることができる。

08Ab 区で、時期的変遷を示す典型的な例としては、L4 層・Q 層・T 層・U 層・および 1015SI を挙げることができる。T 層・U 層では、ヤマトシジミとウミナナ類の出土が多くなる傾向にある。マテガイは、Q 層以下で多数出土する傾向があり、特に 1015SI ではマテガイを主体とする貝ブロックが認められた。

08B 区でも出土貝類の傾向は 08Ab 区と同様であるが、マガキの出土は 08Ab 区に比べると密ではない。2007SD の埋土内からは 23,000 点におよぶシオフキの圧倒的多数の出土を確認した。

12B 区 090SK および貝層 1 でも良好な貝類の出土を確認した。ハマグリ・マガキが主体となる傾向に変わりはないが、ツメタガイ・ヤマトシジミ・ウミナナ類の出土も著しく多いことが、この地点の貝層の特徴といえる。



写真 15 松崎遺跡・上浜田遺跡出土貝類 1



写真 16 松崎遺跡・上浜田遺跡出土貝類 2

表 30 松崎遺跡・上浜田遺跡出土貝類一覧

腹足綱

ミミガイ科アワビ類
 リュウテン科サザエ
 リュウテン科スガイ
 タニシ科オオタニシ
 ウミナナ科ウミナナ類
 (イボウミナナ・ホソウミナナ含む)
 タマガイ科ツメタガイ
 アクキガイ科アカニシ
 アクキガイ科イボニシ
 オリイレムシロガイ科アラムシロガイ

斧足綱

フネガイ科サルボウガイ
 フネガイ科ハイガイ
 イガイ科イガイ
 イタヤガイ科イタヤガイ
 ナミマガシワガイ科ナミマガシワガイ
 イタボガキ科イタボガキ
 イタボガキ科マガキ
 シジミガイ科ヤマトシジミ
 マルスダレガイ科ウチムラサキ
 マルスダレガイ科ハマグリ
 マルスダレガイ科カガミガイ
 マルスダレガイ科オキシジミ
 マルスダレガイ科アサリ
 バカガイ科バカガイ
 バカガイ科シオフキガイ
 マテガイ科マテガイ
 エゾオオノガイ科オオノガイ

表 31-1 松崎遺跡・上浜田遺跡出土土主要貝類一覽 1

調査区	遺構・層名	アウビ			サザエ			サザエ蓋		スガイ			スガイ蓋		ウミ	ミ	ニ	ナ	類
		アウビ (個数)	アウビ (重量)	アウビ細片重量	サザエ (個数)	サザエ (重量)	サザエ細片重量	サザエ蓋 (個数)	サザエ蓋 (重量)	スガイ (個数)	スガイ (重量)	スガイ細片重量	スガイ蓋 (個数)	スガイ蓋 (重量)	ウミニナ類 (個数)	ウミニナ類 (重量)	ウミニナ類 (重量)	ウミニナ類 (重量)	ウミニナ類細片重量
08Ab	1002SD														8	12.0			
08Ab	1004SD														1	2.0			
08Ab	1005SZ								3	2.2	19.5				48	26.5		3.0	
08Ab	1006SK														23	9.8		0.3	
08Ab	1007SD																		
08Ab	1009SX																		
08Ab	1011SX																		
08Ab	1015Si														47	31.7		3.3	
08Ab	1016Si														3	4.0			
08Ab	1017Si														3	3.0			
08Ab	1020Si								1	0.3					223	119.4		78.7	
08Ab	1021Si																		
08Ab	1022SK																		
08Ab	1023SK																		
08Ab	1025SK	1	10.0																
08Ab	1026Si								1	0.1					118	61.2		2.8	
08Ab	1028Si							1	10.0						5	5.0			
08Ab	1030Si																		
08Ab	1031SX														22	20.0		1.0	
08Ab	A層																		
08Ab	B層																		
08Ab	B層																		
08Ab	I2層																		
08Ab	I層																		
08Ab	J層																		
08Ab	K1層														15	20.0			
08Ab	K2層1003SK														18	24.0			
08Ab	K層														1	2.0			
08Ab	L2層				1	1.0									141	104.0		0.1	
08Ab	L3層														90	54.0			
08Ab	L4層				6	5.0			6	5.8		1	1.0	802	449.9		6.5		
08Ab	L5層														15	4.7			
08Ab	L層								7	4.9					101	41.5		3.8	
08Ab	M1層																		
08Ab	M3層														5	5.0			
08Ab	M4層																		
08Ab	M5層																		
08Ab	M層																		
08Ab	N層														1	1.0			
08Ab	O層																		
08Ab	P層														4	2.0			
08Ab	Q層				1	1.0			64	62.8	1.9	7	2.7	1467	890.9		36.0		
08Ab	R層														68	62.0			
08Ab	S1層														2	2.0			
08Ab	S2層														1	1.0			
08Ab	S3層																		
08Ab	S4層																		
08Ab	S5層								8	5.5					293	90.6		0.3	
08Ab	S8層														1	1.0			
08Ab	S9層														1	2.0			
08Ab	S10層														4	6.0			
08Ab	S14層														5	10.0			
08Ab	S15層														7	12.0			
08Ab	S20層																		
08Ab	S21層														1	1.0			
08Ab	S23層																		
08Ab	S27層																		
08Ab	S30層														11	18.0			
08Ab	S32層														1	1.0			
08Ab	その他S層														22	8.0			
08Ab	T層		28.0		1	38.0		1	4.0	7	8.0		1	1.0	2713	3069.9		39.2	
08Ab	U層									11	6.8	0.1	1	1.0	2376	2517.1		256.9	
08Ab	V1層									1	1.0				33	23.0			
08Ab	V2層									14	9.0		1	1.0	336	177.0			
08Ab	V3層									11	6.0				74	45.0			
08Ab	V3層~V4層									6	4.0				148	85.1		6.5	
08Ab	V4層														3	3.0			

表 31-2 松崎遺跡・上浜田遺跡出土出土主要貝類一覧 2

調査区	遺構・層名	フトヘナタリ			ツメタガイ			アカニシ			イボニシ			ニシ細片重量	アラムシロ			オオタニシ		
		フトヘナタリ (個数)	フトヘナタリ (重量)	フトヘナタリ細片重量	ツメタガイ (個数)	ツメタガイ (重量)	ツメタガイ細片重量	アカニシ (個数)	アカニシ (重量)	アカニシ細片重量	イボニシ (個数)	イボニシ (重量)	イボニシ細片重量		アラムシロ (個数)	アラムシロ (重量)	アラムシロ細片重量	オオタニシ (個数)	オオタニシ (重量)	オオタニシ細片重量
08Ab	1002SD							9	490.0											
08Ab	1004SD																			
08Ab	1005SZ	2	0.5	0.2	10	47.5		13	59.2	6.0										
08Ab	1006SK						3.5			1.0				1	0.1					
08Ab	1007SD							1	44.0											
08Ab	1009SX																			
08Ab	1011SX																			
08Ab	1015SI	10	6.3		1	4.1	1.1	6	144.0	13.6				6	0.5		1	0.6		
08Ab	1016SI																			
08Ab	1017SI				1	6.0		2	206.0		1	1.0		58.0						
08Ab	1020SI	115	94.1		2	20.1	0.2	3	422.0	27.5										
08Ab	1021SI							1	120.0											
08Ab	1022SK							1	98.0											
08Ab	1023SK							2	104.0											
08Ab	1025SK																			
08Ab	1026SI	7	1.2		5	22.9	2.4	3	24.8	24.5				8	0.8					
08Ab	1028SI							2	6.0					2.0						
08Ab	1030SI																			
08Ab	1031SX	3	3.0		1	2.0		5	4.0	12.0	3	3.0	2.0		2	1.0				
08Ab	AB層																			
08Ab	B層																			
08Ab	B層							2	62.0											
08Ab	I2層									4.0										
08Ab	I層				2	24.0		3	72.0											
08Ab	J層																			
08Ab	K1層				1	52.0		2	104.0	10.0										
08Ab	K2層1003SK																			
08Ab	K層							1	8.0											
08Ab	L2層	24	5.0		5	13.0		8	300.0	30.0	3	1.0		6.0	9	4.0				
08Ab	L3層	7	2.0		6	24.0	9.0							1.0	15	3.0				
08Ab	L4層	59	24.7	0.1	28	127.8	29.1	30	647.9	52.0	12	2.0		257.0	71	8.9				
08Ab	L5層				1	4.5									4	0.6				
08Ab	L層	13	2.4		13	45.4	1.1	9	195.4	44.6	1	1.6		8	0.9	0.1				
08Ab	M1層																			
08Ab	M3層	1	1.0					2	18.0											
08Ab	M4層																			
08Ab	M5層							1	44.0											
08Ab	M層							1												
08Ab	N層							5	340.0											
08Ab	O層																			
08Ab	P層				2	3.0		1	12.0											
08Ab	O層	95	24.8	0.2	112	586.9	66.4	188	2001.6	463.2	15	27.4	0.8	321.5	130	14.4	0.3			
08Ab	R層	9	3.0		11	50.0		5	254.0	42.0	1	2.0		28.0	1	1.0				
08Ab	S1層						2.0													
08Ab	S2層																			
08Ab	S3層																			
08Ab	S4層																			
08Ab	S5層	1	0.2		23	105.0	3.8	15	230.1	62.1	2	0.6		20.6	1	0.1				
08Ab	S8層																			
08Ab	S9層																			
08Ab	S10層							1	42.0											
08Ab	S14層																			
08Ab	S15層																			
08Ab	S20層																			
08Ab	S21層																			
08Ab	S23層																			
08Ab	S27層																			
08Ab	S30層																			
08Ab	S32層	1	1.0																	
08Ab	その他S層	4	1.0							12.0				6	2.0					
08Ab	T層	210	85.1	0.8	56	386.4	30.0	132	1004.5	297.4	19	10.4		1300.8	41	6.0	1	2.0		
08Ab	U層	407	204.4	7.4	144	887.6	82.3	68	1254.2	836.3	15	10.5	1.2	460.0	48	9.7	2	0.9	0.3	
08Ab	V1層									5.0				4	1.0					
08Ab	V2層	6	4.0	1.0	1	4.0	5.0	5	79.0	20.0	9	7.0		45	7.0				1.0	
08Ab	V3層	2	1.0		4	6.0	1.0	7	290.0		42			6	2.0					
08Ab	V3層～V4層	7	3.9	0.2	2	5.3	2.6	3	143.7	47.6	8	3.9		17	3.0	0.3				
08Ab	V4層							2	52.0											

表 31-3 松崎遺跡・上浜田遺跡出土土主要貝類一覧 3

調査区	遺構・層名	サルボウ					フネガイ科 細片重量	ハイガイ					イタボガキ				
		サルボウ (左) 個数	サルボウ (左) 重量	サルボウ (右) 個数	サルボウ (右) 重量	サルボウ 細片重量		ハイガイ (左) 個数	ハイガイ (左) 重量	ハイガイ (右) 個数	ハイガイ (右) 重量	ハイガイ 細片重量	イタボガキ (左) 個数	イタボガキ (左) 重量	イタボガキ (右) 個数	イタボガキ (右) 重量	イタボガキ 細片重量
08Ab	1002SD	2	38.0														
08Ab	1004SD																
08Ab	1005SZ			2	13.5	2.9											
08Ab	1006SK	1	0.9														
08Ab	1007SD													2	142.0		
08Ab	1009SX																
08Ab	1011SX																
08Ab	1015SI	1	2.7	3	43.8	1.3								2	167.0		
08Ab	1016SI																
08Ab	1017SI							1	2.0			3	80.0				
08Ab	1020SI			1	1.3							3	176.9	1	24.2	92.3	
08Ab	1021SI																
08Ab	1022SK																
08Ab	1023SK																
08Ab	1025SK																
08Ab	1026SI					5.4						1	7.5	2	28.6	30.1	
08Ab	1028SI																
08Ab	1030SI																
08Ab	1031SX			1	1.0	3.0								1	12.0		
08Ab	AB層																
08Ab	B層																
08Ab	B層																
08Ab	I2層																
08Ab	I層	1	16.0														
08Ab	J層																
08Ab	K1層					3.0					6.0	1	54.0				
08Ab	K2層1003SK																
08Ab	K層																
08Ab	L2層	2	14.5	1	6.0	14.0											
08Ab	L3層	1	4.0			2.0											
08Ab	L4層	45	309.8	53	281.2	11.3											
08Ab	L5層			1	0.1												
08Ab	L層	41	264.4	32	164.3	1.7											
08Ab	M1層																
08Ab	M3層			1	6.0												
08Ab	M4層																
08Ab	M5層																
08Ab	M層	1	1.0	1	10.0												
08Ab	N層			1	22.0												
08Ab	O層																
08Ab	P層																
08Ab	O層	169	1113.2	158	1090.0	85.3	66.1					1	57.1	3			
08Ab	R層	9	64.0	7	23.0	12.0	4.0										34.0
08Ab	S1層																
08Ab	S2層																
08Ab	S3層																
08Ab	S4層									2.0							
08Ab	S5層	4	22.8	7	51.5	3.2	1.5							2	80.8		
08Ab	S8層																
08Ab	S9層																
08Ab	S10層																
08Ab	S14層																
08Ab	S15層																
08Ab	S20層																
08Ab	S21層																
08Ab	S23層																
08Ab	S27層																
08Ab	S30層					1.0											
08Ab	S32層																
08Ab	その他S層					1.0											
08Ab	T層	119	488.5	112	443.0	22.3	26.0					10	332.8	32	775.4		
08Ab	U層	32	141.2	27	127.1	56.3						7	94.2	18	329.2	26.0	
08Ab	V1層					1.0											
08Ab	V2層	1	1.0	3	12.0	19.0		1	8.0		4.0						
08Ab	V3層	2	8.0	4	8.0	4.0											6.0
08Ab	V3層~V4層	2	1.6	1	2.0	17.2											
08Ab	V4層	1	2.0	1	2.0	2.0		1	2.0								

表 31-4 松崎遺跡・上浜田遺跡出土土主要貝類一覧 4

調査区	遺構・層名	マガキ				カキ類 細片重量	ヤマトシジミ					ハマグリ				カガミガイ		
		マガキ (左) 個数	マガキ (左) 重量	マガキ (右) 個数	マガキ (右) 重量		ヤマトシジミ (左) 個数	ヤマトシジミ (左) 重量	ヤマトシジミ (右) 個数	ヤマトシジミ (右) 重量	ヤマトシジミ 破片重量	ハマグリ (左) 個数	ハマグリ (左) 重量	ハマグリ (右) 個数	ハマグリ (右) 重量	ハマグリ 破片重量	カガミガイ (左) 個数	カガミガイ (左) 重量
08Ab	1002SD	6	59.0			2.0						7	118.0	8	111.0			
08Ab	1004SD																	
08Ab	1005SZ	26	32.2	17	31.9	75.4						415	1139.5	377	1075.1	1441.7	2	4.9
08Ab	1006SK			1	2.8	5.5			1	1.2	1.0	232	755.1	222	797.8	2168.7	4	11.6
08Ab	1007SD																	
08Ab	1009SX																	
08Ab	1011SX															1.0		
08Ab	1015SI	39	387.6	17	269.3	281.5	4	3.4	4	3.2	1.1	55	390.4	55	409.4	201.7		
08Ab	1016SI			2	4.0							2	2.0	1	1.0			
08Ab	1017SI	2	26.0									2	24.0	1	12.0	7.0		
08Ab	1020SI	69	128.3	57	105.1	266.8	2	1.2				166	579.2	151	3040.6	502.0	1	12.6
08Ab	1021SI																	
08Ab	1022SK																	
08Ab	1023SK	1	4.0	1														
08Ab	1025SK	3	4.0	2	8.0													
08Ab	1026SI	12	24.6	10	17.8	131.0	3	3.1	3	3.1		184	478.5	211	534.1	1060.4	2	7.2
08Ab	1028SI			3	80.0	9.0						4	12.0	5	34.0	4.0		
08Ab	1030SI					18.0												
08Ab	1031SX	8	12.0	5	17.0	62.0	3	3.0	4	4.0	2.0	9	18.0	4	3.0	56.0	1	18.0
08Ab	AB'層																	
08Ab	B層												10.0			1.0		
08Ab	B層																	
08Ab	I2層																	
08Ab	I層	1	2.0	1	2.0	22.0						11	114.0	17	146.0			
08Ab	J層													1	12.0			
08Ab	K1層	7	16.0	6	14.0	14.0						3	20.0	6	30.0	2.0		
08Ab	K2層1003SK					1.0												
08Ab	K層					10.0						1	18.0					
08Ab	L2層	69	113.3	71	125.5	378.0	1	1.0	3	2.0		3205	7512.2	3589	8433.8	16731.9	2	4.0
08Ab	L3層	9	11.0	4	10.0	32.0			3	2.0		188	490.0	231	532.0	2742.0	3	11.0
08Ab	L4層	162	330.9	201	464.1	1592.6						6180	19280.7	7034	17687.6	23782.5	52	131.3
08Ab	L5層	3	10.5	26	96.9	19.9						105	305.5	118	392.7	2.8	3	5.8
08Ab	L層	23	46.7	8	24.9	20.5	1	0.1	1	0.1	0.7	1086	4014.1	1127	6293.9	173.8	2	3.2
08Ab	M1層											1	20.0					
08Ab	M3層					1.0						2	10.0	3	52.0	1.0		
08Ab	M4層															2.0		
08Ab	M5層																	
08Ab	M層			1	38.0	20.0												
08Ab	N層	3	44.0															
08Ab	O層													1	8.0	6.0		
08Ab	P層	1	2.0													1.0		
08Ab	Q層	437	769.6	372	871.7	1233.8	5	8.3	11	13.9		7521	25158.2	7612	25798.0	50782.0	33	125.1
08Ab	R層	15	26.0	13	34.0	48.0	2	2.0	2	1.0		310	976.0	328	6056.0	561.0		
08Ab	S1層													1	2.0			
08Ab	S2層											1	6.0			4.0		
08Ab	S3層	1	4.0			4.0								2	12.0			
08Ab	S4層															6.0		
08Ab	S5層	56	210.3	44	169.1	259.5	1	1.0	2	3.9	1.1	386	1475.4	365	1532.2	5413.7	3	19.5
08Ab	S8層													1	2.0			
08Ab	S9層	1	1.0			1.0												
08Ab	S10層					2.0						19	116.0	22	136.0	30.0		
08Ab	S14層					8.0						3	12.0	8	32.0	36.0		
08Ab	S15層	1	4.0	1	4.0	2.0						4	26.0	5	30.0	18.0		
08Ab	S20層											1	6.0					
08Ab	S21層															2.0		
08Ab	S23層																	
08Ab	S27層											1	14.0			6.0		
08Ab	S30層			1	2.0	2.0						22	122.0	15	82.0	14.0		
08Ab	S32層					3.0						1	1.0			1.0		
08Ab	その他S層			2	3.0	18.0						4	10.0	6	32.0	18.0		
08Ab	T層	368	1075.6	254	925.2	2162.9	191	206.6	257	248.8	11.2	4946	17002.5	5332	17378.6	26681.8	9	57.2
08Ab	U層	566	1357.2	507	1287.8	3239.6	237	229.6	252	212.6	7.8	4747	19414.6	4784	19080.8	13745.0	11	71.4
08Ab	V1層	1	1.0	2	8.0	18.0			3	4.0		1	2.0	5	6.0	51.0		
08Ab	V2層	19	14.0	22	21.0	187.0	20	21.0	23	24.0	4.0	20	37.0	24	30.0	103.0		
08Ab	V3層	1	1.0	2	2.0	21.0	5	2.0	3	3.0	1.0	26	58.0	20	83.0	131.0	4	30.0
08Ab	V3層~V4層	20	11.4	22	29.8	81.0	8	6.8	7	4.8		110	236.5	99	251.9	1913.6		
08Ab	V4層					1.0						5	52.0	8	46.0	2.0		

表 31-5 松崎遺跡・上浜田遺跡出土土主要貝類一覧 5

調査区	遺構・層名	カガミガイ			オキシジミ					アサリ					シオフキ			
		カガミガイ (右) 個数	カガミガイ (右) 重量	カガミガイ 破片重量	オキシジミ (左) 個数	オキシジミ (左) 重量	オキシジミ (右) 個数	オキシジミ (右) 重量	オキシジミ 破片重量	アサリ (左) 個数	アサリ (左) 重量	アサリ (右) 個数	アサリ (右) 重量	アサリ 破片重量	シオフキ (左) 個数	シオフキ (左) 重量	シオフキ (右) 個数	シオフキ (右) 重量
08Ab	1002SD																	
08Ab	1004SD													1	6.0	1	4.0	
08Ab	1005SZ	2	7.2	20.0						2	4.7	3	10.4	1.7	3	3.2	4	19.1
08Ab	1006SK	3	9.1	42.1									9.4	3	3.8	5	6.1	
08Ab	1007SD																	
08Ab	1009SX																	
08Ab	1011SX																	
08Ab	1015SI			2.0	1	6.4			10.0					5	29.9			
08Ab	1016SI																	
08Ab	1017SI																	
08Ab	1020SI	2	40.1	3.9	3	7.5	1	2.3	7.8			4	9.5	8.6	44	56.4	50	42.9
08Ab	1021SI																	
08Ab	1022SK																	
08Ab	1023SK																	
08Ab	1025SK																	
08Ab	1026SI	1	0.3	8.0			1	1.2				1	0.9	3.8	4	3.1	3	5.7
08Ab	1028SI														11	5.0	14	13.0
08Ab	1030SI																	
08Ab	1031SX									1	1.0				4	5.0	2	2.0
08Ab	A'層																	
08Ab	B'層																	
08Ab	B層																	
08Ab	I2層																	
08Ab	I層																	
08Ab	J層																	
08Ab	K1層															1	4.0	
08Ab	K2層1003SK																	
08Ab	K層																	
08Ab	L2層	1	3.1	14.0	4	6.6	6	16.9		11	26.6	9	14.0	27.3	327	513.5	342	542.2
08Ab	L3層	6	28.0	44.0									3.0	3	8.0	4	18.0	
08Ab	L4層	58	181.4	167.8	7	36.6	4	22.7		49	175.7	51	184.7	65.5	353	1205.2	437	1310.2
08Ab	L5層													2	9.0	3	11.1	
08Ab	L層	1	2.4	0.7	2	8.9	2	4.0		10	29.3	17	60.9	219	574.5	191	477.9	
08Ab	M1層																	
08Ab	M3層																	
08Ab	M4層															1	1.0	
08Ab	M5層																	
08Ab	M層																	
08Ab	N層																	
08Ab	O層																	
08Ab	P層																	
08Ab	Q層	26	96.2	107.9	41	139.6	25	87.4	11.0	71	126.0	68	131.0	168.3	609	1460.2	584	1419.7
08Ab	R層	2	18.0	4.0	2	2.0	1	6.0		2	6.0	#REF!	2.0	2.0	19	53.0	20	54.0
08Ab	S1層																	
08Ab	S2層																	
08Ab	S3層															1	4.0	
08Ab	S4層																	
08Ab	S5層	5	11.7	37.2			1	3.4				1	3.1	19.8	10	32.7	12	54.7
08Ab	S8層																	
08Ab	S9層																	
08Ab	S10層														1	6.0		
08Ab	S14層														1	4.0	1	1.0
08Ab	S15層			8.0														
08Ab	S20層																	
08Ab	S21層															1	2.0	
08Ab	S23層															1	4.0	
08Ab	S27層																	
08Ab	S30層						1	4.0							1	1.0	2	2.0
08Ab	S32層																3	1.0
08Ab	その他S層														2	1.0	3	2.0
08Ab	T層	14	47.5	113.0	2	4.0	6	18.9		40	77.6	28	44.5	72.6	634	1452.4	747	1678.6
08Ab	U層	5	9.0	71.9	3	4.6			2.2	10	16.6	7	5.5	17.0	89	226.5	106	339.2
08Ab	V1層														1	1.0	1	1.0
08Ab	V2層																2	21.0
08Ab	V3層	1	1.0	5.0											1	2.0	3	2.0
08Ab	V3層~V4層	1	2.3	30.3						2	3.4	2	2.8	21.0	1	2.9	5	3.0
08Ab	V4層																	

表 31-6 松崎遺跡・上浜田遺跡出土出土主要貝類一覧 6

調査区	遺構・層名	マテガイ					オオノガイ					イガイ					
		シオフキ 破片 重量	マテガイ (左) 個数	マテガイ (左) 重量	マテガイ (右) 個数	マテガイ (右) 重量	マテガイ 破片 重量	オオノガイ (左) 個数	オオノガイ (左) 重量	オオノガイ (右) 個数	オオノガイ (右) 重量	オオノガイ 破片 重量	イガイ (左) 個数	イガイ (左) 重量	イガイ (右) 個数	イガイ (右) 重量	イガイ 破片 重量
08Ab	1002SD																
08Ab	1004SD																
08Ab	1005SZ	23.5	10	0.9	7	0.9	3.3	1	0.3	1	0.7	0.1				1.1	
08Ab	1006SK	11.5	6	1.6			0.4	3	1.2	1	0.8	5.2					
08Ab	1007SD																
08Ab	1009SX																
08Ab	1011SX		1														
08Ab	1015SI	7.3	199	31.6	183	34.8	256.1	2	0.4	4	2.0	0.2				12.8	
08Ab	1016SI																
08Ab	1017SI		1	1.0												2.0	
08Ab	1020SI	56.5	1	0.1				6	2.1	5	2.6	8.8					
08Ab	1021SI																
08Ab	1022SK																
08Ab	1023SK																
08Ab	1025SK																
08Ab	1026SI	16.6					1.1	2	1.5	3	3.0	10.6					
08Ab	1028SI	2.0	5	2.0	4	1.0	4.0	1	1.0	1	1.0						
08Ab	1030SI															14.0	
08Ab	1031SX	5.0						1	1.0								
08Ab	A層																
08Ab	B層																
08Ab	B層																
08Ab	I2層		4	1.0			1.0										
08Ab	I層																
08Ab	J層																
08Ab	K1層	2.0															
08Ab	K2層1003SK																
08Ab	K層																
08Ab	L2層	751.8	39	5.1	24	4.2	60.3	6	9.4	7	6.7	10.0					
08Ab	L3層	28.0					2.0	2	1.0			1.0					
08Ab	L4層	937.1	47	7.7	27	5.2	83.9	36	34.1	15	13.6	19.9	2	9.9		1.4	
08Ab	L5層	0.1					0.1										
08Ab	L層	68.3	63	7.0	69	8.5	32.1	6	10.8	6	5.2						
08Ab	M1層																
08Ab	M3層	1.0															
08Ab	M4層																
08Ab	M5層																
08Ab	M層																
08Ab	N層																
08Ab	O層																
08Ab	P層																
08Ab	Q層	1369.5	370	56.0	267	41.1	423.3	76	56.7	59	45.5	83.0	1	1.0			
08Ab	R層	30.0					2.0					2.0					
08Ab	S1層				1	1.0											
08Ab	S2層																
08Ab	S3層																
08Ab	S4層																
08Ab	S5層	100.8	5	0.5	6	0.5	1.7	3	3.4	3	1.9		1	1.4		2.1	
08Ab	S8層																
08Ab	S9層																
08Ab	S10層													1	8.0		
08Ab	S14層																
08Ab	S15層																
08Ab	S20層																
08Ab	S21層																
08Ab	S23層																
08Ab	S27層																
08Ab	S30層						1.0					1.0					
08Ab	S32層																
08Ab	その他S層	1.0					1.0										
08Ab	T層	920.7	460	92.5	289	62.2	1438.2	14	13.4	5	7.3	12.0	2	2.0	3	20.0	10.8
08Ab	U層	265.0	178	27.0	152	24.0	113.4	41	39.3	39	31.9	39.3	3	14.1		52.8	
08Ab	V1層	5.0					1.0										
08Ab	V2層	8.0					4.0	1	1.0	1	1.0	9.0					
08Ab	V3層	3.0															
08Ab	V3層~V4層	59.2			2	0.3	1.4	4	2.2	2	1.1	3.4					
08Ab	V4層																

表 31-7 松崎遺跡・上浜田遺跡出土土主要貝類一覧 7

調査区	遺構・層名	アウビ			サザエ			サザエ蓋		スガイ			スガイ蓋		ウミナ		
		アウビ (個数)	アウビ (重量)	アウビ 細片重量	サザエ (個数)	サザエ (重量)	サザエ 細片重量	サザエ蓋 (個数)	サザエ蓋 (重量)	スガイ (個数)	スガイ (重量)	スガイ 細片重量	スガイ蓋 (個数)	スガイ蓋 (重量)	ウミナ 類 (個数)	ウミナ 類 (重量)	ウミナ 類 細片重量
08Ab	V5層								2	2.0				33	26.0		
08Ab	W1層													6	6.0	2.0	
08Ab	W2層													3	4.0		
08Ab	W3層													3	3.0		
08Ab	W4層								24	13.7		3	0.5	2618	2005.5	86.6	
08Ab	W層																
08Ab	検出など								3	5.0				265	232.2	1.4	
	08Ab区総計	1	10.0	28.0	9	45.0		2	14.0	180	139.4	21.5	14	7.2	12689	10552.7	527.4
08B	2001SE													1	1.0		
08B	2002SE													2	1.0		
08B	2004SX													75	28.9	3.8	
08B	2005SD													56	41.9	1.4	
08B	2006SD													4	2.4		
08B	2007SD						1	1.0	2	1.9				2	2.9		
08B	2010SK													26	16.0	0.7	
08B	2017SK													1	0.3		
08B	2020SK													117	94.3	5.9	
08B	2024SI																
08B	2025SI																
08B	2028SI																
08B	BA層																
08B	BB層													26	35.0		
08B	BC1層													120	44.7	4.0	
08B	BC2層																
08B	BD層													1348	60.0	7.3	
08B	BE1層																
08B	BE2層													1	2.1		
08B	BE3層																
08B	BE層																
08B	BF層													2	2.0		
08B	BI2層													2	2.4		
08B	BI3層													130	79.7	4.1	
08B	BI4層													39	17.7		
08B	BI層																
08B	BH1層																
08B	検出など													25	29.1	0.2	
	08B区総計						1.0	1.0	2	1.9				777	461.4	27.4	
12A	2層																
12A	3層																
12A	5層																
12A	検出など													32	13.0		
	12A区総計													32	13.0		
12B	090SK								107	63.1	2.7	1	0.1	5962	5756.6	357.3	
12B	貝層1								15	10.5				2579	2597.5	120.7	
12B	貝層2															0.1	
12B	貝層3																
12B	3層																
12B	5層								2	0.4		1	0.1	144	124.3	9.6	
12B	検出など	4.0	94.6			7.5								3	1.5		
	12B区総計	4	96.4			7.5			124	74.0	2.7	2	0.2	8688	8479.9	487.7	
12C	095SX													53	39.0	5.3	
12C	096SX													7	4.9	0.7	
12C	097SX													20	15.6	1.6	
12C	098SX													4	1.8	0.7	
12C	検出など													3	1.5		
	12C区総計													87	62.9	8.3	
	全体総計	5.0	106.4	28.0	9	45.0	7.5	3	15.0	306	215.3	24.2	16	7.4	22273	19569.9	1050.8

表 31-8 松崎遺跡・上浜田遺跡出土出土主要貝類一覧 8

調査区	遺構・層名	フトヘナタリ			ツメタガイ			アカニシ			イボニシ			ニシ 細片重量	アラムシロ			オオタニシ		
		フトヘナタリ (個数)	フトヘナタリ (重量)	フトヘナタリ 細片重量	ツメタガイ (個数)	ツメタガイ (重量)	ツメタガイ 細片重量	アカニシ (個数)	アカニシ (重量)	アカニシ 細片重量	イボニシ (個数)	イボニシ (重量)	イボニシ 細片重量		アラムシロ (個数)	アラムシロ (重量)	アラムシロ 細片重量	オオタニシ (個数)	オオタニシ (重量)	オオタニシ 細片重量
08Ab	V5層	3	2.0					2	126.0					10	2.0	2.0				
08Ab	W1層							3	360.0	92.0				1	1.0					
08Ab	W2層							1	14.0											
08Ab	W3層				1	8.0		1	176.0											
08Ab	W4層	63	36.1	1.3	128	455.9	44.3	37	185.5	211.3	4	3.5	1.0	253	21.9	0.4				
08Ab	W層							1	500.0											
08Ab	検出など	12	5.9	0.1	12	98.6		67	4660.4	414.1				0.8	15	5.6	1.0			
	08Ab区総計	1161	523.2	11.3	581	3015.4	289.4	655	14902.0	2739.3	135	73.9	5.0	2459.7	755	104.4	4.2	4	3.5	1.3
08B	2001SE																			
08B	2002SE																			
08B	2004SX	8	1.0		5	5.2	9.2	8	36.0	43.4				6	0.7					
08B	2005SD	14	6.8		3	23.2	1.6	9	93.0	76.7										
08B	2006SD				1	4.0		2	169.8					11	4.2					
08B	2007SD	1	0.6		5	15.4		5	21.3		2	4.3		17	3.2					
08B	2010SK							2	14.0	1.4										
08B	2017SK						0.5			1.1										
08B	2020SK	68	37.9	0.6	64	438.0	75.0	35	675.4	477.6	1	1.0	1.0				6	2.8		
08B	2024SI							1	4.0											
08B	2025SI									22.0										
08B	2028SI									4.0										
08B	BA層							1	1.0											
08B	BB層						1.0	11	92.0	56.0										
08B	BC1層	1	0.1		1	1.6	0.8			1.7				8	0.9					
08B	BC2層									30.1										
08B	BD層	2	0.4	0.1	5	3.1	11.1	3	9.4	21.4				1	0.1					
08B	BE1層																			
08B	BE2層				1	8.7				0.5				1	0.1					
08B	BE3層				1	2.1														
08B	BE層				2	3.2		2	3.0											
08B	BF層							3	94.0											
08B	BI2層				10	24.7	1.7	16	68.0	25.0			3.0	1	0.2					
08B	BI3層				23	77.7	1.7	7	69.2	78.5	2	2.1		1	0.1					
08B	BI4層				6	18.8	1.8	4	282.0	15.9										
08B	BI層				2	2.0														
08B	BH1層							1	120.0											
08B	検出など	6	21.4		16	140.5	1.8	42	2614.0	230.1				12	3.4					
	08B区総計	100	68.2	0.7	145	768.3	106.2	153	4455.1	1085.4	5	7.4	1.0	3.0	58	13.9		6	2.8	
12A	2層				1	0.7	2.8	1	2.8	13.8										
12A	3層				1	6.0	2.2	5	387.2	53.2										
12A	5層				7	34.8	3.2	23	1135.6	302.4										
12A	検出など				5	18.2	1.1	24	797.2	389.8										
	12A区総計				14	59.7	9.3	54	2434.0	769.5										
12B	090SK	863	568.1	30.4	844	4003.0	1377.1	377	3945.9	4488.7	45	32.8	17.0		28	4.2				
12B	貝層1	284	138.2	3.6	53	225.1	122.5	55	655.1	886.7	7	6.8	0.2		2	0.3				
12B	貝層2	5	1.9					57	55.3	6.6										
12B	貝層3							1	87.2											
12B	3層							1	35.0											
12B	5層	3	1.3		3	0.7	1.0	7	61.6	20.3										
12B	検出など				1	7.9		5	101.7	102.5										
	12B区総計	1155	709.5	34.0	901	4236.7	1500.6	504	4941.8	5504.8	52	39.6	17.2		30	4.5				
12C	095SX				32	109.2	11.5	8	43.2	15.5										
12C	096SX				2	2.7	3.0	1	34.6	6.0										
12C	097SX	6	5.2		12	29.8	14.7			3.2										
12C	098SX																			
12C	検出など				1	1.7		1	27.8	4.6										
	12C区総計	6	5.2		47	143.4	29.2	10	105.6	29.3										
	全体総計	2422	1306.1	46.0	1688	8223.5	1934.7	1381	26946.5	10128.3	192	120.9	23.2	2462.7	843	131.8	4.2	10	6.3	1.3

表 31-9 松崎遺跡・上浜田遺跡出土土主要貝類一覧 9

調査区	遺構・層名	サルボウ					フネガイ科 細片重量	ハイガイ					イタボガキ				
		サルボウ (左) 個数	サルボウ (左) 重量	サルボウ (右) 個数	サルボウ (右) 重量	サルボウ 細片重量		ハイガイ (左) 個数	ハイガイ (左) 重量	ハイガイ (右) 個数	ハイガイ (右) 重量	ハイガイ 細片重量	イタボガキ (左) 個数	イタボガキ (左) 重量	イタボガキ (右) 個数	イタボガキ (右) 重量	イタボガキ 細片重量
08Ab	V5層					2.0											
08Ab	W1層											2	158.0	5	186.0	10.0	
08Ab	W2層	1	10.0									2	40.0	1			
08Ab	W3層							1	2.0					2	116.0	1.0	
08Ab	W4層	4	111.7	7	27.1	15.1		2	8.3	1	3.1	3.9		1	1.7	29.5	
08Ab	W層																
08Ab	検出など	13	132.0	11	125.0	3.0	6.0						24	1007.0	58	1208.0	10.0
	08Ab区総計	454	2751.6	436	2463.0	289.0	103.6	6	22.3	1	3.1	15.9	54	2007.5	130	3163.5	238.9
08B	2001SE																
08B	2002SE																
08B	2004SX	5	8.4	4	5.3	37.6											
08B	2005SD	1	4.0	3	8.4	12.8			1	7.3							
08B	2006SD																
08B	2007SD	1	2.0	1	1.0			1	2.0								
08B	2010SK			1	4.6												
08B	2017SK																
08B	2020SK	3	3.3			1.2		4	12.8	8	45.5	11.2		7	126.6	60.6	
08B	2024SI																
08B	2025SI																
08B	2028SI																
08B	BA層																
08B	BB層					1.0		1	2.0								
08B	BC1層	2	1.3	1	2.9	8.7						0.2					
08B	BC2層			1	2.0			1	1.1								
08B	BD層	4	6.1	1	0.9	51.3											
08B	BE1層																
08B	BE2層																
08B	BE3層																
08B	BE層																
08B	BF層																
08B	BI2層	1	8.6	1	8.4												
08B	BI3層	21	68.8	13	44.0	4.8											
08B	BI4層	3	16.2	2	9.4	10.2											
08B	BI層																
08B	BH1層													1	60.0		
08B	検出など	9	68.6	4	20.7	3.4						1.0		3	164.0		
	08B区総計	50	187.3	33	108.1	140.1		7	17.9	9	52.8	12.4		11	350.6	60.6	
12A	2層																
12A	3層	1	10.3			2.2								2	16.4		
12A	5層	4	23.3	3	9.0	12.8						1.0		9	118.7	16.7	
12A	検出など	4	18.0	4	11.7	22.2								3	29.6	34.8	
	12A区総計	9	51.6	7	20.7	37.2						1.0		14	164.7	51.5	
12B	090SK	309	1609.0	335	1638.9	752.8							4	72.6	18	157.3	34.6
12B	貝層1	24	122.9	29	148.4	69.8								6	79.1	3.1	
12B	貝層2																
12B	貝層3	1	7.9			3.1											
12B	3層								1	1.6	1.4						
12B	5層	2	12.0	3	26.8	9.8		1	7.2	1	10.1	10.2					
12B	検出など	4	36.5	3	10.4	7.0			3	23.2	3.1						
	12B区総計	340	1788.3	370	1824.5	842.5		1	7.2	5	34.9	14.7	4	72.6	24	236.4	37.7
12C	095SX	4	7.0	6	10.7	14.5											
12C	096SX	37	126.1	30	59.9												
12C	097SX	1	3.7	3	6.1												
12C	098SX					0.5											
12C	検出など	3	13.4	2	8.5	9.8		1	5.4			1.4					
	12C区総計	385	1938.5	411	1909.7	867.3		2	12.6	5	34.9	16.1	4	72.6	24	236.4	37.7
	全体総計	899	4935.0	889	4511.5	1333.6	103.6	17	64.8	17	102.8	45.4	58	2080.1	179	3915.2	388.7

表 31-10 松崎遺跡・上浜田遺跡出土出土主要貝類一覧 10

調査区	遺構・層名	マガキ				カキ類 破片重量	ヤマトシジミ					ハマグリ					カガミガイ	
		マガキ (左) 個数	マガキ (左) 重量	マガキ (右) 個数	マガキ (右) 重量		ヤマトシジミ (左) 個数	ヤマトシジミ (左) 重量	ヤマトシジミ (右) 個数	ヤマトシジミ (右) 重量	ヤマトシジミ 破片重量	ハマグリ (左) 個数	ハマグリ (左) 重量	ハマグリ (右) 個数	ハマグリ (右) 重量	ハマグリ 破片重量	カガミガイ (左) 個数	カガミガイ (左) 重量
08Ab	V5層	3	2.0	1	2.0	18.0	1	1.0	1	1.0		5	4.0	5	3.0	76.0		
08Ab	W1層	3	2.0	9	11.0		4	5.0	5	9.0		8	138.0	6	21.0	24.0		
08Ab	W2層	2	40.0			1.0						2	42.0		2.0			
08Ab	W3層	5	16.0	2	2.0	1.0					5	33.0	3	22.0	4.0			
08Ab	W4層	118	257.7	104	151.4	283.4	277	267.9	328	286.1	23.4	389	1434.5	398	1581.4	3123.8	2	4.6
08Ab	W層											1	16.0	4	46.0	2.0		
08Ab	検出など	61	281.0	23	121.8	115.2	4	5.0	1	2.0	1.0	1080	5299.7	1115	5037.8	345.8	1	3.3
	08Ab区総計	2160	5338.5	1857	3503.1	10781.9	769	777.0	915	830.3	54.3	33091	110876.3	35009	121237.3	152140.7	139	526.0
08B	2001SE																	
08B	2002SE													1	1.0			
08B	2004SX	13	4.9	17	9.4	37.5	4	2.1	1	1.5		147	95.3	135	77.4	1042.8	3	9.1
08B	2005SD	4	9.3	7	21.0	42.8	10	6.9	11	11.9	0.9	234	1293.2	253	1199.0	565.9		
08B	2006SD											9	64.0	5	30.0			
08B	2007SD			1	0.6	0.8	2	2.0	1	1.0		1060	6735.0	1094	6914.0	70.8		
08B	2010SK	1	0.1	1	4.0	0.4			1	0.8		193	602.8	203	638.0	1629.7		
08B	2017SK			1	1.8	0.3						355	1087.4	323	1011.7	233.2		
08B	2020SK	82	190.6	69	135.0	349.9	84	85.9	97	93.7	18.1	868	4628.1	8912	4858.7	3615.4		
08B	2024SI																	
08B	2025SI					6.0												
08B	2028SI					2.0												
08B	BA層					1.0												
08B	BB層			1	2.0	4.0						3	6.0	3	4.0	39.0		
08B	BC1層	7	3.3	6	5.1	30.9						185	274.5	192	271.3	1488.8		
08B	BC2層	2	2.6	3	3.5	8.0						16	11.2	40	27.8	18.6		
08B	BD層	2	2.2	8	4.5	26.9						209	262.7	213	256.2	2049.3	4	3.3
08B	BE1層											91	255.8	102	373.1	268.9		
08B	BE2層											145	424.5	177	392.3	466.3		
08B	BE3層											14	47.1	22	101.3	48.7		
08B	BE層											111	339.0	128	438.1	241.3		
08B	BF層															2.0		
08B	BI2層			1	0.1							1834	3775.5	2148	4265.9	2188.7	2	6.6
08B	BI3層						12	10.2	10	8.1		1059	2144.1	1238	2436.3	760.7	5	8.2
08B	BI4層	10	6.7	9	24.3	15.5						529	1478.5	512	1411.3	2439.7	4	6.2
08B	BI層																	
08B	BH1層																	
08B	検出など	20	44.1	3	66.2	216.0	23	27.4	21	29.2		1927	8432.6	2065	8995.6	271.4	15	52.9
	08B区総計	144	267.9	154	277.5	748.6	135	134.5	142	146.2	19.0	8989	319578.3	9745	33703.0	19362.2	33	86.3
12A	2層											1	1.4	1	1.7	11.2		
12A	3層											4	19.7	10	35.8	39.5		
12A	5層	1	5.7			6.6						20	80.5	20	70.2	183.0	1	6.0
12A	検出など	3	8.4	1	0.8	9.1	3	1.1				82	212.5	99	228.7	467.4	2	4.6
	12A区総計	4	14.1	1	0.8	19.1	3	1.1				110	319.8	133	342.9	709.7	3	10.6
12B	090SK	1313	1211.5	1816	2063.5	3291.2	2102	1845.7	1947	1813.4	207.1	1648	4366.0	1748	4361.6	4998.1	202	806.7
12B	貝層1	1689	3580.8	2284	5428.8	9623.2	545	400.7	649	489.7	109.9	2246	6847.7	2373	7594.7	11612.1	13	52.1
12B	貝層2	75	180.2	84	210.6	230.8	6	4.5	5	3.7	3.4	122	480.0	121	484.2	277.0		
12B	貝層3															4.6		
12B	3層																	
12B	5層	170	368.3	151	402.1	826.3	16	13.4	14	10.7		134	492.4	115	390.0	1002.7		
12B	検出など			3	13.9	1.5	1	4.3	1	3.2	3.3	4	34.7	2	11.3	12.0		
	12B区総計	3247	5340.8	4338	8118.9	13973.0	267	2268.6	2616	2320.7	323.7	4154	12220.8	4359	12841.8	17906.5	215	858.8
12C	095SX	5	1.9	18	16.2	39.2	52	41.5	51	41.3	12.1	90	114.5	119	155.2		3	5.6
12C	096SX	5	5.1	6	2.2	38.3	15	8.8	17	9.5	2.3	71	96.7	78	64.3	846.1	3	5.6
12C	097SX	16	16.5	29	32.9	70.7	9	7.3	12	9.0	3.8	51	68.9	55	74.6	163.7	1	2.6
12C	098SX					0.9	4	1.1	4	1.8	2.1					1.2		
12C	検出など											1	0.5			5.5		
	12C区総計	3723	5364.3	4391	8170.2	14122.1	80	58.7	84	61.6	20.3	213	280.6	252	294.1	1016.5	7	13.8
	全体総計	5581	10984.8	6403	13481.6	25671.7	3655	3228.9	3756	3355.3	408.3	46644	156114.8	49609	168991.1	191135.6	397	1495.5

表 31-11 松崎遺跡・上浜田遺跡出土土主要貝類一覧 11

調査区	遺構・層名	カガミガイ			オキシジミ					アサリ					シオフキ			
		カガミガイ(右) 個数	カガミガイ(右) 重量	カガミガイ破片 重量	オキシジミ(左) 個数	オキシジミ(左) 重量	オキシジミ(右) 個数	オキシジミ(右) 重量	オキシジミ破片 重量	アサリ(左) 個数	アサリ(左) 重量	アサリ(右) 個数	アサリ(右) 重量	アサリ破片 重量	シオフキ(左) 個数	シオフキ(左) 重量	シオフキ(右) 個数	シオフキ(右) 重量
08Ab	V5層												1.0			1	1.0	
08Ab	W1層																	
08Ab	W2層																	
08Ab	W3層																	
08Ab	W4層	1	1.2	22.4	1	9.1				2	4.2	2	1.7	10.9	22	42.0	22	57.9
08Ab	W層																	
08Ab	検出など	4	22.5	6.9	2	4.0	1	4.0		6	12.4	4	9.7	2.0	16	37.0	25	85.3
	08Ab区総計	136	484.7	709.1	68	229.3	52	180.2	31.0	227	536.0	220	549.5	436.4	2565	6070.6	2788	6568.3
08B	2001SE																	
08B	2002SE																	
08B	2004SX	2	0.5	16.2	1	0.6				5	1.7	3	1.6	20.7	72	30.3	65	32.8
08B	2005SD			6.9	1	0.2				18	32.6	23	56.1	18.0	26	64.4	42	105.3
08B	2006SD														292	1710.0	300	1790.0
08B	2007SD				10	15.0	11	24.0		1	4.0				22111	129536.2	23003	134439.8
08B	2010SK														2	0.7	2	2.2
08B	2017SK									20	50.1	16	45.7	14.6	73	192.6	77	206.6
08B	2020SK	1	1.9	17.3						1	2.9	1	2.3		11	21.3	9	14.2
08B	2024SI																	
08B	2025SI																	
08B	2028SI																1	4.0
08B	BA層																	
08B	BB層									1	2.0			2.0				
08B	BC1層	1	0.2	6.2						14	25.8	19	37.9	103.9	27	20.1	32	36.0
08B	BC2層											1	1.5	1.2	16	6.7	8	3.4
08B	BD層	4	7.3	20.0	1	2.1				1	1.5			13.5	119	210.6	155	278.7
08B	BE1層														157	512.3	154	500.2
08B	BE2層			4.9										1.4	118	301.1	146	345.6
08B	BE3層														46	169.5	60	213.8
08B	BE層	1	1.6		1	3.0									108	485.8	112	501.2
08B	BF層																	
08B	BI2層	7	17.8	45.5						1	0.3			1.4	55	72.9	66	122.4
08B	BI3層	8	21.5	0.8	4	7.6	2	6.8		30	45.9	35	61.5	7.8	131	164.0	147	168.9
08B	BI4層	3	2.9	8.0						3	9.9	5	20.8		14	23.4	15	22.1
08B	BI層																	
08B	BH1層																	
08B	検出など	6	9.7	8.7			1	5.3		8	22.4	8	37.9	1.2	4546	26971.8	4621	26815.1
	08B区総計	33	63.4	161.5	19	28.8	14	36.1		103	199.1	111	265.3	200.9	27924	160493.7	29015	165602.3
12A	2層																	
12A	3層	1	6.3															
12A	5層														1	2.9	4	27.4
12A	検出など	1	1.5	4.0										4.6	6	11.2	5	4.5
	12A区総計	2	7.8	4.0										4.6	7	14.1	9	31.9
12B	090SK	183	813.8	2118.0	3	9.2	2	1.1	0.3	1007	1575.2	945	1465.3	4670.2	1157	2133.4	1272	2251.7
12B	貝層1	15	51.3	198.3	7	31.6	8	22.3	6.6	90	90.0	84	85.9	603.7	180	373.4	202	412.9
12B	貝層2			2.5											2	10.5	8	27.9
12B	貝層3																	
12B	3層									1	3.2	2	15.4					
12B	5層			1.8			1	2.8		10	33.7	7	20.2	11.6	8	25.6	8	29.0
12B	検出など	1	10.0							2	3.0	5	13.1	2.0				
	12B区総計	199	875.1	2320.6	10	40.8	11	26.2	6.9	1110	1705.1	1043	1599.9	5487.5	1347	2542.9	1490	2721.5
12C	095SX	5	19.7	41.8										1.0	4	1.5	16	9.9
12C	096SX	1	1.3	17.0						12	16.2	16	21.4	75.5	14	8.6	4	3.2
12C	097SX			23.2						4	3.9	1	0.5	14.0	25	29.6	38	43.3
12C	098SX																	
12C	検出など	1	10.7	2.2						2	3.5	4	11.8	1.7	4	3.9	6	4.2
	12C区総計	7	31.7	84.2						18	23.6	21	33.7	92.2	47	43.6	64	60.6
	全体総計	377	1462.7	3279.4	97	298.9	77	242.5	37.9	1460	2472.4	1397	2452.4	6221.6	31945	169360.9	33435	175226.6

表 31-12 松崎遺跡・上浜田遺跡出土出土主要貝類一覽 12

調査区	遺構・層名	シオフキ	マテガイ					オオノガイ				イガイ(左)	イガイ(左)	イガイ(右)	イガイ(右)	イガイ(右)	
		シオフキ破片重量	マテガイ(左) 個数	マテガイ(左) 重量	マテガイ(右) 個数	マテガイ(右) 重量	マテガイ破片重量	オオノガイ(左) 個数	オオノガイ(左) 重量	オオノガイ(右) 個数	オオノガイ(右) 重量						オオノガイ破片重量
08Ab	V5層	4.0					1.0			1	1.0						
08Ab	W1層						1.0										
08Ab	W2層	1.0															
08Ab	W3層						6.0										
08Ab	W4層	85.3	4	0.4	10	1.0	4.3	7	9.6	2	2.9	5.3					
08Ab	W層	2.0															
08Ab	検出など	20.6	2	1.1	1	1.0	3.1	1	12.0			1.0	3	66.0			
	08Ab区総計	4838.0	1425	238.8	1069	188.9	2458.1	214	201.1	158	135.8	211.8	12	94.4	4	28.0	97.0
08B	2001SE																
08B	2002SE	1.0															
08B	2004SX	345.9	2	0.1	2	0.1	0.3	5	1.5	9	1.5	0.4					
08B	2005SD	40.8	2	0.2	1	0.1	0.6	7	44.0	5	42.0	28.0					
08B	2006SD																
08B	2007SD	20820.0					0.2										
08B	2010SK	4.0	1	0.1	1	0.2	0.3	1	1.0								
08B	2017SK	40.5					0.1										
08B	2020SK	26.3	42	5.4	37	3.4	16.5	1	0.5	2	4.2	8.0					
08B	2024SI	1.0															
08B	2025SI																
08B	2028SI																
08B	BA層																
08B	BB層	2.0															
08B	BC1層	133.6															
08B	BC2層	15.2															
08B	BD層	438.6					0.1	6	1.7								
08B	BE1層	946.4															
08B	BE2層	812.5	1	0.1			0.1										
08B	BE3層	240.1	1	0.2			0.3										
08B	BE層	1002.9															
08B	BF層	2.0															
08B	BI2層	161.6	8	0.8	5	0.7	2.5	21	9.0	14	6.5	18.6					
08B	BI3層	61.2						13	6.4	4	2.0						
08B	BI4層	108.1	1	0.1	1	0.1	0.8	1	0.6								
08B	BI層																
08B	BH1層																
08B	検出など	3774.8					2.0	1	1.4	3	0.3	2.1					
	08B区総計	29238.3	58	7.0	48	4.7	24.0	59	67.1	37	56.5	57.1					
12A	2層																
12A	3層																
12A	5層	18.7															
12A	検出など	35.9								1	0.9						6.1
	12A区総計	54.6								1	0.9						6.1
12B	090SK	2837.4	415	45.9	362	44.8	128.9	158	84.8	110	52.7	211.1					
12B	貝層1	798.2	269	26.9	249	25.9	95.3	23	10.5	21	8.0	25.3					
12B	貝層2	17.7			1	0.1	0.4										
12B	貝層3																
12B	3層																
12B	5層	26.4	47	3.5	39	2.7	27.7	2	0.3								
12B	検出など																
	12B区総計	3679.7	731	76.3	651	73.5	252.3	183	95.6	131	60.7	236.4					3.3
12C	095SX	49.5	3	0.2	2	0.1	0.6										
12C	096SX	62.9	1	0.1	1	0.1	0.5										
12C	097SX	127.8	1	0.1			0.1										
12C	098SX	0.3															
12C	検出など	3.8															
	12C区総計	244.3	5	0.4	3	0.2	1.2										
	全体総計	38054.9	2119	322.5	1771	267.3	2735.6	456	363.8	327	253.9	505.3	12	94.4	4	28.0	106.4

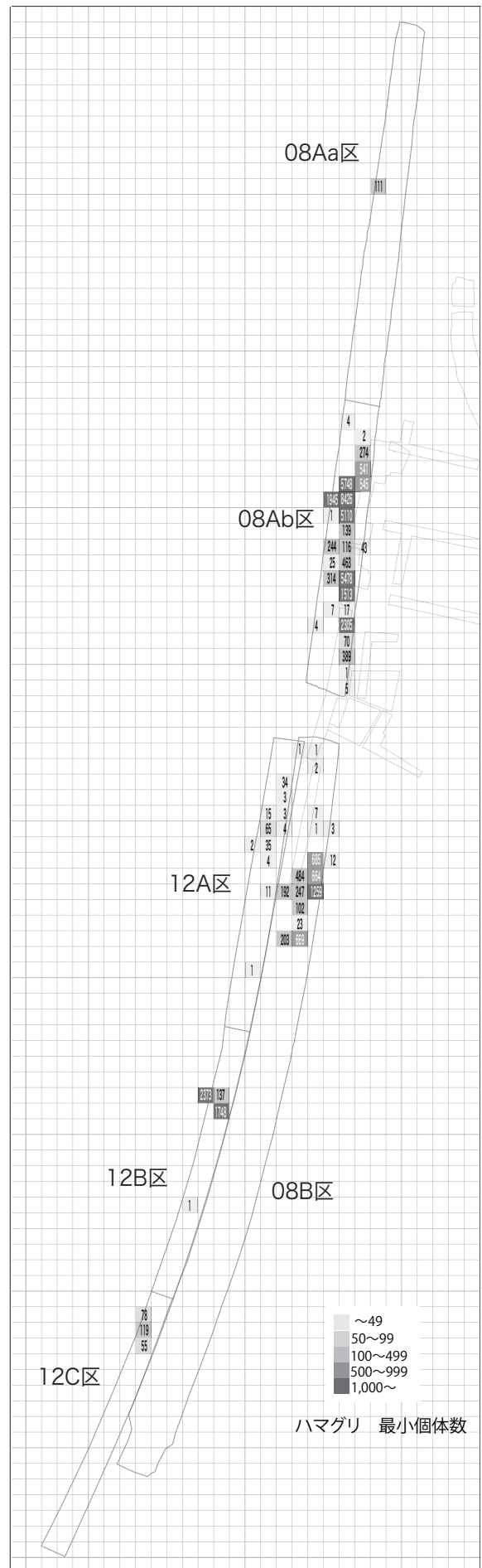
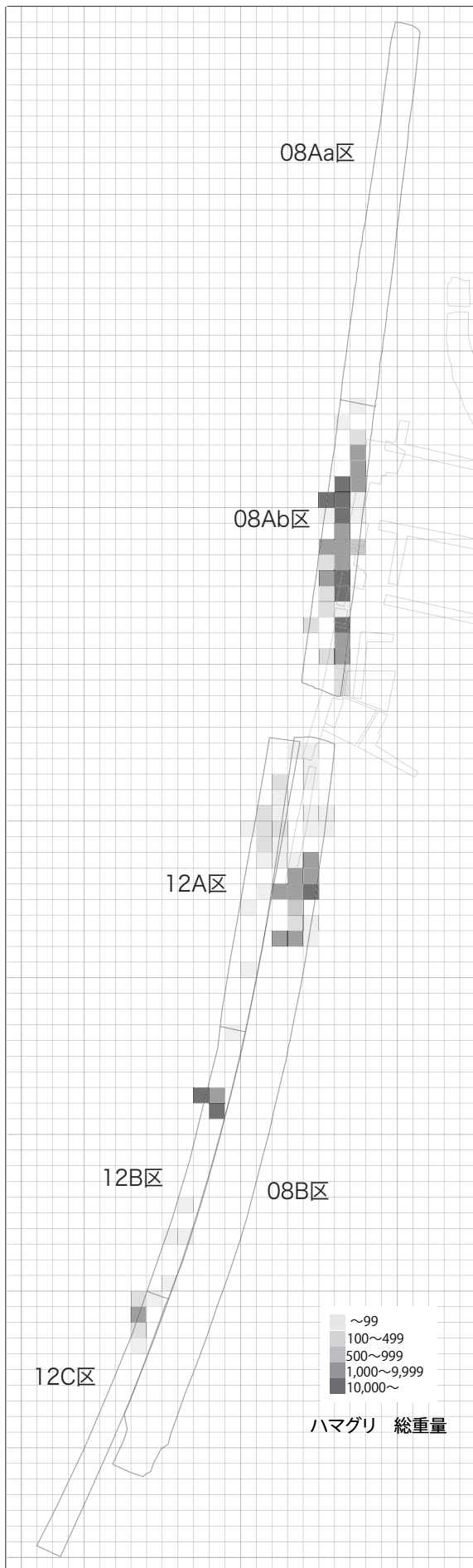


図 200 松崎遺跡・上浜田遺跡貝類出土状況 1【ハマグリ】

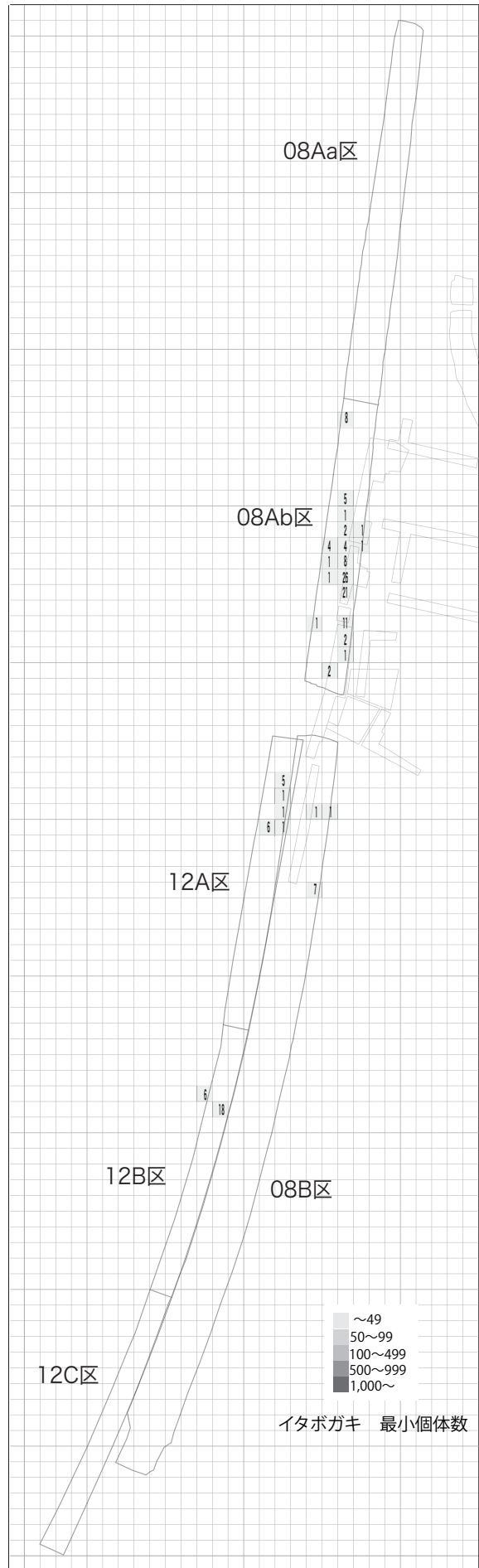
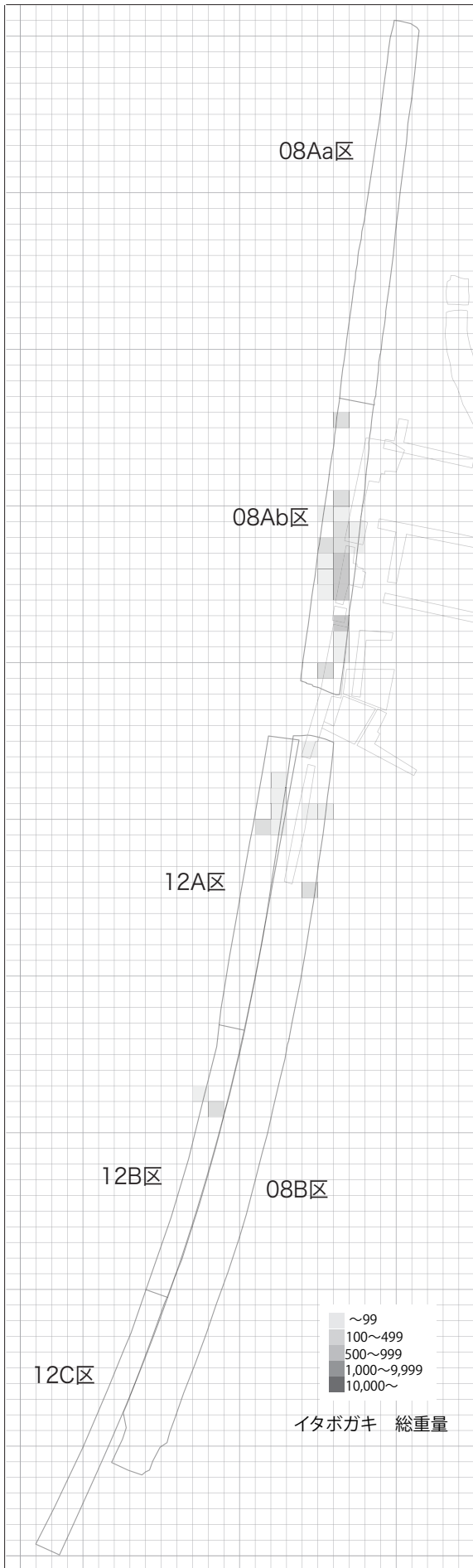


図 201 松崎遺跡・上浜田遺跡貝類出土状況 2【イタボガキ】

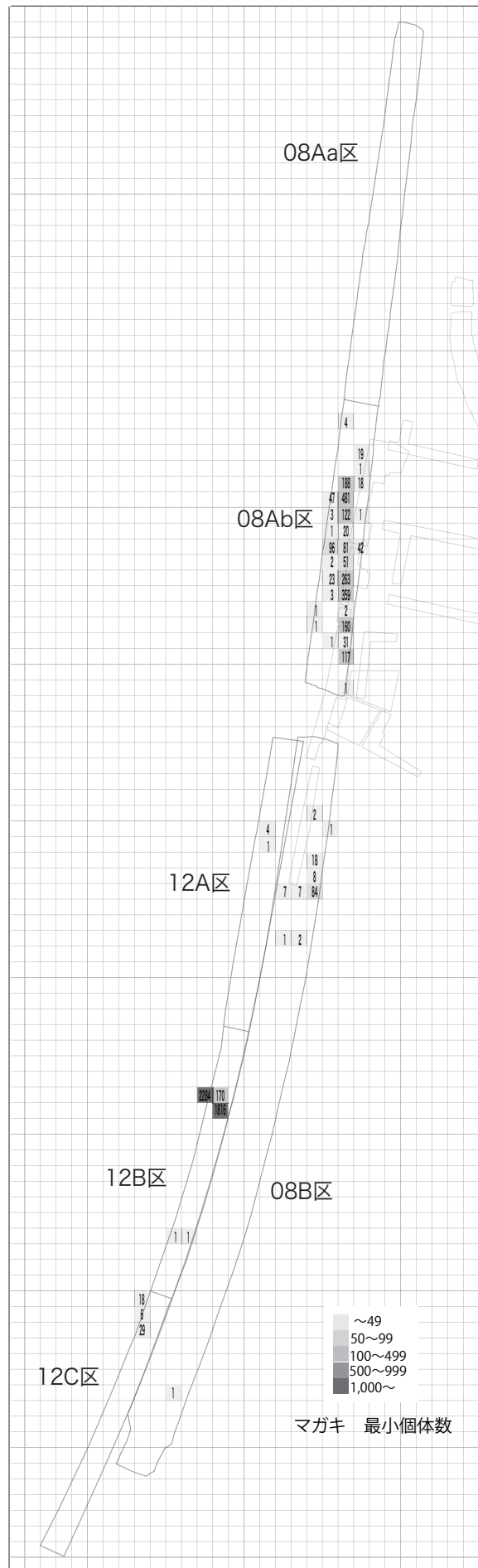
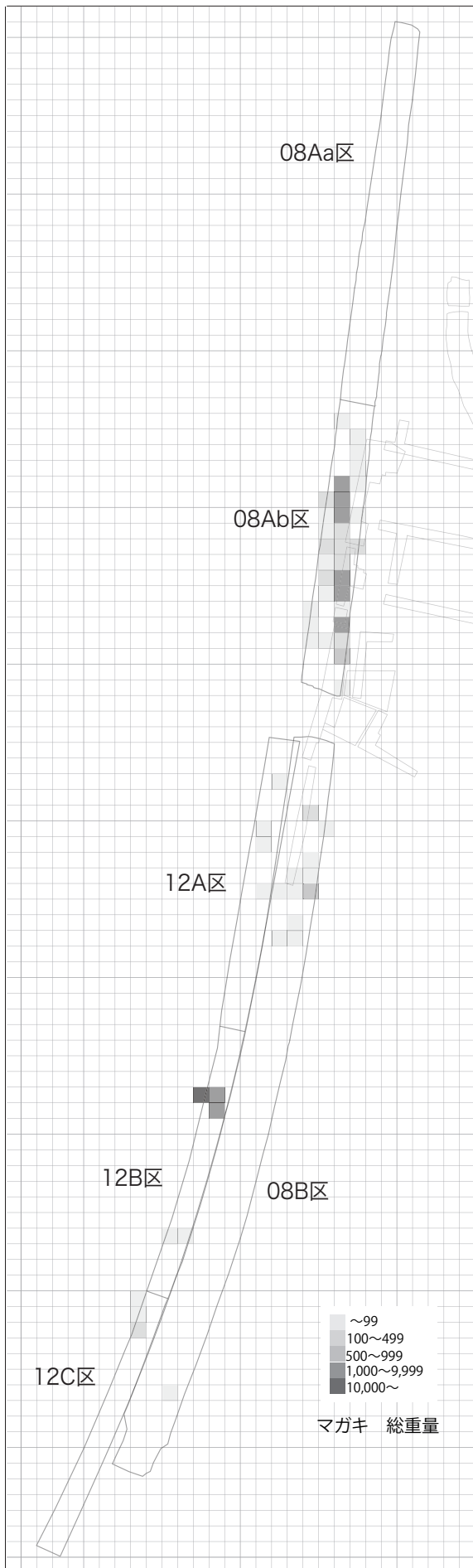


図 202 松崎遺跡・上浜田遺跡貝類出土状況 3【マガキ】

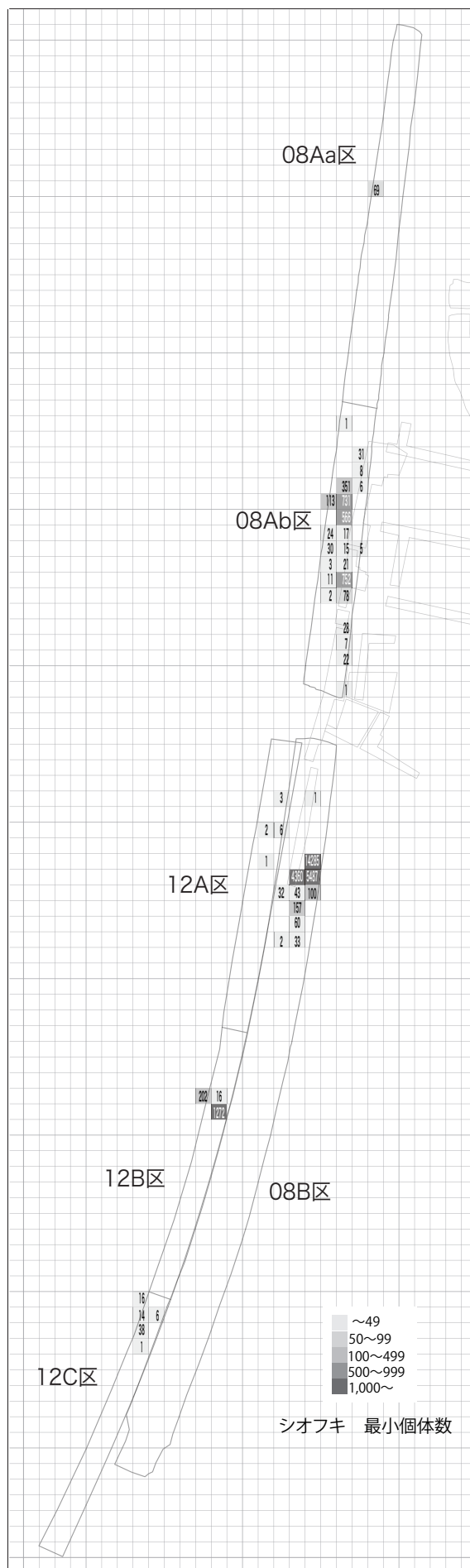
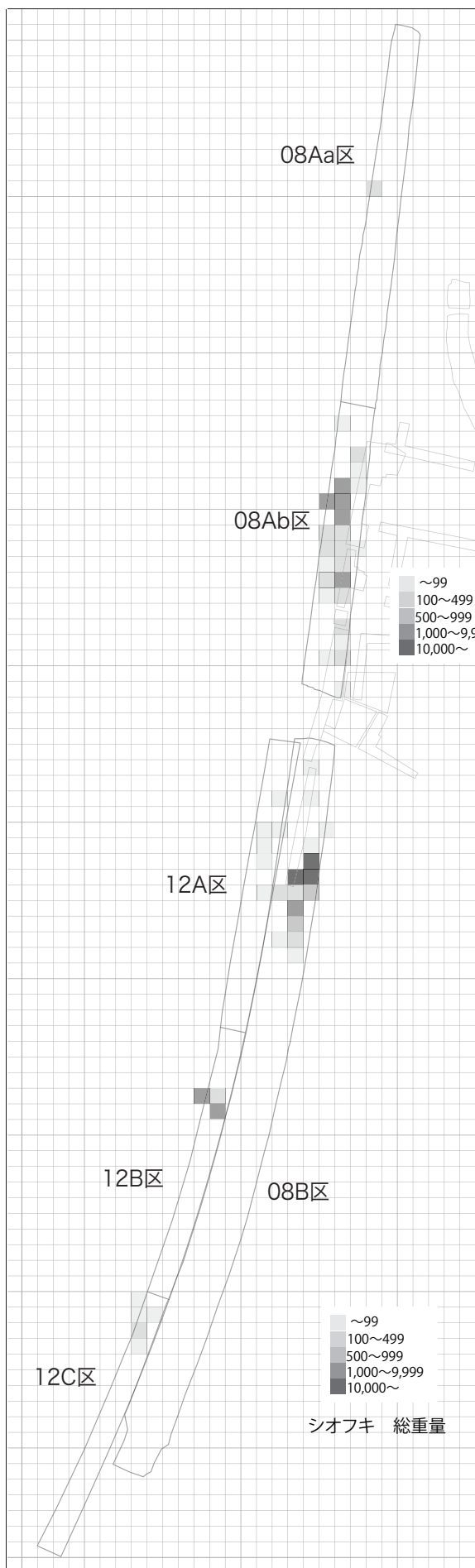


図 203 松崎遺跡・上浜田遺跡貝類出土状況 4【シオフキ】

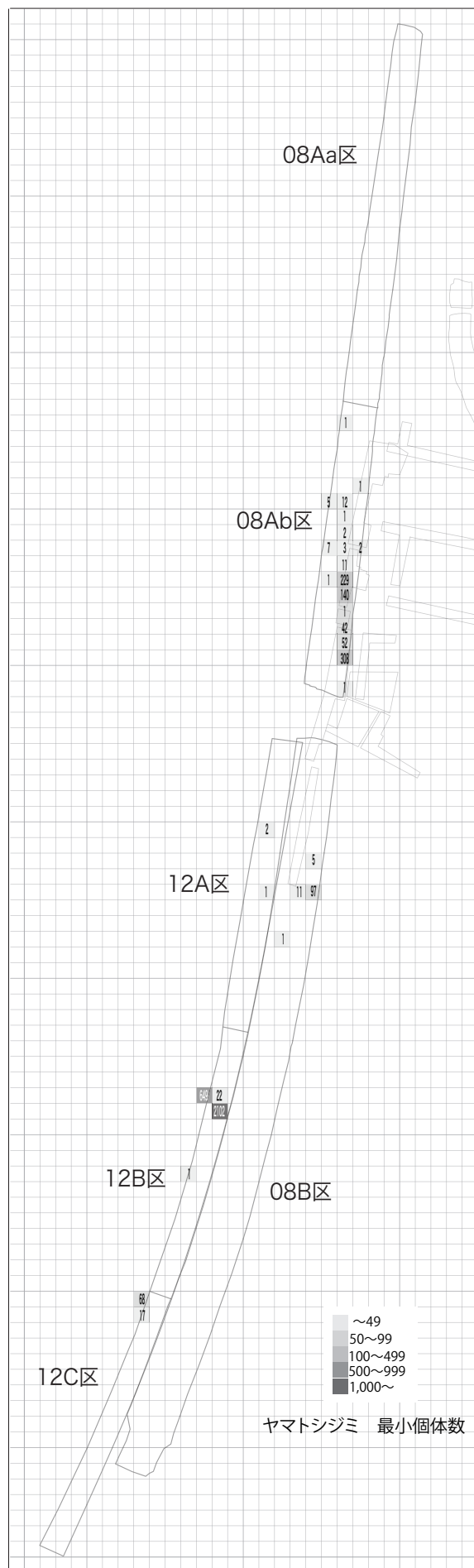
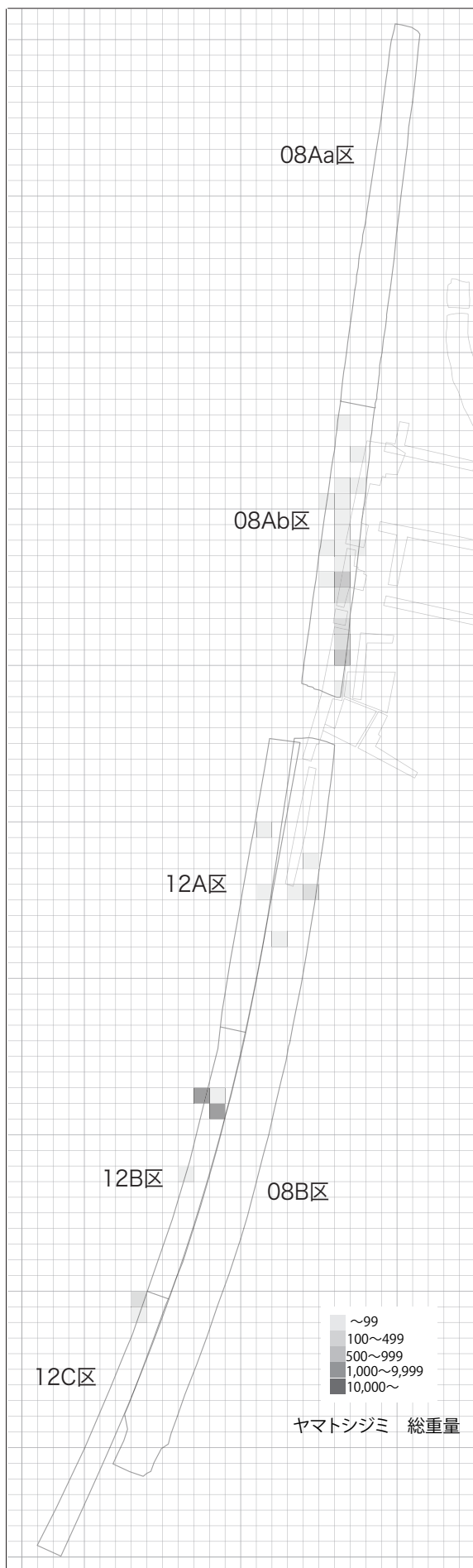


図 204 松崎遺跡・上浜田遺跡貝類出土状況 5【ヤマトシジミ】

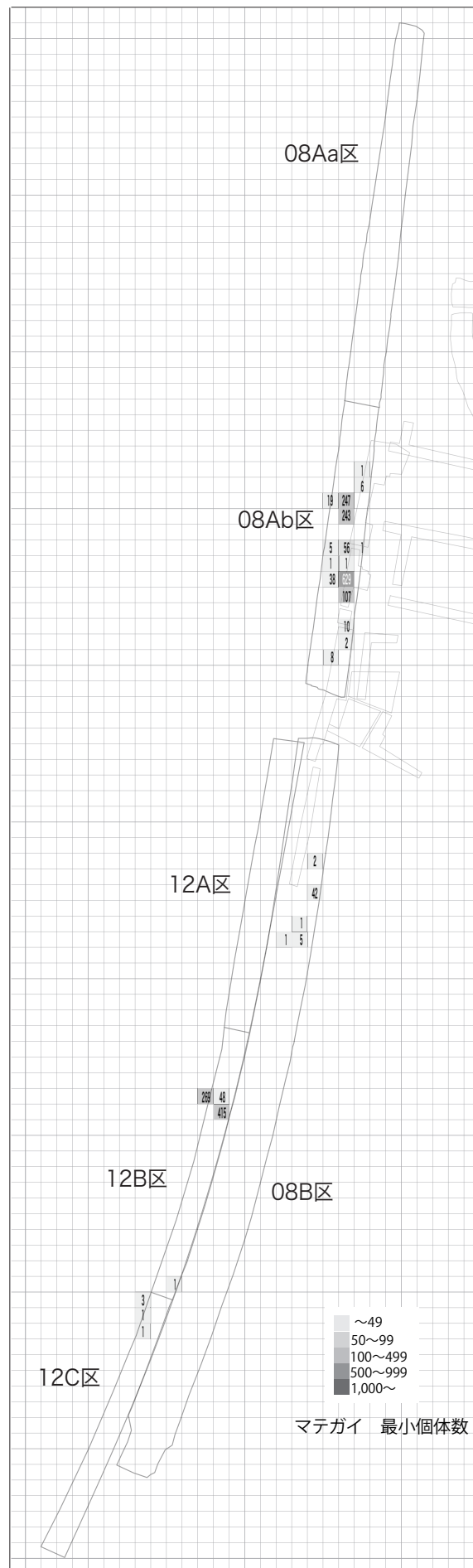
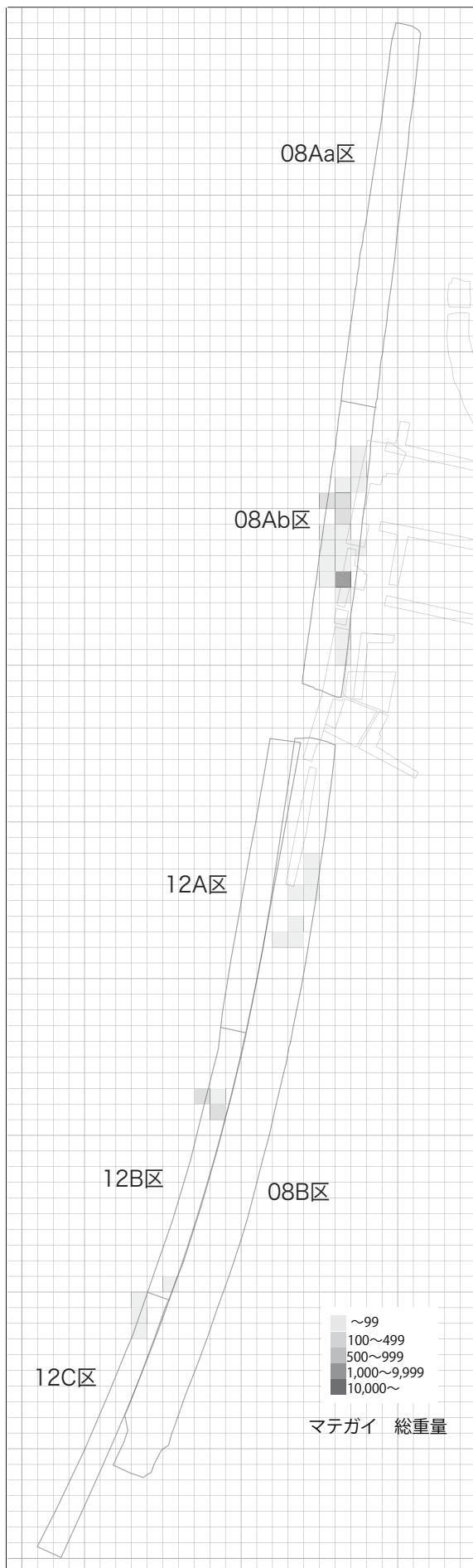


図 206 松崎遺跡・上浜田遺跡貝類出土状況 7【マテガイ】

第5章 総括

1. 松崎遺跡・上浜田遺跡の調査成果

今回の調査・整理の成果の模式図を図207に示す。図207は、左が北側を、右が西側になるように、概ね示した。松崎遺跡・上浜田遺跡の調査では、古墳中期松河戸式期から古代の東山72号窯期まで、概ね継続した活動を確認することができた。調査では遺構の時期比定に苦慮したものの、図209～211のように、松崎類から知多式1類(2類)までの時期、知多式3類・4類の時期・知多式5類の時期の、大きく3時期の活動経緯に分けることができた。その中で、遺跡内での場の利用や包含層の様相から、知多式1類と4類とで様相に大きな相違が認められることを改めて確認することができた。今回の調査で、松崎遺跡では、08Aa区を中心に知多式2類がまとまって存在していることは新たな発見となった。

土器製塩活動に関係する成果としては、まずは08Ab区において、松崎遺跡側で4類の土器製塩を行なった場が検出されたことを取り上げたい。これまで松崎遺跡では、5類に属するタタキ面(炉跡)および鹹水溜の存在は確認されていた。一方、4類に関しては、第1次調査で固形塩を作成したとされる炉跡が調査されている。今回の事例は、この固形塩を作成したとされる活動と関連づけるならば、煎熬などの活動を行なった場所として考えることは可能ではないかと思われるのである。

今回の調査では、土器製塩活動に伴ない形成された包含層には、製塩土器などの廃棄層と、炉跡の堆積層との2種類があることが明らかとなった。さらに、松崎遺跡・上浜田遺跡では貝類採取活動をはじめとする、干潟域あるいは近海での漁

撈活動を行なっており、その廃棄層(貝層)の形成も行なわれていた。遺跡の中では、この3層が重なって認められ、場の利用の変遷を考えることが可能となっている。

動物遺体において、述べておかななくてはならないのは、ウズマキゴカイの出土傾向についてである。本調査においても、各調査区で土壌をブロックで採取し、定量分析を試みた。愛知県埋蔵文化財センターが行なった前回の調査では、膨大な数に上る、焼けたウズマキゴカイを採取することに成功している。しかし今回、土器製塩の場として考えられるS層をはじめ、サンプリングした土壌からの検出点数は若干数に留まった。このことは、藻塩焼による土器製塩の可能性を否定するものではなく、むしろ、松崎遺跡における活動場所の事情が反映された結果だと考えられる。この意味からも、前回調査で多量のウズマキゴカイが出土した、製塩土器堆積群の場が、当時、廃棄場所として極めて有意に機能していたことを示すものと言えよう。

貝層の貝種は、ハマグリ・マガキ・ウミナナ類が多いことを再確認できたが、今回の調査で、古墳時代から古代でも古い段階においては、マテガイの採取が盛んであったことが明らかとなった。

本調査の懸案の一つであった、松崎遺跡と上浜田遺跡との空間的なつながりについて述べておく。12B区において、上浜田遺跡北東端における貝層形成を確認することができたことは大きい。ウミナナ・ヤマトシジミなど良好な状態の貝層が確認され、遺跡の保存状況が良好であることを示すものといえる。両遺跡間では途中で攪乱などが入っており、面的な連続性を確認することは

できなかったものの、松崎遺跡側でいえば、08B区の竪穴建物跡群は今回見つかった範囲よりもさらに南側に伸びていたことは確認されている。今回の調査では両遺跡の端部の状況を確認できたことにより、両者の質的な関係性を考慮する材料を

提示することができるようになったといえる。

最後に、松崎遺跡では、人骨の出土が知られていたが、今回の調査事例を含めて、これまで知られていた人骨の帰属年代が、いずれも7世紀代になることが明らかとなった。遺跡北側で集

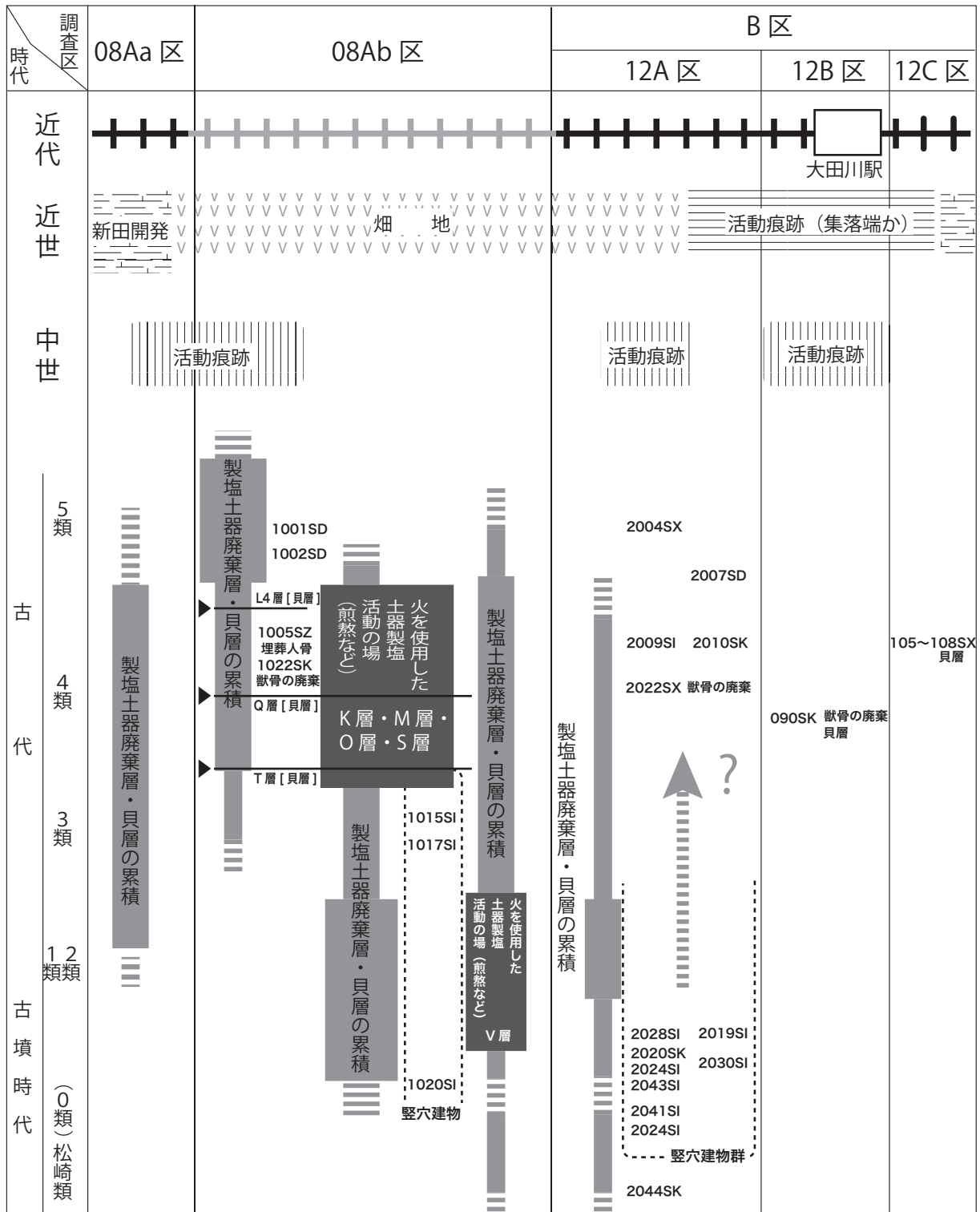


図 207 調査区に基づく松崎遺跡・上浜田遺跡の変遷

中する地点について示したものが、図 206 である。ここでは、解剖学的な位置を保つ埋葬人骨が 3 体、部分骨が 1 体、報告では乳児とある土師器甕棺墓が 1 基知られている。成人骨は皆男性であるこれら人骨は、鬼頭氏復元微地形の標高 4m 前後に位置しており、伸展層・屈葬という違いはあるものの、コンタラインに沿って頭位が併行し

ている様子を見ることができる。いずれも知多式 4 類の時期と考えられ、土器製塩活動を活発に行なっている区域内にこのような埋葬人骨が存在する意味は何であるのかを考える必要がある。今後、松崎遺跡における知多式 4 類時の製塩も含めた活動内容を考えるに際して、重要な事柄となることは、間違いのないであろう。

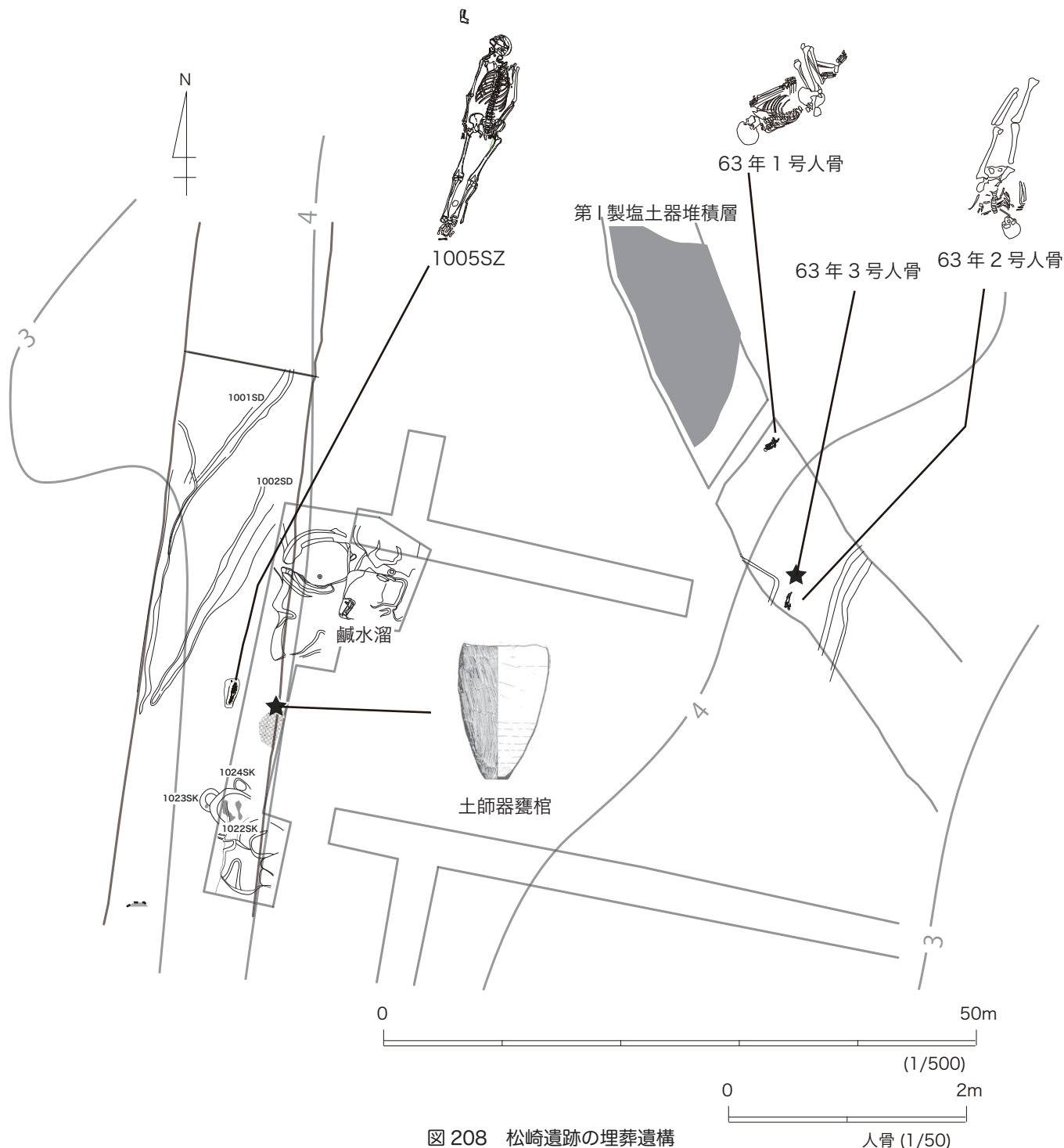


図 208 松崎遺跡の埋葬遺構

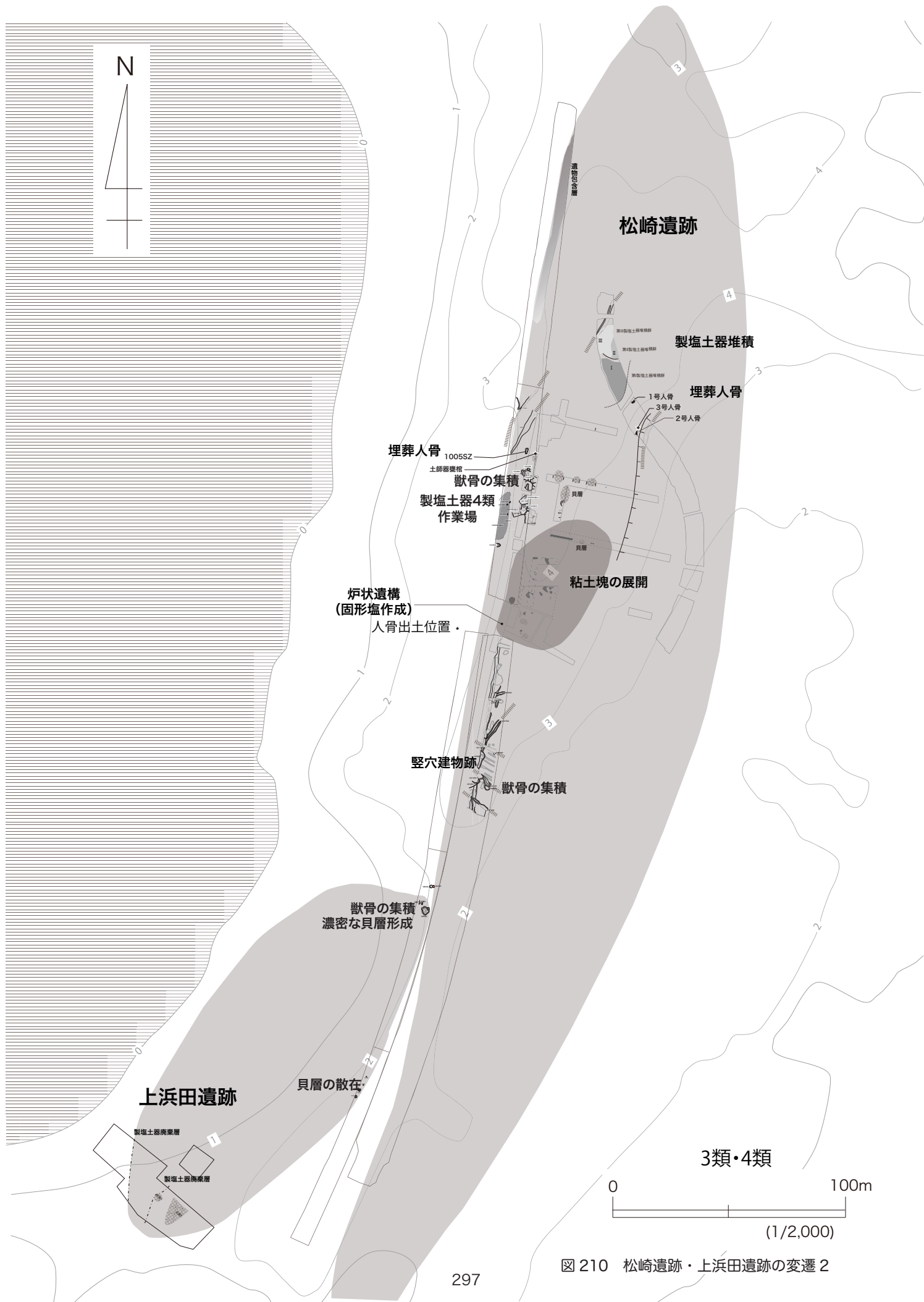


図 210 松崎遺跡・上浜田遺跡の変遷 2

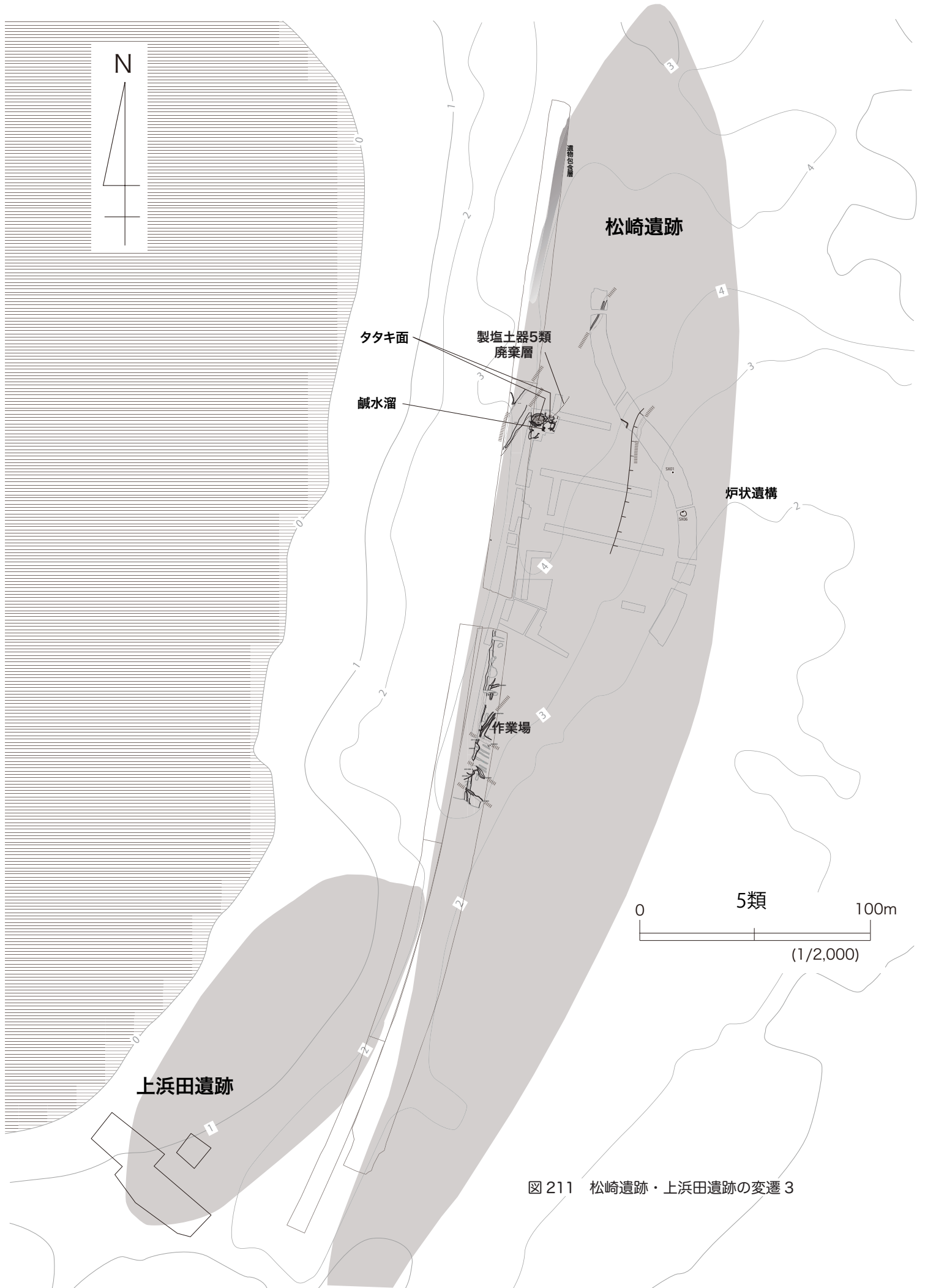


図 211 松崎遺跡・上浜田遺跡の変遷 3

参考文献

- 磯部利彦,2010「古墳時代・律令期における伊勢湾・三河湾周辺の製塩土器」『伊勢湾考古』21,91～129頁。知多古文化研究会。
- 大場磐雄,1931「愛知県知多郡豊浜町発見の遺跡遺物」『考古学雑誌』22,5,275～296頁。日本考古学会。
- 川添和暁,2010「動物性遺物からみた松崎遺跡の検討」『東海土器製塩研究』82～94頁。考古学フォーラム編集部。
- 川添和暁,2013「馬見塚遺跡における遺跡形成過程と出土遺物の様相」『論集 馬見塚』19～42頁。考古学フォーラム編集部。
- 近藤義郎,1958「師楽式遺跡における古代塩生産の立証」『歴史学研究』233,1～12頁。東京 青木書店。
- 近藤義郎,1965「知多・渥美地方における製塩土器の研究」『日本塩業の研究』8,35～71頁。日本塩業研究会。
- 近藤義郎編,1978『日本塩業体系史料編考古』日本塩業研究会。
- 近藤義郎,1980「日本塩業史の考古学的研究」『日本塩業史体系 原始・古代・中世』1～82頁。日本塩業研究会。
- 新名 強,2010「三重県における製塩技術の展開について」『東海土器製塩研究』74～81頁。考古学フォーラム編集部。
- 杉崎 章,1956「知多半島における古代漁村集落の土器」『古代学研究』15・16,20～25頁。古代学研究会。
- 杉崎 章,1962「東海地方における古代海浜集落の文化」『歴史研究』10,40～47頁。東京 新人物往来社。
- 立松 彰,1984「知多地方における製塩土器の編年」『知多古文化研究Ⅰ』93～114頁。愛知県埋蔵文化財センター。
- 立松 彰,2010a「伊勢湾と三河湾の製塩土器」『東海土器製塩研究』2～19頁。考古学フォーラム編集部。
- 立松 彰,2010b「知多式製塩土器・筒形脚の展開」『伊勢湾考古』21,83～90頁。知多古文化研究会。
- 立松 彰,2010c「松崎遺跡」『愛知県史 資料編4 考古4 飛鳥～平安』308～313頁。愛知県。
- 立松 彰,2010d「塩生産」『愛知県史 資料編4 考古4 飛鳥～平安』780～793頁。愛知県。
- 早野浩二,2006「臨海の古墳時代集落—松崎遺跡の歴史的素描—」『研究紀要』6,46～62頁。愛知県埋蔵文化財センター。
- 早野浩二,2010「製塩土器の空間構成についての基礎的研究」『東海土器製塩研究』43～53頁。考古学フォーラム編集部。
- 早野浩二,2012「松崎遺跡と知多半島の土器製塩」『尾張・三河の古墳と古代社会』263～287頁。東京 同成社。
- 早野浩二,2013「知多式以前—松崎遺跡・上浜田遺跡の脚台式製塩土器—」『研究紀要』14,11～22頁。愛知県埋蔵文化財センター。
- 森 泰通,2010「東海地方における古代土器製塩覚え書き 2009—内陸部から出土する製塩土器の意味を考えるために—」『東海土器製塩研究』54～73頁。考古学フォーラム編集部。

Kamakichi Kishinoue 1911. Prehistoric Fishing in Japan. Journal of the College of Agriculture , Imperial University of Tokyo7-3,pp.327～382.

報告書など

- 川添和暁ほか,2012『塚原1号窯跡 若宮1号墳 山口堰堤3号墳』愛知県埋蔵文化財センター報告書第169集。

名古屋鉄道株式会社広報宣伝部,1994『名古屋鉄道百年史』名古屋鉄道株式会社。
杉崎 章ほか,1977『松崎貝塚』東海市教育委員会。
杉崎 章・立松 彰,1984『松崎貝塚第2次発掘調査報告書』東海市教育委員会。
立松 彰・永井伸明,1999『上浜田遺跡確認調査報告』東海市教育委員会。
立松 彰・永井伸明,2005『松崎遺跡確認調査報告』東海市教育委員会。
永井伸明・鬼頭 剛・立松 彰,2006『松崎遺跡周辺古地形復元ボーリング調査報告』東海市教育委員会。
早野浩二編,2011『東海土器製塩研究』考古学フォーラム編集部。
福岡晃彦編,1991『松崎遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第20集。
宮澤浩司・坂野俊哉,2013『畑間・東畑・龍雲院遺跡発掘調査報告』東海市教育委員会。

早野報告分

赤塚次郎 1994「松河戸様式の設定」『松河戸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第48集 財団法人愛知県埋蔵文化財センター
赤塚次郎・早野浩二 2001「松河戸・宇田様式の再編」『研究紀要』第2号 財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター 2008『小島西遺跡』
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2010「馬場南遺跡第2次」『京都府遺跡調査報告書』第138冊
城ヶ谷和広 2010「土師器・須恵器・施釉陶器」『愛知県史』資料編4 考古4 飛鳥～平安 愛知県
立松彰 2010「伊勢湾と三河湾の製塩土器」『東海土器製塩研究』考古学フォーラム
名古屋博物館 1996『名古屋博物館館蔵品目録』第1分冊 総集・考古編
奈良市 2008「奈良市の考古資料-寧楽地寶-」
松田光 2012「仏教美術の脇役たち 36 奈良三彩 I」『小さな蕾』526号 創樹社美術出版
三重県埋蔵文化財センター 1990『伊勢寺廃寺・下川遺跡ほか』三重県埋蔵文化財調査報告 92-2
三重県埋蔵文化財センター 2013『県営農業基盤整備事業と発掘調査 平成22年～24年度ほ場整備に伴う発掘調査概要』
みよし市 2010『新編三好町誌』資料編 考古
早野浩二 2013「知多式以前-松崎遺跡・上浜田遺跡の脚台式製塩土器-」『研究紀要』第14号 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
広瀬和雄 1988「近畿地方における土器製塩-大阪湾周辺を中心として-」『考古学ジャーナル』298 ニュー・サイエンス社





08Aa 区 客土掘削および
A 層検出状況 (北より)



08Aa 区 A 層・B 層完掘および
C 層など検出状況 (北より)



08Aa 区 G 層完掘削状況 (北より)



08Aa 区 G 層完掘削状況 (北西より)



08Aa 区 G 層完掘削状況 (南より)



08Aa 区 8D10s ~ 8D10a 土層断面 (北より)



08Aa 区 8C7t ~ 8D7a 土層断面 (南東より)



08Aa 区 調査区北壁 (南より)



08Ab 区 A 層など検出状況 (北より)



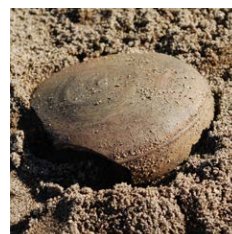
08Ab 区 B' 層完掘状況 (北より)



08Ab 区 1002SD (北より)



3007



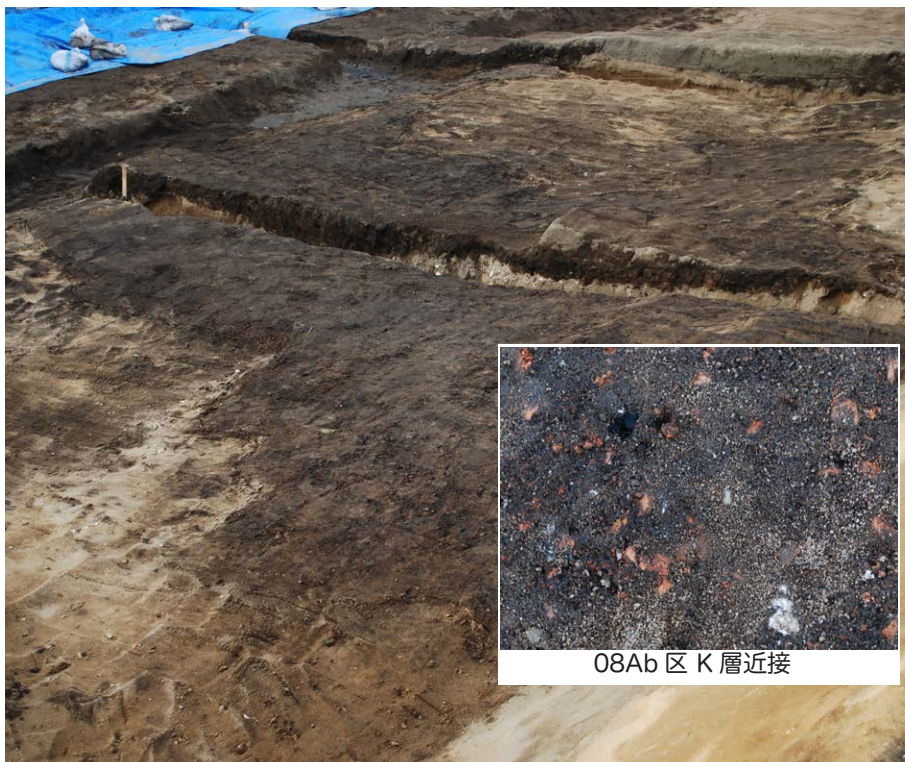
160



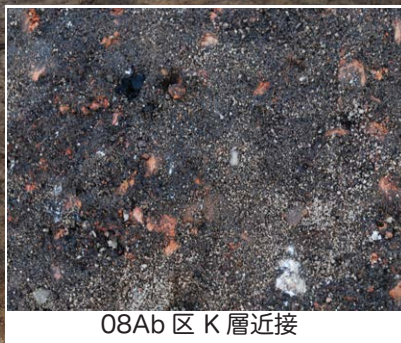
2079



2100



08Ab区 K層検出状況（南西より）



08Ab区 K層近接



08Ab区 1003SK (K3層)
製塩土器出土状況【784】
(東より)



08Ab区 L層検出状況（南より）



08Ab区 M層検出状況（北東より）



08Ab区 L2層近接



08Ab区 M3層土層断面（北西より）



08Ab区 M5層 (東より)



08Ab区 M5層 (東より)



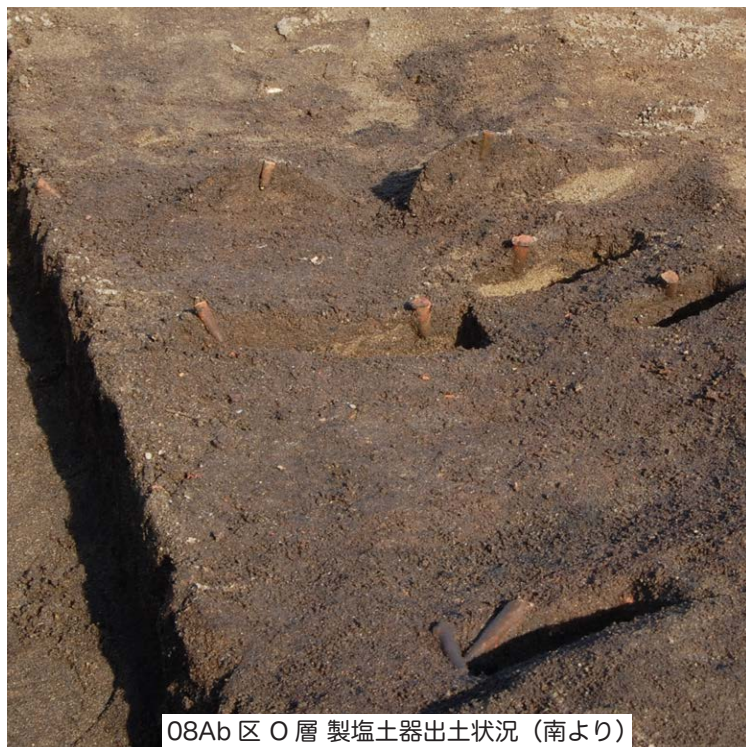
08Ab区 S15層 (南より)



08Ab区 S2層 (北東より)



08Ab区 S1層 (東より)



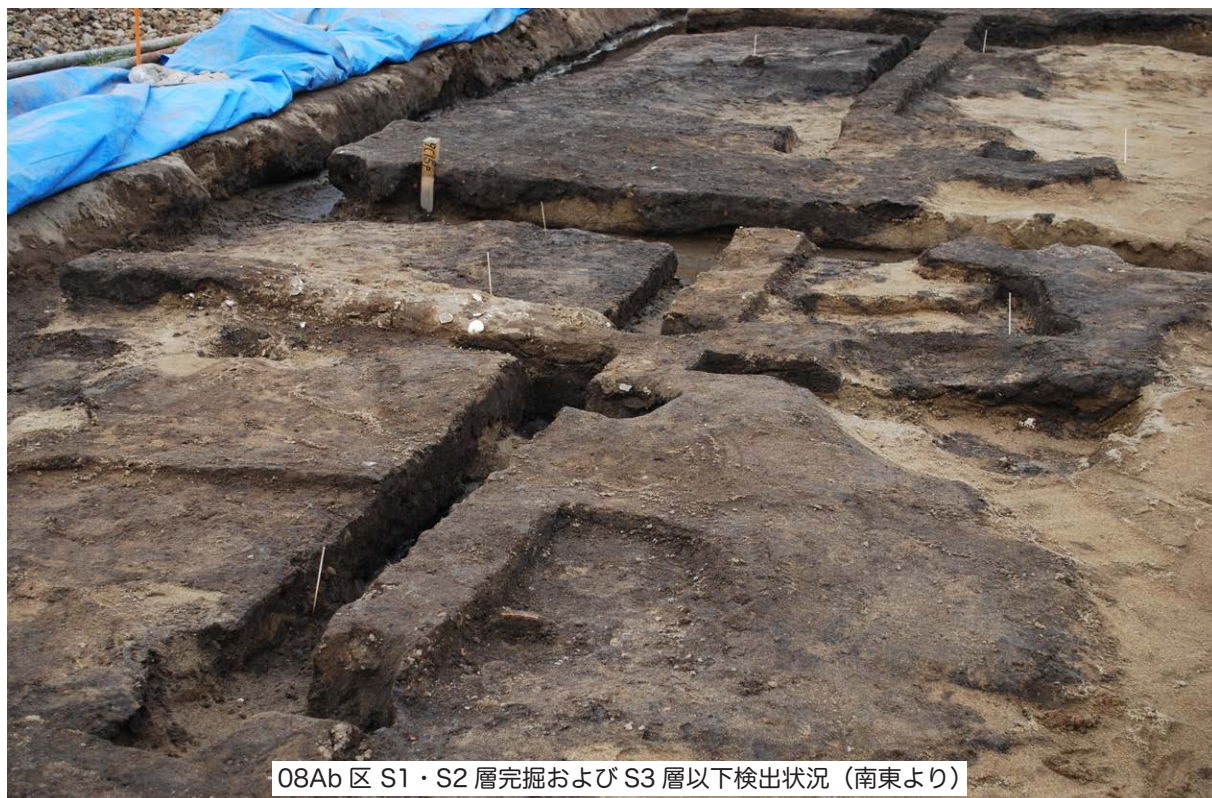
08Ab区 O層 製塩土器出土状況 (南より)



08Ab区 S1層 製塩土器出土状況 (北東より)



08Ab区 S31層 製塩土器出土状況 (北より)



08Ab区 S1・S2層完掘およびS3層以下検出状況 (南東より)



08Ab区 竪穴状遺構 (南より)



検出状況 (西より)



断割状況 (南より)



底面検出状況 (西より)



基部検出状況 (北西より)

08Ab区 1009SX 粘土



08Ab 区 1020SI (東より)



08Ab 区 1028SI (南東より)



08Ab 区 1017SI・1027SX 土層断面 (西より)



08Ab 区 1022SK (西より)



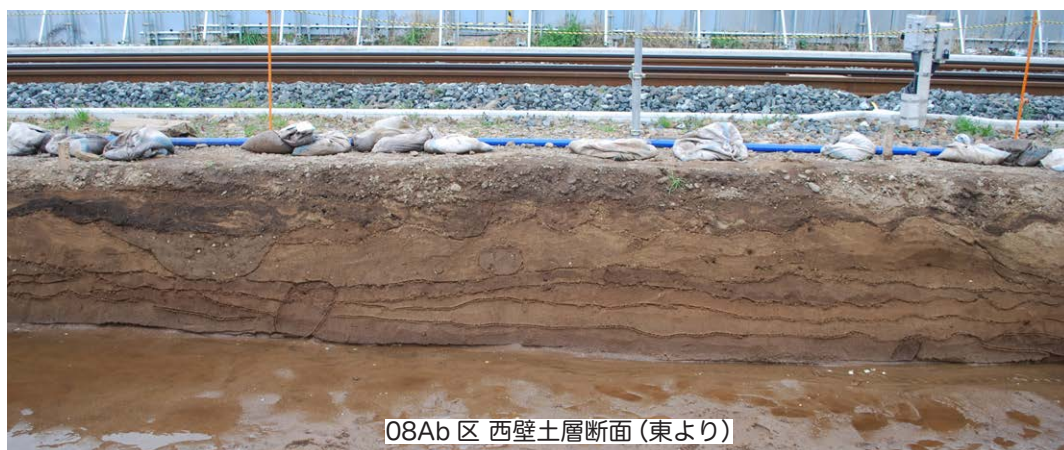
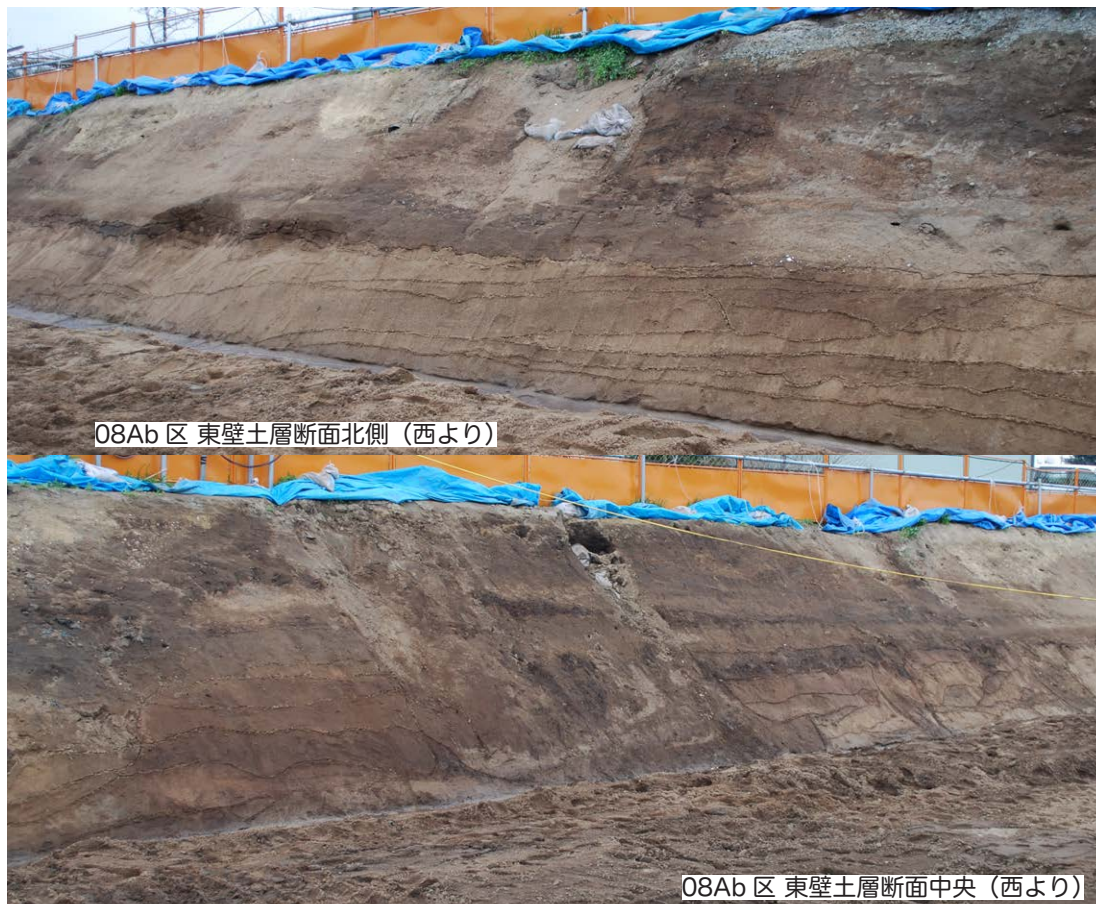
08Ab 区 1027SX 硬化面検出 (西より)



08Ab 区 1027SX
硬化面出土【3001】



08Ab 区 L3 層粘土塊
検出状況 (東より)





08B区 A層など検出状況（北より）



08B区 2001SE・2002SE 検出状況（東より）



08B区 B層～F層検出状況（東より）



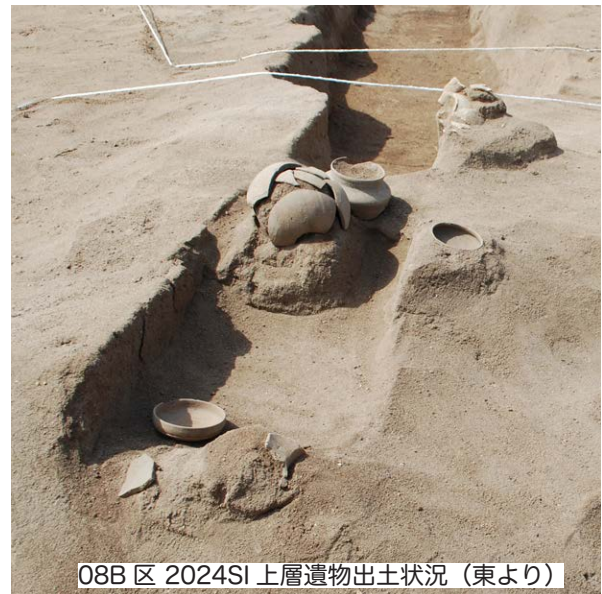
08B区 2004SX・2005SD（南東より）



08B区 D層検出状況（北東より）



08B区 2004SX 遺物出土状況（北東より）





08B区 竪穴建物群 (北より)



08B区 竪穴建物群 (南より)



08B区 2041SI (東より)



08B区 2041SI 粘土 (北東より)



08B区 2020SK 粘土 (南東より)



08B区 2009SI 粘土断面 (南より)



08B区 2024SI (北東より)



08B区 2024SI 粘土 (南より)



08B区 2024SI 粘土下 (北西より)



08B区 2043SI (北東より)



貝層

254

255

08B区 2043SI (北東より)



257



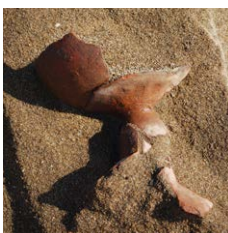
336



356



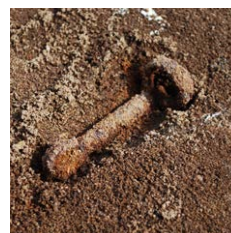
376



351



2093



2021



205

2009

2028SI 出土遺物



209 など



08B区 2024SI
遺物出土状況
(東より)



311



312



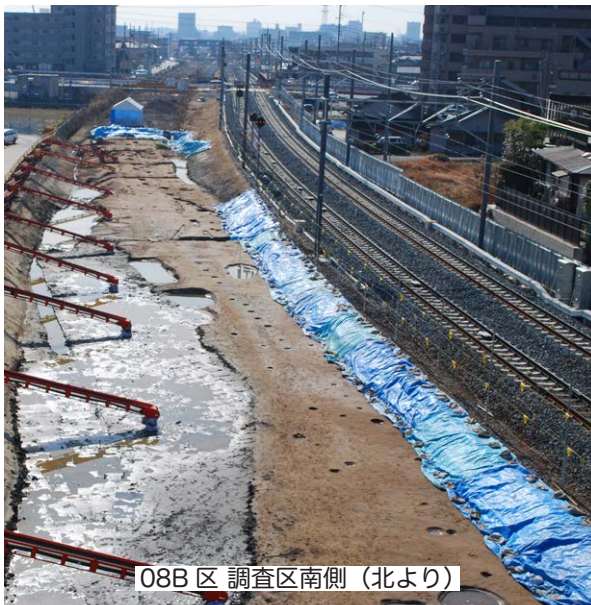
08B区 O層掘削・2044SX 検出状況状況 (南東より)



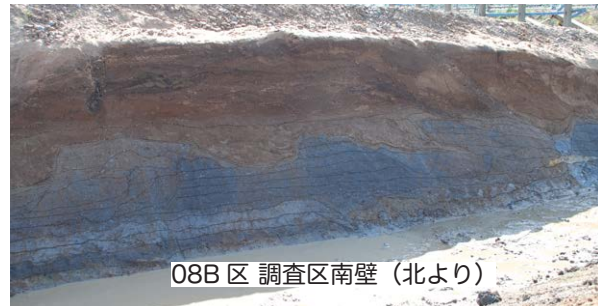
08B区 O層堆積状況 (西より)



08B区 2044SX (南より)



08B区 調査区南側 (北より)



08B区 調査区南壁 (北より)



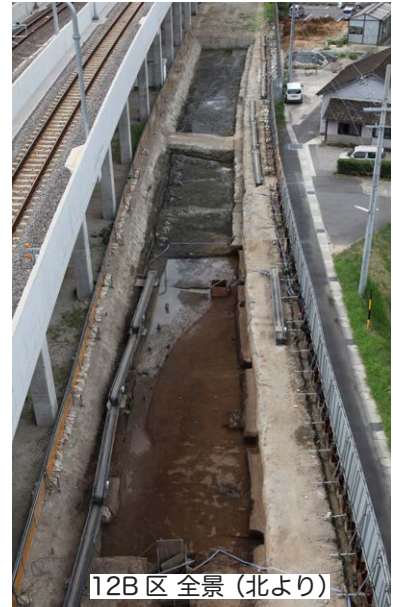
431



12A区 全景 (北より)



12B区 全景 (北より)



12B区 全景 (北より)



12B区 貝層検出状況



12B区 090SK (西より)



12B区 090SK 獣骨出土状況(南より)



12B区 遺構底面付近 (南より)



12C区 盛土検出状況 (南より)



12C区 貝層など検出状況 (南より)





79



82



83



85



87



89



95



111



140



117



145



147



156

08Ab 区包含層等出土土器



165



166



168



169



174



175





205



209



220



201



212



221



208



212



221



235



237



241



242



261



265



228



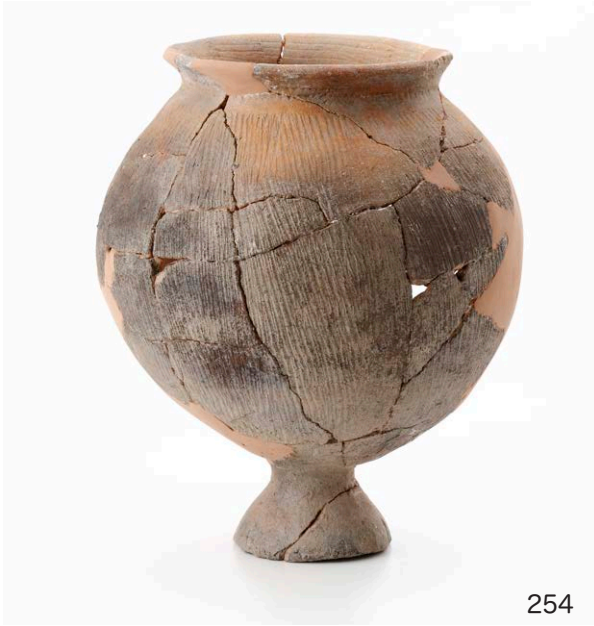
240



230



253





08B 区包含層等出土土器 (1)



08B 区包含層等出土土器 (2)





597



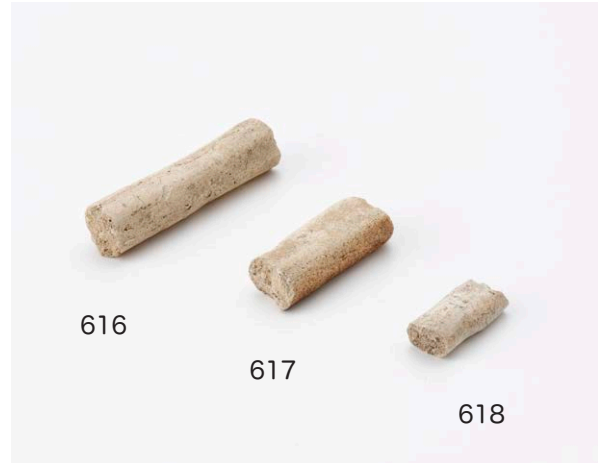
603



614



615



616

617

618

中世以降の土器



08B 区 2043SI 出土土器



緑釉陶器



脚台式製塩土器他





666



748



713

714

715

719

720



723

724

725

727

731



732

733

736

738

739



740

741

742

718

717



716

722

721

726

728



729

730

734

735

737



743

744

745

746

747



749

750

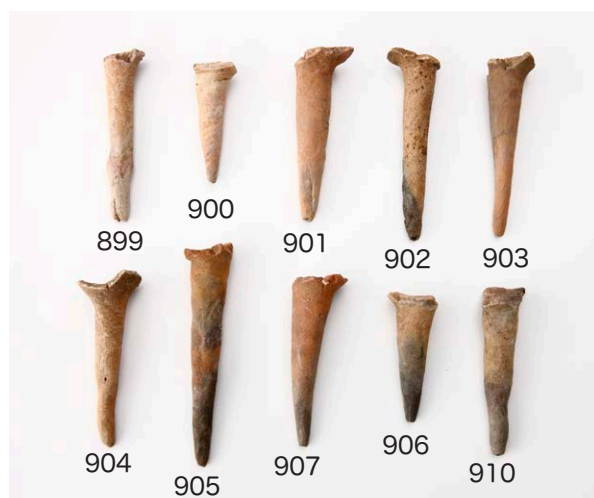
751

752

753







686 脚内面



686 脚外面



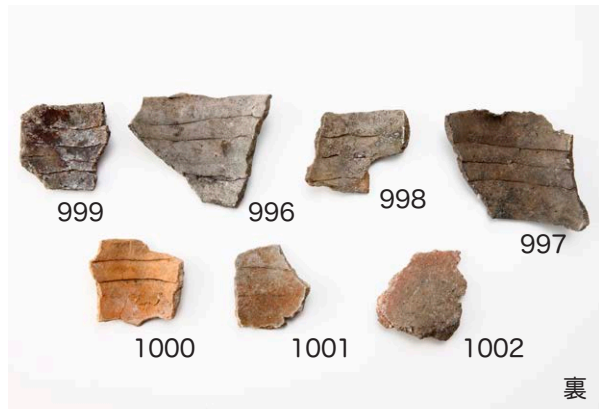
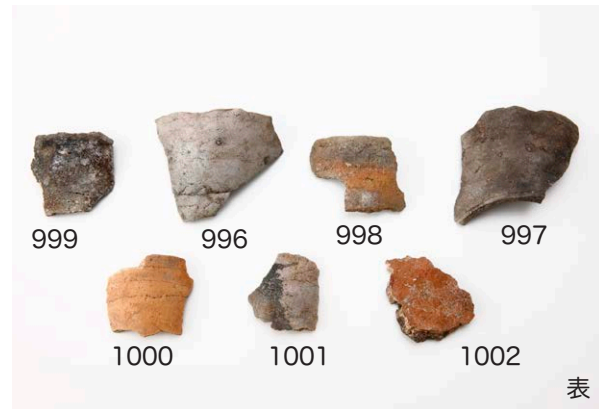
702



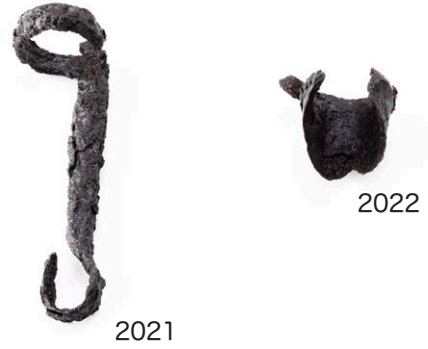
895



932









3001



3004

3003

3002

3009



3006



3015

3016

3023

3017

3018

3019



3007



3008



3011

3012

3020

3014



3021

3022



報告書抄録

ふりがな	まつさきいせき かみはまだいせき
書名	松崎遺跡II 上浜田遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第182集
編著者名	川添和暁・早野浩二・堀木真美子・鬼頭 剛・堀内晶子・宮田佳樹・畑山智史・中村賢太郎・山形秀樹・伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・小林紘一・Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24
発行年月日	西暦2014年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まつさきいせき 松崎遺跡 ・ かみはまだいせき 上浜田遺跡	とうかいしおたまち 東海市大田町	23222	43037	35度1分38秒	136度53分46秒	200808～ 200903、 201205～ 201209	8,300㎡	名古屋鉄道 常滑線連続 立体交差事 業に伴う 事前調査
			43135	35度1分7秒	136度53分49秒			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松崎遺跡	製塩遺跡	古墳～古代	竪穴状遺構・炉跡・ 包含層・貝層 ・埋葬人骨	製塩土器・土師器・須恵器 ・灰釉陶器・緑釉陶器・ 土錘・土製紡錘車・鉄器 (鎌・刀子・鎌など)・鉄滓・ 鹿角製刀子柄・点状刺突 具類(角鎌など)・骨針	包含層には製塩土器 廃棄層および作業面 の畧重を含む
上浜田遺跡	製塩遺跡	古墳～古代	貝層・包含層	製塩土器・土師器・須恵器 ・灰釉陶器・土錘・鉄器 (鎌・刀子)・鉄滓・鹿角製 刀子柄	

文書番号	発掘届出(20埋セ第49号・20・7・25 / 23埋セ第179号・24.3.21) 通知(20教生第1136号・20・8・12 / 24教生第179号・24.4.10) 終了届(20埋セ第132号・21・3・30 / 24埋セ第83号・24.9.25) 保管証・発見届(20埋セ第132号・21・3・30 / 24埋セ第83号・24.9.25) 鑑査結果通知(21教生第380号・21・5・22 / 24教生第1675号・24.10.4)
------	--

要約	本調査は、松崎遺跡の西端および上浜田遺跡の東端を連続して調査したものである。松崎遺跡では、知多式1類および4類段階の製塩に伴う炉跡などの作業場を想定することができた。各段階の廃棄層・貝層を確認することができた一方、作業に伴う竪穴建物跡を検出することができた。さらに、古代における埋葬人骨の出土など、土器製塩とそれに関連する空間利用について、好資料を得ることができた。上浜田遺跡としては、廃棄層の端部と考えられる包含層および貝層を検出した。
----	---

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第182集

松崎遺跡II 上浜田遺跡

2014年3月31日

編集・発行 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 サンメッセ株式会社

